HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 8

JP1/NETM/Asset Information Manager
設計・構築ガイド

手引・操作書

3020-3-L34-A0

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参照ください。

■対象製品

P-2642-1N84 JP1/NETM/Asset Information Manager 08-52（適用 OS：Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional，Windows 2000）

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。
なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

Acrobat は，Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
ActiveX は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の商標です。
Adobe，および Reader は，Adobe System Incorporated(アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
AIX は，米国における米国 International Business Machines Corp. の登録商標です。
AMD, AMD Opteron およびその組み合わせは，Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
HP-UX は，米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。
HP Tru64 UNIX は，ヒューレット・パッカード社の商標です。
Intel，Itanium および Intel Xeon は，アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
Internet Explorer は，米国 Microsoft Corp. の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
IRIX は，Silicon Graphics, Inc. の登録商標です。
Lan Licenser は，日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の商標です。
Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Microsoft Internet Information Services は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Microsoft Office は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Microsoft Office Excel は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft SQL Server は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
MMX は，Intel Corporation のアメリカ合衆国及びその他の国における登録商標です。
NetInsight は，日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の商標です。
NEWS-OS は，ソニー (株) の商品名称です。
Norton AntiVirus は，米国 Symantec Corporation の米国内およびその他の国における登録商標または商標です。
ODBC は，米国 Microsoft Corp. が提唱するデータベースアクセス機構です。
Oracle は，米国 Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の登録商標です。
Oracle8i は，米国 Oracle Corporation の商標です。
Oracle9i は，米国 Oracle Corporation の商標です。
PA-RISC は，米国 Hewlett-Packard Company の商標です。
Pentium は，Intel Corporation のアメリカ合衆国及びその他の国における登録商標です。
PowerPC は，米国における米国 International Business Machines Corp. の商標です。
Solaris は，米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は，米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は，米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。
Symantec は，米国における Symantec Corporation の登録商標です。
UNIX は，X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
Windows は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Windows NT は，米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
秘文は，日立ソフトウェアエンジニアリング (株) の登録商標です。

■発行

2006 年 6 月（第 1 版）3020-3-L34
2008 年 9 月（第 6 版）3020-3-L34-A0

■著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd.

変更内容

（3020-3-L33-A0，3020-3-L34-A0，3020-3-L35-A0）

JP1/NETM/Asset Information Manager 08-52

追加・変更内容	変更個所
Embedded RDB を使用して資産管理データベースを作成する際，データベースのサイズを自動拡張できるようにした。また，それに伴い，クラスタシステムの環境構築手順を変更した。	**設計・構築**：5.4.2，5.13.2(2)，5.13.3，11.7.2(6)，付録 D.5
検索パターンを使用して操作ログを全件出力する jamTakeOperationLog.bat について，オプションで，「部署」，「ユーザ名」および「設置場所」の情報を CSV ファイルに出力できるようにした。	**設計・構築**：7.3.1(2)，7.3.1(3)，7.3.1(6)
［セットアップ］ダイアログから仮想ディレクトリの設定を実行することで，Asset Information Manager で使用する MIME の設定を再登録できるようにした。	**設計・構築**：11.5.4(1) ～ 11.5.4(3)
jamdbexport.bat を実行することで，資産管理データベースのバックアップを CSV 形式で取得できるようにした。	**設計・構築**：11.13.1(2)

（凡例）

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

JP1/NETM/Asset Information Manager 08-51

追加・変更内容	変更個所
JP1/NETM/DM のディレクトリ情報から取得する情報の詳細，および取得する際の引き当て方法を明記した。	**設計・構築**：5.9.9
案件画面の定義で日付のデータ型を設定した場合，テキストフィールドの横にカレンダーを表示するボタンが表示されるようにした。	**設計・構築**：10.4.1，10.4.3(3)(b) **運用**：3.1.2(1)，3.1.2(3)
カレンダーで，前月および翌月の月をボタンから表示できるようにした。	**運用**：1.2

（凡例）

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

運用：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，次に示すプログラムプロダクトの機能について説明したものです。
- P-2642-1N84　JP1/NETM/Asset Information Manager

以降，このマニュアルでは，「JP1/NETM/Asset Information Manager」を「Asset Information Manager」と略します。
このマニュアルでは，Asset Information Manager を構築するに当たって検討しておく必要があることやインストール・セットアップの手順を説明しています。また，Asset Information Manager を業務形態に合わせて最適化する方法も説明しています。
なお，このマニュアルを含め，Asset Information Manager のマニュアルには次の 3 冊があります。各マニュアルの目的を次に示しますので，必要に応じてお読みください。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **導入ガイド**
: 最初にお読みいただくマニュアルです。
Asset Information Manager の機能概要や代表的な使用方法を紹介しています。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **設計・構築ガイド**
: Asset Information Manager を構築するに当たって検討しておく必要があることやインストール・セットアップの手順を説明しています。また，Asset Information Manager を業務形態に合わせて最適化する方法も説明しています。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **運用ガイド**
: Asset Information Manager を運用するための，機能の詳細と操作方法を説明しています。

■対象読者

このマニュアルは，次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。
- Asset Information Manager を使用した資産管理システムを構築するシステム管理者の方
- Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional または Windows 2000 の使用方法を理解している方
- リレーショナルデータベースに関する基本的な知識をお持ちの方
- Microsoft SQL Server または ORACLE に関する知識をお持ちの方（Microsoft SQL Server または ORACLE をご使用の場合）
- JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文，Network Node Manager，JP1/IM，JP1/IM - IDM，JP1/IM - CM，NetInsight II，EUR または JP1/Lan Licenser の各製品と連携する場合は，連携する製品の使用方法を理解している方
- ソフトウェアのライセンスに関する基本的な知識をお持ちの方

■マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す編，章と付録から構成されています。

第 1 編　設計編

第 1 章　設計の概要

Asset Information Manager を使用した資産管理システムの設計作業の概要をつかむために，設計の流れと各設計工程の中で検討する項目について示しています。

第 2 章　資産管理システムで実施する業務の検討

資産管理システムを設計するに当たって，資産管理システムでの実施業務の検討に必要な項目について説明しています。

第 3 章　運用方法の検討

資産管理システムを設計するに当たって，資産管理システムの運用方法の検討に必要な項目について説明しています。

第 4 章　システム構成の検討

資産管理システムのプログラム構成およびシステム構成例について説明しています。

第 2 編　構築編

第 5 章　インストールとセットアップ

Asset Information Manager のインストールおよびアンインストールについて説明しています。また，Asset Information Manager を使用するためのセットアップ方法についても説明しています。

第 6 章　他製品と連携した資産管理の実現

JP1/ 秘文，Network Node Manager，JP1/IM，JP1/IM - IDM，JP1/IM - CM，JP1/IM - Service Support，NetInsight II，EUR，および JP1/Lan Licenser と連携するための方法について説明しています。

第 7 章　CSV データの登録と出力

CSV データを資産管理データベースに登録する方法，および資産管理データベースの資産情報を出力する方法について説明しています。また，操作ログを出力する方法についても説明しています。

第 3 編　システム定義編

第 8 章　Asset Information Manager を使用するための基礎知識

Asset Information Manager を使用するための基礎知識として必要な，資産管理データベースの仕組みおよび資産の状態管理について説明しています。

第 9 章　操作画面およびユーザ権限の変更

操作画面およびユーザ権限の変更方法について説明しています。

第 10 章　案件の定義

案件を使用した資産管理業務を実行するために，案件を定義する方法について説明しています。

第 4 編　トラブルシューティング編

第 11 章　トラブルシューティング

資産管理システムにトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

第 5 編　リファレンス編

第 12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細

資産管理データベースに取り込んで業務に利用する JP1/NETM/DM のインベントリ情報と操作ログ，Network Node Manager のノード情報および JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報の詳細について示しています。また，Asset Information Manager で発行する JP1 イベントの詳細を一覧で示しています。

第 13 章　管理情報の詳細

Asset Information Manager の資産管理データベースで管理する，各クラスのプロパティの詳細について一覧表で示しています。また，業務メニュー「インポート」および「エクスポート」からのインポート，エクスポートの対象となる項目も一覧表で示しています。

付録 A　メモリ所要量とディスク占有量

Asset Information Manager が使用するメモリ所要量とディスク占有量を示しています。

付録 B　フォルダ構成

Asset Information Manager をインストールしたあとの，フォルダ構成を一覧表で示しています。

付録 C　環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

アクセス定義ファイルで処理を追加する場合に必要な，環境情報に対応するセクション名およびキー名を一覧表で示しています。

付録 D　バージョンアップおよび資産管理データベースの移行

DBMS を移行する手順および資産管理サーバをリプレースする手順を説明しています。

付録 E　プロセス一覧

Asset Information Manager のプロセスを一覧表で示しています。

付録 F　各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更内容について説明しています。

付録 G　用語解説

このマニュアルで使用する用語を解説しています。

■関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド（3020-3-L33）※
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド（3020-3-L35）※

注※　読書手順には，これらのマニュアルを含めて，利用目的別に，各マニュアルの記述個所を示しています。

インベントリ情報の収集，操作ログの収集およびソフトウェアの配布について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)（3020-3-L36）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)（3020-3-L37）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)（3020-3-L38）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)（3020-3-L39）

操作ログの収集について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/ 秘文 LogManager（3020-3-L86）

ノード情報の収集および監視図を表示するために必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド（3020-3-L01）
- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager 拡張／分散化ガイド（3020-3-L02）

フロアレイアウト図の表示およびフロアレイアウト図からの資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/NetInsight II -Facility Manager（3020-3-L46）

JP1 イベントの情報を基に，資産管理システムの問題点を管理するために，必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド（3020-3-K01）
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス（3020-3-K02）
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド（3020-3-K06）

インシデントの登録およびインシデントが発生した機器の資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Incident Master（3020-3-K09）

資産管理システムの情報を基に，構成管理をするために必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド（3020-3-K04）
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス（3020-3-K05）

案件に該当する機器の資産情報の表示に必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Service Support システム構築・運用ガイド（3020-3-K14）

資産管理システムの情報を基に，クライアントのセキュリティ管理をするために必要な機能について知りたい場合

- JP1 Version 8 JP1/NETM/Client Security Control（3020-3-L31）

情報を PDF ファイル形式の帳票として表示・印刷する場合

- 帳票作成機能 EUR EUR 導入（3020-7-471）
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票設計（3020-7-481）
- 帳票作成機能 EUR EUR 帳票出力（3020-7-483）

- 帳票作成機能 EUR EUR Print Service 帳票出力（3020-7-484）

ソフトウェア稼働情報の収集について知りたい場合

- JP1 Version 6 JP1/Lan Licenser（3020-3-B04）

Embedded RDB のデータベースから出力されるメッセージについて知りたい場合

- JP1 Version 7i JP1 組み込みデータベース メッセージ（3020-3-F15）

■ JP1 Version 8 でのマニュアル体系の変更について

Version 8 では，Asset Information Manager のマニュアル体系を「導入」,「設計・構築」,「運用」の各使用目的に合わせて，1 冊から 3 冊に変更しました。
Version 7i のマニュアルの構成と，Version 8 の各マニュアルとの対応は，次のようになっています。

Version 7i	Version 8
1 章　概要	**導入**
2 章　代表的な使用方法の紹介	
3 章　Asset Information Manager を使用するための基礎知識	**設計・構築**
4 章　システム構成	
5 章　インストールとセットアップ	
6 章　他製品と連携した資産管理の実現	
7 章　CSV データの登録と出力	
8 章　基本操作手順	**運用**
9 章　資産管理業務の実行	
10 章　案件を使用した資産管理業務の実行	
11 章　共通情報の管理	
12 章　操作画面およびユーザ権限の変更	**設計・構築**
13 章　案件の定義	
14 章　トラブルシューティング	
15 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細	
16 章　管理情報の詳細	
付録 A　メモリ所要量とディスク占有量	
付録 B　フォルダ構成	
付録 C　環境設定情報に対応するセクション名およびキー名	
付録 D　データベースの移行および資産管理サーバのリプレース	
付録 E　クラスタシステムでの Asset Information Manager の運用	
付録 F　プロセス一覧	

Version 7i	Version 8
付録 G　各バージョンの変更内容	**導入**, **設計・構築**, **運用**
付録 H　用語解説	**導入**, **設計・構築**, **運用**

（凡例）

導入：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

運用：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド

■読書手順

Asset Information Manager のマニュアルは，利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別に，各マニュアルの次に示す記述個所をお読みいただくことをお勧めします。

利用目的	マニュアル	記述個所
Asset Information Manager の概要および便利な機能について知りたい	**導入**	1 章　概要
		2 章　代表的な使用方法の紹介
資産管理システムを導入するときに検討する内容について知りたい	**設計・構築**	1 章　設計の概要
		2 章　資産管理システムで実施する業務の検討
		3 章　運用方法の検討
		4 章　システム構成の検討
JP1/NETM/DM と連携した資産管理システムを構築したい	**導入**	1 章　概要
		2 章　代表的な使用方法の紹介
	設計・構築	4 章　システム構成の検討
		5 章　インストールとセットアップ
		12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細
		付録
機器の管理について知りたい	**導入**	2.2　IP アドレスの使用状況を管理する
		2.3　棚卸を実施する
	運用	1 章　基本操作手順
		2.1　機器管理
		4 章　共通情報の管理

利用目的	マニュアル	記述個所
契約の管理について知りたい	**運用**	1 章　基本操作手順
		2.2　契約管理
		4 章　共通情報の管理
問題点の管理について知りたい	**導入**	1.2.1　JP1 製品と連携した統合資産管理
	設計・構築	2.2.1　JP1/IM，JP1/IM - IDM と連携して問題点を管理する
		6.3　JP1/IM と連携するための設定
		6.4　JP1/IM - IDM と連携するための設定
		12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細
	運用	1 章　基本操作手順
		2.3　問題点管理
		4 章　共通情報の管理
ライセンスの管理について知りたい	**導入**	1.2.7　多様なライセンス形態に対応したライセンス管理
		2.4　ライセンスが適正に運用されているかを確認する
	設計・構築	3.2.4　ソフトウェア名の割り当て方法の設定
		5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ
	運用	1 章　基本操作手順
		2.4　ライセンス管理
		4 章　共通情報の管理
ソフトウェア，パッチなどの適用状況の管理について知りたい	**導入**	1.2.9　パッチの適用状況の管理
		2.5　WSUS サーバと連携して更新プログラムを適用する
	運用	1 章　基本操作手順
		2.5　ソフトウェア適用管理
		4 章　共通情報の管理
ソフトウェアの利用状況の管理について知りたい	**導入**	2.10　不要なソフトウェアがないかどうかを確認する
	設計・構築	2.2.7　JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する
		6.9　JP1/Lan Licenser と連携するための設定
	運用	1 章　基本操作手順

利用目的	マニュアル	記述個所
		2.6　ソフトウェア利用管理
		4 章　共通情報の管理
ユーザが操作した履歴の管理について知りたい	**導入**	2.9　操作ログからユーザの操作を確認する
	設計・構築	2.2.3　JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文と連携して操作ログを管理する
		6.1　JP1/ 秘文と連携するための設定
	運用	1 章　基本操作手順
		2.7　セキュリティ管理
		4 章　共通情報の管理
案件を使用して資産管理業務を実行したい	**導入**	1.2.8　フローによる申請・承認業務の実行
		2.8　案件を使用して障害を対策する
	設計・構築	10 章　案件の定義
	運用	3 章　案件を使用した資産管理業務の実行
		4 章　共通情報の管理
資産管理システムの環境を使いやすく変更したい	**導入**	2.6　資産情報の状態，管理項目および操作画面を追加する
		2.7　ユーザ権限に応じて実行できる機能を制限する
	設計・構築	3.1　アクセス制限
		5 章　インストールとセットアップ
		8 章　Asset Information Manager を使用するための基礎知識
		9 章　操作画面およびユーザ権限の変更
		12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細
		13 章　管理情報の詳細
	運用	4 章　共通情報の管理
トラブル発生時の対処方法を知りたい	**設計・構築**	11 章　トラブルシューティング
ほかの製品と連携して実現できる機能について知りたい	**導入**	1 章　概要
	設計・構築	2.2　他製品と連携した資産管理システムの検討
		5 章　インストールとセットアップ
		6 章　他製品と連携した資産管理の実現
		12 章　連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細

（凡例）

導入：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド

設計・構築：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド

運用：JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド

■このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，次のような略称で表記しています。

このマニュアルでの表記	正式名称
Acrobat Reader	Acrobat(R) Reader
Adobe Reader	Adobe(R) Reader(R)
AIX	AIX(R)
AMD Athlon	AMD Athlon(TM)
AMD Duron	AMD Duron(TM)
AMD K6	AMD K6(R)
AMD Opteron	AMD Opteron(TM)
AMD Sempron	AMD Sempron(TM)
AMD Turion	AMD Turion(TM)
Asset Information Manager または AIM	JP1/NETM/Asset Information Manager
Asset Information Manager Embedded RDB Edition	JP1/NETM/Asset Information Manager Embedded RDB Edition
Asset Information Manager Smart Edition	JP1/NETM/Asset Information Manager Smart Edition
EUR	EUR Print Service - Portable Document Format report 05-00 以降, EUR Print Service 05-00 以降および EUR Professional Edition 05-00 以降
JP1/Base	JP1/Base 06-51 以降
JP1/IM	JP1/Integrated Management - Manager, JP1/Integrated Management - Rule Operation, JP1/Integrated Management - View, JP1/Integrated Manager - Central Console, JP1/Integrated Manager - Central Scope および JP1/Integrated Manager - View
JP1/IM - CM	JP1/Integrated Management - Central Information Master および JP1/Integrated Manager - Central Information Master
JP1/IM - IDM	JP1/Integrated Management - Incident Master
JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Manager - Central Console
JP1/IM - Service Support	JP1/Integrated Management - Service Support
JP1/Lan Licenser	JP1/Lan Licenser 06-51 以降

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/NETM/CSC		JP1/NETM/Client Security Control - Agent および JP1/NETM/Client Security Control - Manager
JP1/NETM/DM		JP1/NETM/DM Client, JP1/NETM/DM Client - Base, JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature, JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature および JP1/NETM/DM Manager
JP1/NETM/DM Client		JP1/NETM/DM Client, JP1/NETM/DM Client - Base, JP1/NETM/DM Client - Delivery Feature および JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature
JP1/秘文	JP1/秘文 CG Pro	JP1/秘文 Advanced Edition CopyGuard Professional
	JP1/秘文 IC	JP1/秘文 Advanced Edition Information Cypher
	JP1/秘文 IF	JP1/秘文 Advanced Edition Information Fortress
	JP1/秘文 IS	JP1/秘文 Advanced Edition Information Share
	JP1/秘文 LogManager	JP1/秘文 Advanced Edition LogManager
	JP1/秘文 Log Server	JP1/秘文 Advanced Edition Log Server
	JP1/秘文 管理サーバ	JP1/秘文 Advanced Edition Management Server
Linux		Linux(R)
MBSA		Microsoft(R) Baseline Security Analyzer
Microsoft Internet Explorer		Microsoft(R) Internet Explorer(R) 6 SP1 以降および Windows(R) Internet Explorer(R) 7
Microsoft Internet Information Services または IIS		Microsoft(R) Internet Information Services 5.0, Microsoft(R) Internet Information Services 5.1, Microsoft(R) Internet Information Services 6.0 および Microsoft(R) Internet Information Services 7.0
Microsoft SQL Server	Microsoft SQL Server 2000	Microsoft(R) SQL Server 2000 Enterprise Edition および Microsoft(R) SQL Server 2000 Standard Edition
	Microsoft SQL Server 2005	Microsoft(R) SQL Server 2005 Enterprise Edition, Microsoft(R) SQL Server 2005 Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) SQL Server 2005 Standard Edition および Microsoft(R) SQL Server 2005 Standard x64 Edition
	Microsoft SQL Server 7.0	Microsoft(R) SQL Server 7.0 および Microsoft(R) SQL Server 7.0 Enterprise Edition

このマニュアルでの表記		正式名称
Microsoft Windows Script Host		Microsoft(R) Windows(R) Script Host
NetInsight II	NetInsight II -AS	JP1/NetInsight II -Asset Manager Interface 07-00 以降
	NetInsight II -CS	JP1/NetInsight II -Client Subsystem 07-00 以降
	NetInsight II -FM	JP1/NetInsight II -Facility Manager 07-00 以降
Network Node Manager		JP1/Cm2/Network Node Manager 250, JP1/Cm2/Network Node Manager Enterprise, JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 および JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise
ORACLE		Oracle8i および Oracle9i
Pentium		Pentium(R)
Windows 2000 ※1		Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System, Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System および Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows 95 ※1		Microsoft(R) Windows(R) 95 Operating System
Windows 98 ※1		Microsoft(R) Windows(R) 98 Operating System
Windows CE		Microsoft(R) Windows(R) CE, Handheld PC Professional Edition
Windows Me ※1		Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition Operating System
Windows NT 4.0 ※1		Microsoft(R) Windows NT(R) Server Enterprise Edition Version 4.0 および Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network Operating System Version 4.0
Windows Server 2003 ※1		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2003 (x64)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
Windows Server 2003, Enterprise Edition		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition, Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition および Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2008 ※1 ※2		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise および Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard

このマニュアルでの表記	正式名称
Windows Server 2008 Enterprise ※2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
Windows XP ※1	Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System および Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System
WSUS	Microsoft(R) Windows Server(R) Update Services

注※ 1

OS による機能差がない場合，Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP，Windows 2000，Windows NT 4.0，Windows Me，Windows 98 および Windows 95 を総称して Windows と表記します。

注※ 2

Server Core インストールは対象外です。

■このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する主な英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
API	Application Programming Interface
ASP	Active Server Pages
BIOS	Basic Input/Output System
CD	Compact Disc
CD-R	Compact Disc Recordable
CD-R/W	Compact Disc Read/Write
CPU	Central Processing Unit
CSV	Comma Separated Value
DAT	Digital Audio Tape
DBMS	Data Base Management System
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
DLL	Dynamic Linking Library
DVD	Digital Versatile Disk
FAQ	Frequently Asked Question
FD	Floppy Disk
GUI	Graphical User Interface
HD	Hard Disk
HTML	Hyper Text Markup Language

英略語	正式名称
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
ID	IDentification
IP	Internet Protocol
ISAPI	Internet Server Application Programming Interface
IT	Information Technology
JIS	Japanese Industrial Standards
MAC	Media Access Control
MIB	Management Information Base
MIME	Multipurpose Internet Mail Extensions
MO	Magneto-Optical disk
ODBC	Open Data Base Connectivity
OS	Operating System
PC	Personal Computer
PDF	Portable Document Format
RDB	Relational Database
SID	System ID
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SNMP	Simple Network Management Protocol
SP	Service Pack
SQL	Structured Query Language
SSL	Secure Socket Layer
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
URL	Uniform Resource Locator
USB	Universal Serial Bus
UTF	UCS Transformation Format
WS	Work Station
WWW	World Wide Web
XML	eXtensible Markup Language

■マニュアル間の参照指示について

マニュアル「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド」,「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド」または「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド」間で，相互にマニュアルを参照していただく場合，次の形式で参照先を示しています。

『AA については，マニュアル「BBB」の「n.n.n　XXXXX」を参照してください。』

AA

参照していただく内容です。

BBB

参照先マニュアルの略称です。マニュアル名称の共通部分（「JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager」の部分）を省略しています。省略されている部分を補ってお読みください。

n.n.n

参照先の章・節・項番号です。(1) や (a) などの括弧付き項番が付く場合もあります。

XXXXX

参照先の標題（見出し）です。

■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで画面の構成要素を説明するときに使用する記号を，次のように定義します。

記号	意味と例
［ ］	ウィンドウ名，ダイアログ名，ボタン名およびキーボードのキーを示しています。 (例) ［コンソール］ウィンドウ ［登録］ダイアログ ［OK］ボタン ［Ctrl］
［A］＋［B］	＋の前に示した［A］キーを押しながら，＋の後ろに示した［B］キーを押すことを示しています。 (例) ［Ctrl］+［C］
「 」	画面中に表示されている項目を示しています。 (例) 「資産番号」テキストボックス
「 」－「 」	画面のメニューから項目を選択することを示しています。 (例) 「オブジェクト」－「インポート」

■コマンドの文法に使用する記号

このマニュアルで文法を説明するときに使用する文法記述記号を次に示します。

記号	意味と例
［ ］ (角括弧)	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には，すべてを省略するか，どれか一つを選択します。 (例) ［A］は「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。
| (ストローク)	複数の項目がある場合に項目間の区切りを示し，「または」の意味を示します。 (例) A|B|C は，「A，B または C」を示します。

記号	意味と例
{ } （波括弧）	この記号で囲まれている複数の項目の中から，必ず一組の項目を選択します。項目の区切りは	で示します。 （例） {A|B|C} は「A，B または C のどれかを指定する」ことを示します。

■このマニュアルで使用する構文要素

このマニュアルで使用する構文要素（ユーザの指定値の範囲）とその意味を次に示します。

構文要素	意味
英字	A ～ Z　a ～ z
英小文字	a ～ z
英大文字	A ～ Z
数字	0 ～ 9
英数字	英字または数字
記号	! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > @ [¥] ^ ` _ { | } ~ ? スペース

■図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を，次のように定義します。

●コンピュータ

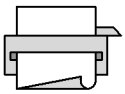
●データベース，ファイルまたはディスク

●入出力の動作

●ユーザ

●サーバ

●端末プリンタ



●ノートPC

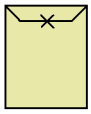
●プログラム

●CD-ROMまたはソフトウェア

●ソフトウェア

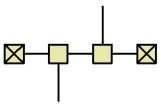
●メール

●契約情報

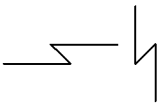


●トラブル

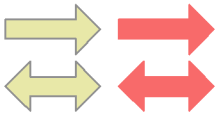
●バス形のＬＡＮ



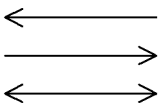
●通信回線



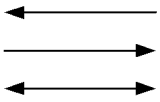
●データの流れ



●制御の流れ



●その他の流れ



●ネットワーク

■ HTML ヘルプについて

Asset Information Manager では，次に示す HTML ヘルプを提供しています。() 内には，HTML ヘルプのファイル名を示します。

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager（assetim.chm）

次のマニュアルを統合したものです。

- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 導入ガイド（aimintro.chm）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 設計・構築ガイド（aimconst.chm）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager 運用ガイド（aimuse.chm）

JP1 Version 8 JP1/NETM/Asset Information Manager **アクセス定義ファイル作成ガイド（assetscr.chm）**

HTML ヘルプは，Microsoft Internet Explorer 5.01 以降がインストールされているマシンで参照してください。

HTML ヘルプは，下記フォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help

また，assetim.chm は，Asset Information Manager をインストールしている PC の Windows のスタートメニューから，「プログラム」－「Asset Information Manager」－「ヘルプ」を選択して表示することもできます。

■常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは，常用漢字を使用することを基本としていますが，次に示す用語については，常用漢字以外の漢字を使用しています。

- 鍵（かぎ）
- 個所（かしょ）
- 全て（すべて）
- 貼り付け（はりつけ）
- 汎用（はんよう）
- 必須（ひっす）
- 閉塞（へいそく）

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

目次

第 1 編　設計編

1 設計の概要 1

1.1 設計の流れ 2

1.2 検討項目の一覧 3

1.2.1 管理対象の検討 3

1.2.2 運用方法の検討 3

1.2.3 システム構成の検討 4

1.3 JP1/NETM/DM との連携に必要な検討項目の一覧 5

2 資産管理システムで実施する業務の検討 7

2.1 管理対象の検討 8

2.1.1 機器を管理する 8

2.1.2 ソフトウェアを管理する 11

2.1.3 操作ログを管理する 13

2.2 他製品と連携した資産管理システムの検討 16

2.2.1 JP1/IM，JP1/IM - IDM と連携して問題点を管理する 16

2.2.2 Network Node Manager と連携してネットワーク構成を管理する 18

2.2.3 JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文と連携して操作ログを管理する 20

2.2.4 Asset Information Manager の資産情報を利用して JP1/IM - CM で構成管理をする 22

2.2.5 NetInsight II と連携して機器の位置情報を表示する 24

2.2.6 EUR と連携して検索結果を PDF 形式で出力する 24

2.2.7 JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する 25

3 運用方法の検討 27

3.1 アクセス制限 28

3.1.1 ユーザ権限の種類 28

3.1.2 利用ユーザに対するアクセス制限の種類 28

3.1.3 組織階層単位でのアクセス制限の設定 30

3.2 資産情報の取得 32

3.2.1 JP1/NETM/DM から取得する場合 32

3.2.2 CSV ファイルから取得する場合 34

3.2.3 インベントリ情報の引き当て方法の設定 36
3.2.4 ソフトウェア名の割り当て方法の設定 42
3.3 資産管理者へのメール通知 49
3.3.1 期限切れ契約情報通知 49
3.3.2 ライセンス超過通知 51
3.3.3 許可外インストール通知 52
3.3.4 WSUS 更新プログラム通知 53
3.3.5 案件の到着通知 54
3.3.6 ハードウェア変更通知 55
3.4 クラスタシステムの導入 56

4 システム構成の検討 57
4.1 プログラム構成 58
4.1.1 前提プログラム 60
4.1.2 Asset Information Manager のプログラム 65
4.1.3 関連プログラム 66
4.2 システム構成例 68
4.2.1 JP1/NETM/DM と連携した基本的なシステム構成 68
4.2.2 JP1/ 秘文と連携したシステム構成 70
4.2.3 Network Node Manager と連携したシステム構成 72
4.2.4 JP1/IM - Manager と連携したシステム構成 74
4.2.5 JP1/IM - IDM と連携したシステム構成 75
4.2.6 JP1/IM - CM と連携したシステム構成 76
4.2.7 NetInsight II と連携したシステム構成 78
4.2.8 EUR と連携したシステム構成 80
4.2.9 JP1/Lan Licenser と連携したシステム構成 81
4.2.10 WSUS サーバと連携したシステム構成 83
4.2.11 クラスタシステムでのシステム構成 84

第 2 編 構築編

5 インストールとセットアップ 87
5.1 Asset Information Manager のセットアップの流れ 88
5.1.1 JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ 89

5.2 Asset Information Manager のインストールとアンインストール 92
5.2.1 前提プログラムのインストール 92
5.2.2 Asset Information Manager のインストール 93
5.2.3 Asset Information Manager のアンインストール 97
5.3 資産管理サーバの設定 99
5.3.1 [サーバセットアップ] ダイアログでの設定 100
5.3.2 データベース情報の設定 101
5.3.3 セッション情報の設定 104
5.3.4 基本情報の設定 104
5.3.5 メール通知情報の設定 111
5.3.6 ディレクトリサーバ連携の設定 112
5.3.7 JP1/NETM/DM 連携の設定 113
5.3.8 NNM 連携の設定 122
5.3.9 JP1/IM 連携の設定 124
5.3.10 NetInsight II 連携の設定 124
5.3.11 JP1/Lan Licenser 連携の設定 125
5.3.12 JP1/ 秘文連携の設定 126
5.3.13 WSUS 連携の設定 127
5.4 資産管理データベースの作成 129
5.4.1 資産管理データベースの作成手順（Microsoft SQL Server の場合） 130
5.4.2 資産管理データベースの作成手順（Embedded RDB の場合） 132
5.4.3 資産管理データベースの作成手順（ORACLE の場合） 136
5.4.4 データベース容量の概算 138
5.5 データソースまたはネット・サービスの作成 140
5.5.1 データソースの作成（Microsoft SQL Server の場合） 141
5.5.2 データソースの作成（Embedded RDB の場合） 143
5.5.3 ネット・サービスの作成（ORACLE の場合） 144
5.6 仮想ディレクトリの設定 147
5.7 資産管理サーバで使用するサービスの設定 149
5.8 Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用する場合の設定 150
5.8.1 WWW サーバの設定（Microsoft Internet Information Services 6.0 の場合） 150
5.8.2 WWW サーバの設定（Microsoft Internet Information Services 7.0 の場合） 152
5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定 158
5.9.1 タスクの種類 158
5.9.2 タスクの設定手順 162
5.9.3 タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定 165
5.9.4 契約期限を通知するタイミングの指定 172

5.9.5 ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定 173
5.9.6 削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定 174
5.9.7 すべてのインベントリ情報の取得 175
5.9.8 操作履歴の取得範囲およびフィルタリングの指定 175
5.9.9 JP1/NETM/DM のディレクトリ情報の取得 181
5.9.10 機器の情報の変更通知 182
5.10 メール通知を使用するための設定 184
5.10.1 SMTP 仮想サーバの実行 184
5.10.2 リモートドメインの追加 185
5.11 操作画面で使用できるサンプルデータのインポート 186
5.11.1 部署およびユーザの情報のインポート 186
5.11.2 設置場所の情報のインポート 186
5.11.3 ソフトウェアの辞書情報のインポート 186
5.11.4 設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）のインポート 187
5.11.5 サンプルデータの削除 189
5.12 資産管理データベース運用上の注意 191
5.12.1 資産管理データベースに入力できる文字 191
5.12.2 データベースのメンテナンスに関する注意 191
5.12.3 トランザクションログのバックアップの定期実行 191
5.13 クラスタシステムの環境構築手順 192
5.13.1 Microsoft Cluster Service のクラスタアドミニストレータによるグループ・リソース作成 192
5.13.2 資産管理データベースサーバにフェールオーバー機能を適用させるクラスタ環境の作成 192
5.13.3 Asset Information Manager のフェールオーバー機能使用時の環境作成 193
5.13.4 WWW ブラウザの接続先の指定 197
5.13.5 ファイアウォールを使用した環境での設定 197
5.13.6 フェールオーバー発生後の対処 197
5.13.7 クラスタシステムを使用する場合の注意事項 197

6 他製品と連携した資産管理の実現 201
6.1 JP1/ 秘文と連携するための設定 202
6.2 Network Node Manager と連携するための設定 203
6.2.1 タスク「ノード情報の取込み」を有効にする 203
6.2.2 監視図の表示 205
6.2.3 Network Node Manager で資産情報を参照するための設定 207
6.2.4 設定ファイルのコピー 207

6.2.5 Network Node Manager からの資産情報の表示 209
6.2.6 Asset Information Manager への接続情報の変更 210
6.3 JP1/IM と連携するための設定 211
6.3.1 JP1/IM - Manager での自動アクションの設定 213
6.3.2 JP1 イベントを転送するための設定 215
6.3.3 定義ファイルのコピー 215
6.3.4 発行する JP1 イベントの変更 216
6.3.5 JP1/IM からの資産情報の表示 217
6.4 JP1/IM - IDM と連携するための設定 219
6.4.1 JP1/IM - IDM からの問題点の登録 219
6.4.2 JP1/IM - IDM からの資産情報の表示 221
6.5 JP1/IM - CM と連携するための設定 223
6.5.1 アダプタコマンド設定ファイルのコピー 224
6.5.2 JP1/IM - CM で取得する情報の変更 224
6.5.3 JP1/IM - CM からの資産情報の表示 226
6.5.4 JP1/IM - CM への接続情報の変更 227
6.6 JP1/IM - Service Support と連携するための設定 229
6.6.1 JP1/IM - Service Support からの資産情報の表示 229
6.7 NetInsight II と連携するための設定 231
6.7.1 フロアレイアウト図の表示 231
6.7.2 NetInsight II で資産情報を参照するための設定 231
6.7.3 NetInsight II からの資産情報の表示 232
6.8 EUR と連携するための設定 234
6.8.1 PDF ファイルの表示および印刷 234
6.9 JP1/Lan Licenser と連携するための設定 237
6.9.1 ソフトウェア稼働情報を登録する際の注意事項 237

7 CSV データの登録と出力 239
7.1 CSV データの登録（インポート） 240
7.1.1 インポートの流れ 240
7.1.2 インポート時の注意事項 242
7.1.3 jamCsvImport.bat の実行 245
7.1.4 jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応 247
7.1.5 jamimport コマンドでインポートするファイルの形式 256
7.1.6 データファイルの作成 258
7.1.7 データファイル名定義ファイルの作成 261

7.1.8 jamimport（インポート）コマンドの実行 263
7.2 CSV データの出力（エクスポート） 267
7.2.1 CSV データの出力方法の選択 267
7.2.2 エクスポートの流れ 268
7.2.3 jamCsvExport.bat の実行 269
7.2.4 データファイルの出力形式 271
7.2.5 データファイル名定義ファイルの作成 271
7.2.6 jamexport（エクスポート）コマンドの実行 274
7.3 操作ログの CSV データの出力 278
7.3.1 jamTakeOperationLog.bat の実行 278

第 3 編　システム定義編

8 Asset Information Manager を使用するための基礎知識 283
8.1 資産管理データベース 284
8.1.1 資産管理データベースで管理するクラス 284
8.1.2 資産管理データベースで管理するプロパティ 286
8.1.3 アソシエーションの種類 286
8.2 資産の状態管理 289

9 操作画面およびユーザ権限の変更 293
9.1 ユーザ権限の変更（権限管理） 294
9.1.1 新しくユーザ権限を追加する 294
9.1.2 ユーザ権限の内容を変更する 295
9.1.3 ユーザ権限を削除する 295
9.2 管理項目の変更（管理項目編集） 296
9.2.1 管理対象の項目を変更する 297
9.2.2 管理項目の名称を変更する 298
9.2.3 管理項目を追加する 298
9.2.4 ボタンやタブなどの名称，表示を変更する 302
9.3 ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター） 305
9.3.1 書式を設定する 306
9.3.2 対象権限を設定する 311
9.3.3 使用するボタンを設定する 312

9.3.4 編集項目に表示する項目を設定する 313
9.3.5 検索条件に表示する項目を設定する 314
9.3.6 検索結果リストに表示する項目を設定する 315
9.3.7 書式を追加する 317
9.3.8 書式をコピーする 317
9.3.9 書式の名称を変更する 318
9.3.10 書式を削除する 318
9.4 実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て） 320
9.4.1 実行できる業務を変更する 320
9.4.2 業務メニューの名称を変更する 321
9.4.3 業務カテゴリを追加する 322
9.5 定型業務に合わせた操作画面の追加（ユーザレポート作成） 323
9.5.1 検索方法を選択する 324
9.5.2 検索対象のクラスを指定する 326
9.5.3 検索条件を定義する 327
9.5.4 出力項目を設定する 328
9.5.5 出力項目の並び順と表示幅を設定する 329
9.5.6 重複データを含むかどうかを選択する 330
9.5.7 プレビューで作成結果を確認する 330
9.5.8 作成したユーザレポートを登録する 331
9.5.9 クラスの結合方法の指定 332
9.5.10 ユーザレポートの削除 333
9.5.11 コマンドラインからの検索の実行 334
9.5.12 ユーザレポートの作成例 336
9.5.13 ユーザレポートの実行例 342
9.6 引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て） 344
9.6.1 資産番号の引き当て項目を設定する 345
9.6.2 ユーザ名の引き当て項目を設定する 346
9.6.3 部署および設置場所の引き当て項目を設定する 350
9.6.4 機器種別の引き当て項目を設定する 356
9.6.5 インベントリ情報から取得する項目を追加する 357
9.6.6 インベントリ情報登録時のデフォルト値を変更する 358
9.7 変更履歴として取得する項目の選択（変更履歴取得項目） 360

10 案件の定義 363
10.1 案件定義の概要 364

10.1.1 定義する項目と流れ 364
10.1.2 案件を使用した業務を設計する 367
10.1.3 定義時の注意事項 368
10.2 案件を処理する権限を定義する（職権管理） 369
10.2.1 新しく職権を追加する 369
10.2.2 職権の内容を変更する 370
10.2.3 職権を削除する 372
10.3 ルートを定義する（Flow Designer） 373
10.3.1 Flow Designer の各部の名称と使い方 373
10.3.2 作業者や処理を配置する 375
10.3.3 管理ノードに職権を設定する 376
10.4 案件画面を定義する（Form Designer） 378
10.4.1 Form Designer の各部の名称と使い方 378
10.4.2 ウィンドウを定義する 380
10.4.3 オブジェクトを挿入する 383
10.4.4 オブジェクトのスタイルや位置をそろえる 398
10.4.5 案件画面の定義例 398
10.5 各管理ノードの作業を定義する（Activity Designer） 400
10.5.1 Activity Designer の各部の名称と使い方 400
10.5.2 実行タスクを選択する 402
10.5.3 実行タスクの順番を設定する 409
10.5.4 管理項目に引き当てる情報を設定する 410
10.5.5 アクティビティの定義例 415
10.6 案件処理オプションを設定する（Flow Designer） 421
10.6.1 処理期限を設定する 421
10.6.2 メール送信を選択する 421
10.7 登録された案件を変更する 423
10.7.1 案件名を変更する 423
10.7.2 案件を公開または公開停止にする 423
10.7.3 案件の定義内容を変更する 424
10.7.4 案件を削除する 424
10.8 FAQ（案件の定義） 425

第 4 編　トラブルシューティング編

11 トラブルシューティング 429
11.1 トラブルシューティングの流れ 430
11.2 トラブル情報の取得 432
11.3 トラブル要因の特定 433
11.3.1 トラブル要因の特定方法 433
11.3.2 メッセージの確認 433
11.3.3 メッセージの見方 434
11.3.4 トラブル発生後に制限される機能 436
11.4 資産管理システムのトランザクション 438
11.4.1 WWW ブラウザ実行時のトランザクション 438
11.4.2 コマンド実行時のトランザクション 438
11.5 Asset Information Manager のトラブルの主な要因と対処 439
11.5.1 資産管理サーバ設定時のトラブル 439
11.5.2 資産管理データベース作成時のトラブル 439
11.5.3 Asset Information Manager へのログイン時のトラブル 441
11.5.4 Asset Information Manager 操作時のトラブル 442
11.5.5 Web サービス拡張「jp1asset」の再作成 443
11.6 WWW サーバのトラブルの主な要因と対処 445
11.7 DBMS のトラブルの主な要因と対処 446
11.7.1 DBMS 共通のトラブル 446
11.7.2 Embedded RDB 特有のトラブル 447
11.8 WWW ブラウザのトラブルの主な要因と対処 450
11.9 JP1/NETM/DM との連携時のトラブルの主な要因と対処 453
11.9.1 インベントリ情報取り込み時のトラブル 453
11.9.2 インベントリ情報参照時のトラブル 455
11.9.3 ソフトウェア配布時のトラブル 455
11.9.4 操作ログ取得時のトラブル 457
11.10 JP1 製品（JP1/NETM/DM 以外）との連携時のトラブルの主な要因と対処 459
11.10.1 JP1/ 秘文との連携時のトラブル 459
11.10.2 Network Node Manager との連携時のトラブル 460
11.10.3 JP1/IM との連携時のトラブル 461
11.10.4 JP1/IM - IDM との連携時のトラブル 462
11.10.5 JP1/IM - CM との連携時のトラブル 462

11.10.6 JP1/IM - Service Support との連携時のトラブル 463
11.10.7 JP1/Lan Licenser との連携時のトラブル 463
11.11 WSUS との連携時のトラブルの主な要因と対処 465
11.12 トラブルの回復 467
11.12.1 Asset Information Manager のトラブル発生時の回復方法 467
11.12.2 資産管理サーバのトラブル発生時の回復方法 467
11.12.3 DBMS のトラブル発生時の回復方法 467
11.12.4 WWW ブラウザのトラブル発生時の回復方法 468
11.12.5 コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法 468
11.13 バックアップおよびリストア 469
11.13.1 CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア 469
11.13.2 資産管理データベースのバックアップとリストア（Microsoft SQL Server または ORACLE の場合） 473
11.13.3 資産管理データベースのバックアップとリストア（Embedded RDB の場合） 473
11.13.4 アップロードしたファイルのバックアップおよびリストア 478
11.13.5 レジストリのバックアップおよびリストア 478
11.14 Embedded RDB を使用している場合の資産管理データベースの再編成 480
11.14.1 ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースの再編成 480
11.14.2 コマンドでの資産管理データベースの再編成 481

第 5 編 リファレンス編

12 連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細 485
12.1 JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報 486
12.1.1 資産情報として取得できるインベントリ情報 487
12.1.2 ハードウェア資産情報として取得できるインベントリ情報 490
12.1.3 ネットワーク情報として取得できるインベントリ情報 493
12.1.4 インストールソフトウェア情報として取得できるインベントリ情報 494
12.1.5 インストールソフトウェアリストとして取得できるインベントリ情報 495
12.1.6 コンポーネント情報として取得できるインベントリ情報 497
12.1.7 パッチ情報として取得できるインベントリ情報 497
12.1.8 パッチリストとして取得できるインベントリ情報 498
12.1.9 ウィルス定義情報として取得できるインベントリ情報 498
12.1.10 部署情報として取得できるインベントリ情報 499
12.1.11 設置場所情報として取得できるインベントリ情報 500

12.2 JP1/NETM/DM から取得できる操作ログ 501
12.2.1 プログラム起動履歴として取得できる操作ログ 501
12.2.2 ウィンドウタイトル変更履歴として取得できる操作ログ 501
12.3 Network Node Manager から取得できるノード情報 503
12.3.1 資産情報として取得できるノード情報 503
12.3.2 ハードウェア資産情報として取得できるノード情報 504
12.3.3 ネットワーク情報として取得できるノード情報 505
12.4 JP1/Lan Licenser から取得できるソフトウェア稼働情報 507
12.5 Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細 508
12.5.1 各イベントの属性 509
12.5.2 問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定 521

13 管理情報の詳細 523
13.1 クラス構成 524
13.1.1 オブジェクトクラス 524
13.1.2 アソシエーションクラス 525
13.1.3 クラス関連図 527
13.1.4 プロパティの値を表すデータ型 529
13.2 オブジェクトクラスのプロパティ一覧 530
13.2.1 AddressGroup（IP グループ情報） 530
13.2.2 AssetInfo（資産情報） 532
13.2.3 AssetUpdateRecord（移管履歴） 540
13.2.4 ComponentInfo（コンポーネント情報） 541
13.2.5 Contract（契約情報） 543
13.2.6 ContractAssetHistory（契約資産履歴） 546
13.2.7 ContractCatalog（契約会社カタログ） 546
13.2.8 ContractHistory（契約履歴） 548
13.2.9 GroupInfo（部署情報） 549
13.2.10 HardwareInfo（ハードウェア資産情報） 551
13.2.11 InstalledInfo（インストールソフトウェア情報） 559
13.2.12 InstalledList（インストールソフトウェアリスト） 561
13.2.13 InstalledUpdateRecord（ソフトウェア変更履歴） 564
13.2.14 InstalledVirusDefInfo（ウィルス定義情報） 566
13.2.15 IPAddress（IP アドレス管理情報） 567
13.2.16 JobRoleInfo（職権管理情報） 568
13.2.17 LicenseInfo（ライセンス情報） 569

13.2.18 LocationInfo（設置場所情報） 572
13.2.19 MachineCatalog（機器カタログ） 574
13.2.20 Maintenance（保守履歴） 577
13.2.21 NetworkInfo（ネットワーク情報） 581
13.2.22 PatchInfo（パッチ情報） 583
13.2.23 PatchList（パッチリスト） 584
13.2.24 ProgramHistory（プログラム起動履歴） 585
13.2.25 RoleInfo（権限管理情報） 586
13.2.26 SoftwareInfo（ソフトウェア資産情報） 587
13.2.27 SoftwareKeyInfo（ソフトウェアキー情報） 589
13.2.28 SoftwareList（ソフトウェアリスト） 590
13.2.29 SoftwareWorkInfo（ソフトウェア稼働情報） 593
13.2.30 UpdateRecord（変更履歴） 596
13.2.31 UserInfo（ユーザ管理情報） 597
13.2.32 VolumeContract（ボリューム契約情報） 599
13.2.33 WindowTitleHistory（ウィンドウタイトル変更履歴） 601
13.3 アソシエーションクラスのプロパティ一覧 603
13.3.1 AuthorityLink（ユーザ情報と権限情報） 603
13.3.2 ContractLeaseLink（リース契約と資産情報） 603
13.3.3 ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報） 603
13.3.4 ContractRentalLink（レンタル契約と資産情報） 604
13.3.5 IPAddressLink（IP アドレスの状態管理） 604
13.3.6 JobRoleLink（ユーザ情報と職権情報） 604
13.3.7 MachinePermitLink（資産情報とソフトウェアキー情報） 604
13.3.8 MemberLink（ユーザ情報と部署情報） 605
13.3.9 UserPermitLink（ユーザ情報とソフトウェアキー情報） 605
13.3.10 VolumeContractLink（ボリューム契約と資産情報） 605
13.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目 606
13.4.1 資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目 608
13.4.2 資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目 613
13.4.3 資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目 614
13.4.4 資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目 616
13.4.5 資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目 619
13.4.6 資産種別「組織管理情報」で対象となる項目 620
13.4.7 資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目 621
13.4.8 資産種別「設置場所情報」で対象となる項目 622
13.4.9 資産種別「保守契約情報」で対象となる項目 622

13.4.10 資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目 624
13.4.11 資産種別「リース契約情報」で対象となる項目 625
13.4.12 資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目 626
13.4.13 資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目 627
13.4.14 資産種別「機器カタログ」で対象となる項目 628
13.4.15 資産種別「問題点管理」で対象となる項目 630
13.4.16 資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目 631
13.4.17 資産種別「パッチ情報」で対象となる項目 631
13.4.18 資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目 632

付録 633

付録 A メモリ所要量とディスク占有量 634
付録 A.1 メモリ所要量 634
付録 A.2 ディスク占有量 634
付録 B フォルダ構成 638
付録 C 環境設定情報に対応するセクション名およびキー名 641
付録 D バージョンアップおよび資産管理データベースの移行 647
付録 D.1 Asset Information Manager をバージョンアップする 647
付録 D.2 DBMS を移行する 652
付録 D.3 資産管理サーバをリプレースする 653
付録 D.4 Asset Information Manager Limited から移行する 653
付録 D.5 Embedded RDB のサイズの変更 657
付録 D.6 Embedded RDB のホスト名の変更 658
付録 E プロセス一覧 660
付録 F 各バージョンの変更内容 661
付録 G 用語解説 674

索引 689

1 設計の概要

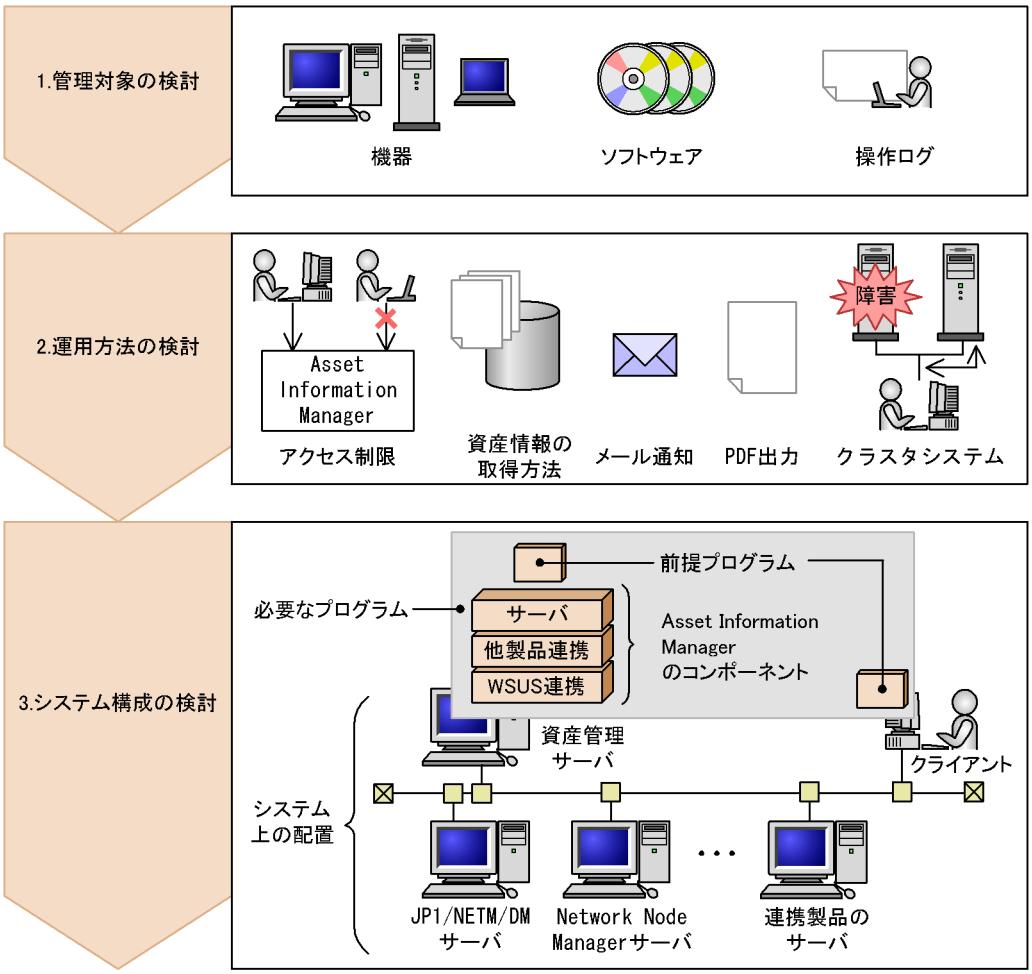
この章では，Asset Information Manager を使用した資産管理システムの設計作業の概要をつかむために，設計の流れと各設計工程の中で検討する項目について示します。

1.1　設計の流れ
1.2　検討項目の一覧
1.3　JP1/NETM/DM との連携に必要な検討項目の一覧

1.1　設計の流れ

Asset Information Manager を使用した資産管理システムを設計する流れを次の図に示します。

図 1-1　設計の流れ



1. **Asset Information Manager を使用してどのような業務を実行したいかを検討する。**
   管理対象と管理する情報の種類を，業務に合わせて決定します。また，目的の業務を実行するために，他製品との連携が必要かどうかも決定します。
2. **資産管理システムをどのように運用するかを検討する。**
   アクセス制限，資産情報の取得方法，メール通知の有無など，日々の運用の方法を決定します。
3. **システム構成を検討する。**
   1. と 2. で決めた内容を基に，必要なプログラムと，システム上の配置を決定します。

1.2 検討項目の一覧

Asset Information Manager を使用した資産管理システムを設計するために，検討する項目について説明します。設計時に検討する項目の概要を把握するために役立ててください。必要な項目があった場合は，（）内に示した個所の説明を参照して，使用するかどうかを決定してください。

1.2.1 管理対象の検討

管理対象を決定し，各対象のどのような情報を管理するかを検討します。各個条書きの（）内には，詳細説明の参照先を示します。

● 機器を管理する

- PC，ディスプレイ，プリンタ，HUB など，機器の種別（→ 2.1.1(1)）
- 部署，契約，問題点など，機器に関連づけて管理する情報（→ 2.1.1(2)）

● ソフトウェアを管理する

- シェアウェア，フリーウェアなど，ソフトウェアの種別（→ 2.1.2(1)）
- ライセンス利用数，ライセンス形態の詳細内容，稼働時間など，ソフトウェアに関連づけて管理する情報（→ 2.1.2(2)）
- ソフトウェアを管理対象の機器にインストールするかどうか（→ 2.1.2(3)）

● 操作ログを管理する

プログラム起動，ウィンドウタイトルの変更，ファイル操作などの操作ログの種類（→ 2.1.3）

1.2.2 運用方法の検討

資産管理システムをどのように運用するかを検討します。各個条書きの（）内には，詳細説明の参照先を示します。

● アクセス制限を設定する

- ユーザ権限の種類（→ 3.1.1）
- ログイン時の制限，組織階層での制限，使用できるメニューの制限など，アクセス制限の種類（→ 3.1.2）

● 資産情報の取得方法を選択する

- JP1/NETM/DM から取得する（→ 3.2.1）
- CSV ファイルから取得する（→ 3.2.2）

● メール通知を使用する

期限切れ間近の契約，ライセンス超過など，メールで通知する種類（→ 3.3）

● 検索結果を PDF ファイルに出力する

検索結果の帳票出力が必要かどうか（→ 2.2.6）

● クラスタシステムに導入する

Asset Information Manager を導入できるクラスタ構成かどうか（→ 3.4）

1.2.3 システム構成の検討

使用するプログラムを選択して，システム構成を検討します。各個条書きの（）内には，詳細説明の参照先を示します。

● 資産管理サーバの前提プログラム

必須

- Windows Server 2008，Windows Server 2003 など，使用する OS の種類（→ 4.1.1(1)）
- Microsoft SQL Server，ORACLE など，使用する DBMS の種類（→ 4.1.1(1)）
- 使用する WWW サーバ（Microsoft Internet Information Services）のバージョン（→ 4.1.1(1)）

任意

- メール通知を使用するかどうか（→ 4.1.1(3)）
- WSUS サーバを使用するかどうか（→ 4.1.1(4)）

● クライアントの前提プログラム

- 前提とする WWW ブラウザ（→ 4.1.1(2)）

● Asset Information Manager のコンポーネント

- 必要なコンポーネントの種類（→ 4.1.2）
- 資産管理サーバ，資産管理データベースの配置（→ 4.2.1）

● 他製品と連携する

- 連携できる製品の種類（→ 4.1.1，4.1.3）

1.3 JP1/NETM/DM との連携に必要な検討項目の一覧

JP1/NETM/DM と連携するためには，JP1/NETM/DM の設定に合わせて，セットアップで指定する値を，あらかじめ検討しておく必要があります。JP1/NETM/DM と連携するために検討する項目と詳細説明の参照先を，一覧表で示します。

検討項目		参照先
JP1/NETM/DM と連携するための検討事項	JP1/NETM/DM データベースログイン ID（必須）	5.3.7(1)
	JP1/NETM/DM データベース接続サービス名（必須）	5.3.7(2)
インベントリ情報を取得するための検討事項	次のうち，どちらを JP1/NETM/DM での運用キーにするか。 • ホスト識別子 • ノード識別キー	5.3.7(4)
	次のうち，どちらを資産管理データベースでのキー項目にするか。 • 運用キー • 資産番号	5.3.7(5)
	次のうち，どの情報を取り込むか。 • ハードウェア情報 • ハードウェア情報＋ソフトウェア情報 • ハードウェア情報＋ソフトウェアインベントリ情報 • ハードウェア情報＋ソフトウェア情報＋ソフトウェアインベントリ情報	5.3.7(10)
	JP1/NETM/DM を導入していない機器の情報を取得するかどうか。	5.3.7(3)
	リアルタイムにインベントリ情報を取得する場合の監視間隔を何秒にするか。	5.3.7(11)
	次のうち，JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態をどれにするか。 • 廃棄 • 仮廃棄 • 抹消 • コード指定 • 何もしない	5.3.7(12)
インベントリ情報を引き当てるための検討事項	ホスト識別子を使用する場合に，次のうちどの値を引き当てに使用するか。 • ホスト識別子だけ • ホスト識別子および MAC アドレス • ホスト識別子，MAC アドレス，IP アドレスおよびホスト名 • ダイヤルアップ接続時の MAC アドレス	5.3.7(6), 5.3.7(9)

検討項目		参照先
	ホスト識別子を使用する場合に，引き当たらなかったときの方針をどうするか。 •「資産情報の引き当て 1」での選択肢，または IP アドレスとホスト名の組み合わせ •「資産情報の引き当て 1」での選択肢，または引き当てない	5.3.7(7)
	引き当たらなかった場合の方針をどうするか。 • 新規の資産として登録する • 新規の資産として登録しない	5.3.7(8)
	バージョンアップ前の Asset Information Manager のバージョンによる，設定値の引き継がれ方は問題ないか。 • 07-50 より前のバージョン • 07-50 以降のバージョン	5.3.7(18)
ソフトウェアのライセンスを管理するための検討事項	パッケージ識別 ID を取得するかどうか。	5.3.7(14)
	次のうち，どのパターンで，ソフトウェア名への自動割り当てをするか。 • 自動的に割り当てない • 同一パッケージ識別 ID で割り当てる • 同一パッケージ名で割り当てる • 同一パッケージ識別 ID と同一パッケージ名で割り当てる	5.3.7(15)
	ソフトウェアの自動登録をするかどうか。	5.3.7(16)

JP1/NETM/DM と連携して機器を管理する場合

JP1/NETM/DM と連携して機器だけを管理する場合は，基本的にはすべてデフォルトのままでかまいません。ただし，次の設定がデフォルトのままでよいかどうかは，必ず確認してください。また，本格的な運用を開始する際は，必ずセットアップの各項目を再度見直してください。

- **「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」**

  「admin」でよいか，データソースまたはネット・サービスの設定を確認してください。
- **「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」**

  「NETM_DB_SERVICE_NAME」でよいか，データソースまたはネット・サービスの設定を確認してください。
- **運用キー**

  JP1/NETM/DM で「ホスト識別子あり」で運用しているかどうかを確認してください。

2 資産管理システムで実施する業務の検討

この章では，資産管理システムを設計するに当たって，資産管理システムでの実施業務の検討に必要な項目について説明します。

2.1 管理対象の検討

2.2 他製品と連携した資産管理システムの検討

2.1　管理対象の検討

Asset Information Manager を使用した資産管理システムを設計するに当たって，まず資産管理システムでの管理対象を検討します。Asset Information Manager では，機器，ソフトウェアおよび操作ログを管理できます。

この節では，各管理対象について，どのような情報を管理できるかを説明します。

管理対象の情報を検討するに当たって

管理対象の主な情報は，JP1/NETM/DM と連携することで取得できます。
JP1/NETM/DM で収集した情報を資産管理データベースに取り込んで利用する場合は，JP1/NETM/DM 側で収集している情報を基に，資産管理データベースで管理する対象を検討してください。JP1/NETM/DM から取得できる情報の詳細については，「12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報」および「12.2　JP1/NETM/DM から取得できる操作ログ」を参照してください。
JP1/NETM/DM で収集していない情報，および JP1/NETM/DM 以外の情報を資産管理データベースに登録して管理する場合は，CSV ファイルをインポートします。資産情報の取得方法については，「3.2　資産情報の取得」を参照してください。

Asset Information Manager では，サンプルデータをインポートすることで，Asset Information Manager の主要画面を操作しながら資産管理システムの設計を検討できます。データのインポート方法については，「5.11.4　設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）のインポート」を参照してください。

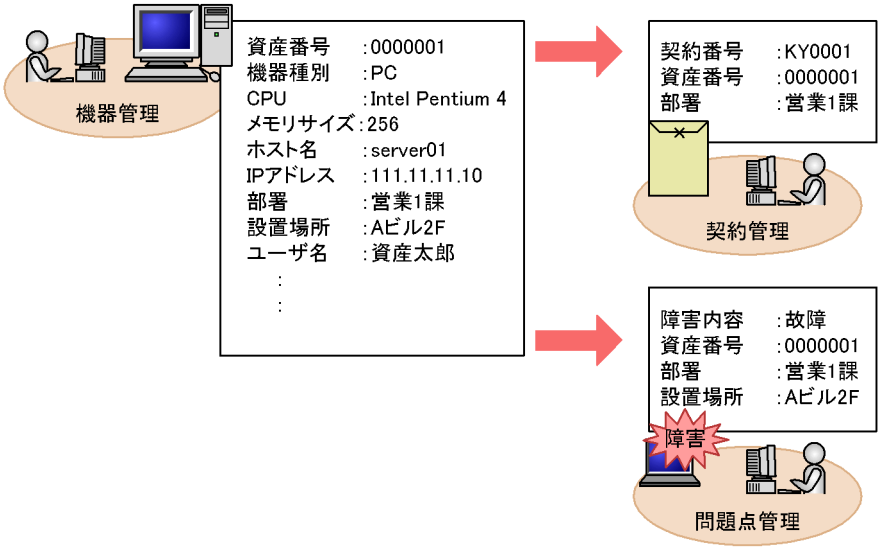
2.1.1　機器を管理する

Asset Information Manager では，ネットワーク上の機器を一括して管理できます。ここでは，管理できる機器の種別と機器と関連づけて管理できる情報の種類について説明します。

機器の種別および関連情報は，機器の属性情報として棚卸や遊休資産の割り当てに使用するだけでなく，契約情報と併せて管理する場合，トラブル発生時の対処など，さまざまな業務に利用できます。そのため，どこまで管理するかを検討して，必要な情報を決定してください。

機器の属性情報を契約管理，問題点管理で利用する場合を例に，機器の情報をさまざまな業務で利用する概念を次の図に示します。

図 2-1　機器の情報をさまざまな業務で利用する概念



(1) 機器の種別

機器の種別は，システム装置，拡張装置，ネットワーク装置の三つの種別に分類されて，それぞれさらに詳細に分類できます。デフォルトで用意されている機器の種別を次に示します。

機器種別	詳細分類
システム装置	• PC • PC サーバ • UNIX • UNIX サーバ
拡張装置	• ディスプレイ • HD • CD-R • CD-R/W • DVD • DAT • MO • プリンタ
ネットワーク装置	• HUB • ルータ • ネットワークプリンタ • ネットワーク機器

機器の種別を詳細に管理することによって，機器管理業務で目的の機器をすばやく検索できるだけでなく，契約管理やライセンス管理でも役立ちます。また，保守履歴情報を予防保守に利用する際，セキュリティ対策を徹底する際にも役立ちます。

なお，ネットワーク装置は，Network Node Manager と連携することで登録できます。Network Node Manager との連携については，「2.2.2　Network Node Manager と連携してネットワーク構成を管理する」を参照してください。

機器の種別は，不要な種別を管理対象から削除したり，必要な種別を追加したりできます。デフォルトの種別を変更する方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8 種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

(2) 機器に関連づける情報

Asset Information Manager では，部署および設置場所などの情報を機器と関連づけて管理することで，効率良く機器管理を実行できます。機器と関連づけて管理できる情報を次に示します。

- **部署，利用者，設置場所**
  機器を使用している部署，機器の利用者，および機器の設置場所を管理できます。部署，利用者，および設置場所は，機器の棚卸，障害発生時の迅速な対処など，機器管理のすべての業務に利用できます。
  部署，利用者，設置場所の情報は，操作画面から登録することはもちろん，JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報やディレクトリ情報から取得したり，IP アドレスから対応する部署や設置場所を自動的に設定したりすることもできます。
- **契約情報**
  機器の保守，リースおよびレンタルの契約内容を管理できます。契約情報を登録することで，契約対象の機器と関連づけて管理できます。
- **問題点**
  機器に障害が発生した場合など，障害内容を問題点として登録して管理できます。同機種のトラブルに対策内容を役立てたり，機器の購入や交換の業務に利用したりできます。
  また，JP1/IM の JP1 イベントや JP1/IM - IDM のインシデントを登録して，資産管理システム上の問題点を共有することもできます。JP1/IM および JP1/IM - IDM との連携については，「2.2.1　JP1/IM，JP1/IM - IDM と連携して問題点を管理する」を参照してください。
- **ネットワーク情報**
  IP アドレス，サブネットマスク，デフォルトゲートウェイなどのネットワーク情報と関連づけて管理できます。
  ネットワーク情報は，操作画面から登録する以外に，Network Node Manager のノード情報からも取得できます。Network Node Manager との連携については，「2.2.2 Network Node Manager と連携してネットワーク構成を管理する」を参照してください。
- **監視図**
  監視図とは，Network Node Manager で検出したネットワーク機器のマップのことで，ネットワーク機器の接続，ネットワークの問題点などを参照できます。Network Node Manager のネットワークプレゼンタを起動して，ネットワーク上にトラブルが発生していないかを監視できます。

- **フロアレイアウト図**
  フロアレイアウト図とは，機器の設置場所を示した図です。NetInsight II のフロアレイアウト図を表示して，機器の設置場所をビジュアルに把握できます。NetInsight II との連携については，「2.2.5　NetInsight II と連携して機器の位置情報を表示する」を参照してください。

参考

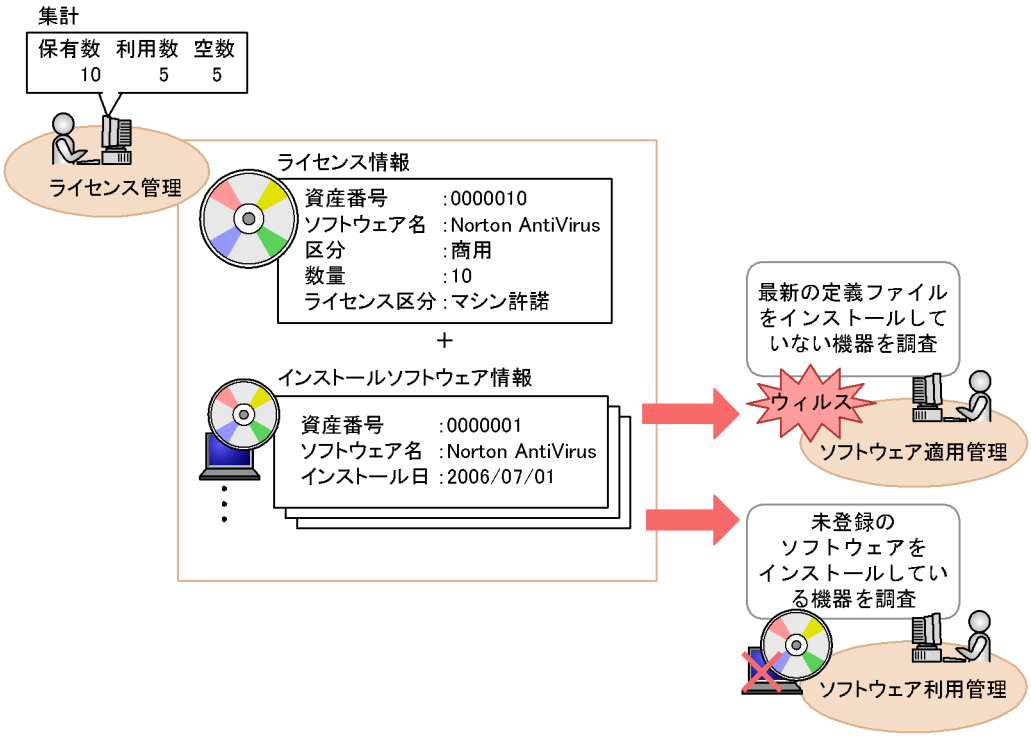
Asset Information Manager で機器を管理している場合，Asset Information Manager で管理している資産情報を利用して，JP1/IM - CM で構成管理，JP1/NETM/CSC でセキュリティ管理を実行できます。JP1/IM - CM との連携については，「2.2.4　Asset Information Manager の資産情報を利用して JP1/IM - CM で構成管理をする」を参照してください。JP1/NETM/CSC との連携の詳細については，マニュアル「JP1/NETM/Client Security Control」を参照してください。

2.1.2　ソフトウェアを管理する

Asset Information Manager では，機器にインストールされているソフトウェアと保有しているライセンスを管理できます。ここでは，管理できるソフトウェアの種別とソフトウェアに関する情報について説明します。機器にインストールされているソフトウェアの情報は，ライセンスの利用数を確認するだけでなく，ウィルス対策の徹底，不正利用の防止など，さまざまな業務に利用できます。また，ライセンス区分に合わせて割り当て先を管理することもできます。そのため，どこまで管理するかを検討して，必要な情報を決定してください。

機器にインストールされているソフトウェアの情報を，ソフトウェア適用管理やソフトウェア利用管理で利用する場合を例に，ソフトウェアの情報をさまざまな業務で利用する概念を次の図に示します。

図 2-2　ソフトウェアの情報をさまざまな業務で利用する概念



(1) ソフトウェアの種別

ソフトウェアの種別は，商用，シェアウェア，フリーウェアの三つの種別に分類できます。また，不要な種別を管理対象から削除したり，必要な種別を追加したりもできます。デフォルトの種別を変更する方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8　種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

(2) 管理する情報

ソフトウェアに関する情報には，大きく分けて購入したライセンスに関する情報，機器にインストールされているソフトウェアに関する情報の二つがあります。この二つを組み合わせてライセンスの保有数と利用数を比較したり，不正インストールを検出したりできます。管理できるソフトウェアに関する情報を次に示します。

● ライセンスに関する情報

- **ライセンス保有数**
  ソフトウェアのライセンス数を管理できます。
- **ライセンス情報**
  ライセンス区分（マシン許諾，ユーザ許諾），ダウングレードの可否，アップグレード保証の有無など，詳細なオプションの情報まで一括して管理できます。
- **ライセンスキーと割り当て先**
  ライセンスキーとライセンスの割り当て先を対応づけて，どのライセンスをどの機

器（または利用者）が使用しているかを管理できます。

● 機器にインストールされているソフトウェアに関する情報

- **ライセンス利用数**
  機器にインストールされているソフトウェアの名称，バージョン，ファイル名などを管理できます。
- **パッチ情報**
  JP1/NETM/DM のシステム情報またはインストールパッケージ情報を取得して，機器にインストールされているパッチの情報を管理できます。この情報を基に，最新のパッチが適用されているかを確認できます。
- **ウィルス定義情報**
  JP1/NETM/DM のウィルス対策製品情報を取得して，機器にインストールされているウィルス定義ファイルの情報を管理できます。この情報を基に，最新のウィルス定義ファイルがインストールされているかを確認できます。
- **ソフトウェアの稼働情報**
  JP1/NETM/DM で収集したソフトウェアの稼働時間を基に，ソフトウェアの稼働状況を管理できます。また，JP1/Lan Licenser から，ソフトウェアごとの稼働時間を取得して管理することもできます（ソフトウェア稼働情報）。JP1/NETM/DM との連携については「5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ」を，JP1/Lan Licenser との連携については「2.2.7　JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する」を参照してください。

（3）ソフトウェアの配布

JP1/NETM/DM と連携して，ソフトウェアを管理対象の機器に配布（インストール）できます。全社で統一する必要があるソフトウェアや，ウィルス対策として強制的にインストールしたい定義ファイルを，資産管理者の指示で配布できます。

2.1.3　操作ログを管理する

Asset Information Manager では，管理対象の機器での操作を操作ログとして管理できます。ここでは，操作ログの種別と管理方法の違いについて説明します。操作ログを取得することで，不正なプログラムの使用を監視したり，インターネットの参照状況を監視したりできます。操作ログを集計して，部署ごとの状況を把握することもできます。また，万が一情報漏えいが発生した場合に，ファイルの組織外への持ち出し，名称変更などの操作を追跡して調査することもできます。

なお，持ち出しとは，ファイルをリムーバブルやネットワークにコピーまたは移動することです。また，リムーバブルメディアなどを組織外に持ち出す行為のことです。印刷による情報の持ち出しも含みます。

ファイル操作の操作ログは，JP1/NETM/DM または JP1/ 秘文と連携している際に取得できます。

(1) 操作ログの種別

操作ログには幾つかの種別があります。連携製品ごとの操作ログの取得の可否を次の表に示します。

表 2-1 連携製品ごとの操作ログの取得の可否

操作ログの種別	JP1/NETM/DM	JP1/秘文
プログラム起動	○	－
ウィンドウタイトル変更	○	－
ファイル操作	○	○
PC 起動	○	－
秘文ログイン	－	○
Web アクセス	○	－
外部メディア操作	○	－

（凡例）
○：取得できる
－：取得できない

(2) 管理方法の違い

操作ログの管理方法は，連携する製品，および製品のバージョンによって，使用する業務メニューおよび操作ログの取得方法が異なります。そのため，資産管理システムを設計する際に確認してください。

● JP1/NETM/DM 08-00 以降または JP1/秘文と連携する場合

JP1/NETM/DM，JP1/秘文で収集した操作ログを統合して，操作ログの種類を意識することなく業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」から操作ログを管理できます。

JP1/NETM/DM および JP1/秘文のデータベースを直接参照するため，資産管理データベースに情報を取り込むことなく，業務メニュー「操作ログ一覧」で常に最新の情報を参照できます。また，操作ログから前後の操作を追跡できます。操作ログを統合して管理する方法については，「2.2.3 JP1/NETM/DM，JP1/秘文と連携して操作ログを管理する」を参照してください。

また，業務メニュー「操作ログ集計」で，部署ごとの状況を確認することもできます。

● JP1/NETM/DM 07-50 または 07-53 と連携する場合

操作ログのうち，JP1/NETM/DM で収集したプログラムの起動およびウィンドウタイトルの変更だけを，それぞれの業務メニュー「プログラム起動履歴」，「ウィンドウタイトル変更履歴」で管理できます。

業務メニュー「プログラム起動履歴」および「ウィンドウタイトル変更履歴」を使用する場合は，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「操作履歴の取込み」を使用して，資産管理データベースに定期的に取り込む必要があります。その

ため，資産管理データベースに十分な領域を確保する必要があります。データベース容量の見積もりについては，「付録 A.2　ディスク占有量」を参照してください。また，タスク「操作履歴の取込み」を使用した取り込み方法については，「5.9.1　タスクの種類」を参照してください。

2.2 他製品と連携した資産管理システムの検討

Asset Information Manager は，JP1/NETM/DM 以外にもさまざまな製品と連携して，統合的な資産管理システムを構築できます。すでに導入している製品がある場合は，Asset Information Manager と連携させるかどうかを検討してください。また，導入していない製品の場合は，業務目的に合わせて必要かどうかを検討してください。

ここでは，他製品と連携して拡張できる機能について説明します。

2.2.1 JP1/IM，JP1/IM - IDM と連携して問題点を管理する

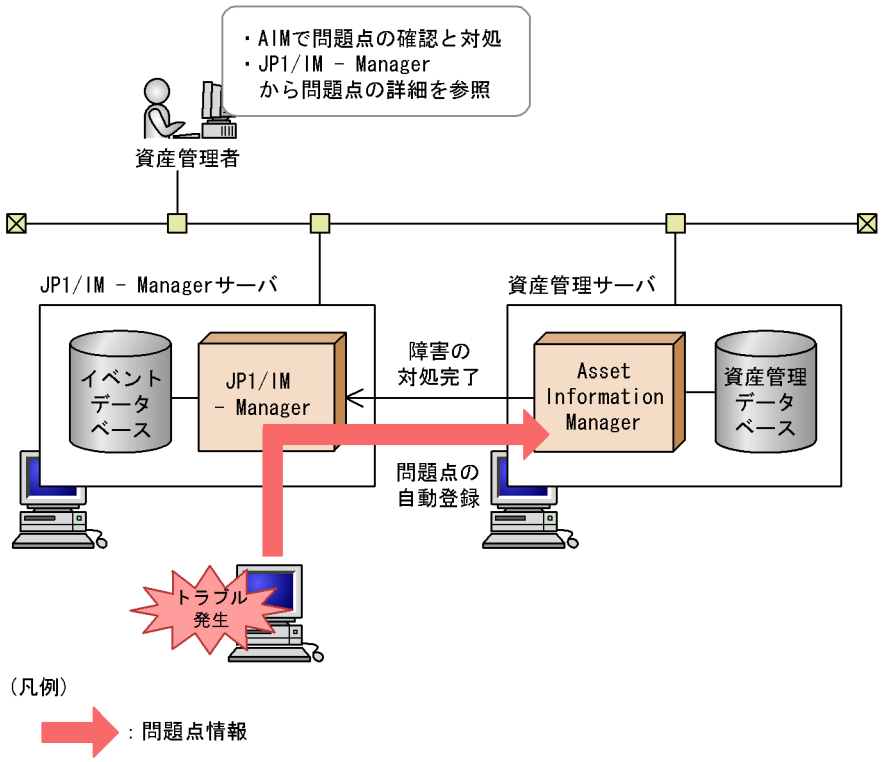
JP1/IM および JP1/IM - IDM で取得した資産管理システム上の問題点を，資産管理データベースに登録して管理できます。JP1/IM，JP1/IM - IDM のそれぞれと連携することで実現できる資産管理業務を説明します。

(1) JP1/IM との連携

JP1/IM と連携することで，JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を基に，資産管理システム上の**問題点を自動登録**できます。また，**JP1/IM から問題点の確認**ができます。問題点の対処内容を管理することで，予防保守に役立ちます。

JP1/IM と連携することで実現できる資産管理業務を次の図に示します。

図 2-3　JP1/IM と連携した資産管理業務



● **JP1/IM で取得した JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を基に，資産管理システム上の問題点を確認・対処する**

業務メニュー「問題点一覧」で，JP1/IM - Manager で収集した問題点情報を参照できます。また，JP1/IM - Manager に対処が完了したことを通知して，問題点情報の状態を対処済みに変更できます。

● **JP1/IM から問題点の詳細情報を表示する**

JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面で，Asset Information Manager で発行した JP1 イベント（問題点に対する対処完了の通知）から，Asset Information Manager で登録した問題点の詳細情報を参照できます。

JP1/IM との連携で発行される Asset Information Manager の JP1 イベントの詳細については，「12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細」を参照してください。

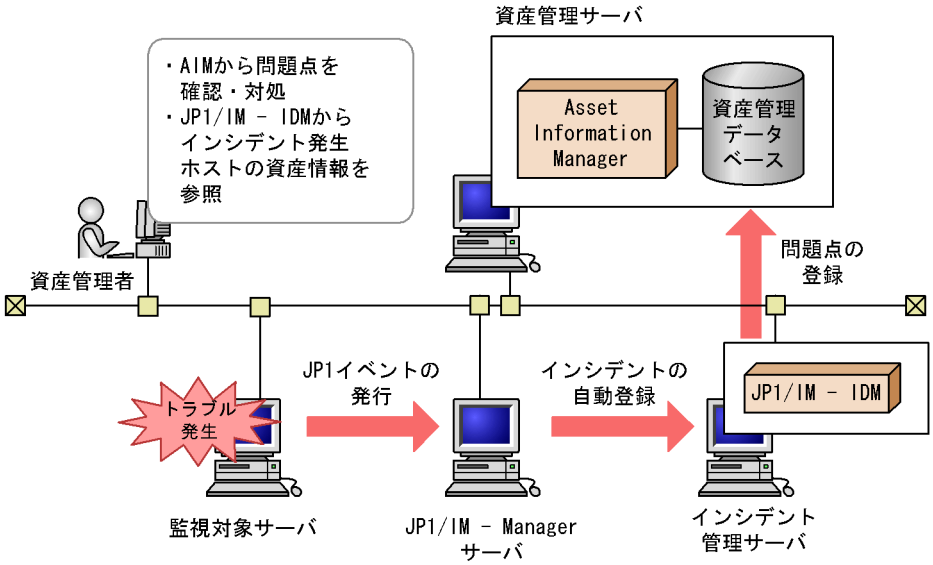
（2） JP1/IM - IDM との連携

JP1/IM - IDM と連携することで，**インシデント**（IT サービスの品質を低下させたり，システムの正常な運用を妨げたりする障害事象の単位）を，問題点として登録（エスカレーション）できます。インシデントは，要因となる個々の JP1 イベントまたは JP1 イ

ベント同士の組み合わせを定義して生成されます。そのため，JP1 イベント単位で登録される情報と比べて，精査された情報をまとまった単位で管理できます。

JP1/IM - IDM と連携することで実現できる資産管理業務を，次の図に示します。

図 2-4　JP1/IM - IDM と連携した資産管理業務



● **JP1/IM - IDM のインシデントを基に，資産管理システム上の問題点を確認・対処する**

JP1/IM - IDM の［インシデントの詳細］画面から，Asset Information Manager の［問題点登録］ダイアログを呼び出して，問題点を登録できます。その情報を基に，資産管理システム上の問題点を確認したり，障害に対処したりします。

● **JP1/IM - IDM から Asset Information Manager の資産情報を参照する**

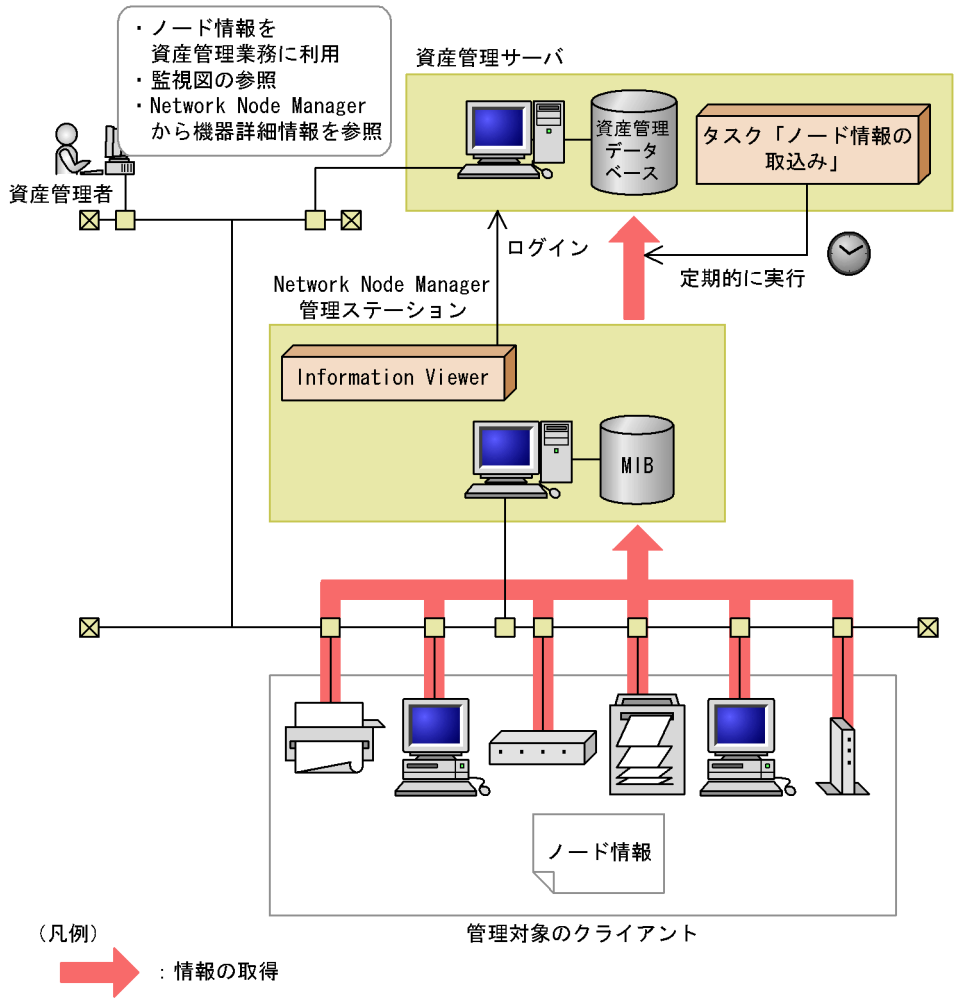
JP1/IM - IDM の［インシデントの詳細］画面から，インシデント発生ホストの情報として，Asset Information Manager が管理する資産情報を参照できます。

2.2.2　Network Node Manager と連携してネットワーク構成を管理する

Asset Information Manager は，Network Node Manager と連携することで，**ノード情報の取得**，**監視図の表示**および Network Node Manager **からの機器詳細情報の表示**ができます。これによって，ネットワーク機器の情報をネットワーク構成情報と併せて管理できます。

Network Node Manager と連携することで実現できる資産管理業務を，次の図に示します。

図 2-5　Network Node Manager と連携した資産管理業務



● **Network Node Manager で取得したノード情報を資産管理データベースに取り込んで，各種の資産管理業務に利用する**

Network Node Manager で収集したノード情報は，タスクスケジューラのタスク「ノード情報の取込み」を利用して，定期的に登録できます。ノード情報の詳細については，「12.3　Network Node Manager から取得できるノード情報」を参照してください。

● **機器の監視図を参照する**

保有機器一覧画面および［機器詳細］ダイアログから，Network Node Manager のネットワークプレゼンタを表示して，該当する機器が含まれる監視図を参照できます。監視図とは，Network Node Manager で検出したネットワーク機器のマップのことで，ネットワーク機器の接続，ネットワークの問題点などを参照できます。

● **Network Node Manager から機器の詳細情報を参照する**

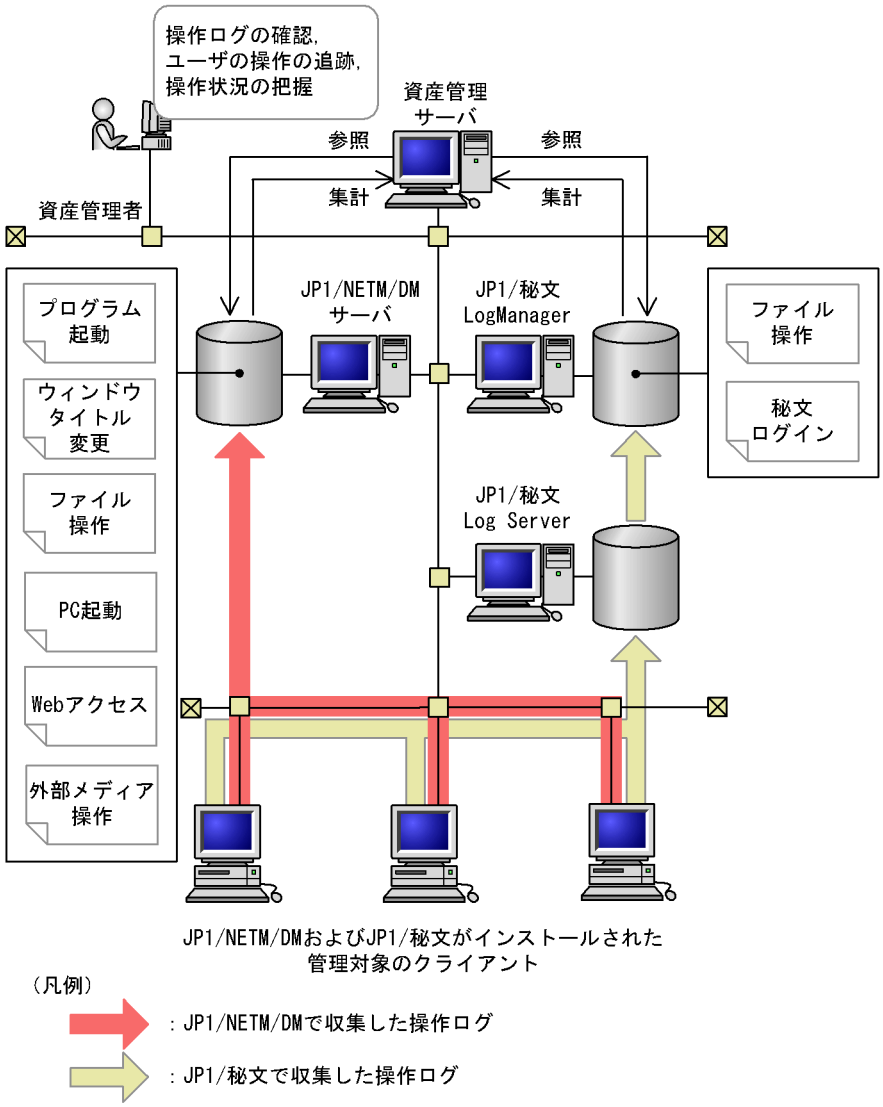
Network Node Manager のネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップで，各ノードに該当する機器の詳細情報を参照できます。

2.2.3 JP1/NETM/DM，JP1/秘文と連携して操作ログを管理する

Asset Information Manager では，JP1/NETM/DM，JP1/秘文と連携することで，業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」から**操作ログを管理**できます。操作ログからユーザの操作を調査することで，業務に関係ないサイトの閲覧，暗号を掛けないファイルの持ち出しなどを把握できます。これによって，万が一情報漏えいが発生した場合に，問題となったファイルに対する操作を追跡できます。また，操作ログを集計することで，部署ごとの状況を把握できます。

JP1/NETM/DM，JP1/秘文と連携することで実現できる資産管理業務を，次の図に示します。

図 2-6　JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文と連携した資産管理業務



● **JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文で収集した操作ログを参照して，ユーザの操作を確認する**

JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文のデータベースに格納されている操作ログを参照することで，管理対象となっている機器の操作を確認できます。どの製品から取得した操作ログかを意識しないで操作ログを参照できます。また，操作ログとして取得したファイル名から，ユーザの操作を追跡できます。

● **操作ログを集計して，部署ごとの状況を把握する**

JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文のデータベースに格納されている操作ログを Asset Information Manager で集計することで，検出された操作ログの数，操作ログが検出された機器の割合などの状況を部署ごとに把握できます。

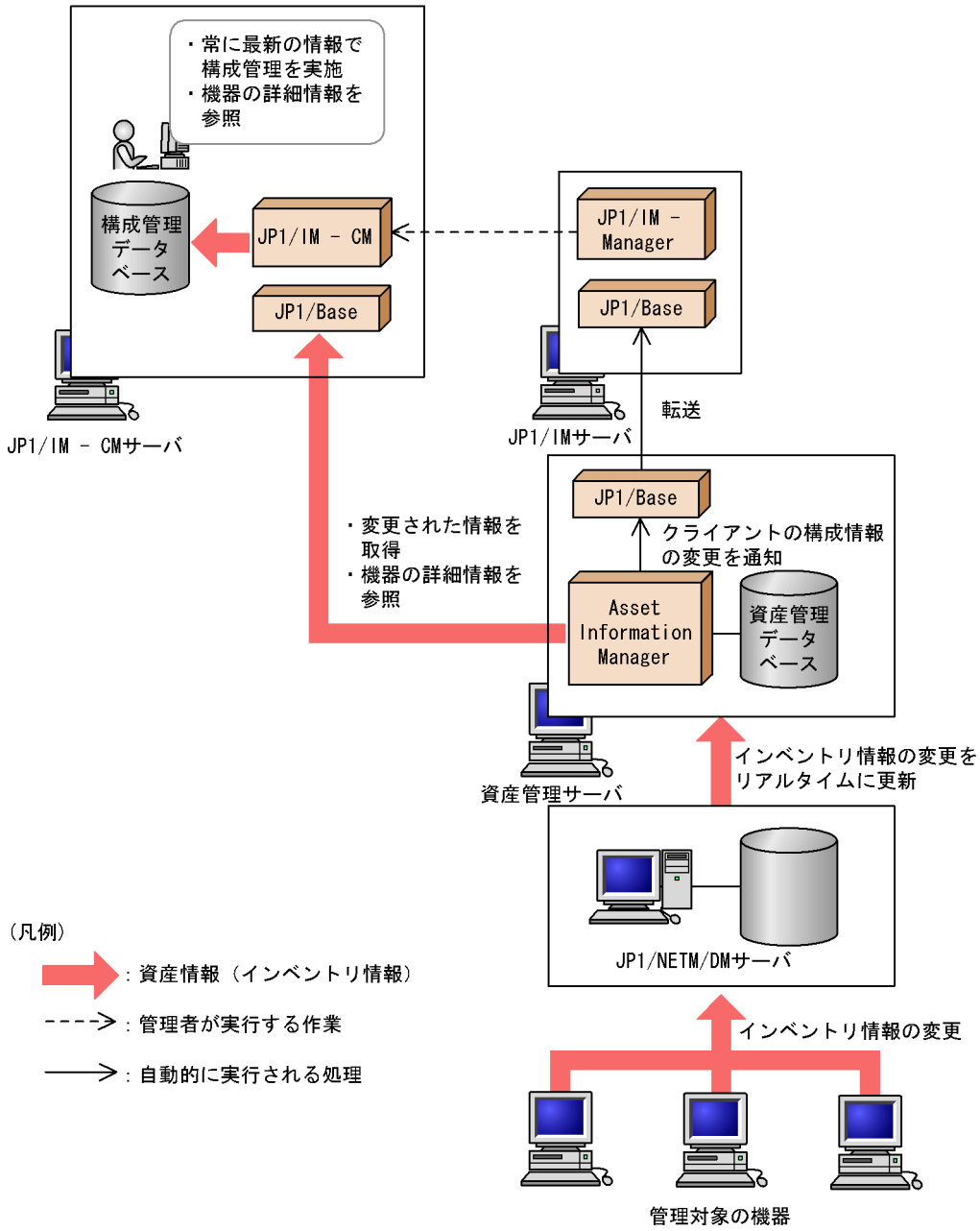
2.2.4 Asset Information Manager の資産情報を利用して JP1/IM - CM で構成管理をする

JP1/IM - CM では，Asset Information Manager と連携することで，クライアントのインベントリ情報（クライアントの構成情報）の変更に合わせて，Asset Information Manager の管理する情報からの**システム構成情報の更新**ができます。これによって，常に実態に合った情報としてシステム構成情報を管理できます。

また，JP1/IM - CM のセントラルインフォメーションマスター・ビューアーから，Asset Information Manager の**機器詳細情報の参照**もできます。

Asset Information Manager と連携した JP1/IM - CM のシステム構成情報の管理を次の図に示します。

図 2-7　Asset Information Manager と連携した JP1/IM - CM のシステム構成情報の管理



● **Asset Information Manager の管理する最新の情報を取得してシステム構成情報を更新する**

JP1/NETM/DM のインベントリ情報の変更が資産管理データベースに反映されると，Asset Information Manager からシステム構成情報が変更されたことを通知する JP1 イベントが発行されます。この JP1 イベントを基に，システム構成情報の変更を取得

して，必要に応じて Asset Information Manager から最新の情報を取得できます。JP1/IM - CM との連携で発行される Asset Information Manager の JP1 イベントの詳細については，「12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細」を参照してください。

注意事項

Asset Information Manager から JP1/IM - CM へ構成情報の変更を通知する JP1 イベントは，JP1/NETM/DM から取得するインベントリ情報に変更があった場合だけ発行されます。Asset Information Manager の操作画面から情報を変更しても，JP1 イベントは発行されません。

そのため，Asset Information Manager で管理する情報と一致させるには，Asset Information Manager の操作画面から情報を変更できないようにするなどの運用が必要です。

● **JP1/IM - CM から機器の詳細情報を参照する**

JP1/IM - CM のセントラルインフォメーションマスター・ビューアーから，選択した機器の詳細情報を表示できます。

なお，JP1/IM - CM との連携時は，JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面で，Asset Information Manager の発行した構成変更イベントから［機器詳細］ダイアログを表示できます。

2.2.5　NetInsight II と連携して機器の位置情報を表示する

Asset Information Manager は NetInsight II と連携することで，機器の**フロアレイアウト図の表示**ができます。また，NetInsight II のフロアレイアウト図からは，Asset Information Manager の**機器の詳細情報を表示**できます。

フロアレイアウト図から機器の設置位置がすぐにわかるため，障害発生時，移設時などに的確に指示できます。

また，フロアレイアウト図から，描画されているオブジェクトの詳細情報として，Asset Information Manager の資産情報を表示できます。

2.2.6　EUR と連携して検索結果を PDF 形式で出力する

EUR は，表形式のデータを入力して帳票を印刷するプログラムです。難しいプログラム作成をすることなく帳票を設計できるように，さまざまな機能を提供しています。Asset Information Manager では，EUR と連携して，Asset Information Manager で検索したデータを，PDF ファイルの帳票として表示・印刷できます。検索したデータは，バーコードとして表示するように EUR で設定できるため，保有機器一覧で検索した資産番号をバーコードとして棚卸に利用できます。また，バーコードをシールに印刷して，管理対象の機器にはり付けられます。PDF 形式で検索結果を出力できるのは，次の情報です。出力用のボタンは，デフォルトで表示されるように設定されています。

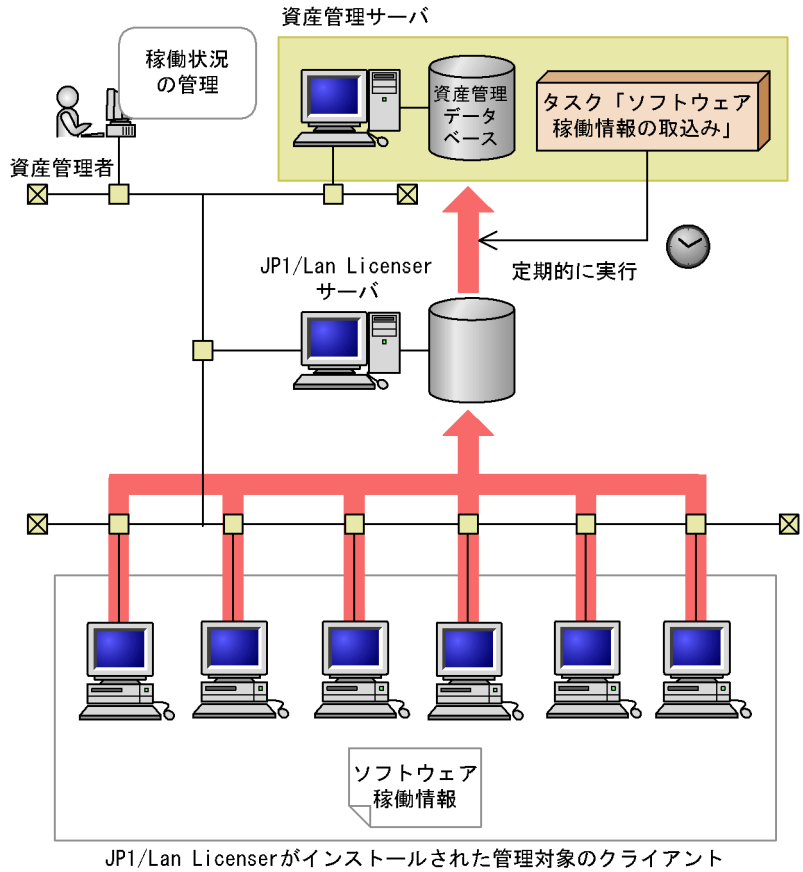
- 保有機器一覧
- 契約一覧
- 問題点詳細
- 保有ライセンス利用機器一覧
- 超過ライセンス利用機器一覧
- 不正利用ライセンス利用機器一覧
- 未登録ソフトウェア利用機器一覧
- 保有ソフトウェア一覧
- ソフトウェア資産詳細
- ボリューム契約一覧
- ボリューム契約詳細
- 保守履歴情報詳細

2.2.7 JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する

JP1/Lan Licenser は，ネットワークを利用して，ソフトウェアの使用状況を監視し，ライセンス管理機能，ソフトウェア使用状況のデータ作成機能を提供しています。Asset Information Manager では，JP1/Lan Licenser と連携することで，**ソフトウェアの稼働状況を管理**できます。ソフトウェアの稼働時間を基に利用されていないソフトウェアを検出して，ソフトウェア資産から削除したり，ライセンスの購入対象から外したりすることで，不要なソフトウェア資産を管理する手間を省けます。

JP1/Lan Licenser と連携することで実現できる資産管理業務を，次の図に示します。

図 2-8　JP1/Lan Licenser と連携した資産管理業務



● **JP1/Lan Licenser で収集したソフトウェア稼働情報を資産管理データベースに取り込んで，ソフトウェアの稼働状況を管理する**

業務メニュー「稼働状況」で，稼働管理対象となっている機器にインストールされている，ソフトウェアごとの合計稼働時間を管理できます。ただし，デフォルトでは，業務メニュー「稼働状況」は非表示の設定になっています。使用する際は，業務メニュー「利用可能業務割り当て」で表示するように設定してください。

ソフトウェア稼働情報の詳細については，「12.4　JP1/Lan Licenser から取得できるソフトウェア稼働情報」を参照してください。

3 運用方法の検討

この章では，資産管理システムを設計するに当たって，資産管理システムの運用方法の検討に必要な項目について説明します。

3.1 **アクセス制限**

3.2 **資産情報の取得**

3.3 **資産管理者へのメール通知**

3.4 **クラスタシステムの導入**

3.1 アクセス制限

資産情報には，機器やソフトウェアの種類，名称，登録日などの情報だけではなく，保守契約の情報などの，限られたユーザだけが編集できるように設定したい情報があります。このような場合は，資産情報を使用するユーザに権限を設定することで使用範囲を制限できます。

また，各部署のシステム管理者には，管理する範囲の資産情報だけを扱えるようにするという場合も，ユーザ権限を設定することで，所属する組織階層に応じて使用範囲を制限できます。

この節では，Asset Information Manager で設定できるアクセス制限について説明します。

3.1.1 ユーザ権限の種類

Asset Information Manager のユーザ権限には，「**管理者**」と「**利用者**」があります。次にそれぞれについて説明します。

管理者

資産管理部署（情報システム管理部門）の機器管理やネットワーク管理の担当者のことです。
資産管理システム全体にかかわる設定を変更したり，管理する資産情報を取捨選択したりする権限を持っています。
Asset Information Manager をインストールすると作成される資産管理者（ユーザ ID「admin」）は，この権限を持っています。

利用者

各部署での機器管理担当者やネットワーク管理者，および一般ユーザのことです。
利用者は，資産管理システムで管理している情報を利用して，各種の資産管理業務を実行できますが，権限に応じて実行できる業務を割り当てる操作はできません。

なお，ユーザ権限の内容は必要に応じて変更できます。また，新しくユーザ権限を作成することもできます。ユーザ権限の変更方法については，「9.1 ユーザ権限の変更（権限管理）」を参照してください。

3.1.2 利用ユーザに対するアクセス制限の種類

ここでは，ユーザ権限に応じて，Asset Information Manager を利用するユーザに対して設定できるアクセス制限について説明します。

● **Asset Information Manager へのログインの可否**

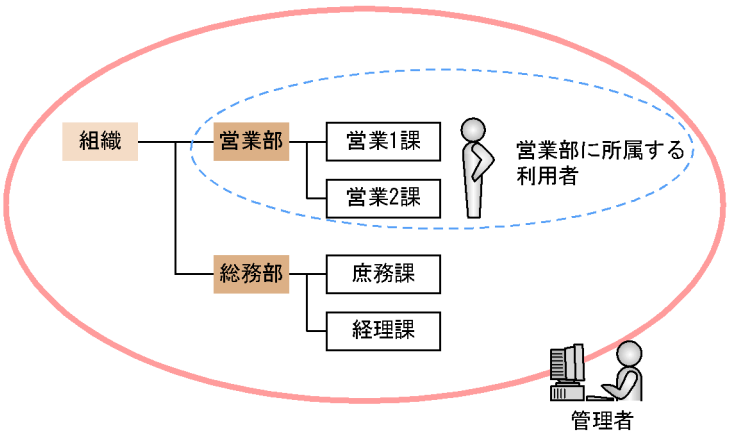
Asset Information Manager を利用できるようにするには，利用するユーザを登録し，各ユーザにユーザ権限を設定します。これによって，Asset Information Manager にログインできるようになります。

資産管理システムの構築時は，管理者用のユーザ（ユーザ ID およびパスワード「admin」）が登録されています。

● 組織階層単位でのアクセス制限

ユーザの権限に応じて，ユーザが扱える資産情報を，組織階層単位に制限します。組織階層単位でのアクセス制限の概要を次の図に示します。

図 3-1　組織階層単位でのアクセス制限



組織階層単位でのアクセス制限は，ユーザ権限に，資産情報を扱える範囲の組織階層（**管理ラベル**）を指定することで行います。
各ユーザ権限に管理ラベルを指定する方法については，「3.1.3　組織階層単位でのアクセス制限の設定」を参照してください。

● 操作画面から実行できる機能の制限

ユーザ権限ごとに操作画面に表示される項目やボタンを制限して，権限に応じた操作画面に設定できます。
ユーザ権限ごとに，操作画面から実行できる機能を制限する方法については，「9.3　ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）」を参照してください。
また，デフォルトでは非表示になっているボタンを表示して，業務フィルターでの設定と併せて利用することもできます。デフォルトでは非表示になっているボタンの種類については，「9.2.4　ボタンやタブなどの名称，表示を変更する」を参照してください。

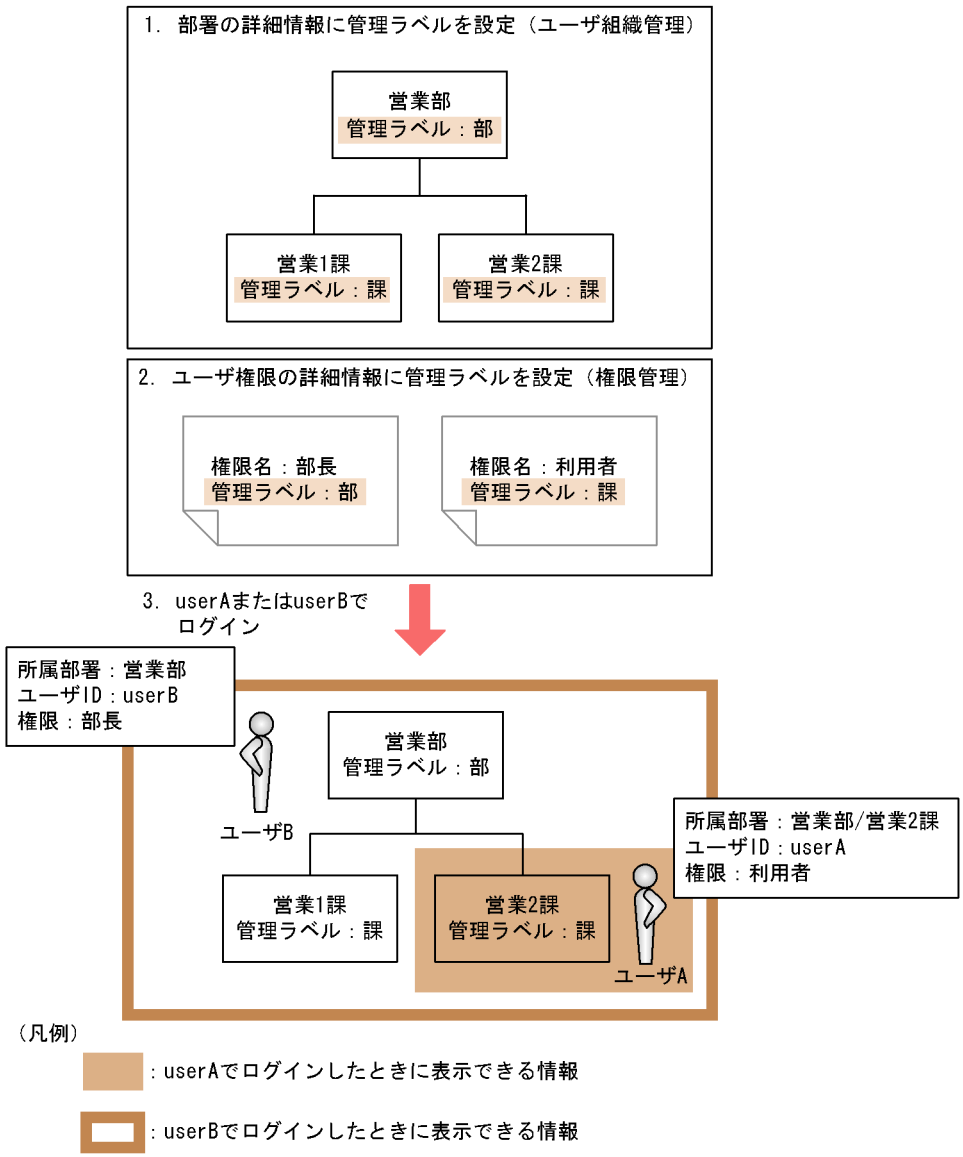
● 利用できるメニューの制限

ユーザ権限ごとに利用できる機能を制限して，権限に応じたメニューを表示できます。
ユーザ権限ごとに利用できるメニューを設定する方法については，「9.4　実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）」を参照してください。

3.1.3　組織階層単位でのアクセス制限の設定

組織階層単位でアクセス制限をするには，制限したい階層の部署，およびユーザ権限に同じ名称の「管理ラベル」を設定する必要があります。権限が「利用者」，「部長」の各ユーザに，アクセス制限を設定する場合を例に，設定の流れを次に示します。（）内には，設定時に選択する業務メニューを示します。

図 3-2　アクセス制限を設定する流れ



1. **アクセスを制限したい階層の部署の詳細情報に，管理ラベルを設定する（ユーザ組織管理）。**

営業 1 課および営業 2 課に管理ラベル「課」を，営業部に管理ラベル「部」を設定します。管理ラベルを設定する手順の詳細についてはマニュアル「運用ガイド」の「4.1.1　部署を追加する」を参照してください。

2. **ユーザ権限の詳細情報に管理ラベルを設定する（権限管理）。**
   部署に設定した管理ラベル（「課」および「部」）を，アクセス制限したいユーザ権限（「利用者」および「部長」）に設定します。ユーザ権限を設定する手順の詳細については，「9.1.1　新しくユーザ権限を追加する」を参照してください。

3. **アクセス制限を設定したユーザ権限でログインする。**
   「利用者」の権限を持つユーザ A の場合，自分の所属する営業 2 課の情報だけが表示されます。また，「部長」の権限を持つユーザ B の場合，営業部以下の情報が表示されます。

なお，手順 1. および手順 2. は順不同です。

デフォルトでは，「本社」と管理者に管理ラベル「会社」，各部と利用者に管理ラベル「部」が設定してあります。これによって，利用者のユーザ権限を持つユーザは，自分の所属する部以下の資産情報以外は，参照したり編集したりできません。

注意事項

管理ラベルを変更するときは，必ずユーザ権限に設定した管理ラベルの値も変更するようにしてください。

3.2 資産情報の取得

資産管理データベースで管理する資産情報の取得方法には，主に JP1/NETM/DM から取得する方法と，CSV ファイルから取得する方法の 2 種類があります。

大規模なシステムで，さまざまな情報を常に最新の状態で管理するには，JP1/NETM/DM から取得することをお勧めします。ただし，初期導入時に既存のデータがある場合や，JP1/NETM/DM では収集していない情報がある場合などは，CSV ファイルから取得することもできます。初期導入，日々の運用など，使用する時期や目的に合わせて，資産情報の取得方法を選択してください。

ここでは，JP1/NETM/DM から取得する場合，CSV ファイルから取得する場合，それぞれの取得方法について説明します。また，JP1/NETM/DM から取得する場合のインベントリ情報の引き当て方法の設定，およびソフトウェア名の割り当て方法の設定についても説明します。

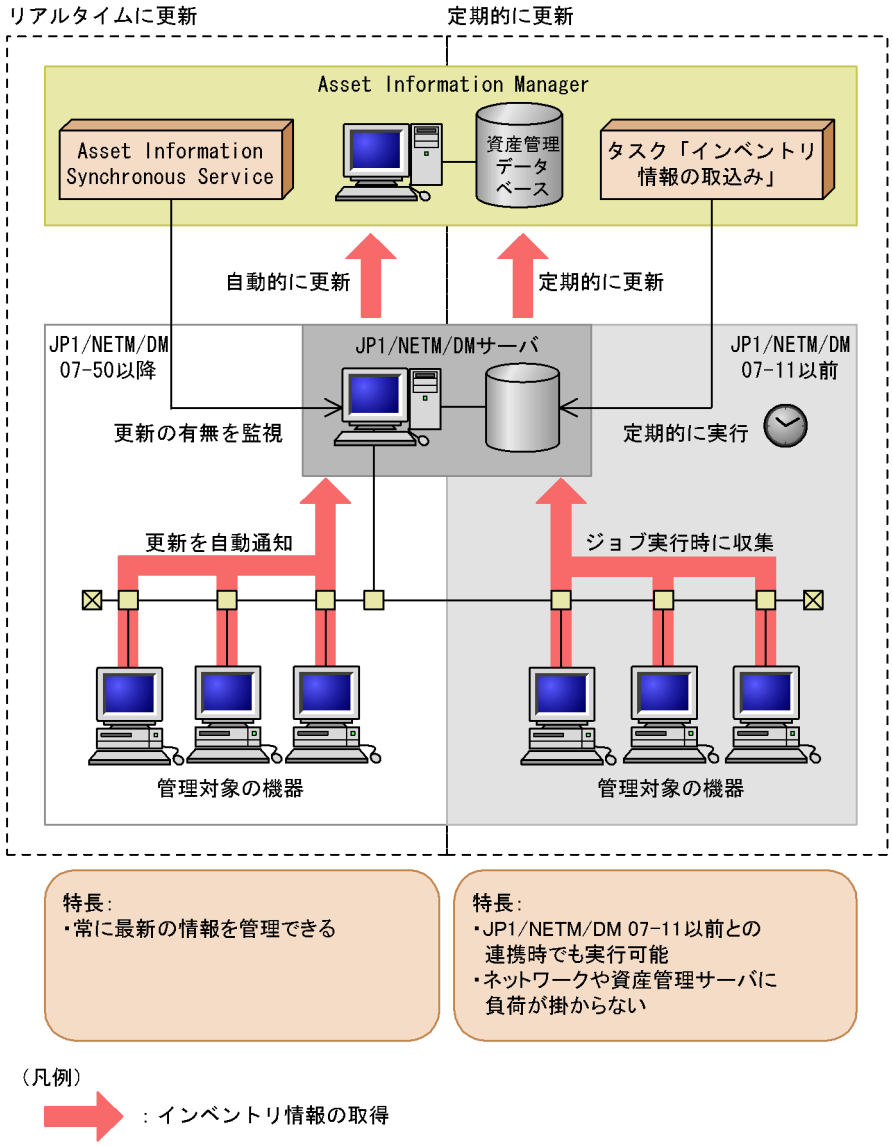
3.2.1 JP1/NETM/DM から取得する場合

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する方法には，次の 2 種類があります。

- JP1/NETM/DM でのインベントリ情報の更新をリアルタイムに取得する
- Windows のタスクスケジューラのタスクで定期的に取得する

それぞれの方法で，JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報を，資産管理データベースに登録する仕組みを次の図に示します。

図 3-3　インベントリ情報を資産管理データベースに登録する仕組み



連携する JP1/NETM/DM のバージョンや，資産管理業務の運用形態に合わせて，どちらか選択してください。各取得方法の詳細を次に示します。

1. **JP1/NETM/DM でのインベントリ情報の更新をリアルタイムに取得する**

   この方法でインベントリ情報を取得すると，管理対象の機器の情報が変更されたら，その内容をリアルタイムに資産管理データベースに反映するため，常に最新の情報を管理できます。

   この方法でインベントリ情報を取得するために必要な条件を次に示します。

   - **JP1/NETM/DM Manager 07-50 以降と連携している**

インベントリ情報が更新されたかどうかは，Asset Information Manager のサービス「Asset Information Synchronous Service」で監視します。更新があった場合に，インベントリ情報を取得します。

- **管理対象の機器に JP1/NETM/DM Client 07-50 以降または JP1/NETM/DM Client - Base がインストールされている**
  インベントリ情報に変更があったときに，JP1/NETM/DM Client または JP1/NETM/DM Client - Base の設定によって，JP1/NETM/DM Manager に自動的に通知できます。
- **JP1/NETM/DM Manager のセットアップで，「削除履歴を保管する」の設定をオンにしている**
  廃棄された PC など，削除されたインベントリ情報の履歴を取得して，資産の機器状態を変更できます。「削除履歴を保管する」の設定方法の詳細については，マニュアル「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

2. **Windows のタスクスケジューラのタスクで定期的に更新を反映する**
   この方法でインベントリ情報を取得すると，タスク「インベントリ情報の取込み」を実行するタイミングを調整することで，ネットワークや資産管理サーバに負荷を掛けないで運用できます。
   また，07-50 より前のバージョンの JP1/NETM/DM と連携する場合，この方法でないと取得できません。

収集できるインベントリ情報の種類は，連携する JP1/NETM/DM のバージョンによって異なります。JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得できる情報の詳細については，「12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報」を参照してください。

インベントリ情報に合わせた資産情報の削除

インベントリ情報を登録することで，資産管理データベースの資産情報が削除されることはありません。ただし，ネットワーク情報およびインストールソフトウェア情報の場合は，新しく取得した JP1/NETM/DM のインベントリ情報に含まれていなかった情報を，ネットワーク上から削除されたか，または機器からアンインストールされたと見なして削除できます。削除するかどうかは機器ごとに［機器詳細］ダイアログの「インベントリ取り込み制御」で設定します。「インベントリ取り込み制御」の設定の詳細については，マニュアル「運用ガイド」の「2.8.2　ネットワーク情報を参照および変更する（「ネットワーク」タブ）」または「2.8.3　インストールされているソフトウェアを参照および変更する（「ソフトウェア」タブ）」を参照してください。

3.2.2　CSV ファイルから取得する場合

Asset Information Manager では，CSV ファイルから資産管理データベースへ，資産情報を一括して取り込めます。これを**インポート**といいます。

インポートには，次の三つの方法があります。

● 業務メニュー「インポート」からのインポート

● jamCsvImport.bat でのインポート

● jamimport コマンドでのインポート

それぞれのインポート方法の特長について説明します。インポートする情報に応じて，効率の良い方法を選択してください。

1. **業務メニュー「インポート」からのインポート**
   登録したい資産情報の CSV ファイルに対して，インポートの条件を作成し，CSV ファイルの資産情報を一括で更新します。条件には，Asset Information Manager の管理項目に，CSV ファイルのどの項目を引き当てるかを設定します。
   この方法では，Asset Information Manager にログインできる環境であれば，どこからでもインポートできます。
   また，CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係を意識することなく資産管理データベースの情報を更新できます。
   さらに，ユーザレポート，業務フィルターの書式，インベントリ情報の引き当て設定，およびインポート / エクスポートの条件を登録することもできます。
   ただし，複数の CSV ファイルをまとめてインポートしたり，登録と削除を同時に実行したりすることはできません。
2. **jamCsvImport.bat でのインポート**
   業務メニュー「インポート」からのインポートと同様の処理を，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく，「機器に関する情報」などのカテゴリで資産情報を更新できるので，運用を自動化するのに便利です。ただし，jamimport コマンドに比べると，処理に時間が掛かります。
   この方法では，インポートの条件の変更および保存はできません。
3. **jamimport コマンドでのインポート**
   更新したい資産情報の CSV ファイルをクラスごとに作成し，CSV ファイルの内容を取捨選択することなく一括してインポートします。
   この方法では，すべてのオブジェクトクラスをインポートでき，複数の CSV ファイルも一度にインポートできます。また，CSV ファイルの各行に対して，登録，変更，削除の指定ができます。
   クラス単位に更新できるため，バックアップ用にエクスポートしたデータの復元や，ピンポイントのデータの更新に利用できます。ただし，データファイルの作成方法に従って CSV ファイルを作成し，関連するクラスがある場合，共通するプロパティの値を同じにして同時にインポートする必要があります。

各インポート方法の手順については，「7.1　CSV データの登録（インポート）」を参照してください。また，インポートできる情報（クラス）の詳細は，「13.1　クラス構成」を参照してください。

3.2.3 インベントリ情報の引き当て方法の設定

JP1/NETM/DM では，ネットワークにある PC やプリンタなどの機器の情報や，PC にインストールされているソフトウェアの情報などを収集できます。この収集した情報（**インベントリ情報**）を資産管理データベースに取り込んで管理するためには，JP1/NETM/DM でのクライアントと，Asset Information Manager での管理対象を一致させて，同一の機器の情報が別の機器の情報として登録されてしまうなどの，誤登録を避ける必要があります。

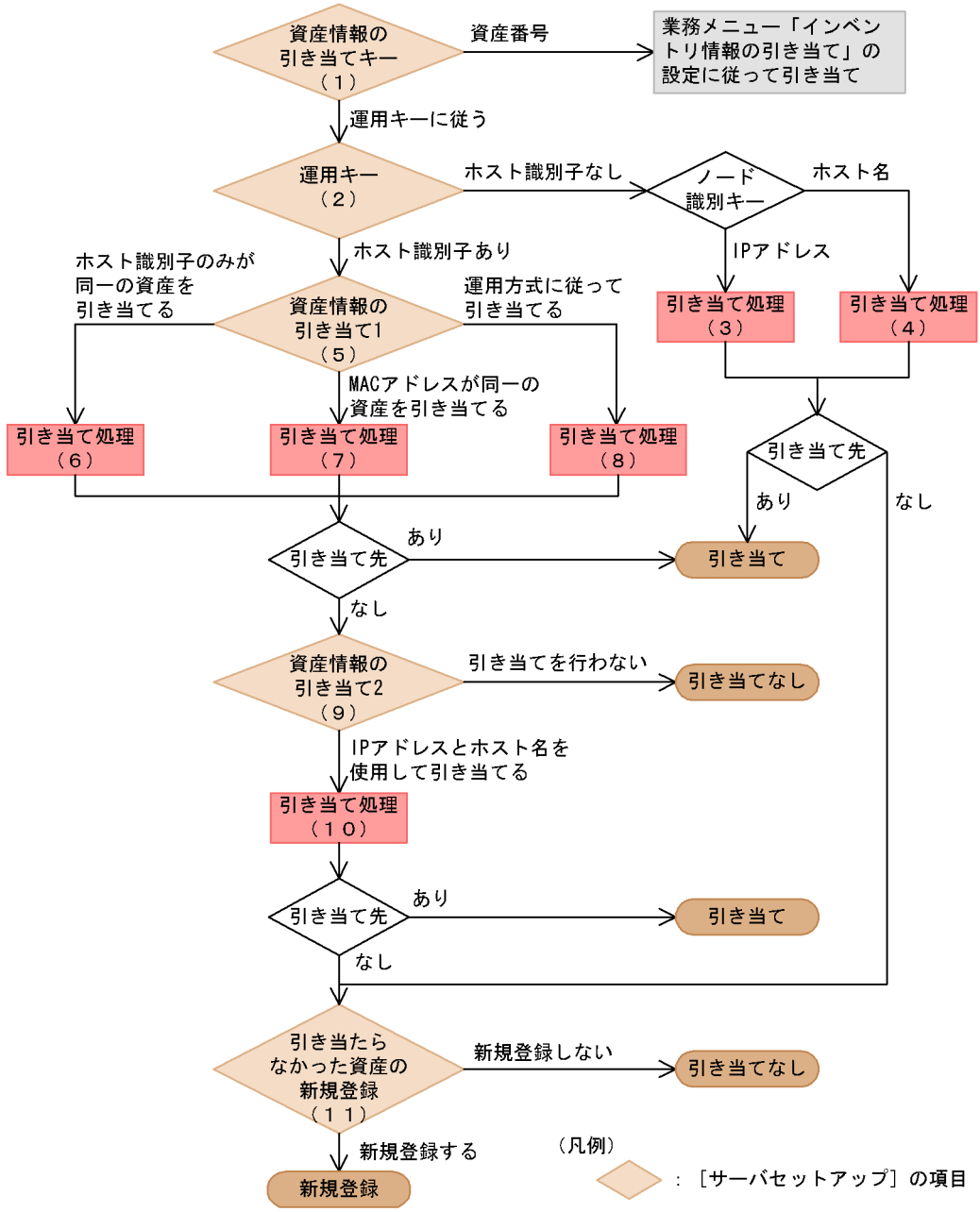
JP1/NETM/DM で収集した情報を，正確に資産管理データベースの資産情報に引き当てるために，インベントリ情報および資産情報のキーとなる情報を設定します。

インベントリ情報の資産情報への引き当て方法の設定は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。設定する項目については，「5.3.7　JP1/NETM/DM 連携の設定」を参照してください。

ここでは，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定に従って，どのようにインベントリ情報が登録されるかについて，詳しく説明します。

［サーバセットアップ］ダイアログでの設定と引き当ての流れを次の図に示します。

図 3-4　［サーバセットアップ］ダイアログでの設定と引き当ての流れ



図中の (1) ～ (11) の数字は，これ以降の説明の見出しと対応しています。

注意事項

- ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定「ダイヤルアップ接続の MAC アドレス」で，「引き当て情報にしない」を指定している場合，ダイヤルアップ接続の機

器は MAC アドレスで引き当てられません。
- 引き当て先となる資産情報の機器種別が「システム装置」（「機器種別」のコードが 100 ～ 199）ではない場合，資産が新規に登録されます。

（1）「資産情報の引き当てキー」の種類

JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報の資産情報への引き当て方法は，JP1/NETM/DM の運用キーを使用する方法と，業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」で設定した資産番号への引き当て項目を使用する方法があります。

● 業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」で設定した資産番号を使用する場合
業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」での，資産番号への引き当ての設定に従います。

● 運用キーを使用する場合
ユーザインベントリ情報で資産番号を管理していない場合は，JP1/NETM/DM での運用キーを使用して資産情報に引き当てます。この場合は JP1/NETM/DM での運用キーによって引き当て方法が異なります。

（2）運用キーを使用する場合

ホスト識別子とは，JP1/NETM/DM システム内で一意な値で，各機器を識別するキー情報です。ホスト識別子は JP1/NETM/DM Client のインストール時に生成され，JP1/NETM/DM サーバに自動的に通知されます。したがって，ホスト識別子は，ノード識別キーに比べて，ネットワーク構成の変化による影響を受けません。

JP1/NETM/DM の設定でホスト識別子ありの運用にしている場合は，このホスト識別子を使用して引き当てます。「ホスト識別子あり」を選択していない場合は，ノード識別キーを使用して引き当てます。

ノード識別キーには，ホスト名または IP アドレスが使用できます。どちらで管理するかは JP1/NETM/DM のセットアップ時に選択します。両方を混在して使用することはできません。

（3）引き当て処理（ノード識別キーが「IP アドレス運用」の場合）

次の順序で引き当てられます。

1. MAC アドレスおよび IP アドレスが同じ資産情報が引き当てられます。
2. MAC アドレスが同じ資産情報が引き当てられます。
3. IP アドレスが同じ資産情報が引き当てられます。

登録，更新時には，資産情報の「引き当てキー」に IP アドレスが設定されます。

（4）引き当て処理（ノード識別キーが「ホスト名運用」の場合）

次の順序で引き当てられます。

1. MAC アドレスおよびホスト名が同じ資産情報が引き当てられます。
2. MAC アドレスが同じ資産情報が引き当てられます。
3. ホスト名が同じ資産情報が引き当てられます。

登録，更新時には，資産情報の「引き当てキー」にホスト名が設定されます。

(5) ホスト識別子で引き当てられなかった場合

ホスト識別子で引き当てられなかった場合は，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定「資産情報の引き当て 1」で指定します。

なお，登録，更新時には，資産情報の「引き当てキー」にホスト識別子が設定されます。

(6) 引き当て処理（「ホスト識別子のみが同一の資産を引き当てる」を指定した場合）

ホスト識別子と「引き当てキー」の値が同じ資産情報が引き当てられます。

(7) 引き当て処理（「MAC アドレスが同一の資産を引き当てる」を指定した場合）

次の順序で引き当てられます。

1. ホスト識別子と「引き当てキー」の値が同じ資産情報が引き当てられます。
2. 該当する資産情報がない場合，MAC アドレスが同じ資産情報が引き当てられます。

(8) 引き当て処理（「運用方式に従って引き当てる」を指定した場合）

次の順序で引き当てられます。

1. ホスト識別子と「引き当てキー」の値が同じ資産情報が引き当てられます。
2. MAC アドレス，IP アドレス，ホスト名が同じ資産情報が引き当てられます。
3. ノード識別子が「ホスト名運用」の場合，MAC アドレスとホスト名が同一の資産が引き当てられます。
4. ノード識別子が「IP アドレス運用」の場合，MAC アドレスと IP アドレスが同一の資産が引き当てられます。
5. 3. と 4. のどちらの場合でも，該当する資産情報がない場合は，MAC アドレスが同じ資産情報に引き当てられます。

(9)「資産情報の引き当て 1」で指定した方法で引き当てられなかった場合

「資産情報の引き当て 1」で指定した方法で引き当てられなかった場合（ホスト識別子または MAC アドレスが同じ資産がなかった場合）は，「資産情報の引き当て 2」での指定に従います。ホスト識別子で引き当てられなかった場合とは，リプレースで機器が異なる場合，または OS を再インストールした場合が該当します。

(10) 引き当て処理（「IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる」を指定した場合）

次の順序で引き当てられます。

1. IP アドレスとホスト名が同じ資産情報が引き当てられます。
2. ノード識別子が「ホスト名運用」の場合，ホスト名が同一の資産が引き当てられます。
   ノード識別子が「IP アドレス運用」の場合，IP アドレスが同一の資産が引き当てられます。

(11) 引き当たらなかった資産の新規登録

該当する資産情報がない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定「引き当たらなかった資産の新規登録」の指定に従って，登録されるかどうかが決まります。「新規登録する」を指定した場合は，新規に登録されます。「新規登録しない」を指定した場合は，登録されません。

(12) 運用キー別の資産情報の引き当て方法

［サーバセットアップ］ダイアログでの設定「資産情報の引き当てキー」で，「運用キーに従う」を指定した場合に，引き当てキーとなる情報が更新されたときの引き当て方法を次の表に示します。

表 3-1　JP1/NETM/DM の運用キー別の引き当て方法

インベントリ情報が 更新される状況 （更新される情報）	ホスト識別子あり	ホスト識別子なし	
		ホスト名	IP アドレス
IP アドレスの変更 （IP アドレス）	ホスト識別子で引き当てる。	MAC アドレスとホスト名で引き当てる。	MAC アドレスで引き当てる。
ホスト名の変更 （ホスト名）	ホスト識別子で引き当てる。	MAC アドレスで引き当てる。	MAC アドレスと IP アドレスで引き当てる。
OS の再インストール （ホスト識別子）	次のどれかで引き当てる。 • MAC アドレス • MAC アドレス，ホスト名および IP アドレス • MAC アドレスおよびホスト名 • MAC アドレスおよび IP アドレス	MAC アドレスとホスト名で引き当てる。	MAC アドレスと IP アドレスで引き当てる。

インベントリ情報が更新される状況（更新される情報）	ホスト識別子あり	ホスト識別子なし	
		ホスト名	IP アドレス
リプレース（ホスト識別子，MAC アドレス）	次のどれかで引き当てる。※ • ホスト名および IP アドレス • ホスト名 • IP アドレス	ホスト名で引き当てる。	IP アドレスで引き当てる。

注※

「資産情報の引き当て 2」で「IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる」を選択している場合の引き当て方法です。

リプレースを例に，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法を説明します。なお，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定「資産情報の引き当てキー」で，「運用キーに従う」を指定して，「運用キー」で「ホスト識別子あり」を指定していることを前提とします。

リプレースすると，ホスト識別子と MAC アドレスが異なるため，「資産情報の引き当て 1」では引き当てられません。そのため，「資産情報の引き当て 2」の設定に従って引き当てられます。

リプレースの際は，リプレース後の機器を新規機器とするか，リプレース前の資産と同一の機器とするかによって，次のように指定します。

リプレースした機器を新規資産として登録するには

- 「資産情報の引き当て 2」で「引き当てを行わない」を指定する。
- 「引き当たらなかった資産の新規登録」で「新規登録する」を指定する。

リプレースした機器を前の機器と同じ資産として引き当てるには

- 「資産情報の引き当て 2」で「IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる」を指定する。
  リプレース前の機器とホスト名または IP アドレスが一致した場合は，リプレース前の機器の情報と引き当てられます。

注意事項

- 該当する資産が複数存在する場合は，登録日が最新の資産の情報が更新されます。
- PC カードなど移動可能なネットワークカードを複数の機器で共有する場合は，JP1/NETM/DM で「ホスト識別子あり」の運用にしてください。
- JP1/NETM/DM で「ホスト識別子あり」の運用にしている場合，機器の OS をインストールし直すと，「ホスト識別子」が新たに採番されます。そのため，「引き当てキー」による引き当てができなくなります。
  この場合，「資産情報の引き当て 1」および「資産情報の引き当て 2」での設定に従って引き当てられます。

- 引き当てには，ハードウェア資産情報の「MAC アドレス」，「IP アドレス」および「ホスト名」の値が使用されます。
- 引き当てられた資産情報の状態が「廃棄」（「機器状態」のコードが 500 ～ 699）の場合，情報は更新されません。

3.2.4 ソフトウェア名の割り当て方法の設定

ソフトウェアのライセンスを管理するには，各機器にインストールされているソフトウェアの名称（**インストールソフトウェア名**）と，ライセンスを管理しているソフトウェアの名称（**ソフトウェア名**）を対応づけて管理する必要があります。

JP1/NETM/DM からインストールソフトウェア情報を取得する設定にしている場合，インストールソフトウェア名を自動的にソフトウェア名に割り当てて，対応づけることができます。

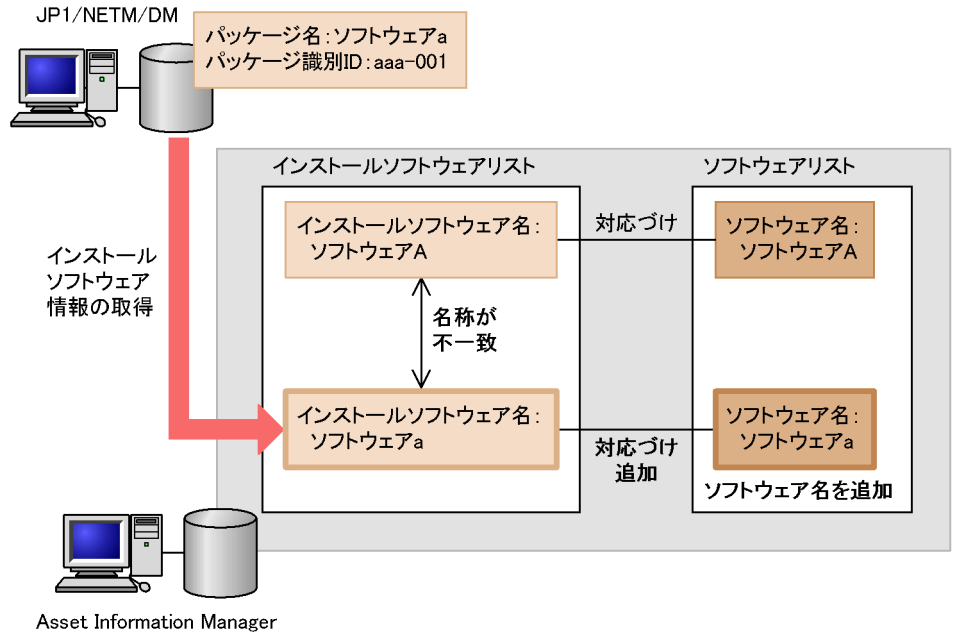
注意事項

インストールソフトウェア名をソフトウェア名に自動的に割り当てる場合，JP1/NETM/DM で日立プログラムプロダクトのソフトウェア情報を重複して取得していると，一つの日立プログラムプロダクトが二つのソフトウェアとして登録されることがあります。そのため，ライセンスの集計結果が重複する可能性があります。ライセンスの集計結果が重複する場合の対処については，「12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報」を参照してください。

インストールソフトウェア名をソフトウェア名に自動的に割り当てる場合，JP1/NETM/DM からパッケージ識別 ID を取得するかどうか，およびソフトウェア名を自動的に登録するかどうかによって，割り当て方法が異なります。

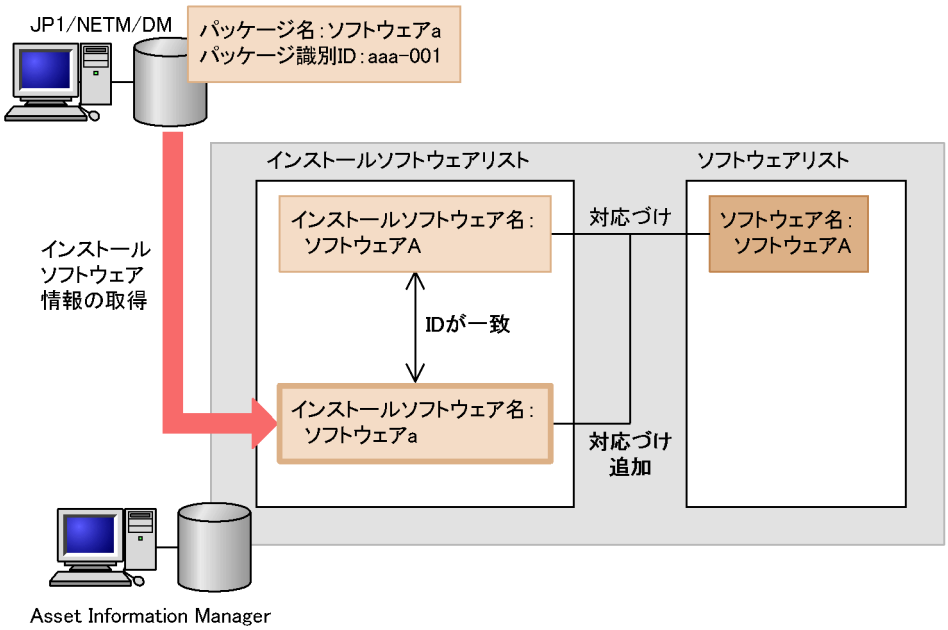
パッケージ識別 ID を取得する場合と取得しない場合の違いを次の図に示します。

図 3-5　パッケージ識別 ID を取得しない場合の割り当て例



パッケージ識別 ID を取得しない場合は，インストールソフトウェア名で同一のソフトウェアかどうかが判断されます。この例では，パッケージ名と同じインストールソフトウェア名は登録されていなかったので，新規にインストールソフトウェア名として「ソフトウェア a」が登録されます。また，ソフトウェア名を自動的に登録する設定にしている場合，同じ名称のソフトウェア名が登録されて，対応づけられます。

図 3-6 パッケージ識別 ID を取得する場合の割り当て例



パッケージ識別 ID を取得する場合は，パッケージ識別 ID で同一のソフトウェアかどうかが判断されます。この例では，パッケージ名は異なりますが同じパッケージ識別 ID のインストールソフトウェア名が登録されているので，新規にインストールソフトウェア名として「ソフトウェア a」を登録したあと，同じソフトウェア名に対応づけが追加されます。

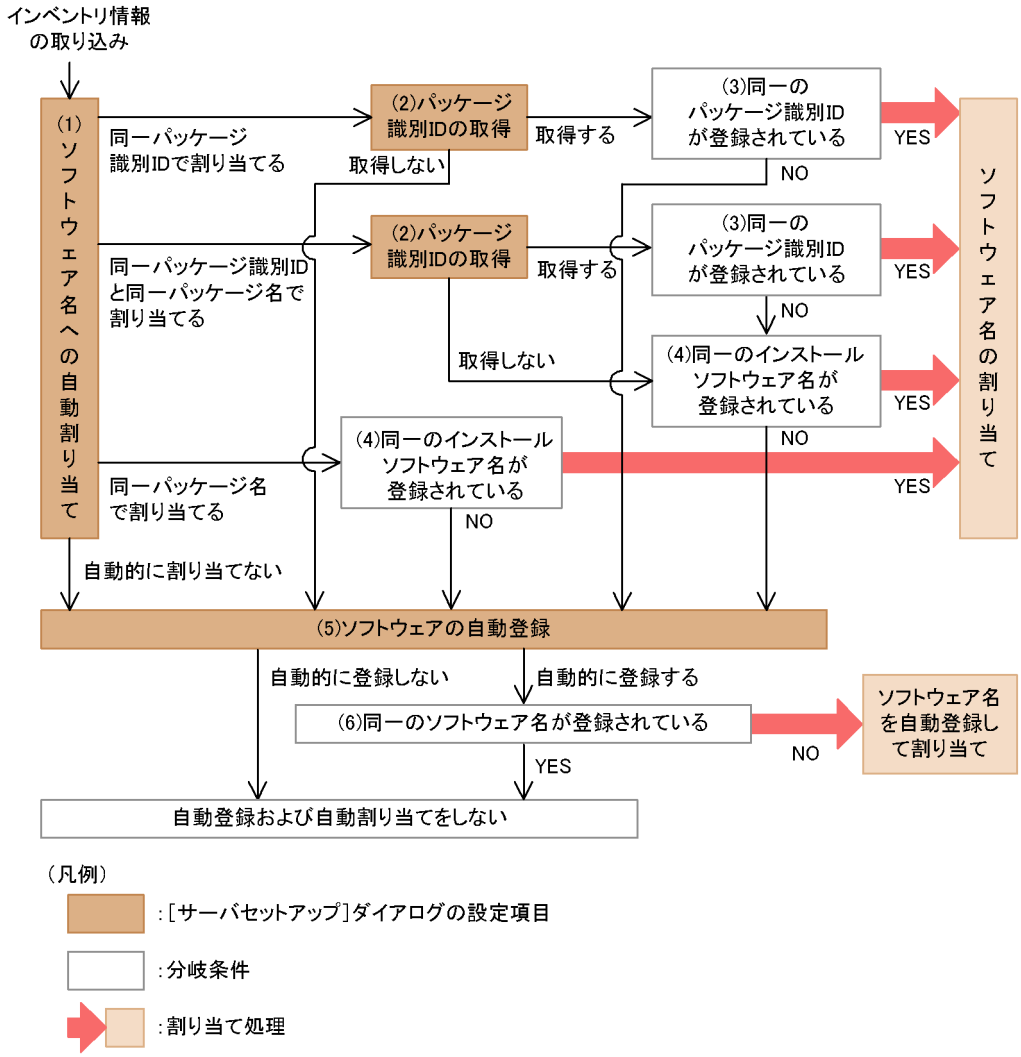
パッケージ識別 ID で同一のソフトウェアかどうかを判断することで，バージョンの違いによって，同一のソフトウェアの名称が異なるインストールソフトウェア名で取得されてしまった場合でも，正しくライセンスを管理できます。

このようなインストールソフトウェア名を自動的にソフトウェア名に割り当てる方法は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。設定する項目については，「5.3.7 JP1/NETM/DM 連携の設定」を参照してください。

次に，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定に従って，どのようにインストールソフトウェア名がソフトウェア名に割り当てられるかについて，詳しく説明します。

インベントリ情報の取得時に，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定に従って，取得したパッケージ名がソフトウェア名に割り当てられる処理の流れを次の図に示します。

図 3-7　パッケージ名がソフトウェア名に割り当てられる処理の流れ



図中の (1) ～ (6) の数字は，これ以降の説明の見出しと対応しています。

(1) ソフトウェア名への自動割り当て

JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取得する際に，すでに同一のソフトウェアがインストールソフトウェアリストに登録されていたら，同じソフトウェア名への割り当てを追加するかどうかを選択します。

「ソフトウェア名への自動割り当て」で選択できる値は次の 4 種類です。

- 自動的に割り当てない
- 同一パッケージ識別 ID で割り当てる
- 同一パッケージ識別 ID と同一パッケージ名で割り当てる

パッケージ識別 ID とパッケージ名で割り当てる場合は，パッケージ識別 ID が優先されます。

- 同一パッケージ名で割り当てる

パッケージ名とは，JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報から取得できる情報のことで，資産管理データベースに取り込む際にインストールソフトウェアリストのインストールソフトウェア名に設定されます。パッケージ名は，バージョンによって同一のソフトウェアでも異なる名称で取得されてしまうことがあります。そのため，異なるバージョンのソフトウェアが混在する環境では，パッケージ識別 ID を使用して割り当てることをお勧めします。

(2) パッケージ識別 ID の取得

「同一パッケージ識別 ID で割り当てる」または「同一パッケージ識別 ID と同一パッケージ名で割り当てる」を選択した場合は，［サーバセットアップ］ダイアログで，「パッケージ識別 ID の取得」に「取得する」を設定している必要があります。

(3) 同一のパッケージ識別 ID のインストールソフトウェアリストが登録されている

［サーバセットアップ］ダイアログで，「パッケージ識別 ID の取得」に「取得する」を設定すると，パッケージ元属性（PC または UNIX）も併せて取得されます。このパッケージ元属性とパッケージ識別 ID が一致するインストールソフトウェアリストが検索されます。

一致するインストールソフトウェアリストが登録されていた場合，同じソフトウェア名に割り当てられます。一致するインストールソフトウェアリストがソフトウェア名に割り当てられていなかった場合は，「ソフトウェアの自動登録」の設定に従います。

注意事項

パッケージ元属性とパッケージ識別 ID の一致するインストールソフトウェアリストが，資産管理データベースに複数登録されていて，複数のソフトウェア名に割り当てられている場合は，割り当ては実行されません。ログに，既存の割当先が複数のため割り当てを実行しなかったことが出力されます。

(4) 同一インストールソフトウェア名が登録されている

パッケージ名と同じインストールソフトウェア名が検索されます。一致するインストールソフトウェア名が資産管理データベースに登録されていた場合，同じソフトウェア名に割り当てられます。一致するインストールソフトウェア名がソフトウェア名に割り当てられていなかった場合は，「ソフトウェアの自動登録」の設定に従います。

注意事項

パッケージ名と同じインストールソフトウェア名が，資産管理データベースに複数登録されていて，複数のソフトウェア名に割り当てられている場合は，割り当ては実行されません。ログに，既存の割当先が複数のため割り当てを実行しなかったこ

とが出力されます。

(5) ソフトウェアの自動登録

JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取得する際に，インストールソフトウェア名と同じ名称でソフトウェア名を登録して，対応づけるかどうかを選択します。

「自動的に登録しない」を選択すると，インストールソフトウェア名だけが登録されて，ソフトウェア名の登録および割り当ては実行されません。取得したインベントリ情報に，資産管理データベースに登録されていないインストールソフトウェア名が含まれていた場合は，業務メニュー「ソフトウェア名称管理」でソフトウェア名を割り当ててください。

「自動的に登録する」を指定すると，取得したパッケージ名と同じインストールソフトウェア名およびソフトウェア名が登録されて，自動的に割り当てられます。また，ソフトウェア種別は「商用」で登録されます。ソフトウェア種別を変更する手順については，マニュアル「運用ガイド」の「4.6.4　ソフトウェア名および属性を変更する」を参照してください。

(6) 同一のソフトウェア名が登録されている

パッケージ名と同じソフトウェア名が，資産管理データベースに登録されていなかったら，パッケージ名と同じソフトウェア名を登録して，インストールソフトウェア名を割り当てます。

「ソフトウェア名への自動割り当て」で「同一パッケージ識別 ID で割り当てる」を選択した場合は，次の条件のどれかに当てはまるときだけ実行されます。

- 同一のパッケージ識別 ID のインストールソフトウェア名が登録されていない。
- 同一のパッケージ識別 ID のインストールソフトウェア名が登録されているが，ソフトウェア名と割り当てられていない。
- 同一のパッケージ識別 ID のインストールソフトウェア名が複数登録されていて，それぞれが別のソフトウェア名に割り当てられている。

注意事項

パッケージ名と同じソフトウェア名で，ソフトウェア種別が「商用」のものが，すでに資産管理データベースに登録されていたら，名称の最後に「_X」（X は 1 ～ 100 の数字）を付けて登録して，インストールソフトウェア名を割り当てます。数字は，1 から順に 100 まで採番されます。100 まで登録されている場合は，割り当ては実行されないで，該当のソフトウェア名はすでに登録されているため登録しなかったことがログに出力されます。

(7) 07-50 以前の Asset Information Manager からバージョンアップした場合

「ソフトウェア名への自動割り当て」および「ソフトウェアの自動登録」は，すでに資産管理データベースに登録されている情報に対しては実行されません。そのため，07-50 以

前のバージョンの Asset Information Manager からバージョンアップした場合に，この機能を利用するには，あらかじめソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェアを削除しておきます。

ソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェアは，専用のスクリプトを使用して一括で削除できます。スクリプトを実行するには，-f オプションに InstallSoftDelete.txt を指定して，Administrators 権限を持つユーザで jamscript（アクセス定義ファイルの実行）コマンドを実行します。InstallSoftDelete.txt の格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥scriptbatch

jamscript コマンドの詳細については，HTML ヘルプ「アクセス定義ファイル作成ガイド」（assetscr.chm）を参照してください。

3.3　資産管理者へのメール通知

Asset Information Manager では，Windows のタスクスケジューラの機能を利用して，期限切れ契約情報，ライセンス超過，許可外インストール，WSUS の更新プログラムおよび機器の情報の変更を検知したときに，資産管理者にメールで通知できます。また，案件が次の作業者に送付されたときに，次の作業者にメールで通知できます。

この節では，メール通知を利用するために必要な環境と，通知される内容を説明します。メール通知を利用するかどうか，および利用する場合の業務を検討してください。

メール通知を利用するには，Asset Information Manager と Microsoft Internet Information Services での設定が必要です。

Asset Information Manager **での設定**

- **メールによる通知**
  ［サーバセットアップ］ダイアログで，「メール通知情報」の「メールによる通知」を「通知する」に設定します。
- **メールの送信先アドレス**
  ［サーバセットアップ］ダイアログで，「メール通知情報」の「メールの送信先アドレス」に，メールを送信する資産管理者の e-mail アドレスを設定します。

［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，「5.3.5　メール通知情報の設定」を参照してください。

Microsoft Internet Information Services **での設定**

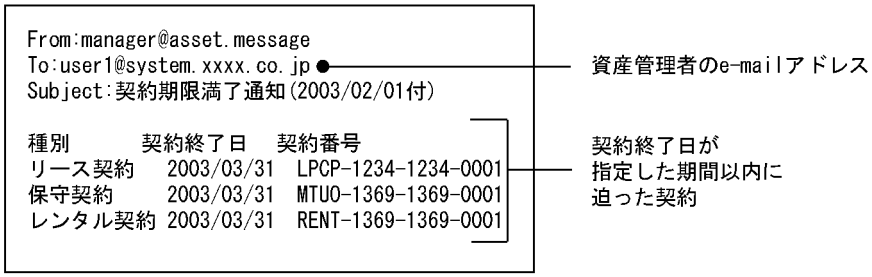
- SMTP **仮想サーバの実行**
  SMTP 仮想サーバが実行していることを確認します。
  SMTP 仮想サーバの設定方法については，「5.10.1　SMTP 仮想サーバの実行」を参照してください。
- **リモートドメインへの受信メールの中継**
  SMTP 仮想サーバにリモートドメインを追加して，そのリモートドメインへ受信メールを中継する設定にします。
  リモートドメインへ受信メールを中継する設定方法については，「5.10.2　リモートドメインの追加」を参照してください。

3.3.1　期限切れ契約情報通知

タスク「期限切れ契約情報通知」を利用して，契約終了日が迫った保守契約，リース契約およびレンタル契約を定期的にメールで通知できます。

通知されるメールには，次の図に示すように，契約種別，契約終了日および契約番号が一覧で記載されています。

図 3-8 契約終了日の通知メール



また，契約終了日が迫った契約に該当する資産の一覧が，メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。リース契約または保守契約のどちらかに，契約終了日が迫った契約がない場合は，その契約に該当する資産の一覧は添付されません。

添付ファイルのファイル名とファイルの内容を次に示します。

ファイル名	内容
jamexpiration_A.csv	契約終了日が迫ったリース契約に該当する資産の一覧
jamexpiration_B.csv	契約終了日が迫った保守契約に該当する資産の一覧
jamexpiration_C.csv	契約終了日が迫ったレンタル契約に該当する資産の一覧

契約終了日の迫ったリース契約の通知メールの添付ファイルを例に，添付ファイルの内容を次の図に示します。

図 3-9 リース契約終了日の通知メールの添付ファイル

```
"表示文字列","契約終了日","契約番号","資産番号","部署名","利用者名","設置場所"
"リース契約","2003/07/01","00000006","0000000018","営業部","営業太郎","本社/4F"
"リース契約","2003/07/01","00000236","0000000020","営業部","営業次郎","本社/5F"
```

タスク「期限切れ契約情報通知」のデフォルトは，毎月 1 日の午前 6 時 00 分にタスクを実行して，契約期限が 2 か月以内に迫った契約をメールで通知するように設定されています。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については，「5.9.2 タスクの設定手順」を参照してください。

注意事項

タスクは 1 か月に一度実行されるため，1 か月未満の短い契約の場合，事前に通知されないことがあります。例えば，契約期間が 3 月 20 日～ 3 月 30 日の契約は，3 月 1 日の時点で契約が登録されていない場合，通知されません。

そのため，このような短期間の契約が想定される場合は，メールで通知するスケジュールを追加してください。スケジュールの追加手順については，「5.9.2(2) タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

3.3.2　ライセンス超過通知

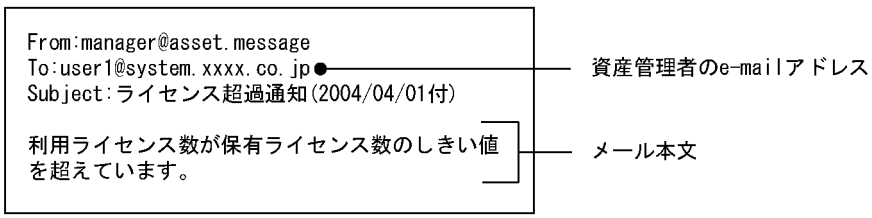
タスク「ライセンス超過通知」を利用して，ライセンスの保有数と利用数を定期的に集計できます。この集計結果を基に，ライセンス管理の各業務メニューでライセンスの利用状況を管理できます。

集計の結果，保有数を超過して使用しているライセンスがあれば，一覧をメールで通知できます。メールでの通知が不要な場合は，タスク「ライセンスの集計」を使用してください。「ライセンス超過通知」と「ライセンスの集計」は，集計される内容は同じです。メールでの通知が必要な場合はタスク「ライセンス超過通知」，不要な場合は「ライセンスの集計」を使用してください。なお，このタスクは実行完了までに時間が掛かるため，「ライセンスの集計」との併用はお勧めしません。

このタスクは，Asset Information Manager をインストールすると作成されます。

通知されるメールには，次の図に示すように，保有数のしきい値を超過しているライセンスがあることを通知する説明が記載されています。

図 3-10　保有数を超過しているライセンスの通知メール



また，保有数を超過して使用しているライセンスの一覧が，メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。

添付ファイルの内容を次の図に示します。

図 3-11　保有数を超過しているライセンスの通知メールの添付ファイル

```
"部署","ソフトウェア名", "保有数", "利用数", "ライセンス区分", "差分"
"資産管理部","SoftwareA", "100", "105", "", "-5"
"総務部","SoftwareA", "50", "51", "マシン許諾", "-1"
"総務部","SoftwareA", "20", "22", "ユーザ許諾", "-2"
```

タスク「ライセンス超過通知」のデフォルトは，毎週月曜日の午前 5 時 30 分にタスクを実行するように設定されています。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については，「5.9.2(2)　タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

注意事項

- このタスクで通知されるのは，資産として登録しているライセンスだけです。登録していないライセンスが利用されていても，通知の対象になりません。
- このタスクでは，タスク実行時に保有数を超過しているライセンスがある場合に

メールを通知するので，1 週間以内に保有数を超過し，超過分のライセンスを追加するとメールで通知されません。デフォルトの設定よりも監視する頻度を増やしたい場合，メールで通知するスケジュールの実行間隔を短く変更してください。

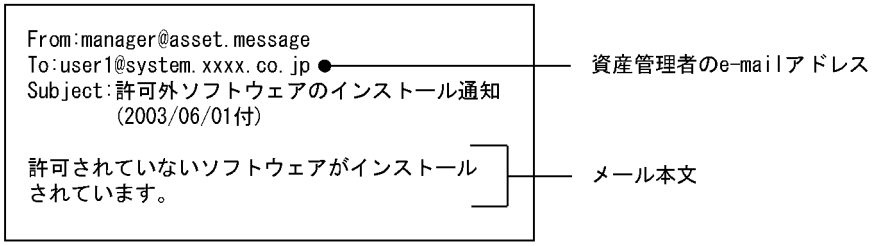
- 数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に，データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると，データの検索，追加および削除に時間が掛かるため，集計の性能が劣化します。
  資産管理システムが数千台規模になるときは，古くなった集計結果を定期的に削除してください。
- デフォルトでは 100% に設定されている保有数超過のしきい値を変更することで，保有数を超えそうなライセンスを事前に通知できます。ライセンスごとのしきい値を変更する場合は，ソフトウェア名称管理画面で設定します。しきい値が設定されていない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定に従います。
  ソフトウェア名称管理画面での変更方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.6　ソフトウェア名を対応づける（ソフトウェア名称管理）」を，［サーバセットアップ］ダイアログでの変更方法については，「5.3.4　基本情報の設定」を参照してください。

3.3.3　許可外インストール通知

タスク「許可外インストール通知」を利用して，許可されていないソフトウェアをインストールしている機器を自動的にメールで通知できます。

通知されるメールには，次の図に示すように，許可されていないソフトウェアをインストールしている機器があることを通知した文章が記載されています。

図 3-12　許可されていないソフトウェアの通知メール



また，許可されていないソフトウェアをインストールしている機器の一覧が，メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。

添付ファイルの内容を次の図に示します。

図 3-13　許可されていないソフトウェアの通知メールの添付ファイル

```
"ソフトウェア名","バージョン","資産番号","部署","利用者"
"SoftwareA","0100","00000006","資産管理部","user1"
"SoftwareB","0200","00000236","資産管理部","user2"
```

タスク「許可外インストール通知」のデフォルトは，毎週火曜日の午前 5 時 30 分にタスクを実行するように設定されています。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については，「5.9.2(2)　タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

注意事項

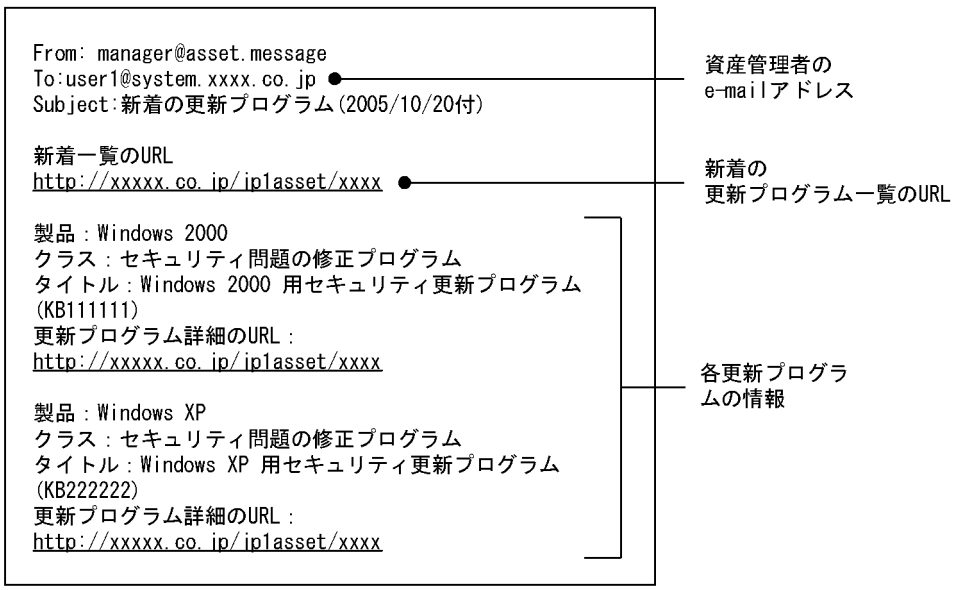
このタスクでは，タスク実行時に許可されていないソフトウェアをインストールしている機器がある場合にメールを通知するので，1 週間以内に許可されていないソフトウェアをインストールし，アンインストールするとメールで通知されません。デフォルトの設定よりも監視する頻度を増やしたい場合，メールで通知するスケジュールの実行間隔を短く変更してください。

3.3.4　WSUS 更新プログラム通知

タスク「WSUS 更新プログラム通知」を利用して，WSUS サーバに新着の更新プログラムが追加されたことを自動的にメールで通知できます。

通知されるメールには，次の図に示すように，新着の更新プログラム一覧の URL および各更新プログラムの情報（製品，クラス，タイトル，更新プログラムの詳細の URL）が一覧で記載されています。新着の更新プログラム一覧の URL および更新プログラムの詳細の URL からは，Asset Information Manager の WSUS 更新プログラム管理画面で参照できる情報が表示されます。表示される情報の詳細については，マニュアル「運用ガイド」の「2.5.3(2)　新着の更新プログラムを参照する（「新着一覧」タブ）」を参照してください。また，メールに記載される URL の指定方法については，「5.3.4(19)　Asset Information Manager の URL」を参照してください。

図 3-14　更新プログラムの通知メール

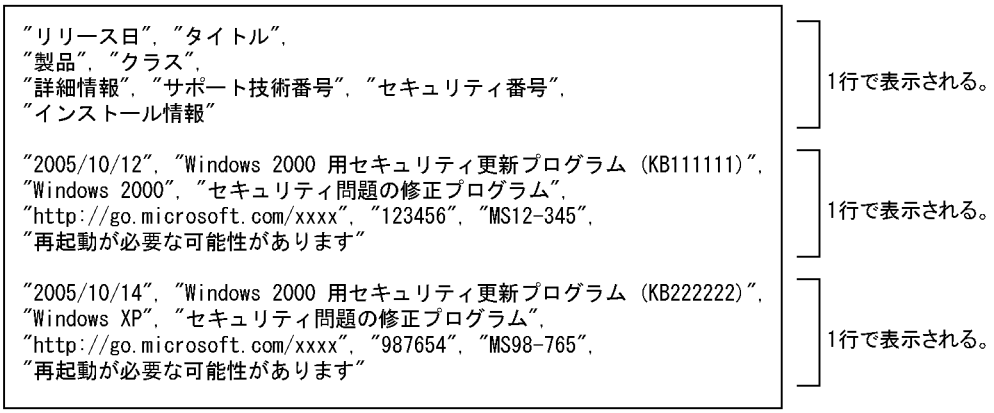


URL から表示された更新プログラムの詳細で，承認状態を変更できます。更新プログラムの承認状態を変更する手順については，マニュアル「運用ガイド」の「2.5.3(1)　更新プログラムの承認状態を変更する」を参照してください。

また，更新プログラムの詳細が，メールの添付ファイルとして CSV ファイルで送付されます。

添付ファイルの内容を次の図に示します。詳細情報の URL からは，通知された更新プログラムの Microsoft の Web ページが表示されます。

図 3-15　更新プログラムの通知メールの添付ファイル



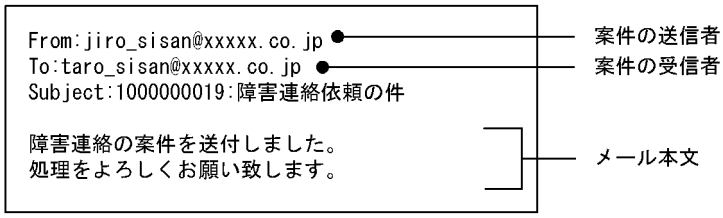
Microsoft Update と WSUS サーバの同期を取るには，［サーバセットアップ］ダイアログの「WSUS コネクタの URL」に値を設定しておく必要があります。設定の詳細については，「5.3.13(1)　WSUS コネクタの URL」を参照してください。

タスク「WSUS 更新プログラム通知」のデフォルトは，毎月 1 日の午前 6 時 00 分にタスクを実行するように設定されています。更新プログラムの到着をメールで通知させるために，タスク「WSUS 任意タイミング同期」よりあとに実行するように，日時を設定してください。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については，「5.9.2(2)　タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

3.3.5　案件の到着通知

案件を使用して，申請，承認の業務を実行する場合，案件が到着した（申請または却下された）ことを，メールで通知できます。メールの本文は，送信時に編集できます。サンプルで提供されている案件「障害連絡票」を，申請すると送付されるメールを次の図に示します。

図 3-16 案件の到着通知メール



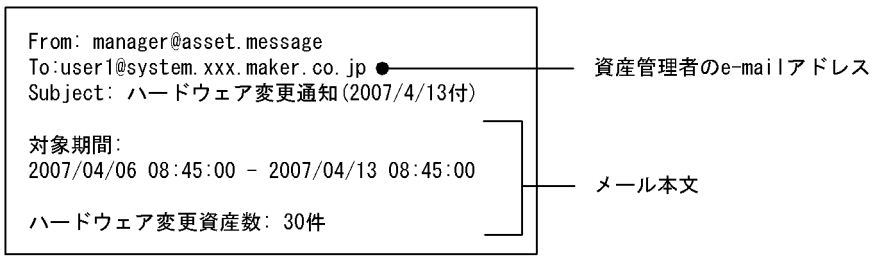
案件の到着通知は，ユーザ管理情報のメールアドレスを基に送付されます。そのため，案件の到着通知を利用する場合は，ユーザ管理情報でメールアドレスを管理する必要があります。

3.3.6 ハードウェア変更通知

機器の情報が更新されたことを，メールで通知できます。

通知されるメールには，次の図に示すように，変更があった機器の台数が記載されています。

図 3-17 ハードウェア変更通知メール



機器の情報が更新されたことをメールで通知するには，Asset Information Manager のインストール後に，タスクを登録する必要があります。タスクの登録手順については，「5.9.10 機器の情報の変更通知」を参照してください。

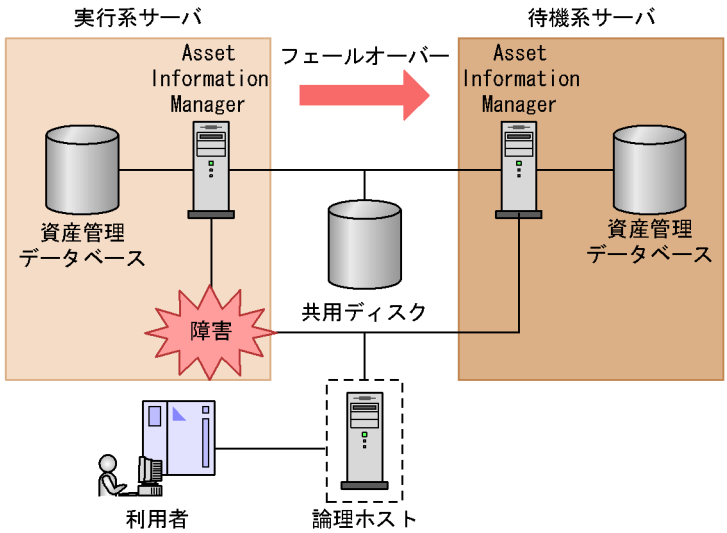
3.4　クラスタシステムの導入

Microsoft Cluster Service を使用したクラスタシステムにも，Asset Information Manager を導入できます。クラスタシステムは，複数のサーバを連携させて一つのシステムとして運用することで，一つのシステムでトラブルが発生しても，ほかのサーバに業務を引き継いで続行（フェールオーバー）させるため，システム全体の停止を防止できます。

Asset Information Manager ではクラスタシステムの運用形態のうち，アクティブ・スタンバイ構成に対応しています。アクティブ・スタンバイ構成は，2 ノード・クラスタシステムで，それぞれのサーバを実行系と待機系として設定します。

Asset Information Manager を導入したクラスタシステムの概要を次の図に示します。

図 3-18　Asset Information Manager を導入したクラスタシステムの概要



資産管理サーバの物理的なホスト名および IP アドレスとは別に，論理ホスト名または論理 IP アドレスを使用して論理サーバに接続します。これによって，利用者はどちらのサーバで処理を実行しているかを意識しないで接続できます。

クラスタシステムを構築するには，資産管理サーバの OS として Windows Server 2008 Enterprise または Windows Server 2003, Enterprise Edition が必要です。

4 システム構成の検討

この章では，資産管理システムのプログラム構成およびシステム構成例について説明します。

4.1 **プログラム構成**

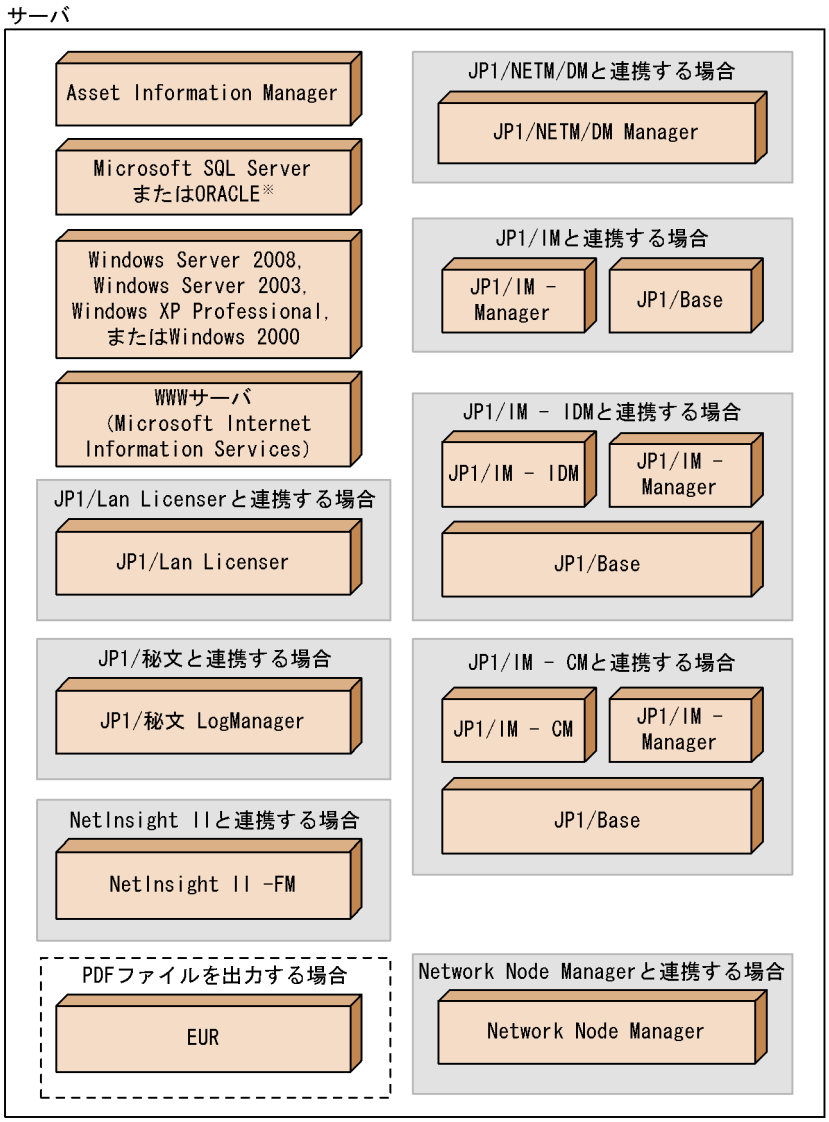
4.2 **システム構成例**

4.1 プログラム構成

この節では，資産管理システムを構成するプログラムと，資産管理システムの前提プログラムおよび関連プログラムについて説明します。

資産管理システムのプログラム構成を次の図に示します。

図 4-1　資産管理システムのプログラム構成（サーバ）



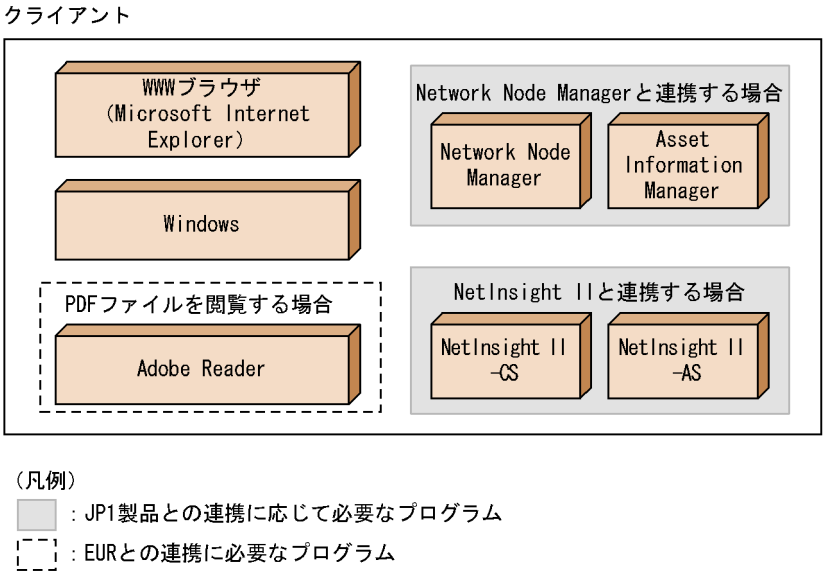
（凡例）

：JP1製品との連携に応じて必要なプログラム

：EURとの連携に必要なプログラム

注※　Embedded RDBの場合は不要です。

図 4-2 資産管理システムのプログラム構成（クライアント）



4.1.1 前提プログラム

Asset Information Manager を運用するために必要なサーバ側およびクライアント側の前提プログラムについて次に示します。

(1) サーバ側の前提プログラム

● OS

Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional または Windows 2000 を使用します。ただし，Windows Server 2008 を使用する場合，Server Core インストールはサポート対象外です。

Windows Server 2003 (x64) を使用する場合は，Asset Information Manager のインストール前およびセットアップ時に必要な作業があります。インストール前の作業については「5.2.2(2) インストール前の作業」を，セットアップ時の作業については「5.5 データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。また，Asset Information Manager の関連プログラムでも，Windows Server 2003 (x64) を使用する場合は，大幅に機能が制限されることがあります。関連プログラムのマニュアルなどで，Windows Server 2003 (x64) を使用する場合の制限内容を必ず確認してください。

● WWW サーバ

Microsoft Internet Information Services 5.0，5.1，6.0 または 7.0 を使用します。また，Windows コンポーネントとして WWW（World Wide Web）サービスをインストールする必要があります。

● DBMS

資産管理データベースの動作環境として使用します。使用できるデータベースは，Microsoft SQL Server 7.0，Microsoft SQL Server 2000，Microsoft SQL Server 2005，Oracle8i（R8.1.6 または R8.1.7），または Oracle9i（R9.0.1 または R9.2.0）です。Embedded RDB を使用する場合は，DBMS の環境を新たに用意する必要はありません。

- **資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散して運用する場合**
  Microsoft SQL Server の場合は，ODBC ドライバ（3.70.8.20 以降）を使用します。
  Oracle8i の場合は，Oracle8i のクライアント（R8.1.6 または R8.1.7）を使用します。
  Oracle9i の場合は，Oracle9i のクライアント（R9.0.1 または R9.2.0）を使用します。
- **資産管理サーバと資産管理データベースサーバを同一のマシンで運用する場合**
  Microsoft SQL Server の場合は，Microsoft SQL Server 7.0，Microsoft SQL Server 2000 または Microsoft SQL Server 2005 を使用します。
  Oracle8i の場合は，Oracle8i Database Standard Edition（R8.1.6 または R8.1.7），または Oracle8i Enterprise Edition（R8.1.6 または R8.1.7）を使用します。
  Oracle9i の場合は，Oracle9i Database Standard Edition（R9.0.1 または R9.2.0），または Oracle9i Enterprise Edition（R9.0.1 または R9.2.0）を使用します。

（2） クライアント側の前提プログラム

● OS

Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以降が使用できる OS（Windows）を使用します。

● WWW ブラウザ

資産管理サーバに対して，資産情報を登録および参照するために使用するクライアントです。

（3） メール通知を使用するための前提プログラム

契約終了日が迫った契約や保有数を超過して使用しているライセンスなどの情報をタスクスケジューラで自動的にメール通知する機能を使用する場合は，Microsoft Windows Script Host Version 5.1 以降と Microsoft Internet Information Services 5.0 以降がインストールされた環境が必要です。

また，Windows コンポーネントのインターネットインフォメーションサービス（IIS）のサブコンポーネントである SMTP Service も，インストールする必要があります。

メール通知の設定方法については，「5.10　メール通知を使用するための設定」を参照してください。

（4）WSUS サーバと連携して更新プログラムを管理するための前提プログラム

WSUS サーバと連携して Microsoft Update に追加された更新プログラムを管理する場合，WSUS サーバの環境および WSUS 連携用のコンポーネントが必要です。

● **WSUS サーバ**
WSUS サーバの環境を用意します。必要なプログラムについては，Microsoft の WSUS のマニュアルを参照してください。

● **WSUS 連携コンポーネント（Asset Information Manager との連携に必要）**
Asset Information Manager のコンポーネントです。
WSUS サーバのマシンにインストールします。階層化されている WSUS サーバと接続する場合は，最上位の WSUS サーバに WSUS 連携コンポーネントをインストールしてください。アンインストールする場合は，WSUS サーバのマシンで，コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」（または「プログラムの追加と削除」）から削除します。

（5）インベントリ情報を取得するための前提プログラム

Asset Information Manager では，JP1/NETM/DM で取得したインベントリ情報を，資産管理データベースに取り込めます。

ただし，JP1/NETM/DM で扱うデータベースとして Microsoft SQL Server を使用する場合は，Microsoft SQL Server 7.0，Microsoft SQL Server 2000 または Microsoft SQL Server 2005 を使用してください。

ORACLE を使用する場合は，Oracle8i（R8.1.7）または Oracle9i（R9.0.1 または R9.2.0）を使用してください。また，データベース・キャラクタ・セットを「JA16SJIS」に設定してください。

JP1/NETM/DM の機能概要については，マニュアル「JP1/NETM/DM 導入・設計ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

JP1/NETM/DM と連携して，JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報を資産管理データベースに取り込む場合は，JP1/NETM/DM Manager 06-00 以降と連携する必要があります。

（6）ソフトウェアを配布するための前提プログラム

JP1/NETM/DM と連携することで，Asset Information Manager で検索した機器に対して，ソフトウェアを配布できます。

JP1/NETM/DM と連携して，ソフトウェアを配布する場合は，JP1/NETM/DM Manager 06-51 以降と連携する必要があります。

また，配布先のクライアントが JP1/NETM/DM Client - Base の場合は，JP1/NETM/

DM Client - Delivery Feature が必要です。

（7）操作ログを取得するための前提プログラム

JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文と連携して，操作ログを取得できます。

JP1/NETM/DM と連携して管理対象のクライアントの操作ログを取得する場合，使用する業務によって，連携できる JP1/NETM/DM Manager および JP1/NETM/DM Client のバージョンが異なります。

JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得するために必要な前提プログラムを，次に示します。

● 業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」から操作ログを確認する場合

JP1/NETM/DM のサーバには，JP1/NETM/DM Manager 08-00 以降を使用します。ただし，ファイル操作（印刷操作），Web アクセスおよび外部メディア操作の操作ログを取得する場合は，JP1/NETM/DM Manager 08-50 以降を使用してください。

管理対象のクライアントには，次のうちどちらかがインストールされている必要があります。

- JP1/NETM/DM Client 07-50 以降

  ファイル操作（フォルダまたはファイルの操作）の操作ログを取得するには，JP1/NETM/DM Client 08-00 以降が必要です。

  ファイル操作（印刷操作），Web アクセスおよび外部メディア操作の操作ログを取得するには，JP1/NETM/DM Client 08-50 以降が必要です。
- JP1/NETM/DM Client - Base 08-00 以降

  ファイル操作（フォルダまたはファイルの操作）の操作ログを取得するには，JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature 08-00 以降も必要です。

  ファイル操作（印刷操作），Web アクセスおよび外部メディア操作の操作ログを取得するには，JP1/NETM/DM Client - Base 08-50 以降および JP1/NETM/DM Client - Operation Log Feature 08-50 以降が必要です。

また，JP1/ 秘文のサーバには，JP1/ 秘文 LogManager 07-60 以降を使用します。管理対象のクライアントの前提プログラムについては，マニュアル「JP1/ 秘文 LogManager」を参照してください。

● 業務メニュー「プログラム起動履歴」および「ウィンドウタイトル変更履歴」からプログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を確認する場合

JP1/NETM/DM のサーバには，JP1/NETM/DM Manager 07-50 以降を使用します。また，管理対象のクライアントには，次のうちどちらかがインストールされている必要があります。

- JP1/NETM/DM Client 07-50 以降
- JP1/NETM/DM Client - Base 08-00 以降

(8) ソフトウェアの稼働状況を管理するための前提プログラム

JP1/NETM/DM または JP1/Lan Licenser と連携することで，ソフトウェアの稼働状況を管理できます。

JP1/NETM/DM または JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理するために必要な前提プログラムを，次に示します。

● **JP1/NETM/DM と連携して，業務メニュー「ソフトウェア稼働状況」からソフトウェアの稼働状況を管理する場合**

JP1/NETM/DM のサーバには，JP1/NETM/DM Manager 08-10 以降を使用します。また，管理対象のクライアントには，次のうちどちらかがインストールされている必要があります。

- JP1/NETM/DM Client 08-10 以降
- JP1/NETM/DM Client - Base 08-10 以降

● **JP1/Lan Licenser と連携して，業務メニュー「稼働状況」からソフトウェアの稼働状況を管理する場合**

JP1/Lan Licenser で取得したソフトウェア稼働情報を，Windows のタスクスケジューラを使用して定期的に資産管理データベースに取り込めます。ソフトウェア稼働状況を管理するためには，JP1/Lan Licenser 06-51 以降と連携する必要があります。なお，JP1/Lan Licenser では，データベースとして Microsoft SQL Server 7.0 または Microsoft SQL Server 2000 を使用できます。JP1/Lan Licenser の機能については，マニュアル「JP1/Lan Licenser」を参照してください。

(9) フロアレイアウト図を参照するための前提プログラム

Asset Information Manager では，資産管理システムの保有機器一覧画面や［機器詳細］ダイアログから，対象機器のフロアレイアウト図を表示できます。また，Asset Information Manager の資産情報を，フロアレイアウト図から参照できます。

機器のフロアレイアウト図を参照するためには，NetInsight II と連携する必要があります。フロアレイアウト図を参照するために必要なプログラムを次に示します。

● NetInsight II -FM

NetInsight II -FM は，フロアレイアウト図によって，ネットワークの物理的な構成表示機能，機器・テーブルの設備資産情報の管理機能を提供しています。

● NetInsight II -AS

NetInsight II -AS は，Asset Information Manager と NetInsight II とを連携させるために必要なプログラムです。

● NetInsight II -CS

NetInsight II -CS は，NetInsight II で扱うレイアウト図や管理情報をサーバで集中管理し，LAN で接続された複数の機器から NetInsight II の情報を利用する際に利用するクライアント専用の製品です。

NetInsight II -FM，NetInsight II -AS および NetInsight II -CS の機能については，マニュアル「JP1/NetInsight II -Facility Manager」を参照してください。

(10) PDF ファイルを表示するための前提プログラム

Asset Information Manager で検索した資産情報を，PDF ファイルの帳票として表示・印刷するためには，EUR と連携する必要があります。

PDF ファイルの帳票を出力する場合，EUR Print Service 05-00 以降および EUR Print Service - Portable Document Format report 05-00 以降が必要です。また，PDF ファイルの帳票のフォームを作成する場合，EUR Professional Edition 05-00 以降が必要です。

EUR の機能概要については，マニュアル「帳票作成機能 EUR EUR 導入」を参照してください。

4.1.2 Asset Information Manager のプログラム

資産管理システムを構成する Asset Information Manager について説明します。

● Asset Information Manager

JP1/NETM/DM や Network Node Manager といった JP1 製品と連携して，インベントリ情報やノード情報を取得したり，CSV ファイルに記述された資産情報を一括で資産管理データベースにインポートしたりすることで，統合的に IT 資産情報を管理するプログラムです。

Asset Information Manager は，連携する製品に応じて必要な機能を選択できるように，次に示す三つのコンポーネントと四つのサブコンポーネントで構成されています。

サーバ

- **資産管理サーバ**
  資産管理サーバを構築するために必要な基本コンポーネントです。
- JP1/NETM/DM **連携**
  JP1/NETM/DM と連携する場合に必要なコンポーネントです。JP1/NETM/DM から情報を取り込んだり，Asset Information Manager から配布を指示したりできます。

他製品連携

- Information Viewer
  Network Node Manager などの他製品から，Asset Information Manager の資産情報を参照する場合に必要なコンポーネントです。
- JP1/IM - Central Information Master **連携**
  JP1/IM - CM と連携する場合に必要なコンポーネントです。JP1/IM - CM に資産情報の更新を通知します。また，JP1/IM - CM に資産情報を提供します。

WSUS **連携**

WSUS サーバと連携する場合に，WSUS サーバに到着した更新プログラムを Asset

Information Manager で管理するために必要な接続用コンポーネントです。このコンポーネントは，WSUS サーバとなるマシンにインストールします。

4.1.3 関連プログラム

前提プログラムで示した連携製品以外に，資産管理システムの運用時に連携できるプログラムを次に示します。

● JP1/IM - Manager

JP1/IM - Manager は，企業情報システム全体を統合管理する製品です。
システムをさまざまな角度で運用管理する JP1 シリーズと連携し，システムで発生した事象を JP1 **イベント**によって一元管理します。また，問題が発生すると迅速に管理者へ通知するとともに，問題個所を把握し調査を行うための運用操作の基盤を提供します。
Asset Information Manager では，JP1/IM - Manager で管理する JP1 イベントの情報を共有して，資産管理システムで発生した事象を管理できます。
JP1/IM - Manager の機能概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド」を参照してください。

● JP1/IM - IDM

JP1/IM - IDM は，システムで発生した障害を速やかに検知，回復することを目的として，障害事象をインシデントとして管理するための製品です。インシデントの発生から解決までの内容を記録・蓄積していくことで，過去の対策事例を基に速やかな障害回復を支援します。
JP1/IM - IDM と連携することで，JP1/IM - IDM で管理しているインシデントから問題点を登録して，資産管理システムで発生した事象を管理できます。また，JP1/IM - IDM では，Asset Information Manager の資産情報を参照できます。
JP1/IM - IDM の機能概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Incident Master」を参照してください。

● JP1/IM - CM

JP1/IM - CM は，業務システムを構成する各種のリソース（サーバ，ストレージなど）やシステム構成に関する情報を集約して管理する製品です。管理対象のリソースを任意にグルーピングできるため，運用（設定配布，構成変更）の際にグループ単位で管理したり操作したりできます。
JP1/IM - CM では，Asset Information Manager と連携することで，システム構成の変更を JP1 イベントとして取得でき，必要に応じて Asset Information Manager の管理する情報からシステム構成情報を更新できます。これによって，常に実態に合った情報としてシステム情報を管理できます。
JP1/IM - CM の機能概要については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

● JP1/Base

JP1/Base は，JP1/IM - Manager および JP1/IM - CM の基盤となる機能を提供している製品です。
JP1/Base の機能を利用することで，システムで何らかの事象が発生したときに通知される事象（JP1 イベント）を管理したり，ほかのホストと JP1 イベントを送受信したりできます。
Asset Information Manager は，JP1/Base の機能を利用して，JP1/IM - Manager および JP1/IM - CM で管理する JP1 イベントを送受信します。
JP1/Base の機能については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

● Network Node Manager

Network Node Manager は，ネットワークでつながれた複数のシステムとアプリケーションを，一つのネットワークグラフィック画面から管理する機能を提供します。
Asset Information Manager では，Network Node Manager 06-00 以降で取得したノード情報を，Windows のタスクスケジューラを使用して定期的に資産管理データベースに取り込めます。
また，Asset Information Manager で管理する機器のネットワーク上の位置を，監視図から参照できます。
さらに，Network Node Manager のノード・サブマップおよびネットワークプレゼンタから，Asset Information Manager の情報を参照することもできます。
Network Node Manager の機能については，マニュアル「JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド」を参照してください。

● JP1/IM - Service Support

JP1/IM - Service Support は，問い合わせやシステム障害など，解決が必要な案件が発生した場合に，速やかに案件の内容を調査して対処するための機能を提供しています。
Asset Information Manager と連携することで，JP1/IM - Service Support の画面から，案件に該当する機器の情報を参照できます。
JP1/IM - Service Support の機能については，マニュアル「JP1/IM - Service Support システム構築・運用ガイド」を参照してください。

4.2 システム構成例

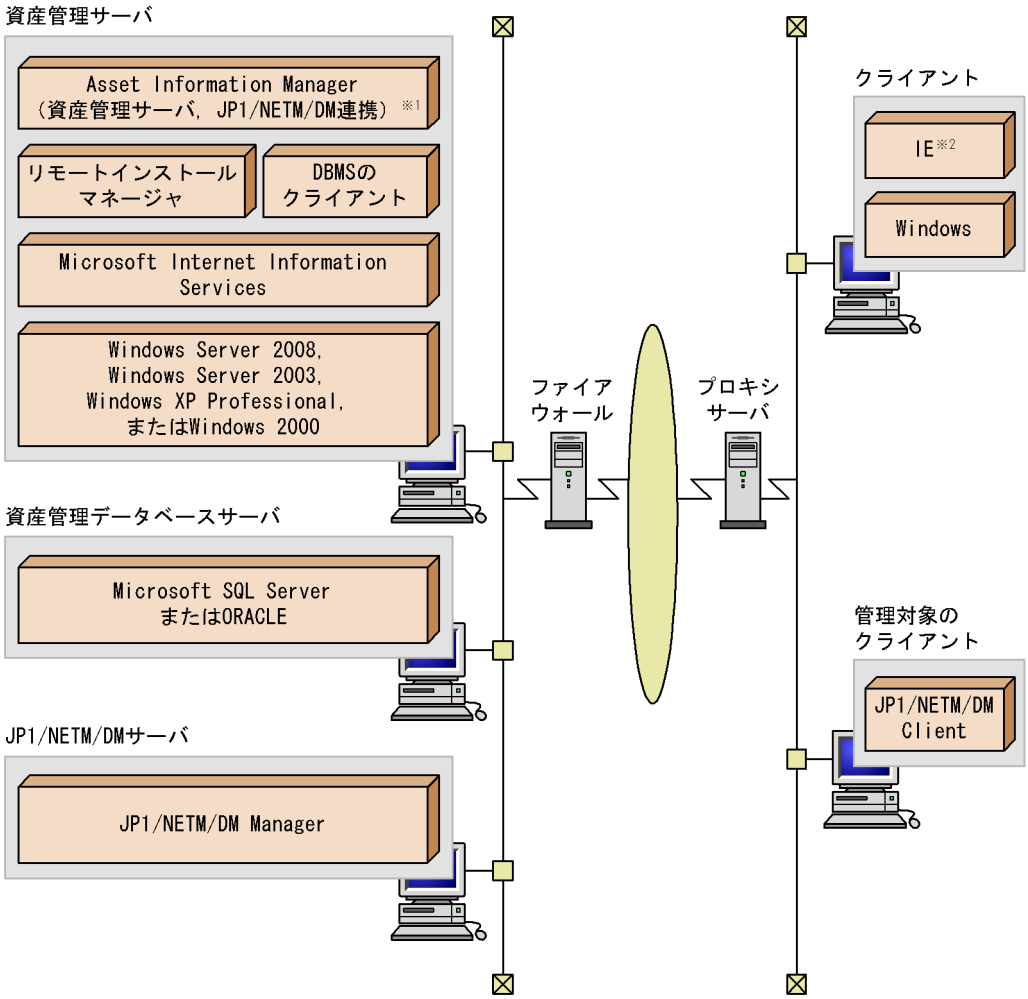
この節では，JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文などと連携した，資産管理システムを運用する上でのシステム構成例を，連携する製品別に示します。

なお，Asset Information Manager は，JP1/NETM/DM と連携して資産管理業務を実行することで，より効率良く，企業内の IT 資産を網羅した一元管理が実現できます。そのため，これ以降では，JP1/NETM/DM と連携したシステム構成を基本的な構成として説明します。

4.2.1 JP1/NETM/DM と連携した基本的なシステム構成

JP1/NETM/DM と連携した資産管理システムの基本的なシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが JP1/NETM/DM サーバと接続して，管理対象のクライアントの資産情報を取得する場合の基本的な構成を示しています。なお，4.2.2 ～ 4.2.10 の構成例もこのシステム構成を前提としています。

図 4-3　資産管理システムの基本的なシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

注※2　IE:Microsoft Internet Explorer

システムを構成する上で次のことに注意してください。

資産管理サーバ

- 資産管理サーバには，Asset Information Manager のコンポーネントの「資産管理サーバ」および「JP1/NETM/DM 連携」をインストールする必要があります。
- 資産管理サーバと JP1/NETM/DM サーバを分散する場合は，資産管理サーバにリモートインストールマネージャ（JP1/NETM/DM Manager のコンポーネント）をインストールする必要があります。
- 資産管理データベースに Embedded RDB を使用する場合は，DBMS のクライアントは必要ありません。

- Asset Information Manager は，JP1/Asset Manager および JP1/NETM/Asset Manager と同一のマシンにはインストールできません。

資産管理データベースサーバ

資産管理サーバおよび資産管理データベースサーバは，同一のマシンに配置できます。ただし，管理対象となる機器が多数あり，クライアントから高い頻度でアクセスされる運用が想定される場合は，資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散する構成をお勧めします。

なお，Embedded RDB を使用する場合は，資産管理サーバと同一のマシンになります。

JP1/NETM/DM サーバ

- JP1/NETM/DM のサーバは，Asset Information Manager と同一のマシンに配置することもできます。
- JP1/NETM/DM 未導入機器の情報を取得する場合，およびインベントリ情報をリアルタイムに取得する場合は，JP1/NETM/DM Manager 07-50 以降が必要です。

クライアント

Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以降を使用できる環境であれば，特別なプログラムは必要ありません。

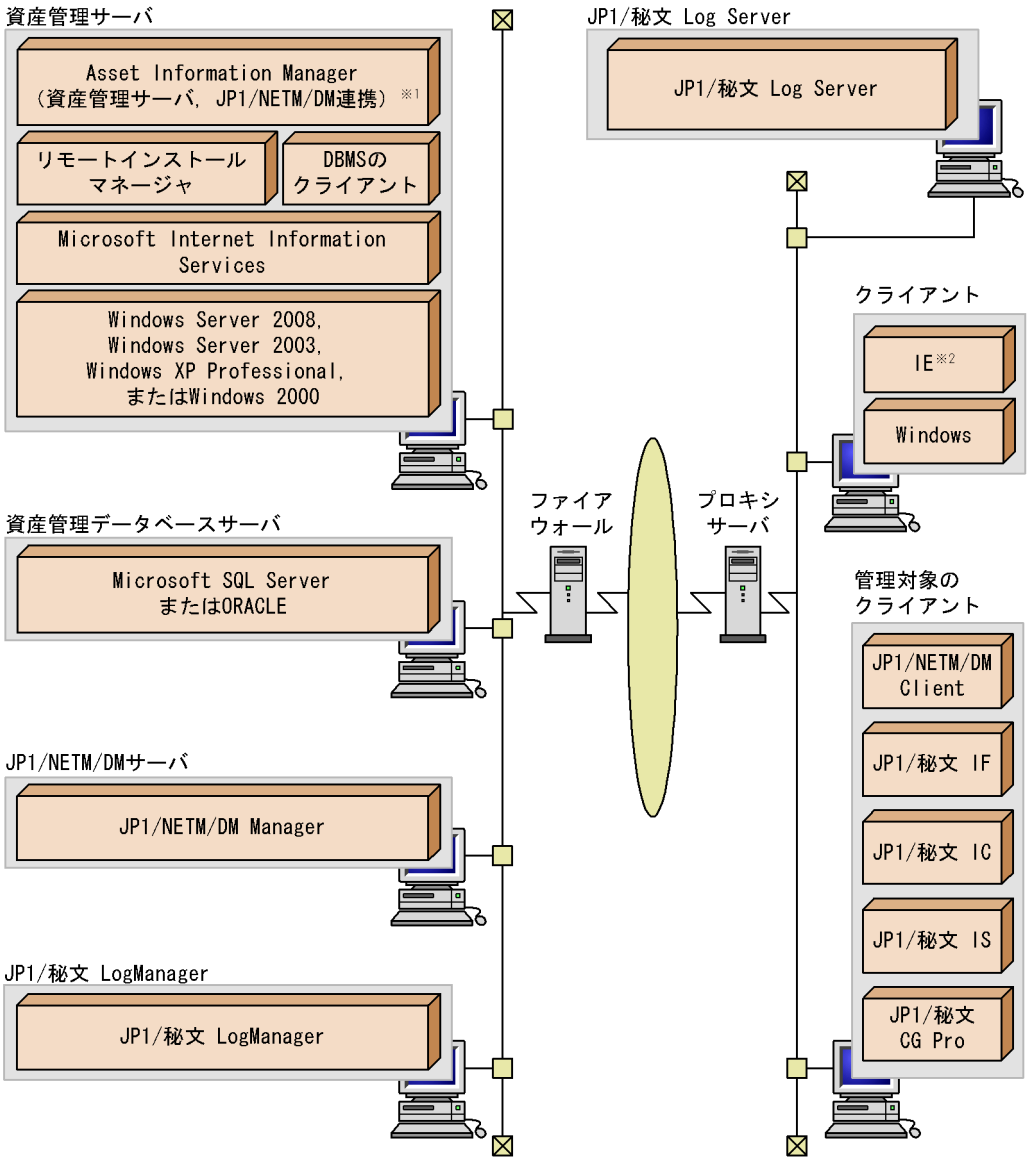
管理対象のクライアント

- インベントリ情報を取得する場合は，管理対象のクライアントに JP1/NETM/DM Client がインストールされている必要があります。
- JP1/NETM/DM Client が 07-50 より前のバージョンの場合は，インベントリ情報の更新を自動的に JP1/NETM/DM Manager に通知できません。

4.2.2 JP1/秘文と連携したシステム構成

JP1/秘文と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが JP1/秘文 LogManager と接続して，管理対象のクライアントの操作ログを参照する場合の構成を示しています。

図 4-4 JP1/秘文と連携したシステム構成例



注※1 括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

注※2 IE:Microsoft Internet Explorer

JP1/**秘文** LogManager

JP1/秘文 Log Server に格納されている操作ログをデータベースに格納しています。

JP1/**秘文** Log Server

管理対象のクライアントの操作ログを格納しています。

管理対象のクライアント

JP1/ 秘文 IF とは，データを外部媒体に格納して持ち出すことを禁止（または許可）する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/ 秘文 IC とは，データを暗号化する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

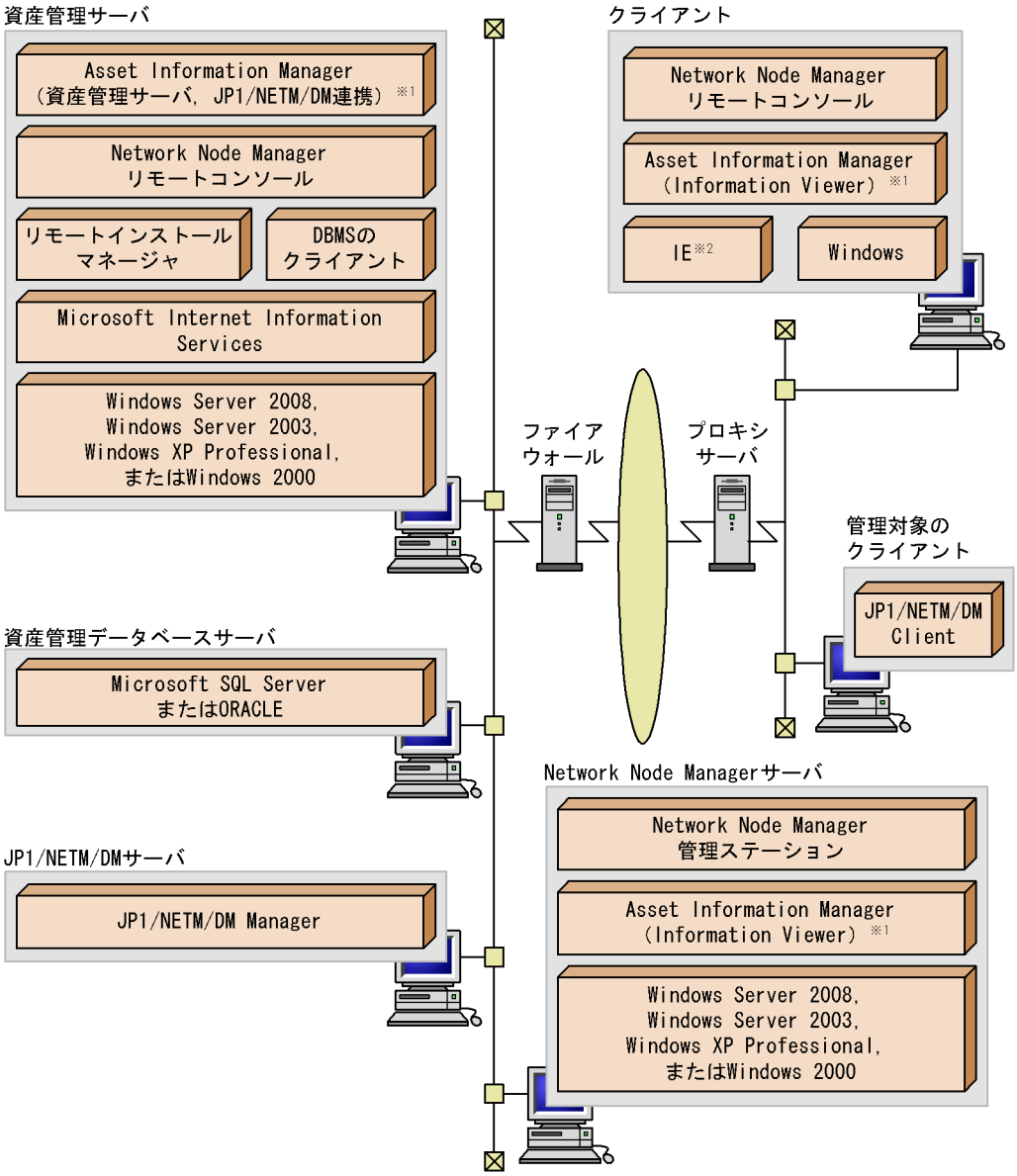
JP1/ 秘文 IS とは，ファイルサーバと連携して，ファイルサーバ上の共有機密フォルダに対するアクセスを制御する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/ 秘文 CG Pro とは，Microsoft Office 文書を暗号化して専用の USB メモリに格納し，持ち出した Microsoft Office 文書を USB メモリにインストールされた専用ツールでしか閲覧・編集できないようにする製品です。JP1/ 秘文 CG Pro を使用することで，外部に持ち出した USB メモリからの情報流出を防止できます。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

4.2.3 Network Node Manager と連携したシステム構成

Network Node Manager と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが Network Node Manager サーバと接続して，管理対象のクライアントのノード情報を取得する場合の構成を示しています。

図 4-5　Network Node Manager と連携したシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

注※2　IE:Microsoft Internet Explorer

システムを構成する上で次のことに注意してください。

資産管理サーバ

- Network Node Manager のノード・サブマップおよびネットワークプレゼンタから，Asset Information Manager の情報を参照するには，Asset Information

Manager 07-50 以降が必要です。

- Asset Information Manager のサーバと Network Node Manager のサーバを別のマシンにする場合は，資産管理サーバに Network Node Manager のリモートコンソール（管理コンソール）をインストールしてください。

Network Node Manager サーバ

ノード・サブマップおよびネットワークプレゼンタから Asset Information Manager の情報を参照するには，Information Viewer（Asset Information Manager のコンポーネント）をインストールする必要があります。

ポイント

Information Viewer をインストールする前に，Network Node Manager をインストールしておくと，設定の手間を省けます。
Information Viewer をインストールしたあとに，Network Node Manager をインストールした場合は，Network Node Manager のインストール後に，所定の場所にファイルをコピーする必要があります。Network Node Manager と連携するために必要な設定の詳細については，「6.2　Network Node Manager と連携するための設定」を参照してください。

クライアント

ノード・サブマップから Asset Information Manager の情報を参照するには，Information Viewer（Asset Information Manager のコンポーネント）および Network Node Manager リモートコンソールをインストールする必要があります。

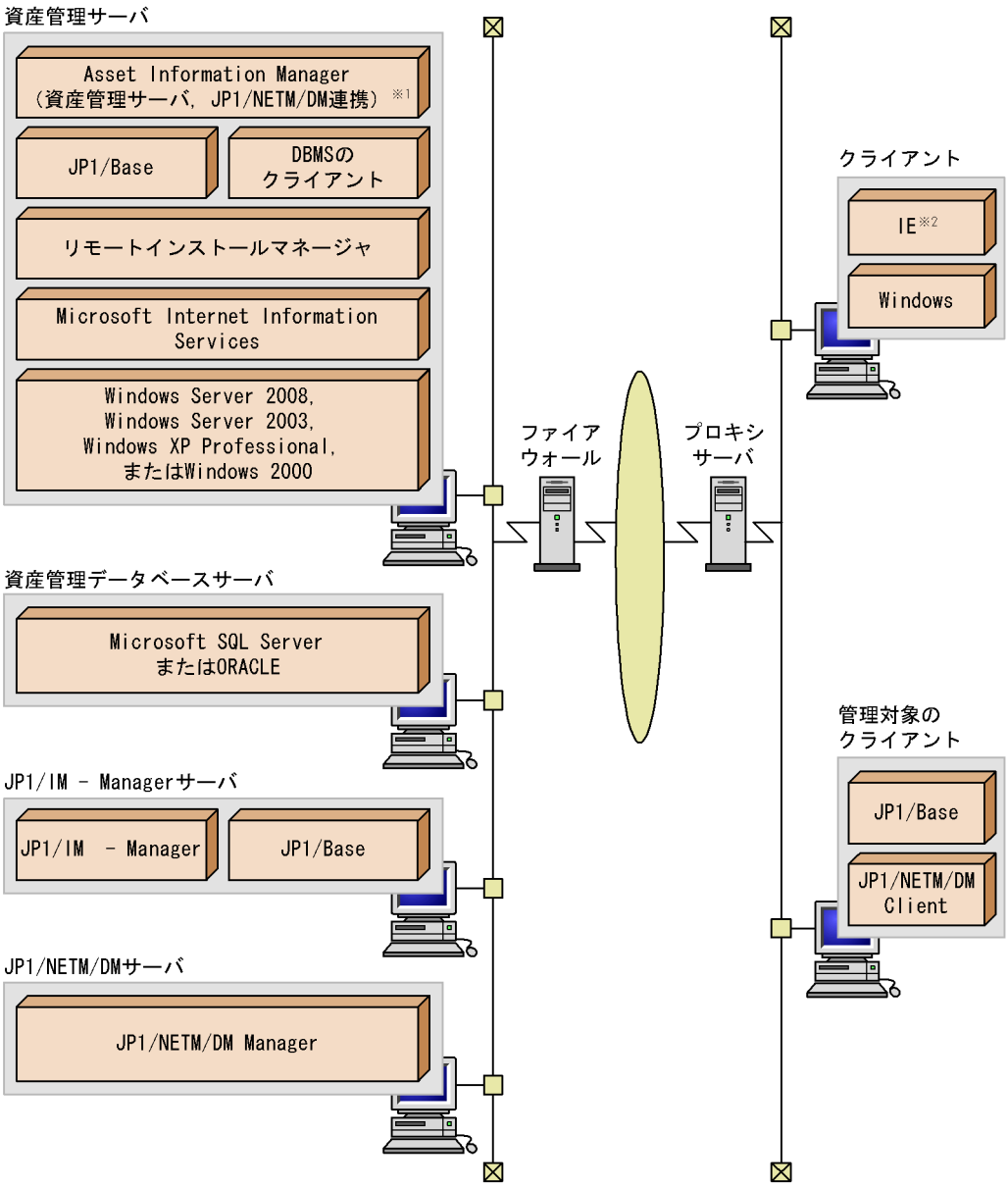
注意事項

Network Node Manager リモートコンソールのマシンに Information Viewer をインストールする際は，管理ステーションのマシンにインストールした Information Viewer と同じドライブの同じフォルダにインストールしてください。

4.2.4　JP1/IM - Manager と連携したシステム構成

JP1/IM - Manager と連携したシステム構成と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが JP1/IM - Manager サーバと接続して，管理対象のクライアントの問題点情報を取得する場合の構成を示しています。

図 4-6　JP1/IM - Manager と連携したシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

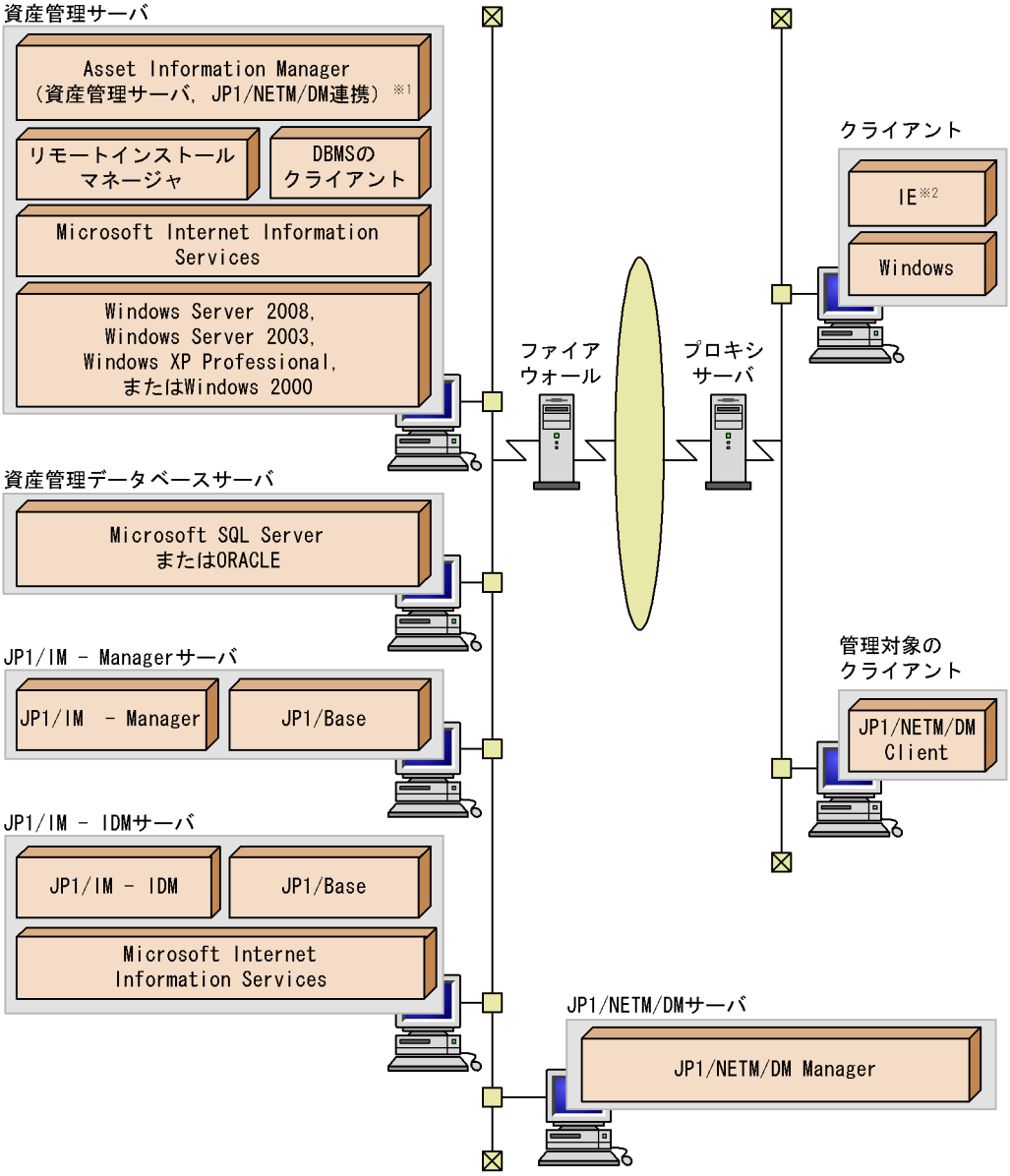
注※2　IE:Microsoft Internet Explorer

4.2.5　JP1/IM - IDM と連携したシステム構成

JP1/IM - IDM と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが JP1/IM - IDM サーバと接続して，管理対象のク

ライアントの問題点情報を取得する場合の構成を示しています。

図 4-7　JP1/IM - IDM と連携したシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

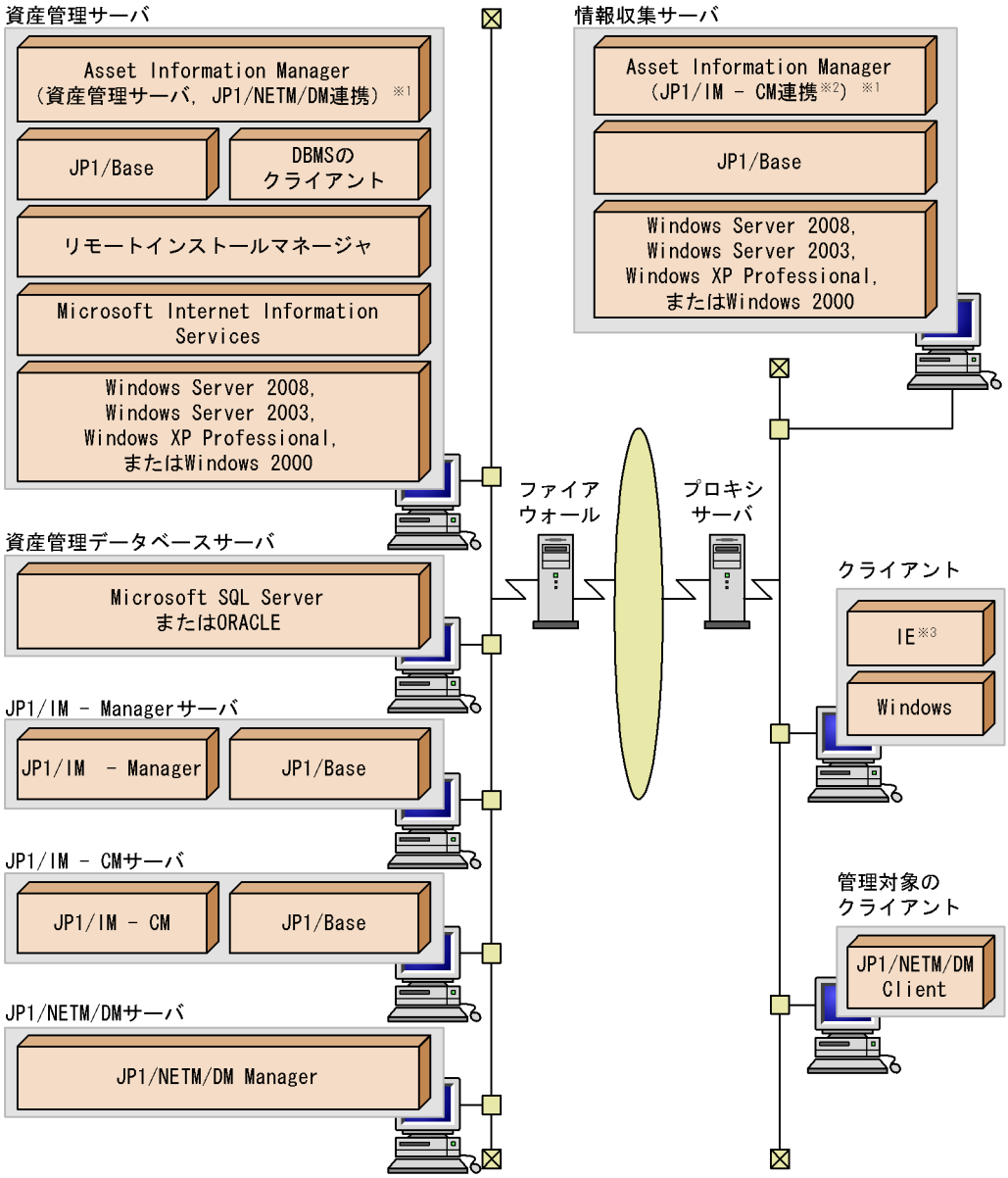
注※2　IE:Microsoft Internet Explorer

4.2.6　JP1/IM - CM と連携したシステム構成

JP1/IM - CM と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。この

システム構成例は，資産管理サーバが JP1/IM - CM サーバと接続して，管理対象のクライアントのシステム構成情報を JP1/IM - CM に取り込む場合の構成を示しています。

図 4-8　JP1/IM - CM と連携したシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。
注※2　JP1/IM - CM連携：JP1/IM - Central Information Master連携
注※3　IE:Microsoft Internet Explorer

情報収集サーバ

資産管理サーバから収集する情報が多い場合は，JP1/IM - CM サーバと Asset

Information Manager の情報収集用のサーバを分散させることをお勧めします。資産管理サーバと情報収集サーバを同じマシンにする場合は，資産管理サーバに JP1/IM - Central Information Master 連携（Asset Information Manager のコンポーネント）をインストールする必要があります。

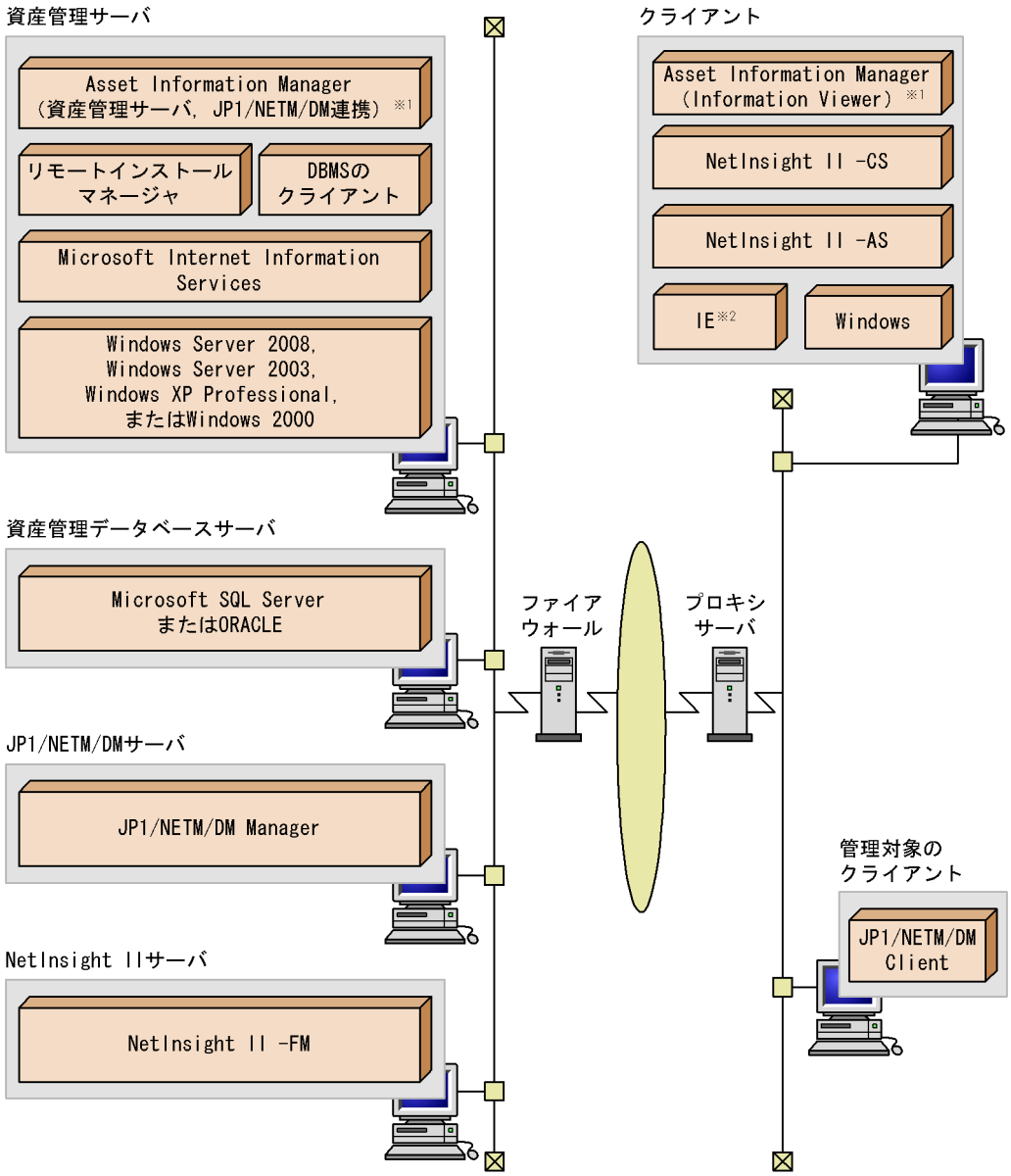
ポイント

JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールする前に，JP1/Base インストールしておくと，設定の手間を省けます。JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしたあとに，JP1/Base をインストールする場合は，JP1/Base のインストール後に，所定の場所にファイルをコピーする必要があります。JP1/IM - CM と連携するために必要な設定の詳細については，「6.5　JP1/IM - CM と連携するための設定」を参照してください。

4.2.7　NetInsight II と連携したシステム構成

NetInsight II と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが NetInsight II サーバと接続して，機器の位置情報を確認する場合の構成を示しています。

図 4-9　NetInsight II と連携したシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

注※2　IE:Microsoft Internet Explorer

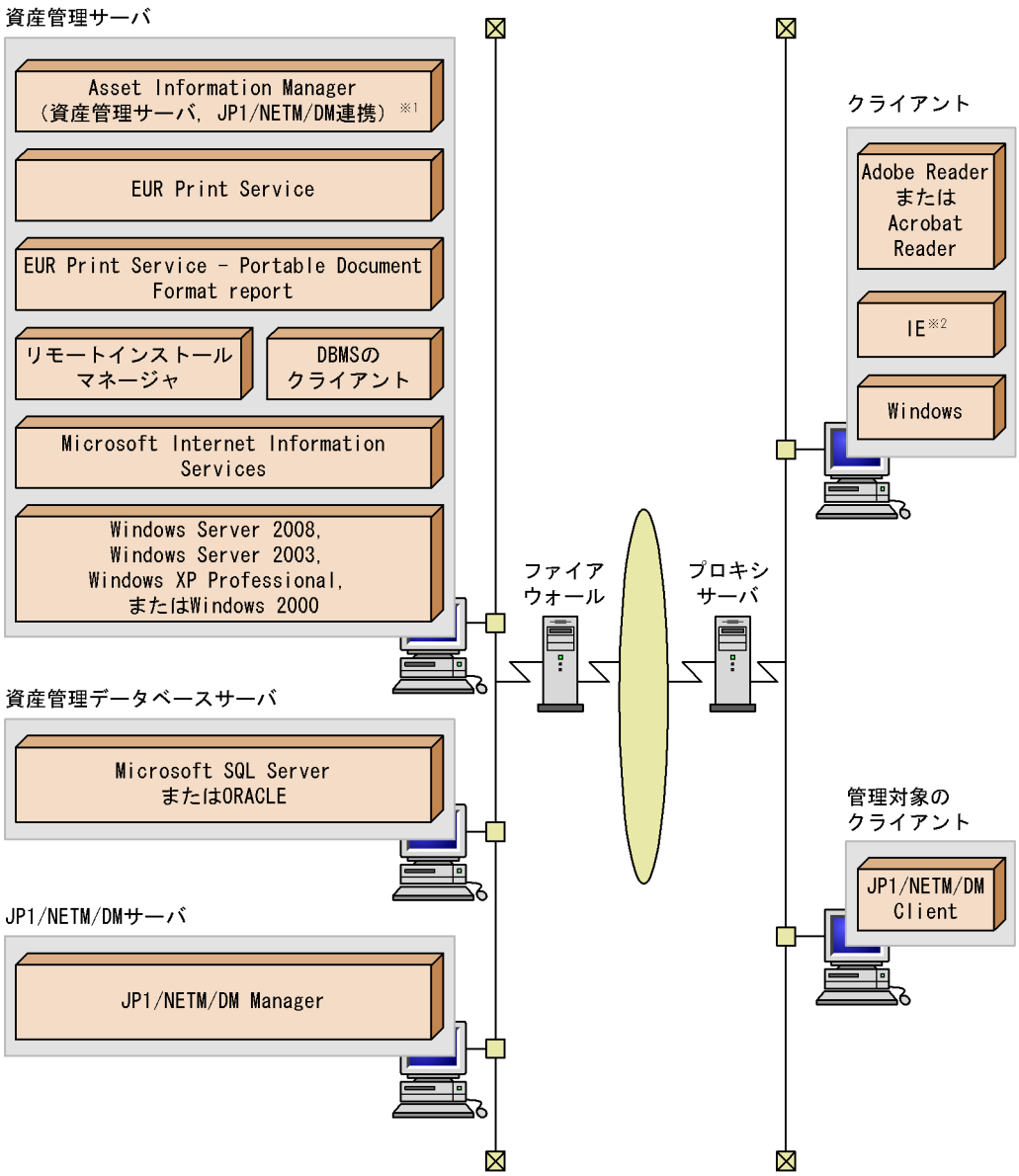
クライアント

フロアレイアウト図から Asset Information Manager の情報を参照するには，Information Viewer（Asset Information Manager のコンポーネント）をインストールする必要があります。

4.2.8 EUR と連携したシステム構成

EUR と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，Asset Information Manager での検索結果を PDF ファイルとして出力し，表示・印刷する場合の構成を示しています。

図 4-10 EUR と連携したシステム構成例



注※1 括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

注※2 IE:Microsoft Internet Explorer

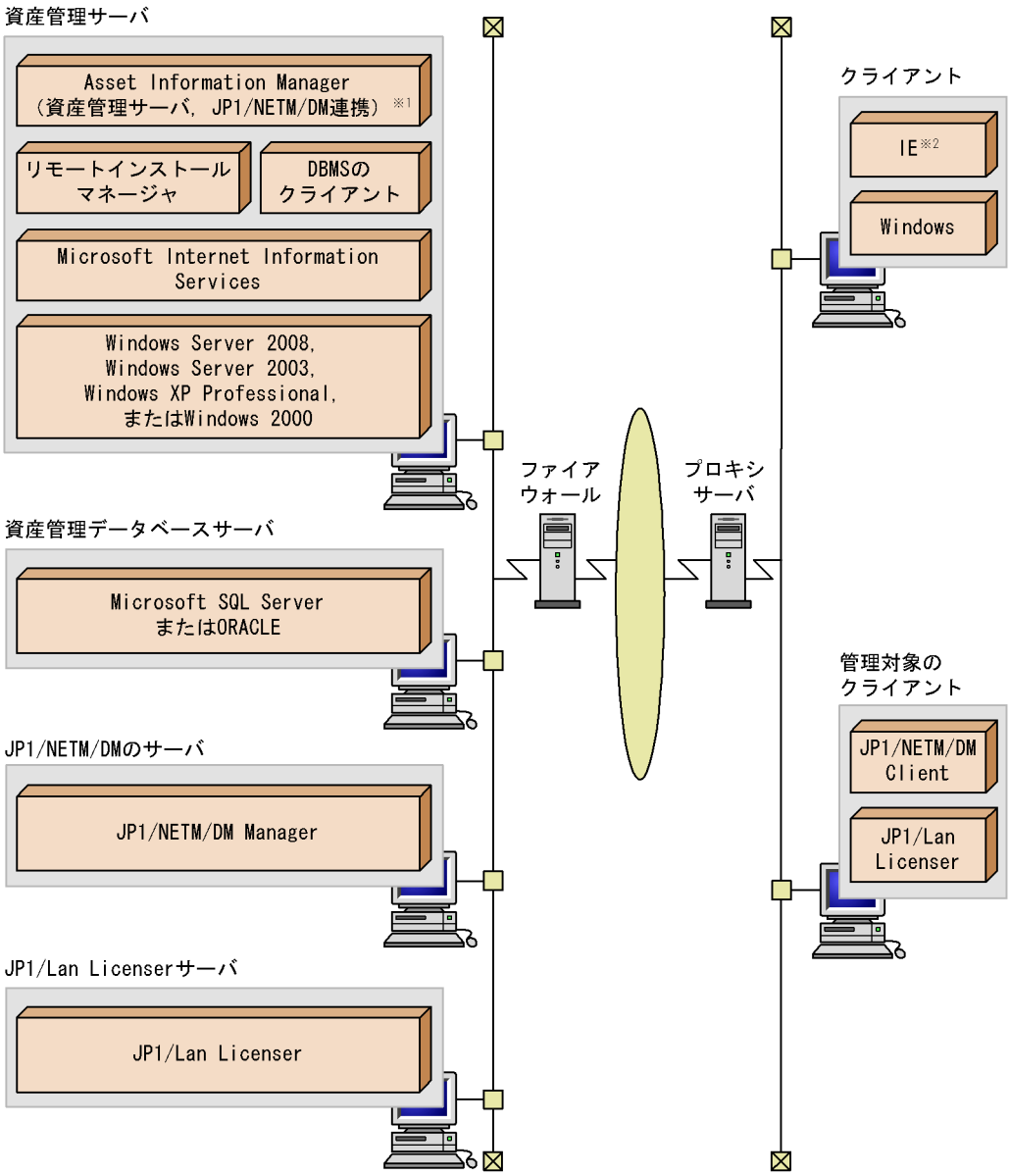
ユーザレポートとして作成した操作画面で，PDF ファイルの帳票を出力するには，帳票を作成するための EUR Professional Edition が必要になります。

また，クライアントには Adobe Reader 6.0（日本語版）以降，または Acrobat Reader 4.0（日本語版）以降をインストールする必要があります。

4.2.9 JP1/Lan Licenser と連携したシステム構成

JP1/Lan Licenser と連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが JP1/Lan Licenser サーバと接続して，管理対象のクライアントのソフトウェア稼働情報を取得する場合の構成を示しています。

図 4-11 JP1/Lan Licenser と連携したシステム構成例



注※1 括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

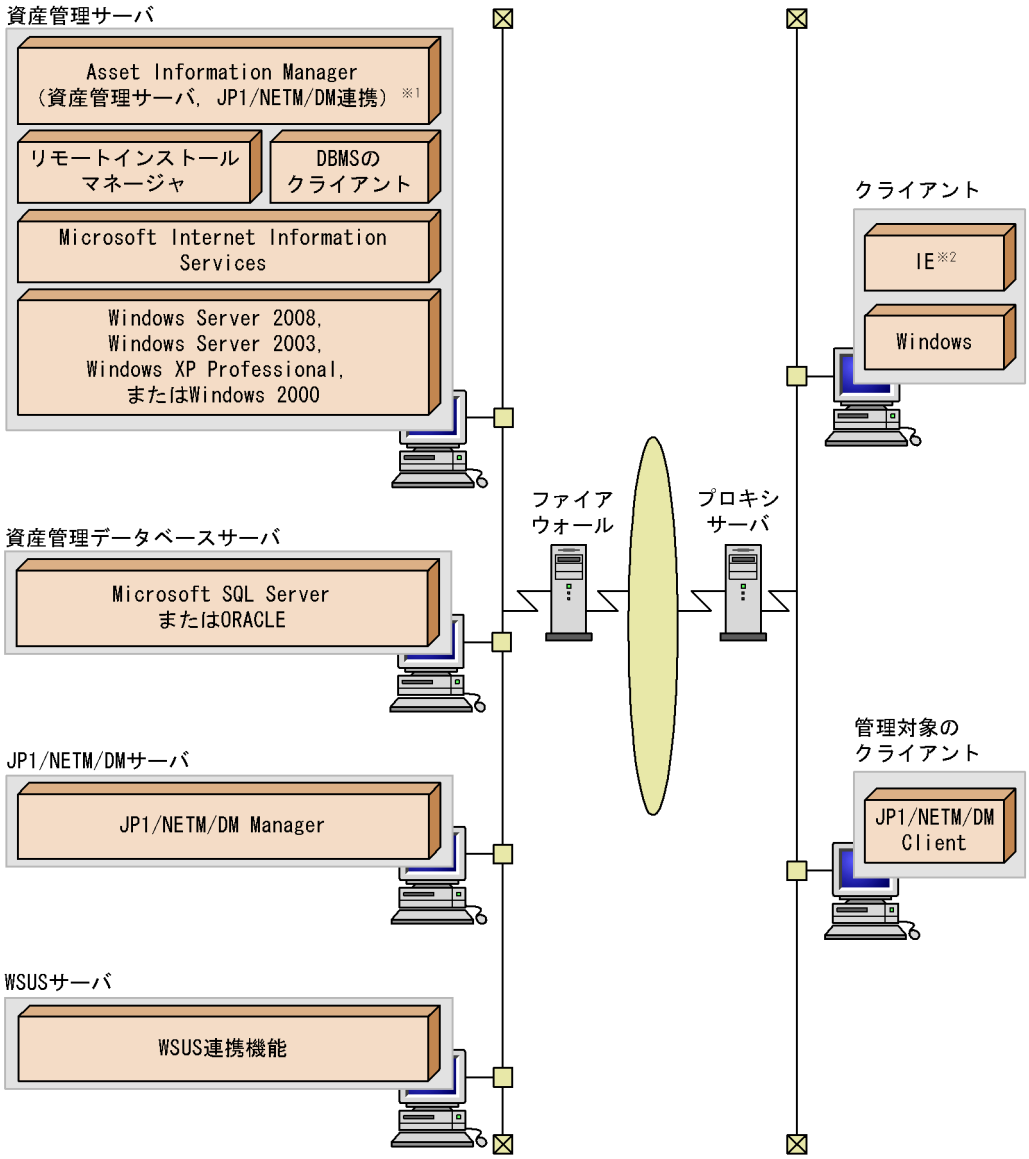
注※2 IE:Microsoft Internet Explorer

JP1/Lan Licenser サーバは，Asset Information Manager と同一のマシンに配置できますが，サーバの負荷を分散させるために，各サーバを分散する構成をお勧めします。

4.2.10　WSUS サーバと連携したシステム構成

WSUS サーバと連携した資産管理システムのシステム構成例を次の図に示します。このシステム構成例は，資産管理サーバが WSUS サーバと接続して，Microsoft Update に追加された更新プログラムを管理する場合の構成を示しています。

図 4-12　WSUS サーバと連携したシステム構成例



注※1　括弧内はAsset Information Managerのコンポーネントです。

注※2　IE:Microsoft Internet Explorer

4.2.11 クラスタシステムでのシステム構成

Asset Information Manager をフェールオーバーさせる場合のクラスタシステムの構成例を次に示します。システム構成例は次の 2 種類があります。

- 実行系の資産管理サーバと資産管理データベースサーバを同一のノードに置く構成の場合
- 実行系の資産管理サーバと資産管理データベースサーバを異なるノードに置く構成の場合

これらの構成にする場合，Asset Information Manager のプログラムのセットアップ時に，上位接続先を次のように設定してください。

http:// 論理ホスト名，または論理 IP アドレス /jp1asset/login.htm

また，共用ディスクには，次のファイルを格納してください。

- DBMS のデータベースファイル
- トランザクションログファイル
- 資産管理サーバの仮想ディレクトリ以下のファイル

(1) 実行系の資産管理サーバと資産管理データベースサーバを同一のノードに置く構成の場合

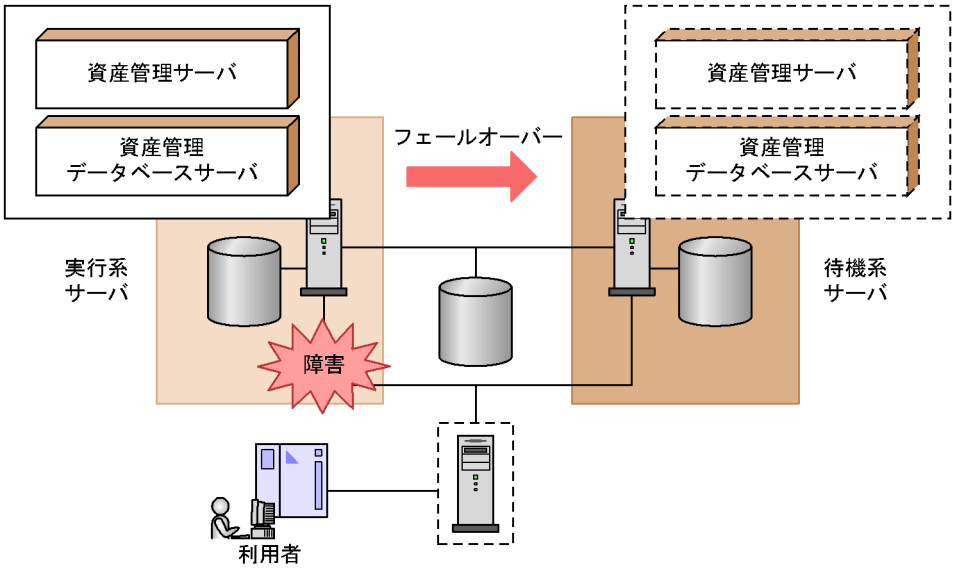
Microsoft Cluster Service のクラスタ環境上に，Asset Information Manager のサービスを，フェールオーバー機能を使用する設定にすると，ハードウェアのトラブルや Asset Information Manager のサービスのトラブルが自動的に検出され，実行系サーバから待機系サーバへ自動的に切り替えられます。

資産管理データベースサーバは，同一クラスタグループに設定することもできます。また，異なるクラスタグループに設定されている資産管理データベースサーバを使用することもできます。

なお，資産管理データベースに Embedded RDB を使用する場合，この構成にだけ対応しています。

実行系の資産管理サーバと資産管理データベースを同一のノードに置く場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 4-13　実行系の資産管理サーバと資産管理データベースを同一のノードに置く場合のシステム構成例



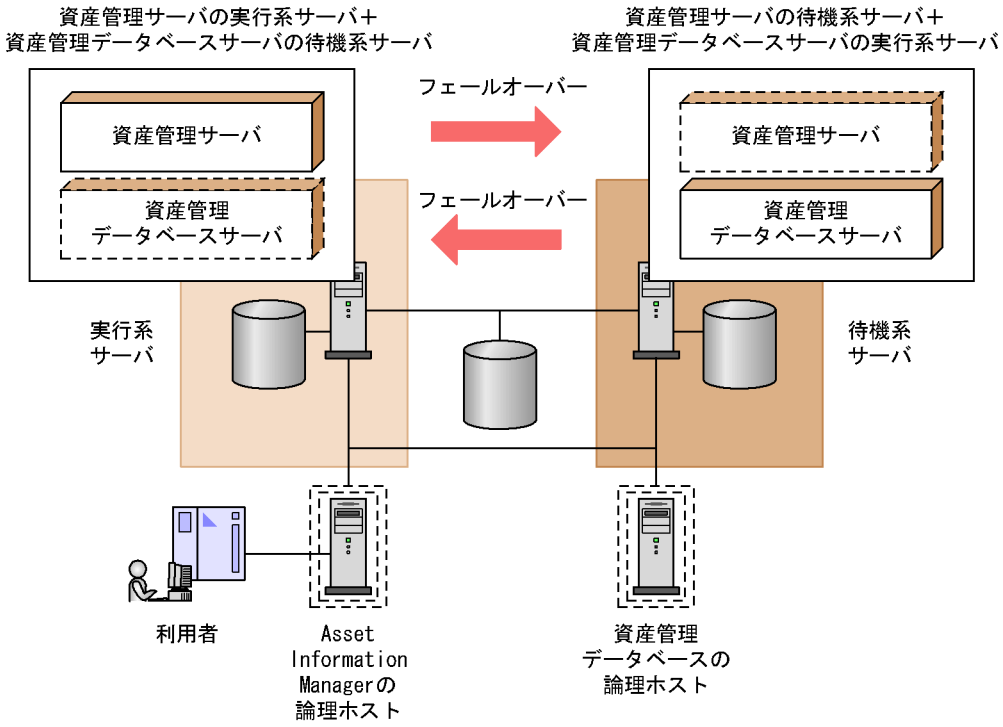
（2）実行系の資産管理サーバと資産管理データベースサーバを異なるノードに置く構成の場合

資産管理サーバと資産管理データベースサーバをそれぞれ独立したサーバで動作させる場合，お互いのサーバを待機系サーバとして設定できます。この構成にすると，両方のサーバに負荷分散しながら，トラブル発生時のフェールオーバーに対処できます。

なお，資産管理データベースに Embedded RDB を使用する場合，この構成には対応していません。

実行系の資産管理サーバと資産管理データベースを異なるノードに置く場合のシステム構成例を次の図に示します。

図 4-14 実行系の資産管理サーバと資産管理データベースを異なるノードに置く場合のシステム構成例



DBMS の論理ホストは，［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「サービス名」に指定したサーバを設定してください。また，データソースまたはネット・サービスの作成時も，ODBC ドライバの接続先（Microsoft SQL Server の場合「ODBC データソース名」）または NET Manager の接続先（ORACLE の場合「ネット・サービス名」）に同じサーバを指定してください。

5 インストールとセットアップ

この章では，Asset Information Manager のインストールおよびアンインストールについて説明します。また，Asset Information Manager を使用するためのセットアップ方法についても説明します。

5.1 Asset Information Manager のセットアップの流れ

5.2 Asset Information Manager のインストールとアンインストール

5.3 資産管理サーバの設定

5.4 資産管理データベースの作成

5.5 データソースまたはネット・サービスの作成

5.6 仮想ディレクトリの設定

5.7 資産管理サーバで使用するサービスの設定

5.8 Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用する場合の設定

5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定

5.10 メール通知を使用するための設定

5.11 操作画面で使用できるサンプルデータのインポート

5.12 資産管理データベース運用上の注意

5.13 クラスタシステムの環境構築手順

5.1 Asset Information Manager のセットアップの流れ

この節では，資産管理システムの環境をセットアップする流れについて説明します。資産管理システムの環境をセットアップする流れを，次の図に示します。

図 5-1 セットアップの流れ

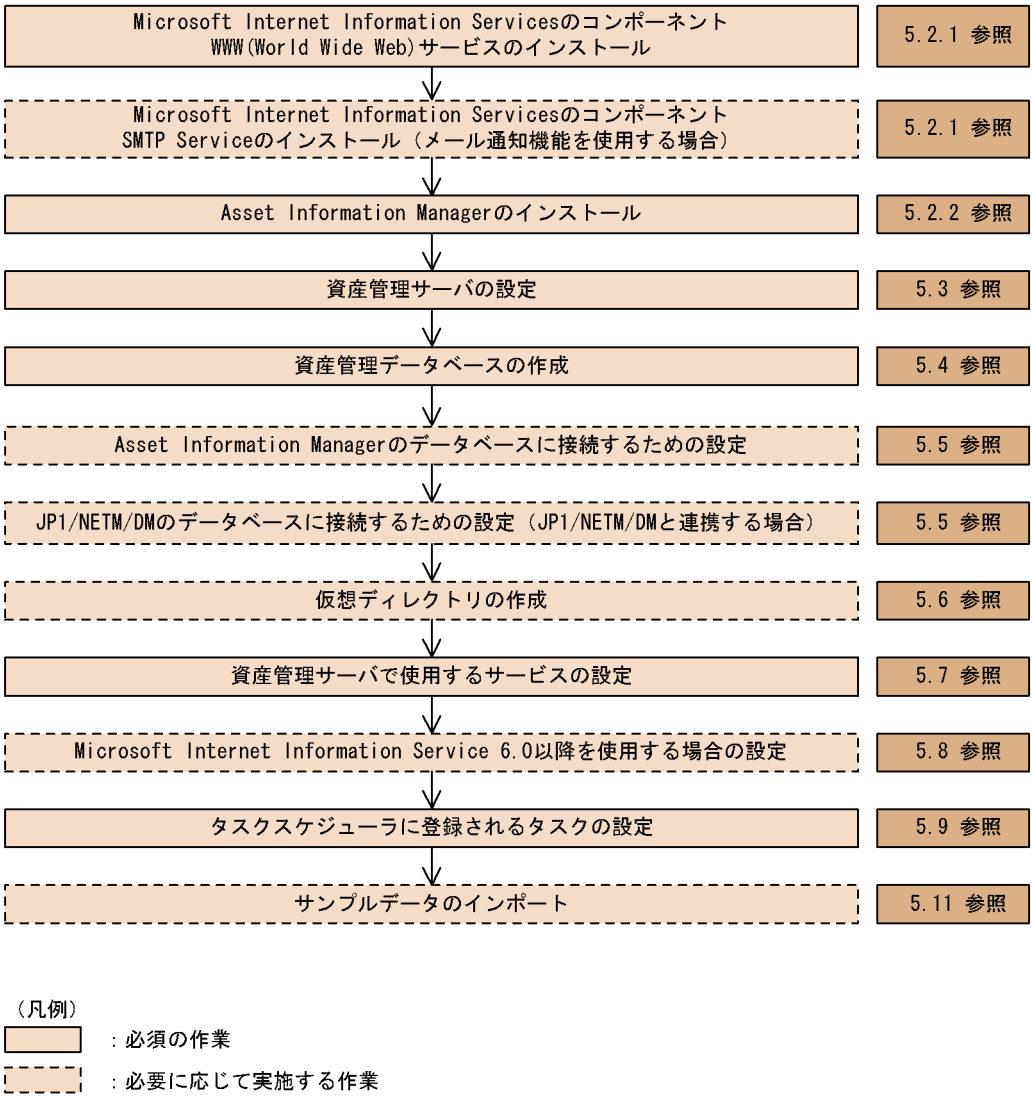


図 5-1 に示したセットアップの流れに従って，次の節以降でセットアップ方法を説明します。

注意事項

資産管理サーバの設定後，Windows のタスクスケジューラに作成されるタスク「データメンテナンス」を有効にする必要があります。タスクの詳細および設定方法については，「5.9　タスクスケジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

ポイント

テスト環境で登録したデータやシステム定義での設定を移行するには，業務メニュー「エクスポート」で資産管理データベースに登録した情報と設定情報を CSV ファイルに出力して，業務メニュー「インポート」で移行後の環境にインポートします。業務メニュー「エクスポート」および「インポート」の操作手順については，マニュアル「運用ガイド」の「4.11　資産情報を CSV 形式で出力する（エクスポート）」および「4.10　資産情報を一括で更新する（インポート）」を参照してください。

5.1.1　JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ

JP1/NETM/DM と連携するためには，Asset Information Manager のインストール時から，必要な設定があります。そのため，Asset Information Manager のセットアップと併せて，JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業についても，確認しておいてください。

1. **JP1/NETM/DM との連携用コンポーネントのインストール**
   Asset Information Manager のインストール時にインストールします。
2. **JP1/NETM/DM で使用している DBMS の種類の設定**
   Asset Information Manager のインストール時に設定します。
3. **JP1/NETM/DM との連携に必要な各種設定**
   JP1/NETM/DM のデータベースに接続するためのログイン ID およびサービス名，インベントリ情報を取得する際の引き当て方法，ソフトウェア名称の割り当て方法など，あらかじめ検討しておいた項目を［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。
   ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定項目の詳細については，「5.3.7　JP1/NETM/DM 連携の設定」を参照してください。
4. **データソースまたはネット・サービスの作成**
   JP1/NETM/DM のデータベースに接続するため，セットアップ時に，データソースまたはネット・サービスを作成します。データソースまたはネット・サービスの作成方法については「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。
5. **資産番号，ユーザ名，部署および設置場所の情報を取り込む設定**
   インベントリ情報を資産番号に設定する場合，およびユーザインベントリ情報からユーザ名，部署，設置場所を取り込む場合は，各項目に引き当てるインベントリ情報

を設定する必要があります。
また，これ以外にも，引き当て項目を変更したり，インベントリ情報から取得する情報を追加したりすることもできます。
管理項目へのインベントリ情報の引き当て方法については，「9.6　引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）」を参照してください。

6. **インベントリ情報を取得するサービスの開始**
サービス「Asset Information Synchronous Service」を開始します。この手順は，JP1/NETM/DM で更新されたインベントリ情報を，リアルタイムに資産管理データベースに反映する場合に必要です。
なお，初期導入時は，すべての管理対象機器のインベントリ情報を取得するため，終了するまでに時間が掛かります。
また，07-50 より前のバージョンの JP1/NETM/DM と連携する場合は，タスク「インベントリ情報の取込み」を使用してください。

7. **タスクの設定**
Windows のタスクスケジューラに登録されているタスクを利用して定期的にインベントリ情報を取得する場合は，タスク「インベントリ情報の取込み」を有効にします。このタスクと，サービス「Asset Information Synchronous Service」の併用は避けてください。
また，業務メニュー「プログラム起動履歴」および「ウィンドウタイトル変更履歴」を使用する場合は，タスク「操作履歴の取込み」を有効にします。業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」から操作ログを確認する場合は，タスクの設定は不要です。
どちらのタスクもデフォルトでは，無効になっています。
タスクの設定については，「5.9　タスクスケジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

注意事項

JP1/NETM/DM と連携する場合，JP1/NETM/DM のデータベースをアップグレードするときは，サービス，タスク，コマンドなど，Asset Information Manager で実行中の業務をすべて停止させてください。
Asset Information Manager のサービスは次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，JP1/NETM/DM のデータベースをアップグレードしたあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。
さらに，ODBC データソースで，接続プールが設定されていると，Asset Information Manager の業務を停止させてから，接続プールで設定されているタイムアウトの時間が経過するまで接続状態が継続されます。そのため，接続状態が解

除されるまで待ってから，アップグレードを実行してください。

5.2 Asset Information Manager のインストールとアンインストール

この節では，資産管理システムを運用するときに利用するプログラムのインストール方法について説明します。また，Asset Information Manager のアンインストール方法についても説明します。

5.2.1 前提プログラムのインストール

(1) 資産管理サーバに必要なプログラムのインストール

● Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional **または** Windows 2000

Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional および Windows 2000 のインストールについては，それぞれのインストールに関するマニュアルおよびオンラインヘルプの記述を参照してください。

● Microsoft Internet Information Services

Microsoft Internet Information Services のインストールについては，Windows のマニュアルで Microsoft Internet Information Services のインストール方法に関する記述を参照してください。

● Simple Mail Transport Protocol（SMTP）

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を，資産管理者にメールで通知する場合，または案件を送付したことを次の作業者にメールで通知する場合にインストールします。Simple Mail Transport Protocol（SMTP）のインストールについては，Windows のマニュアルを参照してください。

● Microsoft SQL Server **または** ORACLE

資産管理データベースに，Microsoft SQL Server または ORACLE を使用する場合にインストールします。Microsoft SQL Server のインストールについては Microsoft SQL Server のマニュアルを，ORACLE のインストールについては ORACLE のマニュアルを参照してください。

資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散して運用する場合，次のプログラムを資産管理サーバにインストールしてください。

- **Microsoft SQL Server の場合**
  ODBC ドライバ（3.70.8.20 以降）
- **ORACLE の場合**
  ORACLE のクライアント

Microsoft SQL Server または ORACLE の環境設定時には，次の点に注意してください。

Microsoft SQL Server の環境設定時の注意

- 環境設定時，認証モードには，「混合モード」を選択してください。
- 環境設定時，サーバとクライアントには，同じプロトコルを設定してください。
- Microsoft SQL Server のカスタムインストール時（Microsoft SQL Server 2005 の場合はインストール時）に，照合順序を設定できます。
  照合順序を「バイナリ順」に設定すると，大文字と小文字，全角と半角，かたかなとひらがなが区別されて，資産情報が検索および登録されます。
  また，Microsoft SQL Server 2005 および Microsoft SQL Server 2000 の場合，JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取得する際にも，この設定が有効になるため，インストールソフトウェア名などを正確に引き当てることができます。Microsoft SQL Server 7.0 で，照合順序を設定する場合は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥env に格納されている opt.ini も，併せて変更してください。
  opt.ini の「DB=」で始まる文のうち，該当する照合順序のコメント文字；（セミコロン）を削除し，該当しない照合順序に；（セミコロン）を付けてコメントにしてください。

ORACLE の環境設定時の注意

サーバとクライアントは，同じプロトコルを設定してください。また，データベース・キャラクタ・セットを「JA16SJIS」に設定してください。

（2）クライアントに必要な前提プログラムのインストール

● Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以降

Microsoft Internet Explorer のインストールについては，Microsoft Internet Explorer のインストールに関する説明内容を参照してください。

5.2.2 Asset Information Manager のインストール

Asset Information Manager のインストール方法について説明します。

（1）インストール時の注意事項

Asset Information Manager をインストールする際の注意事項を次に示します。Asset Information Manager をバージョンアップする場合は，「付録 D.1(3) Asset Information Manager の上書きインストール」を参照してください。

- 次の製品がインストールされているマシンにはインストールできません。
  - JP1/Asset Manager および JP1/NETM/Asset Manager
  - JP1/NETM/Asset Information Manager Smart Edition
  - JP1/NETM/Asset Information Manager for Blade PC
- WSUS 連携コンポーネントは，JP1/NETM/DM との共通コンポーネントのため，JP1/NETM/DM Manager の WSUS 連携機能コンポーネントがインストールされているマシンには，インストールできません。Asset Information Manager の WSUS 連携

コンポーネントをインストールする場合は，JP1/NETM/DM の WSUS 連携機能コンポーネントをアンインストールしてからインストールしてください。

- コンポーネントの追加および削除をする場合は，メンテナンスの画面で「変更」を選択します。すでにインストールされているコンポーネントを再インストールする場合は，メンテナンスの画面で「修正」を選択します。同一バージョンで再インストールするとき，「変更」を選択すると，すでにインストールされているコンポーネントは上書きされません。
- 再インストール時は，次の設定は変更できません。
  - プログラムフォルダ
  - 資産管理サーバの仮想ディレクトリ
  - SSL の使用
- コンポーネントの追加および削除をする場合に，インストール中に［キャンセル］ボタンをクリックしてインストールを中断したときは，必ず再度 Asset Information Manager をインストールしてください。
- 資産管理サーバを上書きインストールすると，サービス「Asset Information Synchronous Service」の「スタートアップの種類」は，「手動」に設定されます。必要に応じて「自動」に変更してください。
- JP1/NETM/DM で Asset Information Manager をリモートインストールする際，新規インストールでは資産管理データベース，インベントリ情報を取り込むための JP1/NETM/DM のデータベースは，Microsoft SQL Server が仮定されます。すでに Asset Information Manager がインストールされている場合は，既存の設定に従ってインストールされます。
- 資産管理データベースに Embedded RDB を選択した場合，インストール先のドライブの直下に「tmp」フォルダが作成されます。「tmp」フォルダは，Embedded RDB を使用する場合に必要ですので，削除しないでください。
- 資産管理データベースに Embedded RDB を選択した場合，インストールしたあとに，データベースのバックアップをリストアするときに，使用するドライブ名が違ったり，インストールフォルダが違ったりすると，リストアできません。別のマシンなどでバックアップしたデータベースを利用する場合は，バックアップを取得したときと同一のパスになるようにインストールしてください。
- Windows XP Professional SP2 に Asset Information Manager をインストールすると，Windows Firewall によって，セキュリティ上の警告メッセージが表示されます。警告メッセージが表示された場合は，ブロックを解除するなどの対策をしてください。
- 再起動が必要な場合は再起動要求のダイアログが表示されるので，使用する前に再起動してください。

(2) インストール前の作業

Asset Information Manager をインストールする前に，次の作業を実施してください。

- Administrators 権限を持つユーザで Windows Server 2008，Windows Server 2003，Windows XP Professional または Windows 2000 にログオンする。
- タスクスケジューラのサービスを起動する。

Asset Information Manager が提供するタスクを Windows のタスクスケジューラに登録するには，サービス「Task Scheduler」を起動させておく必要があります。

- サービス，コマンドおよびタスクを停止する。
  コンポーネント「資産管理サーバ」をインストールする場合，またはメンテナンスの画面で「変更」を選択して，コンポーネント「資産管理サーバ」をインストールしない設定に変更する場合，Asset Information Manager のサービス，コマンドおよびタスクをすべて停止してください。
  Asset Information Manager のサービスは，新規インストールの場合，World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing を停止してください。
  上書きインストールの場合は次に示す順で停止してください。
  1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
  2. Asset Information Synchronous Service
  3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

  また，操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。
- 32 ビットのアプリケーションを動作させるための設定をする。
  Windows Server 2003 (x64) に Asset Information Manager をインストールする場合は，32 ビットのアプリケーションを動作させるための設定が必要です。
  コマンドプロンプトで，カレントディレクトリを
  `%windir%¥Inetpub¥AdminScripts` に移動したあと，次のコマンドを実行してください。
  ```
  cscript.exe adsutil.vbs set W3SVC/AppPools/Enable32BitAppOnWin64
  "true"
  ```
- Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用する場合，仮想ディレクトリが自動作成されるよう，Asset Information Manager をインストールする前に必要な役割サービスをインストールしておくことをお勧めします。Asset Information Manager をインストールしたあとで必要な役割サービスをインストールしても，仮想ディレクトリが自動作成されないので注意してください。役割サービスのインストール方法については，「5.8.2(1)　役割サービスのインストール」を参照してください。

(3) インストール手順

Asset Information Manager のインストール手順を次に示します。

1. **提供媒体を** CD-ROM **ドライブに入れる。**
   起動したインストーラの指示に従ってインストールを進めます。インストール時には，インストールフォルダを設定します。
   インストーラを起動すると，インストールする対象を選択するダイアログが表示されるので，Asset Information Manager を選択します。
2. **［インストール実行］ボタンをクリックする。**
   インストールの開始を確認するダイアログが表示されます。

3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   Asset Information Manager のインストールを開始するダイアログが表示されます。

4. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   ユーザ情報を入力するダイアログが表示されます。

5. **ユーザ名，会社名を入力する。**

6. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   インストール先のフォルダを指定するダイアログが表示されます。

7. **インストール先のフォルダを指定する。**
   指定したフォルダにインストールされます。デフォルトのインストール先は，C:¥Program Files¥HITACHI¥jp1asset です。C: は，OS がインストールされているドライブ名です。

8. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   インストールするコンポーネントを選択するダイアログが表示されます。

9. **インストールするコンポーネントのチェックボックスにチェックする。**
   メンテナンスの場合，すでにインストールされているコンポーネントのチェックを外すと，該当するコンポーネントは削除されます。

10. **［次へ］ボタンをクリックする。**
    資産管理サーバの仮想ディレクトリを設定するダイアログが表示されます。
    ファイルを大量にアップロードする場合や，クラスタ構成で仮想ディレクトリを共有フォルダにする必要がある場合など，仮想ディレクトリを変更する場合は仮想ディレクトリに設定するフォルダを指定してください。

11. **［次へ］ボタンをクリックする。**
    資産管理データベースの種類を選択するダイアログが表示されます。

12. **資産管理データベースで使用するデータベースを選択する。**
    デフォルトでは，Microsoft SQL Server が選択されています。

13. **［次へ］ボタンをクリックする。**
    JP1/NETM/DM のデータベースの種類を選択するダイアログが表示されます。
    このダイアログは，「JP1/NETM/DM 連携」のコンポーネントをチェックした場合に表示されます。

14. **JP1/NETM/DM で使用するデータベースを選択する。**
    デフォルトでは，Microsoft SQL Server が選択されています。

15. **［次へ］ボタンをクリックする。**
    連携する他製品から資産管理サーバに接続するための，ホスト名とポート番号を指定するダイアログが表示されます。このダイアログは，「他製品連携」のコンポーネントをチェックした場合に表示されます。

16. **「ホスト名」，「ポート番号」を指定する。**

17. **［次へ］ボタンをクリックする。**

SSL を使用するかどうかを選択するダイアログが表示されます。このダイアログは，「他製品連携」のコンポーネントをチェックした場合に表示されます。

18. **SSL を使用するかどうかを選択する。**

19. **［次へ］ボタンをクリックする。**
WSUS 連携コンポーネントのインストール用 Web サイトの情報を指定するダイアログが表示されます。このダイアログは，「WSUS 連携」のコンポーネントをチェックした場合に表示されます。

20. **「サイト」，「ディレクトリ」を指定する。**
「サイト」には，有効な Web サイト名を指定します。また，「ディレクトリ」には，Web サイトに作成する仮想ディレクトリ名を指定します。デフォルトでは，Web サイト名は「既定の Web サイト」，仮想ディレクトリ名は「netmWS」です。

21. **［次へ］ボタンをクリックする。**
プログラムフォルダを確認するためのダイアログが表示されます。プログラムアイコンを追加するフォルダを確認してください。デフォルトのフォルダ名は「Asset Information Manager」です。

22. **［次へ］ボタンをクリックする。**
現在の設定内容を確認するためのダイアログが表示されます。設定内容を確認してください。

23. **［次へ］ボタンをクリックする。**
インストールが始まります。
インストールが終了すると，インストールが終了したことを通知するダイアログが表示されます。
また，コンピュータを再起動するかどうかを確認するダイアログが表示された場合は，使用する前にコンピュータを再起動してください。再起動しない状態では，動作に必要な環境情報が設定されていないため，資産管理サーバが正しく動作しません。

5.2.3 Asset Information Manager のアンインストール

この項では，Asset Information Manager のアンインストール方法について説明します。アンインストールする前に，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

注意事項

- アンインストールしても，インストールフォルダやファイル，Microsoft Internet Information Services の仮想ディレクトリが削除されないで残ることがあります。

再インストールする場合は，残ったフォルダを削除してください。

- 資産管理データベースが Microsoft SQL Server または ORACLE の場合は，Asset Information Manager をアンインストールしても資産管理データベース内のテーブルは削除されません。削除する場合は，DBMS の機能を使用して削除してください。
  Embedded RDB の場合は，アンインストールすると資産管理データベース内のテーブルも削除されます。アンインストール後に使用する場合は，あらかじめバックアップを取得しておいてください。
  データベースのバックアップの取得方法については，「11.13.3(1) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ」を参照してください。

Asset Information Manager をアンインストールする手順を次に示します。

1. **コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」（または「プログラムの追加と削除」）を開いて「Asset Information Manager」をポイントし，ラジオボタン「削除」をクリックする。**
   削除を確認するダイアログが表示されます。
2. **［はい］ボタンをクリックする。**
   Asset Information Manager がアンインストールされます。ただし，インストール後に作成したファイルまたはフォルダは削除されません。
   アンインストールが終了すると，アンインストールが終了したことを通知するダイアログが表示されます。

5.3 資産管理サーバの設定

Asset Information Manager では，セットアップに必要な情報を［サーバセットアップ］ダイアログで設定します。この節では，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定内容と手順について説明します。

［サーバセットアップ］ダイアログでは，次に示す項目を設定します。

- **データベース情報**
  資産管理データベースに接続するためのログイン ID やサービス名などを設定します。
- **セッション情報**
  強制ログアウトさせる時間および同時にログインできるユーザ数を設定します。
- **基本情報**
  操作画面の表示項目，操作時の上限値などを設定します。
- **メール通知情報**
  メール通知するための送信先アドレスなどを設定します。
- **ディレクトリサーバ連携**
  ディレクトリサーバで使用する文字コードの種別を設定します。
- JP1/NETM/DM **連携**
  JP1/NETM/DM と連携して，インベントリ情報を収集するためのログイン ID やサービス名などを設定します。また，ソフトウェアを配布するための，ジョブ格納フォルダ名も設定します。この設定は，JP1/NETM/DM と連携する場合にだけ必要です。
- NNM **連携**
  連携する Network Node Manager のバージョンを設定します。この設定は，Network Node Manager と連携する場合にだけ必要です。
- JP1/IM **連携**
  JP1/IM - CM と連携するかどうかを設定します。この設定は，JP1/IM - CM と連携する場合にだけ必要です。
- NetInsight II **連携**
  NetInsight II と連携して，フロアレイアウト図を参照するかどうか，および連携するためのキー情報を設定します。この設定は，NetInsight II と連携する場合にだけ必要です。
- JP1/Lan Licenser **連携**
  JP1/Lan Licenser と連携して，ソフトウェア稼働情報を収集するためのログイン ID やサービス名を設定します。この設定は，JP1/Lan Licenser と連携する場合にだけ必要です。
- JP1/ **秘文連携**
  JP1/ 秘文 LogManager と連携するかどうかを設定します。また，JP1/ 秘文 LogManager と連携して，操作ログを参照するためのログイン ID やサービス名を設定します。
- WSUS **連携**
  連携する WSUS サーバの URL を設定します。この設定は，WSUS サーバと連携する

場合にだけ必要です。

デフォルトの設定を変更しない場合でも必ず設定を確認する項目を，連携する製品別に次の表に示します。

表 5-1 連携製品別の必須設定項目一覧

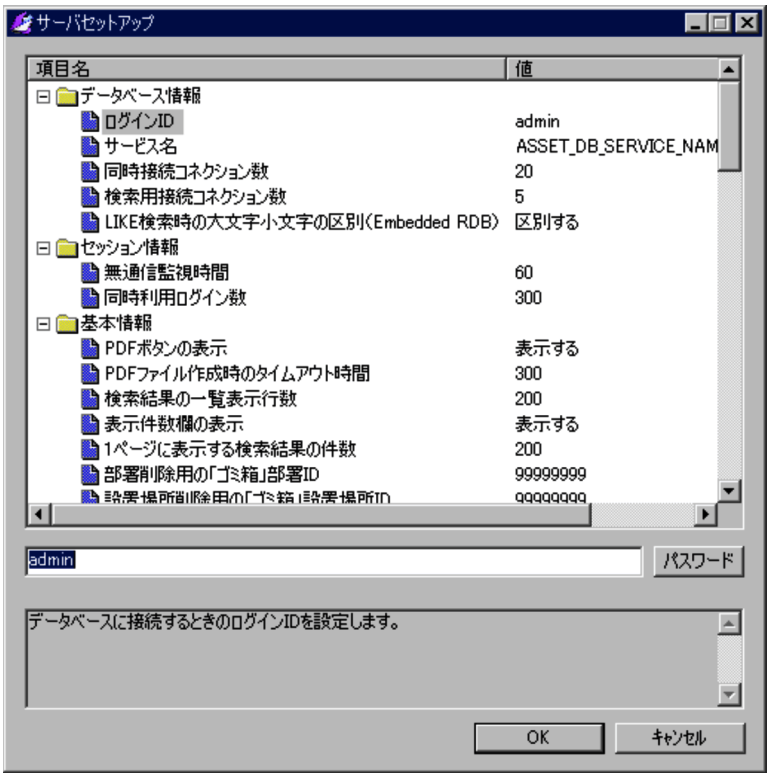
連携する製品	セットアップ項目	
共通	データベース情報	• ログイン ID • サービス名
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM 連携	• JP1/NETM/DM データベースログイン ID • JP1/NETM/DM データベース接続サービス名 • JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名
JP1/Lan Licenser	JP1/Lan Licenser 連携	• JP1/Lan Licenser データベースログイン ID • JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名
Network Node Manager	NNM 連携	• NNM バージョン • オープンマップ名 • 接続先サーバ名
JP1/IM - CM	JP1/IM 連携	• JP1/IM - CM との連携設定
NetInsight II	NetInsight II 連携	• NetInsight II 連携のキー
JP1/ 秘文	JP1/ 秘文連携	• JP1/ 秘文との連携設定 • JP1/ 秘文データベースログイン ID • JP1/ 秘文データベース接続サービス名

5.3.1 ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定

ここでは，［サーバセットアップ］ダイアログの各項目を設定する手順について説明します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「サーバセットアップ」のアイコンをクリックする。**
   ［サーバセットアップ］ダイアログが表示されます。
3. **一覧から設定したい項目を選択する。**
   選択した項目の値を設定する入力領域やドロップダウンリストが，一覧の下に表示されます。

図 5-2　［サーバセットアップ］ダイアログ



4. **使用する環境に合わせて値を設定する。**
   なお，次に示す項目を設定する場合は，［パスワード］ボタンをクリックすると表示される［パスワード設定］ダイアログで，パスワードを設定してください。
   - 「データベース情報」の「ログイン ID」
   - 「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」
   - 「JP1/Lan Licenser 連携」の「JP1/Lan Licenser データベースログイン ID」
   - 「JP1/ 秘文連携」の「JP1/ 秘文データベースログイン ID」

5. **［OK］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で資産管理サーバの環境が設定されて，［サーバセットアップ］ダイアログが閉じます。
   環境設定をしないで［サーバセットアップ］ダイアログを閉じるには，［キャンセル］ボタンをクリックします。

5.3.2　データベース情報の設定

「データベース情報」では，資産管理データベースに接続するためのログイン ID やサービス名などを設定します。

「データベース情報」で設定する項目を次に示します。

(1) ログイン ID

「ログイン ID」では，データベース接続ユーザのログイン ID を設定します。データベースの作成方法については，「5.4　資産管理データベースの作成」を参照してください。

また，［パスワード設定］ダイアログでパスワードを設定します。

この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 29 バイトの文字です（「ログイン ID」およびパスワード）。ただし，Embedded RDB の場合，「ログイン ID」には 1 ～ 8 バイトの文字を指定してください。デフォルトは，「ログイン ID」およびパスワードのどちらも「admin」です。
「ログイン ID」およびパスワードに指定する値には，DBMS の種類によって制限があります。各 DBMS での制限を次の表に示します。

表 5-2 「ログイン ID」およびパスワードの制限

DBMS の種類	制限
Microsoft SQL Server	「!」，「(」，「)」，「*」，「,」，「;」，「=」，「?」，「@」，「[」，「]」，「{」，「}」および半角スペースは指定できません。
Embedded RDB	先頭の文字には，必ず半角英字を指定してください。
ORACLE	「"」は指定できません。

ここで設定した値は，次に示すダイアログの「接続ユーザ ID」に反映されます。ただし，資産管理データベースの新規作成後に値を変更した場合は，データソースまたはネット・サービスを再作成してください。

- データベースの基本設定のダイアログ
- データソースを作成するダイアログ（Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合）
- ネット・サービスを作成するダイアログ（ORACLE の場合）

(2) サービス名

「サービス名」では，資産管理用のサービス名を設定します。

この項目は，必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 63 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは「ASSET_DB_SERVICE_NAME」です。
「サービス名」に指定する値には，DBMS の種類によって制限があります。各 DBMS での制限を次の表に示します。

表 5-3 「サービス名」の制限

DBMS の種類	制限
Microsoft SQL Server および Embedded RDB	「!」,「(」,「)」,「*」,「,」,「;」,「=」,「?」,「@」,「[」,「]」,「{」,「}」および半角スペースは指定できません。
ORACLE	「!」,「"」,「#」,「$」,「%」,「&」,「'」,「(」,「)」,「*」,「+」,「,」,「/」,「:」,「;」,「<」,「=」,「>」,「?」,「@」,「[」,「¥」,「]」,「^」,「`」,「{」,「|」,「}」,「~」および半角スペースは指定できません。

ここで設定した値は，次に示すダイアログの「ODBC データソース名」および「ネット・サービス名」に反映されます。ただし，資産管理データベースの新規作成後に値を変更した場合は，データソースまたはネット・サービスを再作成してください。

- データベースの基本設定のダイアログ
- データソースを作成するダイアログ（Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合）
- ネット・サービスを作成するダイアログ（ORACLE の場合）

（3） 同時接続コネクション数

「同時接続コネクション数」では，データベースに同時に接続するコネクション数を設定します。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

1 ～ 64 です。デフォルトは 20 です。この項目では，「データベース情報」の「検索用接続コネクション数」よりも大きい値を指定してください。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

（4） 検索用接続コネクション数

「検索用接続コネクション数」では，データベースに長時間接続する必要のあるトランザクションが同時に接続できるコネクション数を設定します。この設定をすることで，検索要求といった，長時間のトランザクションによるデータベース接続の占有を防げます。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

1 ～ 64 です。デフォルトは 5 です。この項目では，「データベース情報」の「同時接続コネクション数」よりも小さい値を指定してください。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

（5） LIKE 検索時の大文字小文字の区別（Embedded RDB）

「LIKE 検索時の大文字小文字の区別（Embedded RDB）」では，Embedded RDB を使用している場合，前方一致および後方一致を含む部分一致で検索するときに，大文字と小文字を区別するかどうかを設定します。

● 指定できる値

- **「区別する」**（デフォルト）
  大文字と小文字を区別します。
- **「区別しない」**
  大文字と小文字を区別しません。

5.3.3 セッション情報の設定

「セッション情報」では，強制ログアウトさせる時間，および同時にログインできるユーザ数を設定します。

「セッション情報」で設定する項目を次に示します。

(1) 無通信監視時間

「無通信監視時間」では，WWW ブラウザから一定時間操作しない場合に，強制ログアウトするまでの時間を設定します。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

1 ～ 2,880 分です。デフォルトは 60 分です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

(2) 同時利用ログイン数

「同時利用ログイン数」では，Asset Information Manager を同時に利用できるログインユーザ数を設定します。

この項目は，必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 100,000 です。デフォルトは 300 です。

5.3.4 基本情報の設定

「基本情報」では，操作画面に表示される項目，操作を実行する際の上限値などを設定します。

「基本情報」で設定する項目を次に示します。

(1) PDF ボタンの表示

「PDF ボタンの表示」では，EUR と連携して，［PDF］ボタンから PDF ファイルを表示するかどうかを選択します。

EUR と連携する場合，「表示する」を指定してください。

● 指定できる値

- **「表示する」**（デフォルト）
  ［PDF］ボタンを表示します。
- **「表示しない」**
  ［PDF］ボタンを表示しません。

（2） PDF ファイル作成時のタイムアウト時間

「PDF ファイル作成時のタイムアウト時間」では，EUR と連携して，PDF ファイルを作成する際の終了時間を設定します。ここで設定した時間を超過した場合は，PDF ファイルの作成処理がキャンセルされます。

この項目に 0 を設定した場合，PDF ファイルの作成処理を終了するまで待ちます。ただし，WWW ブラウザの応答待ち時間のタイムアウトよりも PDF ファイルの作成に時間が掛かる場合，WWW ブラウザとの接続が中断され，PDF ファイルの作成が中断されることがあります。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

0 ～ 99,999 秒です。デフォルトは 300 秒です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

（3） 検索結果の一覧表示行数

「検索結果の一覧表示行数」では，操作画面で検索した結果の一覧の表示件数を設定します。この設定は，検索結果がページで区切られていない画面に適用されます。検索結果がページで区切られている画面名は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help¥ScreenWithPage.pdf を参照してください。ScreenWithPage.pdf に記載されていない画面に，この設定が適用されます。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

1 ～ 1,000 件です。デフォルトは 200 件です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

（4） 表示件数欄の表示

「表示件数欄の表示」では，1 ページに表示する検索結果の件数を指定する「表示件数」の欄を，操作画面上に表示するかどうかを選択します。この設定は，検索結果がページで区切られて表示される画面のうち，検索を実行する画面に適用されます。検索結果がページで区切られている画面名は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help¥ScreenWithPage.pdf を参照してください。

● 指定できる値

- **「表示する」**（デフォルト）
  「表示件数」の欄を表示します。

- **「表示しない」**
  「表示件数」の欄を表示しません。1 ページ当たりに表示される検索結果の件数は，［サーバセットアップ］ダイアログの「基本情報」の「1 ページに表示する検索結果の件数」で設定した値で固定となります。

(5) 1 ページに表示する検索結果の件数

「1 ページに表示する検索結果の件数」では，操作画面で検索した結果の，1 ページに表示する件数を設定します。この設定は，検索結果がページで区切られて表示される画面に適用されます。検索結果がページで区切られている画面名は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help¥ScreenWithPage.pdf を参照してください。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

1 ～ 1,000 件です。デフォルトは 200 件です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

(6) 部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID

部署を削除した場合に，削除した部署に登録されていたユーザ情報を一時退避するために「ゴミ箱」という部署が自動的に作成されます。「部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID」では，「ゴミ箱」の部署 ID を設定します。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

0 ～ 64 文字の英数字です。デフォルトは，「99999999」です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

(7) 設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID

設置場所を削除した場合に，削除した設置場所を一時退避するために「ゴミ箱」という設置場所が自動的に作成されます。「設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID」では，「ゴミ箱」の設置場所 ID を設定します。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

0 ～ 64 文字の英数字です。デフォルトは，「99999999」です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

(8) ライセンス超過のしきい値

「ライセンス超過のしきい値」では，ソフトウェアのライセンスを超過して使用した場合に送信される警告のしきい値を設定します。しきい値は，%（パーセント）で設定します。保有数を超過して使用しているライセンスの通知方法については，「5.9.1　タスクの

種類」を参照してください。

タスクスケジューラを使用して，ライセンス超過のメールを通知する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

0 ～ 100% です。デフォルトは 100% です。

(9) 自動ログインの設定

「自動ログインの設定」では，Network Node Manager などの連携製品から Asset Information Manager の情報を参照するときのログイン画面に，「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示するかどうかを選択します。

「次回以降は自動的にログインする」にチェックしてログインすると，Cookie の有効期限内は，ログイン画面での「ユーザ ID」と「パスワード」の指定を省略できます。

● 指定できる値

- **「表示する」**（デフォルト）
  「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示します。
- **「表示しない」**
  「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示しません。

(10) Cookie 有効期限日数

「Cookie 有効期限日数」では，Network Node Manager などの連携製品から Asset Information Manager の資産情報を参照する際，ログイン時の「ユーザ ID」と「パスワード」を保存して，次回から自動的にログインできる期限を日数で指定します。

なお，この項目は設定を省略できます。

● 指定できる値

1 ～ 365 日です。デフォルトは 14 日です。空白を指定した場合は，デフォルトの値が設定されます。

(11) 部署別 IP グループを使用した部署の設定

「部署別 IP グループを使用した部署の設定」では，IP アドレスに合わせて，機器を使用している部署を設定するかどうかを選択します。IP アドレスに対応する部署は，業務メニュー「IP グループ管理」で登録します。また，「部署」は，ハードウェア資産情報の「IP アドレス」に合わせて設定されます。

この設定は，サービス「Asset Information Synchronous Service」，タスク「インベントリ情報の取込み」，タスク「ノード情報の取込み」およびタスク「データメンテナンス」の実行時に有効になります。ただし，タスク「データメンテナンス」の実行時に有効にするには，設定ファイル（taskopt.ini）を変更する必要があります。設定ファイルの変更方法については，「5.9.3(3)　実施する作業の変更」を参照してください。

● 指定できる値

- **「設定しない」**（デフォルト）
  IP アドレスに対応した機器の「部署」は設定されません。
- **「設定する」**
  IP アドレスに対応する部署が，機器の「部署」として設定されます。すでに値が設定されていても，対応する IP グループの部署の値で上書きされます。
  業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて「部署」を更新する場合は，この値を指定してください。
- **「部署が未設定のときのみ設定する」**
  機器の「部署」が登録されていないときだけ，IP アドレスに対応する部署が設定されます。
  主に，新規登録の機器に「部署」を設定したい場合などに，指定してください。

注意事項

「設定する」を選択した場合でも，JP1/NETM/DM のユーザインベントリから取得した値，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログで入力した値が設定されている場合は，上書きされません。そのため，すべての機器に対応する IP グループの部署の値を設定したい場合は，業務メニュー「一括変更」で，一度すべての「部署」の値を削除してください。また，業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」で，「部署情報 . 部署名」の「上書き設定」が「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」に設定されていることを確認してください。

参考

タスク「データメンテナンス」を使用することで，JP1/NETM/DM のユーザインベントリから取得した値，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログで入力した値が設定されている場合でも，業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて部署を更新できます。タスク「データメンテナンス」での設定方法については，「5.9.3　タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定」を参照してください。

（12）設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定

「設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」では，IP アドレスに対応する設置場所を機器の「設置場所」に設定するかどうかを選択します。IP アドレスに対応する設置場所は，業務メニュー「IP グループ管理」で登録します。また，「設置場所」は，ハードウェア資産情報の「IP アドレス」に合わせて設定されます。

この設定は，サービス「Asset Information Synchronous Service」，タスク「インベントリ情報の取込み」，タスク「ノード情報の取込み」およびタスク「データメンテナンス」の実行時に有効になります。ただし，タスク「データメンテナンス」の実行時に有効にするには，設定ファイル（taskopt.ini）を変更する必要があります。設定ファイルの変更方法については，「5.9.3(3)　実施する作業の変更」を参照してください。

● 指定できる値

- **「設定しない」**（デフォルト）
  IP アドレスに対応した機器の「設置場所」は設定されません。
- **「設定する」**
  IP アドレスに対応する設置場所が，機器の「設置場所」として設定されます。すでに値が設定されていても，対応する IP グループの設置場所の値で上書きされます。業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて「設置場所」を更新する場合は，この値を指定してください。
- **「設置場所が未設定のときのみ設定する」**
  機器の「設置場所」が登録されていないときだけ，IP アドレスに対応する設置場所が設定されます。
  主に，新規登録の機器に「設置場所」を設定したい場合などに，指定してください。

注意事項

「設定する」を選択した場合でも，JP1/NETM/DM のユーザインベントリから取得した値，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログで入力した値が設定されている場合は，上書きされません。そのため，すべての機器に対応する IP グループの設置場所の値を設定したい場合は，業務メニュー「一括変更」で，一度すべての「設置場所」の値を削除してください。また，業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」で，「設置場所情報 . 設置場所名」の「上書き設定」が「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」に設定されていることを確認してください。

参考

タスク「データメンテナンス」を使用することで，JP1/NETM/DM のユーザインベントリから取得した値，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログで入力した値が設定されている場合でも，業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて設置場所を更新できます。タスク「データメンテナンス」での設定方法については，「5.9.3　タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定」を参照してください。

（13）DHCP アドレスの変更履歴の取得

「DHCP アドレスの変更履歴の取得」では，機器の IP アドレスを変更した際に取得する変更履歴のうち，DHCP で割り当てられた IP アドレスの変更履歴を取得するかどうかを選択します。

● 指定できる値

- **「取得する」**
  機器の IP アドレスの変更を，すべて変更履歴として取得します。
- **「取得しない」**（デフォルト）
  機器の IP アドレスの変更のうち，DHCP で割り当てた IP アドレスの変更は，変更履歴として取得しません。ただし，ネットワークカードの追加・削除による MAC アドレス追加・削除時には，このオプションを選択しても，変更履歴を取得します。

DHCP サーバを使用している機器と判定されるのは，次のうちどれかに該当する場合です。

- 該当する機器に割り当てたネットワーク情報に，「DHCP サーバ名」が設定されている。
- IP アドレスが，業務メニュー「IP グループ管理」で DHCP 運用のグループとして定義された IP アドレスの範囲に含まれている。
- JP1/NETM/DM から取得したインベントリ情報で，DHCP が有効になっている機器の MAC アドレスに割り当てられた IP アドレス。

（14）契約履歴の取得

「契約履歴の取得」では，契約情報の登録内容を契約履歴として管理するかどうかを選択します。

● 指定できる値

- **「取得する」**
  新規契約登録画面での登録時，および［契約詳細］ダイアログで契約情報を更新する際に，契約履歴が登録されるようになります。［契約詳細］ダイアログで契約情報を更新する際は，契約履歴として登録するかどうかを選択できます。また，［契約詳細］ダイアログに［履歴情報］ボタンが表示されて，履歴情報を参照できるようになります。
- **「取得しない」**（デフォルト）
  契約情報を登録および更新しても，履歴を取得しません。また，［契約詳細］ダイアログに［履歴情報］ボタンは表示されません。

（15）操作ログの検索結果取得件数

「操作ログの検索結果取得件数」では，検索に時間が掛かり過ぎるのを防ぐため，JP1/NETM/DM と JP1/ 秘文のテーブルごとの，操作ログを検索する件数を指定します。

操作ログを管理しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

1 ～ 100,000 件です。デフォルトは 5,000 件です。

（16）操作ログ一覧の検索期間の警告

「操作ログ一覧の検索期間の警告」では，検索に時間が掛かり過ぎるのを防ぐため，業務メニュー「操作ログ一覧」での検索期間に対して，警告する範囲を設定します。「検索期間（開始）」から「検索期間（終了）」までに設定した時間が，この項目で設定した時間を超えている場合，警告が表示されます。なお，この項目に 0 を設定した場合，警告は表示されません。

操作ログを管理しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

0 ～ 10,080 分です。デフォルトは 60 分です。

（17）トレース時の表示階層

「トレース時の表示階層」では，業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」で操作を追跡する際に，バックトレースアイコンまたはフォワードトレースアイコンを選択して一度に表示される階層の数を設定します。

操作ログを管理しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

0 ～ 10 階層です。デフォルトは 10 階層です。0 を設定した場合は，すべての階層が表示されます。

（18）トレース時間範囲の設定

「トレース時間範囲の設定」では，業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」である機器に対するネットワーク経由の操作を追跡する場合に，同時刻と見なす時間の範囲を設定します。

操作ログを管理しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

0 ～ 300 秒です。デフォルトは 60 秒です。この場合，基準となるノードから前後それぞれ 60 秒が同時刻と見なされます。

（19）Asset Information Manager の URL

「Asset Information Manager の URL」では，タスク「WSUS 更新プログラム通知」を利用して管理者にメール通知する場合，そのメールに記載される URL を指定します。

WSUS サーバと連携して更新プログラムの到着をメールで通知する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

次に示す形式で指定してください。

`http://` 資産管理サーバ名 `[:` ポート番号 `]/jp1asset/`

URL は，一つだけ指定できます。また，ポート番号は省略できます。

デフォルトは，「`http://Asset Information Manager` をインストールした `PC` のホスト名 `/jp1asset/`」です。

5.3.5 メール通知情報の設定

「メール通知情報」では，タスクスケジューラを使用して資産の運用状況をメールで通知するかどうか，および通知する場合のメール送信先のアドレスを設定します。タスクスケジューラに登録されたタスクの設定方法については，「5.9　タスクスケジューラに登

録されるタスクの設定」を参照してください。

「メール通知情報」で設定する項目を次に示します。

(1) メールによる通知

「メールによる通知」では，タスクスケジューラを使用して，自動的にメールを通知するかどうかを設定します。

メールを通知する場合は，「通知する」を指定してください。

● 指定できる値

- **「通知する」**
  メールを通知します。
- **「通知しない」**（デフォルト）
  メールを通知しません。

(2) メールの送信先アドレス

「メールの送信先アドレス」では，タスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を，メールで通知する場合の送信先アドレスを設定します。

メールで通知する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

5 ～ 160 文字の@（単価記号）で区切られた英数字および _（アンダーバー），-（ハイフン），.（ピリオド）です。

(3) メールの送信元アドレス

「メールの送信元アドレス」では，タスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を，メールで通知する場合の送信元アドレスを設定します。

● 指定できる値

5 ～ 160 文字の@（単価記号）で区切られた英数字および _（アンダーバー），-（ハイフン），.（ピリオド）です。デフォルトは，「manager@asset.message」です。

5.3.6 ディレクトリサーバ連携の設定

「ディレクトリサーバ連携」では，アクセス定義ファイルを作成してディレクトリサーバと連携する場合に，ディレクトリサーバが使用している文字コードの種別を設定します。

「ディレクトリサーバ連携」で設定する項目を次に示します。

(1) コードセット

「コードセット」では，使用する文字コードの種別を設定します。

● 指定できる値

- **「SHIFT-JIS」**

シフト JIS コードが設定されます。

- 「UTF-8」（デフォルト）
  UTF-8 が設定されます。

5.3.7 JP1/NETM/DM 連携の設定

「JP1/NETM/DM 連携」では，JP1/NETM/DM と連携してインベントリ情報を収集するためのログイン ID やサービス名，インベントリ情報の資産管理データベースへの登録方法などを設定します。また，ソフトウェアを配布するためのジョブ格納フォルダ名を設定します。この設定は，JP1/NETM/DM と連携する場合にだけ必要です。

(5) ～ (8) の設定項目は，「3.2.3　インベントリ情報の引き当て方法の設定」を基に決定した値を設定してください。また，(14) ～ (16) の設定項目は，「3.2.4　ソフトウェア名の割り当て方法の設定」を基に決定した値を設定してください。

「JP1/NETM/DM 連携」で設定する項目を次に示します。

（1）JP1/NETM/DM データベースログイン ID

「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」では，JP1/NETM/DM のデータベースに接続するためのログイン ID を設定します。

また，［パスワード設定］ダイアログでパスワードを設定します。

JP1/NETM/DM と連携する場合，この項目は必ず設定してください。JP1/NETM/DM と連携しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

1 ～ 29 バイトの文字です（「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」およびパスワード）。ただし，Embedded RDB の場合，「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」には 1 ～ 8 バイトの文字を指定してください。デフォルトは，「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」およびパスワードのどちらも「admin」です。
「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」およびパスワードに指定する値には，DBMS の種類によって制限があります。各 DBMS での制限を次の表に示します。

表 5-4 「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」およびパスワードの制限

DBMS の種類	制限
Microsoft SQL Server	「!」，「(」，「)」，「*」，「,」，「;」，「=」，「?」，「@」，「[」，「]」，「{」，「}」および半角スペースは指定できません。
Embedded RDB	先頭の文字には，必ず半角英字を指定してください。
ORACLE	「"」は指定できません。

ここで設定した値は，次に示すダイアログの「接続ユーザ ID」に反映されます。

- データソースを作成するダイアログ（JP1/NETM/DM のデータベースが Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合）
- ネット・サービスを作成するダイアログ（JP1/NETM/DM のデータベースが ORACLE の場合）

（2） JP1/NETM/DM データベース接続サービス名

「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」では，JP1/NETM/DM のデータベースに接続するためのサービス名を設定します。この項目では，JP1/NETM/DM のデータベース接続のセットアップで設定する ODBC データソース名（Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合）またはネット・サービス名（ORACLE の場合）を指定します。データベース接続のセットアップについては，「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。

JP1/NETM/DM と連携する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 63 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは「NETM_DB_SERVICE_NAME」です。

「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」に指定する値には，JP1/NETM/DM の DBMS の種類によって制限があります。各 DBMS での制限を次の表に示します。

表 5-5 「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」の制限

DBMS の種類	制限
Microsoft SQL Server および Embedded RDB	「!」，「(」，「)」，「*」，「,」，「;」，「=」，「?」，「@」，「[」，「]」，「{」，「}」および半角スペースは指定できません。
ORACLE	「!」，「"」，「#」，「$」，「%」，「&」，「'」，「(」，「)」，「*」，「+」，「,」，「/」，「:」，「;」，「<」，「=」，「>」，「?」，「@」，「[」，「¥」，「]」，「^」，「`」，「{」，「|」，「}」，「~」および半角スペースは指定できません。

ここで設定した値は，次に示すダイアログの「ODBC データソース名」および「ネット・サービス名」に反映されます。

- データソースを作成するダイアログ（JP1/NETM/DM のデータベースが Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合）
- ネット・サービスを作成するダイアログ（JP1/NETM/DM のデータベースが ORACLE の場合）

（3） JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み

「JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み」では，ネットワークにある，JP1/NETM/DM Client をインストールしていない機器の情報を取得するかどうかを選択します。JP1/NETM/DM 未導入機器の情報を取得するには，JP1/NETM/DM Manager 07-50 以降が必要です。

● 指定できる値

- **「取り込む」**
  JP1/NETM/DM Client がインストールされているかどうかにかかわらず，ネットワークにあるすべての機器のインベントリ情報を取得します。
- **「取り込まない」**（デフォルト）
  JP1/NETM/DM Client がインストールされている機器のインベントリ情報だけを取得します。

（4） 運用キー

「運用キー」では，JP1/NETM/DM の運用キーにホスト識別子を使用しているかどうかを選択します。この設定は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報と資産情報の引き当てに使用します。

● 指定できる値

- **「ホスト識別子あり」**（デフォルト）
  JP1/NETM/DM で，運用キーにホスト識別子を使用している場合に設定します。この値を選択すると，ホスト識別子を使用して JP1/NETM/DM のインベントリ情報と資産情報を引き当てます。
- **「ホスト識別子なし」**
  JP1/NETM/DM で，運用キーにホスト識別子を使用していない場合に設定します。
  システム構成情報の「ノード識別キー」が「ホスト名運用」の場合は，MAC アドレス，ホスト名が同一の資産を引き当てます。引き当てられなかった場合は，MAC アドレスが同一の資産を引き当てます。MAC アドレスで引き当てられなかった場合は，ホスト名が同一の資産を引き当てます。
  システム構成情報の「ノード識別キー」が「IP アドレス運用」の場合は，MAC アドレス，IP アドレスが同一の資産を引き当てます。引き当てられなかった場合は，MAC アドレスが同一の資産を引き当てます。MAC アドレスで引き当てられなかった場合は，IP アドレスが同一の資産を引き当てます。

（5） 資産情報の引き当てキー

「資産情報の引き当てキー」では，JP1/NETM/DM で収集した情報を資産情報に対応づけて登録する際，識別するための引き当てキーを選択します。

● 指定できる値

- **「運用キーに従う」**（デフォルト）
  「運用キー」で指定した値をキーに，JP1/NETM/DM のインベントリ情報と資産情報が引き当てられます。
- **「資産番号を使用する」**
  インベントリ情報の引き当てで資産番号に設定した値が，引き当てキーとなります。インベントリ情報の引き当てでは，デフォルトは自動採番する設定になっています。そのため，デフォルトの設定のままではインベントリ情報を引き当てられないので，必ず設定を変更してください。

インベントリ情報の引き当てでの設定については，「9.6　引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）」を参照してください。

(6) 資産情報の引き当て 1

「資産情報の引き当て 1」では，JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得するときの，資産情報の引き当て方法を選択します。この設定は，「資産情報の引き当てキー」の値が「運用キーに従う」で，「運用キー」の値が「ホスト識別子あり」の場合に有効になります。

07-50 より前のバージョンの Asset Information Manager からバージョンアップする場合，設定がどのように引き継がれるかの対応については，「(18)　バージョンアップ時の設定値の引き継ぎ」を参照してください。

● 指定できる値

- **「ホスト識別子のみが同一の資産を引き当てる」**（デフォルト）
  JP1/NETM/DM のシステム構成情報の「ホスト識別子」で引き当てられなかった場合は，ほかの値を使って引き当てることはしません。
- **「MAC アドレスが同一の資産を引き当てる」**
  JP1/NETM/DM のシステム構成情報の「ホスト識別子」で引き当てられなかった場合は，MAC アドレスが同一の資産を引き当てます。
- **「運用方式に従って引き当てる」**
  JP1/NETM/DM のシステム構成情報の「ホスト識別子」で引き当てられなかった場合は，MAC アドレス，ホスト名，IP アドレスが同一の資産を引き当てます。
  引き当てられなかった場合は，システム構成情報の「ノード識別キー」が「ホスト名運用」のときは，MAC アドレス，ホスト名が同一の資産を引き当てます。また，システム構成情報の「ノード識別キー」が「IP アドレス運用」のときは，MAC アドレス，IP アドレスが同一の資産を引き当てます。
  それでも引き当てられなかった場合は，MAC アドレスが同一の資産を引き当てます。

なお，どの値を選択した場合でも，資産情報の「引き当てキー」には，ホスト識別子の値が登録されます。

(7) 資産情報の引き当て 2

「資産情報の引き当て 2」では，「資産情報の引き当て 1」で引き当てられなかった場合の引き当て方法を選択します。

07-50 より前のバージョンの Asset Information Manager からバージョンアップする場合，設定がどのように引き継がれるかの対応については，「(18)　バージョンアップ時の設定値の引き継ぎ」を参照してください。

● 指定できる値

- **「IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる」**（デフォルト）
  「資産情報の引き当て 1」で引き当てられなかった機器の中から，ホスト名と IP アドレスが同一の資産を引き当てます。
  引き当てられなかった場合，システム構成情報の「ノード識別キー」が「ホスト名運用」のときはホスト名が同一の資産，「ノード識別キー」が「IP アドレス運用」のときは IP アドレスが同一の資産を引き当てます。
- **「引き当てを行わない」**
  引き当てられなかった資産は登録されません。

（8）引き当たらなかった資産の新規登録

「引き当たらなかった資産の新規登録」では，引き当てられなかった資産があった場合に，新規に登録するかどうかを選択します。「運用キー」で「ホスト識別子あり」を選択した場合は，「資産情報の引き当て 1」および「資産情報の引き当て 2」で引き当てられなかった資産が対象になります。

● 指定できる値

- **「新規登録する」**（デフォルト）
  資産管理データベースに登録されている資産と引き当てられなかったインベントリ情報があった場合，新規資産として登録します。
- **「新規登録しない」**
  資産管理データベースに登録されている資産と引き当てられなかったインベントリ情報は登録されません。
  この値を設定した場合，新規に追加された資産が登録されないことがあるので注意してください。

（9）ダイヤルアップ接続の MAC アドレス

「ダイヤルアップ接続の MAC アドレス」では，ダイヤルアップ接続の MAC アドレスを，資産情報と引き当てるための情報に加えるかどうかを選択します。

● 指定できる値

- **「引き当て情報にする」**
  ダイヤルアップ接続の MAC アドレスを使用して資産情報と引き当てます。
- **「引き当て情報にしない」**（デフォルト）
  資産情報との引き当てに，ダイヤルアップ接続の MAC アドレスは使用しません。
  「資産情報との引き当て 1」で「MAC アドレスが同一の資産を引き当てる」を選択して，「資産情報との引き当て 2」で「引き当てを行わない」を選択している場合は，ホスト識別子で引き当てられなかった資産情報は，引き当てられなくなるので注意してください。

（10）取り込む情報の種別

「取り込む情報の種別」では，JP1/NETM/DM から取り込む情報の種類を設定します。ソフトウェア適用状況画面からソフトウェアを配布する場合は，配布対象とする機器を

検索するために，ソフトウェア情報を取り込むように設定してください。JP1/NETM/DM から取り込むことによって更新される情報の詳細については，「12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報」を参照してください。

また，ソフトウェアのライセンスを管理する場合は，JP1/NETM/DM でソフトウェア情報を重複して取得しないようにしてから，ソフトウェア情報を取り込むように設定してください。JP1/NETM/DM でソフトウェア情報を重複して取得しないようにする方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

● 指定できる値

- **「ハードウェア情報」**
  JP1/NETM/DM のハードウェアに関する情報だけが登録されます。
- **「ハードウェア情報＋ソフトウェア情報」**（デフォルト）
  JP1/NETM/DM のハードウェアに関する情報とソフトウェアに関する情報が登録されます。ソフトウェアに関する情報は，クライアントにインストールされているすべての情報が取得されます（取捨選択できません）。
- **「ハードウェア情報＋ソフトウェアインベントリ情報」**
  JP1/NETM/DM のハードウェアに関する情報と，ソフトウェアインベントリ辞書で管理対象に設定したソフトウェアの情報が登録されます。
- **「ハードウェア情報＋ソフトウェア情報＋ソフトウェアインベントリ情報」**
  JP1/NETM/DM のハードウェアに関する情報とソフトウェアに関する情報，およびソフトウェアインベントリ辞書で管理対象に設定したソフトウェアの情報が登録されます。

(11) 監視間隔

「監視間隔」では，インベントリ情報が更新されたかどうかを監視する間隔を指定します。この設定は，JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携して，インベントリ情報をリアルタイムに更新する場合に有効になります。

インベントリ情報をリアルタイムに更新しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

1 ～ 429,496 秒です。デフォルトは 60 秒です。

(12) JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態

「JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態」では，インベントリ情報の更新をリアルタイムに取得する場合，削除機器として取得された機器の機器状態を設定します。

● 指定できる値

- **「廃棄」**
  機器状態が「廃棄」に設定されて，タスク「データメンテナンス」でほかの情報との関連づけが削除されます。

- **「仮廃棄」**（デフォルト）
  JP1/NETM/DM のインベントリ情報の引き当て対象となります。JP1/NETM/DM から収集した情報が引き当てられた場合は，機器状態が「運用」に戻ります。
  なお，タスク「データメンテナンス」では，「廃棄」と同様にほかの情報との関連づけが削除されます。
- **「抹消」**
  「抹消」に設定されて，タスク「データメンテナンス」で削除されます。
- **「コード指定」**
  「削除された資産に設定するコード」で指定したコードの状態になります。
- **「何もしない」**
  機器状態は変更されません。

（13）削除された資産に設定するコード

「削除された資産に設定するコード」では，削除された資産に設定する機器状態のコードを指定します。この設定は，「JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態」で「コード指定」を選択した場合に有効になります。

機器状態のコードについては，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.4　コードの指定範囲による意味の違い」を参照してください。コードを追加する場合は，業務メニュー「コード管理」で追加したコードを指定してください。なお，指定したコードが存在しない場合は，削除された資産の機器状態は変更されません。

● 指定できる値
3 バイトの半角数字です。「000」～「999」の範囲で指定してください。

（14）パッケージ識別 ID の取得

JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報からパッケージ識別 ID を取得します。パッケージ識別 ID を取得すると，バージョンの違いによって，同一のソフトウェアの名称が異なるインストールソフトウェア名で取得されてしまった場合でも，正しくライセンスを管理できます。

● 指定できる値
- **取得する**
  JP1/NETM/DM のインベントリ情報から，パッケージ識別 ID とパッケージ元属性（UNIX か PC か）を取得します。
- **取得しない**（デフォルト）
  JP1/NETM/DM のインベントリ情報から，パッケージ識別 ID とパッケージ元属性（UNIX か PC か）を取得しません。

（15）ソフトウェア名への自動割り当て

インベントリ情報を資産管理データベースに登録する際，すでに同一のソフトウェアがインストールソフトウェアリストに登録されていたら，同じソフトウェア名への割り当てを追加するかどうかを設定します。

同一のソフトウェアのバージョンアップ版などを，すでに登録されているインストールソフトウェア名と同じソフトウェア名に自動的に割り当てられるので，ライセンス管理の作業を軽減できます。ただし，ソフトウェアインベントリ情報，Microsoft Office 情報およびウィルス対策製品情報は対象となりません。

割り当て方法の詳細については，「3.2.4　ソフトウェア名の割り当て方法の設定」を参照してください。

● 指定できる値

- **自動的に割り当てない**（デフォルト）
  ソフトウェア名に自動的に割り当てられません。
- **同一パッケージ識別 ID で割り当てる**
  パッケージ識別 ID およびパッケージ元属性が同じインストールソフトウェア名がすでに登録されていて，さらにそのインストールソフトウェア名がソフトウェア名に割り当てられていた場合，自動的に同じソフトウェア名に割り当てられます。
  この値は，「パッケージ識別 ID の取得」で「取得する」を設定している場合にだけ有効になります。
- **同一パッケージ名で割り当てる**
  パッケージ名と同じインストールソフトウェア名が資産管理データベースに登録されていて，さらにそのインストールソフトウェア名がソフトウェア名に割り当てられていた場合，自動的に同じソフトウェア名に割り当てられます。
  パッケージ識別 ID を取得しないで，ソフトウェア名への自動割り当てをしたい場合に指定します。
  この値を指定すると，パッケージ識別 ID に値のないインストールソフトウェア名が割り当ての対象となるため，「パッケージ識別 ID の取得」で「取得する」を設定していると，新規に登録されるソフトウェア名は自動的に割り当てられないので注意してください。
- **同一パッケージ識別 ID と同一パッケージ名で割り当てる**
  パッケージ識別 ID，パッケージ元属性が同じインストールソフトウェア名が資産管理データベースに登録されていて，さらにそのインストールソフトウェア名がソフトウェア名に割り当てられていた場合，自動的に同じソフトウェア名に割り当てられます。
  パッケージ識別 ID，パッケージ元属性で割り当てられなかった場合は，パッケージ名で割り当てられます。
  パッケージ識別 ID およびパッケージ元属性で同じインストールソフトウェア名が登録されているかどうかを判断するので，「同一パッケージ識別 ID で割り当てる」や「同一パッケージ名で割り当てる」の場合よりも厳密に割り当てられます。

（16）ソフトウェアの自動登録

JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報から，ソフトウェア名を自動的に登録して割り当てるかどうかを設定します。ライセンスを管理する際，新規に購入したライセンスのソフトウェア名の登録および割り当て作業を軽減できます。ただし，ソフトウェ

アインベントリ情報，Microsoft Office 情報およびウィルス対策製品情報は対象となりません。

● 指定できる値

- **自動的に登録する**
  取得したパッケージ名がインストールソフトウェア名に登録されていなかった場合，同じ名称をインストールソフトウェア名およびソフトウェア名に登録して，インストールソフトウェア名をソフトウェア名に割り当てます。
  登録方法の詳細については，「3.2.4　ソフトウェア名の割り当て方法の設定」を参照してください。
- **自動的に登録しない**（デフォルト）
  ソフトウェア名の登録およびインストールソフトウェア名のソフトウェア名への割り当ては実行されません。

（17）JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名

「JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名」では，JP1/NETM/DM のサーバマシンに作成される，ジョブ格納フォルダの名称を設定します。このフォルダに，ソフトウェア適用状況画面から実行したジョブが格納されます。また，配布状況画面では，このフォルダに格納されたジョブの実行状況を確認できます。したがって，JP1/NETM/DM でこのフォルダにジョブを格納した場合，そのジョブの実行状況が配布状況画面に表示されます。

JP1/NETM/DM と連携する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 32 バイトの文字です。デフォルトは「AssetInformationManager」です。次に示す記号およびスペースは使用できません。
「¥」，「/」，「*」，「"」，「:」，「'」，「!」，「|」，「.」，「<」，「>」，「?」，「;」，「{」，「}」

（18）バージョンアップ時の設定値の引き継ぎ

07-50 より前のバージョンの Asset Information Manager から Asset Information Manager 07-50 以降にバージョンアップした場合，07-50 より前のバージョンの「JP1/NETM/DM の運用キー」および「資産情報の引き当て方法」での設定が，07-50 以降の「運用キー」，「資産情報の引き当て 1」および「資産情報の引き当て 2」に引き継がれます。

インベントリ情報の引き当てに関する 07-50 より前のバージョンでの設定と 07-50 以降での設定の対応を次の表に示します。

表 5-6　07-50 より前のバージョンでの設定と 07-50 以降での設定の対応（インベントリ情報の引き当て）

07-50 より前のバージョンでの設定		07-50 以降での設定
JP1/NETM/DM の運用キー	ホスト識別子あり	ホスト識別子あり
	ホスト識別子なし＋ホスト名運用	ホスト識別子なし
	ホスト識別子なし＋ IP アドレス運用	
資産情報の引き当て方法	MAC アドレスと IP アドレスとホスト名が同一の資産情報を引き当てる	• 資産情報の引き当て 1 運用方式に従って引き当てる • 資産情報の引き当て 2 IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる
	MAC アドレスとホスト名が同一の資産情報を引き当てる	
	MAC アドレスと IP アドレスが同一の資産情報を引き当てる	
	IP アドレスとホスト名が同一の資産情報を引き当てる	• 資産情報の引き当て 1 ホスト識別子のみが同一の資産を引き当てる • 資産情報の引き当て 2 IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる
	ホスト名が同一の資産情報を引き当てる	
	IP アドレスが同一の資産情報を引き当てる	

5.3.8　NNM 連携の設定

「NNM 連携」では，Network Node Manager と連携してノード情報を取得する，Network Node Manager のバージョンを設定します。また，監視図を表示する際に必要な情報も設定します。この設定は，Network Node Manager と連携する場合にだけ必要です。

「NNM 連携」で設定する項目を次に示します。

（1） NNM バージョン

「NNM バージョン」では，ノード情報を取得する Network Node Manager のバージョンを設定します。

● 指定できる値

- 「Version 6i」（デフォルト）
  Network Node Manager Version 6i と連携して，ノード情報が登録されます。
- 「Version 7i」
  Network Node Manager Version 7i と連携して，ノード情報が登録できます。
- 「Version 8」
  Network Node Manager Version 8 と連携して，ノード情報が登録できます。

（2） 監視図ボタンの表示

「監視図ボタンの表示」では，Network Node Manager と連携して，［監視図］ボタンから監視図を表示できるようにするかどうかを選択します。Network Node Manager との連携については，「6.2　Network Node Manager と連携するための設定」を参照してください。

Network Node Manager と連携して，監視図を表示する場合は，「表示する」を指定してください。

● 指定できる値

- **「表示する」**
  ［監視図］ボタンを表示します。
- **「表示しない」**（デフォルト）
  ［監視図］ボタンを表示しません。

注意事項

［監視図］ボタンを表示する設定にすると，Network Node Manager からノード情報を取得するときに，「NNM 選択名」を取得します。そのため，［監視図］ボタンを表示しない設定に比べて，ノード情報の取得に時間が掛かります。

（3） オープンマップ名

「オープンマップ名」では，Network Node Manager のネットワークプレゼンタと接続するオープンマップ名を設定します。

Network Node Manager と連携して，監視図を表示する場合は，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 256 バイトの文字です。デフォルトは「default」です。
次に示す記号は使用できません。
「#」，「/」，「;」，「*」，「?」，「"」，「<」，「>」，「|」

（4） 接続先サーバ名

「接続先サーバ名」では，Network Node Manager のネットワークプレゼンタと接続する Network Node Manager のサーバ名を設定します。

Network Node Manager と連携して，監視図を表示する場合は，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 255 バイトの半角英数字および記号です。

5.3.9 JP1/IM 連携の設定

「JP1/IM 連携」では，JP1/IM - CM と連携するかどうかを設定します。この設定は，JP1/IM と連携する場合にだけ必要です。

「JP1/IM 連携」で設定する項目を次に示します。

(1) JP1/IM - CM との連携設定

「JP1/IM - CM との連携設定」では，JP1/IM - CM と連携して，JP1/IM - CM の構成管理データベースに Asset Information Manager の資産情報を取り込んで，管理するかどうかを選択します。

JP1/IM - CM と連携する場合は，「連携する」を指定してください。

● 指定できる値

- **「連携する」**（デフォルト）
  JP1/IM - CM と連携します。
- **「連携しない」**
  JP1/IM - CM と連携しません。

5.3.10 NetInsight II 連携の設定

「NetInsight II 連携」では，フロアレイアウト図を表示する際に必要な情報を設定します。この設定は，NetInsight II と連携する場合にだけ必要です。

「NetInsight II 連携」で設定する項目を次に示します。

(1) 図面ボタンの表示

「図面ボタンの表示」では，NetInsight II と連携して，［図面］ボタンからフロアレイアウト図を表示できるようにするかどうかを選択します。NetInsight II との連携方法については，「5.3　資産管理サーバの設定」を参照してください。

NetInsight II と連携する場合は，「表示する」を指定してください。

● 指定できる値

- **「表示する」**（デフォルト）
  ［図面］ボタンを表示します。
- **「表示しない」**
  ［図面］ボタンを表示しません。

(2) NetInsight II 連携のキー

「NetInsight II 連携のキー」では，NetInsight II と連携して，［図面］ボタンからフロアレイアウト図を表示する場合のキー情報を選択します。

● **指定できる値**

- **「IP アドレス」**
  IP アドレスをキー情報に設定します。
- **「資産番号」**（デフォルト）
  資産番号をキー情報に設定します。
- **「MAC アドレス」**
  MAC アドレスをキー情報に設定します。
- **「ホスト名」**
  ホスト名をキー情報に設定します。

5.3.11 JP1/Lan Licenser 連携の設定

「JP1/Lan Licenser 連携」では，JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェア稼働情報を取得するためのログイン ID やサービス名を設定します。この設定は，JP1/Lan Licenser と連携する場合にだけ必要です。

「JP1/Lan Licenser 連携」で設定する項目を次に示します。

（1） JP1/Lan Licenser データベースログイン ID

「JP1/Lan Licenser データベースログイン ID」では，JP1/Lan Licenser のデータベースに接続するためのログイン ID を設定します。

また，［パスワード設定］ダイアログでパスワードを設定します。

JP1/Lan Licenser と連携する場合，この項目は必ず設定してください。JP1/Lan Licenser と連携しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● **指定できる値**

1 ～ 29 バイトの文字です（「JP1/Lan Licenser データベースログイン ID」およびパスワード）。デフォルトは，「JP1/Lan Licenser データベースログイン ID」およびパスワードのどちらも「admin」です。
次に示す記号は使用できません。
「!」，「(」，「)」，「*」，「,」，「;」，「=」，「?」，「@」，「[」，「]」，「{」，「}」および半角スペース

ここで設定した値は，データソースを作成するダイアログの「接続ユーザ ID」に反映されます。

（2） JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名

「JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名」では，JP1/Lan Licenser のデータベースに接続するためのサービス名を設定します。この項目では，JP1/Lan Licenser のデータベース接続のセットアップで設定するデータソース名を指定します。データベース接続のセットアップについては，「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」

を参照してください。

JP1/Lan Licenser と連携する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値

1 ～ 63 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは，
「LL_DB_SERVICE_NAME」です。
次に示す記号は使用できません。
「!」，「(」，「)」，「*」，「,」，「;」，「=」，「?」，「@」，「[」，「]」，「{」，「}」および半角スペース

ここで設定した値は，データソースを作成するダイアログの「ODBC データソース名」に反映されます。

5.3.12 JP1/ 秘文連携の設定

「JP1/ 秘文連携」では，JP1/ 秘文と連携するかどうかを設定します。また，JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得するためのログイン ID やサービス名を設定します。

「JP1/ 秘文連携」で設定する項目を次に示します。

(1) JP1/ 秘文との連携設定

「JP1/ 秘文との連携設定」では，JP1/ 秘文と連携して，JP1/ 秘文の操作ログを参照するかどうかを選択します。

JP1/ 秘文と連携する場合は，「連携する」を指定してください。

● 指定できる値

- **「連携する」**（デフォルト）
  JP1/ 秘文と連携します。
- **「連携しない」**
  JP1/ 秘文と連携しません。

(2) JP1/ 秘文データベースログイン ID

「JP1/ 秘文データベースログイン ID」では，JP1/ 秘文のデータベースに接続するためのログイン ID を設定します。

また，［パスワード設定］ダイアログでパスワードを設定します。

JP1/ 秘文と連携する場合，この項目は必ず設定してください。JP1/ 秘文と連携しない場合でも，値を空白にすることはできません。

● 指定できる値

1 ～ 29 バイトの文字です（「JP1/ 秘文データベースログイン ID」およびパスワード）。デフォルトは，「JP1/ 秘文データベースログイン ID」およびパスワードのどち

らも「admin」です。
次に示す記号は使用できません。
「!」,「(」,「)」,「*」,「,」,「;」,「=」,「?」,「@」,「[」,「]」,「{」,「}」および半角スペース

ここで設定した値は，データソースを作成するダイアログの「接続ユーザ ID」に反映されます。

(3) JP1/秘文データベース接続サービス名

「JP1/秘文データベース接続サービス名」では，JP1/秘文のデータベースに接続するためのサービス名を設定します。この項目では，JP1/秘文のデータベース接続のセットアップで設定するデータソース名を指定します。データベース接続のセットアップについては，「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。

JP1/秘文と連携する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値
1 ～ 63 バイトの半角英数字および記号です。デフォルトは，
「LOGDBSERVICENAME」です。
次に示す記号は使用できません。
「!」,「(」,「)」,「*」,「,」,「;」,「=」,「?」,「@」,「[」,「]」,「{」,「}」および半角スペース

ここで設定した値は，データソースを作成するダイアログの「ODBC データソース名」に反映されます。

5.3.13　WSUS 連携の設定

「WSUS 連携」では，WSUS サーバと連携して更新プログラムを管理するための WSUS サーバの URL を設定します。この設定は，WSUS と連携する場合にだけ必要です。

「WSUS 連携」で設定する項目を次に示します。

(1) WSUS コネクタの URL

「WSUS コネクタの URL」では，連携する WSUS サーバの URL を指定します。

WSUS サーバと連携して更新プログラムを管理する場合，この項目は必ず設定してください。

● 指定できる値
WSUS 連携コンポーネントをインストールした WSUS サーバのマシンの URL を，次に示す形式で指定してください。
`http://WSUSサーバ名[:ポート番号]/netmWS`

URL は，一つだけ指定できます。また，ポート番号は省略できます。WSUS 連携コ

ンポーネントのインストール時に WSUS サーバの仮想ディレクトリを変更した場合は,「netmWS」の部分に変更した仮想ディレクトリ名を指定してください。

5.4 資産管理データベースの作成

この節では，資産管理データベースの環境を作成する方法について説明します。

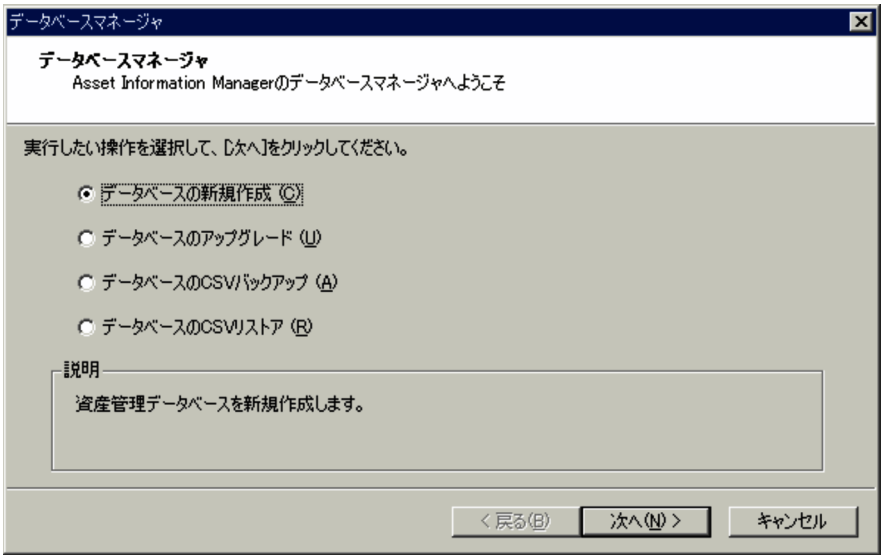
資産管理データベースの環境は，［データベースマネージャ］ダイアログで作成します。資産管理データベースを作成すると，次の作業を実行します。

- ODBC データソース名の作成（Microsoft SQL Server および Embedded RDB の場合）
- ネット・サービス名の作成（ORACLE の場合）
- データベースの作成
- データベースアクセス用ユーザの作成
- データベースの初期化

資産管理データベースを作成する手順を次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「データベースマネージャ」のアイコンをクリックする。**
   次の図に示す［データベースマネージャ］ダイアログが表示されます。

図 5-3 ［データベースマネージャ］ダイアログ（Microsoft SQL Server および ORACLE の場合）



3. **「データベースの新規作成」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
   データベースの基本設定のダイアログが表示されます。
4. **データベースの接続情報およびデータベースの領域を設定する。**

5. **データベースを作成する。**

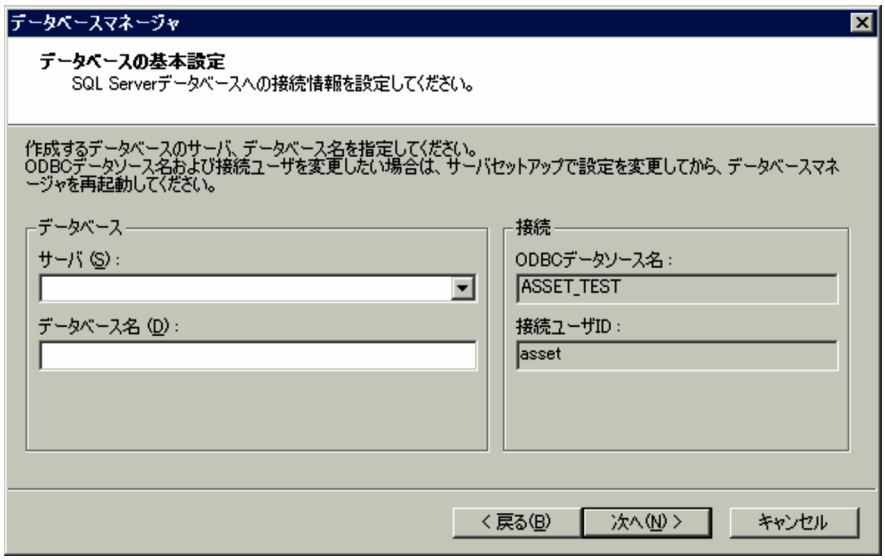
手順 4. のデータベースの接続情報およびデータベース領域の設定について，5.4.1 ～ 5.4.3 で DBMS ごとに説明します。

5.4.1 資産管理データベースの作成手順（Microsoft SQL Server の場合）

Microsoft SQL Server を使用して，資産管理データベースを作成する手順を次に示します。

1. **データベースの基本設定のダイアログで，「サーバ」および「データベース名」を指定する。**
   各項目は，次の図に示すデータベースの基本設定のダイアログで指定します。

図 5-4 データベースの基本設定のダイアログ（Microsoft SQL Server の場合）



ダイアログの各項目について説明します。

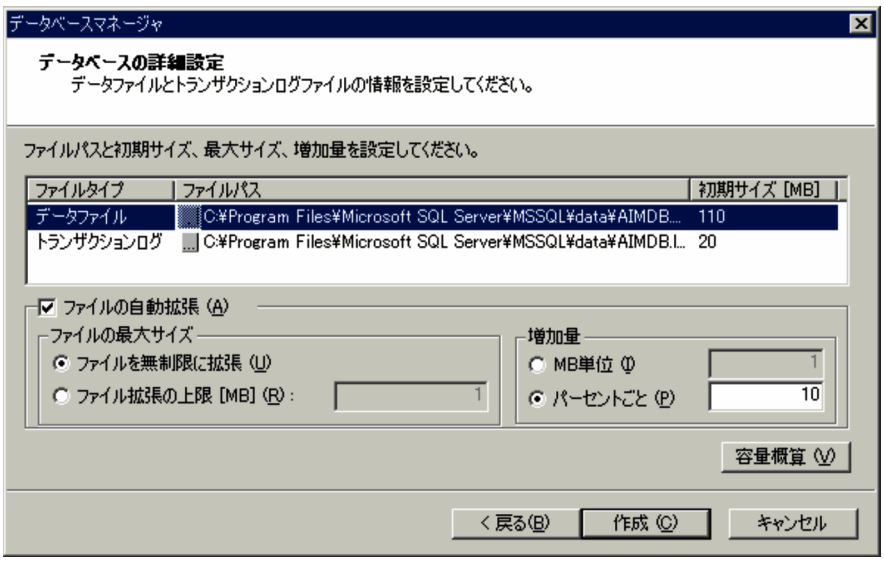
- **「サーバ」**
  接続するデータベースのサーバ名または IP アドレスを指定します。指定できる値は，1 ～ 63 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「~」，「-」，「_」，「.」，「/」および「¥」です。デフォルトでは，空白が指定されています。
- **「データベース名」**
  作成するデータベースの名前を指定します。指定できる値は，1 ～ 128 バイトの英数字および記号です。ただし，「"」，「|」，「-」，「*」，「:」，「<」，「>」，「?」，「/」および「¥」は指定できません。デフォルトでは，空白が指定されています。
- **「ODBC データソース名」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログの「サービス名」に指定した値が表示されます。

この項目は変更できません。

- **「接続ユーザ ID」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログの「ログイン ID」に指定した値が表示されます。この項目は変更できません。

2. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   データベースに接続するための［認証確認］ダイアログが表示されます。
3. **［認証確認］ダイアログの「管理者 ID」および「管理者パスワード」に，資産管理データベースの管理者 ID および管理者パスワードを入力する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   認証に成功すると，次の図に示すデータベースの詳細設定のダイアログが表示されます。

図 5-5　データベースの詳細設定のダイアログ（Microsoft SQL Server の場合）



認証に失敗した場合は，メッセージが表示されるので，メッセージの内容に従って対処してください。

5. **データファイルおよびトランザクションログの領域を指定する。**
   ダイアログで指定する各項目について説明します。
   - **「ファイルパス」**
     「ファイルパス」に，データベースを格納するファイルパスを指定します。［...］ボタンをクリックすると，ファイルを参照するダイアログからファイルパスを指定できます。1 ～ 255 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」，「|」，「*」，「<」，「>」，「?」，「&」，「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは，データファイルは Microsoft SQL Server の master データベースが格納されているフォルダ内の AIMDB.mdf が指定されています。また，トランザクションログは，

Microsoft SQL Server のデータベースが格納されているフォルダ内の AIMDB.ldf が指定されています。

- **「初期サイズ［MB］」**
  データベース領域の初期サイズを指定します。指定したい領域の初期サイズを一覧から選択して，整数を指定してください。デフォルトでは，［容量概算］ダイアログでの概算値が指定されています。また，トランザクションログは 20 メガバイトが指定されています。初期サイズは，［容量概算］ダイアログから指定することもできます。
- **「ファイルの自動拡張」**
  データベース領域の最大サイズおよび増加量をデフォルトの値から変更したい場合に，チェックボックスをチェックします。デフォルトでは，チェックされています。
- **「ファイルの最大サイズ」**
  データベース領域の最大サイズを指定します。デフォルトでは，「ファイルを無制限に拡張」が指定されています。ファイルサイズの上限値を指定したい場合は，「ファイル拡張の上限［MB］」を選択して，入力領域に上限値をメガバイト単位で指定してください。ただし，入力領域には，初期サイズより大きい整数を指定してください。最大サイズは，［容量概算］ダイアログから指定することもできます。
- **「増加量」**
  データベース領域の増加量を指定します。デフォルトでは，10%（パーセント）ごとに増加するよう指定されています。メガバイト単位で増加量を指定したい場合は，「MB 単位」を選択して，1 以上の整数を入力領域に指定してください。パーセントごとに増加量を設定したい場合は，「パーセントごと」を選択して，1 ～ 100 の整数を指定してください。
- **［容量概算］ボタン**
  データベース容量の概算値を計算できます。データベース容量の概算値の計算方法については，「5.4.4　データベース容量の概算」を参照してください。

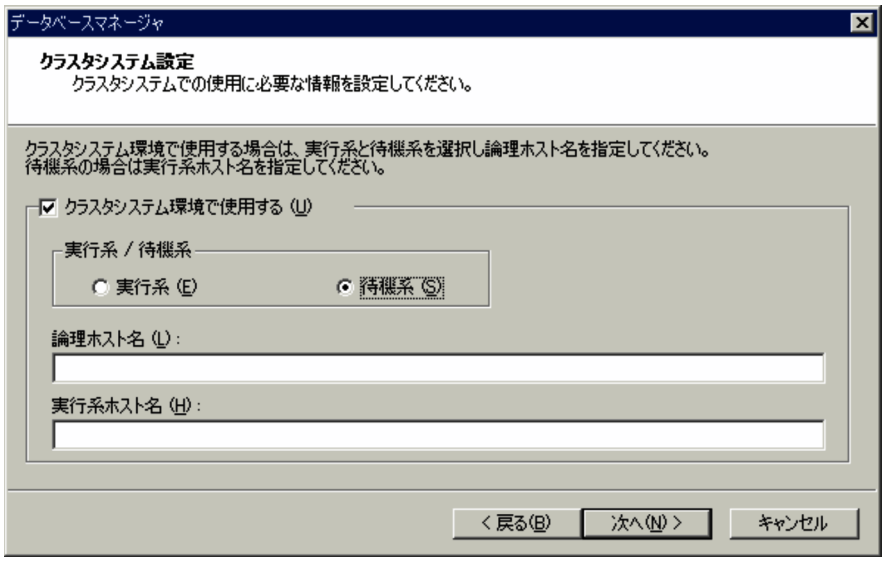
6. **［作成］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースが作成されます。作成が完了すると，セットアップが完了したことを示すメッセージが表示されて，［データベースマネージャ］ダイアログが閉じます。作成に失敗した場合は，メッセージが表示されるので，メッセージの内容に従って対処してください。

5.4.2　資産管理データベースの作成手順（Embedded RDB の場合）

Embedded RDB を使用して，資産管理データベースを作成する手順を次に示します。

1. **クラスタシステムの情報を設定するダイアログで，必要な情報を設定する。**
   必要な情報は，次の図に示すクラスタシステムの情報を設定するダイアログで設定します。

図 5-6　クラスタシステムの情報を設定するダイアログ



Asset Information Manager をクラスタシステム環境で使用しない場合は，何も指定しないで手順 2. に進みます。

Asset Information Manager をクラスタシステム環境で使用する場合は，「クラスタシステム環境で使用する」チェックボックスをチェックします。指定する各項目について，実行系のデータベースと待機系のデータベースでそれぞれ説明します。

実行系のデータベースの場合

- 「実行系 / 待機系」
  「実行系」を選択します。デフォルトでは，この項目が指定されています。
- 「論理ホスト名」
  クラスタシステムに作成した論理ホスト名を指定します。指定できる値は，1 ～ 64 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「-」および「_」です。

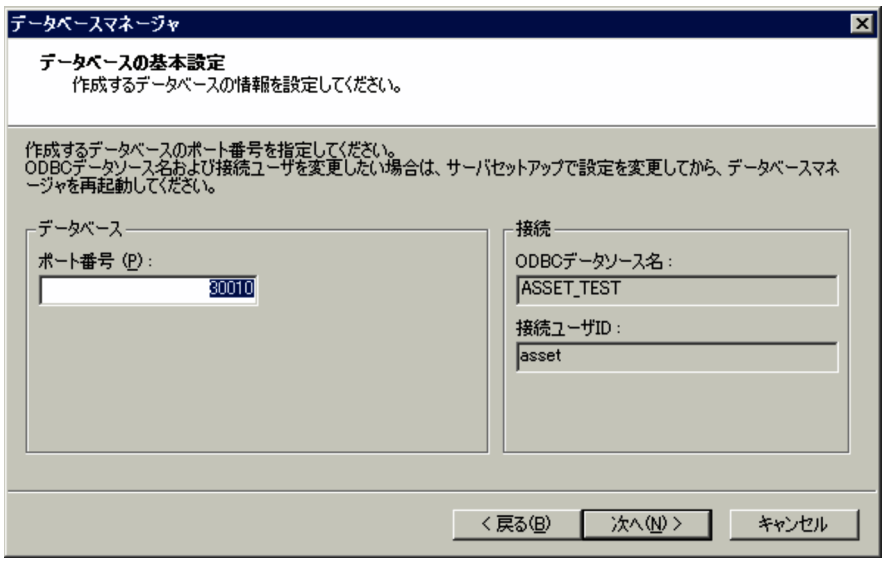
待機系のデータベースの場合

- 「実行系 / 待機系」
  「待機系」を選択します。
- 「論理ホスト名」
  クラスタシステムに作成した論理ホスト名を指定します。指定できる値は，1 ～ 64 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「-」および「_」です。
- 「実行系ホスト名」
  クラスタシステムに作成した実行系ホスト名を指定します。指定できる値は，1 ～ 64 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「-」および「_」です。

論理ホスト名を変更する手順については，「付録 D.6　Embedded RDB のホスト名の変更」を参照してください。また，実行系ホスト名を変更する手順については，「5.13.7(1)(b)　実行系ホスト名を変更する手順」を参照してください。

2. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   次の図に示すデータベースの基本設定のダイアログが表示されます。

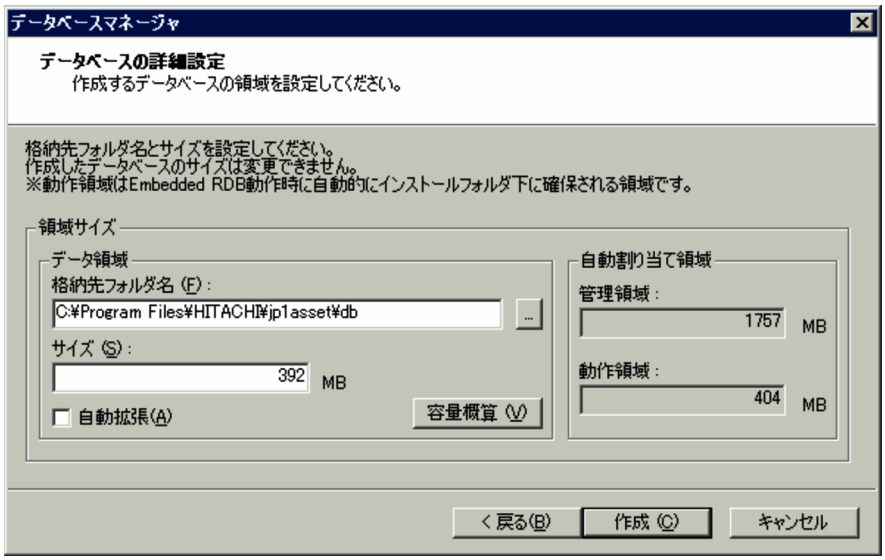
図 5-7　データベースの基本設定のダイアログ（Embedded RDB の場合）



3. **データベースの基本設定のダイアログで，「ポート番号」を指定する。**
   ダイアログの各項目について説明します。
   - **「ポート番号」**
     接続するデータベースサーバのポート番号を指定します。使用されていないポート番号を 5001 ～ 65535 の整数で指定してください。デフォルトでは，「30010」が指定されます。
   - **「ODBC データソース名」**
     ［サーバセットアップ］ダイアログの「サービス名」に指定した値が表示されます。この項目は変更できません。
   - **「接続ユーザ ID」**
     ［サーバセットアップ］ダイアログの「ログイン ID」に指定した値が表示されます。この項目は変更できません。

4. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   次の図に示すデータベースの詳細設定のダイアログが表示されます。

図 5-8　データベースの詳細設定のダイアログ（Embedded RDB の場合）



5. **「格納先フォルダ名」および「サイズ」を指定する。**

ダイアログの各項目について説明します。

- **「格納先フォルダ名」**

「格納先フォルダ名」に，データベースを格納するフォルダ名を指定します。[...] ボタンをクリックすると，フォルダを参照するダイアログからフォルダ名を指定できます。指定できる値は，1 ～ 125 バイトの英数字，「_」，「¥」，「:」，「.」，「(」，「)」および空白です。デフォルトでは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥db が指定されています。

- **「サイズ」**

データベースの最大サイズを指定します。デフォルトでは，［容量概算］ダイアログでの概算値が指定されています。100 以上の整数を指定してください。最大サイズは，［容量概算］ダイアログから指定することもできます。

- **［容量概算］ボタン**

データベース容量の概算値を計算できます。データベース容量の概算値の計算方法については，「5.4.4　データベース容量の概算」を参照してください。

- **「自動拡張」**

データベースのサイズを自動拡張させたい場合に，チェックボックスをチェックします。デフォルトではチェックされていません。このチェックボックスにチェックした場合，「サイズ」は 100 ～ 65535 の整数で指定してください。

- **「管理領域」**

管理領域に必要なサイズが表示されます。この項目は変更できません。

- **「動作領域」**

Embedded RDB の動作時に，Asset Information Manager のインストールフォルダ以下に自動的に確保されるサイズが表示されます。この項目は変更できません。

6. **［作成］ボタンをクリックする。**

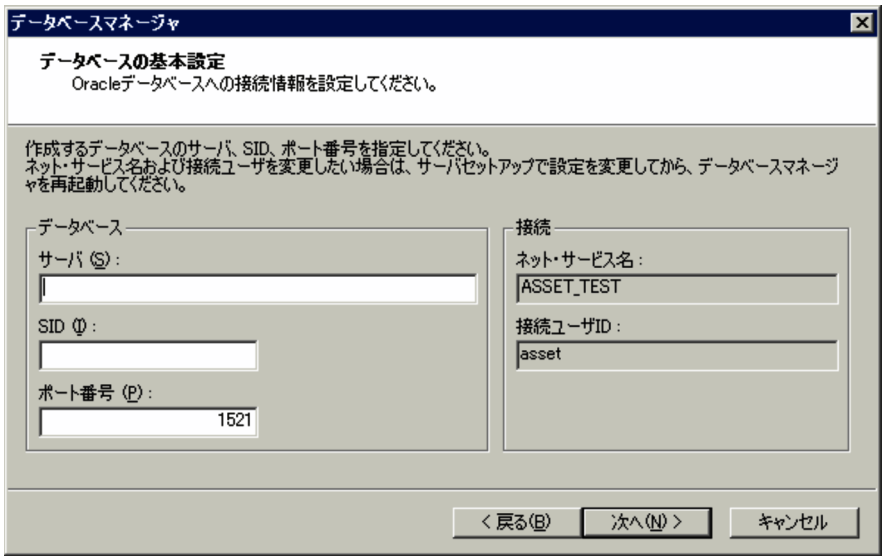
資産管理データベースが作成されます。作成が完了すると，セットアップが完了したことを示すメッセージが表示されて，［データベースマネージャ］ダイアログが閉じます。作成に失敗した場合は，メッセージが表示されるので，メッセージの内容に従って対処してください。

5.4.3 資産管理データベースの作成手順（ORACLE の場合）

ORACLE を使用して，資産管理データベースを作成する手順を次に示します。

1. **データベースの基本設定のダイアログで，「サーバ」，「SID」および「ポート番号」を指定する。**
   各項目は，次の図に示すデータベースの基本設定のダイアログで指定します。

図 5-9 データベースの基本設定のダイアログ（ORACLE の場合）



ダイアログの各項目について説明します。

- **「サーバ」**
  接続するデータベースのサーバ名または IP アドレスを指定します。指定できる値は，1 ～ 63 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「~」，「-」，「_」，「.」，「/」および「¥」です。
- **「SID」**
  作成するデータベースの名前を指定します。Oracle8i の場合 SID を，Oracle9i の場合サービス名を指定してください。指定できる値は，1 ～ 8 バイトの英数字です。
- **「ポート番号」**
  接続するデータベースサーバのポート番号を指定します。1 ～ 65535 の整数を指定してください。デフォルトでは，「1521」が指定されています。
- **「ネット・サービス名」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログの「サービス名」に指定した値が表示されます。

この項目は変更できません。

- **「接続ユーザ ID」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログの「ログイン ID」に指定した値が表示されます。この項目は変更できません。

2. **［次へ］ボタンをクリックする。**
   データベースに接続するための［認証確認］ダイアログが表示されます。
3. **［認証確認］ダイアログの「管理者 ID」および「管理者パスワード」に，資産管理データベースの管理者 ID および管理者パスワードを入力する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   認証に成功すると，次の図に示すデータベースの詳細設定のダイアログが表示されます。

図 5-10　データベースの詳細設定のダイアログ（ORACLE の場合）

認証に失敗した場合は，メッセージが表示されるので，メッセージの内容に従って対処してください。

5. **ユーザ表領域および一時表領域を指定する。**
   ダイアログで指定する各項目について説明します。
   - **「領域名」**
     データベース領域名を指定します。1 ～ 30 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」は指定できません。ORACLE の SQL リファレンスに記載されているスキーマ・オブジェクトのネーミング規則に従って指定してください。デフォルトでは，ユーザ表領域は「ASSET_DATA」が，一時表領域は「ASSET_TEMP」が指定されています。
   - **「ファイルパス」**
     「ファイルパス」に，データベースを格納するファイルパスを指定します。［...］ボ

タンをクリックすると，ファイルを参照するダイアログからファイルパスを指定できます。1 ～ 255 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」，「|」，「*」，「<」，「>」，「?」，「&」，「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは，ユーザ表領域は Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥db¥asset_db.dbf が指定されています。また，一時表領域は Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥db¥asset_temp.dbf が指定されています。

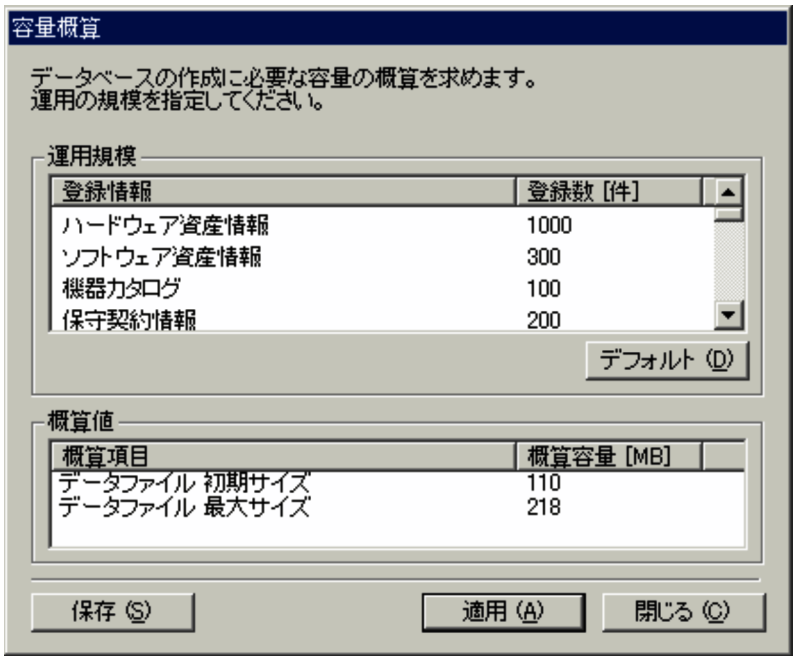
- **「初期サイズ［MB］」**
  データベース領域の初期サイズを指定します。1 以上の整数を指定してください。デフォルトでは，ユーザ表領域および一時表領域の初期サイズは，［容量概算］ダイアログでの概算値が指定されています。初期サイズは，［容量概算］ダイアログから指定することもできます。
- **「ファイルの自動拡張」**
  データベース領域の最大サイズおよび増加量をデフォルトの値から変更したい場合に，チェックボックスをチェックします。デフォルトでは，チェックされています。
- **「ファイルの最大サイズ」**
  データベース領域の最大サイズを指定します。デフォルトでは，「ファイルを無制限に拡張」が指定されています。ファイルサイズの上限値を指定したい場合は，「ファイル拡張の上限［MB］」を選択して，入力領域に上限値をメガバイト単位で指定してください。ただし，入力領域には，初期サイズより大きい整数を指定してください。最大サイズは，［容量概算］ダイアログから指定することもできます。
- **「増加量」**
  データベース領域の増加量を指定します。1 以上の整数を指定してください。デフォルトでは，1 メガバイトごとに増加するよう指定されています。
- **［容量概算］ボタン**
  データベース容量の概算値を計算できます。データベース容量の概算値の計算方法については，「5.4.4　データベース容量の概算」を参照してください。

6. **［作成］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースが作成されます。作成が完了すると，セットアップが完了したことを示すメッセージが表示されて，［データベースマネージャ］ダイアログが閉じます。作成に失敗した場合は，メッセージが表示されるので，メッセージの内容に従って対処してください。

5.4.4　データベース容量の概算

データベースの詳細設定のダイアログで，［容量概算］ボタンをクリックすると表示される［容量概算］ダイアログから，データベース容量の概算値を算出できます。資産管理データベースに Microsoft SQL Server を使用する場合の［容量概算］ダイアログを次の図に示します。Embedded RDB または ORACLE を使用する場合も，ダイアログの構成は同じです。

図 5-11 ［容量概算］ダイアログ（Microsoft SQL Server の場合）



データベース容量の概算値を算出して，データベースの詳細設定のダイアログに算出した値を適用する手順を次に示します。

1. **「運用規模」の「登録数［件］」に，使用する情報ごとの登録数を指定する。**
   「運用規模」の一覧から情報を選択して，登録数を指定してください。「概算値」の「概算容量［MB］」に，各容量の概算値がメガバイト単位で算出されます。概算の計算式については，「付録 A.2(1)　資産管理データベースで使用するディスク容量」を参照してください。各情報をデフォルトに戻したい場合は，［デフォルト］ボタンをクリックします。
2. **［適用］ボタンをクリックする。**
   概算値が，データベースの詳細設定のダイアログに反映されます。「運用規模」の使用する情報および登録数の一覧をテキストファイルとして保存するには，［保存］ボタンをクリックします。
3. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［容量概算］ダイアログが閉じます。

5.5 データソースまたはネット・サービスの作成

JP1/NETM/DM，JP1/Lan Licenser および JP1/ 秘文と連携する場合は，各プログラムで使用しているデータベースに接続するために，データソースまたはネット・サービスを作成します。また，資産管理データベースの作成後に，［サーバセットアップ］ダイアログの「ログイン ID」または「サービス名」を変更した場合も，データソースまたはネット・サービスを再作成する必要があります。

データソースまたはネット・サービスの作成時に必要な設定値は，Asset Information Manager の［サーバセットアップ］ダイアログで設定しておきます。［サーバセットアップ］ダイアログで設定する項目については，「5.3　資産管理サーバの設定」を参照してください。

各プログラムで使用できるデータベースの種類は次のとおりです。

● Asset Information Manager **のデータベース**※
Microsoft SQL Server，Embedded RDB または ORACLE

● JP1/NETM/DM **のデータベース**
Microsoft SQL Server，Embedded RDB または ORACLE

● JP1/Lan Licenser **のデータベース**
Microsoft SQL Server

● JP1/ **秘文のデータベース**
Microsoft SQL Server

注※
資産管理データベースの新規作成時には，同時にデータソースまたはネット・サービスも作成されます。そのため，新たにデータソースまたはネット・サービスを作成する必要はありません。［サーバセットアップ］ダイアログの「ログイン ID」または「サービス名」の値を変更した場合に，データソースまたはネット・サービスを作成してください。

Windows Server 2003 (x64) を使用する場合の注意事項
Windows Server 2003 (x64) に Asset Information Manager をインストールして，データベースに Microsoft SQL Server または Embedded RDB を使用する場合は，次の方法でデータベース接続の設定をしてください。
Windows のスタートメニューから「ファイルを指定して実行」を選択して，「%windir%syswow64¥odbcad32.exe」を指定して実行します。

資産管理データベースおよび連携している製品のデータベースに接続するための手順を次に示します。

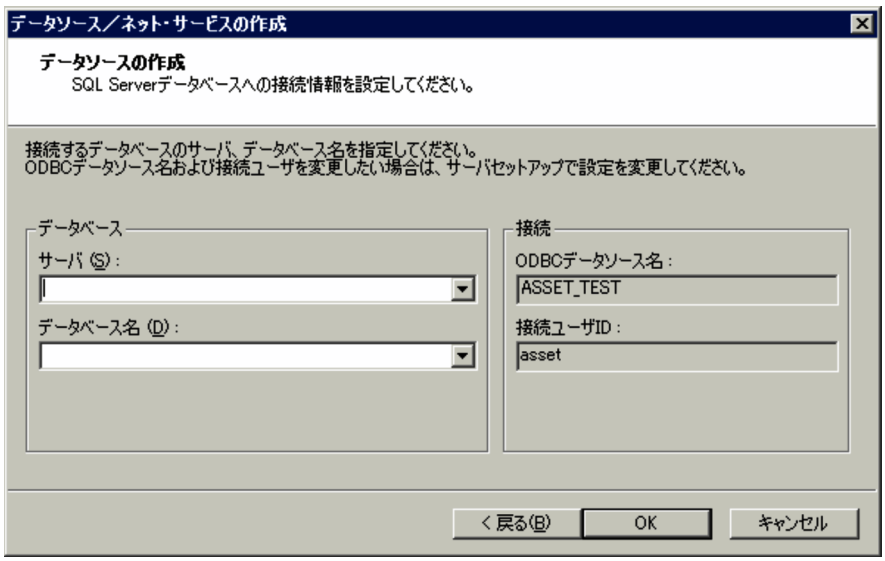
1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「データソース／ネット・サービスの作成」のアイコンをクリックする。**
   ［データソース／ネット・サービスの作成］ダイアログが表示されます。
3. **「接続先一覧」から接続するデータベースの製品名を選択して［次へ］ボタンをクリックする。**
   データソースまたはネット・サービスを作成するダイアログが表示されます。
4. **必要な項目を指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   データソースまたはネット・サービスの作成時の設定については，5.5.1 ～ 5.5.3 で DBMS ごとに説明します。
   データソースまたはネット・サービスが作成されて，資産管理データベースおよび連携している製品のデータベースに接続できるようになります。

5.5.1 データソースの作成（Microsoft SQL Server の場合）

接続するデータベースの情報を指定して，データソースを作成します。

データソースを作成するダイアログを次の図に示します。

図 5-12 データソースを作成するダイアログ（Microsoft SQL Server の場合）



接続先一覧に戻るには，［戻る］ボタンをクリックします。

データソースの作成手順を次に示します。

1. **データソースを作成するダイアログで，「サーバ」および「データベース名」を指定する。**

ダイアログの各項目について説明します。

- **「サーバ」**
  接続するデータベースのサーバ名を指定します。指定できる値は，1 ～ 63 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「~」，「-」，「_」，「.」，「/」および「¥」です。デフォルトでは，空白が指定されています。
- **「データベース名」**
  接続するデータベース名を指定します。指定できる値は，1 ～ 128 バイトの英数字および記号です。ただし，「"」，「|」，「-」，「*」，「:」，「<」，「>」，「?」，「/」および「¥」は指定できません。デフォルトでは，空白が指定されています。
- **「ODBC データソース名」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は，「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-7　選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目（ODBC データソース名）

選択した製品	［サーバセットアップ］ダイアログの項目
Asset Information Manager	サービス名
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM データベース接続サービス名
JP1/ 秘文 LogManager	JP1/ 秘文データベース接続サービス名
JP1/Lan Licenser	JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名

- **「接続ユーザ ID」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は，「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-8　選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目（接続ユーザ ID）

選択した製品	［サーバセットアップ］ダイアログの項目
Asset Information Manager	ログイン ID
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM データベースログイン ID
JP1/ 秘文 LogManager	JP1/ 秘文データベースログイン ID
JP1/Lan Licenser	JP1/Lan Licenser データベースログイン ID

2. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定した内容でデータソースが作成されます。作成が完了すると，データソースの作成が完了したことを示すメッセージが表示されます。

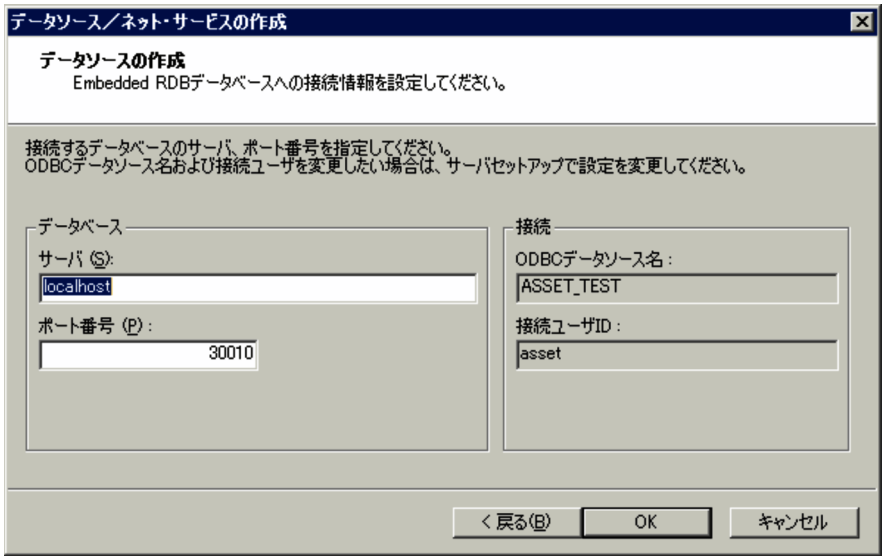
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   データソースを作成するダイアログが閉じて，接続先一覧に戻ります。

5.5.2 データソースの作成（Embedded RDB の場合）

接続するデータベースの情報を指定して，データソースを作成します。

データソースを作成するダイアログを次の図に示します。

図 5-13 データソースを作成するダイアログ（Embedded RDB の場合）



接続先一覧に戻るには，［戻る］ボタンをクリックします。

データソースの作成手順を次に示します。

1. **データソースを作成するダイアログで，「サーバ」および「ポート番号」を指定する。**
   ダイアログの各項目について説明します。
   - **「サーバ」**
     接続するデータベースのホスト名を指定します。指定できる値は，1 ～ 63 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「~」，「-」，「_」，「.」，「/」および「¥」です。接続先が Asset Information Manager の場合，デフォルトには「localhost」が指定されています。また，JP1/NETM/DM の場合，デフォルトには空白が指定されています。
   - **「ポート番号」**
     接続するデータベースサーバのポート番号を指定します。5001 ～ 65535 の整数を指定してください。デフォルトでは，接続先が Asset Information Manager の場合「30010」が，JP1/NETM/DM の場合「30008」が指定されています。
   - **「ODBC データソース名」**
     ［サーバセットアップ］ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更

できません。表示される値は，「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-9 選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目（ODBC データソース名）

選択した製品	［サーバセットアップ］ダイアログの項目
Asset Information Manager	サービス名
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM データベース接続サービス名

- **「接続ユーザ ID」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は，「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-10 選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目（接続ユーザ ID）

選択した製品	［サーバセットアップ］ダイアログの項目
Asset Information Manager	ログイン ID
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM データベースログイン ID

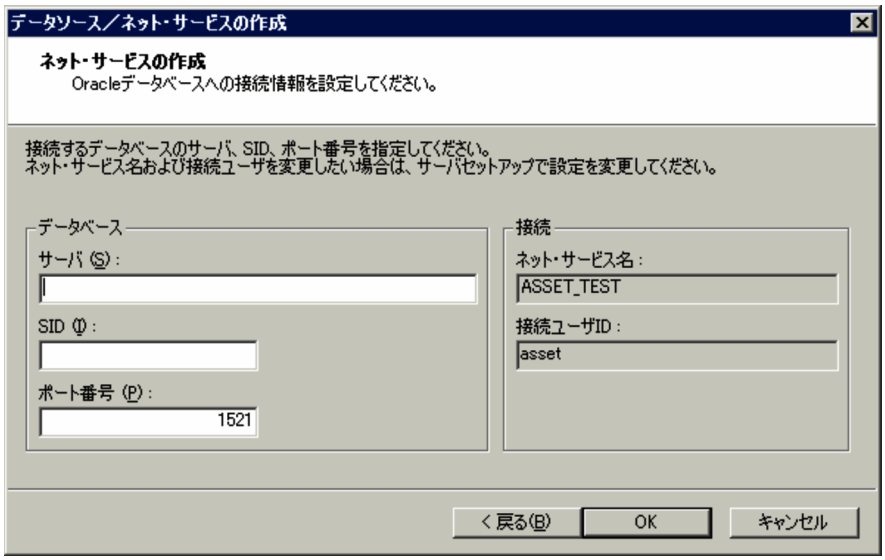
2. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定した内容でデータソースが作成されます。作成が完了すると，データソースの作成が完了したことを示すメッセージが表示されます。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   データソースを作成するダイアログが閉じて，接続先一覧に戻ります。

5.5.3 ネット・サービスの作成（ORACLE の場合）

接続するデータベースの情報を指定して，ネット・サービスを作成します。

ネット・サービスを作成するダイアログを次の図に示します。

図 5-14 ネット・サービスを作成するダイアログ（ORACLE の場合）



接続先一覧に戻るには，［戻る］ボタンをクリックします。

ネット・サービスの作成手順を次に示します。

1. **ネット・サービスを作成するダイアログで，「サーバ」，「SID」および「ポート番号」を指定する。**
   ダイアログの各項目について説明します。
   - **「サーバ」**
     接続するデータベースのサーバ名または IP アドレスを指定します。デフォルトでは，空白が指定されています。指定できる値は，1 ～ 63 バイトの半角英数字，全角文字，「%」，「~」，「-」，「_」，「.」，「/」および「¥」です。
   - **「SID」**
     接続するデータベースの名前を指定します。Oracle8i の場合 SID を，Oracle9i の場合サービス名を指定してください。指定できる値は，1 ～ 8 バイトの英数字です。
   - **「ポート番号」**
     接続するデータベースのサーバのポート番号を指定します。1 ～ 65535 の整数を指定してください。デフォルトでは，「1521」が指定されています。
   - **「ネット・サービス名」**
     ［サーバセットアップ］ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は，「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-11 選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目（ネット・サービス名）

選択した製品	［サーバセットアップ］ダイアログの項目
Asset Information Manager	サービス名
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM データベース接続サービス名

- **「接続ユーザ ID」**
  ［サーバセットアップ］ダイアログで指定した値が表示されます。この項目は変更できません。表示される値は，「接続先一覧」で選択した製品によって異なります。選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目を次の表に示します。

表 5-12 選択した製品に対応する［サーバセットアップ］ダイアログの項目（接続ユーザ ID）

選択した製品	［サーバセットアップ］ダイアログの項目
Asset Information Manager	ログイン ID
JP1/NETM/DM	JP1/NETM/DM データベースログイン ID

2. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定した内容でネット・サービスが作成されます。作成が完了すると，データソースの作成が完了したことを示すメッセージが表示されます。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ネット・サービスを作成するダイアログが閉じて，接続先一覧に戻ります。

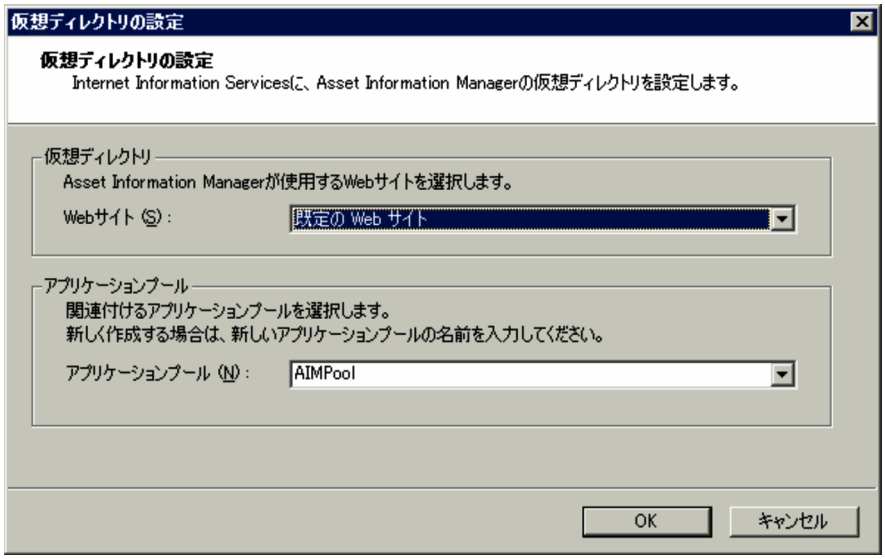
5.6 仮想ディレクトリの設定

Microsoft Internet Information Services に，Asset Information Manager の仮想ディレクトリを設定します。Asset Information Manager のインストール時に指定したパスを変更できます。また，Asset Information Manager のインストール時に Microsoft Internet Information Services に設定される「既定の Web サイト」以外にも，Web サイトを指定できます。さらに，Microsoft Internet Information Services 6.0 以降の場合，アプリケーションプールも作成および変更できます。

Asset Information Manager の仮想ディレクトリの変更，およびアプリケーションプールの作成・変更を実施する手順を次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「仮想ディレクトリの設定」のアイコンをクリックする。**
   次の図に示す［仮想ディレクトリの設定］ダイアログが表示されます。

図 5-15 ［仮想ディレクトリの設定］ダイアログ（Microsoft Internet Information Services 6.0 以降の場合）



インストールされている Microsoft Internet Information Services のバージョンが 5.1 以前の場合，アプリケーションプールの項目は表示されません。

3. **［仮想ディレクトリの設定］ダイアログで，必要な情報を設定する。**
   各項目について説明します。
   - **「Web サイト」**
     資産管理サーバの仮想ディレクトリを登録する Web サイトを指定します。ドロッ

プダウンリストから Web サイトを選択してください。デフォルトでは，Asset Information Manager の仮想ディレクトリが表示されている Web サイトが指定されています。仮想ディレクトリが登録されていない場合は，「既定の Web サイト」が指定されます。ただし，Web サイトが登録されていない場合は，空白が指定されます。

- **「アプリケーションプール」（Microsoft Internet Information Services 6.0 以降の場合だけ表示）**
  資産管理サーバの仮想ディレクトリと関連づけるアプリケーションプールを指定します。コンボボックスからアプリケーションプールを選択してください。新しくアプリケーションプールを作成する場合は，入力領域にアプリケーションプールの名前を入力してください。指定できる値は，1 ～ 255 バイトの文字です。ただし，「/」，「¥」，「=」，「:」および「,」は指定できません。デフォルトでは，Asset Information Manager の仮想ディレクトリと関連づけられているアプリケーションプールが表示されます。仮想ディレクトリが登録されていない場合は，「AIMPool」が表示されます。
  なお，インターネットインフォメーションサービスマネージャで，「=」，「:」および「,」を含んだ名称のアプリケーションプールを登録していた場合，コンボボックスには表示されません。

4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で，仮想ディレクトリの変更およびアプリケーションプールの作成・変更が実行されます。完了すると，仮想ディレクトリの設定が完了したことを示すメッセージが表示されます。
   ここで作成したアプリケーションプールは，Microsoft Internet Information Services から作成した場合と同じ内容です。そのため，Microsoft Internet Information Services から再作成する必要はありません。
   アプリケーションプールの作成時に実行される内容については，次に示す説明個所を参照してください。
   - Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用する場合
     「5.8.1(2)　アプリケーションプールの作成」
   - Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用する場合
     「5.8.2(3)　アプリケーションプールの作成」

5. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［仮想ディレクトリの設定］ダイアログが閉じます。

5.7 資産管理サーバで使用するサービスの設定

資産管理サーバでは，次のサービスを使用します。

- IIS Admin Services
- World Wide Web Publishing Service **または** World Wide Web Publishing
- Simple Mail Transport Protocol（SMTP）
  Windows のタスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果を，資産管理者にメールで通知する場合，または案件を送付したことを次の作業者にメールで通知する場合に必要です。
- Asset Information Synchronous Service
  JP1/NETM/DM と連携して，インベントリ情報の更新をリアルタイムに取得する場合に必要です。Asset Information Manager のインストール時に，コンポーネント「JP1/NETM/DM 連携」を選択すると作成されます。
  リアルタイムにインベントリ情報の更新を取得しない場合は，Windows のタスクスケジューラに登録されるタスク「インベントリ情報の取込み」を有効にしてください。タスクの設定方法については，「5.9.2　タスクの設定手順」を参照してください。

資産管理サーバで使用するサービスは，自動的に開始する設定にしておきます。Asset Information Manager をインストールしたあとは，Asset Information Synchronous Service は自動的に開始する設定になっていないので，次の手順で自動的に開始するように設定してください。

1. **［サービス］ウィンドウで，「Asset Information Synchronous Service」を選択する。**
2. **メニューから「操作」－「プロパティ」を選択する。**
   ［プロパティ］ダイアログが表示されます。
3. **「全般」タブで，「スタートアップの種類」を「自動」に変更する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［プロパティ］ダイアログが閉じて，サービス「Asset Information Synchronous Service」が自動的に開始する設定になります。
5. **サービス「Asset Information Synchronous Service」を開始する。**

また，資産管理サーバで使用するほかのサービスのプロパティを確認して，自動的に開始する設定になっていない場合は，同じ手順で自動的に開始するように設定してください。

5.8 Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用する場合の設定

ここでは，Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用している場合，Asset Information Manager をインストールしたときに必要な設定および注意について説明します。

なお，Microsoft Internet Information Services 5.1 以前を使用している場合は，ここで説明する設定を実施する必要はありません。

5.8.1 WWW サーバの設定（Microsoft Internet Information Services 6.0 の場合）

Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用している場合，Asset Information Manager をインストールしたときに必要な設定および注意について説明します。

(1) アップロードするファイルの拡張子の登録

各操作画面または案件で，添付ファイルとしてアップロードするファイルの拡張子に関する情報を，インターネットインフォメーションサービスマネージャに登録してください。

ファイルの拡張子に関する情報を登録する手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。**
2. **資産管理サーバの「Web サイト」から，「既定の Web サイト」－「jp1asset」を選択して，プロパティを表示する。**
3. **「HTTP ヘッダー」タブの［MIME の種類］ボタンをクリックする。**
4. **使用する拡張子と MIME の種類を登録して［OK］ボタンをクリックする。**
   MIME の種類については，インターネットインフォメーションサービスマネージャのヘルプを参照してください。

(2) アプリケーションプールの作成

インターネットインフォメーションサービスマネージャでのアプリケーションプールの設定が必要です。

アプリケーションプールの作成手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。**
2. **資産管理サーバの「アプリケーションプール」を選択する。**
3. **メニューから「操作」－「新規作成」－「アプリケーションプール」を選択する。**

［新しいアプリケーションプールの追加］ダイアログが表示されます。

4. **「アプリケーションプール ID」に，任意のアプリケーションプール名を入力して，［OK］ボタンをクリックする。**
   アプリケーションプール名には，「=」，「:」および「,」を指定しないでください。［仮想ディレクトリの設定］ダイアログのコンボボックスに表示されなくなります。
5. **作成したアプリケーションプールのプロパティを表示する。**
6. **「リサイクル」タブ，「パフォーマンス」タブで，オプションのチェックをすべて外す。**
7. **「識別」タブで，「アプリケーションプール ID」に「定義済み」－「Local System」を選択する。**
8. **資産管理サーバの「Web サイト」から，「既定の Web サイト」－「jp1asset」を選択し，プロパティを表示する。**
9. **手順 4. で作成したアプリケーションプールを選択して，［OK］ボタンをクリックする。**
10. **World Wide Web Publishing Service を再起動する。**

（3） Asset Information Manager のサイトの追加

Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用している場合，Microsoft Internet Explorer から Asset Information Manager を使用するためには，Asset Information Manager のサイトの追加が必要です。また，JP1/IM などの他製品から Asset Information Manager の情報を参照する場合も同じ設定が必要です。

Asset Information Manager のサイトを追加する手順を次に示します。

1. **Microsoft Internet Explorer の「ツール」－「インターネットオプション」を選択する。**
   ［インターネットオプション］ダイアログが表示されます。
2. **「セキュリティ」タブの「イントラネット」アイコンを選択して，［サイト］ボタンをクリックする。**
3. **表示されたダイアログから Asset Information Manager のサイトを追加して，［閉じる］ボタンをクリックする。**

（4） サイトを作成する場合の注意

Microsoft Internet Information Services 6.0 の場合，Asset Information Manager をインストールしたときは，［仮想ディレクトリの設定］ダイアログの「Web サイト」に指定した仮想ディレクトリに，ワーカープロセスをリサイクルするサイトを作成しないでください。「Web サイト」には，デフォルトでは「既定の Web サイト」が指定されています。

5.8.2 WWW サーバの設定（Microsoft Internet Information Services 7.0 の場合）

Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用している場合，Asset Information Manager をインストールしたときに必要な設定および注意について説明します。

（1） 役割サービスのインストール

Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用している場合，用途に応じた役割サービスをインストールする必要があります。

Microsoft Internet Information Services 7.0 の役割サービスをインストールする手順を次に示します。

1. **［サーバーマネージャ］ウィンドウの「役割」を選択し，「役割サービスの追加」を選択する。**
   役割サービスを選択するダイアログが表示されます。
2. **用途に応じた役割サービスを選択し，［次へ］ボタンをクリックする。**
   インストールオプションを確認するダイアログが表示されます。
   資産管理サーバおよび WSUS サーバの構築時に選択する役割サービスを次の表に示します。

表 5-13 資産管理サーバおよび WSUS サーバの構築時に選択する役割サービス

項目	役割サービス	資産管理サーバ	WSUS サーバ
HTTP 基本機能	静的なコンテンツ	○	○
	既定のドキュメント	△	－
	ディレクトリの参照	○	－
	HTTP エラー	△	△
アプリケーション開発	ASP.NET	－	○
	ISAPI 拡張	○	－
	ISAPI フィルタ	○	－
パフォーマンス	静的なコンテンツの圧縮	△	－
IIS 管理コンソール	IIS 管理コンソール	○	○
IIS6 管理互換	IIS6 メタベース互換	○	○

（凡例）
○：選択が必要な役割サービス
△：選択を推奨する役割サービス
－：該当なし

3. **手順 2. で選択した役割サービスが表示されていることを確認し，［インストール］ボ**

タンをクリックする。
インストールが完了すると，インストールの結果を示すダイアログが表示されます。

4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**

（2） アップロードするファイルの拡張子の登録

各操作画面または案件で，添付ファイルとしてアップロードするファイルの拡張子に関する情報を，インターネットインフォメーションサービスマネージャに登録してください。

ファイルの拡張子に関する情報を登録する手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。**
2. **資産管理サーバの「サイト」から，「**Default Web Site**」ー「**jp1asset**」を選択して，「**MIME **の種類」を選択する。**
3. **「操作」メニューから「追加」を選択する。**
［MIME の種類の追加］ダイアログが表示されます。
4. **使用する拡張子と** MIME **の種類を登録して［**OK**］ボタンをクリックする。**
MIME の種類については，インターネットインフォメーションサービスマネージャのヘルプを参照してください。

（3） アプリケーションプールの作成

インターネットインフォメーションサービスマネージャでのアプリケーションプールの設定が必要です。

アプリケーションプールの作成手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。**
2. **資産管理サーバの「アプリケーションプール」を選択する。**
3. **「操作」メニューから「アプリケーションプールの追加」を選択する。**
［アプリケーションプールの追加］ダイアログが表示されます。
4. **「名前」に，任意のアプリケーションプール名を入力し，「マネージパイプラインモード」を「クラシック」にして［**OK**］ボタンをクリックする。**
アプリケーションプール名には，「=」，「:」および「,」を指定しないでください。［仮想ディレクトリの設定］ダイアログのコンボボックスに表示されなくなります。
5. **作成したアプリケーションプールを選択し，「操作」メニューから「詳細設定」を選択する。**
［詳細設定］ダイアログが表示されます。
6. **必要な項目を指定し，［**OK**］ボタンをクリックする。**
［詳細設定］ダイアログの各項目に，次のように指定してください。ほかの項目はデフォルトの設定でかまいません。

（全般）

キューの長さ：「4000」

32 ビットアプリケーションの有効化：「True」（64 ビット版の Windows Server 2008 の場合だけ）

プロセスモデル

ID：「LocalSystem」

Ping の有効化：「False」

アイドル状態のタイムアウト（分）：「0」

ラピッドフェール保護

有効：「False」

リサイクル

異常が報告された ISAPI：「True」

手動リサイクル：「True」

特定の時間：「True」

変更されたアプリケーションプール構成：「True」

要求制限の超過：「True」

構成の変更時のリサイクルを無効にする：「True」

定期的な間隔（分）：「0」

7. **「操作」メニューから「リサイクルの設定」を選択する。**
［アプリケーションプールのリサイクル設定の編集］ダイアログが表示されます。

8. **リサイクル条件のチェックボックスのチェックをすべて外し，［次へ］ボタンをクリックする。**

9. **ログを記録するリサイクルイベントのうち，アプリケーションプールのリサイクル時にログを記録するリサイクルイベントのチェックボックスをチェックして，［終了］ボタンをクリックする。**
活性化されているチェックボックスをすべてチェックすることをお勧めします。アプリケーションプールのリサイクル時にログを記録したくないリサイクルイベントがある場合は，チェックボックスのチェックを外してから［終了］ボタンをクリックしてください。

10. **World Wide Web Publishing Service を再起動する。**

（4） アプリケーション（仮想ディレクトリ）の設定

役割サービスの「IIS6 メタベース互換」を，Asset Information Manager をインストールしたあとで追加した場合は，インターネットインフォメーションサービスマネージャでのアプリケーション（仮想ディレクトリ）の設定が必要です。

アプリケーション（仮想ディレクトリ）を新規で作成する手順を次に示します。

1. **資産管理サーバの「サイト」から，「Default Web Site」を選択して右クリックし，「アプリケーションの追加」を選択する。**

［アプリケーションの追加］ダイアログが表示されます。

2. **［選択］ボタンをクリックして，「アプリケーションプール」に作成したアプリケーションプールを指定する。**

3. **「物理パス」に資産管理サーバの仮想ディレクトリを指定し，［OK］ボタンをクリックする。**
   資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

また，すでにアプリケーション（仮想ディレクトリ）がある場合の，設定の変更手順を次に示します。

1. **資産管理サーバの「サイト」から，「Default Web Site」－「jp1asset」を選択して，操作メニューから「詳細設定」を選択する。**
   ［詳細設定］ダイアログが表示されます。

2. **「アプリケーションプール」に作成したアプリケーションプール，「物理パス」に資産管理サーバの仮想ディレクトリを指定し，［OK］ボタンをクリックする。**
   資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

（5）ISAPI の制限の設定

役割サービスの，「IIS6 メタベース互換」および「ISAPI 拡張」を，Asset Information Manager をインストールしたあとで追加した場合は，インターネットインフォメーションサービスマネージャでの ISAPI の制限の設定が必要です。

ISAPI の制限の設定手順を次に示します。

1. **資産管理サーバを選択して，「ISAPI および CGI の制限」を選択する。**

2. **「操作」メニューから「追加」を選択する。**
   ［ISAPI または CGI の制限の追加］ダイアログが表示されます。

3. **「ISAPI または CGI パス」にファイルのパスを指定し，「拡張パスの実行を許可する」チェックボックスをチェックして，［OK］ボタンをクリックする。**
   「ISAPI または CGI パス」には，資産管理サーバの仮想ディレクトリに格納された次のファイルのパスを指定します。
   - jamwscript.dll
   - bin¥jamlogin.dll
   - jamenter.dll
   - jamfile.dll
   - jamhtmlfile.dll

   手順 1. ～手順 3. を繰り返して，これらのファイルをすべて追加してください。
   資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager

のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

(6) ISAPI フィルタの設定

役割サービスの，「IIS6 メタベース互換」および「ISAPI フィルタ」を，Asset Information Manager をインストールしたあとで追加した場合は，インターネットインフォメーションサービスマネージャでの ISAP フィルタの設定が必要です。

ISAPI フィルタの設定手順を次に示します。

1. **資産管理サーバの「サイト」から，「Default Web Site」を選択して，「ISAPI フィルタ」を選択する。**
2. **「操作」メニューから「追加」を選択する。**
   ［ISAPI フィルタの追加］ダイアログが表示されます。
3. **「実行可能ファイル」にファイルのパスを指定し，［OK］ボタンをクリックする。**
   「実行可能ファイル」には，Asset Information Manager のインストールフォルダに格納された「bin¥jamssessionfilter.dll」のパスを指定します。
   「フィルタ名」は変更する必要はありません。

(7) ハンドラマッピングの設定

役割サービスの「IIS6 メタベース互換」を，Asset Information Manager をインストールしたあとで追加した場合は，インターネットインフォメーションサービスマネージャでのハンドラマッピングの設定が必要です。

ハンドラマッピングの設定手順を次に示します。

1. **資産管理サーバの「サイト」から，「Default Web Site」－「jp1asset」を選択して，「ハンドラマッピング」を選択する。**
2. **「操作」メニューから「機能のアクセス許可の編集」を選択する。**
   ［機能のアクセス許可の編集］ダイアログが表示されます。
3. **すべてのチェックボックス（「読み取り」，「スクリプト」および「実行」）をチェックし，［OK］ボタンをクリックする。**

(8) ディレクトリの参照の設定

役割サービスの，「IIS6 メタベース互換」および「ディレクトリの参照」を，Asset Information Manager をインストールしたあとで追加した場合は，インターネットインフォメーションサービスマネージャでのディレクトリの参照の設定が必要です。

ディレクトリの参照の設定手順を次に示します。

1. **資産管理サーバの「サイト」から，「Default Web Site」－「jp1asset」－「log」を選択して，「ディレクトリの参照」を選択する。**
2. **「操作」メニューから「有効にする」を選択する。**

（9） Asset Information Manager のサイトの追加

Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用している場合，Microsoft Internet Explorer から Asset Information Manager を使用するためには，Asset Information Manager のサイトの追加が必要です。また，JP1/IM などの他製品から Asset Information Manager の情報を参照する場合も同じ設定が必要です。

Asset Information Manager のサイトを追加する手順を次に示します。

1. Microsoft Internet Explorer の「ツール」－「インターネットオプション」を選択する。
   ［インターネットオプション］ダイアログが表示されます。
2. 「セキュリティ」タブの「ローカルイントラネット」アイコンを選択して，［サイト］ボタンをクリックする。
3. 表示されたダイアログから Asset Information Manager のサイトを追加して，［閉じる］ボタンをクリックする。

（10） サイトを作成する場合の注意

Microsoft Internet Information Services 7.0 の場合，Asset Information Manager をインストールしたときは，［仮想ディレクトリの設定］ダイアログの「Web サイト」に指定した仮想ディレクトリに，ワーカープロセスをリサイクルするサイトを作成しないでください。「Web サイト」には，デフォルトでは「Default Web Site」が指定されています。

5.9 タスクスケジューラに登録されるタスクの設定

Asset Information Manager では，日々の資産管理業務で発生する資産情報のメンテナンスおよび監視作業を Windows のタスクスケジューラの機能を使用して自動的に実行できます。

Asset Information Manager をインストールすると，Windows のタスクスケジューラに，各作業を実行するためのタスクが作成されます。このタスクのスケジュールや，タスクの有効と無効の設定を，資産情報の運用に合わせて変更します。

なお，Asset Information Manager のインストール時は，すべてのタスクは無効になっています。

ここでは，各タスクの内容や設定手順について説明します。

注意事項

- Administrators 権限を持つユーザでタスクのスケジュールを実行してください。
- Windows XP Professional でタスクのスケジュールを実行する場合，Windows XP Professional にログオンするユーザおよびパスワードが設定された環境で実行してください。ユーザおよびパスワードが設定されていない環境では，タスクのスケジュールが実行されません。

参考

Asset Information Manager をインストールすると作成されるタスクのほかに，独自の処理を実行するタスクを作成することもできます。タスクで実行させる内容は，**アクセス定義ファイル**（Asset Information Manager が提供しているスクリプトで処理を定義したファイル）に定義します。アクセス定義ファイルの作成方法およびタスクの追加方法については，HTML ヘルプ「アクセス定義ファイル作成ガイド」（assetscr.chm）を参照してください。assetscr.chm は，次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help

5.9.1 タスクの種類

Windows のタスクスケジューラに設定された，タスクの種類，各タスクの内容，および各タスクを有効にした場合のデフォルトの設定について説明します。

(1) タスクの名称と内容

各タスクの名称と内容について次に示します。各タスクで使用しているファイルは変更しないでください。

● データメンテナンス

資産管理データベースのデータの整合性を保つために，更新された情報に合わせて，関連するほかの情報を更新します。また，不要な情報を削除します。
このタスクは資産管理サーバを設定したあと，必ず有効にしてください。
データメンテナンスで実施する作業の指定方法については，「5.9.3　タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定」を参照してください。

● 期限切れ契約情報通知

契約期限が迫った保守契約およびリース契約の情報を，資産管理者にメールで通知します。デフォルトでは，2 か月以内に迫った契約を通知する設定になっています。
メールで通知するタイミングの指定方法については，「5.9.4　契約期限を通知するタイミングの指定」を参照してください。
また，自動的にメールを通知させるためには，Asset Information Manager と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については，「5.10　メール通知を使用するための設定」を参照してください。

● ライセンス超過通知

部署ごとにライセンス保有数とライセンス利用数を集計して，保有数を超過してライセンスを使用している場合に，ライセンス超過の情報をメールで通知します。メールでの通知が不要な場合は，タスク「ライセンスの集計」を使用してください。集計結果を削除するタイミングの指定方法については，「5.9.5　ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定」を参照してください。
また，自動的にメールを通知させるためには，Asset Information Manager と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については，「5.10　メール通知を使用するための設定」を参照してください。

注意事項

数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に，データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると，データの検索，追加および削除に時間が掛かるため，集計の性能が劣化します。資産管理システムが数千台規模になるときは，古くなった集計結果を定期的に削除してください。

● ライセンスの集計

部署ごとにライセンス保有数とライセンス利用数を集計します。保有数を超過して使用しているライセンスがあった場合でも，メールでの通知はしません。
ライセンス超過の情報をメールで通知してほしい場合は，タスク「ライセンス超過通知」を使用してください。なお，このタスクは実行完了までに時間が掛かるため，「ライセンス超過通知」との併用はお勧めしません。
集計結果を削除するタイミングの指定方法については，「5.9.5　ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定」を参照してください。

注意事項

数千台の大規模システムで集計を多数実行する際に，データベースに大量の古い集計結果のデータが残っていると，データの検索，追加および削除に時間が掛かるため，集計の性能が劣化します。資産管理システムが数千台規模になるときは，古くなった集計結果を定期的に削除してください。

● 許可外インストール通知

許可されていないソフトウェアをインストールしている機器の情報を，資産管理者にメールで通知します。

また，自動的にメールを通知させるためには，Asset Information Manager と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については，「5.10　メール通知を使用するための設定」を参照してください。

● 履歴情報の削除

保守履歴，資産情報の履歴および変更履歴を，指定した期間の情報を残して削除します。

デフォルトでは，6 か月以上経った履歴情報が削除される設定になっています。削除する履歴情報の指定方法については，「5.9.6　削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定」を参照してください。

● インベントリ情報の取込み

JP1/NETM/DM で取得したインベントリ情報を，資産管理データベースに取り込みます。更新されたインベントリ情報をリアルタイムに取得する場合は，このタスクを使用する必要はありません。

オプションを指定して，すべてのインベントリ情報を再取得する手順については，「5.9.7　すべてのインベントリ情報の取得」を参照してください。

また，インベントリ情報として取得できる情報の詳細については，「12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報」を参照してください。

● 操作履歴の取込み

JP1/NETM/DM で取得したプログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を，資産管理データベースに取り込みます。

このタスクは，業務メニュー「プログラム起動履歴」および「ウィンドウタイトル変更履歴」を使用する場合に必要です。業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」を使用する場合は，実行する必要はありません。

プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を管理する期間やフィルタリングの定義方法については，「5.9.8　操作履歴の取得範囲およびフィルタリングの指定」を参照してください。

また，プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴として取得できる情報の詳細については，「12.2　JP1/NETM/DM から取得できる操作ログ」を参照してください。

● ディレクトリ情報の取込み

JP1/NETM/DM で取得したディレクトリ情報から，部署およびユーザの情報を資産管理データベースに取り込みます。このタスクを実行するタイミングは，JP1/NETM/DM のディレクトリ情報が更新されたあとに設定することをお勧めします。

なお，部署およびユーザの情報が重複するおそれがあるため，JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報と併せて取得することはお勧めしません。

JP1/NETM/DM のディレクトリ情報を取得する手順については，「5.9.9　JP1/NETM/DM のディレクトリ情報の取得」を参照してください。

注意事項

JP1/NETM/DM のディレクトリ情報を取得する場合は，既存のデータを上書きするかどうかを選択できません。引き当てられた部署またはユーザ名は，JP1/NETM/DM のディレクトリ情報の内容で上書きされます。

● ソフトウェア稼働情報の取込み

JP1/Lan Licenser で取得したソフトウェア稼働情報を，資産管理データベースに取り込みます。

ソフトウェア稼働情報として取得できる情報の詳細については，「12.4　JP1/Lan Licenser から取得できるソフトウェア稼働情報」を参照してください。

このタスクは，JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェア稼働状況を管理するために必要なタスクです。JP1/NETM/DM と連携してソフトウェア稼働状況を管理する場合は，JP1/NETM/DM のデータベースの情報を直接参照するため，タスクを使用して情報を取り込む必要はありません。

● ノード情報の取込み

Network Node Manager で取得したノード情報を，資産管理データベースに取り込みます。

ノード情報の取り込みの詳細については，「6.2.1　タスク「ノード情報の取込み」を有効にする」を参照してください。

● WSUS 任意タイミング同期

指定したタイミングで Microsoft Update と WSUS サーバの同期を取ります。

タスクのスケジュールを設定することで，WSUS サーバが同期を取るタイミングを任意に設定できます。同期を取った結果は，Asset Information Manager の WSUS 更新プログラム管理画面で参照できます。

Microsoft Update と WSUS サーバの同期を取るには，［サーバセットアップ］ダイアログの「WSUS コネクタの URL」に値を設定しておく必要があります。設定の詳細については，「5.3.13(1)　WSUS コネクタの URL」を参照してください。

更新プログラムの到着をメールで通知させるために，タスク「WSUS 更新プログラム通知」より前に実行するように，日時を設定してください。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については，「5.9.2(2)　タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

● WSUS 更新プログラム通知

WSUS サーバに新着の更新プログラムが追加されたことを，資産管理者にメールで通知します。

自動的にメールを通知させるためには，Asset Information Manager と Microsoft Internet Information Services で設定が必要です。メール通知するための設定手順については，「5.10　メール通知を使用するための設定」を参照してください。

注意事項

上記のタスクで使用しているアクセス定義ファイルは変更しないでください。アクセス定義ファイルを作成して新しくタスクを追加する場合は，新規にアクセス定義

ファイルを作成してください。

(2) 各タスクのデフォルトの設定

各タスクを有効にした場合に，実行されるデフォルトのスケジュールの設定について，次の表に示します。

表 5-14 各タスクを有効にした場合のデフォルトの設定

タスクの名称	デフォルトのスケジュールの設定
データメンテナンス	毎日，午前 5 時 00 分
期限切れ契約情報通知	毎月 1 日の午前 6 時 00 分
ライセンス超過通知	毎週月曜日の午前 5 時 30 分
ライセンスの集計	毎週月曜日の午前 5 時 30 分
許可外インストール通知	毎週火曜日の午前 5 時 30 分
履歴情報の削除	毎月 1 日の午前 6 時 00 分
インベントリ情報の取込み	毎週水曜日の午前 5 時 30 分
操作履歴の取込み	毎週土曜日の午前 0 時 00 分
ディレクトリ情報の取込み	毎週日曜日の午前 0 時 00 分
ソフトウェア稼働情報の取込み	毎週木曜日の午前 5 時 30 分
ノード情報の取込み	毎週金曜日の午前 5 時 30 分
WSUS 任意タイミング同期	毎月 1 日の午前 5 時 00 分
WSUS 更新プログラム通知	毎月 1 日の午前 6 時 00 分

5.9.2 タスクの設定手順

Windows のタスクスケジューラでの，タスクの有効と無効の切り換え，タスクの実行スケジュールの変更，およびタスクの削除の手順について次に示します。

(1) タスクを有効にする

Windows のタスクスケジューラに作成された Asset Information Manager のタスクは，デフォルトでは無効になっているので，使用するには，タスクを有効にする必要があります。使用しないタスクは無効にできます。

また，Windows Server 2003 (x64) でタスクを使用する場合は，「実行するファイル名」を変更する必要があります。

タスクスケジューラに登録されているタスクの有効，無効を切り換える手順を次に示します。

1. **Windows のコントロールパネルで，「タスク」アイコンをダブルクリックする。**
   タスクスケジューラの画面が表示されます。

2. **有効（または無効）にしたいタスクを選択して，プロパティを表示する。**
   選択したタスクのプロパティダイアログが表示されます。
3. **「タスク」タブの「実行する（スケジュールされたタスクは指定の時間に実行されます）」チェックボックスをチェックする。**
   無効にしたい場合は，このチェックボックスのチェックを外します。
4. Windows Server 2003 (x64) **を使用する場合は，「実行するファイル名」を変更する。**
   次のタスクを使用する場合は，「%windir%system32¥cscript.exe」を「%windir%syswow64¥cscript.exe」に変更してください。
   - 期限切れ契約情報通知
   - ライセンス超過通知
   - ライセンスの集計
   - 許可外インストール通知

   それ以外の場合は，「実行するファイル名」に指定されている内容は変更しないでください。
5. **［OK］ボタンをクリックする。**
   タスクが有効（または無効）になって，タスクのプロパティダイアログが閉じます。
   タスクの実行結果は，Windows のコントロールパネルで，「タスク」アイコンをダブルクリックすると表示される，タスクスケジューラの画面で確認します。
   タスクスケジューラの画面を詳細表示に切り換えて，「前回の結果」に表示される戻り値を確認してください。なお，内容の詳細は ASTMESn.log を参照してください。

各タスクの「実行するファイル名」の指定内容を次の表に示します。

なお，表中の「<WINDOWS>」および「<INSTALL>」はそれぞれ次のフォルダを示しています。

- <INSTALL>：Asset Information Manager のインストールフォルダ
- <WINDOWS>：Windows のインストールフォルダ

表 5-15　各タスクの「実行するファイル名」の指定内容

タスクの名称	「実行するファイル名」の指定内容
データメンテナンス	"<INSTALL>¥exe¥jamscript.exe" -f "<INSTALL>¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt"
期限切れ契約情報通知	"<WINDOWS>¥system32¥cscript.exe" "<INSTALL>¥exe¥jamexpiration.vbs"
ライセンス超過通知	"<WINDOWS>¥system32¥cscript.exe" "<INSTALL>¥exe¥jamLicenseOver.vbs"
ライセンスの集計	"<WINDOWS>¥system32¥cscript.exe" "<INSTALL>¥exe¥jamSoftwareAddUp.vbs"
許可外インストール通知	"<WINDOWS>¥system32¥cscript.exe" "<INSTALL>¥exe¥jamPermitInstall.vbs"

タスクの名称	「実行するファイル名」の指定内容
履歴情報の削除	"<INSTALL>¥exe¥jamscript.exe" -f "<INSTALL>¥scriptbatch¥RemoveRecord.txt" -s TARGET=A -s MONTH=6
インベントリ情報の取込み	"<INSTALL>¥exe¥jamTakeDMInventory.bat"
操作履歴の取込み	"<INSTALL>¥exe¥jamscript.exe" -f "<INSTALL>¥scriptbatch¥TakeClientOperation.txt"
ディレクトリ情報の取込み	"<INSTALL>¥exe¥jamscript.exe" -f "<INSTALL>¥scriptbatch¥DMDirectory.txt"
ソフトウェア稼働情報の取込み	"<INSTALL>¥exe¥jamTakeLLInformation1.bat"
ノード情報の取込み	"<INSTALL>¥exe¥jamTakeNodeData.bat"
WSUS 任意タイミング同期	"<INSTALL>¥exe¥jamscript.exe" -f "<INSTALL>¥scriptbatch¥SyncUpdates.txt"
WSUS 更新プログラム通知	"<INSTALL>¥exe¥jamscript.exe" -f "<INSTALL>¥scriptbatch¥ScanNewUpdates.txt"

(2) タスクのスケジュールの変更

タスクを実行する日時を変更できます。また，スケジュールを追加することもできます。

● 実行日時の変更

タスクが実行される日時を変更する手順を次に示します。

1. **Windows のコントロールパネルで，「タスク」アイコンをダブルクリックする。**
   タスクスケジューラの画面が表示されます。
2. **実行日時を変更したいタスクを選択して，プロパティを表示する。**
   選択したタスクのプロパティダイアログが表示されます。
3. **「スケジュール」タブの「タスクのスケジュール」および「開始時刻」を変更する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   指定したスケジュールでタスクが変更されて，タスクのプロパティダイアログが閉じます。

● 実行スケジュールの追加

タスクが実行されるスケジュールを追加する手順を次に示します。

1. **Windows のコントロールパネルで，「タスク」アイコンをダブルクリックする。**
   タスクスケジューラの画面が表示されます。
2. **スケジュールを追加したいタスクを選択して，プロパティを表示する。**
   選択したタスクのプロパティダイアログが表示されます。
3. **「スケジュール」タブの「複数のスケジュールを表示する」チェックボックスをチェックする。**
   「スケジュール」タブの上部に，スケジュールのドロップダウンリストと，［新規］ボタン，［削除］ボタンが表示されます。
4. **［新規］ボタンをクリックする。**
   ドロップダウンリストに，スケジュールが追加されます。
5. **追加されたスケジュールの「タスクのスケジュール」および「開始時刻」を設定す**

る。

6. **[OK] ボタンをクリックする。**
   タスクにスケジュールが追加されて，タスクのプロパティダイアログが閉じます。

(3) タスクの削除

不要なタスクを削除する手順を次に示します。

1. **Windows のコントロールパネルで，「タスク」アイコンをダブルクリックする。**
   タスクスケジューラの画面が表示されます。
2. **削除したいタスクを選択して，「ファイル」－「削除」を選択する。**
   選択したタスクが削除されます。

(4) タスクの実行結果

タスクの実行結果は，Windows のコントロールパネルで，「タスク」アイコンをダブルクリックすると表示される，タスクスケジューラの画面で確認します。

タスクスケジューラの画面を詳細表示に切り換えて，「前回の結果」に表示される戻り値を確認してください。なお，内容の詳細は ASTMESn.log を参照してください。

各戻り値の内容を次の表に示します。

戻り値	内容
0x0	正常終了。
0x1	該当するデータが存在しません。
0x2 以上	そのほかのエラーで終了しました。

5.9.3 タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定

このタスクは資産管理サーバを設定したあと，必ず有効にしてください。

タスク「データメンテナンス」は，資産管理データベースのデータの整合性を保つために，更新された情報に合わせて，関連するほかの情報を更新したり，不要な情報を削除したりします。実施できる作業の中から，必要な作業だけを選択して実施することもできます。実施する作業を選択する方法については，「(3) 実施する作業の変更」を参照してください。

(1) タスク「データメンテナンス」で実施する作業

タスク「データメンテナンス」を利用して実施できる作業を次に示します。

●「抹消」状態の資産情報，契約情報，ボリューム契約情報を削除する作業
資産情報の削除に伴って，関連づけられている次の情報も削除されます。
ハードウェア資産情報，ソフトウェア資産情報，ネットワーク情報，インストールソフトウェア情報，パッチ情報，ウィルス定義情報，移管履歴，ソフトウェア稼働情報，

コンポーネント情報，資産情報とソフトウェアキー情報，ユーザ情報とソフトウェアキー情報
また，契約情報の削除に伴って，関連づけられている次の情報も削除されます。
保守契約情報，リース契約情報，レンタル契約情報，ボリューム契約情報，契約履歴，契約資産履歴

- **「返却」，「廃棄」または「仮廃棄」状態の資産情報に関連づけられている情報を削除する作業**
  次の情報が削除されます。
  インストールソフトウェア情報，パッチ情報，ウィルス定義情報，ソフトウェア稼働情報，コンポーネント情報，ネットワーク情報※
  また，資産に割り当てられているライセンスキーが解除されます。
  注※　ネットワーク情報で削除されるのは，IP アドレスだけです。

- **操作画面で変更した部署，設置場所およびユーザ名に合わせて既存の資産情報に登録されている部署，設置場所，ユーザ名を変更する作業**
  操作画面で変更した部署，設置場所およびユーザ名は，このタスクによって資産情報，契約情報に反映され，変更した履歴が移管履歴に取得されます。

- **ID に対応する部署，設置場所およびユーザ名を，資産情報に設定する作業**
  資産情報に，部署 ID，設置場所 ID，ユーザ ID，管理者 ID および管理部署 ID が設定されていて，対応する部署，設置場所，ユーザ名，管理者および管理部署が設定されていない場合，対応する名称が設定されます。

- **不要な IP アドレス管理情報を削除する作業**
  IP グループ情報の範囲外で，利用されていない IP アドレスの IP アドレス管理情報が削除されます。

- **インストールソフトウェア名が登録されていないインストールソフトウェア情報を削除する作業**

- **ライセンス区分が「ユーザ許諾」ではないライセンスの，ユーザとソフトウェアキー情報との関連を解除する作業**

- **ライセンス区分が「マシン許諾」ではないライセンスの，ハードウェア資産情報とソフトウェアキー情報との関連を解除する作業**

- **移管したライセンスと同一の「部署 ID」および「資産番号」のライセンスがあった場合，ライセンス数とライセンスキーをそれぞれ統合する作業**
  対象となるのは，ソフトウェア状態が「運用」のソフトウェアです。

- **管理レベルを「管理対象外」に設定したソフトウェアのインストールソフトウェア情報を削除する作業**

- **部署または設置場所別の IP グループで，対応する部署または設置場所が削除された IP グループを削除する作業**

- **ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する部署を，資産情報の「部署」に登録する作業**

IP アドレスと部署との対応は，業務メニュー「IP グループ管理」で作成した IP グループの設定に従います。この作業は，デフォルトでは実施しない設定になっています。

- **ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する設置場所を，資産情報の「設置場所」に登録する作業**
  IP アドレスと設置場所との対応は，業務メニュー「IP グループ管理」で作成した IP グループの設定に従います。この作業は，デフォルトでは実施しない設定になっています。
- **対応する情報（機器カタログ，契約情報，契約履歴，ボリューム契約，ソフトウェア資産情報または保守履歴）が存在しない添付ファイルを削除する作業**

（2）オプションの指定

タスク「データメンテナンス」では，設定ファイル（taskopt.ini）に記載した [MAINTE_n] セクションの処理を，オプションで指定して実行できます。

オプションは，タスクのプロパティを表示して，「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに指定します。

形式

-s OPT= 実行するセクション

実行するセクションには，taskopt.ini に記述した [MAINTE_n] セクションのうち，実行したいセクションを半角英数字（0 ～ 9 または a ～ z）の 1 文字で指定します。大文字と小文字は区別されません。

指定例

"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt" -dp
-s OPT=1

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

（3）実施する作業の変更

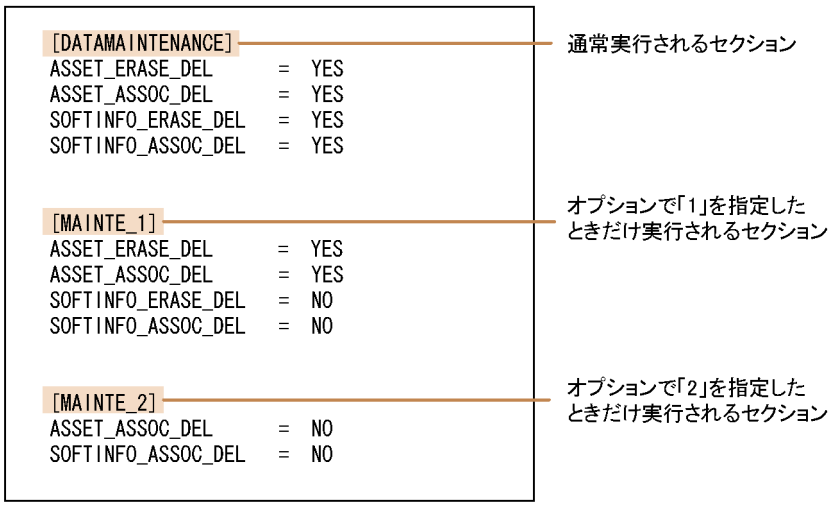
タスク「データメンテナンス」で実施する作業を変更する場合は，設定ファイル（taskopt.ini）に変更したい作業を記述します。通常実施する作業と，オプションを指定したときに実施する作業は，セクションを分けて指定できます。

taskopt.ini は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥env に格納されています。

taskopt.ini を作成するときは，同じフォルダに格納されている taskopt.org を利用すると便利です。

taskopt.ini の記述方法を次に示します。

図 5-16 taskopt.ini の記述方法



[DATAMAINTENANCE]

変更したい作業に対応した変数名と指定値を記述します。
タスク「データメンテナンス」の基本的な実行内容を変更する場合は，このセクションに記述します。ここに記述した内容は，オプションを指定しない場合でも有効になります。また，オプションを指定した場合も，指定したセクションでの処理と重複しないときは有効になります。
このセクションに記述しない作業は，デフォルトの設定で実行されます。

[MAINTE_n]

変更したい作業に対応した変数名と指定値を記述します。
目的に応じてタスク「データメンテナンス」の実行内容を変更する場合は，目的別にセクションを分けて記述します。セクション名は，[MAINTE_n] の形式で指定します。n に半角英数字（0 ～ 9 または a ～ z）を 1 文字指定します。大文字と小文字は区別されません。オプション指定時にこの n の文字を指定することで，実行内容を選択できます。
このセクションに記述しない作業は，[DATAMAINTENANCE] セクションの設定で実行されます。

各セクションに記述する変数名，処理内容，指定値およびデフォルトを次の表に示します。なお，変数名とデフォルトの指定値は，taskopt.ini と同じフォルダに格納されている taskopt.org に記載されています。

表 5-16 taskopt.ini に指定する変数名

処理内容	変数名	指定値	デフォルト
「抹消」状態の機器の資産情報と関連情報を削除する。	ASSET_ERASE_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
「返却」,「廃棄」および「仮廃棄」状態の機器の関連情報を削除する。	ASSET_ASSOC_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
「抹消」状態のソフトウェアの資産情報と関連情報を削除する。	SOFTINFO_ERASE_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
「返却」および「廃棄」状態のソフトウェアの関連情報を削除する。	SOFTINFO_ASSOC_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
「抹消」状態の契約情報を削除する。	CONTRACT_ERASE_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
「抹消」状態のボリューム契約情報を削除する。	VOLUME_ERASE_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
操作画面で変更したユーザ名に合わせて既存の資産情報に登録されているユーザ名を変更する。 また，ID に対応するユーザ名を，資産情報に設定する。	USER_ASSOC_UPD	• YES 更新する。 • NO 更新しない。	YES
操作画面で変更した部署に合わせて既存の資産情報に登録されている部署を変更する。 また，ID に対応する部署を，資産情報に設定する。	GROUP_ASSOC_UPD	• YES 更新する。 • NO 更新しない。	YES
操作画面で変更した設置場所に合わせて既存の資産情報に登録されている設置場所を変更する。 また，ID に対応する設置場所を，資産情報に設定する。	LOCATION_ASSOC_UPD	• YES 更新する。 • NO 更新しない。	YES
不要な IP アドレス管理情報を削除する。	IP_UNNECESSARY_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES

処理内容	変数名	指定値	デフォルト
インストールソフトウェア名が登録されていないインストールソフトウェア情報を削除する。	INSTINFO_NOLIST_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
ライセンス区分が「ユーザ許諾」ではないライセンスの，ユーザとソフトウェアキー情報との関連を解除する。 また，ライセンス区分が「マシン許諾」ではないライセンスの，ハードウェア資産情報とソフトウェアキー情報との関連を解除する。	LICENSELINK_UNNECESSARY_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
移管したライセンスと同一の「部署 ID」および「資産番号」のライセンスがあった場合，ライセンス数とライセンスキーをそれぞれ統合する。	SOFTINFO_CONSOLIDATE	• YES 結合する。 • NO 結合しない。	YES
管理レベルを「管理対象外」に設定したソフトウェアのインストールソフトウェア情報を削除する。	INSTINFO_UNMANAGED_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
部署別 IP グループに対応する部署が存在しない場合，または設置場所別 IP グループに対応する設置場所が存在しない IP グループを削除する。	IPGROUP_NOOBJECT_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES
ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する部署を，資産情報の「部署」に登録する。	IP_GROUP_ASSOC	• NO 設定しない。 • OVERWRITE ※ 常に IP アドレスから引き当てた部署で上書きする。 • YES ［サーバセットアップ］ダイアログの「部署別 IP グループを使用した部署の設定」の設定に従う。	NO

処理内容	変数名	指定値	デフォルト
ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に対応する設置場所を，資産情報の「設置場所」に登録する。	IP_LOCATION_ASSOC	• NO 設定しない。 • OVERWRITE ※ 常に IP アドレスから引き当てた設置場所で上書きする。 • YES ［サーバセットアップ］ダイアログの「設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」の設定に従う。	NO
対応する情報が存在しない添付ファイルを削除する。	ATTACHFILE_DEL	• YES 削除する。 • NO 削除しない。	YES

注※

JP1/NETM/DM のユーザインベントリから取得した値，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログで入力した値が設定されている場合でも上書きされます。すべての資産の「部署」と「設置場所」を，業務メニュー「IP グループ管理」での設定に合わせて更新する場合に指定します。

(4) タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定例

必要な作業だけを実施して，それぞれの作業内容に合わせてタスクの実行間隔を変える場合の例を説明します。

タスク「データメンテナンス」で実行したい作業と，実行間隔は次のとおりです。

- 「抹消」状態の機器を削除する作業，「抹消」状態のソフトウェアを削除する作業，および「返却」，「廃棄」状態のソフトウェアの関連情報を削除する作業だけ毎日実行する。
- 不要な IP アドレスを削除する作業だけを週に一度実行する。

taskopt.ini の指定：

```
[DATAMAINTENANCE]
ASSET_ERASE_DEL                = NO
ASSET_ASSOC_DEL                = NO
SOFTINFO_ERASE_DEL             = NO
SOFTINFO_ASSOC_DEL             = NO
CONTRACT_ERASE_DEL             = NO
VOLUME_ERASE_DEL               = NO
IP_UNNECESSARY_DEL             = NO
INSTINFO_NOLIST_DEL            = NO
LICENSELINK_UNNECESSARY_DEL    = NO
INSTINFO_UNMANAGED_DEL         = NO
USER_ASSOC_UPD                 = NO
GROUP_ASSOC_UPD                = NO
LOCATION_ASSOC_UPD             = NO
SOFTINFO_CONSOLIDATE           = NO

[MAINTE_1]
ASSET_ERASE_DEL                = YES
SOFTINFO_ERASE_DEL             = YES
SOFTINFO_ASSOC_DEL             = YES

[MAINTE_2]
IP_UNNECESSARY_DEL             = YES
```

オプションの指定：

タスク「データメンテナンス」のオプションを，次のように指定します。
「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt" -dp
-s OPT=1

次に，タスク「データメンテナンス」をコピーして，オプションを次のように指定します。

"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥DataMaintenance.txt" -dp
-s OPT=2

追加したタスクは週に一度実行するように変更します。タスクを実行する日時や頻度を変更する手順については，「5.9.2　タスクの設定手順」を参照してください。

5.9.4　契約期限を通知するタイミングの指定

タスク「期限切れ契約情報通知」で，契約終了日が迫った保守契約，リース契約およびレンタル契約をメールで通知するタイミングを指定できます。

通知するタイミングは，「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに，次の形式で指定します（△は半角スペースを意味します）。

△ MONTH=（契約期限までの期間）

契約期限までの期間は，月単位で 1 ～ 24 の範囲で指定します。

なお，何も指定しない場合，2 か月以内に契約期限が迫っている契約があると，メールで通知されます。

指定例

12 か月（1 年）以内に迫った契約をメールで通知する場合の指定例を次に示します。

"C:¥WINDOWS¥system32¥cscript.exe" "C:¥jp1asset¥exe¥jamexpiration.vbs" MONTH=12

「C:¥WINDOWS」は，Windows のインストールフォルダを示しています。また，「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

5.9.5 ライセンスの集計結果を削除するタイミングの指定

タスク「ライセンス超過通知」およびタスク「ライセンスの集計」で集計した結果は，指定した回数分を保存します。それ以前のデータは自動的に削除されます。この保存しておく回数（デフォルトでは 10 回分）を，任意の回数に変更できます。

集計結果を保存しておく回数は，「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに，次の形式で指定します（△は半角スペースを意味します）。

△ GENERATION=（集計結果を残す数）

集計結果を残す数は，0 ～ 120 の範囲で指定します。0 を指定すると削除されません。

なお，何も指定しないと，最新の集計結果 10 回分を残して削除されます。

指定例

常に最新の集計結果だけを残してほかを削除する場合の指定例を次に示します。

"C:¥WINDOWS¥system32¥cscript.exe"
"C:¥jp1asset¥exe¥jamSoftwareAddUp.vbs" GENERATION=1

「C:¥WINDOWS」は，Windows のインストールフォルダを示しています。また，「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

5.9.6 削除する履歴情報の種類と履歴情報を削除するタイミングの指定

(1) 削除する履歴情報の指定

「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに「-s TARGET=（削除する履歴情報のコード）」の形式で指定します。削除する履歴情報のコードは複数指定できます。

なお，何も指定しないと，資産情報の履歴情報だけが削除されます。

削除する履歴情報のコードを次に示します。

- A
  資産情報の履歴
- M
  保守履歴
- U
  変更履歴

複数指定する場合は，「-s TARGET=AMU」のように続けて指定してください。

(2) 履歴情報を残す期間の指定

「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに，次の形式で指定します。

- 資産情報の履歴，保守履歴
  -s TARGET=A（または M）-s MONTH=（履歴情報を残す期間）

  履歴情報を残す期間は，月単位で 0 ～ 120 の範囲で指定します。0 を指定するとすべての履歴情報が削除されます。
  なお，何も指定しないと，6 か月以上経過した履歴情報が削除されます。

- 変更履歴
  -s TARGET=U -s UMONTH=（履歴情報を残す期間）

  履歴情報を残す期間は，月単位で 0 ～ 120 の範囲で指定します。0 を指定するとすべての履歴情報が削除されます。
  なお，何も指定しないと，すべての履歴情報が削除されます。

指定例

3 か月以上経過した，資産情報の履歴と保守履歴を削除する場合の指定例を次に示します。

"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"

-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥RemoveRecord.txt"
-s TARGET=AM -s MONTH=3

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

5.9.7 すべてのインベントリ情報の取得

更新日時が更新されていない情報も，すべて更新します。

「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに，「ALL」を指定します。このオプションを省略すると，更新されたインベントリ情報だけを取得します。

指定例を次に示します。

"C:¥jp1asset¥exe¥jamTakeDMInventory.bat" ALL

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

注意事項

「ALL」を指定しないと，インベントリ情報の更新日時が更新されていない場合，そのインベントリ情報は取り込まれません。

5.9.8 操作履歴の取得範囲およびフィルタリングの指定

タスク「操作履歴の取込み」には，次のオプションを指定できます。なお，タスク「操作履歴の取込み」は，業務メニュー「プログラム起動履歴」および「ウィンドウタイトル変更履歴」から，プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を参照する際に実行します。

- 履歴を残す期間
- 取得するプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の開始日付と終了日付
- 操作履歴退避ディレクトリのファイルから取得
- プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する資産
- プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴として取得されたプログラム名称のファイル出力

オプションは，タスクのプロパティを表示して，「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに指定します。

また，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴として取得する情報をフィルタリングできます。

(1) プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を残す期間の指定

プログラム起動履歴，ウィンドウタイトル変更履歴の履歴情報を残す期間を変更します。このオプションは，タスクを使用して，定期的にプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する際に指定します。

- プログラム起動履歴
  -s PDAYS=（履歴情報を残す期間）
- ウィンドウタイトル変更履歴
  -s WDAYS=（履歴情報を残す期間）

履歴情報を残す期間は，日単位で 0 ～ 1,000 の範囲で指定します。0 を指定するとすべての履歴情報が削除されます。9,999 を指定すると，履歴情報は削除されません。なお，何も指定しないと，32 日以上経過した履歴情報が削除されます。

指定例

11 日以上経過したプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を削除する場合の指定例を次に示します。

```
"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥TakeClientOperation.txt"
-s PDAYS=10 -s WDAYS=10
```

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

(2) 取得するプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の開始日付と終了日付

特定期間の情報を取得します。このオプションは，ソフトウェア名とファイルバージョンの一覧（ClientOperationList.txt）の出力時，および特定期間のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の取得時に指定します。

開始日付および終了日付のどちらも省略した場合は，前回取得した日付（資産情報の「DM 操作履歴更新日付」の日付）以降のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得します。初めて取得する機器（「DM 操作履歴更新日付」に値がない場合）は，いちばん古い日付のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴から取得します。

開始日付

指定した日付以降のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得します。
開始日付は「-s STARTDATE=yyyymmdd」の形式で指定します。このオプション

を省略すると，いちばん古い日付のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴から取得します。

終了日付

指定した日付以前のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得します。

終了日付は「-s ENDDATE=yyyymmdd」の形式で指定します。このオプションを省略すると，いちばん新しい日付のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴まで取得します。

（3）操作履歴退避ディレクトリのファイルから取得

バックアップ用のファイル（操作履歴退避ディレクトリのファイル）の内容を含めて，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得します。このオプションは，新規取得時，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイルの変更時，特定期間を指定しての取得時など，すべてのプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を対象に取得する際に指定します。

操作履歴退避ディレクトリのファイルからの取得は，「-s BACKUP=YES」の形式で指定します。省略した場合，操作履歴退避ディレクトリのファイルからプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴は取得されません。

（4）プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する資産

指定した機器の情報を取得します。このオプションは，ソフトウェア名とファイルバージョンの一覧（ClientOperationList.txt）の出力時，および特定機器のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の取得時に指定します。

情報を取得する機器は「-s ASSETNO=（資産番号）」の形式で指定します。ただし，JP1/NETM/DM のインベントリ情報から登録した機器ではない場合（資産情報の「引き当てキー」に値がない機器）は対象となりません。

（5）プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴として取得されたプログラム名称のファイル出力

ソフトウェアの実行ファイル名をバージョンと併せてファイル（ClientOperationList.txt）に出力します。ファイルに出力した内容を利用して，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイル（ClientOperation.ini）に，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する（または取得しない）プログラムを定義できます。

このオプションを指定すると，資産管理データベースへのプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の取得は実行されません。

「-s MAKELIST=YES」の形式で指定します。このオプションを指定する場合は，必ず取得する資産を指定してください。

実行結果は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥sample に出力されます。

指定例

2005 年 4 月 1 日～ 2005 年 4 月 30 日のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する場合の指定例を次に示します。

```
"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥TakeClientOperation.txt"
-s STARTDATE=20050401 -s ENDDATE=20050430
```

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

注意事項

タスク「操作履歴の取込み」を使用する場合には，JP1/NETM/DM のソフトウェア稼働監視履歴の運用を考慮した上で，タスクのスケジュールを設定してください。スケジュールの設定方法は，「5.9.2(2)　タスクのスケジュールの変更」を参照してください。

特に，タスクの実行間隔は「しきい値に達した場合の削除サイズ / 1 日に蓄積されるプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の最大サイズ」よりも小さくなるようにしてください。

しきい値に達した場合の削除サイズ，および 1 日に蓄積されるプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の最大サイズについては，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」のソフトウェア稼働監視に関する記述を参照してください。

また，取得しようとしているプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴が退避ディレクトリに移動した場合には，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴が取得できなくなることがあります。この場合には，「取得するプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の開始日付と終了日付」，「操作履歴退避ディレクトリのファイルから取得」などのオプションを指定して，タスクを実行してください。

(6) 取得する情報のフィルタリング

JP1/NETM/DM からプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴に対して，取得する情報のフィルタリングを定義できます。バージョンが 08-00 より前のフィルタリング定義ファイルの設定を引き続ぐ場合に設定してください。

プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のうち，Asset Information Manager で管理したい情報だけを取得するには，取得する内容または取得しない内容を，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥env に格納されている ClientOperation.ini（プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイル）に定義します。

プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイルの記述方法を次に示します。

```
;
; Filter
;
[Option]
Program=NOTCOLLECT
Window=COLLECT
WindowType=ACTIVE, CAPTION

[Program]
a=AAAA.exe, 0001
a=BBBB.exe, 0001

[Window]
a=CCCC.exe, 0001
a=DDDD.exe, 0001
```

[Option]

プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を取得するかどうかを指定します。
プログラム起動履歴は,「Program=（取得の種別)」の形式で指定します。
ウィンドウタイトル変更履歴は,「Window=（取得の種別)」の形式で指定します。
取得の種別は，次の 3 種類から指定します。

- COLLECT：指定したファイルの履歴を取得する
- NOTCOLLECT：指定したファイルの履歴は取得しない
- IGNORE：履歴を取得しない

また，ウィンドウタイトル変更履歴として取得する種別を,「WindowType=（イベントの種別)」の形式で指定します。
イベントの種別は，次の 2 種類から指定します。

- ACTIVE：アクティブウィンドウの切り換わりの履歴を取得する
- CAPTION：ウィンドウタイトルに表示される文字列の履歴を取得する

両方取得する場合は ,（コンマ）で区切って指定します。指定の順番は順不同です。
なお，形式が異なった場合は，エラーで終了します。

[Program]

プログラム起動履歴に取得する（または取得しない）ソフトウェアのファイル名，ファイルバージョンを「a=（ファイル名）,（バージョン)」の形式で指定します。
ファイル名を指定する際，ワイルドカードは指定できません。バージョンの指定は省略できます。バージョンの指定を省略する場合は，ファイル名のあとに ,（コンマ）は付けないでください。

[Window]

ウィンドウタイトル変更履歴に取得する（または取得しない）ソフトウェアのファイル名，ファイルバージョンを「a=（ファイル名）,（バージョン)」の形式で指定します。ファイル名を指定する際，ワイルドカードは指定できません。バージョン

の指定は省略できます。バージョンの指定を省略する場合は，ファイル名のあとに，（コンマ）は付けないでください。

● 管理対象となるすべてのクライアントから，プログラム変更履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する場合の記述例

管理対象となるすべてのクライアントから，プログラム変更履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する場合，フィルタリング定義ファイルは次のように記述します。

```
;
; Filter
;
[Option]
Program=NOTCOLLECT
Window=NOTCOLLECT

[Program]

[Window]
```

● ソフトウェア名とバージョンの抽出

[Program] および [Window] に指定するソフトウェア名およびバージョンを，特定の機器のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴から抽出して流用すると，効率良くフィルタリングの定義ができます。

プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイルに指定するソフトウェア名とファイルバージョンを抽出するには，TakeClientOperation.txt を指定して，Administrators 権限を持つユーザで jamscript（アクセス定義ファイルの実行）コマンドを実行します。

jamscript コマンドの実行時に指定するオプションについては，「5.9.8　操作履歴の取得範囲およびフィルタリングの指定」を参照してください。jamscript コマンドの詳細については，HTML ヘルプ「アクセス定義ファイル作成ガイド」（assetscr.chm）を参照してください。

あらかじめプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得する（または取得しない）プログラムを起動・終了させて履歴を取得しておくと，その操作を実行した PC の資産番号を指定することで，プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイルに設定したい内容を出力できます。

なお，指定する資産番号の PC は，次の条件を満たしている必要があります。

- JP1/NETM/DM Client 07-50 以降または JP1/NETM/DM Client - Base 08-00 以降がインストールされている
- JP1/NETM/DM Manager でプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得したことがある

ソフトウェア名とファイルバージョンの一覧（ClientOperationList.txt）は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥sample に出力されます。

● 定義内容を変更したあとのプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴の再取得

プログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴のフィルタリング定義ファイルの定義内容を変更して，過去のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を再取得するには，開始日付のオプションおよび操作履歴退避ディレクトリのファイルからプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴を取得するオプションを指定してください。

指定例

2005 年 4 月 1 日から 2005 年 4 月 10 日までに，資産番号「000001」のプログラム起動履歴とウィンドウタイトル変更履歴として取得されたプログラムの名称を，ファイルに出力する場合の指定例を次に示します。

```
"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
 -f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥TakeClientOperation.txt"
-s STARTDATE=20050401 -s ENDDATE=20050410
-s ASSETNO=000001 -s MAKELIST=YES
```

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

5.9.9 JP1/NETM/DM のディレクトリ情報の取得

JP1/NETM/DM のディレクトリ情報のうち，部署情報だけを取得するか，部署情報に加えてユーザ情報も取得するかを選択できます。

取得する情報は，JP1/NETM/DM がサンプルとして提供している定義ファイル（マップファイル）で説明すると，「OU ou 名前」に定義されている部署情報，および「USR cn フルネーム」に定義されているユーザ情報です。

取得する情報は，「タスク」タブの「実行するファイル名」で，ファイル名のあとに次の形式で指定します。

形式

-s OPT= 処理内容の種別

処理内容の種別は，次のどちらかを半角数字で指定します。

- 1：JP1/NETM/DM のディレクトリ情報のうち，部署情報だけを取得する（デフォルト）。
  取得した部署情報を，部署情報（GroupInfo）として作成します。
- 2：JP1/NETM/DM のディレクトリ情報のうち，部署情報およびユーザ情報を取得し，資産情報に引き当てる。
  取得した部署情報を，部署情報（GroupInfo）として作成したあと，管理項目「資産情報 . 部署」に引き当てます。
  また，取得したユーザ情報を，管理項目「資産情報 . ユーザ名」に引き当てます。
  ただし，ユーザ管理情報（UserInfo）としては作成されません。

指定例

"C:¥jp1asset¥exe¥jamscript.exe"
-f "C:¥jp1asset¥scriptbatch¥DMDirectory.txt"
-s OPT=1

「C:¥jp1asset」は Asset Information Manager のインストールフォルダを示しています。

注意事項

- JP1/NETM/DM のディレクトリ情報から部署情報を取得する際，同一名称の部署が同一の階層に複数存在する場合，そのうちの一つを取り込みます。
- 資産管理データベースの部署情報の「部署名」および「ADGUID」で引き当たらなかった場合，部署情報が新規登録されます。このとき，「部署 ID」は自動採番され，「部署（英名）」および「部署名（英名）」には「部署 ID」の値が設定されます。
- JP1/NETM/DM のディレクトリ情報からユーザ情報を取得する場合，「ユーザ名（英名）」は引き当てられません。

5.9.10 機器の情報の変更通知

機器の情報が更新されたことを，資産管理者にメールで通知します。このタスクは Windows のタスクスケジューラに登録されていないので，使用する場合はタスクを登録する必要があります。

Windows Server 2003 で作成する場合を例に，Windows のタスクスケジューラにタスク「ハードウェア変更通知」を登録する手順を次に示します。

1. **Windows のタスクスケジューラで，「スケジュールされたタスクの追加」をダブルクリックする。**
2. **表示されたタスクウィザードに従って，各項目を指定する。**
   - タスクの名称には「ハードウェア変更通知」と指定してください。
   - 実行するプログラムには，jamscript.exe を指定してください。
     jamscript.exe の格納先を次に示します。

     Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe

   - ユーザ名には，Administrators 権限を持つユーザ名を指定してください。
3. **「[完了] をクリックしたときに詳細プロパティを開く」チェックボックスをチェックして，[完了] ボタンをクリックする。**
4. **表示されたダイアログで，「タスク」タブを選択する。**
5. **「実行するファイル名」に，「**-f Asset Information Manager **のインストールフォルダ¥scriptbatch¥NoticeUpdateRecord.txt」を追加する。**

6. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ダイアログが閉じて，タスク「ハードウェア変更通知」が登録されます。

タスク「ハードウェア変更通知」を実行すると，前回のタスク実行時から変更があった機器の台数が通知されます。そのため，初回タスク実行時や，前回タスクを実行してから間隔を開けて実行する場合などは，通知に時間が掛かることがあります。

5.10 メール通知を使用するための設定

ここでは，Windows のタスクスケジューラに登録されるタスクの実行結果のメール通知，および案件送付のメール通知を使用するために必要な，Microsoft Internet Information Services での設定方法について説明します。

タスクの実行結果のメール通知を使用するためには，［サーバセットアップ］ダイアログでの設定も必要です。［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，「5.3.5　メール通知情報の設定」を参照してください。

5.10.1 SMTP 仮想サーバの実行

Windows Server 2003 の場合を例に，Microsoft Internet Information Services で，SMTP 仮想サーバを実行する手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスを起動する。**
2. **資産管理サーバを展開して，「既定の** SMTP **仮想サーバー」を選択する。**
3. **メニューから「操作」－「開始」を選択する。**
   「既定の SMTP 仮想サーバー」の状態が「実行中」になります。

SMTP 認証を使用している場合の注意事項

資産管理システムが送信するメールは，Microsoft Internet Information Services の SMTP 仮想サーバにいったん登録され，SMTP 仮想サーバによる SMTP リレーによって，送信先のメールアカウントが存在するメールサーバへ転送されます。
Microsoft Internet Information Services の SMTP 仮想サーバは SMTP 認証（SMTP AUTH）をサポートしていません。そのため，Microsoft Internet Information Services の SMTP 仮想サーバから最初にメール転送を受け付ける SMTP サーバ側では，資産管理サーバの PC に対して SMTP AUTH が無効になるように設定してください。
また，資産管理システムの SMTP 仮想サーバが直接外部のネットワークと接続できるような環境の場合，SMTP 仮想サーバがオープンリレー SMTP サーバとして利用される可能性があります。
オープンリレー SMTP サーバとして利用されないようにするためには，「既定の SMTP 仮想サーバー」のプロパティで，「アクセス」タブの接続制御の設定で「以下のリストに含まれるコンピュータのみ」を選択して，リストには何も指定しないようにします。
なお，「オープンリレー SMTP サーバ」とは，サーバ設置者の意思に関係なく，スパムメールに代表される種々の迷惑メールの送信元として利用される SMTP サーバのことです。

5.10.2 リモートドメインの追加

Microsoft Internet Information Services で，SMTP 仮想サーバにリモートドメインを追加して，受信メールを中継する手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスを起動する。**
2. **資産管理サーバの「既定の SMTP 仮想サーバー」を展開して，「ドメイン」を選択する。**
3. **メニューから「操作」－「新規作成」－「ドメイン」を選択する。**
   「SMTP ドメイン作成ウィザード」が表示されます。
4. **「リモートドメイン」を選択して［次へ］ボタンをクリックする。**
5. **資産管理者メールアカウントを持つサーバ名を入力して［完了］ボタンをクリックする。**
   リモートドメインが作成されます。

   案件送付の通知メールを送信する場合

   送信先のメールアカウントを持つメールサーバ名を入力します。複数のメールサーバを使用する場合は，それぞれに対応したリモートドメインを追加します。ただし，メールサーバのドメイン名が共通している場合は，まとめてリモートドメインを作成できます。
   例えば，リモートドメインを追加するメールサーバが「msrv01.abc.def.com」，「msrv02.abc.def.com」，「msrv03.abc.def.com」の場合，「*.abc.def.com」と指定することで，三つのメールサーバに対応するリモートドメインを作成できます。
6. **作成したリモートドメインを選択して，「操作」－「プロパティ」を選択する。**
   リモートドメインのプロパティダイアログが表示されます。
7. **「全般」タブで，「このドメインへ受信メールを中継する」チェックボックスをチェックする。**
8. **［OK］ボタンをクリックする。**
   リモートドメインへの受信メール中継が設定されて，リモートドメインのプロパティダイアログが閉じます。

5.11 操作画面で使用できるサンプルデータのインポート

Asset Information Manager では，サンプルの部署，ユーザ，設置場所，ソフトウェアの辞書情報，および設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）を提供しています。それぞれのサンプルデータを資産管理データベースにインポートする方法について説明します。また，サンプルデータを削除する方法についても説明します。

なお，設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）をインポートする場合，サンプルの部署，ユーザおよび設置場所も併せてインポートされます。そのため，サンプルの部署，ユーザおよび設置場所のインポートは不要です。

5.11.1 部署およびユーザの情報のインポート

Asset Information Manager で提供しているサンプルの部署およびユーザの情報を操作画面で使用する場合は，Administrators 権限を持つユーザで sampleuser.bat を実行してください。sampleuser.bat を実行すると，サンプルの部署およびユーザが資産管理データベースにインポートされます。

sampleuser.bat の格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥Sample¥UserData

5.11.2 設置場所の情報のインポート

Asset Information Manager で提供しているサンプルの設置場所の情報を操作画面で使用する場合は，Administrators 権限を持つユーザで samplelocation.bat を実行してください。samplelocation.bat を実行すると，サンプルの設置場所が資産管理データベースにインポートされます。

samplelocation.bat の格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥Sample¥LocationData

5.11.3 ソフトウェアの辞書情報のインポート

Asset Information Manager で提供しているサンプルのソフトウェアの辞書情報を操作画面で使用する場合は，Administrators 権限を持つユーザで samplesoftware.bat を実行してください。samplesoftware.bat を実行すると，サンプルのソフトウェアの辞書情報が資産管理データベースにインポートされます。

サンプルのソフトウェアの辞書情報をインポートすると，操作画面でのソフトウェア名の指定時に使用できます。

samplesoftware.bat の格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥Sample¥SoftwareData

5.11.4 設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）のインポート

設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）を使用する場合は，Administrators 権限を持つユーザで sampletrial.bat を実行してください。sampletrial.bat を実行すると，JP1/NETM/DM と連携して取得するインベントリ情報など，Asset Information Manager の操作に必要な情報のサンプルデータが，資産管理データベースにインポートされます。このサンプルデータを基に Asset Information Manager の主要画面を操作することで，資産管理システムを設計する際の参考にしてください。

sampletrial.bat の格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥Sample¥TrialData

なお，sampletrial.bat を実行する場合，sampleuser.bat および samplelocation.bat も同時に実行されます。そのため，これら二つのバッチファイルの単独での実行は不要です。

注意事項

実際に使用する資産管理システムを構築する前に，jamdbclear.bat を実行して必ず資産管理データベースから設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）を削除してください。設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）を削除する方法については，「5.11.5 サンプルデータの削除」を参照してください。

サンプルデータをインポートすることで，業務に必要なデータが登録される業務メニューを次の表に示します。

表 5-17 業務に必要なデータが登録される業務メニュー

業務カテゴリ	業務メニュー※
案件	新規案件
	受信トレイ
	送信トレイ
	実行案件管理
機器管理	保有機器集計

業務カテゴリ	業務メニュー※
	保有機器一覧
	不稼働機器一覧
	一括変更
	棚卸未実施機器集計
	変更履歴
契約管理	契約一覧
問題点管理	問題点一覧
ライセンス管理	保有ライセンス一覧
	超過ライセンス一覧
	不正利用ライセンス一覧
	未登録ソフトウェア利用一覧
	保有ソフトウェア一覧
	ライセンス移管
	集計管理
	変更履歴
ソフトウェア適用管理	ソフトウェア適用状況
システム管理	ユーザ組織管理
	ユーザ検索
	設置場所管理
	IP グループ管理
	機器カタログ管理
	ソフトウェア名称管理
	インストールソフトウェア管理
	コード管理
	ログ一覧
システム定義	権限管理
	管理項目編集
	業務フィルター
	利用可能業務割り当て
	案件定義
	職権管理

注※

参照できる業務メニューは，ユーザ権限によって異なります。ユーザ ID に設定されるユーザ権限については，マニュアル「運用ガイド」の「1.1.1　ログイン」を参照してください。

5.11.5 サンプルデータの削除

資産管理データベースにインポートしたサンプルデータを削除するには，次の作業を実行する必要があります。

- jamdbclear.bat によるデータの削除
- dbinit.bat による資産管理データベースの初期化
  jamdbclear.bat の実行後，必ず dbinit.bat を実行して資産管理データベースを初期化してください。

それぞれの作業を実行する方法について説明します。

（1） jamdbclear.bat によるデータの削除

Administrators 権限を持つユーザで jamdbclear.bat を実行して，資産管理データベースに格納されているデータをすべて削除します。

jamdbclear.bat を実行する前に，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

jamdbclear.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ¥exe

jamdbclear.bat の形式

jamdbclear.bat の形式を次に示します。

```
jamdbclear.bat [テンポラリフォルダのフルパス]
```

テンポラリフォルダの指定を省略した場合，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥temp が仮定されます。

（2） dbinit.bat による資産管理データベースの初期化

資産管理データベースを初期化するための dbinit.bat を実行する手順について次に示します。また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

1. Administrators 権限を持つユーザで dbinit.bat をダブルクリックする。
   コマンドプロンプトが起動されて，資産管理データベースのセットアップを開始するためのキーの入力待ちとなります。
   この時点でセットアップを中断する場合は，［Ctrl］+［C］を押してください。

dbinit.bat の格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe¥dbinit.bat

2. **キーを押す。**
   どのキーを押してもかまいません。
   キーを押すと，資産管理データベースのセットアップが開始されます。セットアップが終了すると，資産管理データベースのセットアップが終了したことを示すメッセージが表示され，セットアップが終了したことを確認するためのキーの入力待ちとなります。
3. **キーを押す。**
   どのキーを押してもかまいません。
   キーを押すと，コマンドプロンプトが閉じて，資産管理データベースの初期化が完了します。

注意事項

- dbinit.bat は，別のフォルダに格納しないでください。別のフォルダに格納した場合，dbinit.bat は正しく動作しません。
- 一度 dbinit.bat を実行して資産管理データベースを作成すると，再度 dbinit.bat を実行してもエラーになります。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「サービス名」，「ログイン ID」およびパスワードの設定で，データベース接続時に設定した値と同じ値を設定していないとエラーになります。

5.12 資産管理データベース運用上の注意

この節では，資産管理データベース運用時に注意する必要のある次の項目について説明します。

- 資産管理データベースに表示される画面に入力できる文字
- データベースのメンテナンスに関する注意
- トランザクションログのバックアップの定期実行

5.12.1 資産管理データベースに入力できる文字

資産管理データベースでは，異なる長さの文字列の場合でも長さをそろえて比較するため，短い文字列の右側にスペースが埋められて検索されます。したがって，機器管理番号などの文字列を入力する場合は，短い文字列は長いけた数に合わせて前ゼロを追加し，けた数をそろえて入力してください。

5.12.2 データベースのメンテナンスに関する注意

データベースのメンテナンスやチューニングは，DBMS の機能を使用してください。また，トラブルが発生し，環境を再構築する場合などに備えて，定期的に資産管理データベースのバックアップを取得することをお勧めします。

5.12.3 トランザクションログのバックアップの定期実行

Microsoft SQL Server では，データベース更新時のアクセス履歴がトランザクションログに採取されます。セットアップ手順に従って Asset Information Manager のデータベースを作成すると，Microsoft SQL Server のトランザクションログが割り当てられます。

トランザクションログは，システム障害のときに復旧のためのデータとして重要ですが，履歴情報が満杯になった場合，それ以降，資産管理データベースにアクセスできなくなります。そのため，トランザクションログは，定期的にバックアップを取得して削除する運用をお勧めします。

なお，Microsoft SQL Server の「SQL Enterprise Manager」には，バックアップの取得を定期的に実行する機能があります。また，トランザクションログが必要ない場合は，自動的に切り捨てるように設定できます。ただし，コミットするまでのトランザクションがいったんログとして取得されるため，1 トランザクションでの処理が多いときは，切り捨てるように設定していても，トランザクションログが満杯になるエラーが発生することがあるので注意してください。

5.13 クラスタシステムの環境構築手順

Asset Information Manager のクラスタシステムを構築する場合の環境構築手順および注意事項を説明します。

クラスタシステムを構築するには，資産管理サーバの OS として Windows Server 2008 Enterprise または Windows Server 2003, Enterprise Edition が必要です。

Asset Information Manager をフェールオーバーさせる場合の環境構築手順を次に示します。

5.13.1 Microsoft Cluster Service のクラスタアドミニストレータによるグループ・リソース作成

IP アドレスリソース，ネットワーク名リソース，および共用ディスクリソースを同一グループに作成します。Microsoft Cluster Service 初期導入時には，あらかじめ「クラスタグループ」というグループが作成されますが，これとは別に作成してください。また，実行系として動作させるサーバを優先サーバに設定します。

作成方法の詳細については，Microsoft Cluster Service のマニュアルを参照してください。

5.13.2 資産管理データベースサーバにフェールオーバー機能を適用させるクラスタ環境の作成

(1) Microsoft SQL Server をクラスタシステム上で使用する場合

Microsoft SQL Server インストールウィザードによるフェールオーバークラスタのセットアップが必要です。ここでは，Microsoft SQL Server 2000 を例に説明します。

クラスタを構成する実行系サーバのローカルディスクに Microsoft SQL Server をインストールする際，次の項目を設定してください。フェールオーバークラスタのセットアップが実行されます。

- 仮想サーバ名に論理ホスト名を指定し，「仮想サーバ」を選択する。
- 仮想サーバの IP アドレスには，論理 IP アドレスを指定する。
- データファイルを共有ディスクに設定する。
- ユーザ名には，すべてのサーバに有効な管理者アカウントを設定する。
- 認証モードは「混合モード（Windows 認証と SQL Server 認証）」を選択する。

待機系サーバの設定は，実行系のサーバのインストール時に，自動的に実行されます。Microsoft SQL Server のインストールおよびセットアップ方法の詳細については，Microsoft SQL Server のマニュアルを参照してください。

なお，Microsoft SQL Server をクラスタシステム環境で使用する場合，Microsoft SQL Server と Microsoft SQL Server クライアント間の通信には，TCP/IP を使用することをお勧めします。

（2） Asset Information Manager の Embedded RDB をクラスタシステム上で使用する場合

クラスタを構成する実行系サーバ，待機系のそれぞれのローカルディスクに対して，Asset Information Manager の Embedded RDB をインストールすることによってセットアップを実行します。インストールする際は，実行系と待機系で同じ設定にしてください。

また，データベース作成時に自動的に作成される ODBC データソースの PDHOST を論理ホスト名に変更する必要があります。ODBC データソースの名称は，［サーバセットアップ］ダイアログで設定したデータベース情報のサービス名です。

（3） ORACLE をクラスタシステム上で使用する場合

クラスタを構成する実行系サーバ，待機系サーバのそれぞれのローカルディスクに，ORACLE サーバを構成するソフトウェアおよび ORACLE Fail Safe Server をインストールしてください。

そのあと，ORACLE Fail Safe Manager でクラスタ化サービスをセットアップします。

また，ORACLE データベース・インスタンスは，共用ディスク上に作成してください。ORACLE クラスタ環境のセットアップ方法の詳細については，ORACLE の Fail Safe についてのマニュアルを参照してください。

5.13.3 Asset Information Manager のフェールオーバー機能使用時の環境作成

1. **実行系サーバに** Asset Information Manager **をインストールする。**
   設定内容を次の表に示します。表に示した順に設定してください。
   表に記載されていない項目については，通常どおりに設定してください。
   インストールの手順については「5.2.2　Asset Information Manager のインストール」を，セットアップの手順については「5.3　資産管理サーバの設定」を参照してください。

表 5-18　Asset Information Manager の設定内容

プログラム	設定項目	設定内容
Asset Information Manager のインストールウィザード	インストール先の選択	ローカルディスクを指定します。
	資産管理サーバの仮想ディレクトリ（デフォルトは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot）	共有ディスクを指定します。
Asset Information Manager の［サーバセットアップ］ダイアログ	サービス名	• Microsoft SQL Server および Embedded RDB を使用する場合 ODBC データソース名を指定します。 • ORACLE を使用する場合 ネット・サービス名を指定します。
	ログイン ID，パスワード（Embedded RDB を使用する場合）	実行系と待機系で同一のログイン ID およびパスワードを指定します。
［データベースマネージャ］ダイアログの「データベースの新規作成」	―	• Microsoft SQL Server および ORACLE を使用する場合 実行系でだけ実行します。 • Embedded RDB を使用する場合 実行系および待機系で実行します。
SQL Server クライアントネットワークユティリティ（Microsoft SQL Server を使用する場合）	使用するネットワークライブラリの設定	クラスタシステム構成上の Microsoft SQL Server に接続する場合，接続のネットワークライブラリに TCP/IP を使用します。SQL クライアント設定ユティリティで，Microsoft SQL Server の論理ホスト名を使用した設定を追加します。
データベース領域（Microsoft SQL Server または ORACLE を使用する場合）	データベースファイル名	実行系でだけ共有ディスク上に作成します。
データベースの基本設定のダイアログ（Embedded RDB を使用する場合）	ポート番号	実行系と待機系で同一のポート番号を指定します。
データベースの詳細設定のダイアログ（Embedded RDB を使用する場合）	格納先フォルダ名	共有ディスクを指定します。 実行系と待機系で同一のパスになるようにしてください。

プログラム	設定項目	設定内容
データベースの詳細設定のダイアログ（Embedded RDB を使用する場合）	サイズ，自動拡張	実行系と待機系で同一のサイズおよび自動拡張を指定します。
［データソース／ネット・サービスの作成］ダイアログ（Microsoft SQL Server を使用する場合）	データソースの作成	作成するデータベースの「サーバ」には，論理ホスト名（ネットワーク名）を使用します。
［データソース／ネット・サービスの作成］ダイアログ（Embedded RDB を使用する場合）	データソースの作成	データベースの新規作成時に，セットアップの内容に従ってデータソースが自動的に作成されます。実行系のサーバではデータベースの新規作成が完了してからデータソースの接続先を論理ホスト名（ネットワーク名）に変更してください（データベースの新規作成直後は，データソースの接続先は localhost です）。 待機系では，インストール後にデータベースを作成したあと，データソースの接続先を実行系と同一の論理ホスト名（ネットワーク名）に変更してください。
［データソース／ネット・サービスの作成］ダイアログ（ORACLE を使用する場合）	ネット・サービスの作成	サーバをクラスタシステムのノード上に設定している場合は，ホスト名に論理ホスト名を使用します。 ORACLE サーバをクラスタシステム上に構成している場合は，アドレスの構成で指定するホスト名に接続先の ORACLE サーバの論理ホスト名を指定します。

（凡例）

－：該当なし

2. **実行系サーバで動作を確認する。**

   Embedded RDB を使用する場合，Embedded RDB のサービスが共有ディスクのファイルを参照していることがあるので，動作確認が終了したら次の作業を実行してください。

   - WWW サービスを停止する。
   - Administrators 権限を持つユーザで jamemb_dbstop.bat を実行して，資産管理データベースを停止する。

     jamemb_dbstop.bat は次のフォルダに格納されています。

     Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe

3. **クラスタアドミニストレータでグループを移動する。**

   これによって所有者が待機系サーバになります。

4. **待機系サーバで環境構築手順 1. を設定する。**

   各設定内容も同一とします。ただし，資産管理データベースの作成は不要です。

5. **クラスタアドミニストレータで，Microsoft Internet Information Services のリソースを**

新規作成する。
使用する OS 別に，設定内容を次の表に示します。

表 5-19 Microsoft Internet Information Services のリソース設定内容

設定項目	設定内容
名前	任意に設定します。
リソースの種類	「汎用スクリプト」を選択します。
グループ	Microsoft Cluster Service のクラスタアドミニストレータによって作成したグループ名を設定します。
実行可能な所有者	2 台のノード（クラスタサーバ）を「実行可能な所有者」として追加します。
依存関係	「IP アドレス」のリソースを設定します。
スクリプトのファイルパス	%systemroot%¥System32¥Inetsrv¥Clusweb.vbs

クラスタアドミニストレータで，「IIS Server Instance」をオンラインにすると，サービスが開始します。以降，WWW サービスを停止または開始するときは，クラスタアドミニストレータを使用して状態をオフラインまたはオンラインにしてください。

6. **クラスタアドミニストレータで，DBMS のサービスのリソースを作成する。**
Microsoft SQL Server または ORACLE を使用する場合の設定内容については，Microsoft SQL Server または ORACLE のマニュアルを参照してください。
Embedded RDB を使用する場合は，次の表に示す設定内容でリソースを作成してください。状態をオンラインにすると，資産管理データベースが開始します。

表 5-20 Embedded RDB のサービスのリソース設定内容

設定項目	設定内容
名前	任意に設定します。
リソースの種類	「汎用サービス」を選択します。
グループ	Microsoft Cluster Service のクラスタアドミニストレータによって作成したグループ名を設定します。
実行可能な所有者	2 台のノード（クラスタサーバ）を「実行可能な所有者」として追加します。
依存関係	「ネットワーク名」に，Asset Information Manager のインストールフォルダのフォルダ名を含んだ「物理ディスク」の各リソースを追加します。 RDB サーバを同一グループに設定している場合は，「RDB サーバ」のリソースも追加します。
汎用サービスパラメータ	HiRDBClusterService_AM1
レジストリの複製	指定しません。

5.13.4 WWW ブラウザの接続先の指定

WWW ブラウザの接続先を次のように指定します。

http:// 論理ホスト名，または論理 IP アドレス /jp1asset/login.htm

5.13.5 ファイアウォールを使用した環境での設定

Asset Information Manager をクラスタシステム構成でファイアウォールを使用した構成にする場合，通過アドレスには物理アドレスを設定してください。

5.13.6 フェールオーバー発生後の対処

フェールオーバーが発生した場合のユーザの対処方法を次の表に示します。なお，資産管理データベース環境に ORACLE のクラスタ環境を使用する場合は，通信エラーによる再接続を実行しないで業務を続けることができます。

表 5-21 フェールオーバー後のユーザの対処内容

フェールオーバー発生時に実行中の処理	フェールオーバー後の対処内容
ログイン待ちの状態	WWW ブラウザでリロードを実施して，再度ログイン画面を表示してください。
ログイン中（操作なし）	一度ログアウトして，再度ログインしてください。
情報の新規登録中	一度ログアウトして，新規登録した情報を検索してください。登録が完了していない場合は，再度情報を登録してください。
情報の参照中	一度ログアウトして，再度ログインしてから検索してください。
集計中	集計処理中に停止した場合，集計結果はリストに表示されません。ログインを実行して，再度［集計実行］ボタンをクリックするか，またはタスク「ライセンス超過通知」を再度実行してください。
タスク「データメンテナンス」，タスク「インベントリ情報の取込み」，またはタスク「ノード情報の取込み」の実行中	タスクは途中で停止した状態になります。該当するタスクを再度実行してください。

5.13.7 クラスタシステムを使用する場合の注意事項

注意事項を次に示します。

- ワトソンログの取得を OS で設定している場合は，フェールオーバーされません。クラスタシステムで Asset Information Manager を運用する場合は，ワトソンログを取得しない設定にしてください。
- Asset Information Manager をインストールまたはアンインストールする場合，クラスタアドミニストレータを使用して，World Wide Web Publishing Service のサービス

リソースをオフラインにしてください。そのあと，「コントロールパネル」の「管理ツール」－「サービス」から World Wide Web Publishing Service を停止してください。また，Asset Information Synchronous Service が起動している場合は，このサービスも停止してください。オンラインのときにインストーラやアンインストーラを起動すると，リソースの設定によってフェールオーバーが発生したり，インストーラやアンインストーラがハングアップまたは異常終了したりするおそれがあります。

- サーバセットアップによって設定を変更する場合，サービスリソースのオンラインおよびオフラインに関係なく，実行系での設定内容は待機系に反映されないので，サーバセットアップの内容はそれぞれのサーバですべて同じ設定にしてください。
- Windows Server 2003, Enterprise Edition の場合，待機系の WWW サービスは停止している必要があります。
- 資産管理データベースに Embedded RDB を選択した場合，クラスタシステム環境に対応したセットアップを実施したあとは，「論理ホスト名」および「実行系ホスト名」を変更しないでください。Asset Information Manager でのクラスタの機能が正常に動作しなくなります。論理ホスト名および実行系ホスト名を変更する場合は，資産管理データベースを再作成する必要があります。論理ホスト名を変更する手順については，「付録 D.6　Embedded RDB のホスト名の変更」を参照してください。また，実行系ホスト名を変更する手順については，「(1)(b)　実行系ホスト名を変更する手順」を参照してください。

(1) 論理ホスト名および実行系ホスト名を変更する手順

Embedded RDB の場合に，論理ホスト名および実行系ホスト名を変更する手順をそれぞれ次に示します。

(a) 論理ホスト名を変更する手順

論理ホスト名を変更する手順については，「付録 D.6　Embedded RDB のホスト名の変更」を参照してください。

(b) 実行系ホスト名を変更する手順

実行系ホスト名を変更する前に，資産管理サーバで，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

実行系ホスト名を変更する手順を次に示します。

1. Embedded RDB を停止する。
   Embedded RDB を停止する方法については,「付録 D.6(1)(a)　Embedded RDB を停止する」を参照してください。
2. Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥aimdb¥conf に格納されている pdutsys ファイルをテキストエディタで開く。
3. pdutsys ファイルの「set pd_hostname= ホスト名」の「ホスト名」を変更する。
4. OS のホスト名を変更する。
5. OS を再起動する。

6 他製品と連携した資産管理の実現

この章では，JP1/ 秘文，Network Node Manager などの他製品と連携することで実現できる資産管理業務と，実現するための方法について説明します。

6.1 JP1/ 秘文と連携するための設定

6.2 Network Node Manager と連携するための設定

6.3 JP1/IM と連携するための設定

6.4 JP1/IM - IDM と連携するための設定

6.5 JP1/IM - CM と連携するための設定

6.6 JP1/IM - Service Support と連携するための設定

6.7 NetInsight II と連携するための設定

6.8 EUR と連携するための設定

6.9 JP1/Lan Licenser と連携するための設定

6.1 JP1/秘文と連携するための設定

JP1/秘文と連携して，操作ログを取得する作業を次に示します。必要なプログラムについては，「4.2.2 JP1/秘文と連携したシステム構成」を参照してください。

JP1/秘文との連携に必要な項目の設定

JP1/秘文と連携するかどうかを設定します。JP1/秘文と連携する場合は，JP1/秘文のデータベースとの接続の設定が必要です。

これらの設定は，セットアップ時に設定します。Asset Information Manager での設定方法については「5.3 資産管理サーバの設定」を，データベースに接続するためのデータソースの作成方法については「5.5 データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。

6.2 Network Node Manager と連携するための設定

Network Node Manager と連携して，資産管理データベースにノード情報を登録したり，機器の監視図を表示したりするために必要な作業の流れを次に示します。必要なプログラムについては，「4.2.3 Network Node Manager と連携したシステム構成」を参照してください。

1. **Network Node Manager との連携に必要な項目の設定**
   セットアップ時に［サーバセットアップ］ダイアログで，次の項目を設定します。
   ノード情報を取得するために必要な設定
   - 連携する Network Node Manager のバージョン（「Version 6i」，「Version 7i」または「Version 8」）の設定

   機器の監視図を表示するために必要な設定
   - ［監視図］ボタンを表示する設定
   - Network Node Manager のネットワークプレゼンタと接続するための「オープンマップ名」，「接続先サーバ名」の設定

   ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定項目の詳細については，「5.3 資産管理サーバの設定」を参照してください。

2. **タスクの設定**
   ノード情報を取得するために必要な設定です。
   資産管理サーバで，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「ノード情報の取込み」を有効にします。タスクの詳細については，「6.2.1 タスク「ノード情報の取込み」を有効にする」を参照してください。

6.2.1 タスク「ノード情報の取込み」を有効にする

Network Node Manager で取得したノード情報を資産管理データベースに登録するには，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「ノード情報の取込み」を有効にします。デフォルトでは，無効になっています。

タスクを有効にすると，毎週金曜日の午前 5 時 30 分に処理が実行されます。

タスクを有効にする手順については，「5.9.2(1) タスクを有効にする」を参照してください。

［サーバセットアップ］ダイアログで，［監視図］ボタンを表示する設定にすると，Network Node Manager からノード情報を取得するときに，「NNM 選択名」を取得します。そのため，［監視図］ボタンを表示しない場合と比べて，ノード情報の取得に時間が掛かります。

(1) ノード情報を取得する際の注意事項

ノード情報を登録する際の注意事項を次に示します。

- タスクが実行されるときに，Network Node Manager のサービスが起動していないと，ノード情報が取り込まれません。
- Network Node Manager で取得したノード情報は，「MAC アドレス」をキーとしています。そのため，「MAC アドレス」に該当する，Network Node Manager の「SNMP ifPhysAddr」フィールドが NULL の場合，そのオブジェクトの情報は登録されません。
- 資産管理データベースに登録されている情報として，該当する機器が 2 台以上存在する場合，登録日が最新の情報が更新されます。
- 該当する機器が資産管理データベースに存在しなかった場合，資産情報，ハードウェア資産情報，ネットワーク情報が作成されます。
  このとき，資産番号は自動採番されます。また，IP アドレスが取得できた場合は，その IP アドレスが割り当てられます。
- 機器の種類によって，既存の情報を更新するかどうかが異なります。
  資産管理データベースに登録されている機器種別と，Network Node Manager から取得した機器種別での更新処理の違いを次の表に示します。

既存の情報の機器種別	取得した情報の機器種別	
	システム装置	ネットワーク装置
システム装置 （JP1/NETM/DM から取得した情報）	×	−
システム装置（その他）	○	○
ネットワーク装置	○	○

（凡例）
○：機器種別も含めて更新される
×：更新されない
−：該当しない

(2) 機器種別の判定方法

Network Node Manager から取得できるのは，機器種別が「PC」，「HUB」，「ルータ」の情報です。それ以外の機器は，「ネットワーク機器」として登録されます。Network Node Manager で情報を収集する機器種別を追加しても，資産管理データベースには登録されません。

Network Node Manager から取得したノード情報は，次のように機器種別が判定されます。

- ノード情報のフィールド名「isComputer」が「真」の場合は，機器種別「PC」とし

て登録されます。

- ノード情報のフィールド名「isConnector」および「isHub」が「真」の場合は，機器種別「HUB」として登録されます。
- ノード情報のフィールド名「isConnector」および「isRouter」が「真」の場合は，機器種別「ルータ」として登録されます。

6.2.2 監視図の表示

Asset Information Manager から，Network Node Manager のネットワークプレゼンタを起動して対象機器の監視図を表示する手順について次に示します。

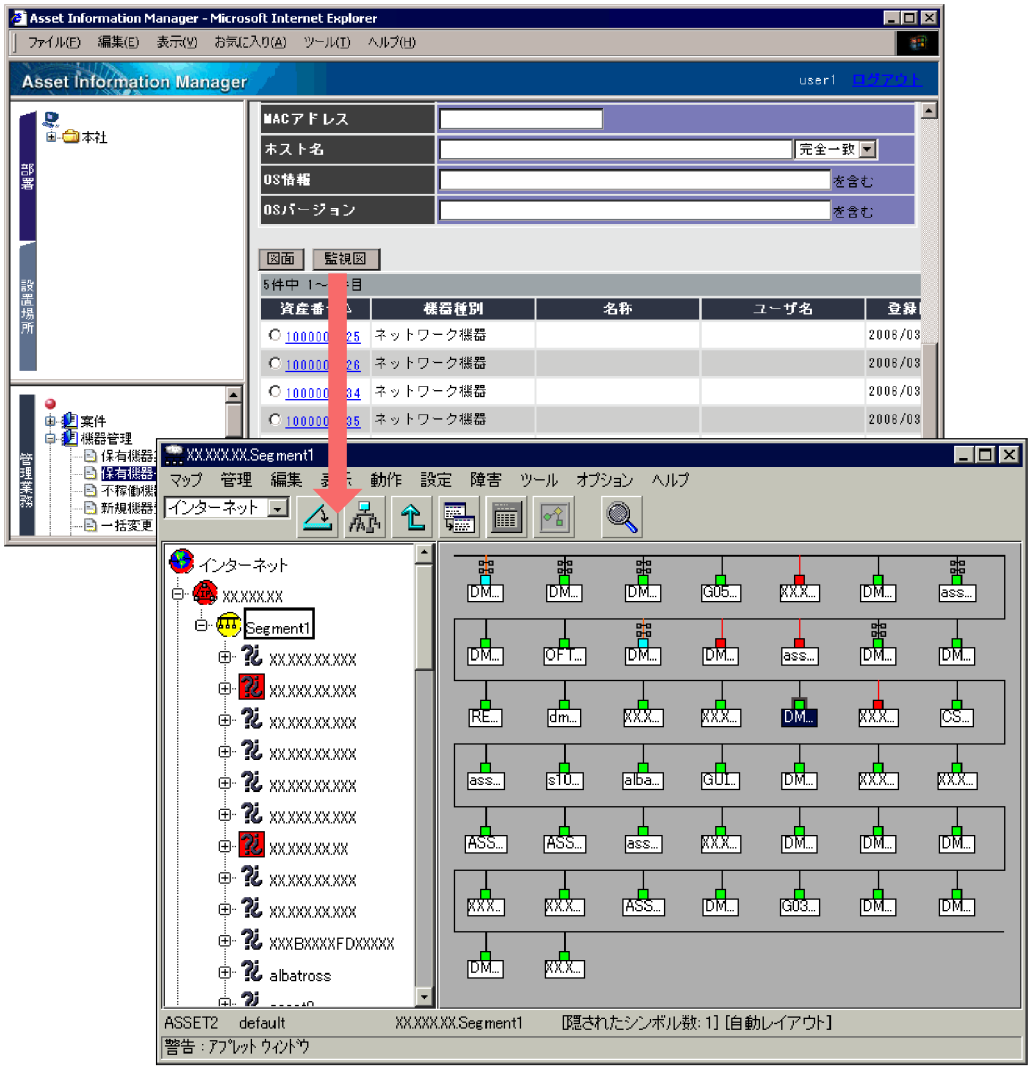
監視図を表示できる画面は，業務メニュー「機器管理」の「保有機器一覧」を選択すると表示される保有機器一覧画面と，［機器詳細］ダイアログです。

保有機器一覧画面から表示する場合を例に，監視図の表示方法を次に説明します。

1. **業務メニュー「機器管理」の「保有機器一覧」を選択する。**
   保有機器一覧画面が表示されます。
2. **検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   保有機器一覧が表示されます。
3. **監視図を表示したい機器を選択する。**
4. **［監視図］ボタンをクリックする。**
   Network Node Manager のネットワークプレゼンタが起動され，監視図が表示されます。

監視図を表示する流れを次の図に示します。

図 6-1　監視図を表示する流れ



注意事項

監視図を表示するには，Network Node Manager の管理ステーションで，WWW サーバが稼働している必要があります。また，管理ステーションでは，［サーバセットアップ］ダイアログの設定「オープンマップ名」で指定したマップをオープンした，Network Node Manager のセッションが起動している必要があります。

Network Node Manager での設定の詳細については，マニュアル「JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド」を参照してください。

6.2.3 Network Node Manager で資産情報を参照するための設定

Network Node Manager と連携して，Network Node Manager のネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップから，ノードの機器の詳細情報を参照するために必要な作業の流れを次に示します。

1. **Network Node Manager との連携に必要な項目の設定**

   セットアップ時に［サーバセットアップ］ダイアログで，次の項目を設定します。
   - Network Node Manager のネットワークプレゼンタと接続するための「オープンマップ名」，「接続先サーバ名」の設定
   - ログイン画面に「次回以降は自動的にログインする」というチェックボックスを表示するかどうかの設定
   - 自動ログインに使用するユーザ ID およびパスワードの有効期限の設定

   ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，「5.3.8　NNM 連携の設定」を参照してください。

2. **設定ファイルのコピー**

   Network Node Manager から機器の詳細情報を参照するために必要な設定です。
   Information Viewer をインストールしたあとに Network Node Manager をインストールした場合は，所定のフォルダに設定ファイルをコピーします。設定ファイルをコピーする手順については，「6.2.4　設定ファイルのコピー」を参照してください。

3. **自動ログインの設定**

   Asset Information Manager の業務メニュー「ユーザ組織管理」で，連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておくと，ネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップから，Asset Information Manager で管理する機器の詳細情報を参照する際に，ユーザ ID およびパスワードの指定を省略して自動的にログインできます。
   Network Node Manager との連携用には，ユーザ ID「JP1_NNM」，ユーザ名「ネットワーク管理者」が用意されています。
   パスワードの設定方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.1　ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

   自動ログインの設定を取り消すには

   いったんパスワードを設定したあとに，自動ログインの設定を取り消すには，設定したユーザを削除するか，または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで，パスワードを空白に更新してください。
   jamimport コマンドでのインポートの詳細については，「7.1.1(3)　jamimport コマンドでのインポートの流れ」を参照してください。

6.2.4 設定ファイルのコピー

Network Node Manager のネットワークプレゼンタおよびノード・サブマップから機器

の詳細情報を参照するには，Asset Information Manager と連携するための設定情報が記載されたファイルを，Network Node Manager のインストールフォルダ以下に格納する必要があります。

Information Viewer をインストールする前に，あらかじめ Network Node Manager がインストールされていた場合は，この設定は不要です。Information Viewer をインストールしたあとに Network Node Manager をインストールする場合は，Information Viewer を再インストールするか，設定ファイルを所定のフォルダにコピーしてください。
Information Viewer を再インストールする際は，メンテナンス画面で「修正」を選択してください。

設定ファイル（JP1_AssetInformationManager）の格納されているフォルダと，コピー先のフォルダを次に示します。

ネットワークプレゼンタ

- **コピー元フォルダ**
  Information Viewer のインストールフォルダ
  ¥OpenView¥www¥registration¥jovw¥Japanese_Japan.932
- **コピー先フォルダ**
  Network Node Manager のインストールフォルダ
  ¥OpenView¥www¥registration¥jovw¥Japanese_Japan.932

ノード・サブマップ

- **コピー元フォルダ**
  Information Viewer のインストールフォルダ
  ¥OpenView¥registration¥Japanese_Japan.932
- **コピー先フォルダ**
  Network Node Manager のインストールフォルダ
  ¥registration¥Japanese_Japan.932

ネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップのどちらか一方を使用する場合

設定ファイルを削除することで，ネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップのどちらか一方を，機器の詳細情報が表示されないように設定できます。
機器の詳細情報の表示を抑止するために削除する設定ファイルを次に示します。

- **ネットワークプレゼンタでの表示を抑止する場合**
  Network Node Manager のインストールフォルダ
  ¥www¥registration¥jovw¥Japanese_Japan.932¥JP1_AssetInformationManager
- **ノード・サブマップでの表示を抑止する場合**
  Network Node Manager のインストールフォルダ
  ¥registration¥Japanese_Japan.932¥JP1_AssetInformationManager

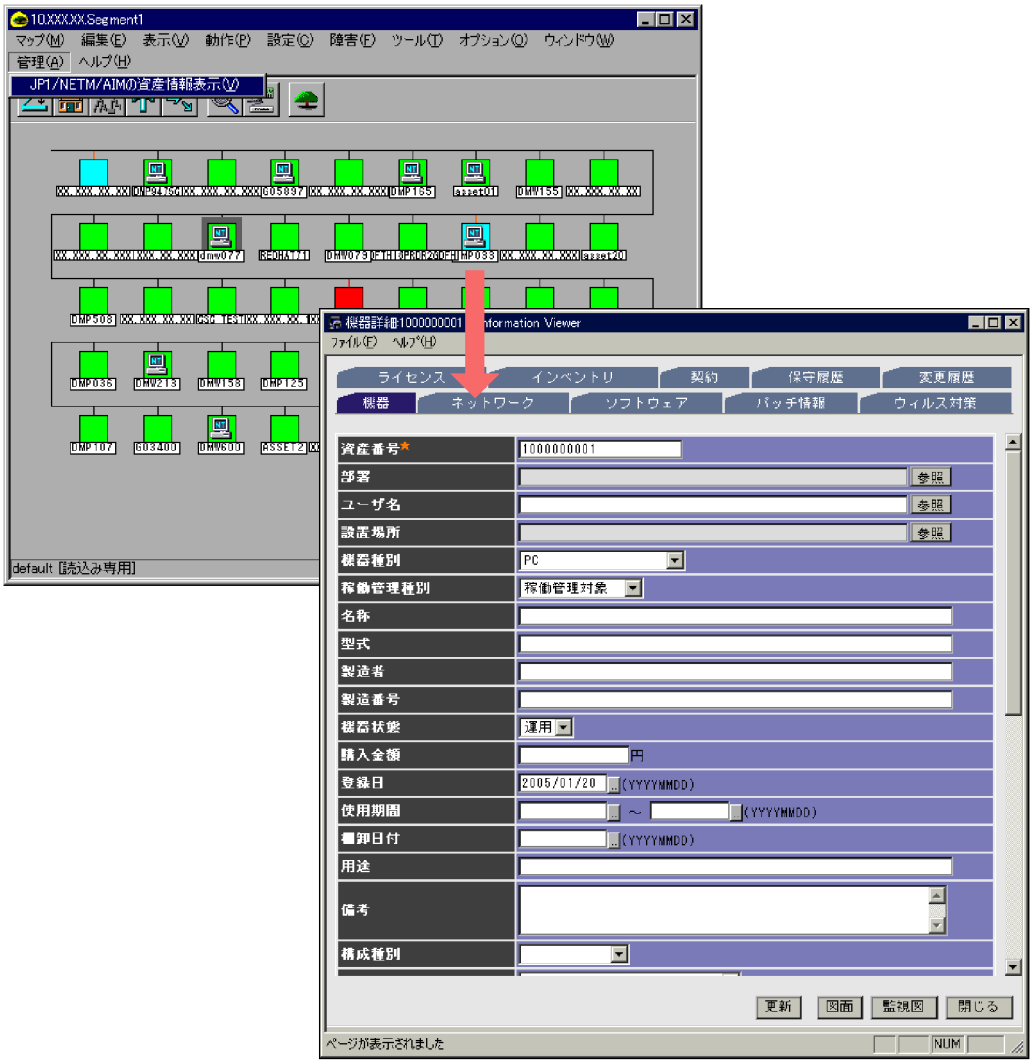
6.2.5　Network Node Manager からの資産情報の表示

Network Node Manager のネットワークプレゼンタおよびノード・サブマップから機器の詳細情報を表示する手順を次に示します。

1. **ネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップで，任意のノードを選択する。**
2. **「管理」－「JP1/NETM/AIM の資産情報表示」を選択する。**
   ［Information Viewer］ダイアログが表示されます。

ノード・サブマップから［Information Viewer］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-2　［Information Viewer］ダイアログを表示する流れ



6.2.6 Asset Information Manager への接続情報の変更

Information Viewer から Asset Information Manager への接続情報を変更する手順を次に示します。

1. **Information Viewer の「ファイル」－「設定」を選択する。**
   ［Information Viewer の設定］ダイアログが表示されます。必要に応じて，次の項目を変更してください。
   - 「ホスト名」
     接続する Asset Information Manager のホスト名を指定します。
   - 「ポート番号」
     接続する Asset Information Manager のポート番号を指定します。デフォルトは「80」です。
   - 「SSL を使用する」
     Asset Information Manager との接続で SSL を使用する場合はチェックしてください。デフォルトはチェックされていません。
   - 「Asset Information Manager へ接続するユーザ情報を指定する。」
     Asset Information Manager にログインするユーザを指定する場合は，チェックボックスにチェックしてください。チェックしたら，ログインするユーザの「ユーザ ID」および「パスワード」を指定してください。

   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックします。
2. **［OK］ボタンをクリックする。**
   変更した内容が有効になって，［Information Viewer の設定］ダイアログが閉じます。

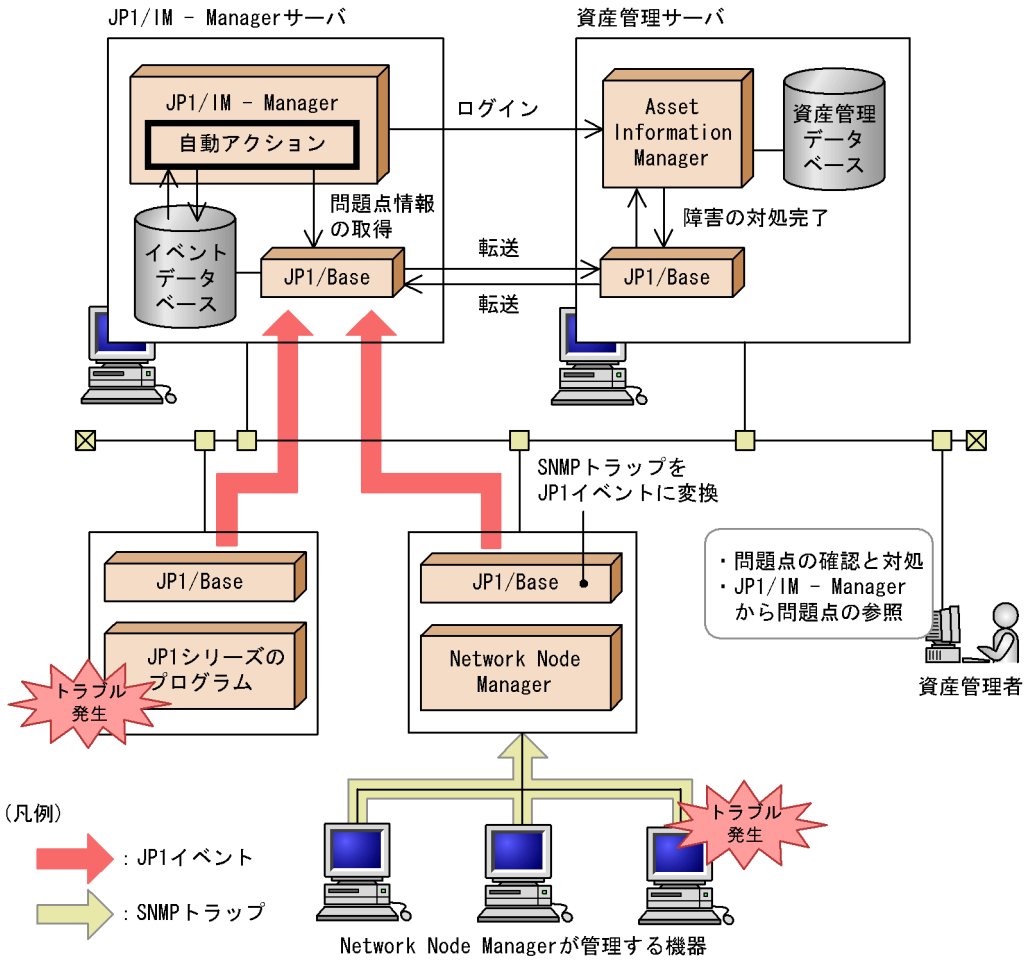
各項目を指定した［Information Viewer の設定］ダイアログを次の図に示します。

図 6-3 ［Information Viewer の設定］ダイアログ

6.3　JP1/IM と連携するための設定

JP1/IM と連携して，Asset Information Manager からも JP1 イベントおよび SNMP トラップの情報を基に問題点を確認するために必要な作業の流れを次の図に示します。必要なプログラムについては，「4.2.4　JP1/IM - Manager と連携したシステム構成」を参照してください。

図 6-4　Asset Information Manager から問題点を確認するために必要な作業の流れ



1. **JP1/IM - Manager の自動アクションの設定で，JP1 イベントの自動取得および対処完了通知を設定**

   JP1/IM - Manager のサーバで問題点情報を取得すると，自動アクション機能によって，JP1/Base を経由して資産管理サーバに通知されます（**JP1 イベントの自動取得**）。また，Asset Information Manager で問題点の対処完了を登録すると，対処完了を通知する JP1 イベントが JP1/Base を経由して JP1/IM - Manager のサーバに送

付されて，自動アクション機能によって JP1/IM - Manager の問題点情報の状態に反映されます（**対処完了通知**）。
JP1 イベントの自動取得の設定方法については，「6.3.1(1)　JP1 イベントの自動取得の設定」を参照してください。また，対処完了通知の設定方法については，「6.3.1(2)　障害の対処完了通知の設定」を参照してください。
自動アクション機能の詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド」を参照してください。

2. JP1 **イベントを転送するための設定**

Asset Information Manager からの JP1 イベントを転送するために，JP1/Base で，ほかのイベントサーバに JP1 イベントを自動転送するための環境設定が必要です。
JP1 イベントの自動転送の設定については，「6.3.2　JP1 イベントを転送するための設定」を参照してください。

07-50 より前のバージョンの JP1/Integrated Manager - Central Console と連携する場合

手順 2. のあとに，JP1/Integrated Manager - Central Console の［イベントコンソール］画面から，Asset Information Manager の［問題点詳細］ダイアログを表示するために必要な定義ファイルを，所定のフォルダにコピーします。必要な定義ファイルとそのコピー先については，「6.3.3　定義ファイルのコピー」を参照してください。

3. **発行する JP1 イベントの変更**

イベント発行定義ファイルに，Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの種類を定義できます。デフォルトでは，すべての JP1 イベントを発行する設定になっています。イベント発行定義ファイルの定義方法については，「6.3.4　発行する JP1 イベントの変更」を参照してください。

4. **自動ログインの設定**

Asset Information Manager の業務メニュー「ユーザ組織管理」で，連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておくと，［イベントコンソール］画面から，Asset Information Manager の［問題点詳細］ダイアログを参照する際に，ユーザ ID およびパスワードの指定を省略して自動的にログインできます。
JP1/IM との連携用には，ユーザ ID「JP1_IM」，ユーザ名「イベント管理者」が用意されています。
パスワードの設定方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.1　ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

自動ログインの設定を取り消すには

いったんパスワードを設定したあとに，自動ログインの設定を取り消すには，設定したユーザを削除するか，または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで，パスワードを空白に更新してください。
jamimport コマンドでのインポートの詳細については，「7.1.1(3)　jamimport コマンドでのインポートの流れ」を参照してください。

6.3.1　JP1/IM - Manager での自動アクションの設定

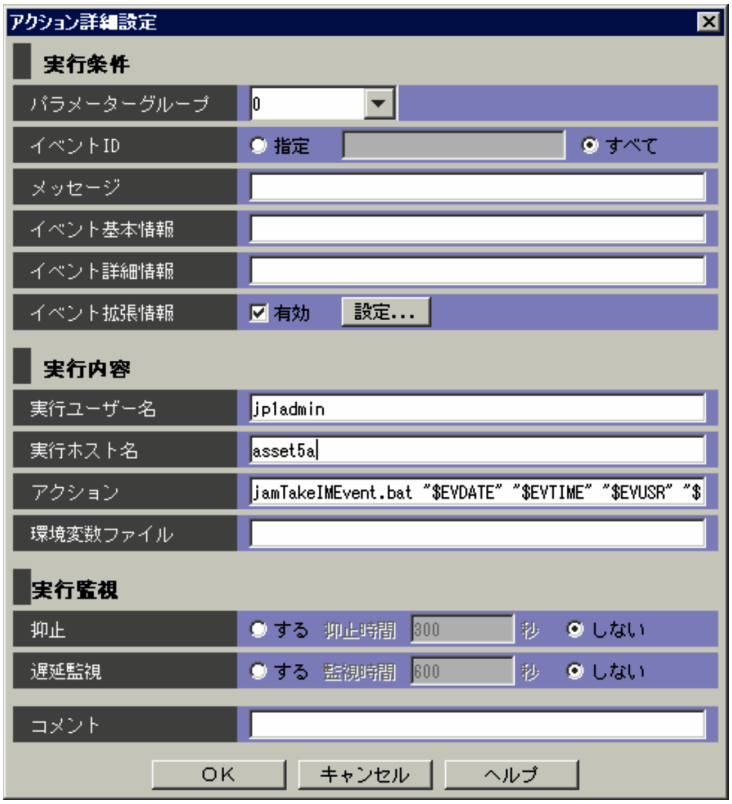
ここでは，Asset Information Manager が発行した JP1 イベントを，JP1/IM - Manager で自動取得するための設定，および Asset Information Manager での障害の対処完了を，JP1/IM - Manager に通知するための設定について説明します。

（1）JP1 イベントの自動取得の設定

ここでは JP1/IM 側に表示される情報のうち，「緊急」と「警告」だけを Asset Information Manager に通知する場合の指定例を示します。

JP1/IM - Manager の［アクション詳細設定］ダイアログで指定する値を次に示します。

図 6-5　［アクション詳細設定］ダイアログ（JP1 イベントの自動取得の設定）



● 実行条件

- 「パラメーターグループ」の設定は変更しない。
- 「イベント ID」に「すべて」を選択する。
- 「メッセージ」，「イベント基本情報」，「イベント詳細情報」を空白にする。
- 「イベント拡張情報」の「有効」チェックボックスをチェックして，［設定］ボタンをクリックする。
  表示される［アクション詳細設定（イベント拡張情報）］ダイアログで，「重大度」

の「緊急」と「警告」のチェックボックスをチェックします。

● 実行内容

- 「実行ユーザー名」にアクションを実行するユーザ名を指定する。
- 「実行ホスト名」にアクションを実行するホスト名を指定する。
- 「アクション」に「jamTakeIMEvent.bat "$EVDATE" "$EVTIME" "$EVUSR" "$EVHOST" "$EVIPADDR" "$EVSEQNO" "$EVMSG" "$EVSEV" "$ACTHOST" "$EV"OBJECT_TYPE"" "$EV"SNMP_SOURCE""」を指定する。
  ファイル名は，パスで指定しないでください。
- 「環境変数ファイル」を空白にする。

● 実行監視

「抑止」,「遅延監視」および「コメント」は必要に応じて指定してください。

(2) 障害の対処完了通知の設定

Asset Information Manager で対策を登録する際に，障害の対処が完了したことを JP1/IM - Manager に通知するには，JP1/IM - Manager の jcochstat コマンドを自動アクションに設定します。

JP1/IM - Manager の［アクション詳細設定］ダイアログで指定する値を次に示します。

図 6-6 ［アクション詳細設定］ダイアログ（障害の対処完了通知の設定）

● 実行条件

- 「パラメーターグループ」に，(1) での設定とは異なるパラメーターグループを指定する。
- 「イベント ID」に「指定」を選択して，「00005581」を指定する。
- 「メッセージ」，「イベント基本情報」，「イベント詳細情報」を空白にする。
- 「イベント拡張情報」にチェックしない。

● 実行内容

- 「実行ユーザー名」にアクションを実行するユーザ名を指定する。
- 「実行ホスト名」にアクションを実行するホスト名を指定する。
- 「アクション」に jcochstat コマンドのフルパスと，「-n "$EV"EVENT_SEQNO"" -k PROCESSED」を指定する。
- 「環境変数ファイル」を空白にする。

● 実行監視

「抑止」，「遅延監視」および「コメント」は必要に応じて指定してください。

Asset Information Manager で更新した JP1 イベントまたは SNMP トラップの対処状況を反映するには，JP1/IM - Manager の［システム環境設定］ダイアログの「通信」タブで，「jcochstat コマンド」の「対処状況の変更を許可」のチェックボックスをチェックします。

6.3.2 JP1 イベントを転送するための設定

Asset Information Manager からの JP1 イベントを転送するために，JP1/Base で，ほかのイベントサーバに JP1 イベントを自動転送するための環境設定が必要です。

JP1 イベントの転送設定および定義情報の配布については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

6.3.3 定義ファイルのコピー

ここでは，07-50 より前のバージョンの JP1/Integrated Manager - Central Console と連携する場合にだけ必要な作業について説明します。

JP1/Integrated Manager - Central Console の［イベントコンソール］画面から，Asset Information Manager の［問題点登録］ダイアログを表示するためには，イベント拡張属性定義ファイルおよびモニター画面呼び出し定義ファイルが必要です。Asset Information Manager のインストール後に，所定のフォルダに定義ファイルをコピーしてください。

定義ファイルの格納されているフォルダと，コピー先のフォルダを次に示します。

イベント拡張属性定義ファイル（hitachi_jp1_aim_base_attr_ja.conf）

- **コピー元フォルダ**

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥conf¥imcc

- **コピー先フォルダ**
  JP1/Integrated Manager - Central Console のインストールフォルダ ¥conf¥console¥attribute

モニター画面呼び出し定義ファイル（hitachi_jp1_aim_mon_ja.conf）

- **コピー元フォルダ**
  Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥conf¥imcc
- **コピー先フォルダ**
  JP1/Integrated Manager - Central Console のインストールフォルダ ¥conf¥console¥monitor

6.3.4 発行する JP1 イベントの変更

Asset Information Manager から発行する JP1 イベントは，イベント発行設定ファイル（aimevent.conf）に定義します。デフォルトでは，すべての JP1 イベントを発行する定義になっています。

aimevent.conf の格納場所を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥conf¥event

aimevent.conf の内容と，発行する JP1 イベントの定義方法を次に示します。

```
[EventID]
00005501=1
00005502=1
00005503=1
00005521=1
00005522=1
00005523=1
00005524=1
00005531=1
00005532=1
00005533=1
00005541=1
00005542=1
00005543=1
00005581=1
00005582=0
00005583=0
```

[EventID] セクションに，「（イベント ID）=1（または 0）」の形式で定義します。

各イベント ID に対して，JP1 イベントを発行する場合は 1 を，発行しない場合は 0 を指定します。各 JP1 イベントのイベント ID は，「12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細」を参照してください。

6.3.5 JP1/IM からの資産情報の表示

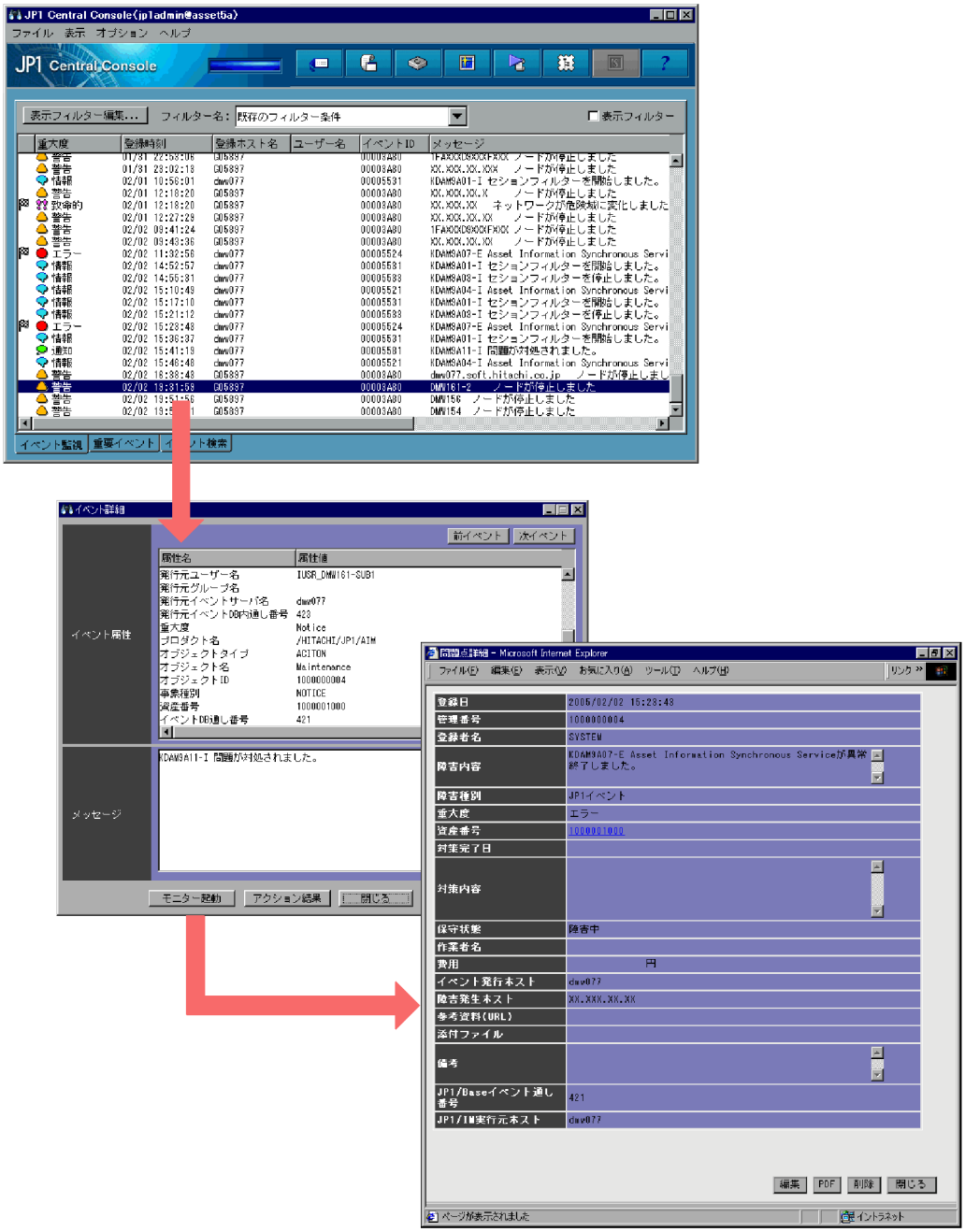
JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面から，選択した JP1 イベントに該当する［問題点詳細］ダイアログを表示して，詳細情報を参照できます。

［問題点詳細］ダイアログを表示する手順を次に示します。

1. **JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面で，Asset Information Manager の発行した JP1 イベントを選択する。**
2. **イベント詳細表示画面を表示する。**
3. **［モニター起動］ボタンをクリックする。**
   ［問題点詳細］ダイアログが表示されます。

［イベントコンソール］画面から［問題点詳細］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-7 ［問題点詳細］ダイアログを表示する流れ



［イベントコンソール］画面の操作方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Manager リファレンス」を参照してください。

6.4 JP1/IM - IDM と連携するための設定

JP1/IM - IDM から，Asset Information Manager で管理する資産情報を参照するときは，Asset Information Manager にログインします。

Asset Information Manager の業務メニュー「ユーザ組織管理」で，連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておくと，［インシデントの詳細］画面から，Asset Information Manager で管理する資産情報を参照する際のユーザ ID およびパスワードの指定を省略して，自動的にログインできます。

JP1/IM - IDM との連携用には，ユーザ ID「JP1_IM_IDM」，ユーザ名「インシデント管理者」が用意されています。

各製品と連携するために用意されているユーザおよびパスワードの設定方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.1　ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

自動ログインの設定を取り消すには

いったんパスワードを設定したあとに，自動ログインの設定を取り消すには，設定したユーザを削除するか，または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで，パスワードを空白に更新してください。
jamimport コマンドでのインポートの詳細については，「7.1.1(3)　jamimport コマンドでのインポートの流れ」を参照してください。

6.4.1 JP1/IM - IDM からの問題点の登録

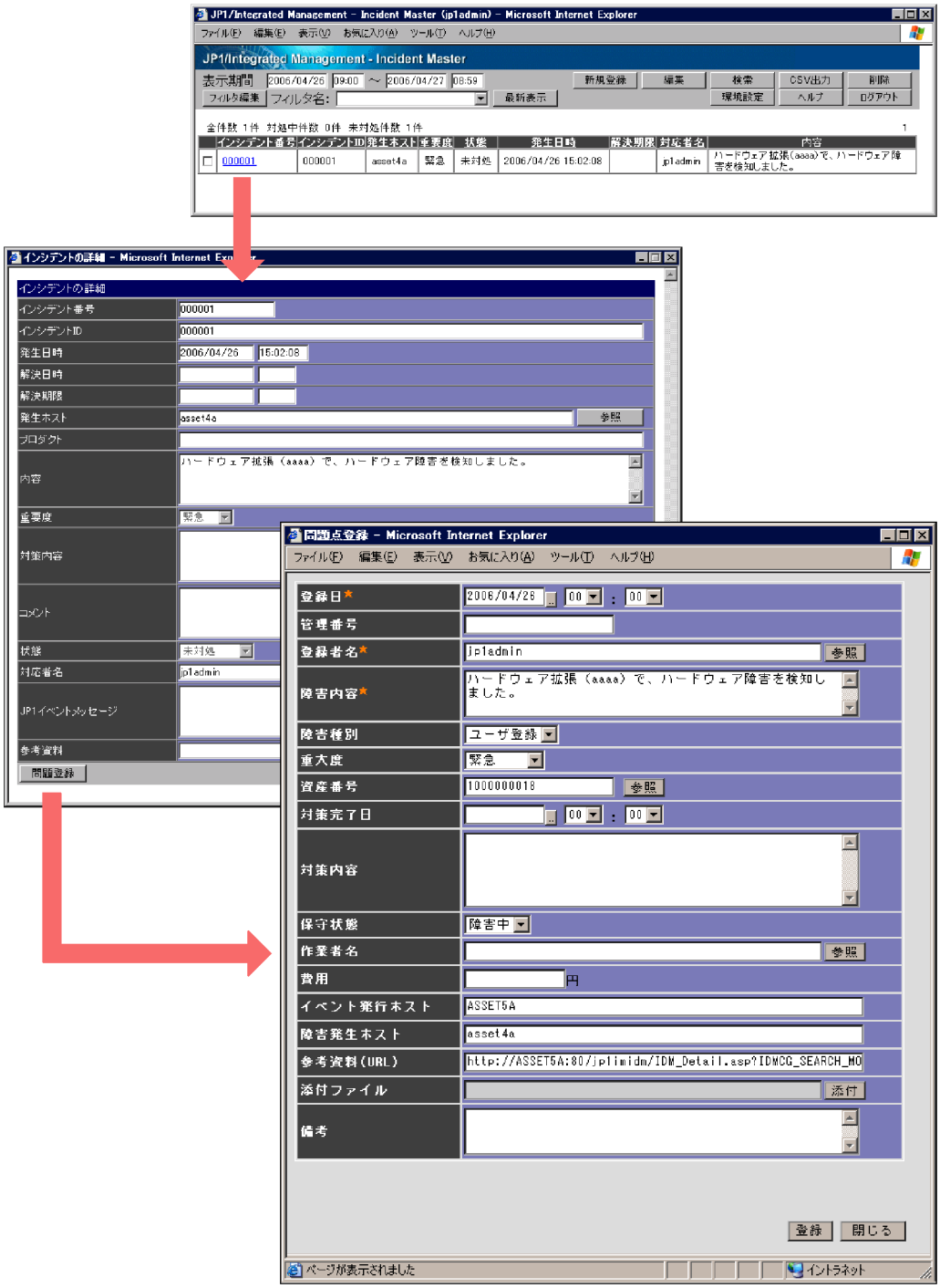
JP1/IM - IDM のインシデントを，Asset Information Manager に問題点として登録できます。

［インシデントの詳細］画面から［問題点登録］ダイアログを表示して，問題点を登録する手順を次に示します。

1. **［インシデントコンソール］画面，またはインシデントの検索結果画面で，詳細情報を表示したいインシデントのアンカーをクリックする。**
   ［インシデントの詳細］画面が表示されます。
2. **［問題登録］ボタンをクリックする。**
   ［問題点登録］ダイアログが表示されます。
3. **［登録］ボタンをクリックする。**
   インシデントの情報が，Asset Information Manager に問題点として登録されます。
4. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［問題点登録］ダイアログが閉じます。

［インシデントコンソール］画面から，［問題点登録］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-8 ［問題点登録］ダイアログを表示する流れ



6.4.2 JP1/IM - IDM からの資産情報の表示

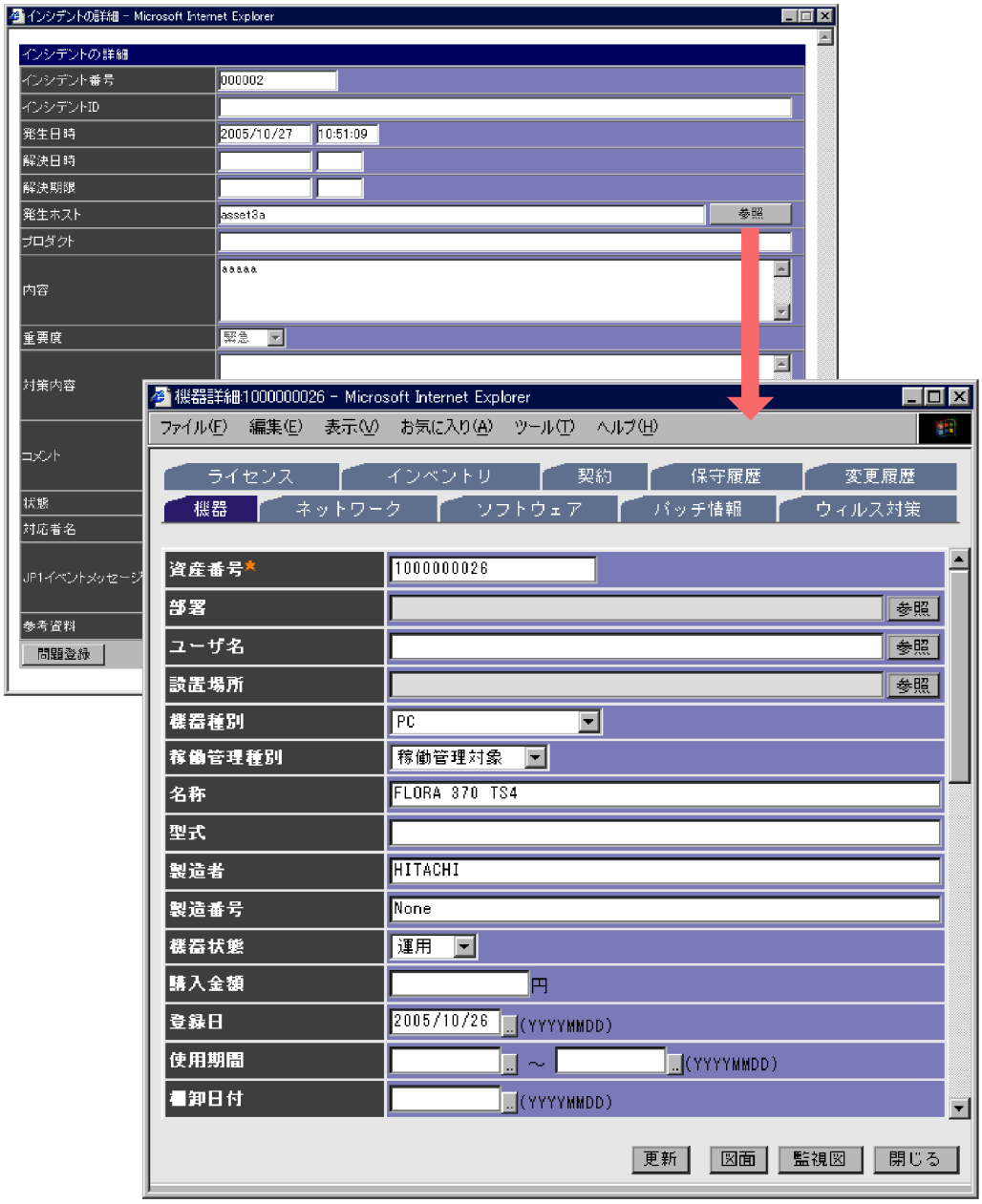
JP1/IM - IDM でインシデントの情報を参照するときに，Asset Information Manager の管理する資産情報から発生ホストの詳細情報を参照できます。

［インシデントの詳細］画面から［機器詳細］ダイアログを表示して，発生ホストの情報を参照する手順を次に示します。

1. **［インシデントコンソール］画面，またはインシデントの検索結果画面で，詳細情報を表示したいインシデントのアンカーをクリックする。**
   ［インシデントの詳細］画面が表示されます。
2. **「発生ホスト」の［参照］ボタンをクリックする。**
   Asset Information Manager の［機器詳細］ダイアログが表示されます。
   機器の種類，利用者，部署，保守履歴などを参照できます。

［インシデントの詳細］画面から，［機器詳細］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-9 ［インシデントの詳細］画面から［機器詳細］ダイアログを表示する流れ



6.5 JP1/IM - CM と連携するための設定

JP1/IM - CM と連携して，JP1/IM - CM で Asset Information Manager の管理する情報を取得できるようにするために必要な，作業の流れを次に示します。必要なプログラムについては，「4.2.6 JP1/IM - CM と連携したシステム構成」を参照してください。

1. **JP1/IM - CM との連携を選択**
   セットアップ時に［サーバセットアップ］ダイアログで，JP1/IM - CM と連携するかどうかを設定します。
   ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定項目の詳細については，「5.3.9 JP1/IM 連携の設定」を参照してください。
2. **アダプタコマンド設定ファイルのコピー**
   JP1/IM - CM で Asset Information Manager の管理する情報を取得するための設定ファイルを，所定のフォルダにコピーします。設定ファイルの格納先およびコピー先については，「6.5.1 アダプタコマンド設定ファイルのコピー」を参照してください。
3. **JP1/IM - CM で取得する情報の変更**
   JP1/IM - CM での管理対象に合わせて，Asset Information Manager から取得する情報を絞り込めます。デフォルトの設定を変更する場合だけ，設定してください。デフォルトの設定および設定の変更方法については，「6.5.2 JP1/IM - CM で取得する情報の変更」を参照してください。
4. **自動ログインの設定**
   Asset Information Manager の業務メニュー「ユーザ組織管理」で，連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておくと，セントラルインフォメーションマスター・ビューアーから，Asset Information Manager で管理する機器の詳細情報を参照する際のユーザ ID およびパスワードの指定を省略して，自動的にログインできます。
   JP1/IM - CM との連携用には，ユーザ ID「JP1_IM_CM」，ユーザ名「構成管理者」が用意されています。
   各製品と連携するために用意されているユーザおよびパスワードの設定方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.1 ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

   自動ログインの設定を取り消すには

   いったんパスワードを設定したあとに，自動ログインの設定を取り消すには，設定したユーザを削除するか，または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで，パスワードを空白に更新してください。
   jamimport コマンドでのインポートの詳細については，「7.1.1(3) jamimport コマンドでのインポートの流れ」を参照してください。

6.5.1 アダプタコマンド設定ファイルのコピー

JP1/IM - CM で Asset Information Manager の管理する情報を取得するために，JP1/Base に対してアダプタコマンドの設定が必要です。

Asset Information Manager の JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールする際，あらかじめ JP1/Base がインストールされていた場合は，この設定は不要です。JP1/IM - Central Information Master 連携コンポーネントをインストールしたあとに JP1/Base をインストールする場合は，JP1/IM - Central Information Master 連携を再インストールするか，JP1/IM - CM 用のアダプタコマンド設定ファイルを，所定のフォルダにコピーしてください。なお，JP1/IM - Central Information Master 連携を再インストールする際は，メンテナンス画面で「修正」を選択してください。

アダプタコマンド設定ファイル（Adapter_HITACHI_JP1_AIM.conf）の格納されているフォルダと，コピー先のフォルダを次に示します。

● コピー元フォルダ
Asset Information Manager のインストールフォルダ
¥component¥imcm¥JP1Base¥plugin¥conf

● コピー先フォルダ
JP1/Base のインストールフォルダ ¥plugin¥conf

6.5.2 JP1/IM - CM で取得する情報の変更

JP1/IM - CM での管理対象に合わせて，Asset Information Manager で管理する情報からサーバマシンの情報だけを取得するといったように，取得する情報を絞り込めます。

取得する情報の絞り込み条件を設定したファイル（targetcondition.conf）は，Asset Information Manager の JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールすると作成されます。取得したい情報に合わせて，条件を設定してください。

targetcondition.conf の格納先を次に示します。

JP1/IM - Central Information Master 連携のインストールフォルダ ¥conf

（1）絞り込み条件の設定方法

ここでは，targetcondition.conf の条件の設定方法について説明します。

targetcondition.conf のデフォルトの内容，および各項目の意味を次に示します。

```
[Condition]
 statement = (AssetInfo.AssetStatus < 500)
 and(AssetInfo.DMStatus = '001')
 and((HardwareInfo.OSInfo LIKE '%Server%')
 or(HardwareInfo.MachineKind = '102'))

[AssetID]
```

- [Condition]
  セクション名です。必ず指定してください。
- statement
  取得する情報の条件式を指定します。記述形式の詳細については，HTML ヘルプ「アクセス定義ファイル作成ガイド」（assetscr.chm）を参照してください。
  assetscr.chm は，次のフォルダに格納されています。
  Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help
- [AssetID]
  statement で絞り込んだ資産以外で，JP1/IM - CM での管理対象に含めたい資産の資産 ID を指定します。この指定は省略できます。
  資産 ID「000001」と「000002」を追加する場合の例を次に示します。

```
[AssetID]
a1 = 000001
a2 = 000002
```

デフォルトでは，JP1/NETM/DM のシステム情報「OS ファミリー名」および「OS」が次に示す値の資産情報だけを取得する設定になっています。

- OS ファミリー名
  「Microsoft Windows NT Server」，「Microsoft Windows NT Enterprise Server」，「Microsoft Windows 2000 Server」，「Microsoft Windows 2000 Advanced Server」，「Microsoft Windows 2000 Datacenter Server」，「Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Standard Edition」，「Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterprise Edition」，「Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Standard x64 Edition」，「Microsoft(R) Windows(R) Server 2003, Enterprise x64 Edition」
- OS
  「HI-UX/WE2」，「HP-UX」，「Solaris」，「HP Tru64 UNIX」，「AIX」，「NEWS-OS」，「UX/4800」，「Linux」，「MP-RAS」，「IRIX」

注意事項

資産管理サーバ 1 台に対して，JP1/IM - CM サーバが複数台の構成の場合，絞り込み条件は，インストールした JP1/IM - Central Information Master 連携ごとに異なることがあります。そのときは，各 JP1/IM - CM サーバで設定した絞り込み条件に共通する情報だけ，構成変更イベントが発行されます。

（2） 複数の JP1/IM - CM サーバで管理する場合の設定

IP アドレスの範囲で，JP1/IM - CM サーバを分けて管理している場合は，各サーバの targetcondition.conf に，IP アドレスの範囲を指定します。

IP アドレス 111.111.111.1 ～ 111.111.112.255 の機器を管理している JP1/IM - CM サーバを例に，targetcondition.conf への IP アドレス範囲の指定方法を次に示します。

```
[Condition]
 statement = (AssetInfo.AssetStatus < 500)
 and(AssetInfo.DMStatus = '001')
 and((HardwareInfo.OSInfo LIKE '%Server%')
 or(HardwareInfo.MachineKind = '102'))
 and(HardwareInfo.IPAddress >= '111.111.111.1')
 and(HardwareInfo.IPAddress <= '111.111.112.255')
```

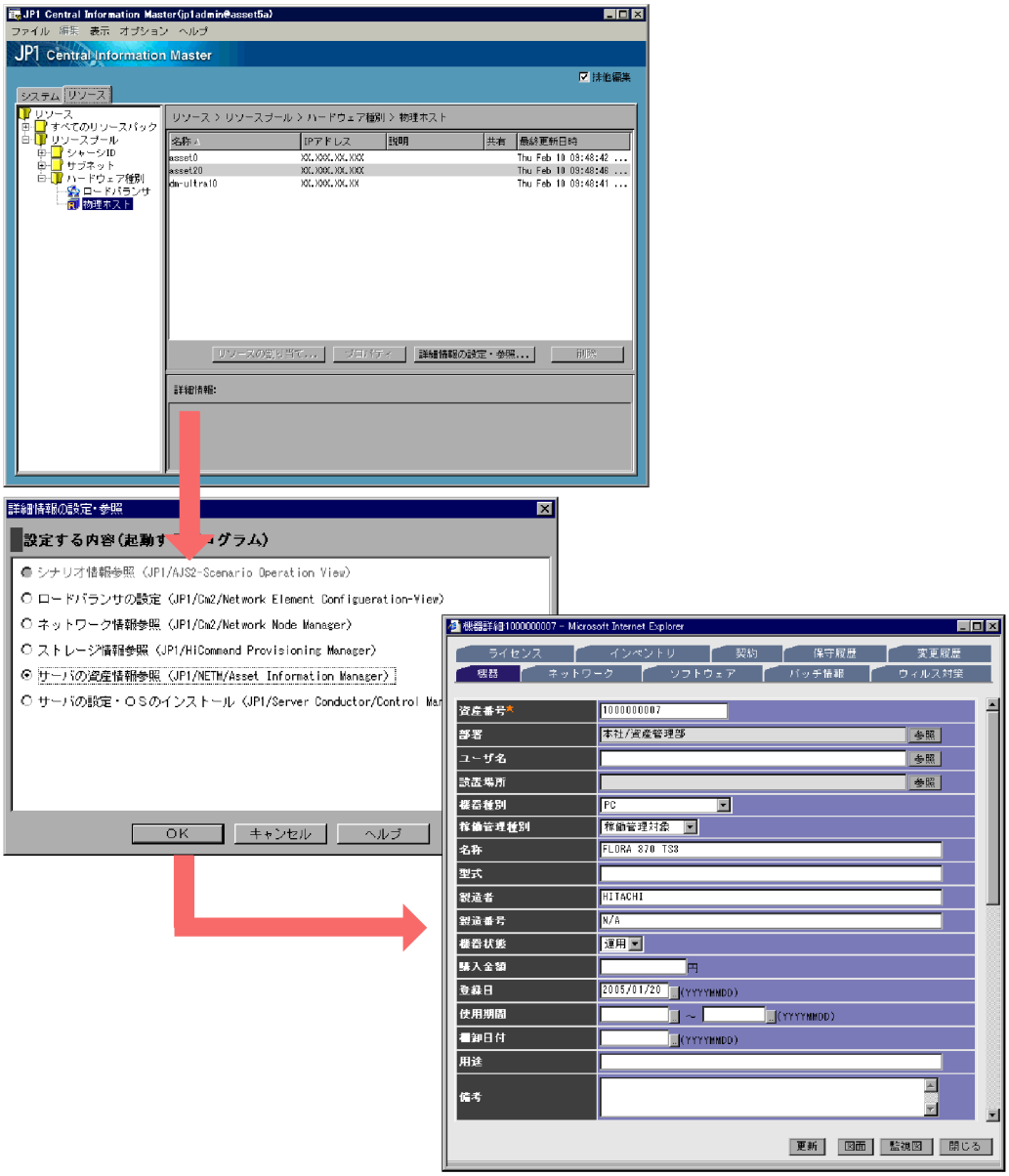
「'111.111.111.1'」および「'111.111.112.255'」の個所に，IP アドレスの範囲を指定してください。

6.5.3 JP1/IM - CM からの資産情報の表示

Asset Information Manager で管理している資産情報を取り込んでいる場合，セントラルインフォメーションマスター・ビューアーで選択した機器の詳細情報を参照できます。

セントラルインフォメーションマスター・ビューアーから，選択した［機器詳細］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-10　［機器詳細］ダイアログを表示する流れ



セントラルインフォメーションマスター・ビューアーで資産情報を表示する手順については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド」を参照してください。

6.5.4　JP1/IM - CM への接続情報の変更

Asset Information Manager から JP1/IM - CM への接続情報を変更する手順を次に示し

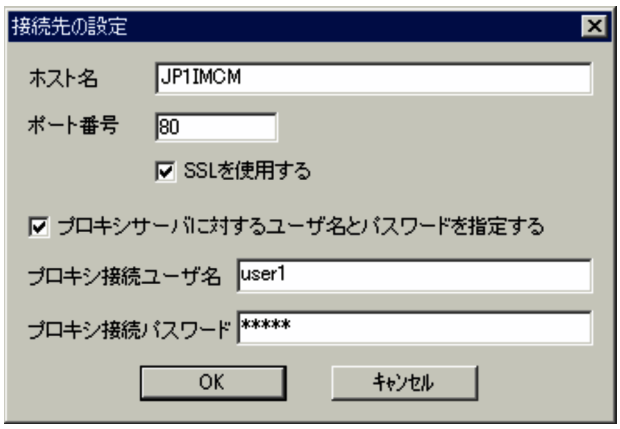
ます。

1. **Administrators 権限を持つユーザで jamISetup（JP1/IM - CM 接続情報の設定）コマンドを実行する。**
   コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。
   Asset Information Manager のインストールフォルダ￥Component¥imcm¥bin
   ［接続先の設定］ダイアログが表示されます。必要に応じて，次の項目を変更してください。
   - 「ホスト名」
     接続する Asset Information Manager のホスト名を指定します。
   - 「ポート番号」
     接続する Asset Information Manager のポート番号を指定します。デフォルトは「80」です。
   - 「SSL を使用する」
     Asset Information Manager との接続で SSL を使用する場合はチェックしてください。デフォルトはチェックされていません。
   - 「プロキシサーバに対するユーザ名とパスワードを指定する」
     Asset Information Manager にログインするユーザを指定する場合は，チェックボックスにチェックしてください。チェックしたら，ログインするユーザの「プロキシ接続ユーザ ID」および「プロキシ接続パスワード」を指定してください。

   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックします。
2. **［OK］ボタンをクリックする。**
   変更した内容が有効になって，［接続先の設定］ダイアログが閉じます。

各項目を指定した［接続先の設定］ダイアログを次の図に示します。

図 6-11 ［接続先の設定］ダイアログ



6.6 JP1/IM - Service Support と連携するための設定

JP1/IM - Service Support から，Asset Information Manager で管理する機器の情報を参照するときは，Asset Information Manager にログインします。

Asset Information Manager の業務メニュー「ユーザ組織管理」で，連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておくと，ログイン時のユーザ ID およびパスワードの指定を省略して，自動的にログインできます。

JP1/IM - Service Support との連携用には，ユーザ ID「JP1_IM_SS」，ユーザ名「サービスサポート管理者」が用意されています。

各製品と連携するために用意されているユーザおよびパスワードの設定方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.1　ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

自動ログインの設定を取り消すには

いったんパスワードを設定したあとに，自動ログインの設定を取り消すには，設定したユーザを削除するか，または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで，パスワードを空白に更新してください。

jamimport コマンドでのインポートの詳細については，「7.1.1(3)　jamimport コマンドでのインポートの流れ」を参照してください。

6.6.1 JP1/IM - Service Support からの資産情報の表示

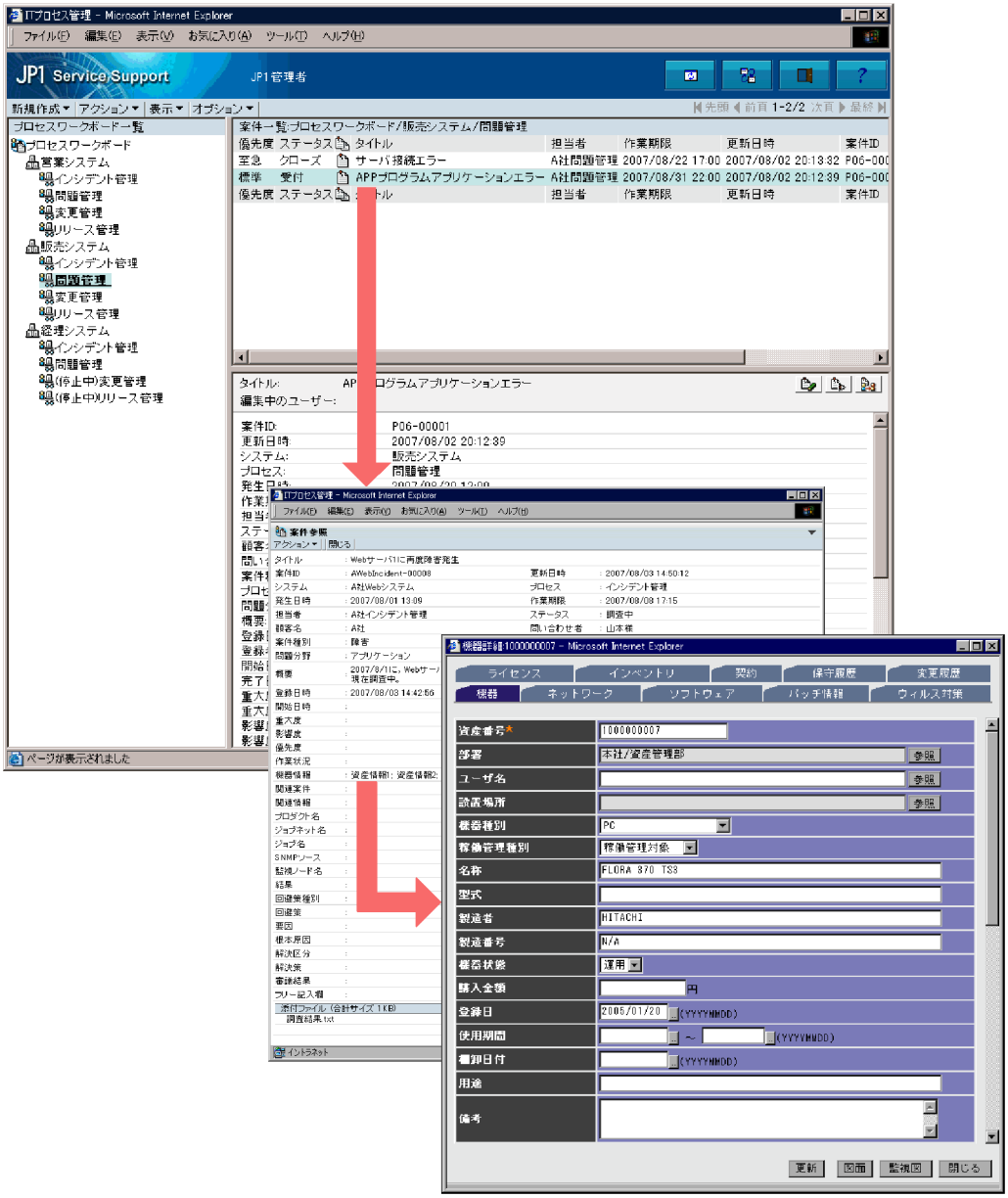
JP1/IM - Service Support で案件の情報を参照するときに，Asset Information Manager の管理する機器の情報を参照できます。

［案件参照］画面から［機器詳細］ダイアログを表示して，機器の情報を参照する手順を次に示します。

1. **［メイン］画面（案件一覧）から，詳細情報を表示したい案件をダブルクリックする。**
   ［案件参照］画面が表示されます。なお，案件プレビューの［案件参照］画面を呼び出すアイコンからも，［案件参照］画面を表示できます。
2. **「機器情報」に登録した情報のアンカーをクリックする。**
   Asset Information Manager の［機器詳細］ダイアログが表示されます。機器の種類，利用者，部署，保守履歴などを参照できます。

［案件参照］画面から，［機器詳細］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-12 ［案件参照］画面から［機器詳細］ダイアログを表示する流れ



6.7 NetInsight II と連携するための設定

NetInsight II と連携して，フロアレイアウト図を表示するための設定手順について次に示します。必要なプログラムについては，「4.2.7 NetInsight II と連携したシステム構成」を参照してください。

1. **ボタンの表示と連携キーの設定**
   ［サーバセットアップ］ダイアログで，図面ボタンを表示するかどうか，およびNetInsight II 連携のキー（デフォルトでは資産番号）を設定します。
   ［サーバセットアップ］ダイアログの設定方法については，「5.3.10 NetInsight II 連携の設定」を参照してください。

6.7.1 フロアレイアウト図の表示

Asset Information Manager から，NetInsight II を起動して対象機器のフロアレイアウト図を表示する手順について次に示します。

フロアレイアウト図を表示できる画面は，「機器管理」以下の業務メニュー「保有機器一覧」を選択すると表示される保有機器一覧画面と，［機器詳細］ダイアログです。

保有機器一覧画面から表示する場合を例に，フロアレイアウト図の表示方法を次に説明します。

1. **業務メニュー「機器管理」の「保有機器一覧」を選択する。**
   保有機器一覧画面が表示されます。
2. **検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   保有機器一覧が表示されます。
3. **フロアレイアウト図を表示したい機器を選択する。**
4. **［図面］ボタンをクリックする。**
   NetInsight II が起動され，フロアレイアウト図が表示されます。

6.7.2 NetInsight II で資産情報を参照するための設定

NetInsight II と連携して，NetInsight II のフロアレイアウト図から機器の詳細情報を参照するために必要な作業の流れを次に示します。

1. **NetInsight II のシンボルと引き当てる項目の設定**
   NetInsight II から機器の詳細情報を参照するために必要な設定です。
   Asset Information Manager のどの項目で，NetInsight II のシンボルと引き当てるかを設定します。
   NetInsight II のフロアレイアウト図を表示した画面で，メニューから「ツール」－「JP1/NETM/AIM 連携」－「位置表示の設定」を選択すると表示される［JP1/

NETM/AIM 連携　位置表示の設定］ダイアログで，引き当てる項目を設定します。

2. **自動ログインの設定**

Asset Information Manager の業務メニュー「ユーザ組織管理」で，連携用に用意されているユーザのパスワードをあらかじめ設定しておくと，フロアレイアウト図から，Asset Information Manager で管理する機器の詳細情報を参照する際に，ユーザ ID およびパスワードの指定を省略して自動的にログインできます。

NetInsight II との連携用には，ユーザ ID「JP1_NI2」，ユーザ名「設備管理者」が用意されています。

パスワードの設定方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.1　ユーザと組織の情報を変更する（ユーザ組織管理）」を参照してください。

自動ログインの設定を取り消すには

いったんパスワードを設定したあとに，自動ログインの設定を取り消すには，設定したユーザを削除するか，または jamimport（インポート）コマンドでのインポートで，パスワードを空白に更新してください。

jamimport コマンドでのインポートの詳細については，「7.1.1(3)　jamimport コマンドでのインポートの流れ」を参照してください。

6.7.3　NetInsight II からの資産情報の表示

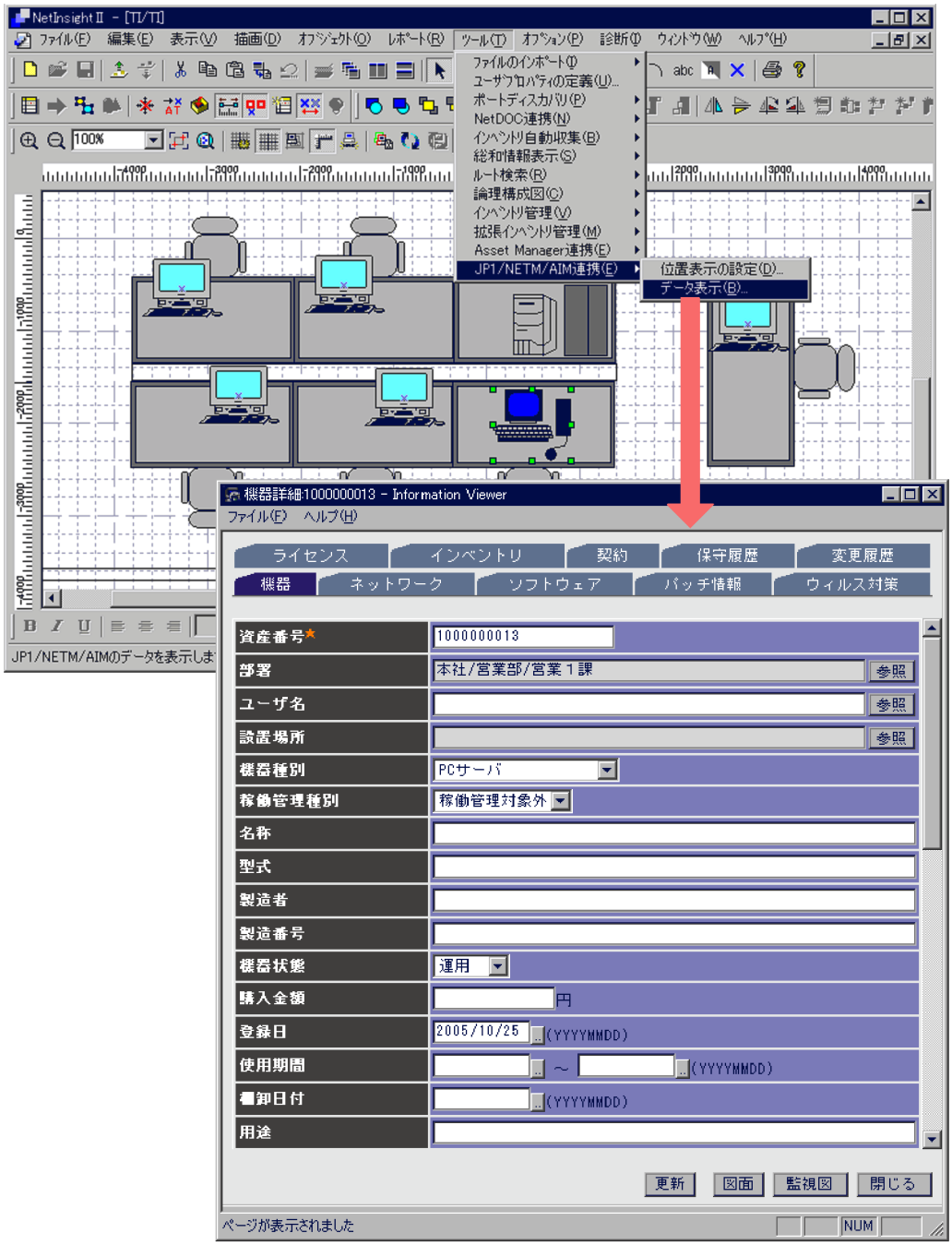
NetInsight II のフロアレイアウト図から機器の詳細情報を表示する手順を次に示します。

1. **フロアレイアウト図で，任意のシンボルを選択する。**
2. **「ツール」－「JP1/NETM/AIM 連携」－「データ表示」を選択する。**

［Information Viewer］ダイアログが表示されます。

フロアレイアウト図から［Information Viewer］ダイアログを表示する流れを次の図に示します。

図 6-13　フロアレイアウト図から［Information Viewer］ダイアログを表示する流れ



6.8　EUR と連携するための設定

EUR と連携して，PDF ファイルに帳票を出力し，WWW ブラウザで表示・印刷するための設定手順について次に示します。必要なプログラムについては，「4.2.8　EUR と連携したシステム構成」を参照してください。

1. **ボタンの表示の設定**
   ［サーバセットアップ］ダイアログの「基本情報」の「PDF ボタンの表示」項目で，「表示する」を選択します。
   ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，「5.3.4　基本情報の設定」を参照してください。

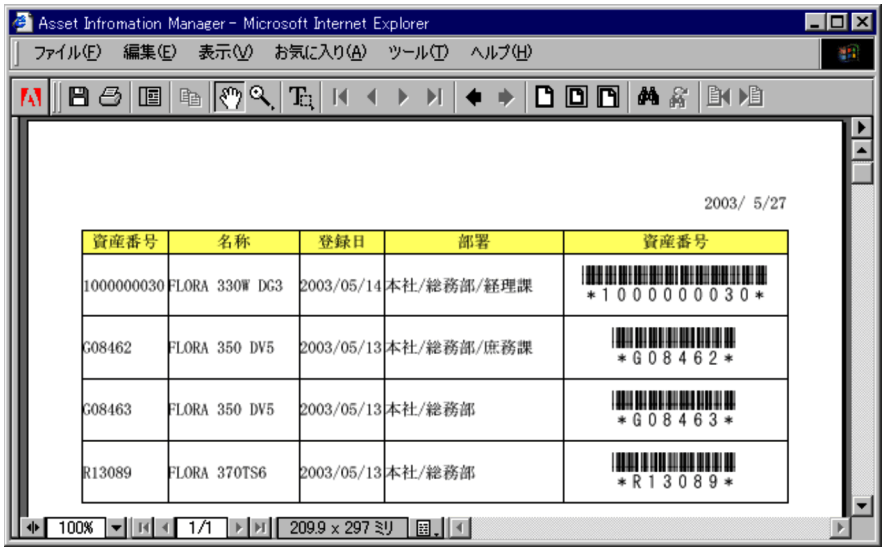
6.8.1　PDF ファイルの表示および印刷

Asset Information Manager から，PDF ファイルを表示および印刷する手順について次に示します。

1. **操作画面の［PDF］ボタンをクリックする。**
   Adobe Reader を使用して，PDF ファイルが表示されます。
2. **PDF ファイルを印刷する場合は，Adobe Reader の印刷機能を使用して実行する。**
   表示した PDF ファイルが印刷されます。

PDF ファイルを表示した画面を次の図に示します。

図 6-14　PDF ファイルを表示した画面



(1) 管理項目編集および業務フィルターで設定を変更した場合の注意事項

帳票に出力される項目に対して，管理項目編集で表示名を変更したり，業務フィルターで表示・非表示を変更したりすると，帳票上の対応する項目がヘッダ行だけとなり，データ行が空欄のまま出力されます。また，変更した表示名や表示順序は反映されません。

管理項目編集および業務フィルターでの変更内容を帳票に反映させるためには，EUR での帳票フォームの編集と CSV ファイルの編集が必要です。

帳票フォームと CSV ファイルの編集手順を次に示します。

1. **帳票フォームに対応する CSV ファイルを EUR のフォルダにコピーする。**
   EUR での帳票フォーム編集時には，マッピングデータまたはユーザ定義データとしての CSV ファイルが必要です。
   帳票フォームを編集する前に，各帳票フォームに対応する CSV ファイルを，所定のフォルダにコピーします。CSV ファイルの格納先を次に示します。
   コピー元
   Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥eur
   コピー先
   EUR のインストールフォルダ ¥SAMPLE¥Reports
2. **管理項目編集および業務フィルターでの変更に合わせて CSV ファイルを変更する。**
   手順 1. で格納した CSV ファイルを，管理項目編集および業務フィルターでの設定に合わせて変更します。
   管理項目編集で表示名を変更した場合，ヘッダ行を変更した表示名に合わせて変更します。
   業務フィルターで表示・非表示を変更した場合，CSV ファイルの対応するカラムを追加・削除します。
3. **管理項目編集および業務フィルターでの変更に合わせて，帳票フォームを変更する。**
   該当する帳票フォームの表示名を，管理項目編集での設定に合わせて変更します。このとき，該当する項目が，業務フィルターで表示する設定になっている必要があります。
   また，業務フィルターでの設定に合わせて，帳票フォームの項目を追加・削除します。
   帳票フォームの格納先を次に示します。

   Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥eur

各画面で使用している帳票フォームのファイル名と，対応する CSV ファイルのファイル名を次の表に示します。

表 6-1 帳票フォーム・CSV ファイルのファイル名

画面	帳票フォームファイル名	CSV ファイル名
保有機器一覧	PossessionApparatusList.fms	PossessionApparatusList.csv
契約一覧	ContractInformationList.fms	ContractInformationList.csv
問題点詳細	MaintenancePDFList.fms	MaintenancePDFList.csv
保有ライセンス利用機器一覧	MachineDetailPossLic.fms	MachineDetailPossLic.csv MachineDetailPossLic2.csv
超過ライセンス利用機器一覧	MachineDetailExcessLic.fms	MachineDetailExcessLic.csv MachineDetailExcessLic2.csv
不正利用ライセンス利用機器一覧	MachineDetailUnPossLic.fms	MachineDetailUnPossLic.csv MachineDetailUnPossLic2.csv
未登録ソフトウェア利用機器一覧	MachineDetailUnRegSoft.fms	MachineDetailUnRegSoft.csv MachineDetailUnRegSoft2.csv
保有ソフトウェア一覧	KeepSoftwareList.fms	KeepSoftwareList.csv
ソフトウェア資産詳細	SoftwareDetail.fms	SoftwareDetail.csv SoftwareKeyInfo.csv
ボリューム契約一覧	VolumeContractInformationList.fms	VolumeContractInformationList.csv
ボリューム契約詳細	VolumeContractInformation.fms	VolumeContractInformation.csv VolumeContractInformation2.csv
保守履歴情報詳細	MaintenancePDFList.fms	MaintenancePDFList.csv

6.9 JP1/Lan Licenser と連携するための設定

JP1/Lan Licenser と連携して，資産管理データベースにソフトウェア稼働情報を登録し，ソフトウェアの稼働状況を確認するために必要な作業の流れを次に示します。必要なプログラムについては，「4.2.9 JP1/Lan Licenser と連携したシステム構成」を参照してください。

1. **JP1/Lan Licenser との連携に必要な項目の設定**
   JP1/Lan Licenser と連携するためには，JP1/Lan Licenser のデータベースとの接続の設定が必要です。
   JP1/Lan Licenser のデータベースとの接続は，セットアップ時に設定します。Asset Information Manager での設定方法については，「5.3 資産管理サーバの設定」を，データベースに接続するためのデータソースの作成方法については，「5.5 データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。
2. **タスクの設定**
   資産管理サーバで，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスク「ソフトウェア稼働情報の取込み」を有効にします。デフォルトでは，無効になっています。
   タスクを有効にすると，毎週木曜日の午前 5 時 30 分に処理が実行されます。タスクを有効にする手順については，「5.9.2(1) タスクを有効にする」を参照してください。
3. **業務メニューの表示の設定**
   デフォルトでは，業務メニュー「稼働状況」は非表示の設定になっています。業務メニュー「利用可能業務割り当て」で表示するように設定してください。

6.9.1 ソフトウェア稼働情報を登録する際の注意事項

ソフトウェア稼働情報を登録する際の注意事項を次に示します。

- JP1/Lan Licenser で取得したソフトウェア稼働情報は，「コンピュータ名」をキーとしているため，Asset Information Manager でもネットワーク情報で「コンピュータ名」を管理している必要があります。
- JP1/Lan Licenser で取得したソフトウェア稼働情報は，JP1/Lan Licenser から取得した「稼働ソフトウェア名」で管理されます。そのため，JP1/Lan Licenser で取得する「稼働ソフトウェア名」と JP1/NETM/DM で取得する「ソフトウェア名」を同じ名称にしておくと，管理しやすくなります。
- ソフトウェア稼働情報は，稼働管理対象となっている機器単位で取得されます。
- ソフトウェア稼働情報は，過去に登録された 18 か月分の情報を管理できます。ただし，タスク「ソフトウェア稼働情報の取込み」の一度の処理で取得されるのは，処理を実行した当月と前月の利用時間です。

例えば，2003/07/10 にタスクを実行した場合，2003/06/01 ～ 2003/07/10 の情報が登録されます。

7 CSV データの登録と出力

この章では，CSV データを資産管理データベースに登録する方法，および資産管理データベースの資産情報を出力する方法について説明します。また，操作ログを出力する方法についても説明します。

7.1 CSV データの登録（インポート）

7.2 CSV データの出力（エクスポート）

7.3 操作ログの CSV データの出力

7.1　CSV データの登録（インポート）

この節では，インポート（CSV ファイルの資産情報を一括して取り込む方法）について説明します。

インポートには，次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「インポート」からのインポート
- jamCsvImport.bat でのインポート
- jamimport コマンドでのインポート

JP1/NETM/DM と連携しない場合や，JP1/NETM/DM で収集していない情報を登録する場合などに，大量の情報を一括して資産管理データベースに登録できます。また，資産管理データベースの登録内容を一括して更新および削除する場合にも利用できます。

7.1.1　インポートの流れ

(1) 業務メニュー「インポート」からのインポートの流れ

業務メニュー「インポート」からインポートするときの作業の流れを次に示します。

1. **インポートする CSV ファイルを作成する。**
   資産管理データベースにインポートする情報を記述した CSV ファイルを作成します。CSV ファイルの 1 行目は，各項目のタイトル行とします。なお，エクスポートした CSV ファイルを使用して作成する場合は，必ず同一バージョンの Asset Information Manager でエクスポートしたデータを使用してください。
   インポートの対象となる項目については，「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。
2. **業務メニュー「インポート」を選択する。**
   インポート画面が表示されます。
3. **インポートの条件を作成する。**
   インポートする情報の種類（例えば「機器に関する情報」など）を選択したあと，Asset Information Manager の管理項目に対して，CSV ファイルの各項目を引き当てたり，固定値を設定したりして，条件を作成します。
4. **インポートの条件を登録する。**
   任意の名前を付けて，条件を登録します。
5. **登録した条件を指定して，インポートを実行する。**
   条件の作成方法に誤りがあった場合は，警告のメッセージが表示されます。必要に応じて条件を見直して，修正してください。

業務メニュー「インポート」からインポートする際の各作業方法は，マニュアル「運用ガイド」の「4.10　資産情報を一括で更新する（インポート）」を参照してください。

（2）jamCsvImport.bat でのインポートの流れ

jamCsvImport.bat を実行してインポートするときの作業の流れを次に示します。

1. **インポートする CSV ファイルを作成する。**
   資産管理データベースにインポートする情報を記述した CSV ファイルを作成します。CSV ファイルの 1 行目は，各項目のタイトル行とします。インポートの対象となる項目は，業務メニュー「インポート」からのインポートと同じです。インポートの対象となる項目については「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。
2. **資産管理サーバ上のコマンドラインから，jamCsvImport.bat を実行する。**
   指定した条件に従って，インポートが実行されます。エラーとなった場合は，エラーメッセージが表示されます。
   jamCsvImport.bat の実行方法については，「7.1.3　jamCsvImport.bat の実行」を参照してください。

注意事項

- カスタマイズの資産種別を指定してインポートする場合は，必ず同一バージョンの Asset Information Manager でエクスポートしたデータを使用してください。
- Asset Information Manager のバージョンアップに伴って，資産管理データベースで管理する項目が増えた場合に，インポートおよびエクスポートの対象となる項目が増えることがあります。それによって，バージョンアップ前にエクスポートしたデータを，指定した条件でインポートできない場合があります。
  バージョンアップ前にエクスポートしたデータをインポートするときは，CSV ファイルに，バージョンアップ後に追加されたプロパティ項目を記述してください。

（3）jamimport コマンドでのインポートの流れ

jamimport（インポート）コマンドを実行する前に，Asset Information Manager のサービスを停止することをお勧めします。停止する際は，次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

jamimport コマンドを実行してインポートするときの作業の流れを次に示します。

1. **インポートする情報と対応するクラスを確認する。**
   資産管理データベースにインポートする情報が，どのクラスに該当するかを確認します。また，インポートするクラスに応じて，同時にインポートが必要なクラスがある

かどうかも確認します。
インポートする情報に該当するクラスと，クラスの関連については「7.1.4 jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応」を参照してください。

2. **インポートする CSV ファイルを作成する。**
資産管理データベースにインポートする情報をフォーマットに従って記述したファイル（**データファイル**）を CSV ファイルで作成します。データファイルはインポートするクラスにつき一つ作成します。
データファイルを作成する際は，新規に情報を登録する場合も含めて，該当するクラスをエクスポートした CSV ファイルを利用すると便利です。
エクスポートの手順については「7.2　CSV データの出力（エクスポート）」を，データファイルの作成方法については「7.1.6　データファイルの作成」を参照してください。

3. **データファイル名定義ファイルを作成する。**
複数のデータファイルを一括してインポートする場合，インポートするデータファイル名を定義したファイル（**データファイル名定義ファイル**）を作成します。インポートするデータファイルが一つだけの場合は不要です。
データファイル名定義ファイルの作成方法については「7.1.7　データファイル名定義ファイルの作成」を参照してください。

4. **jamimport コマンドを実行する。**
資産管理サーバ上のコマンドラインから，jamimport コマンドを実行します。
jamimport コマンドについては，「7.1.8　jamimport（インポート）コマンドの実行」を参照してください。
jamimport コマンドを実行すると，CSV ファイルに記述した資産情報が資産管理データベースに登録されます。複数のデータファイルがある場合は，データファイル名定義ファイルに記述した順序で取り込まれます。
なお，アソシエーションクラスをインポートする場合は，関連づけるオブジェクトクラスを先にインポートしておく必要があります。

データに誤りがあった場合

データファイルが取り込まれると，項目タイトル行がチェックされます。項目タイトル行が資産管理データベースのテーブルと不整合であるなどの誤りがあった場合は，その時点でインポート処理は終了されます。
項目タイトル行に誤りがなければ，データ行に記述したオペレーションコードの内容に従って，データ行が 1 行ずつインポートされます。データに誤りがあった場合は，インポート処理は継続しますが，誤りのあった行はインポートされません。

7.1.2　インポート時の注意事項

CSV ファイルを作成するとき，またはインポートの条件を指定するときの注意事項について説明します。

(1) 編集不可のプロパティ

管理項目「更新識別」(プロパティ「UpdateInd」)は，資産管理システムで使用する情報のため，編集しないでください。JP1/NETM/DM から取り込んだ情報を jamimport コマンドによるインポートで更新する場合，「更新識別」に指定する値を誤ると，次回 JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取り込んだときに削除されることがあります。

このような状況を避けるために，インポートを実行したあとに JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取り込む際は，更新日付に関係なくすべての情報を取り込むことをお勧めします。

JP1/NETM/DM のインベントリ情報からインストールソフトウェア情報(InstalledInfo)を取得する際，「更新識別」によって更新の有無を判断する日付が異なります。この値は，登録後に操作画面から変更できないため，注意が必要です。インポートする際は「更新識別」には何も指定しないようにしてください。

インストールソフトウェア情報の「更新識別」は，次に示す値になっています。

コード	意味
1	JP1/NETM/DM のシステム情報
2	JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報
3	JP1/NETM/DM のソフトウェアインベントリ情報
(なし)	Asset Information Manager の操作画面で入力した情報

(2) ID を伴うクラスのインポート

エクスポートしたデータ以外をインポートする場合，「資産 ID」，「契約 ID」などの ID を伴うクラスをインポートする際には，ID を 10001 ～ 1000000000 の範囲で指定します。ID はユニークとなるように指定してください。また，この範囲外の ID を指定すると，Asset Information Manager によって自動的に採番される ID と重複してエラーとなるので注意してください。

10001 ～ 1000000000 の範囲内で ID を指定するプロパティを次に示します。

- AddressGroup(IP グループ情報)クラスの IPGroupID(IP グループ ID)
- AssetInfo(資産情報)クラスの AssetID(資産 ID)
- AssetInfo(資産情報)クラスの AssetBranchNo(資産番号枝番)
- Contract(契約情報)クラスの ContractID(契約 ID)
- InstalledList(インストールソフトウェアリスト)クラスの InstalledID(インストール ID)
- LicenseInfo(ライセンス情報)クラスの LicenseID(ライセンス ID)
- MachineCatalog(機器カタログ)クラスの CatalogID(カタログ ID)
- Maintenance(保守履歴)クラスの MaintenanceID(保守履歴 ID)

- NetworkInfo（ネットワーク情報）クラスの NetworkID（ネットワーク情報 ID）
- PatchConditionInfo（パッチ対象機器情報）クラスの PatchConditionID（パッチ ID）
- SoftwareKeyInfo（ソフトウェアキー情報）クラスの KeyID（キー ID）
- SoftwareList（ソフトウェアリスト）クラスの SoftwareListID（ソフトウェアリスト ID）
- VolumeContract（ボリューム契約情報）クラスの VolumeID（ボリューム契約 ID）

(3) 半角英数字だけが使用できるプロパティのインポート

次のプロパティは，必ず半角英数字で値を指定してインポートしてください。

- GroupInfo（部署情報）クラスの GroupID（部署 ID）
- GroupInfo（部署情報）クラスの UpperLinkID（上位部署 ID）
- LocationInfo（設置場所情報）クラスの LocationID（設置場所 ID）
- LocationInfo（設置場所情報）クラスの UpperLinkID（上位設置場所 ID）
- RoleInfo（権限管理情報）クラスの RoleID（権限 ID）
- JobRoleInfo（職権管理情報）クラスの JobRoleID（職権 ID）
- UserInfo（ユーザ管理情報）クラスの UserID（ユーザ ID）

(4) ユーザ拡張用の管理項目（プロパティ）の指定

管理項目には，必要に応じて追加するための項目が用意されているものがあります。「固有情報」または「UserProperty」が名称に含まれる項目（プロパティ）がそれに当たります。

このユーザ拡張用の項目には，管理項目編集画面で管理項目を追加してから，管理対象となる値を指定してください。

管理項目の追加方法については，「9.2　管理項目の変更（管理項目編集）」を参照してください。

(5) 同一のキーとなるプロパティで関連づいているオブジェクトクラスのインポート

jamimport コマンドでのインポートの場合，同一のキーとなるプロパティで関連づいているオブジェクトクラスをインポートする際は，必ずキーとなるプロパティの値を同じにしてください。

また，ハードウェア資産情報のように，必ず資産情報とセットで管理されるオブジェクトクラスは，ハードウェア資産情報と資産情報をペアでインポートしてください。

(6) インポート時の更新制御

クラスのプロパティには，同一の情報に対して複数の更新が行われようとした場合に，更新の可否を決定する情報（更新制御情報）が用意されています。

エクスポートしたデータを利用してインポートする際，エクスポート後に同一の情報が更新されていた場合，この「更新制御情報」の値が変わっているため，エクスポート時の値を指定した状態ではインポートされません。

エクスポート後に変更があったかどうかにかかわらず，インポートするデータを上書きする場合は，「更新制御情報（UpdateTime）」の列を削除してインポートしてください。

（7） CreationClassName の指定

jamimport コマンドでのインポートの場合，各オブジェクトクラスのプロパティ「CreationClassName」には，必ずオブジェクトクラス名を指定します。

（8） Microsoft Excel での CSV ファイルの編集方法

Asset Information Manager に登録する CSV ファイルを編集する場合，Microsoft Excel を使用して直接ファイルを開くと，コード，ID など先頭に 0 が付く数値は，先頭の 0 が自動的に削除されてしまうため，元の情報とは異なる値で更新されてしまうことがあります。そのため，Microsoft Excel を使用するときは，「テキストファイルのインポート」機能を使用して，列のデータ形式を「文字列」に設定したあと，ファイルを読み込んで編集してください。

7.1.3 jamCsvImport.bat の実行

業務メニュー「インポート」と同等のインポートをコマンドラインから実行する jamCsvImport.bat の機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお，jamCsvImport.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ￥exe

（1） 機能

CSV ファイルのデータを資産管理データベースに登録，更新および削除します。CSV ファイルの情報は，条件に従って一括して資産管理データベースに登録されます。条件の作成方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.10.2　インポートの条件を作成する」を参照してください。

また，資産種別を指定すると，デフォルトの設定で一括して資産管理データベースに登録されます。デフォルトの設定でインポートされる項目については，「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。

（2） 形式

```
jamCsvImport.bat "CSVファイルのパス"  " { -c 条件名 [-o 処理方式] | -a 資産種別 -o 処理方式 } "
```

(3) オプション

CSV ファイルのパス

インポートする CSV ファイルをフルパスで指定します。このオプションは，必ず指定してください。

-c 条件名

インポート画面で保存した，インポートの条件名を指定します。

-o 処理方式

インポートの処理方式を次の表に示すコードで指定します。このオプションは，条件名を指定した場合は省略できます。資産種別を指定した場合は，必ず指定してください。

処理方式	内容
001	追加
002	更新
003	追加更新
004	削除

-a 資産種別

インポートする資産情報の種類を，次の表に示すコードで指定します。このオプションを指定した場合，デフォルトの設定でインポートされます。

表 7-1 資産種別のコード

コード	内容
001	機器に関する情報
002	インストールソフトウェア情報
003	インストールソフトウェアリスト
004	ソフトウェア情報
005	ソフトウェアリスト
006	組織管理情報
007	ユーザ管理情報
008	設置場所情報
009	保守契約情報
010	レンタル契約情報
011	リース契約情報
012	ボリューム契約
013	IP グループ情報
014	機器カタログ

コード	内容
015	カスタマイズ（ユーザレポート）
016	カスタマイズ（書式）
017	カスタマイズ（インベントリ定義）
018	カスタマイズ（インポート / エクスポート定義）
019	問題点管理
020	ライセンス割り当て
021	パッチ情報
022	ウィルス定義情報
023	カスタマイズ（案件定義）
024	カスタマイズ（契約履歴）

（4）戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	該当するデータがありませんでした。
2 以上	処理中にエラーが発生しました。

（5）コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamCsvImport.bat を実行してください。

（6）実行例

```
jamCsvImport.bat "c:¥temp¥Hardware.csv" -a 001 -o 001
```

コマンドを実行する際にファイルパスを省略すると，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥scriptwork がカレントディレクトリになります。

7.1.4 jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応

jamimport コマンドでインポートする CSV ファイルは，クラス単位に作成します。そのため，CSV ファイルを作成する前にクラス間の関連を調べて，目的の情報を登録するには，どのクラスをインポートするかを確認してください。

ハードウェア資産情報のように，複数のクラスをインポートしなければ，登録内容を資産管理業務に利用できない場合があります。

資産管理データベースで管理されているクラスの関連については，「13.1.3　クラス関連図」を参照してください。

アソシエーションクラスのインポートが必要な場合

異なるキープロパティで関連づけられているオブジェクトクラスをインポートする場合は，オブジェクトクラス同士を関連づけるアソシエーションクラスもインポートする必要があります。

Weak アソシエーションの関係にある場合

インポートするオブジェクトクラスが，「AssetInfo」に対して Weak アソシエーションの関係にある場合，「AssetInfo」の情報が先に登録されている必要があります。また，「AssetInfo」を削除すると，Weak アソシエーションの関係にあるオブジェクトクラスも削除されます。

なお，オブジェクトクラス「SoftwareInfo」，「InstalledInfo」，「SoftwareList」，「Contract」，「ContractHistory」に対して Weak アソシエーションの関係にある場合も同様です。

これ以降で，jamimport コマンドでインポートするときに複数のクラスをインポートする必要がある情報と，CSV ファイル作成時の注意事項について説明します。

（1） 機器および機器に関する情報のインポート

機器の情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-2　機器の情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AssetInfo	GroupInfo ※	部署に関する情報を指定する場合は，オブジェクトクラス「GroupInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
	LocationInfo ※	設置場所に関する情報を指定する場合は，オブジェクトクラス「LocationInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
	UserInfo ※	ユーザに関する情報を指定する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
HardwareInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

注※

部署，設置場所およびユーザ名は，「GroupID」，「LocationID」，「UserID」を正しく指定すれば，データメンテナンスのタスクによって，対応する名称が設定されます。

ただし，「GroupID」および「LocationID」に指定した ID がそれぞれの対応するクラスにない

と，名称が操作画面に表示されません。

注意事項

- 機器の情報を削除するときは，「AssetInfo」のプロパティ「AssetStatus」の値を「999（抹消）」に変更して，データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。インポートで削除する場合は，必ず「AssetInfo」を削除して，「HardwareInfo」だけを削除しないようにしてください。
- 「HardwareInfo」の「IPAddress」は，IP アドレス管理情報を利用した IP アドレス管理の対象外です。

(a) 機器のインストールソフトウェア情報のインポート

機器にインストールされているソフトウェアの情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

なお，インストールソフトウェア情報は，機器種別がシステム装置（コード：100 ～ 198）の機器に登録できます。

表 7-3 インストールソフトウェア情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
InstalledInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	InstalledList	「InstalledID」には，対応するオブジェクトクラス「InstalledList」と同じ ID を指定します。
	ComponentInfo	「InstalledID」には，対応するオブジェクトクラス「InstalledList」と同じ ID を指定します。

(b) 機器のネットワーク情報のインポート

機器のネットワーク情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

なお，ネットワーク情報は，機器種別がシステム装置（コード：100 ～ 198）またはネットワーク装置（コード：300 ～ 398）の機器に登録できます。

表 7-4 ネットワーク情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
NetworkInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	IPAddress	「IPAddress」を指定する場合は，指定する IP アドレスが，オブジェクトクラス「IPAddress」に登録されている必要があります。 ただし，DHCP サーバを使用する場合は，「IPAddress」をインポートしないでください。

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
	IPAddressLink	「DHCP サーバ名」を設定しない場合は，該当する IP アドレスのオブジェクトクラス「IPAddress」との関連づけを登録する必要があります。

注意事項

- 「NetworkInfo」のプロパティ「IPAddress」の値を更新または削除する場合は，「IPAddressLink」も併せて更新または削除してください。「IPAddress」の値だけを更新または削除して「IPAddressLink」を削除しないと，削除した IP アドレスが使用中のままと認識されます。
- IP アドレスを使用していた機器が削除された場合は，「IPAddressLink」だけを削除します。
  オブジェクトクラス「AddressGroup」に定義されている範囲外の IP アドレスは，機器で使用されていないかぎり，データメンテナンスのタスクによって削除されます。

(2) ソフトウェアおよびライセンスに関する情報のインポート

ソフトウェアの情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-5 ソフトウェアの情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AssetInfo	GroupInfo ※	部署に関する情報を指定する場合は，オブジェクトクラス「GroupInfo」の対応するプロパティと同じ値を指定します。
SoftwareInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	SoftwareList	「SoftwareListID」には，オブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ ID を指定します。

注※

部署およびユーザ名は，「GroupID」を正しく指定すれば，データメンテナンスのタスクによって，対応する名称が設定されます。
ただし，「GroupID」に指定した ID がそれぞれの対応するクラスにないと，名称が操作画面に表示されません。

注意事項

- 無制限ライセンスの場合，「NumberOFLicense」には何も指定しないでください。指定すると，指定した数のライセンスを保有するソフトウェアとして登録されます。
- ソフトウェアの情報を削除するときは，「AssetInfo」のプロパティ

「SoftwareStatus」の値を「999（抹消）」に変更して，データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。
インポートで削除する場合は必ず「AssetInfo」を削除し「SoftwareInfo」だけを削除しないようにしてください。

(a) ソフトウェアキー情報のインポート

ソフトウェアキー情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-6 ソフトウェアキー情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
SoftwareKeyInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	SoftwareList	「SoftwareListID」には，オブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ ID を指定します。
	MachinePermitLink	マシン許諾のライセンスの割り当て先を登録する場合は，対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。
	UserPermitLink	ユーザ許諾のライセンスの割り当て先を登録する場合は，対象のオブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

(b) ライセンス情報のインポート

ライセンスの情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-7 ライセンス情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
LicenseInfo	SoftwareList	「SoftwareListID」には，オブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ ID を指定します。

(c) ボリューム契約情報のインポート

ボリューム契約情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-8 ボリューム契約情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
VolumeContract	VolumeContractLink	ボリュームライセンスの対象となる資産を登録する場合は，対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。

(3) 契約情報のインポート

契約情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-9 契約の情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
Contract	ContractLeaseLink	リース契約の対象となる資産を登録する場合は，契約対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。
	ContractMaintenanceLink	保守契約の対象となる資産を登録する場合は，契約対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。
	ContractRentalLink	レンタル契約の対象となる資産を登録する場合は，契約対象のオブジェクトクラス「AssetInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

契約の情報を削除するときは，「Contract」のプロパティ「ContractStatus」の値を「999（抹消）」に変更して，データメンテナンスのタスクで削除することをお勧めします。

(4) IP グループ情報のインポート

IP グループ情報を追加，更新，削除するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-10 IP グループ情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AddressGroup	IPAddress	新しいグループの定義および範囲の変更をする場合，グループとして定義した範囲の IP アドレスを，すべてオブジェクトクラス「IPAddress」に登録する必要があります。

注意事項

インポートでは，IP グループの情報は削除しないでください。インポートで削除すると利用している IP アドレスが正しく管理できなくなります。

(5) 部署情報のインポート

部署情報を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-11 部署情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
GroupInfo	UserInfo	部署に所属するユーザを登録する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」をインポートします。
	MemberLink	各部署に所属するユーザを登録する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

(6) ユーザ管理情報のインポート

ユーザ管理情報を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-12 ユーザ管理情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
UserInfo	GroupInfo	ユーザの所属する部署を追加する場合は，オブジェクトクラス「GroupInfo」をインポートします。
	MemberLink	新規にユーザを登録する場合，またはユーザの所属する部署を変更する場合，オブジェクトクラス「GroupInfo」との関連を登録する必要があります。 部署と関連づいていないと，インポートしたユーザは，操作画面に表示されません。
	RoleInfo	ユーザに権限を設定する場合は，オブジェクトクラス「RoleInfo」をインポートします。 権限の設定されていないユーザは Asset Information Manager にログインできません。
	AuthorityLink	ユーザに権限を設定する場合は，オブジェクトクラス「RoleInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

「UserID」が「admin」のユーザ，およびオブジェクトクラス「AssetInfo」で使用しているユーザは削除しないでください。

(7) 権限管理情報のインポート

権限管理情報を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-13 権限管理情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
RoleInfo	UserInfo	ユーザに権限を設定する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」をインポートします。 権限の設定されていないユーザは Asset Information Manager にログインできません。
	AuthorityLink	ユーザに権限を設定する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

- ユーザに設定した権限を解除するには，アソシエーションクラス「AuthorityLink」を削除してください。
- 「RoleID」が「administrator」の権限は削除しないでください。

(8) パッチ情報のインポート

パッチ情報の検索条件を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-14 パッチ情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
PatchInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
	PatchList	「PatchID」には，対応するパッチリストと同じ ID を指定します。

(9) ウィルス定義情報のインポート

ウィルス定義情報の検索条件を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-15 ウィルス定義情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
InstalledVirusDefInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

(10) ソフトウェアの稼働情報のインポート

ソフトウェア稼働情報を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-16 ソフトウェア稼働情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
SoftwareWorkInfo	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。
FunctionInfo	―	登録するときは，必ず「通算月」および「位置」を指定します。指定方法については，「13.2.29 SoftwareWorkInfo（ソフトウェア稼働情報）」を参照してください。

（凡例）
―：該当しない

(11) 保守履歴のインポート

保守履歴を登録するために，関連してインポートするクラスを次の表に示します。

表 7-17 保守履歴に関連してインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
Maintenance	AssetInfo	保守履歴を資産と関連づけて登録する場合は，「AssetID」に対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。 保守履歴と資産を関連づけない場合は，不要です。

(12) 移管履歴のインポート

移管履歴を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-18 移管履歴を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
AssetUpdateRecord	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

注意事項

部署名，設置場所名およびユーザ名は，オブジェクトクラス「GroupInfo」，「LocationInfo」，「UserInfo」に存在するかどうかに関係なく，指定した値が登録されます。

(13) 契約履歴のインポート

移管履歴を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-19 契約履歴を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
ContractHistory	Contract	「ContractID」には，対応するオブジェクトクラス「Contract」と同じ ID を指定します。

(14) 契約資産履歴のインポート

契約資産履歴を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-20 契約資産履歴を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
ContractAssetHistory	ContractHistory	「ContractID」には，対応するオブジェクトクラス「ContractHistory」と同じ ID を指定します。
	AssetInfo	「AssetID」には，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ ID を指定します。

(15) 職権管理情報のインポート

職権管理情報を登録するために，インポートが必要なクラスを次の表に示します。

表 7-21 職権管理情報を登録するためにインポートするクラス

必ずインポートするクラス	関連するクラス	説明
JobRoleInfo	UserInfo	職権の対象ユーザを登録する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」をインポートします。
	JobRoleLink	職権の対象ユーザを登録する場合は，オブジェクトクラス「UserInfo」との関連を登録する必要があります。

注意事項

職権管理情報を削除する場合は，該当する職権を使用している案件がないことを確認してください。

7.1.5 jamimport コマンドでインポートするファイルの形式

ここでは，データファイルおよびデータファイル名定義ファイルのファイル形式について説明します。

(1) データファイル

jamimport コマンドでインポートするには，資産管理データベースに取り込むための資産情報を記述したデータファイルを準備します。データファイルのファイル形式，使用する文字コードおよび区切り文字と区切り位置を次に示します。

● ファイル形式

データファイルは，CSV 形式で作成します。

● 使用する文字コード

シフト JIS コードで記述します。

● 区切り文字と区切り位置

クラスのデータ 1 件ごとに改行コード（CRLF または LF）で区切ります。また，クラスのプロパティごとに ,（コンマ）で区切ります。なお，データファイルに記述するクラス，プロパティの数に制限はありません。

(2) データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートしたいときには，データファイル名定義ファイルを作成します。データファイル名定義ファイルのファイル形式，使用する文字コードおよび区切り文字と区切り位置を次に示します。

● ファイル形式

データファイル名定義ファイルは，テキスト形式で作成します。

● 使用する文字コード

シフト JIS コードで記述します。

● 区切り文字と区切り位置

- **オブジェクトクラスをインポートする場合**

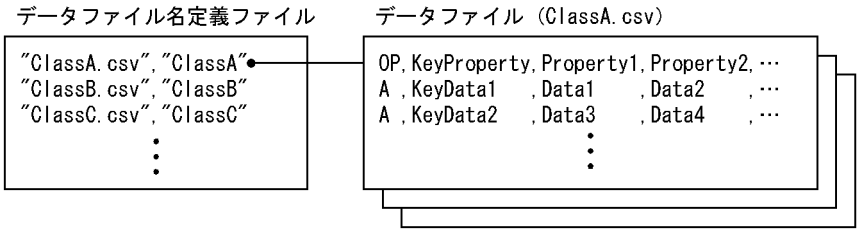
  インポートするデータファイル名と，対応するオブジェクトクラス名を一組として改行コード（CRLF または LF）で区切ります。データファイル名とオブジェクトクラス名は，それぞれを "（ダブルクォーテーション）で囲み，,（コンマ）で区切ります。

- **アソシエーションクラスをインポートする場合**

  インポートするデータファイル名，対応するアソシエーションクラス名，および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を一組として改行コード（CRLF または LF）で区切ります。データファイル名，アソシエーションクラス名，オブジェクトクラス名は，それぞれを "（ダブルクォーテーション）で囲み，,（コンマ）で区切ります。

区切り文字と区切り位置の指定方法を次の図に示します。

図 7-1 区切り文字と区切り位置の指定方法



7.1.6 データファイルの作成

ここでは，jamimport コマンドでインポートする場合に作成する CSV ファイル（データファイル）の記述形式および記述例について説明します。

データファイルを作成する際には，関連情報や ID などの制御情報の，データの整合性に注意してください。

(1) データファイルの作成単位

データファイルは，インポートするクラスにつき一つ作成します。

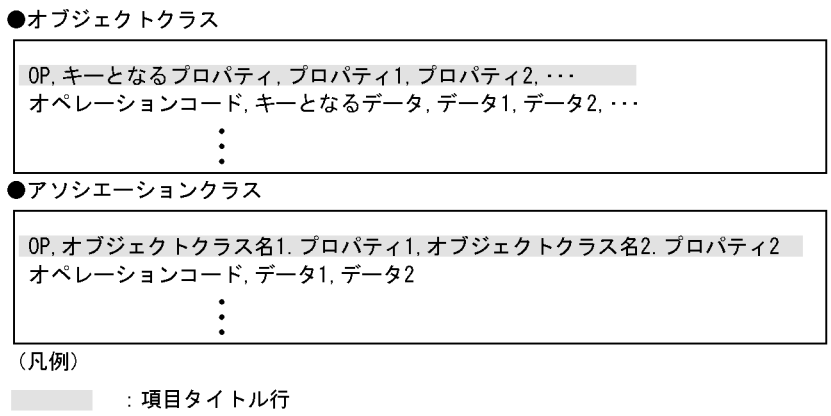
アソシエーションクラスの場合は，異なるキー情報でオブジェクトクラス同士を関連づける場合にだけ，データファイルの作成が必要です。同一のキー情報でオブジェクトクラス同士を関連づける場合は，アソシエーションクラスをインポートする必要はありません。

オブジェクトクラス同士の関連づけの詳細については「8.1.3　アソシエーションの種類」を参照してください。

(2) データファイルの記述形式

データファイルの記述形式を次の図に示します。

図 7-2　データファイルの記述形式



次の項目に記述する内容について説明します。

- 項目タイトル行
- オペレーションコード
- キーとなるデータ
- データ

(a) 項目タイトル行

項目タイトル行の最初は，必ず「OP」（オペレーションコード）を記述します。

そのあとに，各項目のタイトルとして，プロパティ名を記述します。項目タイトル行には，インポートするクラスのキーとなるプロパティを必ず記述してください。

アソシエーションクラスの場合は「クラス名 . プロパティ名」の形式で記述します。オブジェクトクラス名とプロパティ名の間には，必ず .（ピリオド）を記述してください。クラス名およびプロパティ名については，「13. 管理情報の詳細」を参照してください。

インポートするクラスで項目タイトル行に記述しなかったプロパティがある場合，そのプロパティの値には NULL データが設定されます。

(b) オペレーションコード

テーブルに対する変更種別（追加・変更・削除・変更なし）を表す 1 文字を記述します。2 文字以上記述しても，最初の文字だけで判断されます。

オペレーションコードとして使用する文字とその意味を次の表に示します。

表 7-22 オペレーションコードとして使用する文字

オペレーションコード	意味	説明
A	追加	データファイルに記述した行の内容が追加されます。 クラスのプロパティに値を記述していない場合，そのプロパティには NULL データが追加されます。
C	変更	データファイルに記述した行の内容に変更されます。項目タイトル行に記述したすべてのプロパティが変更の対象となります。 クラスのプロパティに値を記述していない場合，そのプロパティには NULL データが追加されます。
D	削除	データファイルに記述したクラスと，そのクラスに関連するプロパティの値が削除されます。
N	変更なし	オペレーションコードが「N」の行は変更なしとして扱い，インポートしません。
R	コメント	コメント行として扱い，インポートしません。

アソシエーションクラスのインポートの場合は，「追加（A)」と「削除（D)」だけが使用できます。変更したいときは，データファイルに削除の行を記述し，そのあとに追加の行を記述してください。

(c) キーとなるデータ

処理対象とするクラスを決定するためのキーとなるデータを記述します。必ず値を記述してください。

オブジェクトクラスの場合は「プロパティ名」，アソシエーションクラスの場合は「オブジェクトクラス名 . プロパティ名」の形式で記述します。

データを変更または削除する行は，キーとなるデータを基に決定されます。したがって，エクスポートしたデータを修正してインポートする場合は，キーとなるデータを変更しないでください。

(d) データ

インポートするクラスのプロパティの値を記述します。

オブジェクトクラスの場合は「プロパティ名」，アソシエーションクラスの場合は「オブジェクトクラス名 . プロパティ名」の形式で記述します。

データには，オブジェクトクラス内のすべてのプロパティを記述する必要はありません。資産データとして必要な項目だけを記述してください。また，各プロパティの値は，記述形式および制限値に従って正しく記述してください。各プロパティの記述形式および制限値については，「13. 管理情報の詳細」を参照してください。

なお，あるプロパティの値以降に値を設定しない場合は，値を設定したプロパティの直後で改行することで，値の設定を省略できます。このとき，改行後のプロパティの値には NULL データがインポートされます。

プロパティの値を記述する際の注意事項

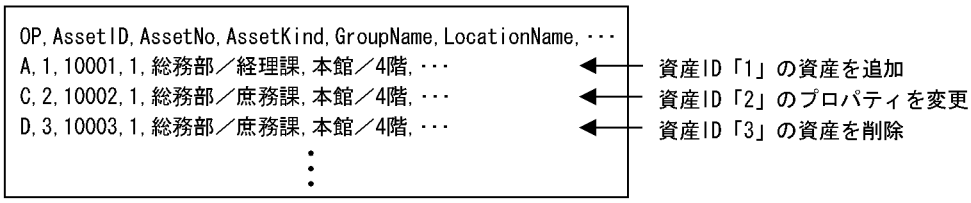
プロパティの値には，資産情報の「資産種別」のように，コードで記述するものがあります。コードで記述する必要があるプロパティとコードの詳細については，「13.2 オブジェクトクラスのプロパティ一覧」を参照してください。

(3) データファイルの記述例（オブジェクトクラス）

オブジェクトクラスをインポートする場合のデータファイルの記述例について説明します。

オブジェクトクラス「AssetInfo（資産情報）」のデータをインポートする記述例を次の図に示します。「AssetInfo」のキーは「AssetID（資産 ID）」です。

図 7-3 データファイルの記述例（オブジェクトクラス）



この記述例では，次のように資産管理データベースが更新されます。

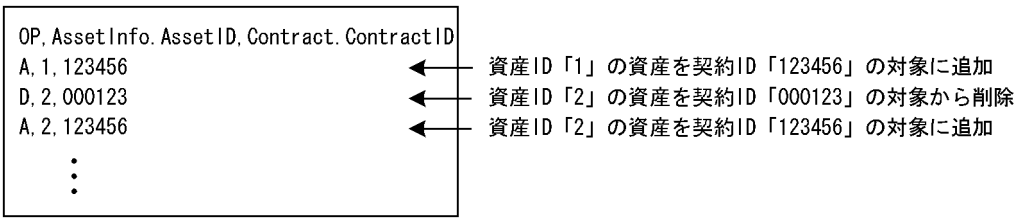
- 資産 ID「1」の機器が，記述した項目タイトル行に記述したプロパティの値で追加されます。
- 資産 ID「2」の機器の情報が，項目タイトル行に記述したプロパティの値ですべて変更されます。
- 資産 ID「3」の機器の情報がすべて削除されます。
  また，資産 ID「3」の機器と Weak アソシエーションの関係にあるハードウェア資産情報，ネットワーク情報などの情報もすべて削除されます。

(4) データファイルの記述例（アソシエーションクラス）

アソシエーションクラスの追加，削除は，データファイルのオペレーションコード「追加（A)」と「削除（D)」を使用して記述してください。「変更（C)」は使用できません。

アソシエーションクラス「ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報)」のデータをインポートする場合の，データファイルの記述例を次の図に示します。「ContractMaintenanceLink」のキーは「AssetID（資産 ID)」と「ContractID（契約 ID)」です。

図 7-4 データファイルの記述例（アソシエーションクラス）



関係を持つオブジェクトクラス「AssetInfo（資産情報)」のキーとなるデータ「AssetID」を記述します。同じ行に，関係を持つもう一方のオブジェクトクラス「Contract（契約情報)」のキーとなるデータ「ContractID」を記述します。

この記述例では，次のように資産情報が更新されます。

- 資産 ID が「1」の資産が契約 ID「123456」の対象に追加されます。
- 資産 ID が「2」の資産が契約 ID「000123」から契約 ID「123456」の対象に変更されます。

7.1.7 データファイル名定義ファイルの作成

ここでは，jamimport コマンドで複数のデータファイルを一度にインポートする場合に作成する，データファイル名定義ファイルの記述形式および記述例について説明します。

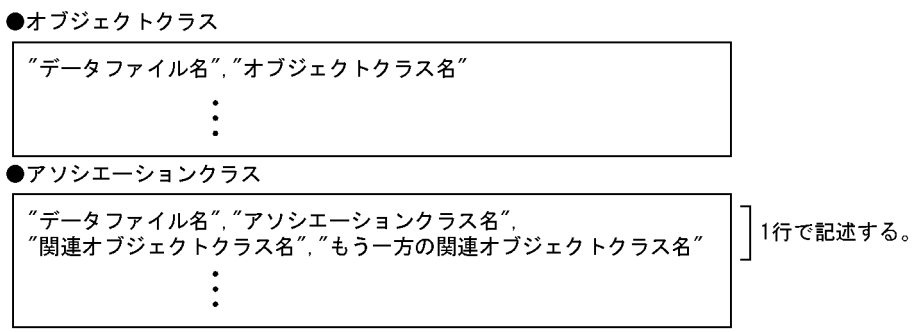
(1) データファイル名定義ファイルの記述形式

データファイル名定義ファイルには，インポートするデータファイル名と，対応するオブジェクトクラス名を記述します。

アソシエーションクラスをインポートする場合は，インポートするデータファイル名，対応するアソシエーションクラス名，および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

データファイル名定義ファイルの記述形式を次の図に示します。

図 7-5　データファイル名定義ファイルの記述形式



データファイル名定義ファイルに記述する各項目について説明します。

データファイル名

インポートするデータファイル名をパスで記述します。フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。なお，相対パスは，データファイル名定義ファイルの存在するパスを基点とします。また，「.¥」や「..¥」などは指定できません。

オブジェクトクラス名およびアソシエーションクラス名

記述したデータファイルに対応するクラス名またはクラス名を記述します。

関連オブジェクトクラス名，もう一方の関連オブジェクトクラス名

アソシエーションクラスをインポートする場合にだけ記述します。

アソシエーションクラスとして関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

なお，関連オブジェクトクラス名，もう一方の関連オブジェクトクラス名は省略することもできます。

クラス名については，「13.1　クラス構成」を参照してください。

(2) データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）

オブジェクトクラスをインポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-6　データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）

```
"C:¥temp¥AssetInfo.csv","AssetInfo"
"C:¥temp¥Hardware.csv","HardwareInfo"
"C:¥temp¥Software.csv","SoftwareInfo"
```

1 行目は，データファイル名が「C:¥temp¥AssetInfo.csv」，オブジェクトクラス名が「AssetInfo（資産情報）」であることを示しています。

jamimport コマンドを実行することで，「C:¥temp¥AssetInfo.csv」の内容を，オブジェクトクラス「AssetInfo」にインポートします。

2 行目以降も，1 行目と同様に処理されます。

(3) データファイル名定義ファイルの作成（アソシエーションクラス）

アソシエーションクラスをインポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-7 データファイル名定義ファイルの記述例（アソシエーションクラス）

```
"C:¥temp¥ContMLink.csv","ContractMaintenanceLink","AssetInfo","Contract"
"C:¥temp¥ContLLink.csv","ContractLeaseLink","AssetInfo","Contract"
```

1 行目は，データファイル名が「C:¥temp¥ContMLink.csv」，アソシエーションクラス名が「ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報）」，関係を持つオブジェクトクラス名が「AssetInfo（資産情報）」と「Contract（契約情報）」であることを示しています。

jamimport コマンドを実行することで，「C:¥temp¥ContMLink.csv」の内容を，アソシエーションクラス「ContractMaintenanceLink」にインポートします。

2 行目以降も，1 行目と同様に処理されます。

7.1.8 jamimport（インポート）コマンドの実行

インポートを実行する jamimport コマンドの機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお，コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ¥exe

(1) 機能

CSV ファイルのデータを資産管理データベースに登録，更新します。CSV ファイルの情報は，取捨選択されることなく，一括して資産管理データベースに登録されます。また，登録するための CSV ファイルは，クラスごとに作成します。

複数クラスの情報を一度に登録する場合は，データファイル名定義ファイルが必要です。

(2) 形式

```
jamimport
       { {-f データファイル名
          -gc オブジェクトクラス名またはアソシエーションクラス名}
```

```
|-dc データファイル名定義ファイル}
[-e ログファイル名 [-s] ]
[-l メッセージ種別]
```

(3) オプション

-f データファイル名

インポートするデータファイルが一つだけの場合に，データファイル名を指定します。データファイル名は，フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。
このオプションは，必ず -gc オプションと同時に指定してください。また，-dc オプションとは同時に指定できません。

-gc オブジェクトクラス名またはアソシエーションクラス名

インポートするデータファイルが一つだけの場合に，そのデータファイルに対応するクラス名を指定します。
オブジェクトクラスをインポートするときはオブジェクトクラス名を指定し，アソシエーションクラスをインポートするときはアソシエーションクラス名を指定します。クラス名については，「13.1　クラス構成」を参照してください。
このオプションは，必ず -f オプションと同時に指定してください。また，-dc オプションとは同時に指定できません。

-dc データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートする場合に指定します。このオプションは，-f および -gc オプションと同時に指定できません。
データファイル名定義ファイルは，フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。

-e ログファイル名

通常はコンソールに出力されるメッセージをファイルに出力させるときに指定します。メッセージを出力させるファイル名をログファイル名として指定します。
このオプションは省略できます。省略した場合は，メッセージが jamimport コマンドを実行したコンソール上に出力されます。
ログファイルの出力フォーマットについては，「11.　トラブルシューティング」を参照してください。

-s

インポートの処理件数が進ちょく状況としてコンソール上に出力されます。このオプションは，-e オプション使用時にだけ指定できます。省略した場合は，処理件数が出力されません。
進ちょく状況は，50 件処理するごとに出力されます。

-l メッセージ種別

ログファイルに出力されるメッセージの種別を指定します。このオプションは省略できます。省略した場合は，「E」が設定されます。
指定できるメッセージの種別と出力される情報を次に示します。

E

プログラムを終了させなければならない，重度のトラブルが発生したことを通知するメッセージだけが出力されます。

W

次の 2 種類のメッセージが出力されます。

- 「E」のメッセージ
- プログラムを終了させる必要はありませんが，一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージ

I

「E」，「W」のメッセージおよび情報を通知するメッセージが出力されます。

（4） 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	警告要因は発生しましたが，処理は正常に終了しました。
11	コマンドオプションの書式に誤りがあります。
21	インポートファイルにアクセスできないかまたは内容に誤りがあります。
52	ユーザによってキャンセルされました。
101 以上	そのほかのエラーでコマンドが終了しました。

（5） コマンド実行時の注意事項

- Administrators 権限を持つユーザで jamimport コマンドを実行してください。
- 操作画面からの操作中や，インベントリ情報の登録が実行されているときにインポートを実行すると，ほかの処理でのデータ更新と重複して，データが正しく登録および更新されない場合があります。インポートを実行する際には，操作画面からの処理や，インベントリ情報の登録などが行われていないことを確認してください。
- インポート実行中に［Ctrl］+［C］または［Ctrl］+［Break］で停止した場合，コマンドプロンプトを閉じた場合，またはシステムエラー（データベースエラーやファイル I/O エラーなど）が発生して処理が中断された場合は，停止した旨のエラーメッセージが出力され，処理が終了されます。このとき，資産管理データベースには，停止または閉じた時点で処理されていたデータまでがインポートされています。
  ただし，停止または中断した時点でインポートが終了されるため，資産管理データベースの内容に不整合が生じるおそれがあります。このような場合に備えて，資産管理データベースのバックアップを取得しておくことをお勧めします。
- 中断またはエラー発生後に，オペレーションコードが「追加（A）」のままで同一のデータファイルを再度インポートすると，資産管理データベースにすでに登録されているデータに対しては警告エラーとなります。
- jamimport コマンドのオプションに誤りがあった場合は，画面にエラーメッセージと

コマンド書式が出力されます。ログファイルには出力されません。

- コマンドのオプションの引数で，スペースを含む文字列を指定する場合，"（ダブルクォーテーション）で囲む必要があります。

（6） 実行例

```
jamimport -f "c:¥temp¥Hardware.csv" -gc HardwareInfo
```

7.2 CSV データの出力（エクスポート）

この節では，資産管理データベース内の資産情報を，CSV ファイルへ出力する方法について説明します。

Asset Information Manager では，資産管理データベース内の資産情報を，CSV ファイルへ一括して出力できます。これを**エクスポート**といいます。

エクスポートには，次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート
- jamCsvExport.bat でのエクスポート
- jamexport コマンドでのエクスポート

エクスポートは，資産情報を一括して CSV ファイルに出力します。データのバックアップをするといった場合に有効です。また，エクスポートした CSV ファイルを修正し，そのファイルをインポートすることで，資産管理データベース内の資産情報を変更，削除するといった運用もできます。

7.2.1 CSV データの出力方法の選択

それぞれのエクスポート方法の特長について説明します。エクスポートする情報に応じて，効率の良い方法を選択してください。

● 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート

出力したい資産情報を選択してエクスポートの条件を作成し，一括で CSV ファイルに出力します。条件には，出力したい Asset Information Manager の管理項目を設定します。

この方法では，Asset Information Manager にログインできる環境であれば，どこからでもエクスポートできます。

また，検索条件を指定して絞り込んで，必要な情報だけを出力できます。

さらに，バックアップや別のマシンの資産管理システムに移行することを目的として，ユーザレポート，業務フィルターの書式，インベントリ情報の引き当て設定，およびインポート / エクスポートの条件を出力することもできます。

● jamCsvExport.bat でのエクスポート

業務メニュー「エクスポート」からのエクスポートと同様の処理を，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく，「機器に関する情報」などのカテゴリで資産情報を出力できるので，運用を自動化するのに便利です。

この方法では，エクスポートの条件の変更および保存はできません。

● jamexport コマンドでのエクスポート

出力したいクラス単位にエクスポートを実行します。複数のクラスを一度にエクスポートすることもできますが，エクスポートする内容はクラス単位での選択となりま

す。バックアップなどの目的で，資産管理データベースの情報を取捨選択することなく，一括して出力する場合に利用できます。

共通してエクスポートできる情報（クラス）の詳細については，「13.1　クラス構成」を参照してください。

7.2.2　エクスポートの流れ

（1）業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート

業務メニュー「エクスポート」から資産情報をエクスポートするときの作業の流れを次に示します。

1. **業務メニュー「エクスポート」を選択する。**
   エクスポート画面が表示されます。
2. **エクスポートの条件を作成する。**
   エクスポートする情報の種類（例えば「機器に関する情報」など）を選択したあと，Asset Information Manager の管理項目から出力する項目を選択して，条件を作成します。エクスポートの対象となる項目については「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。
   エクスポート画面の操作方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.11　資産情報を CSV 形式で出力する（エクスポート）」を参照してください。
3. **エクスポートの条件を保存する。**
   任意の名前を付けて，条件を保存します。
4. **保存した条件を検索して，エクスポートを実行する。**
   条件を検索してエクスポートを実行する手順については，マニュアル「運用ガイド」の「4.11.2　エクスポートを実行する」を参照してください。

（2）jamCsvExport.bat でのエクスポート

jamCsvExport.bat でエクスポートするときの作業の流れを次に示します。

1. **資産管理サーバ上のコマンドラインから，jamCsvExport.bat を実行する。**
   指定した条件に従って，エクスポートが実行されます。
   jamCsvExport.bat の実行方法については，「7.2.3　jamCsvExport.bat の実行」を参照してください。エクスポートの対象となる項目については「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。

（3）jamexport コマンドでのエクスポート

jamexport コマンドを実行する前に，Asset Information Manager のサービスを停止することをお勧めします。停止する際は，次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing

2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

jamexport コマンドで資産情報をエクスポートするときの作業の流れを次に示します。

1. **データファイル名定義ファイルを作成する。**
   複数のオブジェクトクラスに関する情報を一括してエクスポートする場合，エクスポートするデータファイル名を定義したファイル（**データファイル名定義ファイル**）を作成します。エクスポートするオブジェクトクラスが一つだけの場合は不要です。
   データファイル名定義ファイルの作成方法については「7.2.5　データファイル名定義ファイルの作成」を参照してください。
2. **資産管理サーバ上のコマンドラインから，jamexport（エクスポート）コマンドを実行する。**
   jamexport コマンドについては，「7.2.6　jamexport（エクスポート）コマンドの実行」を参照してください。

   オブジェクトクラス単位またはアソシエーションクラス単位に，資産情報がデータファイルに出力されます。
   記述したオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスに資産情報がない場合にも，データファイルが作成され，項目タイトル行だけが出力されます。

7.2.3　jamCsvExport.bat の実行

業務メニュー「エクスポート」と同等のエクスポートをコマンドラインから実行する jamCsvExport.bat の機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお，jamCsvExport.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ￥exe

（1） 機能

資産管理データベースの情報を，CSV ファイルに出力します。CSV ファイルの情報は，条件に従って一括して出力されます。条件の作成方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.11.1　エクスポートの条件を作成する」を参照してください。

また，資産種別を指定すると，デフォルトの設定で一括して CSV ファイルに出力されます。デフォルトの設定でエクスポートされる項目については，「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。

(2) 形式

```
jamCsvExport.bat "CSVファイルのパス"  " -c 条件名 | -a 資産種別 "
```

(3) オプション

CSV ファイルのパス

エクスポートする CSV ファイルをフルパスで指定します。このオプションは，必ず指定してください。

-c 条件名

エクスポート画面で保存した，エクスポートの条件名を指定します。

-a 資産種別

エクスポートする資産情報の種類を，次の表に示すコードで指定します。このオプションを指定した場合，業務メニュー「管理項目編集」で表示する設定になっている中から，該当するクラスの全プロパティが出力されます。

表 7-23 資産種別のコード

コード	内容
001	機器に関する情報
002	インストールソフトウェア情報
003	インストールソフトウェアリスト
004	ソフトウェア情報
005	ソフトウェアリスト
006	組織管理情報
007	ユーザ管理情報
008	設置場所情報
009	保守契約情報
010	レンタル契約情報
011	リース契約情報
012	ボリューム契約
013	IP グループ情報
014	機器カタログ
015	カスタマイズ（ユーザレポート）
016	カスタマイズ（書式）
017	カスタマイズ（インベントリ定義）
018	カスタマイズ（インポート / エクスポート定義）
019	問題点管理
020	ライセンス割り当て
021	パッチ情報

コード	内容
022	ウィルス定義情報
023	カスタマイズ（案件定義）
024	カスタマイズ（契約履歴）

（4） 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	該当するデータがありませんでした。
2 以上	処理中にエラーが発生しました。

（5） コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamCsvExport.bat を実行してください。

（6） 実行例

```
jamCsvExport.bat "c:¥temp¥Hardware.csv" -a 001
```

7.2.4 データファイルの出力形式

ここでは，jamexport コマンドでオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスをエクスポートする場合の，データファイルの出力形式について説明します。

データファイルは，指定したデータファイル名を付けて，CSV ファイルで作成されます。作成されるデータファイルは，オブジェクトクラスまたはアソシエーションクラス単位です。

各データファイルには，指定されたオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスの全プロパティがオペレーションコードに従って出力されます。データファイルのオペレーションコードの指定がない場合は，すべて「変更なし（N）」で出力されます。

オペレーションコードの次の列には，キーとなるプロパティが出力されます。数値はそのまま出力され，文字列は "（ダブルクォーテーション）で囲んで出力されます。

なお，指定したオブジェクトクラスまたはアソシエーションクラスのプロパティにエクスポートする値（データ）がない場合でも，データファイルは作成されます。この場合は，項目タイトル行だけが出力されます。

7.2.5 データファイル名定義ファイルの作成

ここでは，オブジェクトクラスを jamexport コマンドでエクスポートする場合に作成す

るデータファイル名定義ファイルのファイル形式，記述形式および記述例について説明します。

(1) データファイル名定義ファイルのファイル形式

複数の資産データを一括してエクスポートするには，データファイル名定義ファイルを作成します。データファイル名定義ファイルのファイル形式，使用する文字コードおよび区切り文字と区切り位置を次に示します。

● ファイル形式
データファイル名定義ファイルは，テキスト形式で作成します。

● 使用する文字コード
シフト JIS コードで記述します。

● 区切り文字と区切り位置
- **オブジェクトクラスをエクスポートする場合**
  エクスポートするデータファイル名と，対応するオブジェクトクラス名を一組として改行コード（CRLF または LF）で区切ります。データファイル名とオブジェクトクラス名は，それぞれを "（ダブルクォーテーション）で囲み，,（コンマ）で区切ります。
- **アソシエーションクラスをエクスポートする場合**
  エクスポートするデータファイル名，対応するアソシエーションクラス名，および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を一組として改行コード（CRLF または LF）で区切ります。データファイル名，アソシエーションクラス名，オブジェクトクラス名は，それぞれを "（ダブルクォーテーション）で囲み，,（コンマ）で区切ります。

(2) データファイル名定義ファイルの記述形式

データファイル名定義ファイルは，テキストファイルとして作成します。エクスポート先のデータファイル名と，対応するオブジェクトクラス名を記述します。

アソシエーションクラスをエクスポートする場合は，エクスポート先のデータファイル名，対応するアソシエーションクラス名，および関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

データファイル名定義ファイルの記述形式を次の図に示します。

図 7-8 データファイル名定義ファイルの記述形式

●オブジェクトクラス

```
"データファイル名","オブジェクトクラス名"
                ⋮
```

●アソシエーションクラス

```
"データファイル名","アソシエーションクラス名",
"関連オブジェクトクラス名","もう一方の関連オブジェクトクラス名"
                ⋮
```

1行で記述する。

データファイル名定義ファイルに記述する各項目について説明します。

データファイル名

資産データが書き込まれるデータファイル名を記述します。フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。なお，相対パスは，データファイル名定義ファイルの存在するパスを基点とします。また，「.¥」や「..¥」などの指定はできません。

オブジェクトクラス名およびアソシエーションクラス名

エクスポートする資産データのクラス名を記述します。

関連オブジェクトクラス名，もう一方の関連オブジェクトクラス名

アソシエーションクラスをインポートする場合にだけ記述します。
アソシエーションクラスとして関係を持つ二つのオブジェクトクラス名を記述します。

(3) データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）

オブジェクトクラスを jamexport コマンドでエクスポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-9 データファイル名定義ファイルの記述例（オブジェクトクラス）

```
"C:¥temp¥AssetInfo.csv","AssetInfo"
"C:¥temp¥Hardware.csv","HardwareInfo"
"C:¥temp¥Software.csv","SoftwareInfo"
```

1 行目は，データファイル名が「C:¥temp¥AssetInfo.csv」，オブジェクトクラス名が「AssetInfo」であることを示しています。

jamexport コマンドを実行することで，オブジェクトクラス「AssetInfo」のすべての内容を，「C:¥temp¥AssetInfo.csv」にエクスポートします。

2 行目以降も，1 行目と同様に処理されます。

(4) データファイル名定義ファイルの記述例（アソシエーションクラス）

アソシエーションクラスを jamexport コマンドでエクスポートする場合のデータファイル名定義ファイルの記述例について説明します。

データファイル名定義ファイルの記述例を次の図に示します。

図 7-10 データファイル名定義ファイルの記述例（アソシエーションクラス）

```
"C:¥temp¥ContMLink.csv","ContractMaintenanceLink","AssetInfo","Contract"
"C:¥temp¥ContLLink.csv","ContractLeaseLink","AssetInfo","Contract"
```

1 行目は，データファイル名が「C:¥temp¥ContMLink.csv」，アソシエーションクラス名が「ContractMaintenanceLink」，関係を持つオブジェクトクラス名が「AssetInfo」と「Contract」であることを示しています。

jamexport コマンドを実行することで，アソシエーションクラス「ContractMaintenanceLink」のすべての内容を，「C:¥temp¥ContMLink.csv」にエクスポートします。

2 行目以降も，1 行目と同様に処理されます。

注意事項

Weak アソシエーションクラスはエクスポートできますが，インポートできません。Weak アソシエーションクラスの詳細については，「8.1.3 アソシエーションの種類」を参照してください。

7.2.6 jamexport（エクスポート）コマンドの実行

エクスポートを実行する jamexport コマンドの機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお，コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ￥exe

(1) 機能

資産管理データベースの情報を，クラスごとに CSV ファイルに出力します。指定したクラスの情報は，取捨選択されることなく，すべてのプロパティ値が CSV ファイルに出力されます。

複数クラスの情報を一度に出力する場合は，出力するクラスと CSV ファイル名の対応を定義したデータファイル名定義ファイルが必要です。

(2) 形式

オブジェクトクラスの場合

```
jamexport
       { {-f データファイル名
          -gc オブジェクトクラス名}
        |-dc データファイル名定義ファイル}
       [-e ログファイル名 [-s] ]
       [-l メッセージ種別]
       [-op オペレーションコード]
```

アソシエーションクラスの場合

```
jamexport
       { {-f データファイル名
          -ac アソシエーションクラス名
          -c1 関連オブジェクトクラス名
          -c2 もう一方の関連オブジェクトクラス名}
        |-dc データファイル名定義ファイル}
       [-e ログファイル名 [-s] ]
       [-l メッセージ種別]
       [-op オペレーションコード]
```

(3) オプション

-f データファイル名

エクスポートする資産データが一つのオブジェクトクラスまたは一つのアソシエーションの場合に，データファイル名を指定します。
データファイル名は，フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。
このオプションは，必ず -gc（または -ac，-c1，-c2）オプションと同時に指定してください。また，-dc オプションとは同時に指定できません。

-gc オブジェクトクラス名

エクスポートする資産データが一つのオブジェクトクラスの場合に，そのオブジェクトクラス名を指定します。
このオプションは，必ず -f オプションと同時に指定してください。また，-dc オプションとは同時に指定できません。
クラス名については，「13.1　クラス構成」を参照してください。

-ac アソシエーションクラス名

エクスポートする資産データが一つのアソシエーションクラスの場合に，そのアソシエーションクラス名を指定します。
このオプションは，必ず -f，-c1，-c2 オプションと同時に指定してください。また，-dc オプションとは同時に指定できません。

-c1 関連オブジェクトクラス名

エクスポートする資産データが一つのアソシエーションクラスの場合に，そのアソシエーションクラスに関連するオブジェクトクラス名を指定します。

-c2 もう一方の関連オブジェクトクラス名

エクスポートする資産データが一つのアソシエーションクラスの場合に，そのアソシエーションクラスに関連するもう一方のオブジェクトクラス名を指定します。

-dc データファイル名定義ファイル

複数の資産データを一括してエクスポートする場合で，データファイル名定義ファイルに，エクスポートするクラス名を使用したときに指定します。このオプションは，-f，-gc，-ac，-c1，-c2 オプションと同時に指定できません。
データファイル名定義ファイルは，フルパスと相対パスのどちらで指定してもかまいません。

-e ログファイル名

通常はコンソールに出力されるメッセージをファイルに出力させるときに指定します。メッセージを出力させるファイル名をログファイル名として指定します。
このオプションは省略できます。省略した場合は，メッセージが jamexport コマンドを実行したコンソール上に表示されます。
ログファイルの出力フォーマットについては，「11. トラブルシューティング」を参照してください。

-s

エクスポートの処理件数が進ちょく状況としてコンソール上に出力されます。このオプションは，-e オプション使用時にだけ指定できます。省略した場合は，処理件数が出力されません。

-l メッセージ種別

ログファイルに出力されるメッセージの種別を指定します。このオプションは省略できます。省略した場合は，「E」が設定されます。
指定できるメッセージの種別と出力される情報を次に示します。

E

プログラムを終了させなければならない，重度のトラブルが発生したことを通知するメッセージだけが出力されます。

W

次の 2 種類のメッセージが出力されます。

- 「E」のメッセージ
- プログラムを終了させる必要はありませんが，一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージ

I

「E」，「W」のメッセージおよび情報を通知するメッセージが出力されます。

-op オペレーションコード

エクスポートファイル中の各行に出力するオペレーションコード（インポート時にテーブルに対する変更種別を表す 1 文字）を A（追加），C（変更），D（削除），N（変更なし）または R（コメント）のどれかで指定します。省略した場合は，N が設定されます。

オペレーションコードの詳細については，「7.1.6(2) データファイルの記述形式」を参照してください。

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	警告要因は発生しましたが，処理は正常に終了しました。
11	コマンドオプションの書式に誤りがあります。
21	エクスポートファイルにアクセスできないかまたは内容に誤りがあります。
52	ユーザによってキャンセルされました。
101 以上	そのほかのエラーでコマンドが終了しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

- Administrators 権限を持つユーザで jamexport コマンドを実行してください。
- jamexport コマンドのオプションに誤りがあった場合は，画面にエラーメッセージとコマンド書式が出力されます。ログファイルには出力されません。
- エクスポート実行中に［Ctrl］+［C］または［Ctrl］+［Break］で停止した場合や，コマンドプロンプトを閉じた場合は，停止した旨のエラーメッセージが出力され，処理が終了されます。
- エクスポート実行中にエラーが発生した場合は，その時点でエクスポートが終了されます。再度，jamexport コマンドを実行してください。この場合，データは最初から取得し直します。
- Weak アソシエーションのクラスはエクスポートできますが，インポートできません。Weak アソシエーションの詳細については，「8.1.3 アソシエーションの種類」を参照してください。

(6) 実行例

```
jamexport -f "c:¥temp¥Hardware.csv" -gc HardwareInfo
```

7.3 操作ログの CSV データの出力

この節では，業務メニュー「操作ログ一覧」で登録している検索パターンを使用して，操作ログを CSV ファイルへ出力する方法について説明します。

7.3.1 jamTakeOperationLog.bat の実行

検索パターンを使用して操作ログを全件出力する jamTakeOperationLog.bat の機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。また，Windows のタスクスケジューラにタスクを登録して，定期的に jamTakeOperationLog.bat を実行するための設定についても説明します。

なお，jamTakeOperationLog.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ￥exe

(1) 機能

業務メニュー「操作ログ一覧」で登録している検索パターンを使用して，操作ログを CSV ファイルに全件出力します。デフォルトで提供されている検索パターンについては，マニュアル「運用ガイド」の「2.7.1(2)(a)　デフォルトで提供されている検索パターン」を参照してください。また，検索パターンを登録または更新する方法については，マニュアル「運用ガイド」の「2.7.1(2)(b)　検索パターンの登録および更新」を参照してください。

なお，jamTakeOperationLog.bat は，Windows のタスクスケジューラに登録して定期的に実行することもできます。タスクスケジューラに登録する際の設定については，「(7) jamTakeOperationLog.bat を定期実行するための設定」を参照してください。

(2) 形式

```
jamTakeOperationLog.bat -p "検索パターン名" -f 出力ファイル名 -s 取得開始日 [-e 取得終了日] [-x 拡張出力項目]
```

(3) オプション

-p " 検索パターン名 "

検索条件となる検索パターンを指定します。登録されている名称を指定してください。このオプションは，必ず指定してください。検索パターン名に「"」が含まれている場合は，二つ続けて「"」を指定してください。例えば，「" 平文持ち出し "」という検索パターン名の場合は，「-p """ 平文持ち出し """」のように指定します。

-f 出力ファイル名

出力する CSV ファイルをフルパスで指定します。このオプションは，必ず指定してください。

-s 取得開始日

操作ログを取得する開始日を指定します。このオプションは，必ず指定してください。

取得開始日は，次に示す形式で指定できます。オプション「-s Mx[MDy]」および「-s Dz」は，タスクを定期的に実行する際に指定すると便利です。

- -s yyyymmdd[hhmm]（yyyy は 1900 ～ 9999 の整数）
  取得を開始したい日時を指定します。時刻は省略できます。
- -s Mx[MDy]（x は 0 ～ 999 の整数，y は 1 ～ 31 の整数）
  タスクの実行日を基準として，x か月前の y 日から取得することを指定します。日にち（MDy）は省略できます。日にちを省略すると，x か月前の 1 日から操作ログが取得されます。例えば，10 月 1 日にタスクを実行する場合，8 月 1 日から取得したいときは，「-s M2MD1」または「-s M2」と指定します。
- -s Dz（z は 0 ～ 999 の整数）
  タスクの実行日を基準として，z 日前から取得することを指定します。例えば，10 月 1 日にタスクを実行する場合，9 月 10 日から取得したいときは，「-s D21」と指定します。

-e 取得終了日

操作ログを取得する終了日を指定します。このオプションは省略できます。省略すると，タスクを実行した日までの操作ログが取得されます。オプション「-e Mx[MDy]」および「-e Dz」は，タスクを定期的に実行する際に指定すると便利です。

取得終了日は，次に示す形式で指定できます。

- -e yyyymmdd[hhmm]（yyyy は 1900 ～ 9999 の整数）
  取得を終了したい日時を指定します。時刻は省略できます。
- -e Mx[MDy]（x は 0 ～ 999 の整数，y は 1 ～ 31 の整数）
  タスクの実行日を基準として，x か月前の y 日まで取得することを指定します。日にち（MDy）は省略できます。日にちを省略すると，x か月前の月の最終日まで操作ログが取得されます。例えば，10 月 1 日にタスクを実行する場合，9 月 30 日まで取得したいときは，「-e M1MD30」または「-e M1」と指定します。
- -e Dz（z は 0 ～ 999 の整数）
  タスクの実行日を基準として，z 日前まで取得することを指定します。例えば，10 月 1 日にタスクを実行する場合，9 月 20 日まで取得したいときは，「-e D11」と指定します。

-x 拡張出力項目

操作ログの「ホスト名」から引き当てられる，資産情報（AssetInfo）の「部署」，「ユーザ名」および「設置場所」のうち，出力したい項目を指定します。このオプションは省略できます。

拡張出力項目は「-x 拡張出力項目のコード」の形式で指定できます。拡張出力項目のコードは複数指定できます。

拡張出力項目のコードを次に示します。

- G
  部署
- U
  ユーザ名
- L
  設置場所

複数指定する場合は，「-x GUL」のように続けて選択してください。
なお，操作ログで，同一のホスト名が複数存在する場合は，最初に引き当てられた資産情報の「部署」，「ユーザ名」および「設置場所」の情報が出力されます。

(4) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
2	パラメタが不正です。
3	該当する検索パターンが存在しません。
4	JP1/NETM/DM との接続でエラーが発生しました。
5	JP1/ 秘文との接続でエラーが発生しました。
6	JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文との接続でエラーが発生しました。
7	環境不正です。
8	DLL ロードエラーが発生しました。
9	操作ログ出力関数でエラーが発生しました。
10	レジストリ情報取得時にエラーが発生しました。
11	jamscript.exe 実行時にエラーが発生しました。

戻り値が 4 ～ 9 の場合，ASTMESn.LOG の内容を確認してください。また，戻り値が 4 ～ 6 のときは，データベースの接続時にエラーが発生しているので，併せて ASTCIMn.LOG の内容も確認してください。

(5) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamTakeOperationLog.bat を実行してください。

(6) 実行例

実行日の 3 か月前の 1 日～前日の期間で，検索パターン「ファイル持ち出し」に該当する操作ログと，その「部署」および「ユーザ名」を出力する実行例を次に示します。例えば，2006 年 10 月 1 日にタスクを実行した場合，2006 年 7 月 1 日～ 2006 年 9 月 30 日の期間で，操作ログが出力されます。

```
jamTakeOperationLog.bat -p " ファイル持ち出し " -f
c:¥temp¥operationlog.csv -s M3 -e D1 -x GU
```

操作ログを取得する期間は，「-s M3 -e D1」以外にも次の形式で指定できます。

- -s M3 -e M1
- -s M3MD1 -e M1
- -s M3MD1 -e D1

（7）jamTakeOperationLog.bat を定期実行するための設定

定期的に jamTakeOperationLog.bat を実行するには，Windows のタスクスケジューラに jamTakeOperationLog.bat を実行するタスクを登録します。コマンドプロンプトに jamTakeOperationLog.bat の実行形式を直接解釈させるため，このタスクを登録するときは，タスクのプロパティダイアログで，「タスク」タブの「実行するファイル名」に次の形式で設定する必要があります。

```
%COMSPEC% /D /S /C "jamTakeOperationLog.bat の実行形式 "
```

「jamTakeOperationLog.bat の実行形式」は，(2) と同じです。必ず，"（ダブルクォーテーション）で囲んでください。

「実行するファイル名」の指定例

%COMSPEC% /D /S /C ""C:¥Program Files¥HITACHI¥jp1asset¥exe¥jamTakeOperationLog.bat" -p " ファイル持ち出し " -f c:¥temp¥OperationLog.csv -s M3 -e D1"

登録後，「%COMSPEC%」は，CMD.EXE の実行パスに置き換わります。

8 Asset Information Manager を使用するための基礎知識

この章では，Asset Information Manager を使用するための基礎知識として必要な，資産管理データベースの仕組みおよび資産の状態管理について説明します。

8.1　資産管理データベース

8.2　資産の状態管理

8.1 資産管理データベース

この節では，Asset Information Manager を運用するために必要な知識として，資産管理データベースの仕組みについて説明します。

資産管理データベースの仕組みに関する基礎知識は，主に，次の作業を実行するときに必要になります。

- jamimport コマンドによる資産管理データベースへの CSV データの登録（インポート）
- jamexport コマンドによる資産管理データベースからの CSV データの出力（エクスポート）
- 操作画面の管理項目の変更（管理項目編集）
- 操作画面の変更（業務フィルター）
- 業務メニューの追加（ユーザレポート作成）
- 管理項目とインベントリ情報の引き当て（インベントリ情報の引き当て）

資産管理データベースでは，**オブジェクト指向型のデータ管理モデル**を採用しています。そのため，扱う**クラス**および**プロパティ**に対応させて資産情報を管理します。

資産管理データベースで管理するクラスおよびプロパティの概要を次に説明します。

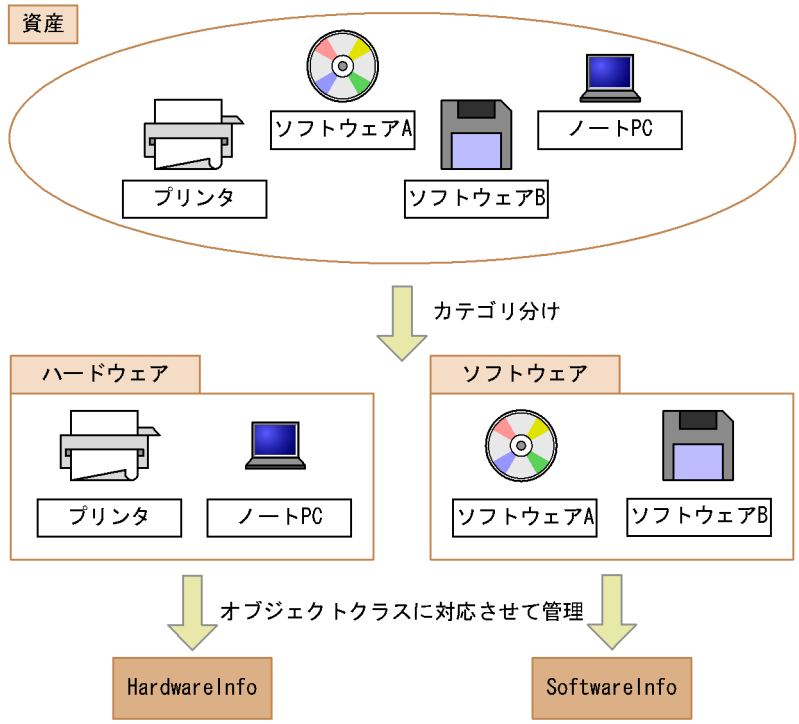
8.1.1 資産管理データベースで管理するクラス

資産管理データベースで管理するクラスには，**オブジェクトクラス**と**アソシエーションクラス**の 2 種類があります。

● オブジェクトクラス

オブジェクトクラスとは，Asset Information Manager で管理する各項目をカテゴリごとにまとめた情報の集合で，資産管理データベースに対する入出力単位となります。例えば，「HardwareInfo」，「SoftwareInfo」などのクラスは，資産情報として管理する項目を「資産種別」のカテゴリでまとめたものです。それぞれハードウェアとソフトウェアの情報の集合を表します。オブジェクトクラスの概念を次の図に示します。

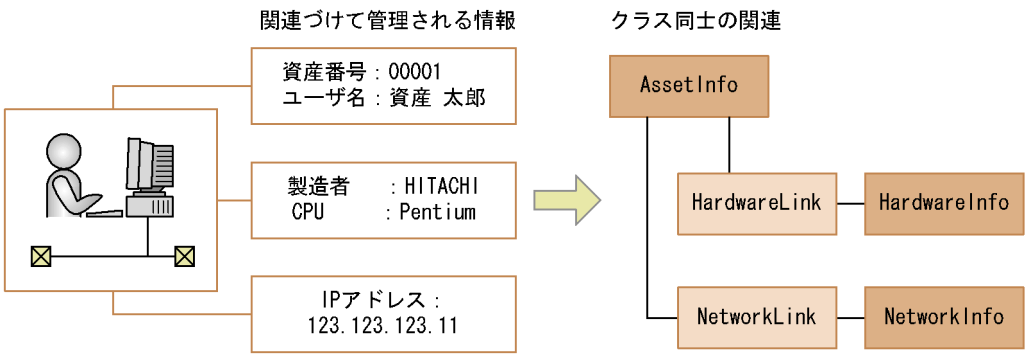
図 8-1　オブジェクトクラスの概念



● アソシエーションクラス

オブジェクトクラス同士の関連（アソシエーション）を表します。
例えば PC の情報は，その PC の資産番号やユーザ名（「AssetInfo」クラス），製造者やスペック（「HardwareInfo」クラス），IP アドレス（「NetworkInfo」クラス）などが関連づけて管理されます。このときに，それぞれの情報の関連を表す「HardwareLink」および「NetworkLink」がアソシエーションクラスです。アソシエーションクラスの概念を次の図に示します。

図 8-2　アソシエーションクラスの概念



クラス同士の関連については，「13.1.3　クラス関連図」を参照してください。

8.1.2　資産管理データベースで管理するプロパティ

資産管理データベースで管理するクラスは，**プロパティ**と呼ばれる属性を持っています。このプロパティにクラスの詳細情報を設定することで，資産管理項目をきめ細かく管理できます。

クラスの属性であるプロパティとして，例えば，資産の情報を定義するオブジェクトクラス「AssetInfo」には，「AssetKind」，「GroupName」といったプロパティがあります。これらのプロパティには，それぞれ資産種別と部署が定義されます。

資産管理システムで扱うクラスのプロパティの詳細については，「13.　管理情報の詳細」を参照してください。

8.1.3　アソシエーションの種類

アソシエーションクラスが表すオブジェクトクラスの関連には，同一のキープロパティでの関連と，異なるキープロパティでの関連の 2 種類があります。

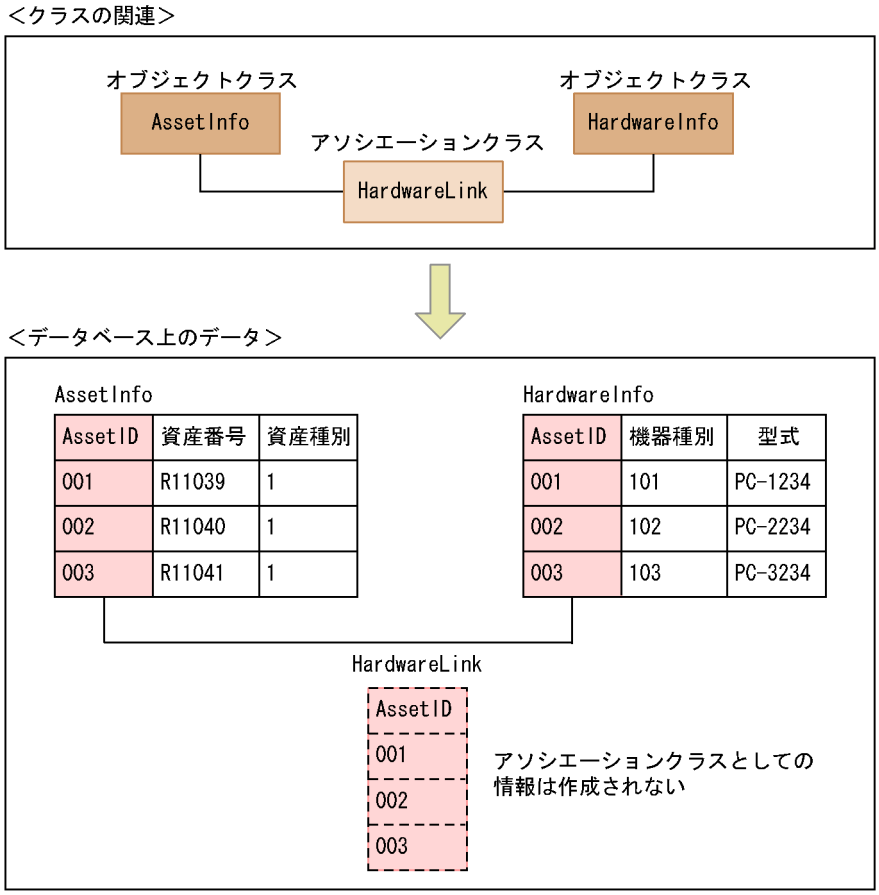
また，アソシエーションクラスの属性として，主従関係（Weak **アソシエーション**）になるものがあります。

アソシエーションが表すオブジェクトクラスの関連，および Weak アソシエーションについて説明します。

● 同一のキープロパティでの関連

例えば，「HardwareLink」というアソシエーションクラスは，資産情報「AssetInfo」とハードウェア資産情報「HardwareInfo」の関連を表しますが，どちらのオブジェクトクラスでも，キーとなるプロパティは「AssetID」です。
「AssetInfo」と「HardwareInfo」は常に 1 対 1 で関連づけられるため，二つのオブジェクトクラスは，「AssetID」によって関連を表すことができます。
そのため，資産管理データベース上には，「AssetInfo」と「HardwareInfo」の関連を定義した情報（アソシエーションクラスとしての情報）は作成されません。
「HardwareLink」の表すオブジェクトクラスの関連を次の図に示します。

図 8-3　同一のキープロパティでの関連



● 異なるキープロパティでの関連

例えば，「ContractLeaseLink」というアソシエーションクラスは，契約情報「Contract」と資産情報「AssetInfo」の関連を表しますが，キーとなるプロパティは，それぞれ「ContractID」と「AssetID」で異なります。

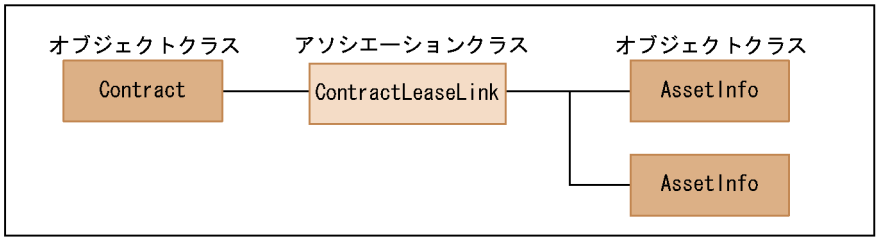
これは，複数の機器をまとめて契約する場合，一つの「Contract」に複数の「AssetInfo」が関連づけられるためです。

そのため，資産管理データベース上には，異なるキープロパティを対応させて二つのオブジェクトクラスの関連を定義した情報（アソシエーションクラスとしての情報）が作成されます。

「ContractLeaseLink」の表すオブジェクトクラスの関連を次の図に示します。

図 8-4　異なるキープロパティでの関連

<クラスの関連>



<データベース上のデータ>

Contract

ContractID	契約番号	契約日
031100	030001	2003/7/1
032200	030002	2003/7/3

AssetInfo

AssetID	資産種別	部署
001	1	営業部
002	1	営業部
003	1	総務部

ContractLeaseLink

ContractID	AssetID
031100	001
031100	002
032200	003

アソシエーションクラスとしての情報が作成される

● 主従関係（Weak アソシエーション）

あるクラスともう一方のクラスを，主従関係で表します。この関係では，主となるクラスを削除すると，従属するクラス（**Weak クラス**）も自動的に削除されます。

主従関係を表すアソシエーションクラスには，例えば「HardwareLink」クラスがあります。これは，資産としての情報「AssetInfo」クラスと，その資産がハードウェアであるとき，ハードウェア資産としての「HardwareInfo」クラスを関連づけています。つまり，まず資産がありその付加情報としてハードウェア資産情報があります。したがって，「AssetInfo」クラスが主となり，「HardwareInfo」クラスが従となる Weak アソシエーションの関係となります。

オブジェクトクラス同士の主従関係については，「13.1.3　クラス関連図」を参照してください。

8.2 資産の状態管理

Asset Information Manager では，機器，契約，ソフトウェアおよび障害の状態が管理されます。状態は登録時に設定でき，運用中は操作画面から随時変更できます。

機器，契約およびソフトウェアの状態には，あらかじめ次の種類が用意されていますが，これ以外にも業務に合わせて状態を追加できます。

- **機器状態**
  運用，在庫，返却，廃棄，仮廃棄，抹消
- **契約状態**
  契約中，満了，抹消
- **ソフトウェア状態**
  運用，返却，廃棄，抹消
- **保守状態**
  障害中，連絡済，修理中，対策済

状態は，資産管理データベース上で，コードと対応づけて管理されています。

機器，契約およびソフトウェアの状態のコードは，運用，廃棄，抹消のカテゴリに分かれていて，カテゴリによって，どの業務の対象となるかが異なります。状態を追加する場合は，追加するコードの範囲に注意してください。

また，「抹消」状態の資産情報は，Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」によって削除されるので，状態を変更する際は注意してください。

機器，契約，ソフトウェアの各状態のカテゴリと，検索対象とされる業務との対応を次の表に示します。

● 機器状態

カテゴリ		コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
運用	－	000 ～ 499	－	• 業務カテゴリ「機器管理」以下の業務 • 業務カテゴリ「ソフトウェア適用管理」以下の業務（「WSUS 更新プログラム管理」以外） • 操作ログ集計
	使用	000 ～ 299	002：運用	
	未使用	300 ～ 499	301：在庫	• 業務カテゴリ「機器管理」以下の業務（「不稼働機器一覧」以外） • 操作ログ集計

カテゴリ		コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
廃棄	―	500 ～ 719	―	一括変更
	返却	500 ～ 599	501：返却	
	廃棄	600 ～ 699	601：廃棄	
	仮廃棄	700 ～ 719	701：仮廃棄	
抹消		999	999：抹消	一括変更

（凡例）

―：該当しない

● 契約状態

カテゴリ	コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
運用	000 ～ 499	001：契約中	契約一覧
満了	500 ～ 998	501：満了	契約一覧※ 1
抹消	999	999：抹消	契約一覧※ 2

注※ 1

対象機器の追加はできません。

注※ 2

Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」が実行されると削除されます。

● ソフトウェア状態

カテゴリ	コード範囲	デフォルトの状態	対象業務
運用	000 ～ 499	001：運用	業務カテゴリ「ライセンス管理」以下の業務
廃棄	500 ～ 998	501：返却 601：廃棄	保有ソフトウェア一覧※ 1
抹消	999	999：抹消	保有ソフトウェア一覧※ 2

注※ 1

検索条件に「返却」または「廃棄」を指定すると検索されます。

注※ 2

検索条件に「抹消」を指定すると検索されます。
また，Windows のタスクスケジューラに登録されたタスク「データメンテナンス」が実行されると削除されます。

状態を追加する方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8　種別や状態を追加

および変更する（コード管理）」を参照してください。

9 操作画面およびユーザ権限の変更

この章では，業務カテゴリ「システム定義」で実行できる，操作画面およびユーザ権限の変更方法について説明します。
なお，操作画面およびユーザ権限の変更は，管理者だけが実行できます。

9.1 **ユーザ権限の変更（権限管理）**

9.2 **管理項目の変更（管理項目編集）**

9.3 **ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）**

9.4 **実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）**

9.5 **定型業務に合わせた操作画面の追加（ユーザレポート作成）**

9.6 **引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）**

9.7 **変更履歴として取得する項目の選択（変更履歴取得項目）**

9.1 ユーザ権限の変更（権限管理）

ユーザ権限に応じて参照できる範囲を変更したり，新しくユーザ権限を追加したりして，利用者の業務内容に合わせて使用できる機能や情報の範囲を設定します。

ユーザ権限の変更は，業務メニュー「権限管理」をクリックすると表示される権限管理画面から実行します。権限管理画面を次の図に示します。

図 9-1 権限管理画面

現在登録されているユーザ権限が一覧で表示されます。

9.1.1 新しくユーザ権限を追加する

新しくユーザ権限を追加する手順を次に示します。

1. **権限管理画面で［新規権限の作成］ボタンをクリックする。**
   ［新規権限登録］ダイアログが表示されます。
   - 「権限 ID」
     各権限にユニークな ID を指定します。この項目は必ず指定してください。
   - 「権限名」
     権限名を指定します。同じ名前の権限は作成できません。この項目を省略すると，「権限 ID」と同じ名称が設定されます。
   - 「管理ラベル」
     組織階層単位でアクセス制限を行う場合に設定します。
     例えば，追加する権限のユーザが所属する「課」以下の情報だけを扱うように設定したい場合は，各課と同じ管理ラベルを設定します。各課に管理ラベルが設定され

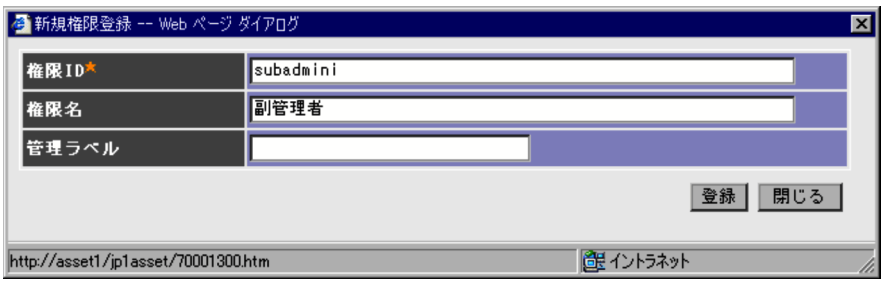
ていない場合は，ユーザ組織管理画面で管理ラベルを設定します。
組織階層単位でのアクセス制限を設定する方法については，「3.1.3　組織階層単位でのアクセス制限の設定」を参照してください。

キャンセルする場合は，［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. **［登録］ボタンをクリックする。**
指定した内容で，権限が追加されます。
追加した権限は，すべての業務メニューを使用できる設定になっています。使用できる業務メニューを制限したい場合は，利用可能業務割り当て画面で設定します。
利用可能業務割り当て画面での操作方法については，「9.4　実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）」を参照してください。

登録したい内容を指定した状態の［新規権限登録］ダイアログを次の図に示します。

図 9-2　［新規権限登録］ダイアログ



9.1.2　ユーザ権限の内容を変更する

ユーザ権限の内容を変更するには，権限管理画面で変更したい「権限 ID」のアンカーをクリックします。［権限詳細］ダイアログが表示されて，内容を変更できます。

「権限名」の入力を省略すると，「権限 ID」と同じ名称が設定されます。各項目の設定方法については，「9.1.1　新しくユーザ権限を追加する」を参照してください。

［権限詳細］ダイアログで［削除］ボタンをクリックすると，権限を削除できます。なお，複数の権限を一度に削除するには，権限管理画面で削除したい権限のチェックボックスをチェックして，［権限削除］ボタンをクリックします。

9.1.3　ユーザ権限を削除する

ユーザ権限を削除するには，権限管理画面で削除したい「権限 ID」のチェックボックスをチェックして，［権限削除］ボタンをクリックします。

ただし，管理者の権限は削除できません。また，その権限を持つユーザが存在する場合にも削除できません。

9.2　管理項目の変更（管理項目編集）

操作画面に表示される項目の表示・非表示の設定や，名称を変更します。使用しない項目を非表示にしたり，項目名を管理しやすい名称に変更したりして，作業の効率を向上できます。

管理項目の変更は，ユーザ権限に関係なく全体に共通して反映されます。

管理項目は，業務メニュー「管理項目編集」をクリックすると表示される管理項目編集画面から変更できます。管理項目編集画面を次の図に示します。

図 9-3　管理項目編集画面

管理項目は，資産管理データベース上では，クラスのプロパティとして管理されています。そのため，管理項目を変更するには，該当するクラスのプロパティを変更します。

管理項目編集画面では，管理クラスと対応する管理情報名が一覧で表示されます。「管理クラス」の中から変更したいクラス名のアンカーをクリックすると，プロパティの一覧が表示されて，表示・非表示の設定，名称の変更ができます。

各プロパティを編集することで，どの操作画面に影響があるかについては，操作画面ごとに管理項目を示した資料（ScreenItemList.pdf）を参照してください。
ScreenItemList.pdf の格納場所を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥help

9.2.1　管理対象の項目を変更する

各操作画面で，検索条件に指定したり，検索結果や集計結果に表示された項目を非表示にして管理対象から外したりできます。また，必要な項目を追加することもできます。なお，管理対象から外しても，資産管理データベースでは，引き続き情報は管理されます。

管理項目の表示・非表示は，各プロパティの「表示」チェックボックスで設定します。ただし，業務上必要不可欠な管理項目は，非表示にはできません。

機器の構成種別（デスクトップかノートか）を管理対象から外す場合を例に，管理項目を非表示にする手順を次に示します。

1. **ハードウェア資産情報のクラス名「HardwareInfo」のアンカーをクリックする。**
   次の図に示す，ハードウェア資産情報のプロパティ一覧が表示されます。

図 9-4　ハードウェア資産情報のプロパティ一覧

2. **構成種別のプロパティ名「ModelKind」の「表示」チェックボックスのチェックを外す。**
3. **［更新］ボタンをクリックする。**
   機器の構成種別が管理対象から外され，操作画面に表示されなくなります。

表示名に「固有情報」という名称が付いているプロパティについては，「9.2.3　管理項目

を追加する」を参照してください。

9.2.2 管理項目の名称を変更する

各操作画面で，検索条件に指定したり，検索結果や集計結果に表示されたりする項目の名称を変更できます。

「製造者」の名称を「メーカー」に変更する場合を例に，管理項目の名称を変更する手順を次に示します。

1. **ハードウェア資産情報のクラス名「HardwareInfo」のアンカーをクリックする。**
   ハードウェア資産情報のプロパティ一覧が表示されます。
2. **製造者のプロパティ名「Developer」のアンカーをクリックする。**
   次の図に示す，プロパティの編集ダイアログが表示されます。

図 9-5 プロパティの編集ダイアログ（Developer）

3. **「表示名」に変更する名称「メーカー」を指定する。**
4. **［決定］ボタンをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティ一覧の「製造者」の名称が「メーカー」に変更されます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースに変更内容が反映されます。

注意事項

管理項目の名称を変更した場合，業務メニュー「インポート」のサンプルで提供されている条件が使用できなくなります。そのため，業務メニュー「インポート」のインポートの条件は新規に作成する必要があります。

9.2.3 管理項目を追加する

独自の管理項目を追加して，操作画面から実行する資産管理業務を拡張できます。

管理項目を追加する場合は，拡張するために用意されたプロパティ「固有情報」を利用

します。このプロパティ「固有情報」には，管理できる情報のタイプによって次の 5 種類があります。追加したい情報に合わせて選択してください。

● **固有情報** Fieldxxx

xxx の部分に示されたバイトまでの情報を管理できる項目です。値には，半角英数字，全角文字，および記号を指定できます。

● **固有情報** Area

255 バイトまでの情報を管理できる項目です。操作画面では，値を入力する欄が複数行で表示されます。値には，半角英数字，全角文字，および記号を指定できます。

● **固有情報** Code

64 バイトまでのコード情報を管理できる項目です。状態や種別など，分類したい情報をコードに対応づけて管理します。値には，半角英数字を指定できます。
また，この項目は検索条件にはプルダウンとして表示されます。指定する値と表示文字列は，コード管理画面で設定します。コード管理画面での操作方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8　種別や状態を追加および変更する（コード管理）」を参照してください。

● **固有情報** Uint

10 バイトまでの数値情報を管理できる項目です。値には，半角数字を指定できます。

● **固有情報** Date

8 バイトまでの日付情報を管理できる項目です。値には，半角英数字を指定できます。

(1) 以降で，「固有情報 Fieldxxx」，「固有情報 Area」，「固有情報 Code」，「固有情報 Uint」，「固有情報 Date」のそれぞれについて，管理項目の追加例を示します。

（1） 管理項目の追加例（固有情報 Fieldxxx の場合）

資産をグループに分けて管理するために，資産情報に「グループ」という項目を追加する場合を例に，管理項目を追加する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の「**AssetInfo**」のアンカーをクリックする。**
「AssetInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. **「プロパティ」の「**UserPropertyField128_1**」のアンカーをクリックする。**
次の図に示す，プロパティの編集ダイアログが表示されます。

図 9-6　**プロパティの編集ダイアログ**（UserPropertyField128_1）

3. **「表示名」の欄に，「グループ」と入力して，［決定］ボタンをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティの一覧の「固有情報 Field128-1」が「グループ」に変更されます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

4. **「UserPropertyField128_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。**
   操作画面に追加した管理項目「グループ」が表示されるようになります。

5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   変更内容が資産管理データベースに反映されます。

（2） 管理項目の追加例（固有情報 Area の場合）

保守履歴で詳細な内容を管理できるように，保守履歴に「詳細」という項目を追加する場合を例に，管理項目を追加する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の「Maintenance」のアンカーをクリックする。**
   「Maintenance」のプロパティの一覧が表示されます。

2. **「プロパティ」の「UserPropertyArea_1」のアンカーをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. **「表示名」の欄に，「詳細」を入力して，［決定］ボタンをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティの一覧の「固有情報 Area-1」が「詳細」に変更されます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

4. **「UserPropertyArea_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。**
   操作画面に追加した管理項目「詳細」が表示されるようになります。

5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   変更内容が資産管理データベースに反映されます。

（3） 管理項目の追加例（固有情報 Code の場合）

リプレースが決まっている機器を管理するために，ハードウェア資産情報に「リプレース対象」という項目を追加する場合を例に，管理項目を追加する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の「HardwareInfo」のアンカーをクリックする。**
   「HardwareInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. **「プロパティ」の「UserPropertyCode_1」のアンカーをクリックする。**

プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. **「表示名」の欄に，「リプレース対象」を入力して，［決定］ボタンをクリックする。**
プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティの一覧の「固有情報 Code-1」が「リプレース対象」に変更されます。

注意事項

この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

4. **「UserPropertyCode_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。**
操作画面に追加した管理項目「リプレース対象」が表示されるようになります。

5. **［更新］ボタンをクリックする。**
変更内容が資産管理データベースに反映されます。
このあと，業務メニュー「コード管理」を選択すると表示されるコード管理画面から，追加した管理項目「リプレース対象」の値（「はい」，「いいえ」）を追加してください。
「はい」，「いいえ」に対応づけるコードの追加方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1　コードを追加する」を参照してください。

（4） 管理項目の追加例（固有情報 Uint の場合）

資産情報で詳細な内容を管理できるように，資産情報に「レンタル料」という項目を追加する場合を例に，管理項目を追加する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の「AssetInfo」のアンカーをクリックする。**
「AssetInfo」のプロパティの一覧が表示されます。

2. **「プロパティ」の「UserPropertyUint_1」のアンカーをクリックする。**
プロパティの編集ダイアログが表示されます。

3. **「表示名」の欄に，「レンタル料」を入力して，［決定］ボタンをクリックする。**
プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティの一覧の「固有情報 Uint-1」が「レンタル料」に変更されます。

注意事項

この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

4. **「UserPropertyUint_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。**
操作画面に追加した管理項目「レンタル料」が表示されるようになります。

5. **［更新］ボタンをクリックする。**
変更内容が資産管理データベースに反映されます。

（5） 管理項目の追加例（固有情報 Date の場合）

資産情報で詳細な内容を管理できるように，資産情報に「レンタル開始日」という項目を追加する場合を例に，管理項目を追加する手順を次に示します。

1. **「管理クラス」の「AssetInfo」のアンカーをクリックする。**
   「AssetInfo」のプロパティの一覧が表示されます。
2. **「プロパティ」の「UserPropertyDate_1」のアンカーをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが表示されます。
3. **「表示名」の欄に，「レンタル開始日」を入力して，［決定］ボタンをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティの一覧の「固有情報 Date-1」が「レンタル開始日」に変更されます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。
4. **「UserPropertyDate_1」の「表示」チェックボックスをチェックする。**
   操作画面に追加した管理項目「レンタル開始日」が表示されるようになります。
5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   変更内容が資産管理データベースに反映されます。

9.2.4 ボタンやタブなどの名称，表示を変更する

操作画面に表示されるボタンやタブの名称，表示・非表示を変更できます。

ボタンおよびタブの名称，表示・非表示は，クラスのプロパティに対応しない検索条件，リストヘッダとともに，「VariousInfo」として管理されています。

「VariousInfo」に含まれる項目を次に示します。

- **Button（ボタン表示情報）**
  操作画面に表示されるボタン（［検索］ボタンなど）の表示情報です。
- **ConditionText（検索条件表示情報）**
  クラスのプロパティに対応しない検索条件（「集計単位」など）の表示情報です。
- **Text_ListHDR（リストヘッダ表示情報）**
  クラスのプロパティに対応しないリストヘッダ（「アドレス範囲」など）の表示情報です。
- **Text_TAB（タブ表示情報）**
  操作画面に表示されるタブ（「部署」，「設置場所」など）の表示情報です。
- **ValueText（その他表示情報）**
  上記以外のクラスのプロパティに対応しない表示情報です。

［PDF］ボタンの名称を「帳票印刷」に変更する場合を例に，ボタンの名称を変更する手順を次に示します。

1. **管理クラス「VariousInfo」のアンカーをクリックする。**
   「VariousInfo」に含まれる操作画面の要素の一覧が表示されます。
2. **管理クラス「Button」のアンカーをクリックする。**
   ボタンの一覧が表示されます。
3. **プロパティ「PDF」のアンカーをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが表示されます。
4. **「表示名」に変更する名称「帳票印刷」を指定する。**
5. **［決定］ボタンをクリックする。**
   プロパティの編集ダイアログが閉じて，プロパティ一覧の「PDF」の名称が「帳票印刷」に変更されます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。
6. **［更新］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースに変更内容が反映されます。
   変更した内容は，すべてのユーザ権限の操作画面に共通して反映されます。

非表示がデフォルトのボタンを表示する

管理項目編集では，デフォルトでは非表示となっているボタンを表示できます。
デフォルトが非表示の設定で用意されているボタン「Deletion2」または「Deletion3」を表示する設定にすると，次に示す操作画面にボタンが表示されます。

「Deletion2」

- ［機器詳細］ダイアログ
  ［削除（機器，契約）］ボタン
- 契約一覧画面
  ［削除（機器，契約）］ボタン
- ［契約詳細］ダイアログ
  ［削除（機器，契約）］ボタン

「Deletion3」

- ［契約履歴］ダイアログ
  ［削除（履歴情報）］ボタン

管理項目編集で表示する設定にすると，すべてのユーザ権限の操作画面に表示されます。特定の権限のユーザだけが利用できるようにするには，管理項目編集で表示

する設定にしたあと，業務フィルターで設定してください。業務フィルターでの操作画面の変更方法については，「9.3　ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）」を参照してください。

9.3　ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）

各操作画面の構成要素（ボタン，検索条件，編集項目など）を，ユーザ権限に応じて変更します。

例えば，利用者権限のユーザには契約情報を更新させないように，［契約詳細］ダイアログの［更新］ボタンを非表示にしたり，編集項目を変更できないようにしたりできます。また，検索条件や編集項目などの表示順序を変更することもできます。

業務フィルターでは，このようなユーザ権限に応じた業務内容の切り分けを，操作画面ごとに簡単に実現できます。なお，管理対象となっている項目は，管理項目編集画面の設定と連動して設定されます。

ユーザ権限に応じた操作画面の変更は，業務メニュー「業務フィルター」をクリックすると表示される業務フィルター画面から実行します。業務フィルター画面を次の図に示します。

図 9-7　業務フィルター画面

業務フィルター画面では，業務メニューに表示されている業務名と，各業務で使用する操作画面，さらに各操作画面に設定されている**書式**（各操作画面をカスタマイズした設定）が一覧で表示されます。

「画面名」の一覧から，書式を変更したい操作画面のアンカーをクリックすると，書式編集画面が表示されて，操作画面から実行する内容を変更できます。

これ以降の項で，書式の設定（ボタンや検索条件などの表示・非表示の設定など）について説明します。また，新しい書式の追加や書式名を変更，削除する方法についても説

明します。

9.3.1 書式を設定する

業務フィルターでは，各操作画面の書式に変更したい内容を設定します。

書式の設定方法，および設定時の注意事項を次に示します。

- 書式は操作画面ごとに設定します。操作画面はそれぞれ構成が異なるため，同じ書式を複数の操作画面で共有することはありません。
- 書式の名称は任意に設定できます。
- 書式を作成するときは，同時に複数の書式編集画面を表示して作成しないようにしてください。同時に複数の書式編集画面で書式を作成すると，書式を保存するタイミングによっては，同じ操作画面に対して同じ名称の書式が作成されることがあります。
- 書式は一つの操作画面に複数設定できます。例えば，管理者用と利用者用に二つ設定することができます。
- 一つの書式は複数のユーザ権限で共有できます。
- 一つの操作画面に対して，特定のユーザ権限を複数の書式で適用することはできません。例えば，同じ操作画面に設定した「書式 1」と「書式 2」の両方に，管理者権限を適用することはできません。

書式編集画面は，書式を設定する操作画面の種類によって，設定する項目が異なります。次に，操作画面の種類別に，書式の設定手順を示します。

(1) 登録，編集画面の書式設定手順

登録または編集をする画面（例えば，新規機器登録画面）の書式編集画面では，次の項目を設定します。手順 1. ～手順 3. は順不同です。

1. **「対象権限」を設定する。**
   書式を適用するユーザ権限を設定します。設定方法は「9.3.2　対象権限を設定する」を参照してください。
2. **「ボタン」を設定する。**
   ボタンの表示・非表示を設定します。設定方法は「9.3.3　使用するボタンを設定する」を参照してください。
3. **「編集項目」を設定する。**
   操作画面上に表示する項目，編集できる項目，さらに各項目の並び順を設定します。設定方法は「9.3.4　編集項目に表示する項目を設定する」を参照してください。
4. **すべての項目を設定し終わったら，［決定］ボタンをクリックする。**
   設定した内容が，書式を設定した操作画面に反映されて，書式編集画面が閉じます。
   登録または編集画面の書式編集画面を次の図に示します。

(2) 検索，集計画面の書式設定手順

検索または集計をする画面（例えば，保有機器一覧画面）の書式編集画面では，次の項目を設定します。手順 1. ～手順 4. は順不同です。

1. **「対象権限」を設定する。**
   書式を適用するユーザ権限を設定します。設定方法は「9.3.2　対象権限を設定する」を参照してください。
2. **「ボタン」を設定する。**
   ボタンの表示・非表示を設定します。設定方法は「9.3.3　使用するボタンを設定する」を参照してください。
3. **「検索条件」を設定する。**

検索条件の表示・非表示および並び順を設定します。設定方法は「9.3.5　検索条件に表示する項目を設定する」を参照してください。

4. **「検索結果リスト」を設定する。**
   検索結果リストに表示する項目，並び順および各項目の表示幅を設定します。
   集計結果リストに表示する項目の並び順や表示・非表示の設定を変更しても，集計のキーとなる項目は変更されません。
   設定方法は「9.3.6　検索結果リストに表示する項目を設定する」を参照してください。

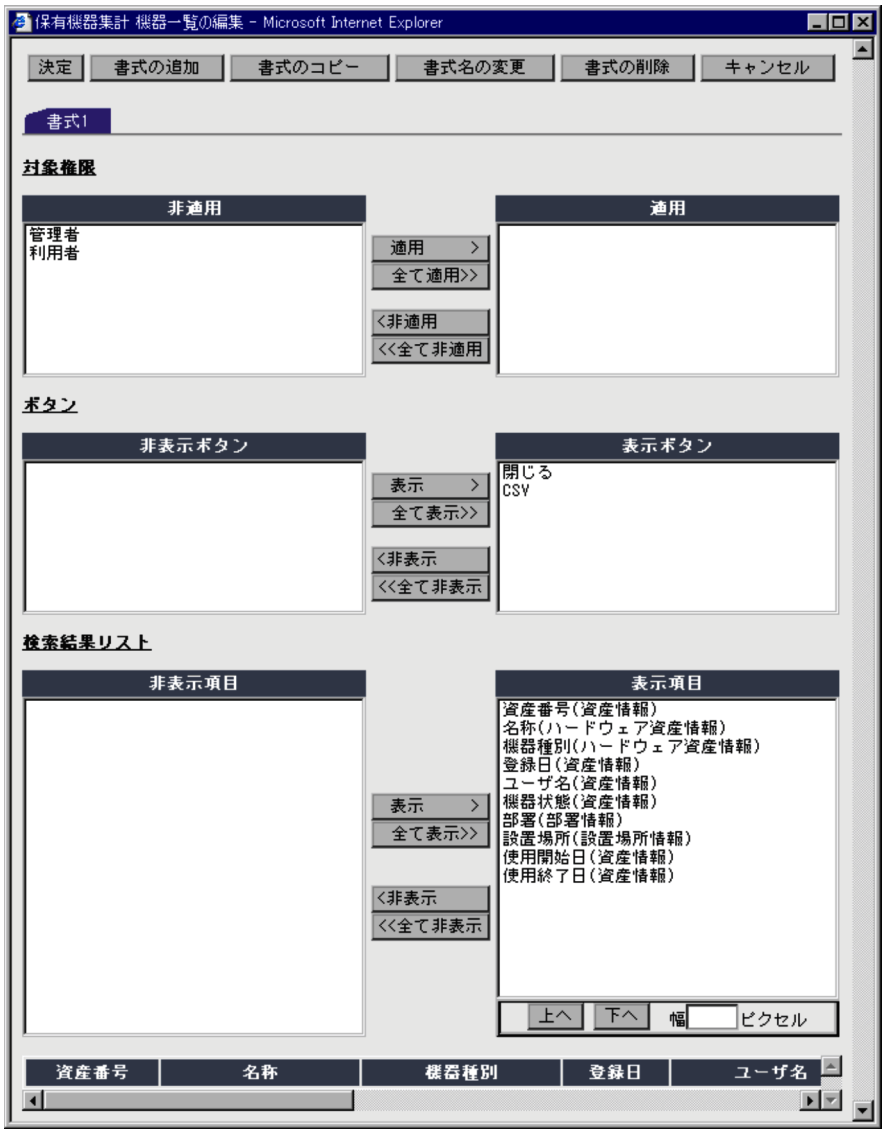
5. **すべての項目を設定し終わったら，［決定］ボタンをクリックする。**
   設定した内容が書式を設定した操作画面に反映されて，書式編集画面が閉じます。
   検索または集計をする画面の書式編集画面を次の図に示します。

保有機器一覧の編集 - Microsoft Internet Explorer
決定
書式の追加
書式のコピー
書式名の変更
書式の削除
キャンセル
書式1
対象権限
非適用
管理者
利用者
適用 >
全て適用>>
<非適用
<<全て非適用
適用
ボタン
非表示ボタン
表示 >
全て表示>>
<非表示
<<全て非表示
表示ボタン
CSV
図面
監視図
PDF
検索
検索条件
非表示項目
表示 >
全て表示>>
<非表示
<<全て非表示
表示項目
資産番号(資産情報)
機器種別(ハードウェア資産情報)
部署(部署情報)
設置場所(設置場所情報)
ユーザ名(資産情報)
登録日(資産情報)
使用開始日(資産情報)
使用終了日(資産情報)
名称(ハードウェア資産情報)
機器状態(資産情報)
CPUクロック数(ハードウェア資産情報)
モニタ種別(ハードウェア資産情報)
モニタサイズ(ハードウェア資産情報)
メモリサイズ(ハードウェア資産情報)
ディスク容量(ハードウェア資産情報)
仕様(ハードウェア資産情報)
上へ
下へ
検索結果リスト
非表示項目
表示 >
全て表示>>
<非表示
<<全て非表示
表示項目
資産番号(資産情報)
機器種別(ハードウェア資産情報)
名称(ハードウェア資産情報)
ユーザ名(資産情報)
登録日(資産情報)
機器状態(資産情報)
部署(部署情報)
設置場所(設置場所情報)
使用開始日(資産情報)
使用終了日(資産情報)
CPUクロック数(ハードウェア資産情報)
モニタ種別(ハードウェア資産情報)
モニタサイズ(ハードウェア資産情報)
メモリサイズ(ハードウェア資産情報)
ディスク容量(ハードウェア資産情報)
仕様(ハードウェア資産情報)
上へ
下へ
幅
ピクセル
資産番号
機器種別
名称
ユーザ名

(3) 集計結果から表示する内訳画面の書式設定手順

集計結果から表示する内訳画面（例えば，保有機器集計画面の集計結果から表示する部署や設置場所ごとの機器種別の内訳が表示される操作画面）の書式編集画面では，次の項目を設定します。手順 1. ～手順 3. は順不同です。

1. **「対象権限」を設定する。**
   書式を適用するユーザ権限を設定します。設定方法は「9.3.2　対象権限を設定する」を参照してください。
2. **「ボタン」を設定する。**
   ボタンの表示・非表示を設定します。設定方法は「9.3.3　使用するボタンを設定する」を参照してください。
3. **「検索結果リスト」を設定する。**
   検索結果リストに表示する項目，並び順および各項目の表示幅を設定します。
   集計結果リストに表示する項目の並び順や表示・非表示の設定を変更しても，集計のキーとなる項目は変更されません。
   設定方法は「9.3.6　検索結果リストに表示する項目を設定する」を参照してください。
4. **すべての項目を設定し終わったら，［決定］ボタンをクリックする。**
   設定した内容が書式を設定した操作画面に反映されて，書式編集画面が閉じます。
   集計結果から表示する内訳画面の書式編集画面を次の図に示します。



9.3.2 対象権限を設定する

書式を適用するユーザ権限は，書式編集画面の「対象権限」で設定します。

対象権限を設定するには，適用したいユーザ権限を「非適用」の一覧から選択して，［適用］ボタンをクリックします。すべてのユーザ権限を適用するには，［全て適用］ボタンをクリックします。

「適用」の一覧に，選択したユーザ権限が移動して対象権限が設定されます。

なお，対象権限から外す場合は，該当するユーザ権限を「適用」の一覧から選択して，［非適用］ボタンをクリックします。すべてのユーザ権限を非適用にするには，［全て非適用］ボタンをクリックします。

一つの操作画面に複数の書式を設定する場合

各操作画面で，一つのユーザ権限に適用できる書式は一つだけです。ほかの書式の対象権限に設定されているユーザ権限は，権限名のあとに［］で囲んで適用されている書式名が表示されます。

すでに対象権限に設定されているユーザ権限を，ほかの書式で適用することもできますが，元の書式の対象権限からは自動的に外されるので注意してください。

9.3.3 使用するボタンを設定する

操作画面で使用するボタンは，次の図に示す書式編集画面の「ボタン」で設定します。

操作画面で使用するボタンを設定するには，使用したいボタンを「非表示ボタン」の一覧から選択して，［表示］ボタンをクリックします。すべてのボタンを使用するには，［全て表示］ボタンをクリックします。

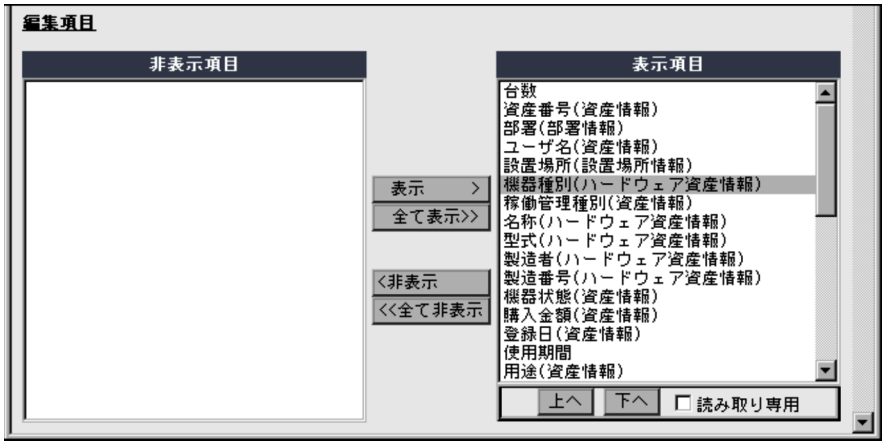
「表示ボタン」の一覧に選択したボタンが移動して，使用できるようになります。

なお，非表示にする場合は，該当するボタンを「表示ボタン」の一覧から選択して，［非表示］ボタンをクリックします。すべてのボタンを非表示にするには，［全て非表示］ボ

タンをクリックします。

9.3.4　編集項目に表示する項目を設定する

新規に資産情報を登録する画面や，編集可能なダイアログに，項目を表示するかどうか，および編集可能にするかどうかを設定します。編集項目に関する設定は，次の図に示す書式編集画面の「編集項目」で設定します。



「非表示項目」の一覧には，「項目名（クラス名)」の形式でそれぞれの操作画面で編集項目に設定できる項目が表示されています。

「表示項目」の一覧の中で，背景がグレー表示されている項目は，システム規定項目のため，非表示および読み取り専用に変更できません。

(1) 編集項目の表示・非表示を設定する

ユーザ権限に応じて，公開したくない情報や業務に関係ない項目を非表示にできます。

編集項目に表示する項目を設定するには，表示したい編集項目を「非表示項目」の一覧から選択して，［表示］ボタンをクリックします。すべての項目を表示するには，［全て表示］ボタンをクリックします。

「表示項目」の一覧に選択した項目が移動して，表示されるようになります。

なお，非表示にする場合は，該当する項目を「表示項目」の一覧から選択して，［非表示］ボタンをクリックします。すべての項目を非表示にするには，［全て非表示］ボタンをクリックします。

注意事項

「編集項目」で設定できるのは，管理項目編集で利用する設定になっている項目だけです。「編集項目」で設定する項目を追加したい場合は，管理項目編集画面での設定を見直してください。

管理対象の項目を変更する方法については，「9.2.1　管理対象の項目を変更する」を

参照してください。

(2) 編集項目の並び順を設定する

編集項目は「表示項目」の一覧に表示されている順番で，画面に表示されます。この並び順を，必ず指定する項目を上にするなど，使い方に合わせて変更できます。

編集項目の並び順を変更するには，変更したい編集項目を「表示項目」の一覧から選択して，［上へ］または［下へ］ボタンをクリックします。

複数の編集項目を選択して，一度に並び順を変更することはできません。一つずつ変更してください。

(3) 編集項目を読み取り専用に設定する

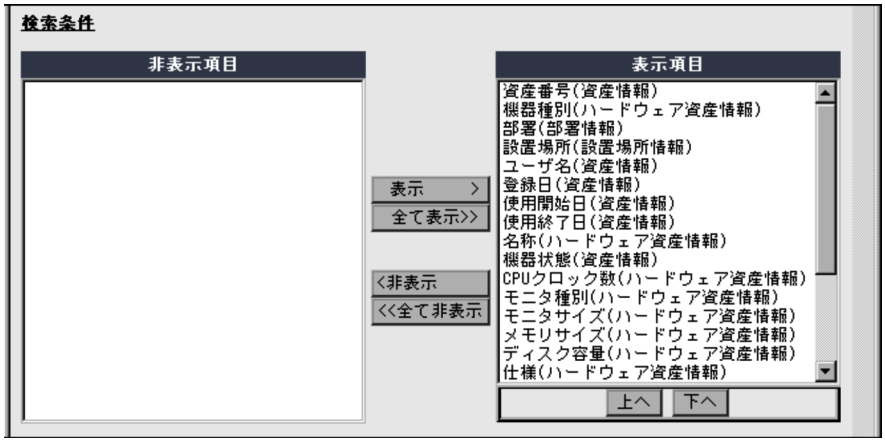
「表示項目」の一覧に表示されている編集項目は，読み取り専用（編集不可）に設定できます。利用者権限のユーザに更新させたくない項目や，更新する必要のない項目を編集できないようにして，誤操作を防げます。

編集項目を読み取り専用に設定するには，設定したい編集項目を「表示項目」の一覧から選択して，「読み取り専用」のチェックボックスをチェックします。

読み取り専用に設定された編集項目は，赤文字で表示されます。

9.3.5 検索条件に表示する項目を設定する

資産情報を検索または集計する画面に表示する，検索条件を設定します。検索条件に関する設定は，次の図に示す書式編集画面の「検索条件」で設定します。



「表示項目」の一覧の中で，背景がグレー表示されている項目は，非表示に変更できません。

(1) 検索条件の表示・非表示を設定する

検索条件に表示する項目を設定するには，表示したい検索条件を「非表示項目」の一覧から選択して，［表示］ボタンをクリックします。すべての項目を表示するには，［全て表示］ボタンをクリックします。

「表示項目」の一覧に選択した項目が移動して，表示されるようになります。

なお，非表示にする場合は，該当する項目を「表示項目」の一覧から選択して，［非表示］ボタンをクリックします。すべての項目を非表示にするには，［全て非表示］ボタンをクリックします。

注意事項

「検索条件」で設定できるのは，管理項目編集で利用する設定になっている項目だけです。「検索条件」で設定する項目を追加したい場合は，管理項目編集画面での設定を見直してください。
管理対象の項目を変更する方法については，「9.2.1　管理対象の項目を変更する」を参照してください。

(2) 検索条件の並び順を設定する

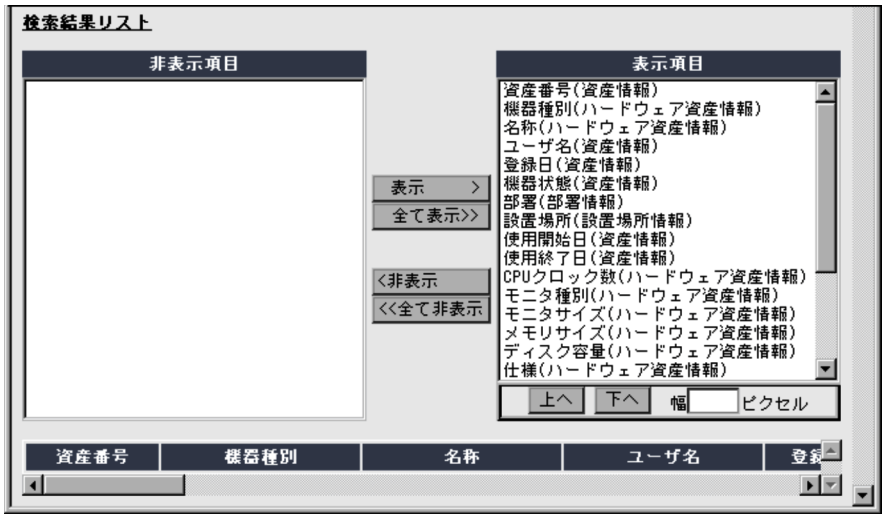
検索条件は「表示項目」の一覧に表示されている順番で，画面に表示されます。この並び順を，よく使用する項目を上にするなど，使い方に合わせて変更できます。

検索条件の並び順を変更するには，変更したい検索条件を「表示項目」の一覧から選択して，［上へ］または［下へ］ボタンをクリックします。

複数の検索条件を選択して，一度に並び順を変更することはできません。一つずつ変更してください。

9.3.6　検索結果リストに表示する項目を設定する

資産情報を検索または集計した結果のリストに表示する項目，項目の並び順，および表示幅を設定します。検索結果リストに関する設定は，次の図に示す書式編集画面の「検索結果リスト」で設定します。



(1) 検索結果リストの表示・非表示を設定する

検索結果リストに表示する項目を設定するには，表示したい項目を「非表示項目」の一覧から選択して，［表示］ボタンをクリックします。すべての項目を表示するには，［全て表示］ボタンをクリックします。

「表示項目」の一覧に選択した項目が移動して，表示されるようになります。

なお，非表示にする場合は，該当する項目を「表示項目」の一覧から選択して，［非表示］ボタンをクリックします。すべての項目を非表示にするには，［全て非表示］ボタンをクリックします。

注意事項

「検索結果リスト」で設定できるのは，管理項目編集で利用する設定になっている項目だけです。「検索結果リスト」で設定する項目を追加したい場合は，管理項目編集画面での設定を見直してください。

管理対象の項目を変更する方法については，「9.2.1　管理対象の項目を変更する」を参照してください。

(2) 検索結果リストの並び順を設定する

検索結果リストは，「表示項目」の一覧に表示されている順で，画面の左から右に表示されます。この並び順を，重要な項目をいちばん左に表示するなど，使い方に合わせて変更できます。

検索結果リストの並び順を変更するには，変更したい項目を「表示項目」の一覧から選択して，［上へ］または［下へ］ボタンをクリックします。左に表示させたい場合は上，右に表示させたい場合は下に移動させます。

複数の項目を選択して，一度に並び順を変更することはできません。一つずつ変更してください。

(3) 検索結果リストの項目の幅を設定する

「検索結果リスト」の一覧に表示されている項目は，表示幅を設定できます。デフォルトの表示幅が広過ぎる場合に表示幅を狭めたり，折り返して表示されないようにしたりできます。

検索結果リストの表示幅を設定するには，設定したい項目を「表示項目」の一覧から選択して，0 ～ 999 の数値（ピクセル）を入力します。0 または数値を何も入力しないと，画面のサイズに合わせて自動的に調整されます。

なお，保有機器集計画面の集計結果で，「集計観点」で選択した項目の表示幅を変更したい場合，「表示項目」の「機器種別（ハードウェア資産情報）」の表示幅を設定してください。「集計観点」で「機器種別」以外を選択した場合も，この幅で表示されます。

9.3.7 書式を追加する

書式は，一つの操作画面に複数設定できます。例えば，管理者用と利用者用に二つ設定することができます。

一つの操作画面に対して，特定のユーザ権限を複数の書式で適用することはできません。例えば，同じ操作画面に設定した「書式 1」と「書式 2」の両方に，管理者権限を適用することはできません。

新しく書式を追加する手順を次に示します。

1. **書式編集画面の［書式の追加］ボタンをクリックする。**
   書式名を指定するダイアログが表示されます。
   書式名は任意に設定できます。ただし，同じ操作画面に対して，同じ名称は設定できません。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **書式名を指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   指定した名称で，新しい書式を設定するタブが追加されます。
   書式編集画面の各項目で，書式を設定してください。

9.3.8 書式をコピーする

すでに設定してある書式をコピーして，書式を追加します。既存の書式を基に，さらに制限を加えたい場合などに使用すると便利です。

既存の書式をコピーする手順を次に示します。

1. **書式編集画面で，コピーしたい書式を選択する。**
2. **［書式のコピー］ボタンをクリックする。**
   書式名を指定するダイアログが表示されます。
   書式名は任意に設定できます。ただし，同じ操作画面に対して，同じ名称は設定できません。

キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

3. **書式名を指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   指定した名称で，選択した書式がコピーされます。ただし，「対象権限」だけは，設定がリセットされます。
   書式編集画面の各項目で，書式を設定してください。

9.3.9 書式の名称を変更する

既存の書式の名称を変更する手順を次に示します。

1. **書式編集画面の［書式名の変更］ボタンをクリックする。**
   書式名を変更するためのダイアログが表示されます。
   書式名は任意に設定できます。ただし，同じ操作画面に対して，同じ名称は設定できません。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **変更する書式名を指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   指定した名称で，書式名が変更されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
3. **［決定］ボタンをクリックする。**
   変更した内容が，操作画面に反映されます。

9.3.10 書式を削除する

作成したすべての書式を一括して削除する方法と，特定の書式を指定して削除する方法について説明します。

(1) 書式を一括削除する

作成したすべての書式を削除して画面の設定を初期化するには，業務フィルター画面で，［書式を初期化］ボタンをクリックします。

(2) 指定した書式を削除する

指定した書式を削除する手順を次に示します。

1. **書式編集画面で，削除したい書式を選択する。**
2. **［書式の削除］ボタンをクリックする。**
   確認ダイアログが表示されます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   選択した書式が削除されます。
   すべての書式が削除された場合でも，次回この画面を表示すると，初期設定の「書式1」が表示された状態に戻ります。

キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

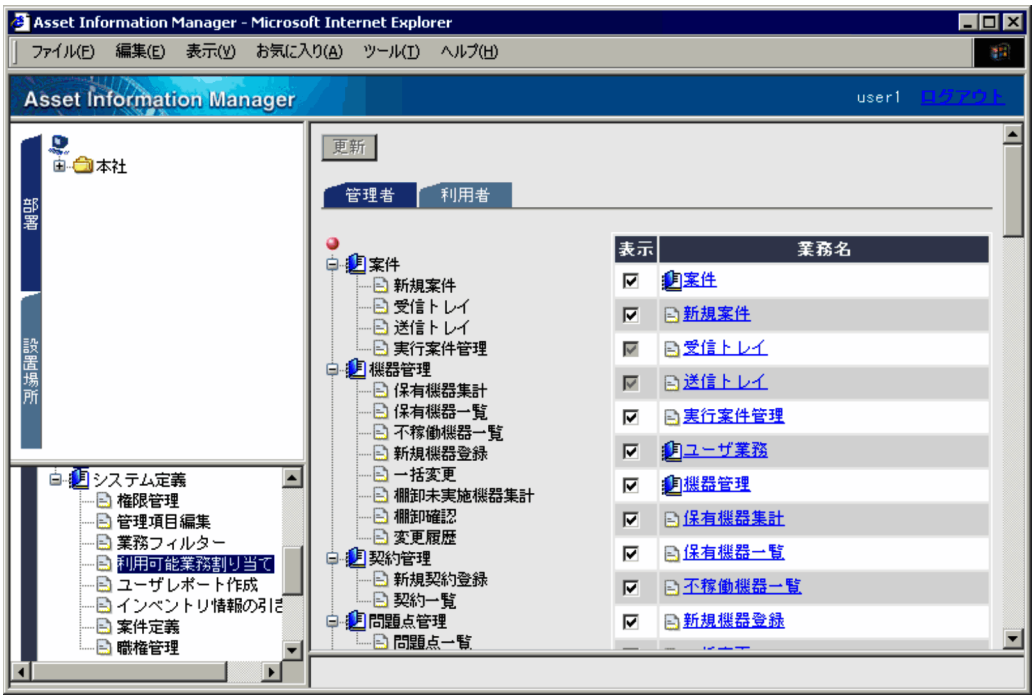
4. **［決定］ボタンをクリックする。**
   書式の削除が，操作画面に反映されます。

9.4　実行できる業務の変更（利用可能業務割り当て）

業務メニューの表示・非表示を設定することによって，ユーザ権限に応じて実行できる業務を変更できます。また，業務メニューの名称を変更したり，新しく業務カテゴリを追加したりすることもできます。

ユーザ権限に応じた業務の割り当ては，業務メニュー「利用可能業務割り当て」をクリックすると表示される利用可能業務割り当て画面から変更できます。利用可能業務割り当て画面を次の図に示します。

図 9-8　利用可能業務割り当て画面



ユーザ権限別にタブで分かれて，利用できる業務メニューと設定内容が表示されます。

9.4.1　実行できる業務を変更する

ユーザ権限に対して割り当てられている業務を変更できます。ただし，この利用可能業務を割り当てる作業を，管理者以外の権限に割り当てることはできません。

「新規ソフトウェア登録」を管理者だけが実行できるように変更する場合を例に，ユーザ権限に応じて業務を割り当てる手順を次に示します。

1.**「利用者」タブをクリックする。**

利用者の業務を割り当てる画面が表示されます。

2. **「新規ソフトウェア登録」の「表示」チェックボックスのチェックを外す。**
   左側のプレビュー領域から，「新規ソフトウェア登録」が消えます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

3. **［更新］ボタンをクリックする。**
   利用者の権限を持つユーザの操作画面には，業務メニュー「新規ソフトウェア登録」が表示されなくなります。
   再度，業務メニュー「新規ソフトウェア登録」を利用したい場合は，「表示」チェックボックスをチェックすれば，利用できるようになります。

「機器管理」など，業務カテゴリの「表示」チェックボックスのチェックを外すと，その下位の業務メニューもすべて表示されなくなります。

業務カテゴリ「案件」の表示 / 非表示

業務カテゴリ「案件」以下の業務メニュー「受信トレイ」および「送信トレイ」は，業務カテゴリ「案件」を表示すると，必ず表示されます。

9.4.2 業務メニューの名称を変更する

「機器管理」を「ハードウェア管理」に変更する場合を例に，業務メニューの名称を変更する手順を次に示します。

なお，業務メニューの名称を変更すると，ほかのユーザ権限でも同様に変更されます。

1. **「業務名」の「機器管理」のアンカーをクリックする。**
   次の図に示す，業務名の変更ダイアログが表示されます。

図 9-9 業務名の変更ダイアログ

2. **「業務名」に「ハードウェア管理」と入力して，［決定］ボタンをクリックする。**
   左側のプレビュー領域の業務名が「機器管理」から「ハードウェア管理」に変更されます。

   注意事項

   この時点では，変更内容はまだ資産管理データベースに反映されていません。別の業務メニューを選択したり，WWW ブラウザを終了したりすると，変更内容は破棄されます。

3. **［更新］ボタンをクリックする。**
   変更内容が資産管理データベースに反映されて，業務メニューが変更されます。

9.4.3 業務カテゴリを追加する

業務メニューは「機器管理」,「契約管理」などの業務カテゴリで分かれていますが，既存の業務カテゴリに加えて，ユーザ拡張用の業務カテゴリ「ユーザ業務 1」～「ユーザ業務 8」を利用できます。

これらの新しい業務カテゴリは，作成したユーザレポートを「ユーザ業務 1」～「ユーザ業務 8」の業務カテゴリに登録することで表示されます。既存の業務メニューと別の業務カテゴリで管理したい場合に便利です。

ユーザレポートの登録手順については，「9.5.8　作成したユーザレポートを登録する」を参照してください。

また，ユーザ拡張用カテゴリの業務名は，既存の業務カテゴリと同様に変更できます。

9.5　定型業務に合わせた操作画面の追加（ユーザレポート作成）

Asset Information Manager で提供されている操作画面のほかに，独自の情報を検索するための操作画面（**ユーザレポート**）を追加できます。

ユーザレポートとして作成できるのは，資産管理データベースで管理している資産情報を検索して，一覧を出力する操作画面です。データを登録したり，集計したりする操作画面は作成できません。

追加した操作画面は，ほかの操作画面と同じように，業務メニューに追加されたメニューから表示します。また，利用可能業務割り当て画面で，ユーザ権限に応じて割り当てることもできます。

操作画面は，業務メニュー「ユーザレポート作成」をクリックすると表示されるユーザレポート作成画面から追加できます。ユーザレポート作成画面を次の図に示します。

図 9-10　ユーザレポート作成画面

この画面からユーザレポートの作成を開始します。新規に作成する場合は，［新規登録］ボタンをクリックします。

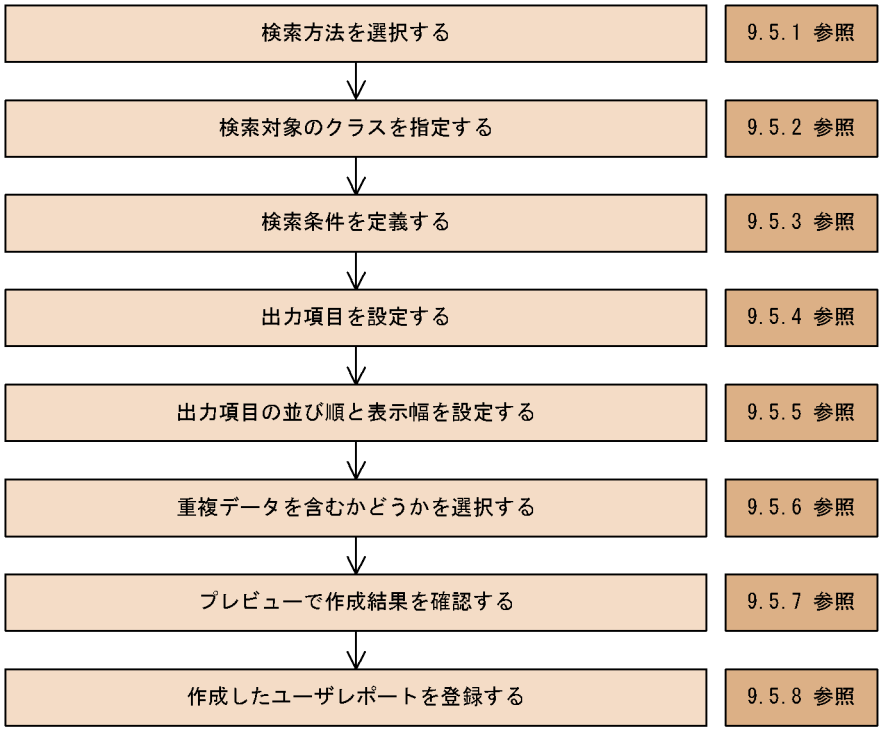
既存のユーザレポートを編集する場合は，業務メニューのツリーから，編集したいユーザレポートを選択して［編集］ボタンをクリックします。既存のユーザレポートを削除する場合は，業務メニューのツリーから，削除したいユーザレポートを選択して［削除］

ボタンをクリックします。

作成したユーザレポートは，コマンドラインから実行することもできます。コマンドラインからユーザレポートを実行する場合は，検索条件を定義するときに，引数に使用する変数名をわかりやすい名称にすると便利です。

これ以降の項で，ユーザレポートを作成するための各手順について説明します。

図 9-11　ユーザレポートを作成するための手順



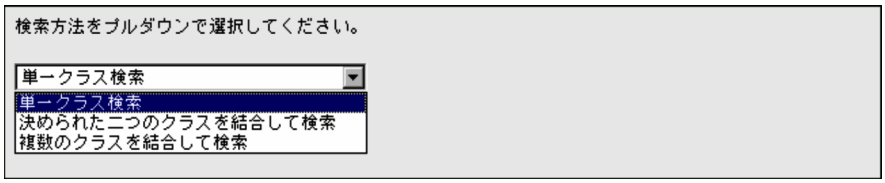
作成例に沿ってユーザレポートを作成する場合は，「9.5.12　ユーザレポートの作成例」を参照してください。

9.5.1　検索方法を選択する

ユーザレポート作成画面で，［新規登録］ボタンをクリックすると表示される画面で，操作画面でどのような情報を検索したいかによって，検索方法を選択します。

次の図に示すプルダウンに表示される項目の中から，検索方法を選択して［次へ］ボタンをクリックします。

図 9-12 検索方法の指定欄



(1) 検索方法の種類

資産管理データベースの資産情報を検索する方法には，次の 3 種類があります。

● 単一クラス検索

一つのクラスの情報だけを検索する方法です。

● 決められた二つのクラスを結合して検索

アソシエーションクラスで関連づけられているクラスの情報を検索する方法です。

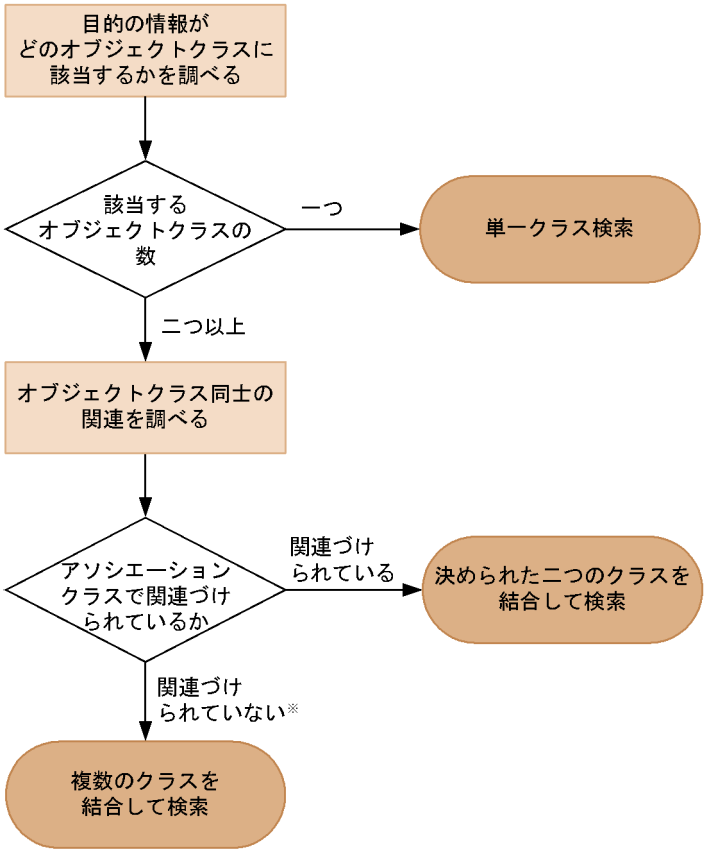
● 複数のクラスを結合して検索

アソシエーションクラスで関連づけられていないクラスの情報を検索する方法です。新しいクラス同士の関連づけを定義して検索したり，三つ以上のクラスを関連づけて検索したりする場合は，この方法を選択します。

(2) 検索方法を決定する手順

検索方法を決定する手順を次の図に示します。

図 9-13　検索方法の決定手順



注※　該当するオブジェクトクラスが三つ以上の場合も含みます。

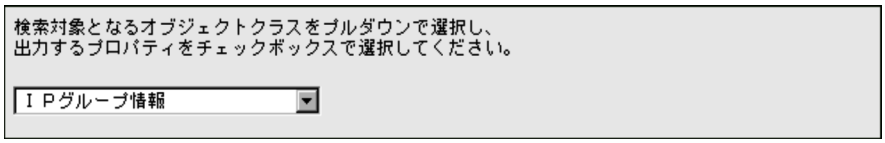
クラスの詳細およびクラス間の関連については，「13.　管理情報の詳細」を参照してください。

9.5.2　検索対象のクラスを指定する

検索方法を選択したら，次に目的の情報が含まれるクラスを指定します。

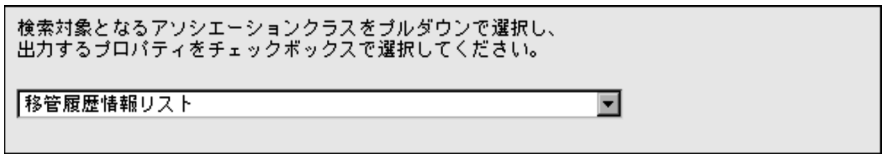
● 検索方法で「単一クラス検索」を選択した場合

次の図に示す指定欄で，オブジェクトクラスの中から選択します。



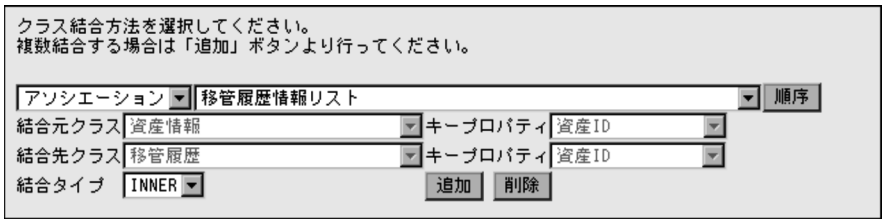
● 検索方法で「決められた二つのクラスを結合して検索」を選択した場合

次の図に示す指定欄で，アソシエーションクラスの中から選択します。



● 検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合

次の図に示す指定欄で，「アソシエーションクラス」または「クラス指定」を選択してから，目的の情報が含まれるクラスを指定します。



「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合のクラスの指定方法については，「9.5.9 クラスの結合方法の指定」を参照してください。

9.5.3　検索条件を定義する

検索条件は，次の図に示す「画面」タブの各項目で定義します。

図 9-14　検索条件の定義項目（「画面」タブ）

1.「条件欄表示」
検索条件を操作画面に表示するかどうかを設定します。チェックボックスにチェックすると，操作画面で検索条件を指定できるようになります。
また，チェックボックスにチェックすると，「値」の指定欄が非活性になります。
2.「カラム」
検索したい情報を指定します。プルダウンには，「クラス名 . プロパティ名」で表示されます。
3.「条件式」
「カラム」に指定したプロパティと「値」の関係を，次の中から指定します。
部署または設置場所を検索条件に指定する場合は，常に前方一致で検索されます。

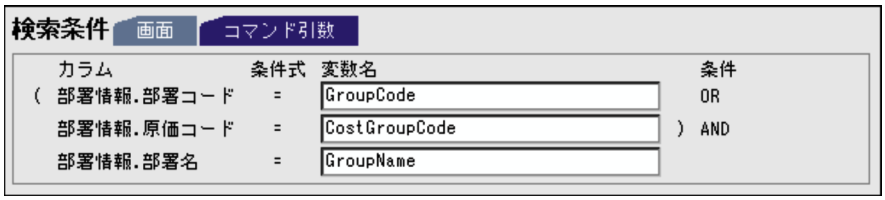
=（と等しい），!=（と等しくない），>=（以下），<=（以上），>（より大きい），<（より小さい），LIKE（を含む），NOT_LIKE（を含まない）

4.「値」
「カラム」で指定した情報に対して，値が決まっている場合に指定します。
「条件欄表示」のチェックボックスにチェックして，操作画面で指定する場合は，この指定欄は非活性になります。
コードで定義されているプロパティの値は，コードで指定してください。
5.「条件」
複数の検索項目を設定する場合に，各検索項目をつなぐ条件を「AND」または「OR」から指定します。
6. 括弧
複数の検索項目を括弧で囲む場合に指定します。ただし，二重括弧は指定できません。
7.［追加］ボタン
クリックすると，検索項目の指定欄を追加できます。

引数に使用する変数名の定義

作成したユーザレポートと同じ検索をコマンドラインから実行する場合は，操作画面上で指定する条件を，引数として指定します。その際，各検索条件を変数名で表します。
「コマンド引数」タブでは，引数を指定するときに使用する変数名をわかりやすい名称に変更できます。「コマンド引数」タブを次の図に示します。

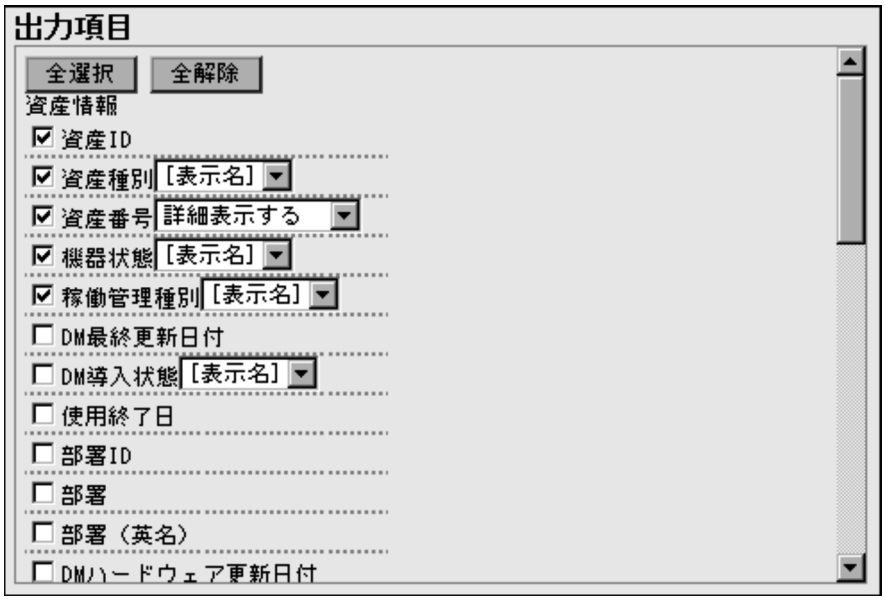
図 9-15 検索条件の定義項目（「コマンド引数」タブ）



「画面」タブで定義した検索条件のうち，「条件欄表示」のチェックボックスにチェックされた条件に対応する変数名を定義します。デフォルトでは，「Variant*n*」（*n* は 1 から順番に採番されます）が設定されています。
変数名に指定できるのは，1 ～ 32 バイトの半角英数字で，大文字と小文字は区別されます。なお，同じ変数名は複数指定できません。

9.5.4 出力項目を設定する

次の図に示す指定欄で，検索結果の一覧に出力したい項目を設定します。



検索対象に指定したクラスに応じて，「出力項目」に指定できる情報が表示されます。検索結果の一覧に出力したい項目のチェックボックスをチェックします。

検索結果の一覧から詳細情報を表示する設定

保有機器一覧の検索結果のように，検索結果の一覧から詳細情報をダイアログで表示するかどうかを設定できます。

検索結果の一覧から表示できるのは，［機器詳細］ダイアログ，［ソフトウェア詳細］ダイアログおよび［契約詳細］ダイアログです。

資産情報の「資産番号」および契約情報の「契約 ID」を出力項目に指定する際に，「詳細表示する」または「詳細表示しない」を選択します。

コードで定義されているプロパティの表示方法

コードで定義されているプロパティの値は，通常の表示方法に加えて，コードの表示名，値，またはその両方を表示するかどうかも選択できます。例えば，「機器状態」の場合，「在庫」や「運用」が「表示名」，「1」や「2」が「値」となります。

9.5.5 出力項目の並び順と表示幅を設定する

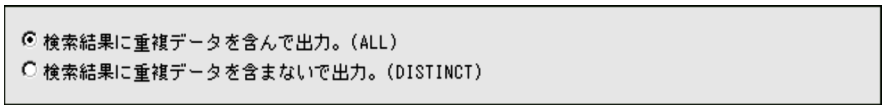
次の図に示す「画面表示情報」欄で，検索結果の一覧に表示する項目の並び順と表示幅を設定します。

項目の並び順は，「表示項目」の一覧の順に左から並びます。並び順を変更する場合は，「表示項目」の一覧で変更したい項目を選択して，［上へ］ボタンまたは［下へ］ボタンをクリックします。

表示幅を変更する場合は，「表示項目」の一覧で変更したい項目を選択して，「幅」に 0 ～ 999 の数値を指定します。デフォルトは 150 ピクセルです。

9.5.6 重複データを含むかどうかを選択する

検索結果に重複したデータが含まれる場合，重複結果を含んだまま出力するかどうかを選択します。この項目は，検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択したときだけ設定します。重複データを含むかどうかの指定欄を次の図に示します。



「検索結果に重複データを含んで出力」または「検索結果に重複データを含まないで出力」のどちらかを選択してください。デフォルトでは，「検索結果に重複データを含んで出力」が選択されています。

9.5.7 プレビューで作成結果を確認する

検索方法，対象とするクラス，検索条件，出力項目，および重複データを含むかどうかの設定が，正しくできているかどうかをプレビューで確認します。

［プレビュー］ボタンをクリックすると，作成した操作画面が表示されて，実際に検索を実行して検索結果を確認できます。

「複数のクラスを結合して検索」を選択してレポートを作成する場合は，結合方法によって「スクリプトの実行中にエラーが発生しました。」や「データベースのアクセスで障害が発生したため処理を継続できません。」と画面に表示されることがあります。ユーザレポートを登録する前に，あらかじめプレビュー画面で検索を実行して，正しく検索結果が得られることを確認してください。

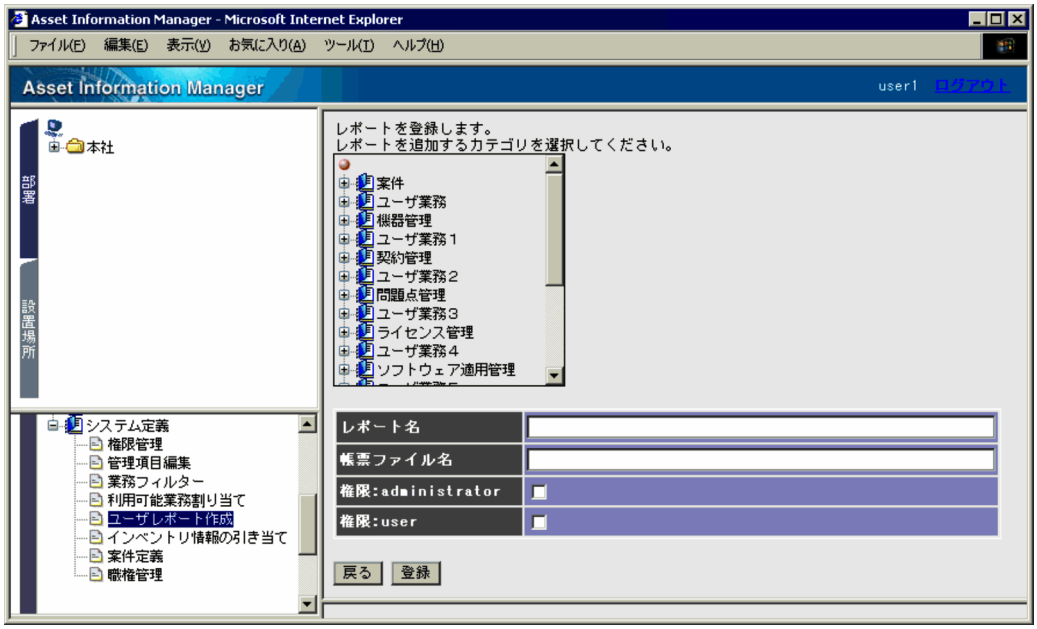
また，「登録するデータサイズが最大長を超えています。」というメッセージが表示された場合は，指定した検索条件や出力項目のデータサイズが使用しているデータベースの最大長を超えています。指定する検索条件や出力項目を減らしてください。

9.5.8　作成したユーザレポートを登録する

作成したユーザレポートを登録します。登録すると，ほかの業務と同じように，業務メニューから選択して表示できるようになります。

ユーザレポートは，検索条件を定義する画面で［次へ］ボタンをクリックすると表示される画面で登録します。ユーザレポート登録画面を次の図に示します。

図 9-16　ユーザレポート登録画面



ユーザレポートの登録手順を次に示します。

1. **業務のカテゴリを選択する。**
   ユーザレポートを追加する業務メニューのカテゴリを，ツリーから選択します。何も選択しないと，カテゴリと同じ階層に追加されます。

2. **「レポート名」，「帳票ファイル名」および利用できる権限を設定する。**
   ユーザレポートの名称，PDF 形式の帳票を出力するかどうか，および利用できるユーザ権限を設定します。
   - **レポート名**
     任意の名称を指定します。指定を省略すると，自動的に付けられた ID が名称として設定されます。
     作成したユーザレポートをコマンドラインから実行する場合は，重複しない名称を

指定してください。同一の名称が複数あるユーザレポートは，コマンドラインから実行できないので，注意してください。

- **帳票ファイル名**
  検索結果を PDF ファイルの帳票として出力する場合，EUR で作成した帳票ファイル（拡張子「.fms」）を指定します。ここで指定した帳票ファイルは，必ず Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥eur に格納してください。
  帳票ファイルの作成方法については，EUR のマニュアルを参照してください。また，PDF ファイルの帳票を出力するために必要な設定については，「5.3　資産管理サーバの設定」を参照してください。
- **権限**
  作成したユーザレポートを使用するユーザ権限のチェックボックスをチェックします。指定を省略すると，業務メニューには追加されません。

一度登録したユーザレポートの「レポート名」，「帳票ファイル名」および権限の設定内容は，ユーザレポート作成画面または利用可能業務割り当て画面で変更できます。

3. **［登録］ボタンをクリックする。**
   作成したユーザレポートが登録されます。

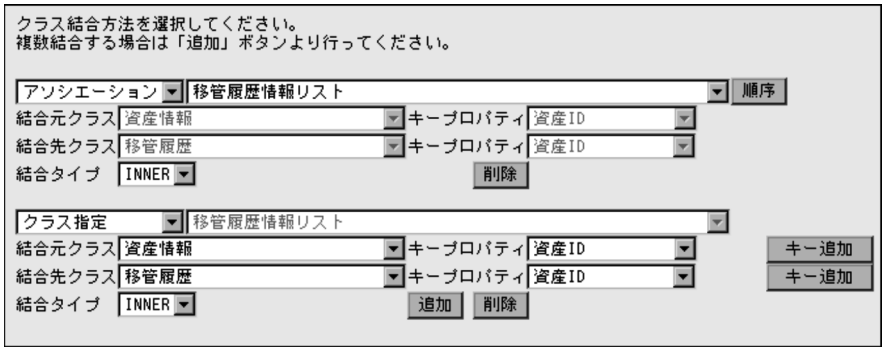
注意事項

「複数のクラスを結合して検索」を選択してレポートを作成した場合は，結合方法によって「スクリプトの実行中にエラーが発生しました。」や「データベースのアクセスで障害が発生したため処理を継続できません。」と画面に表示されることがあります。レポートを登録する前に，あらかじめプレビュー画面で検索を実行して，正しく検索結果が得られることを確認してください。

9.5.9　クラスの結合方法の指定

クラスの結合方法は，検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合にだけ指定します。クラスの結合方法を新しく定義して，独自の検索条件の操作画面を作成できます。検索方法で「複数のクラスを結合して検索」を選択した場合の，クラスの結合方法の指定欄を次の図に示します。

図 9-17　クラスの結合方法の指定欄



クラスの結合方法は，次の 2 種類から選択します。

● アソシエーション

アソシエーションクラスとして関連づけられているオブジェクトクラスを検索する場合に選択します。

この結合方法を選択すると，アソシエーションクラスとして関連づけられているオブジェクトクラスの内容で，「結合元クラス」，「結合先クラス」およびそれぞれの「キープロパティ」の値が指定されます。

● クラス指定

アソシエーションクラスとして関連づけられていないオブジェクトクラス同士を結合して検索する場合に選択します。

この結合方法を選択すると，「結合元クラス」，「結合先クラス」およびそれぞれの「キープロパティ」を指定するプルダウンが活性化されます。

結合元クラスと結合先クラスの順序

三つ以上のクラスを結合する場合は，結合元クラスと結合先クラスの順序を正しく指定する必要があります。クラス A とクラス B を結合させ，さらにクラス B とクラス C を結合させる場合，次のように指定します。

- クラス A とクラス B の結合
  クラス A を結合元クラスに指定します。
- クラス B とクラス C の結合
  クラス B を結合元クラスに指定します。

クラスの結合方法で「アソシエーション」を選択した場合は，［順序］ボタンで結合元クラスと結合先クラスの順序を入れ替えてください。

キープロパティの追加と削除

複数の項目で検索対象を特定する必要があるときには，キープロパティを追加します。キープロパティの追加は，クラスの結合方法で「アソシエーション」を選択した場合には必要ありません。

［キー追加］ボタンをクリックすると，キープロパティの指定欄が表示されて，キープロパティを追加できます。

キープロパティを削除する場合は，［キー削除］ボタンをクリックしてください。

内部結合と外部結合

クラス同士の関連づけとは別に，クラス同士の**結合タイプ**を選択します。

結合元と結合先のキーの値が存在した機器の情報だけを出力する場合は INNER**（内部結合）**を選択します。

結合元のキーの値が結合先に存在しなくても，その項目を空白情報として出力する場合は OUTER**（外部結合）**を選択します。

9.5.10 ユーザレポートの削除

作成したユーザレポートは，業務メニュー「ユーザレポート作成」をクリックすると表

示されるユーザレポート作成画面で削除します。

作成したユーザレポートが表示されているツリービューから，削除したいユーザレポートを選択して，［削除］ボタンをクリックすると削除されます。

9.5.11 コマンドラインからの検索の実行

作成したユーザレポートでの検索を実行する，jamUserReport コマンドの機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

なお，コマンドの実行ファイルは次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ￥exe

(1) 機能

業務メニュー「ユーザレポート作成」で作成したユーザレポートでの検索を実行します。検索結果は CSV 形式で標準出力に出力されます。

(2) 形式

```
jamUserReport
      -n "レポート名"
      { [ -cv "変数名=条件値" [ -cv "変数名=条件値" ] ] |
        [ -cf "条件値定義ファイル名" ] }
      [ -pf "出力ファイル名" ]
```

(3) オプション

-n " レポート名 "

検索を実行するレポート名を指定します。ただし，同一の名称で複数作成されているレポート名は指定できません。このオプションは，必ず指定してください。

-cv " 変数名 = 条件値 "

検索条件を指定します。-cv オプションで指定できるのは，ユーザレポートで検索時に指定できる条件と同じです。-cf オプションとは同時に指定できません。定義されていない変数名を指定した場合，および条件値を指定しない場合は，無視されます。

変数名

ユーザレポート作成時に「検索条件」の「コマンド引数」タブで定義した変数名を指定します。

条件値

変数に合わせて指定します。検索条件に指定するプロパティに応じた指定方法を次に示します。

- コードに対応づけて管理されているプロパティの場合，条件値には数値ではなく表示名を指定してください。
- 日付の場合，「yyyy/mm/dd」または「yyyy/mm/dd △ hh:mm:ss」（△は半角スペース）の形式で指定します。
- 数値の場合，「1,000」のようにコンマで区切らないで「1000」のように指定

します。

- ハードウェア資産情報の「ディスク容量」,「空ディスク容量」および機器カタログ情報の「ディスク容量」の場合，単位はギガバイトで指定してください。ただし，検索結果にはメガバイトで出力されます。
- 部署情報の場合，操作画面のようなログインユーザによるアクセス制限はありません。
- IP アドレスのようにけた数が決まっている数値の場合でも，「11.111.111.1」のように指定できます（0 でけた数を調整する必要はありません）。

-cf " 条件値定義ファイル名 "

条件値を定義したファイル（条件値定義ファイル）の名称を指定します。-cv オプションとは同時に指定できません。
よく使用する検索条件や複数の検索条件を組み合わせる場合に，この条件値定義ファイルを利用すると便利です。
条件値定義ファイルの記述形式を次に示します。

```
変数名,条件値
変数名,条件値
    :
```

1 カラム目に変数名，2 カラム目に条件値を ,（コンマ）で区切って記述します。
ファイルは CSV 形式で作成してください。

-pf " 出力ファイル名 "

検索結果の出力ファイル名を指定します。パスを指定すると，指定したフォルダに出力されます。ファイル名だけを指定した場合，標準出力ではなく，コマンドの実行ファイルと同じフォルダに出力されます。
指定した出力ファイル名と同じファイルがあった場合は，そのファイルに上書きされます。コマンドがエラーで終了した場合は，既存のファイルの内容がクリアされます。

（4）戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
1	検索結果が 0 件です。
11	コマンドオプションの指定に誤りがあるため，処理を中断しました。
21	レポート名に誤りがあるため，処理を中断しました。
22	変数名に誤りがあるため，処理を中断しました。
23	条件値に誤りがあるため，処理を中断しました。
24	条件変数値定義ファイルに誤りがあるため，処理を中断しました。

戻り値	内容
25	出力ファイルに誤りがあるため，処理を中断しました。
31	メモリが不足しています。
52	ユーザによってキャンセルされました。
101 以上	その他のエラーでコマンドが終了しました。

(5) コマンド実行時の注意事項

- Administrators 権限を持つユーザで jamUserReport コマンドを実行してください。
- コマンドのオプションの引数で，スペースを含む文字列を指定する場合，"（ダブルクォーテーション）で囲む必要があります。

(6) 実行例

```
jamUserReport -n "機器の一覧" -cv "Variant1=本社/資産管理部" -pf
"C:¥kiki.csv"
```

また，バッチファイル（.bat 形式のファイル）を作成すると，EUR のコマンドを使用して，検索結果をプリンタに出力できます。プリンタに出力する場合の，バッチファイルの作成例を次に示します。

```
jamUserReport -n "機器の一覧" -cv "Variant1=本社/資産管理部" -pf "C:¥kiki.csv"
IF errorlevel 1 then goto error
eurps C:¥kiki.fms,C:¥kiki.csv
IF errorlevel 1 then goto error
goto end
error:
echo プリンタ出力に失敗しました。
end:
```

eurps コマンドの詳細については，マニュアル「帳票作成機能 EUR EUR 帳票出力」を参照してください。

9.5.12 ユーザレポートの作成例

利用 IP アドレスを検索して，IP アドレスの利用状況を確認するためのユーザレポートを作成する場合を例に，作成手順を説明します。

(1) 検索したい情報の検討

まず，利用 IP アドレスを検索するためには，どのクラスを対象に検索すればよいのかを検討します。

検索結果の一覧に出力する項目は，「IP アドレス」，「資産番号」，「名称」，「機器種別」，「ユーザ名」，「部署」および「設置場所」とします。

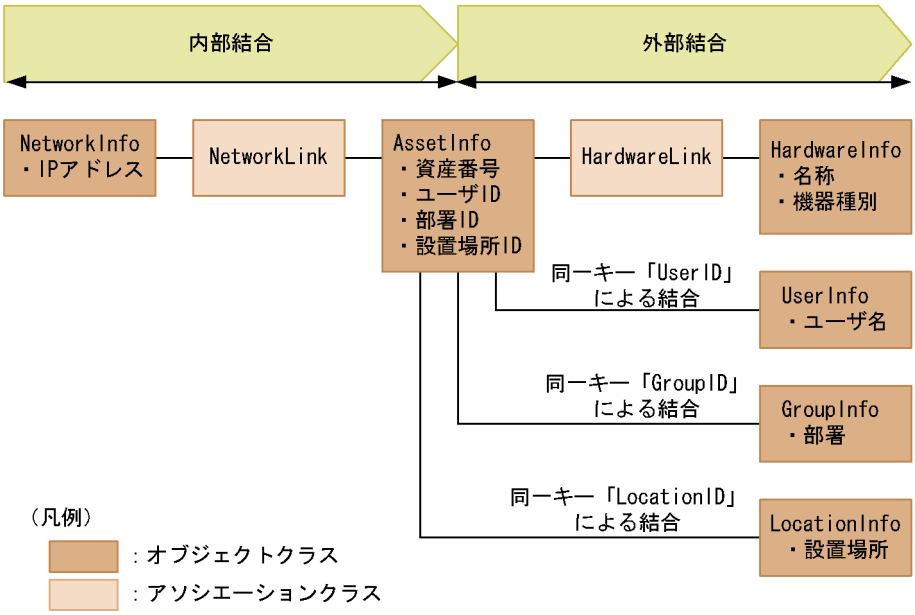
次に，上記の各項目をプロパティに持つクラスを探します。項目とクラスの対応は次のようになります。

検索結果の一覧に出力する項目	クラス
IP アドレス	NetworkInfo
資産番号	AssetInfo
名称	HardwareInfo
機器種別	HardwareInfo
ユーザ名	UserInfo
部署	GroupInfo
設置場所	LocationInfo

(2) クラス結合方法の検討

検索したい情報とそのクラスが決定したら，次にクラスの結合方法を検討します。各クラスの結合は次の図のようになります。

図 9-18　クラス結合方法の検討例



クラス同士の関連

- 「NetworkInfo」と「AssetInfo」は，アソシエーションクラス「NetworkLink」によって結合されています。
- 「AssetInfo」と「Hardware」は，アソシエーションクラス「HardwareLink」によって結合されています。
- 「AssetInfo」と「UserInfo」，「GroupInfo」，「LocationInfo」は，アソシエーションクラスで結合されていないので，同一キーによって結合します。

内部結合と外部結合

- 利用されている IP アドレスから，それを利用している機器を特定するため，IP アドレスを持たない機器は検索結果から外します。そのため，「NetworkInfo」と「AssetInfo」は INNER（内部結合）の関係になります。
- 「名称」，「ユーザ名」，「部署」，「設置場所」は値がない場合でも，機器の情報を検索結果に出力します。そのため，「AssetInfo」と「Hardware」，「UserInfo」，「GroupInfo」，「LocationInfo」はそれぞれ OUTER（外部結合）の関係になります。

操作画面でクラス結合を定義する際は，内部結合，外部結合の順番で定義していきます。
また，結合元クラスと結合先クラスの順序は，この例のようにすべてのクラスが一つのクラス（AssetInfo）を中心に結合している場合は，すべての結合元クラスに「AssetInfo」を指定してください。

（3） 操作画面で指定する検索条件の検討

検索結果として出力する項目とは別に，操作画面で検索条件に指定する項目と検索方法を検討します。

機器の管理部署または設置場所で利用 IP アドレスを絞り込みたいので，この二つの項目を検索条件として定義します。また，IP アドレスの範囲を指定して絞り込めるように，IP アドレスを検索条件として定義します。

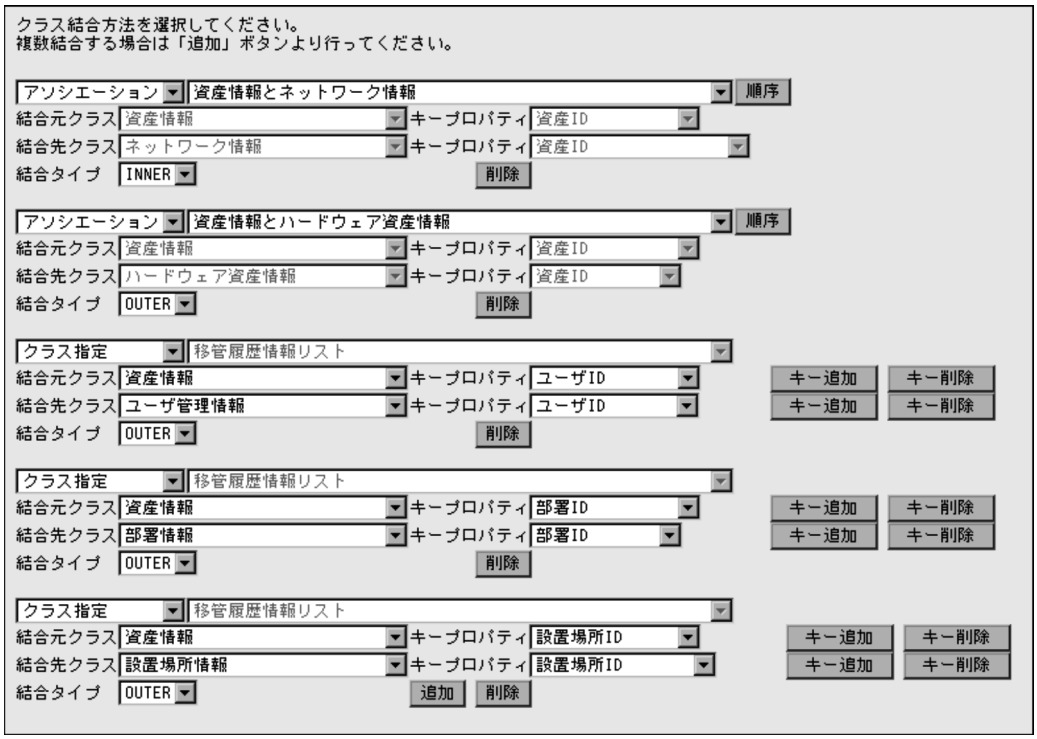
（4） 操作画面でのユーザレポートの作成手順

決定した各クラスの結合方法および検索条件を操作画面で定義して，利用 IP アドレスを検索するユーザレポートを作成します。

操作画面での作成手順を次に示します。

1. **業務メニューで「ユーザレポート作成」を選択する。**
   ユーザレポート作成画面が表示されます。
2. **［新規登録］ボタンをクリックする。**
   検索方法を選択する画面に切り換わります。
3. **「複数のクラスを結合して検索」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
   検索条件を定義する画面に切り換わります。
4. **各クラスの結合方法を定義する。**
   クラス同士の結合方法を一つずつ定義していきます。クラスの結合方法の指定領域を追加する場合は，［追加］ボタンをクリックします。
   クラス結合方法の定義例を次の図に示します。

図 9-19 クラスの結合方法の定義例



「NetworkInfo」と「AssetInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「アソシエーションクラス」を選択したあと，「資産情報とネットワーク情報」を選択します。「結合タイプ」は「INNER」を選択します。

「AssetInfo」と「Hardware」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「アソシエーションクラス」を選択したあと，「資産情報とハードウェア資産情報」を選択します。「結合タイプ」は「OUTER」を選択します。

「AssetInfo」と「UserInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「クラス指定」を選択して，次のように指定します。

結合元クラス：「資産情報」，キープロパティ：「ユーザ ID」

結合先クラス：「ユーザ管理情報」，キープロパティ：「ユーザ ID」

結合タイプ：「OUTER」

「AssetInfo」と「GroupInfo」のクラス結合方法を定義する

クラス結合方法で「クラス指定」を選択して，次のように指定します。

結合元クラス：「資産情報」，キープロパティ：「部署 ID」

結合先クラス：「部署情報」，キープロパティ：「部署 ID」

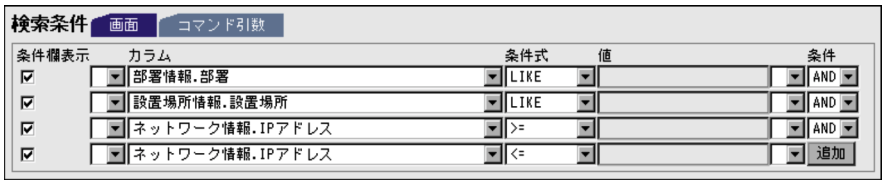
結合タイプ：「OUTER」

「AssetInfo」と「LocationInfo」のクラス結合方法を定義する

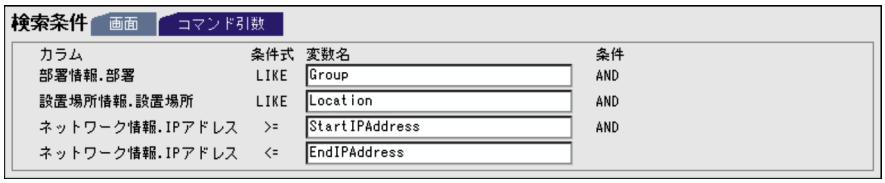
クラス結合方法で「クラス指定」を選択して，次のように指定します。

結合元クラス：「資産情報」，キープロパティ：「設置場所 ID」
結合先クラス：「設置場所情報」，キープロパティ：「設置場所 ID」
結合タイプ：「OUTER」

5. **検索条件を定義する。**
「画面」タブで次の図のように指定します。



操作画面に表示する検索条件は，チェックボックスをチェックします。
検索条件に「部署」または「設置場所」を定義する場合は，「条件式」は指定する必要はありません。必ず前方一致で検索されます。
「コマンド引数」タブで次の図のように指定します。



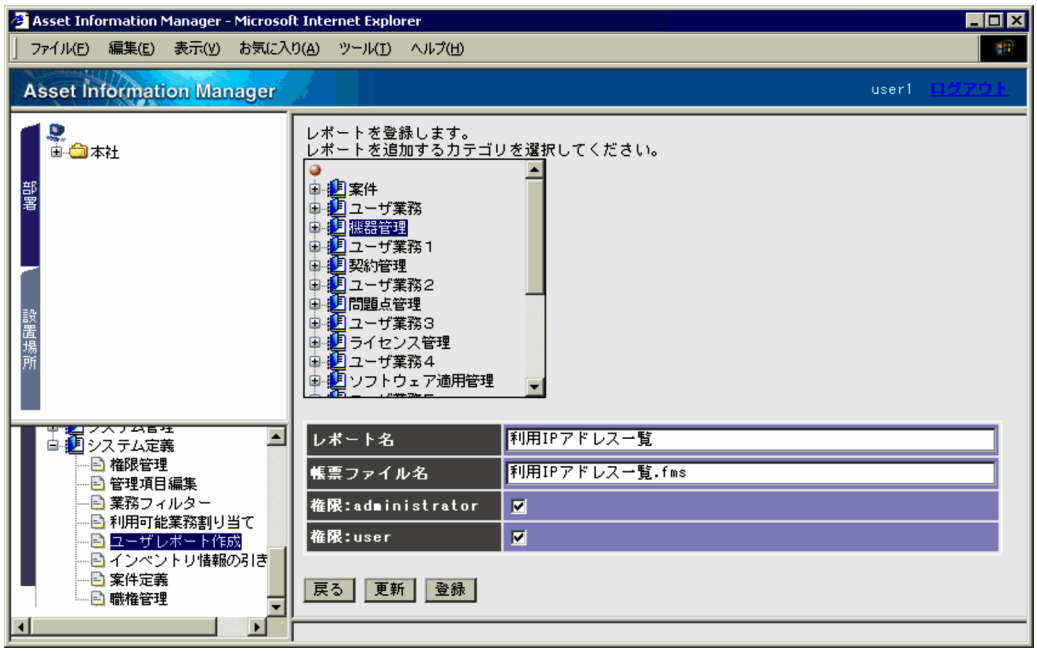
6. **出力項目を指定する。**
次の出力項目を指定します。
- 「ネットワーク情報」の「IP アドレス」
- 「資産情報」の「資産番号」
  検索結果の一覧から詳細情報をダイアログで表示するかどうかを，「詳細表示する」または「詳細表示しない」から選択します。
- 「ハードウェア資産情報」の「名称」
- 「ハードウェア資産情報」の「機器種別」
  種別を表すコード（値）と表示名を表示するかどうかを，「機器種別［表示名］」，「機器種別［値］」および「機器種別［両方］」の中から選択します。
- 「ユーザ管理情報」の「ユーザ名」
- 「部署情報」の「部署」
- 「設置場所情報」の「設置場所」

7. **出力項目の並び順と表示幅を指定する。**
出力項目は，「表示項目」の一覧が，次の図に示す順番になるように指定します。

一覧の上から順番に，左から並びます。
また，各出力項目は，次に示す表示幅に変更します。
- 「IP アドレス」：110 ピクセル
- 「資産番号」：90 ピクセル

- 「機器種別」：80 ピクセル
- 「ユーザ名」：100 ピクセル

8. **「検索結果に重複データを含まない」を選択する。**
9. **［プレビュー］ボタンをクリックする。**
   指定した内容を確認して，プレビュー画面を閉じます。
10. **［次へ］ボタンをクリックする。**
    ユーザレポートの登録画面に切り換わります。
11. **ユーザレポートを追加するカテゴリを選択する。**
    ツリーから「機器管理」を選択します。
12. **ユーザレポートの「レポート名」，「帳票ファイル名」およびユーザレポートを使用できるユーザ権限を設定する。**
    各項目を次のように指定してください。
    - レポート名：「利用 IP アドレス一覧」を指定する。
    - 帳票ファイル名：EUR で作成した帳票ファイル名（拡張子「.fms」）を指定する。
      ここで指定する帳票ファイルは，必ず Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥eur に格納してください。
    - 権限：「権限：administrator」および「権限：user」の両方のチェックボックスにチェックする。



13. **［登録］ボタンをクリックする。**
    利用 IP アドレスを検索するユーザレポートが作成されます。

9.5.13　ユーザレポートの実行例

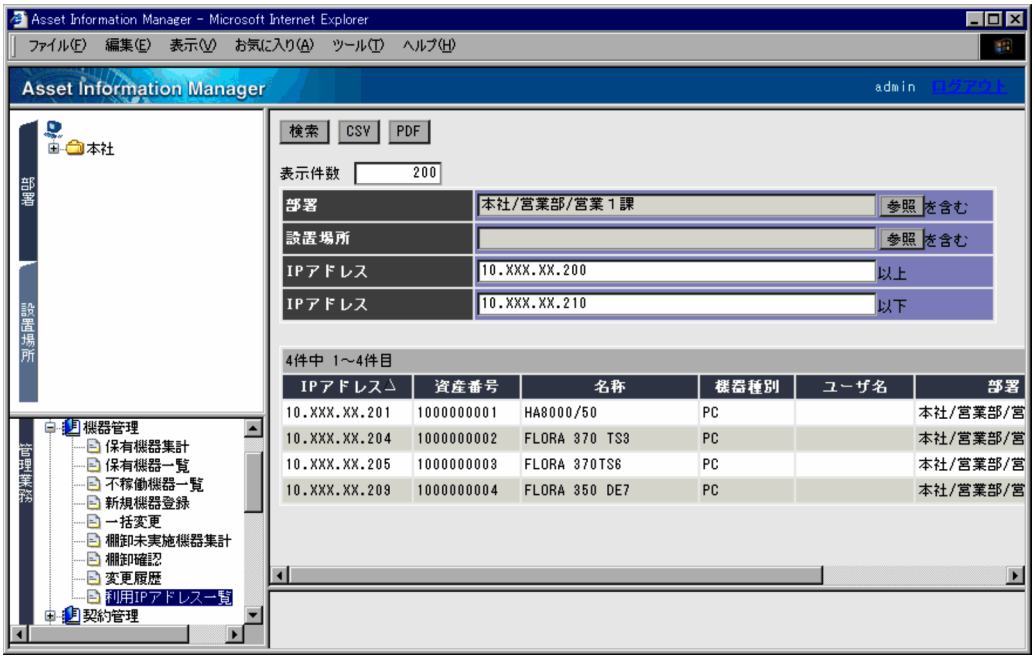
「9.5.12　ユーザレポートの作成例」で作成したユーザレポートを，操作画面およびコマンドラインから実行する方法を説明します。

(1) 操作画面からの実行例

「機器管理」以下の業務メニュー「利用 IP アドレス一覧」を選択して，作成したユーザレポートの画面を表示します。

作成したユーザレポートの画面を次の図に示します。

図 9-20　利用 IP アドレスを検索するユーザレポート画面



必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックすると，利用されている IP アドレスの一覧が表示されます。ここでは，営業 1 課の 10.XXX.XX.200 ～ 10.XXX.XX.210 の IP アドレスを利用している機器の検索結果が表示されています。

検索結果の各項目のタイトルをクリックすると，一覧を昇順または降順にソートできます。

検索結果のダウンロード

［CSV］ボタンをクリックすると，検索結果の一覧に表示された情報を CSV ファイルとしてダウンロードできます。

検索結果の出力

［PDF］ボタンをクリックすると，検索結果の一覧に表示された情報を PDF 形式の

帳票として出力できます。ただし，PDF 形式で帳票を出力するには，EUR と連携している必要があります。EUR との連携に必要な設定については，「5.3 資産管理サーバの設定」を参照してください。

詳細情報の表示および編集

「資産番号」のアンカーをクリックすると，［機器詳細］ダイアログが表示されて，機器の詳細情報を参照および編集できます。

(2) コマンドラインからの実行例

ユーザレポート「利用 IP アドレス一覧」の検索を，Administrators 権限を持つユーザでコマンドラインから実行して，C:¥Machine.csv に出力する例を次に示します。

● 検索条件を指定しない場合

```
jamUserReport -n "利用IPアドレス一覧" -pf "C:¥Machine.csv"
```

● 検索条件に，部署と IP アドレスの範囲「10.XXX.XX.200 ～ 10.XXX.XX.210」を指定する場合

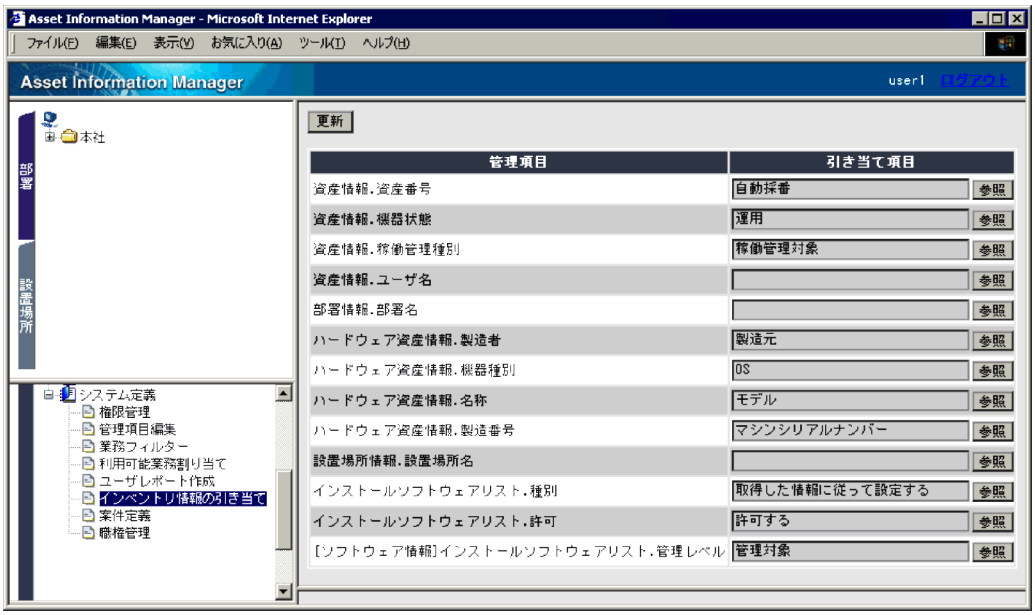
```
jamUserReport -n "利用IPアドレス一覧" -cv "Group=本社/営業部/営業1課"
 -cv "StartIPAddress=10.XXX.XX.200" -cv
"EndIPAddress=10.XXX.XX.210"
 -pf "C:¥Machine.csv"
```

9.6　引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）

JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報を資産管理データベースに取り込んで利用する際に，Asset Information Manager の管理項目に，JP1/NETM/DM のインベントリ情報のどの項目を引き当てるかを設定します。また，インベントリ情報を取り込む際の，状態や種別のデフォルト値も設定できます。Asset Information Manager の管理項目に引き当てられるインベントリ情報の種類と，取得される情報の詳細については，「12.1 JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報」を参照してください。

引き当て項目の設定は，業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」をクリックすると表示されるインベントリ情報の引き当て画面から実行します。インベントリ情報の引き当て画面を次の図に示します。

図 9-21　インベントリ情報の引き当て画面



Asset Information Manager の管理項目と，各項目に設定されている引き当て項目の一覧が表示されます。「管理項目」には，管理項目編集で表示する設定になっている項目が，「クラス名 . プロパティ名」の形式で表示されます。

引き当て項目を設定するには，設定したい管理項目の［参照］ボタンをクリックしてください。

注意事項

インストールソフトウェア情報の固有情報には，インストールパッケージ情報，およびソフトウェアインベントリ情報の 2 種類のインベントリ情報が引き当てられま

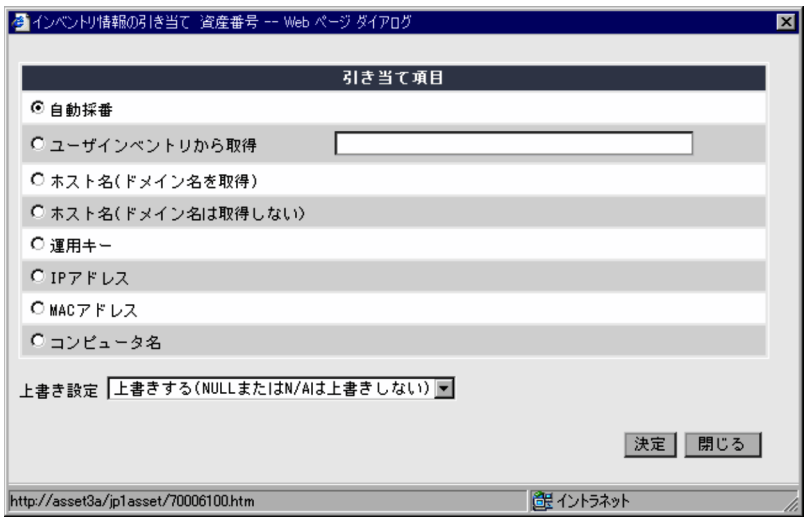
す。
そのため，同じクラスの同じプロパティに対して，2 種類の引き当て項目を設定できます。例えば，インベントリ情報を登録する際に引き当てた情報がインストールパッケージ情報だった場合，インストールパッケージ情報に対する引き当て項目の設定に従って，インストールソフトウェアの固有情報に情報が登録されます。

9.6.1　資産番号の引き当て項目を設定する

ここでは，JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取り込む際，新規に登録する資産情報の資産番号を設定する方法について説明します。

資産番号の引き当て項目は，インベントリ情報の引き当て画面で，「資産情報 . 資産番号」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［インベントリ情報の引き当て　資産番号］ダイアログで設定します。

図 9-22　［インベントリ情報の引き当て　資産番号］ダイアログ



［インベントリ情報の引き当て　資産番号］ダイアログで次の項目の中から，引き当て項目を選択します。

- **「自動採番」**（デフォルト）
  資産管理システムで自動採番された値が資産番号として設定されます。
- **「ユーザインベントリから取得する」**
  ユーザインベントリ情報の項目の値が，資産番号として設定されます。この項目を設定する場合は，JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報で定義した項目名を必ず設定してください。
- **「ホスト名（ドメイン名を取得）」**
  ホスト名が資産番号として設定されます。取得された情報は，すべて小文字に変換されて設定されます。ホスト名にドメイン名が含まれる場合は，ドメイン名も取得します。

取得された情報が 60 バイトを超える場合，先頭の 60 バイトが設定されます。

- **「ホスト名（ドメイン名は取得しない）」**
  ホスト名が資産番号として設定されます。取得された情報は，すべて小文字に変換されて設定されます。ホスト名にドメイン名が含まれる場合は，ドメイン名は取得しません。
  取得された情報が 60 バイトを超える場合，先頭の 60 バイトが設定されます。
- **「運用キー」**
  JP1/NETM/DM が「ホスト識別子あり」で運用している場合はホスト識別子，ホスト名をキーに運用している場合はホスト名，IP アドレスをキーに運用している場合は IP アドレスが資産番号として設定されます。取得された情報は，すべて小文字に変換されて設定されます。
  取得された情報が 60 バイトを超える場合，先頭の 60 バイトが設定されます。
- **「IP アドレス」**
  JP1/NETM/DM のシステム情報の IP アドレスが，資産番号として設定されます。
- **「MAC アドレス」**
  JP1/NETM/DM のハードウェアインベントリ情報の MAC アドレスが，資産番号として設定されます。取得された情報は，すべて小文字に変換されて設定されます。
- **「コンピュータ名」**
  JP1/NETM/DM のハードウェアインベントリ情報のコンピュータ名が資産番号として設定されます。取得された情報は，すべて大文字に変換されて設定されます。

また，引き当て項目に選択した値の更新方法を，「上書き設定」で設定します。

- **「上書きする」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，自動採番した値（「資産 ID」の値）で上書きします。ただし，［サーバセットアップ］ダイアログの「資産情報の引き当てキー」で，「資産番号を使用する」を選択している場合は，何も登録されません。
- **「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」**（デフォルト）
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。ただし，取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，上書きしません。
- **「上書きしない」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていたら，上書きしません。

9.6.2 ユーザ名の引き当て項目を設定する

JP1/NETM/DM のシステム構成情報，システム情報，またはユーザインベントリ情報でユーザ名が管理されている場合はその情報を，資産管理データベースに登録できます。

ユーザ名は，インベントリ情報から取得した機器の「ユーザ名」として登録されるので，機器の利用者を登録する手間を省けます。

資産情報のユーザ名に，JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報から取得した情報を登録する場合の引き当て項目による登録内容の違いと，ユーザ名への引き当て項目の設定手順について説明します。

(1) ユーザインベントリ情報から引き当てる場合の登録内容の違い

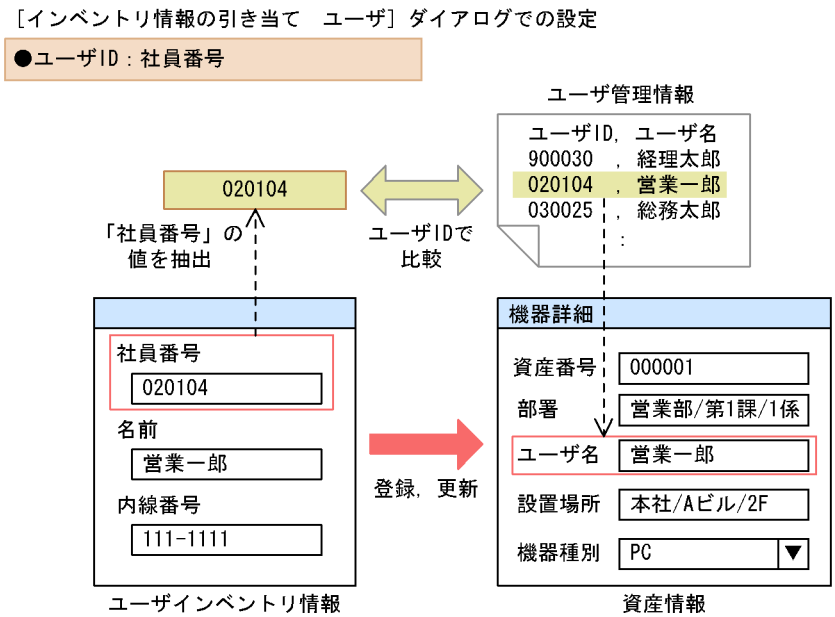
資産情報の「ユーザ名」に，ユーザインベントリ情報から取得した情報を登録する場合，ユーザインベントリ情報のどの項目で，資産情報と引き当てるかを，次の 3 種類から選択します。

- ユーザ ID
- メールアドレス
- ユーザ名

選択した項目とユーザ管理情報の対応する項目が引き当てられて，資産情報に「ユーザ名」，「ユーザ ID」および「ユーザ名（英名）」が登録されます。

引き当て項目に「ユーザ ID」を選択した場合の例を次の図に示します。

図 9-23　ユーザ名の資産情報への引き当て例



引き当ての際，ユーザ管理情報に該当する値がなかった場合，ユーザインベントリ情報の値が，そのまま資産情報の「ユーザ名」に登録されます。例えば，「ユーザ ID」を引き当て項目に選択した場合，ユーザ管理情報に該当するユーザ ID がなかったときは，資産情報の「ユーザ名」にユーザ ID が登録されます。

ユーザインベントリ情報を資産情報に引き当てる際の，引き当て項目に選択した項目と，登録される内容の対応を次の表に示します。

表 9-1 引き当て項目に選択した項目と登録される内容の対応

引き当て項目	検索項目（ユーザ管理情報）	登録される項目（資産情報）	登録される内容	
			ユーザ管理情報に値が存在した場合	ユーザ管理情報に値が存在しない場合
ユーザ ID	ユーザ ID	ユーザ名	ユーザ名	ユーザ ID
		ユーザ名（英名）	ユーザ名（英名）	－
		ユーザ ID	ユーザ ID	ユーザ ID
メールアドレス	メールアドレス	ユーザ名	ユーザ名	メールアドレス
		ユーザ名（英名）	ユーザ名（英名）	－
		ユーザ ID	ユーザ ID	－
ユーザ名	ユーザ名	ユーザ名	ユーザ名	ユーザ名
		ユーザ名（英名）	ユーザ名（英名）	－
		ユーザ ID	ユーザ ID	－

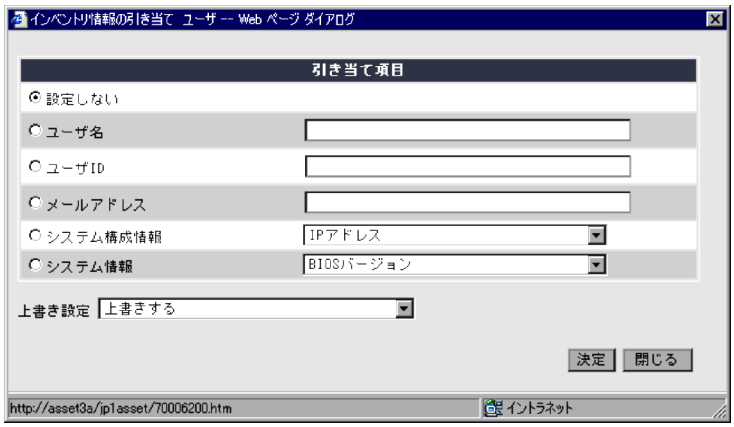
（凡例）

－：登録されない

(2) ユーザ名の引き当て項目の設定

ユーザ名の引き当て項目は，インベントリ情報の引き当て画面で，「資産情報 . ユーザ名」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［インベントリ情報の引き当て　ユーザ］ダイアログで設定します。

図 9-24 ［インベントリ情報の引き当て　ユーザ］ダイアログ



［インベントリ情報の引き当て　ユーザ］ダイアログに表示される次の項目の中から，ユーザ名を特定する場合のキーとなる項目を選択します。

- **「設定しない」**（デフォルト）

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を登録する際，ユーザ名は登録されません。

- **「ユーザ ID」**
  ユーザ ID をキーに，ユーザインベントリ情報がユーザ管理情報に引き当てられます。この項目を指定する場合は，ユーザインベントリ情報でのユーザ ID の項目名称を必ず設定してください。
  ユーザ ID に対応するユーザ名がユーザ管理情報にない場合は，ユーザ ID がユーザ名として登録されます。
- **「メールアドレス」**
  メールアドレスをキーに，ユーザインベントリ情報がユーザ管理情報に引き当てられます。この項目を指定する場合は，ユーザインベントリ情報でのメールアドレスの項目名称を必ず設定してください。
  メールアドレスに対応するユーザ名がユーザ管理情報にない場合は，メールアドレスがユーザ名として登録されます。
- **「ユーザ名」**
  ユーザ名をキーに，ユーザインベントリ情報がユーザ管理情報に引き当てられます。この項目を指定する場合は，ユーザインベントリ情報でのユーザ名の項目名称を必ず設定してください。
- **「システム構成情報」**
  プルダウンの中から選択した項目で，ユーザ名が登録されます。ユーザ管理情報に登録されているユーザの場合，「ユーザ名（英名）」および「ユーザ ID」も併せて登録されます。ユーザ管理情報に登録されていないユーザの場合は，「ユーザ名」だけが登録されます。
- **「システム情報」**
  プルダウンの中から選択した項目で，ユーザ名が登録されます。ユーザ管理情報に登録されているユーザの場合，「ユーザ名（英名）」および「ユーザ ID」も併せて登録されます。ユーザ管理情報に登録されていないユーザの場合は，「ユーザ名」だけが登録されます。

また，「上書き設定」で引き当て項目に選択した値の更新方法を設定します。

- **「上書きする」**（デフォルト）
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，登録されていた値は削除されます。
- **「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。ただし，取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，上書きしません。
- **「上書きしない」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていたら，上書きしません。

9.6.3 部署および設置場所の引き当て項目を設定する

JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報で部署および設置場所が管理されている場合，それらの情報を資産管理データベースに登録できます。

部署および設置場所は，資産情報に加えて，階層構造を保ったまま部署情報および設置場所情報としても登録されます。これによって，部署および設置場所を登録する手間を省ける上，JP1/NETM/DM で管理している情報と整合性を保てます。

資産情報の「部署」および「設置場所」に，JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報から取得した情報を登録する場合の，引き当て項目による登録内容の違いと設定手順について説明します。

参考

部署および設置場所は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報として取得した IP アドレスが所属する IP グループに合わせて登録することもできます。IP グループに合わせて登録する設定と併用することで，JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報で引き当てられなかった資産の部署および設置場所を，IP グループに合わせて登録できます。部署および設置場所を，IP グループに合わせて登録する方法については，「5.3.4(11)　部署別 IP グループを使用した部署の設定」および「5.3.4(12)　設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」を参照してください。

(1) 部署名の引き当て項目の設定による登録内容の違い

JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報を利用して部署を登録する場合，ユーザインベントリ情報の部署情報を引き当てキーとするか，ユーザインベントリ情報のユーザ名を引き当て項目とするかを選択します。

ユーザインベントリ情報の部署情報を引き当て項目とする場合，Asset Information Manager にない部署を新規に登録するかどうかも選択します。

ユーザインベントリ情報のユーザ名を引き当て項目とする場合

ユーザインベントリ情報のユーザ名が，ユーザ管理情報と引き当てられます。該当するユーザが登録されていた場合，そのユーザの所属部署が資産情報の「部署」に登録されます。
ユーザ管理情報に該当するユーザが登録されていない場合，登録されません。
この設定では，JP1/NETM/DM で部署情報を管理していない場合でも，Asset Information Manager の部署情報を利用して登録できます。

ユーザインベントリ情報の部署情報を引き当て項目として，部署を新規に登録する場合

ユーザインベントリ情報から取得した部署が，JP1/NETM/DM の階層に従って，Asset Information Manager での表記に変換されます。変換された値で部署情報に引き当てられ，該当する部署が資産情報の「部署」に登録されます。
該当する部署がない場合，部署情報に新規に部署が追加されて，追加された部署の

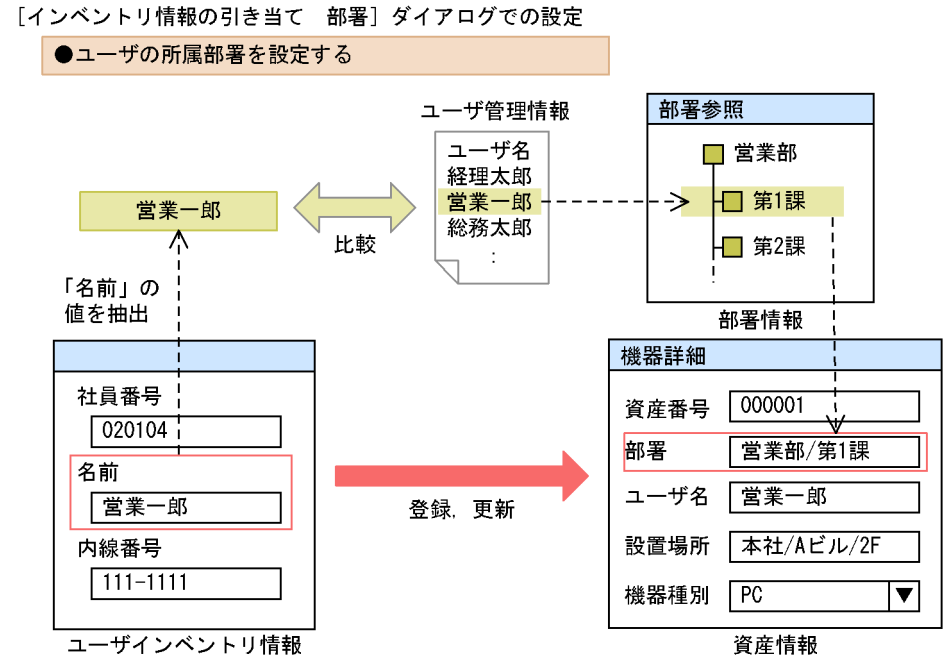
情報が資産情報の「部署」に登録されます。

ユーザインベントリ情報の部署情報を引き当て項目として，部署を新規に登録しない場合

ユーザインベントリ情報から取得した部署が，JP1/NETM/DM の階層に従って，Asset Information Manager での表記に変換されます。変換された値で部署情報に引き当てられ，該当する部署が資産情報の「部署」に登録されます。
該当する部署がない場合は登録されません。

ユーザインベントリ情報のユーザ名を引き当て項目とする場合の例を，次の図に示します。

図 9-25　ユーザ名を引き当て項目とする場合の資産情報への引き当て例

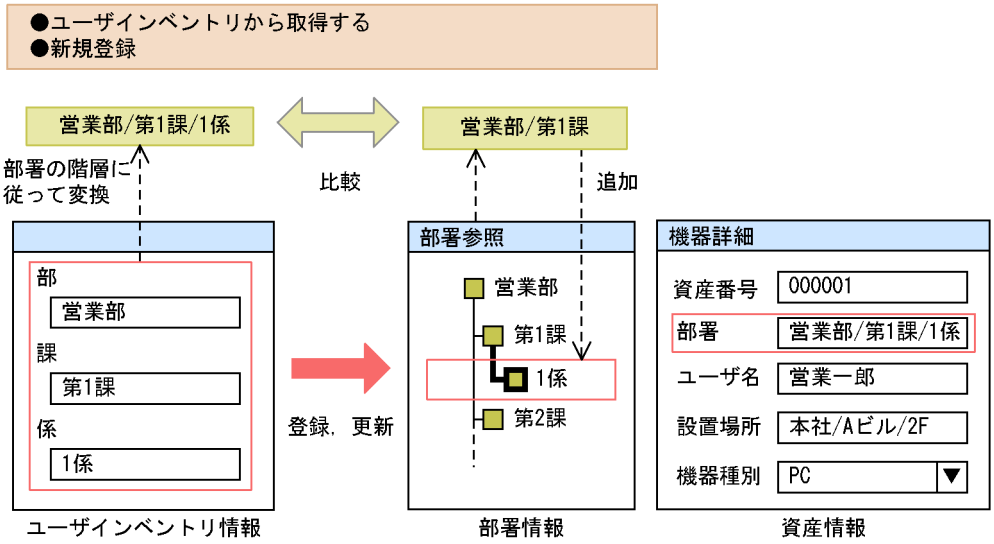


ユーザインベントリ情報の部署情報を引き当て項目として，部署を新規に登録する場合の例を次の図に示します。

図 9-26　部署情報を引き当て項目とする場合の資産情報への引き当て例

■ユーザインベントリ情報の部署情報を引き当てキーとして部署を新規に登録する場合

［インベントリ情報の引き当て　部署］ダイアログでの設定



(2) 部署の引き当て項目の設定

部署の引き当て項目は，インベントリ情報の引き当て画面で，「部署情報 . 部署名」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［インベントリ情報の引き当て　部署］ダイアログで設定します。

図 9-27　［インベントリ情報の引き当て　部署］ダイアログ

［インベントリ情報の引き当て　部署］ダイアログに表示される次の項目の中から，引き当て項目を選択します。

- **「設定しない」**（デフォルト）
  ユーザインベントリ情報からは，部署は登録されません。
  部署別 IP グループを使用して部署を登録する設定にしている場合は，IP グループに対応した部署が登録されます。
- **「ユーザの所属部署を設定する」**
  ユーザインベントリ情報のユーザ名から，Asset Information Manager のユーザ管理情報の「ユーザ名」を介して，部署情報の「部署」が登録されます。
  ユーザインベントリ情報で部署の情報を管理していない場合でも，Asset Information Manager の情報から，部署を登録できます。ただし，ユーザインベントリ情報から取得したユーザが，あらかじめ Asset Information Manager のユーザとして登録されている必要があります。
  この項目を指定した場合，必ず資産情報の「ユーザ名」に，ユーザインベントリ情報から取得した情報を登録する設定にしてください。
- **「ユーザインベントリから取得」**
  ユーザインベントリ情報から取得した部署が，資産情報の「部署」に登録されます。
  この項目を指定したら，JP1/NETM/DM での部署の階層に合わせて「部署 1」～「部署 10」を設定します。

また，「新規登録」チェックボックスをチェックすると，Asset Information Manager の部署情報に該当する部署がない場合は，新規に登録されます。

JP1/NETM/DM で部署の階層がどのように作成されているかは，リモートインストールマネージャから表示する，［ユーザインベントリ項目作成］ダイアログを参照してください。「部署 1」～「部署 10」には，［ユーザインベントリ項目作成］ダイアログの「項目名称」と同じ文字列を設定してください。
JP1/NETM/DM での部署の階層を作成する方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

また，「上書き設定」で引き当て項目に選択した値の更新方法を設定します。

- **「上書きする」**（デフォルト）
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，登録されていた値は削除されます。
- **「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。ただし，取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，上書きしません。
- **「上書きしない」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていたら，上書きしません。

(3) 設置場所の引き当て項目の設定

設置場所の引き当て項目は，インベントリ情報の引き当て画面で，「設置場所情報 . 設置場所名」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［インベントリ情報の引き当て 設置場所］ダイアログで設定します。

図 9-28　［インベントリ情報の引き当て　設置場所］ダイアログ

［インベントリ情報の引き当て　設置場所］ダイアログに表示される次の項目の中から，引き当て項目を選択します。

- **「設定しない」**（デフォルト）
  ユーザインベントリ情報からは，設置場所は登録されません。
  設置場所別 IP グループを使用して設置場所を登録する設定にしている場合は，IP グループに対応した設置場所が登録されます。
- **「ユーザインベントリから取得」**
  ユーザインベントリ情報の設置場所が，資産情報の「設置場所」に登録されます。この項目を指定したら，JP1/NETM/DM での設置場所の階層に合わせて「設置場所 1」～「設置場所 10」を設定します。
  また，「新規登録」チェックボックスをチェックすると，Asset Information Manager の設置場所情報に該当する設置場所がない場合は，新規に登録されます。

  JP1/NETM/DM で設置場所の階層がどのように作成されているかは，リモートインストールマネージャから表示する，［ユーザインベントリ項目作成］ダイアログを参照してください。「設置場所 1」～「設置場所 10」には，［ユーザインベントリ項目作成］ダイアログの「項目名称」と同じ文字列を設定してください。
  JP1/NETM/DM での設置場所の階層の作成方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

また，「上書き設定」で引き当て項目に選択した値の更新方法を設定します。

- **「上書きする」**（デフォルト）
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，登録されていた値は削除されます。
- **「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。ただし，取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，上書きしません。
- **「上書きしない」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていたら，上書きしません。

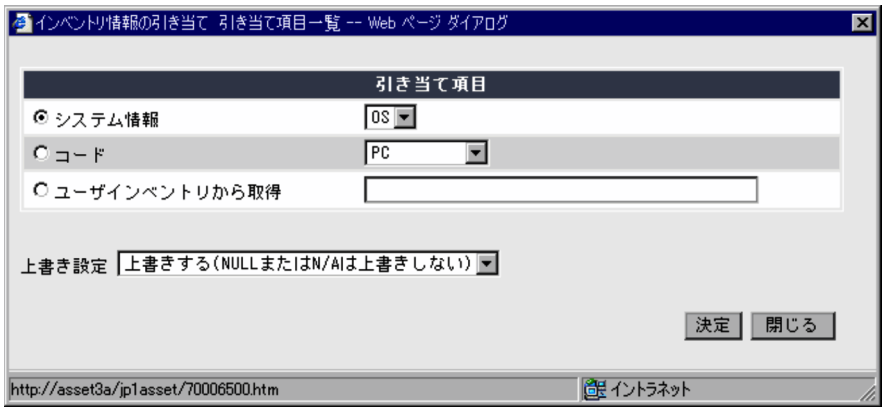
注意事項

新規に追加された設置場所情報の「場所属性」は，すべて「エリア」となります。登録後，設置場所管理画面から実際の設置場所に合わせて変更してください。
設置場所管理画面での操作方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.3　設置場所の情報を変更する（設置場所管理）」を参照してください。

9.6.4　機器種別の引き当て項目を設定する

機器種別の引き当て項目は，インベントリ情報の引き当て画面で，「ハードウェア資産情報 . 機器種別」の［参照］ボタンをクリックすると表示される［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログで設定します。

図 9-29　［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログ



［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログに表示される次の項目の中から，引き当て項目を選択します。

- **「システム情報」**
  システム情報の項目を登録したい場合に選択すると，プルダウンの「OS」が選択されます。

- **「コード」**
  選択した Asset Information Manager のコードが設定されます。
- **「ユーザインベントリから取得」**
  ユーザインベントリ情報の指定した項目が，ハードウェア資産情報の「機器種別」に登録されます。この項目を指定したら，ユーザインベントリ情報の指定した項目に合わせて入力領域を設定します。
  入力領域には，［ユーザインベントリ項目作成］ダイアログの「項目名称」と同じ文字列を設定してください。
  ユーザインベントリ情報の取得については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

また，「上書き設定」で引き当て項目に選択した値の更新方法を設定します。

- **「上書きする」**（デフォルト）
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，登録されていた値は削除されます。
  この選択肢は，設定が必要な項目の場合は表示されません。
- **「上書きする（NULL または N/A は上書きしない）」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていても，取得したインベントリ情報の値で上書きします。ただし，取得したインベントリ情報の該当する値が NULL または N/A のときは，上書きしません。
  この選択肢は，設定が必要な項目の場合のデフォルトになります。
- **「上書きしない」**
  すでに資産管理データベースに値が登録されていたら，上書きしません。

9.6.5 インベントリ情報から取得する項目を追加する

ここでは，資産情報の管理項目に，システム情報の「BIOS バージョン」を追加する場合を例に，引き当て項目を設定する手順を説明します。

引き当て項目を設定する手順を次に示します。

1. **業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」をクリックすると表示されるインベントリ情報の引き当て画面で，「資産情報 . 固有情報 Field128-1」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログが表示されます。
   Asset Information Manager の管理項目に対して，引き当てられる項目が表示されます。なお，管理項目に応じて，表示される項目は異なります。
   - 「設定しない」
     インベントリ情報から取得した項目を引き当てない場合に選択します。
   - 「システム構成情報」
     システム構成情報の項目を登録したい場合に選択して，プルダウンから項目を選択します。

- 「システム情報」
  システム情報の項目を登録したい場合に選択して，プルダウンから項目を選択します。
- 「ユーザインベントリから取得」
  ユーザインベントリ情報の項目を登録したい場合に選択して，ユーザインベントリ情報の項目名を指定します。
- 「レジストリ情報から取得」
  レジストリ情報の項目を登録したい場合に選択して，レジストリ取得項目の項目名を指定します。
- 「固定値」
  インベントリ情報の内容にかかわらず，固定の情報を登録したい場合に選択して，値を指定します。

2. **「引き当て項目」に表示された項目から，「システム情報」を選択する。**
3. **プルダウンから「BIOS バージョン」を選択する。**
4. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログが閉じて，「引き当て項目」の欄に「BIOS バージョン」が指定されます。
5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   引き当ての設定が有効になります。

追加した情報を操作画面で参照できるようにするには，管理項目編集および業務フィルターでの設定が必要です。

資産情報の「固有情報 Field128-1」を管理項目に追加する方法，および名称を変更する方法については，「9.2　管理項目の変更（管理項目編集）」を参照してください。

また，追加した管理項目の情報を参照するための操作画面の変更については，「9.3 ユーザ権限に応じた操作画面の変更（業務フィルター）」を参照してください。

固有情報 Code にインベントリ情報から取得する項目を追加するには

固有情報 Code-1 ～固有情報 Code-6 に引き当てる項目を追加するには，あらかじめ該当するクラスのプロパティに，引き当てるコードを追加しておいてください。引き当てるコードが定義されていない場合は，［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログに「コード」が非活性で表示されます。
コードの追加方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1　コードを追加する」を参照してください。
なお，インベントリ情報の登録時に，JP1/NETM/DM から取得した情報に該当するコードがない場合は，NULL が設定されます。このとき，既存の情報がある場合も上書きされます。

9.6.6　インベントリ情報登録時のデフォルト値を変更する

ここでは，インストールソフトウェアリストの「インストールソフトウェア管理状態」

のデフォルト値「許可する」を「許可しない」に変更する場合を例に，引き当て項目を設定する手順を説明します。

「インストールソフトウェア管理状態」を，許可しない設定に変更することによって，Asset Information Manager に登録されていないソフトウェア名が JP1/NETM/DM のインベントリ情報に含まれていた場合に，資産管理者にメールで通知されるようになります。

引き当て項目を設定する手順を次に示します。

1. **インベントリ情報の引き当て画面で，「インストールソフトウェアリスト . 許可」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログが表示されます。
2. **「引き当て項目」に表示された項目から，「コード」を選択する。**
3. **プルダウンから「許可しない」を選択する。**
4. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［インベントリ情報の引き当て　引き当て項目一覧］ダイアログが閉じて，「引き当て項目」の欄に「許可しない」が指定されます。
5. **［更新］ボタンをクリックする。**
   引き当ての設定が有効になります。

許可されていないソフトウェアのインストールをメールで通知させるためには，タスク「許可外インストール通知」を有効にしておく必要があります。タスクの詳細については，「5.9　タスクスケジューラに登録されるタスクの設定」を参照してください。

なお，登録されたインストールソフトウェア管理状態は，インストールソフトウェア管理画面で設定を変更できます。インストールを許可するかどうかの設定を変更する手順については，マニュアル「運用ガイド」の「4.7.2　インストールソフトウェア情報を変更する」を参照してください。

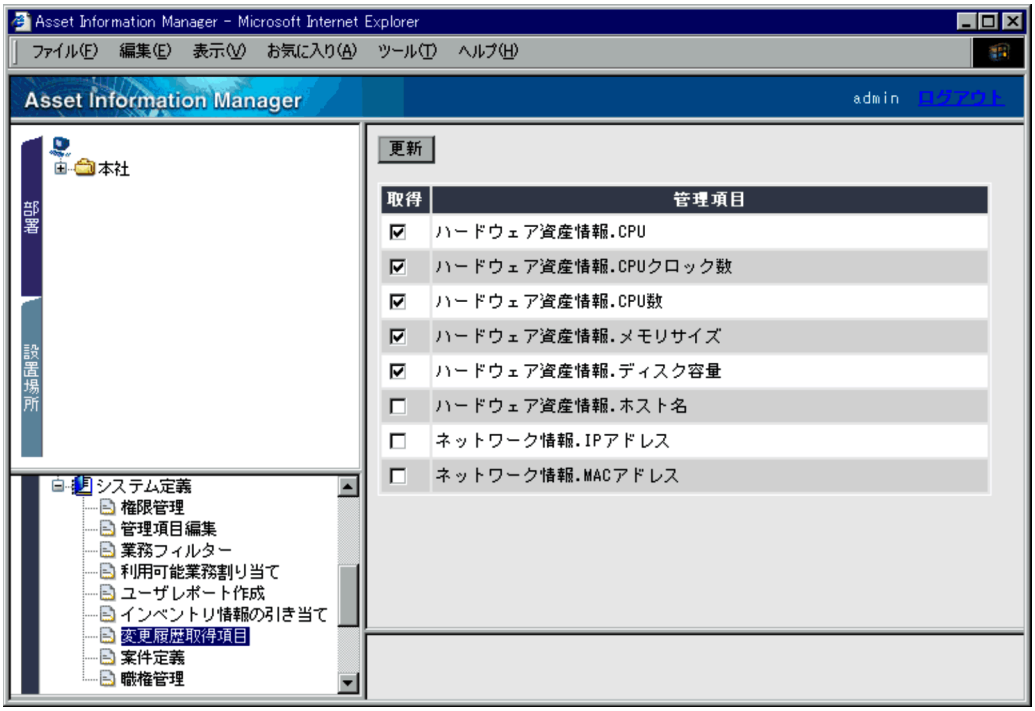
9.7　変更履歴として取得する項目の選択（変更履歴取得項目）

管理する目的に合わせて，機器の変更履歴として取得する項目を選択できます。

機器の変更履歴は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報または Network Node Manager のノード情報を登録する際に取得されます。そのため，機器の変更履歴を管理するには，JP1/NETM/DM または Network Node Manager との連携が必要です。

変更履歴として取得する項目の選択は，業務メニュー「変更履歴取得項目」をクリックすると表示される変更履歴取得項目画面から変更できます。変更履歴取得項目画面を次の図に示します。

図 9-30　変更履歴取得項目画面



機器の変更履歴として取得できる項目が一覧で表示されます。ハードウェア資産情報の固有情報を使用して機器の情報を管理している場合，固有情報の変更履歴も取得できます。ここでの設定に合わせて取得された変更履歴は，「機器管理」以下の業務メニュー「変更履歴」，および［機器詳細］ダイアログの「変更履歴」タブで参照できます。

変更履歴を取得したい項目は，「取得」のチェックボックスをチェックして［更新］ボタンをクリックしてください。

変更履歴として取得しない項目は，「取得」のチェックボックスのチェックを外して［更

新］ボタンをクリックしてください。

機器の変更履歴のメール通知

変更履歴を取得した場合，変更があった機器の台数を資産管理者にメールで通知させることができます。変更があった機器の台数をメールで通知する方法については，「5.9.10　機器の情報の変更通知」を参照してください。

注意事項

- 業務メニュー「管理項目編集」で，変更履歴として取得できる項目を非表示に設定すると，変更履歴は取得されません。また，この画面にも表示されなくなります。
- 「ネットワーク情報 .IP アドレス」または「ネットワーク情報 .MAC アドレス」の項目の変更履歴を取得する場合，DHCP 運用の機器の変更履歴が大量に取得されるおそれがあります。DHCP 運用時に IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴を取得するかどうかは，［サーバセットアップ］ダイアログで選択できます。IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴を取得する設定については，「5.3.4(13)　DHCP アドレスの変更履歴の取得」を参照してください。
- 「ネットワーク情報 .IP アドレス」または「ネットワーク情報 .MAC アドレス」の項目の変更履歴を取得する場合，IP アドレスおよび MAC アドレスの変更履歴は，MAC アドレスの値をキーにして取得されます。そのため，変更履歴として MAC アドレスを取得しない設定にすると，IP アドレスに変更がないときも変更履歴が取得されることがあります。

10 案件の定義

この章では，案件を使用した資産管理業務を実行するために，案件を定義する方法について説明します。まず，案件定義の作業の概要を示したあと，職権および案件のそれぞれの定義方法について説明します。
また，案件を定義する際のポイントを FAQ で示します。

10.1 **案件定義の概要**

10.2 **案件を処理する権限を定義する（職権管理）**

10.3 **ルートを定義する**（Flow Designer）

10.4 **案件画面を定義する**（Form Designer）

10.5 **各管理ノードの作業を定義する**（Activity Designer）

10.6 **案件処理オプションを設定する**（Flow Designer）

10.7 **登録された案件を変更する**

10.8 FAQ（**案件の定義**）

10.1　案件定義の概要

案件を使用して資産管理業務を実行するために，業務内容に合わせて案件を定義します。

案件の定義は，業務メニュー「案件定義」をクリックすると表示される案件定義画面から実行します。案件定義画面を次の図に示します。

図 10-1　案件定義画面

案件定義画面には，定義済みで運用中の案件，または作成途中で保存されている案件の一覧が表示されます。

ここから，新規に案件を定義したり，登録されている案件を変更したりします。

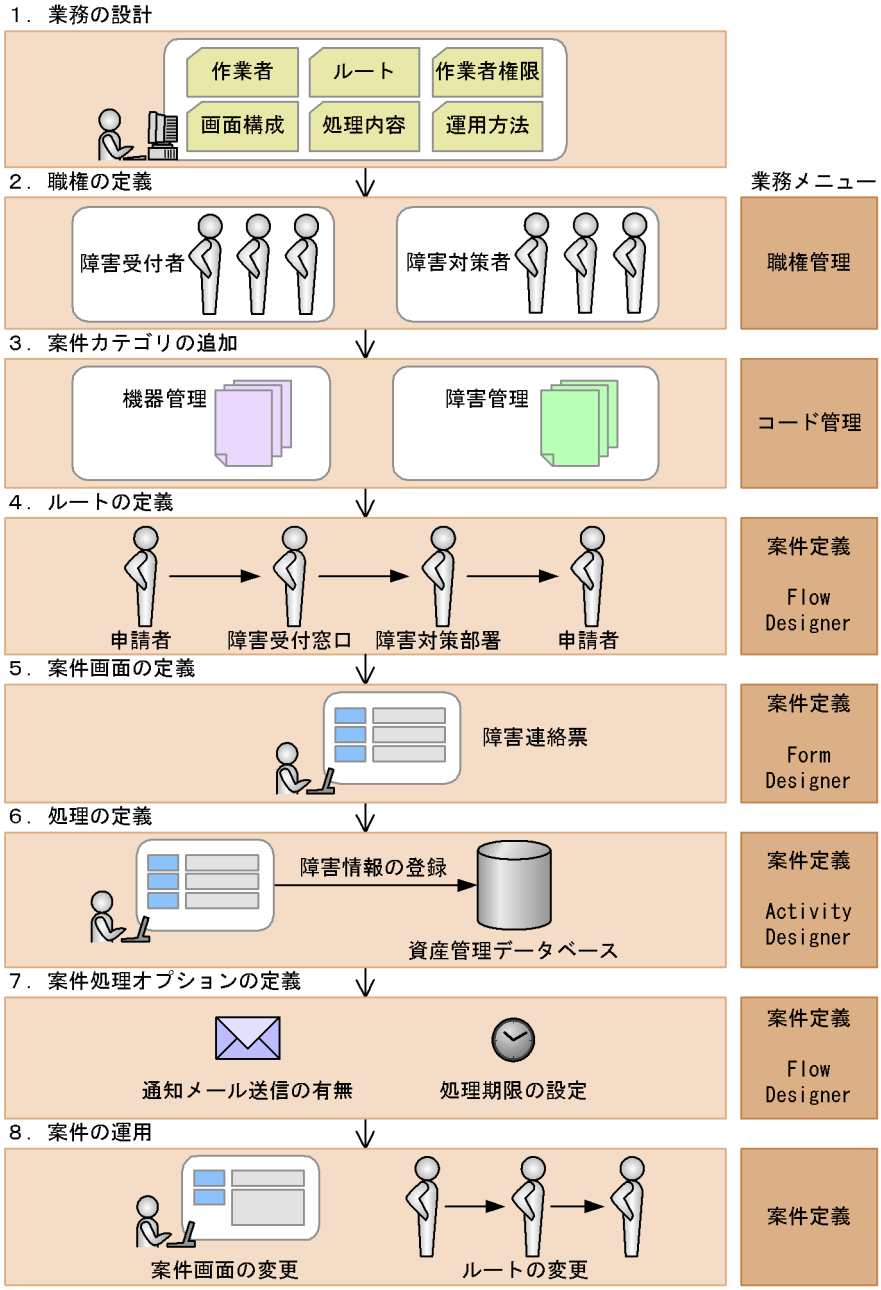
デフォルトでは，Asset Information Manager がサンプルで提供している案件が登録されています。「案件名」のアンカーをクリックすると，各案件の定義内容を変更できます。

類似する案件を新規に定義する場合は，サンプルの案件をコピーすると，効率良く作業できます。既存の案件を利用して案件を定義する手順については，「10.7　登録された案件を変更する」を参照してください。

10.1.1　定義する項目と流れ

案件を定義するために必要な作業の項目とその流れについて説明します。

図 10-2　案件定義の流れ



1．業務の設計

案件を使用してどのような業務を実行するかを，詳細に検討します。業務を設計する際に必要な検討内容としては，関係する部署または人（これを作業者と呼びます），それぞれの資産管理作業の範囲，ルート，作業者の権限，申請・通知情報，画面構成，資産管理データベースへの情報を反映するタイミングと処理内容，および既存業

務からの移行や周知徹底を含めたスケジュールです。
業務の設計時に検討する内容の詳細については，「10.1.2　案件を使用した業務を設計する」を参照してください。

2. **職権の定義**
承認などの処理権限を持ったユーザが実行する作業に，その作業を実行する権限を定義して，対象となるユーザを登録します。職権は，案件を定義する前に業務メニュー「職権管理」で定義しておきます。職権を定義する方法は，「10.2　案件を処理する権限を定義する（職権管理）」を参照してください。

3. **案件カテゴリの追加**
案件は任意のカテゴリに属していて，新規案件を選択する画面（新規案件画面）では，案件は案件カテゴリごとのタブに分かれて表示されます。
新たに案件カテゴリを追加する必要がある場合，案件を定義する前に業務メニュー「コード管理」でカテゴリを追加しておきます。案件カテゴリを追加する方法は，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1　コードを追加する」を参照してください。

4. **ルートの定義**
作業者と処理を配置して，案件のルートを定義します。案件の定義では，ルートを定義してから，ルート上の作業者や処理に対して詳細を設定していきます。
案件のルートは，案件定義画面から表示する Flow Designer で定義します。ルートの定義方法については，「10.3　ルートを定義する（Flow Designer）」を参照してください。

5. **案件画面の定義**
作業者が操作する案件の画面を定義します。案件画面は，ルート上の作業者ごとに，扱う入力情報や処理内容に応じて定義します。
案件画面は，Flow Designer から表示する Form Designer で定義します。案件画面の定義方法については，「10.4　案件画面を定義する（Form Designer）」を参照してください。

6. **処理の定義**
案件画面の内容を，資産管理データベースに反映する方法を定義します。案件を次の作業者に送信するだけであれば，定義は必要ありません。処理の定義が必要となるのは，案件を次の作業者に送信するタイミングで，資産管理データベースのデータを登録・更新する場合だけです。例えば，申請内容を承認依頼して，最終承認のあとに登録するような案件の場合は，処理の定義が必要となるのは，最終承認の処理だけです。
処理は，Flow Designer から表示する Activity Designer で定義します。処理の定義方法については，「10.5　各管理ノードの作業を定義する（Activity Designer）」を参照してください。

7. **案件処理オプションの定義**
ルート上の作業者や処理の詳細を定義したら，最後に，案件に対するオプションを定義します。案件処理オプションには，案件を次の作業者に送信する際に，次の作業者にメールで通知するかどうかと，案件に処理期限を設定するかどうかを定義します。

この案件処理オプションは，必要に応じて定義してください。
案件処理オプションは，Flow Designer で定義します。案件処理オプションの定義方法については，「10.6　案件処理オプションを設定する（Flow Designer）」を参照してください。

8. **案件の運用**
案件を実際に運用していくうちに，業務内容に変更が発生し，最初に定義した内容を変更する必要が生じることがあります。
一度公開した案件の定義内容を変更するには，該当する案件をコピーして，新たに案件を登録し直します。
新しい案件を公開し，それまで運用していた案件を公開停止にすることで，案件のバージョンを移行できます。
登録した案件を変更する方法については，「10.7　登録された案件を変更する」を参照してください。

10.1.2　案件を使用した業務を設計する

案件を使用して，どのような業務を実行するかを設計します。業務を設計する際に必要な項目を次に示します。

- **関係する部署または人（作業者）と資産管理作業の範囲**
業務に関係する部署または人（作業者）を決定します。また，関係する各作業者に対して，作業の範囲を明確にします。
- **ルート**
業務内容を決めたら，その業務を実行するために必要な作業とその順番を決めて，案件のルートを検討します。
- **作業者の権限**
ルートの中で，「承認」のように処理を実行する作業者を限定したいものがあるかどうかを検討します。
- **申請・通知情報**
案件を使用して申請する内容や，通知する情報を検討します。ただし，案件から実行できる処理は，あらかじめ決まっています。案件から実行できる処理の種類については，「10.5.2　実行タスクを選択する」を参照してください。
- **画面構成**
ルートが決定したら，ルート上の各作業者が処理する画面の構成を検討します。画面上に配置する設定項目やボタンを決定し，画面から実行できる処理を明確にします。
- **資産管理データベースへの情報を反映するタイミングと処理内容**
画面の構成と併せて，処理内容を検討します。案件からの処理は，あらかじめ選択できる種類が決まっています。処理の内容と併せて，処理を複数の対象に実行するかどうか，複数の対象に実行する場合はどの値を基に実行するか，なども検討します。
また，案件のルートの中で，どのタイミングで情報を登録または更新するかについても検討します。
- **既存業務からの移行や周知徹底を含めたスケジュール**
運用を開始したあとで，ルートや作業者に変更が生じた場合など，いったん運用を開

始した案件業務を移行するに当たって，移行期間の見積もりや，利用者への周知徹底方法などを検討します。

10.1.3 定義時の注意事項

案件を定義する際は，次の点に注意してください。

- 案件のルートは，ある作業者から特定の条件で送信先が分かれるようなルート（分岐）は定義できません。
- 案件画面を編集したら，タスクを定義したアクティビティを，必ず登録し直してください。タスクを変更する必要がない場合でも，そのままの内容で登録してください。これは，Activity Designer で定義している項目が，Form Designer で変更されることで，案件が正しく実行されなくなることを防ぐためです。

10.2　案件を処理する権限を定義する（職権管理）

資産管理システムにログインするユーザ権限とは別に，案件を実行する権限（**職権**）を定義します。案件を定義する際は，あらかじめ登録されている職権の中から割り当てるため，案件を定義する前に職権を定義しておく必要があります。

職権は，案件の定義とは別に，独立した権限グループとして定義します。したがって，同じ職権を複数の案件の管理ノードに割り当てることができます。また，人事異動などで職権の対象ユーザが変更になっても，案件の定義内容には影響しません。

職権は，業務メニュー「職権管理」を選択すると表示される職権管理画面で定義します。

職権管理画面を次の図に示します。

図 10-3　職権管理画面

定義されている職権が一覧で表示されます。「職権 ID」のアンカーをクリックすると，各職権の詳細を表示できます。

10.2.1　新しく職権を追加する

新しく職権を追加する手順を次に示します。

1. **職権管理画面で，［新規作成］ボタンをクリックする。**
   ［新規職権登録］ダイアログが表示されます。

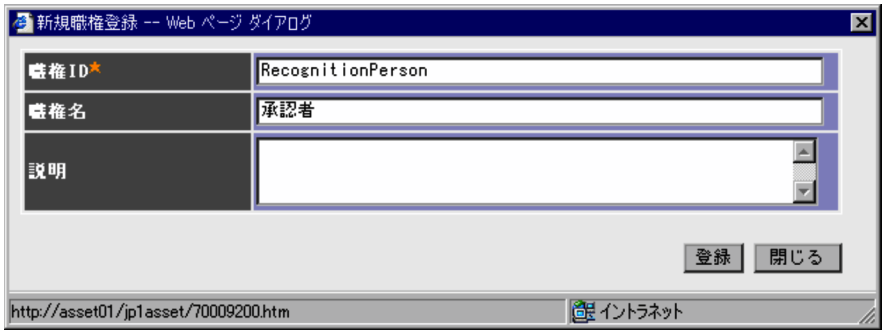
- **職権 ID**
  各職権にユニークな ID を指定します。この項目は必ず指定してください。
- **職権名**
  職権の名称を指定します。省略すると，「職権 ID」と同じ名称になります。
- **説明**
  必要に応じて，登録する職権に対する説明を入力します。

キャンセルする場合は［閉じる］ボタンをクリックしてください。

2. **［登録］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で職権が登録されて，［新規職権登録］ダイアログが閉じます。

各項目を指定した状態の［新規職権登録］ダイアログを次の図に示します。

図 10-4 ［新規職権登録］ダイアログ



10.2.2 職権の内容を変更する

すでに登録してある職権の名称や対象ユーザを登録，変更して，職権の内容を変更する手順を説明します。

(1) 職権名を変更する

職権名を変更する手順を次に示します。

1. **職権管理画面で，変更したい職権の「職権 ID」のアンカーをクリックする。**
   ［職権詳細］ダイアログが表示されます。
   キャンセルするには，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
2. **「職権」タブで「職権名」を変更して，［更新］ボタンをクリックする。**
   指定した内容で職権名が変更されます。

(2) 対象ユーザを登録および変更する

職権の対象ユーザを登録および変更する手順を次に示します。

1. **職権管理画面で，該当する職権の「職権 ID」のアンカーをクリックする。**
   ［職権詳細］ダイアログが表示されます。

2. **「対象ユーザ」タブをクリックする。**
   対象に登録されているユーザが表示されます。
   - **対象から解除する場合**
     解除したいユーザのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

   キャンセルするには，［閉じる］ボタンをクリックしてください。
3. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザ検索］ダイアログが表示されます。
4. **必要に応じて検索条件を指定して，［検索］ボタンをクリックする。**
   一覧に，条件に一致するユーザが検索されます。
   「職権保有ユーザ」の項目では，すでにほかの職権の対象となっているユーザを検索対象に含めるかどうかを指定します。デフォルトでは，「職権保有ユーザを含める」が指定されています。
5. **対象に追加したいユーザのチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   デフォルトで作成されるユーザ ID「admin」，「JP1_NNM」，「JP1_IM」，「JP1_IM_IDM」，「JP1_IM_CM」，「JP1_IM_SS」，「JP1_NI2」のユーザは，職権の対象には追加できません。
6. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザ検索］ダイアログが閉じて，対象ユーザが追加されます。

［職権詳細］ダイアログで，対象ユーザを追加する流れを次の図に示します。

図 10-5　対象ユーザを追加する流れ

10.2.3　職権を削除する

職権を削除するには，職権管理画面で削除したい職権のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。ただし，対象ユーザが登録されている場合，または公開の案件で使用されている場合は削除できません。

10.3　ルートを定義する（Flow Designer）

この節では，案件のルートを定義する方法について説明します。

案件のルートは，案件定義画面から表示する Flow Designer で定義します。Flow Designer でのルートの定義は，案件を定義するためのベースとなります。

Flow Designer の表示方法には，次の 2 種類の方法があります。

- **［新規］ボタンをクリックする。**
  何もない状態から新たに定義する方法です。案件名を指定するダイアログで案件名を指定すると，管理ノードが一つだけ定義された状態の Flow Designer が表示されます。
- **「案件名」のアンカーをクリックする。**
  定義途中の案件を編集するか，または定義済み案件の設定内容を参照する方法です。定義済みの案件を流用して定義するには，コピーを作成してから「案件名」のアンカーをクリックします。
  Flow Designer は，案件の状態によって，編集可能な状態で表示されるかどうかが異なります。状態が「作成中」の案件は編集可能な状態で表示されますが，状態が「公開」または「公開停止」の案件は，定義内容を参照するだけで編集はできません。
  また，ほかのユーザが編集中の案件は，Flow Designer を表示できません。

10.3.1　Flow Designer の各部の名称と使い方

ここでは，Flow Designer の各部の名称および使い方について説明します。

Flow Designer を次の図に示します。

図 10-6　Flow Designer

Flow Designer に配置する管理ノードやアクティビティは，「ツール」のボタンを使用して追加します。ボタンは，Flow Designer 上で選択している対象に応じて，使用できるときだけ活性化します。

「ツール」の各ボタンについて次に示します。

：管理ノード追加

Flow Designer で選択している管理ノードの右側に，管理ノードを追加します。案件のルート上に定義できる管理ノードは，20 個までです。

：アクティビティ追加

Flow Designer で選択している管理ノードに，アクティビティを追加します。

：完了アクティビティ追加

Flow Designer で選択している管理ノードに，案件を完了させる完了アクティビティを追加します。

：編集

Flow Designer で選択しているアクティビティ，案件画面アイコン，職権アイコンの定義内容を編集します。
また，管理ノードの名称も変更できます。

：削除

Flow Designer で選択している管理ノードおよびアクティビティを削除します。ただし，左端の管理ノードは削除できません。
Flow Designer で選択した管理ノードにアクティビティが定義してある場合，管理ノードを削除すると，アクティビティも一緒に削除されます。

：メールオプション編集

定義中の案件で，各作業者に案件が到着したことを通知するメールの，タイトルや文面を定義します。通知メールは，必要に応じて設定してください。
このボタンは，Flow Designer で何も選択していないときに選択できます。

：処理期限設定

案件を最初の作業者が送信してから完了するまでの処理期限を設定します。処理期限は必要に応じて設定してください。処理期限を設定すると，期限を過ぎた案件は，受信トレイに赤文字で表示されます。
このボタンは，Flow Designer で何も選択していないときに選択できます。

10.3.2　作業者や処理を配置する

ここでは，Flow Designer で案件の作業者や処理を配置して，ルートを定義する方法について説明します。

案件の定義は，Flow Designer で定義した作業者や処理の配置を基に，画面や資産管理データベースへの処理内容などを定義していきます。そのため，詳細な定義をしない状態で，まずは案件のルートを確定させると，案件の定義をスムーズに進められます。

ここでは，［新規］ボタンをクリックして表示される Flow Designer から，サンプルで提供している「機器導入依頼票」と同じルートを定義する場合を例に，作業者や処理を配置する手順を次に示します。

1. **案件カテゴリを選択する。**
   デフォルトでは，「テンプレート」というカテゴリだけが用意されています。追加する場合は，コード編集画面で「Others（いずれにも所属しないコード）」の「MatterCategory」にコードを追加します。コードの追加方法については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1　コードを追加する」を参照してください。
2. **「申請者」の管理ノードの管理ノード名の欄を選択して，［管理ノード追加］ボタンをクリックする。**
   管理ノードの名称を指定するダイアログが表示されます。
3. **管理ノード名に「承認者」と指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   ダイアログが閉じて，「申請者」の管理ノードの右側に，「承認者」の管理ノードが追加されます。
   続けて，追加された管理ノードの管理ノード名の欄を選択して手順 2. と手順 3. を繰

り返し，「受付窓口」，「配布管理部署」，「申請者」の管理ノードを追加します。

4. **左端の「申請者」の管理ノードを選択して，［アクティビティ追加］ボタンをクリックする。**
   アクティビティの名称を指定するダイアログが表示されます。

5. **アクティビティ名に「申請」と指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   ダイアログが閉じて，「申請者」の管理ノードの右側に，「申請」のアクティビティが追加されます。
   続けて，「承認者」，「受付窓口」，「配布管理部署」の管理ノードを選択して手順 4. と手順 5. を繰り返し，「承認」，「配布依頼」，「配布」のアクティビティを追加します。

6. **右端の「申請者」の管理ノードを選択して，［完了アクティビティ追加］ボタンをクリックする。**
   完了アクティビティの名称を指定するダイアログが表示されます。

7. **完了アクティビティ名に「完了」と指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   ダイアログが閉じて，右端の「申請者」の管理ノードの下に，完了アクティビティが追加されます。
   完了アクティビティは，案件を終了するためのアクティビティです。ルートの途中で終了させる場合は，ルートの途中に追加できます。

以上で，案件のルートが定義できました。ここまでの定義内容を保存する場合は，［登録］ボタンをクリックしてください。

各管理ノードの処理を実行するユーザの職権，案件画面およびアクティビティの詳細を設定するには，設定したいアイコンを選択して，「ツール」の［編集］ボタンをクリックします。

職権の設定方法については「10.3.3　管理ノードに職権を設定する」，案件画面の定義方法については「10.4　案件画面を定義する（Form Designer）」，アクティビティの定義方法については「10.5　各管理ノードの作業を定義する（Activity Designer）」を参照してください。

10.3.3　管理ノードに職権を設定する

ここでは，「承認者」や「受付窓口」など，作業を実行する権限を持ったユーザだけが作業を実行できるように，管理ノードに対して職権を設定する方法について説明します。

職権は，あらかじめ定義しておいた中から選択します。職権を定義する方法については，「10.2　案件を処理する権限を定義する（職権管理）」を参照してください。

Flow Designer で，管理ノードに職権を設定する手順を次に示します。

1. **職権を設定する管理ノードの「職権」アイコン（ ）を選択して，［編集］ボタンをクリックする。**
   ［対象職権の定義］ダイアログが表示されます。

2. **「職権保有者」のラジオボタンを選択状態にして，対象とする職権のチェックボックスをチェックする。**

3. **［決定］ボタンをクリックする。**
［対象職権の定義］ダイアログが閉じて，指定した職権が管理ノードに設定されます。

［対象職権の定義］ダイアログを次の図に示します。

図 10-7 ［対象職権の定義］ダイアログ

最初に案件を投入したユーザに戻して案件を完了させる場合

「機器導入依頼票」のように，最初に案件を投入したユーザが結果を確認して案件を完了するルートの場合，案件の最後の管理ノードに対して「案件投入者」を設定します。

この項目を選択すると，その前の作業者が処理を終了する際に，［送信先の選択］ダイアログは表示されないで，自動的に案件が投入者に送信されます。

なお，「案件投入者」のラジオボタンを選択状態にすると，「職権」のチェックボックスの指定は無効となります。

職権の設定を解除する場合

［対象職権の定義］ダイアログで，「職権保有者」のラジオボタンを選択状態にして，「職権」のチェックボックスのチェックをすべて外します。

10.4 案件画面を定義する（Form Designer）

この節では，案件を処理する際の各作業者の画面（**案件画面**）を，定義する方法について説明します。

案件を処理する際の各作業者の画面は，Form Designer で定義します。Form Designer は，Flow Designer で定義された管理ノードの「案件画面」アイコン（ ）を選択して，［編集］ボタンをクリックすると表示されます。

状態が「公開」または「公開停止」の案件を Flow Designer から表示した場合は，定義内容を編集できません。

案件画面を定義する順番

案件画面は，Flow Designer で定義した左端の管理ノードから定義します。左端の管理ノードの案件画面は，案件を作成する作業者の画面で，それ以外の管理ノードの案件画面を定義する際のテンプレートとなります。これによって，効率良く案件画面を定義できます。

左端の管理ノードの案件画面に定義した項目は，それ以降すべての管理ノードの案件画面に引き継がれますが，途中の管理ノードで項目を追加した場合は，それ以降の管理ノードには引き継がれません。

そのため，基本的に，左端の管理ノードの案件画面には，その案件で使用する項目をすべて定義しておきます。作業者によって必要ない場合は，その項目を非表示に設定しておくことができます。

注意事項

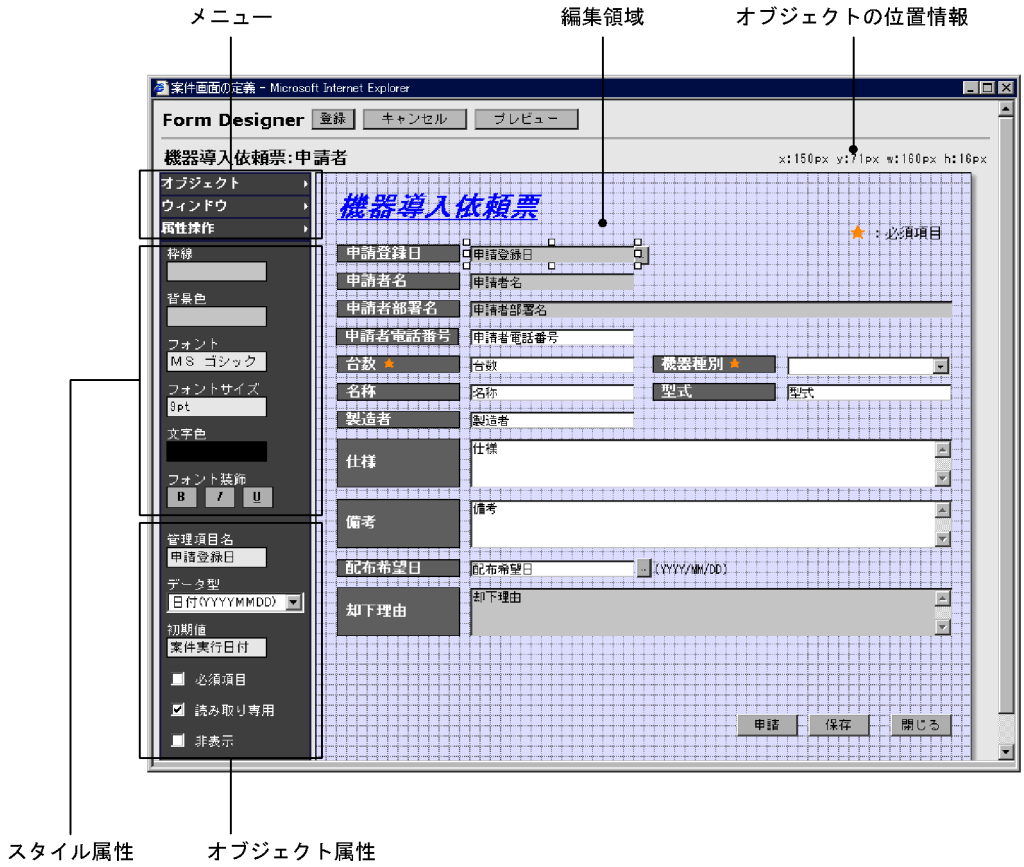
Form Designer を編集可能な状態で表示している間は，セッションは切断されません（［サーバセットアップ］ダイアログの「セッション情報」の「無通信監視時間」での設定が適用されません）。そのため，使用していない場合は，Form Designer を閉じてください。

10.4.1 Form Designer の各部の名称と使い方

ここでは，Form Designer の各部の名称および使い方について説明します。

Form Designer を次の図に示します。

図 10-8　Form Designer



Form Designer では，案件画面を構成する項目（**オブジェクト**）と案件画面（**ウィンドウ**）の属性を設定します。

- **メニュー**
  「オブジェクト」メニューをクリックすると，オブジェクトの種類がカスケードメニューに表示されます。挿入したいオブジェクトを選択すると，オブジェクトが編集領域に挿入されます。
  オブジェクトは，「オブジェクト」メニューでだけ挿入できます。Microsoft Internet Explorer のメニューでのはり付けはできません。
  「ウィンドウ」メニューをクリックすると，ウィンドウの属性を設定する項目がカスケードメニューに表示されます。
  「属性操作」メニューをクリックすると，オブジェクトのスタイル属性をコピーおよびはり付けするためのメニューが表示されます。編集領域で選択しているオブジェクトのスタイルをコピーし，別のオブジェクトにはり付けます。
- **編集領域**
  実際に案件を使用するときに，案件画面として表示される領域です。大きさや背景色を「ウィンドウ」メニューで設定し，「オブジェクト」メニューから追加した各オブ

ジェクトを配置して，スタイル属性やオブジェクト属性を設定します。

- **オブジェクトの位置情報**
  編集領域で選択しているオブジェクトの位置情報が，ピクセル単位で表示されます。この位置情報を使用して，オブジェクトの位置をそろえることができます。
- **スタイル属性**
  オブジェクトの色やフォントなどのスタイルを設定します。編集領域で選択しているオブジェクトに対して，設定できる項目だけが表示されます。
- **オブジェクト属性**
  実際に案件を使用するときに，各オブジェクトに指定される内容に合わせて，データ型，最大値，最小値，初期値などを設定します。また，各作業者の処理内容に合わせて，必須項目や，画面上に表示するかどうかなども設定します。
  編集領域で選択しているオブジェクトに対して，設定できる項目だけが表示されます。

10.4.2　ウィンドウを定義する

ここでは，Flow Designer で案件の作業者や処理を配置して，ルートを定義する方法について説明します。

案件画面のサイズ，背景色および背景画像を設定して，ウィンドウを定義します。各設定項目は，Form Designer の「ウィンドウ」メニューをクリックすると表示されます。

(1) サイズ

幅と高さをそれぞれ次の値から選択します。単位はピクセルです。

- **「幅」**
  480，640，800，1,024，1,280
  デフォルトは「640」です。
- **「高さ」**
  480，600，768，1,024
  デフォルトは「480」です。

(2) 背景色

「背景色」に表示されている中から，設定したい色をクリックします。また，グラデーションを設定したい場合は，グラデーションのパターンをクリックします。

(3) 画像

背景に画像を設定する手順を次に示します。

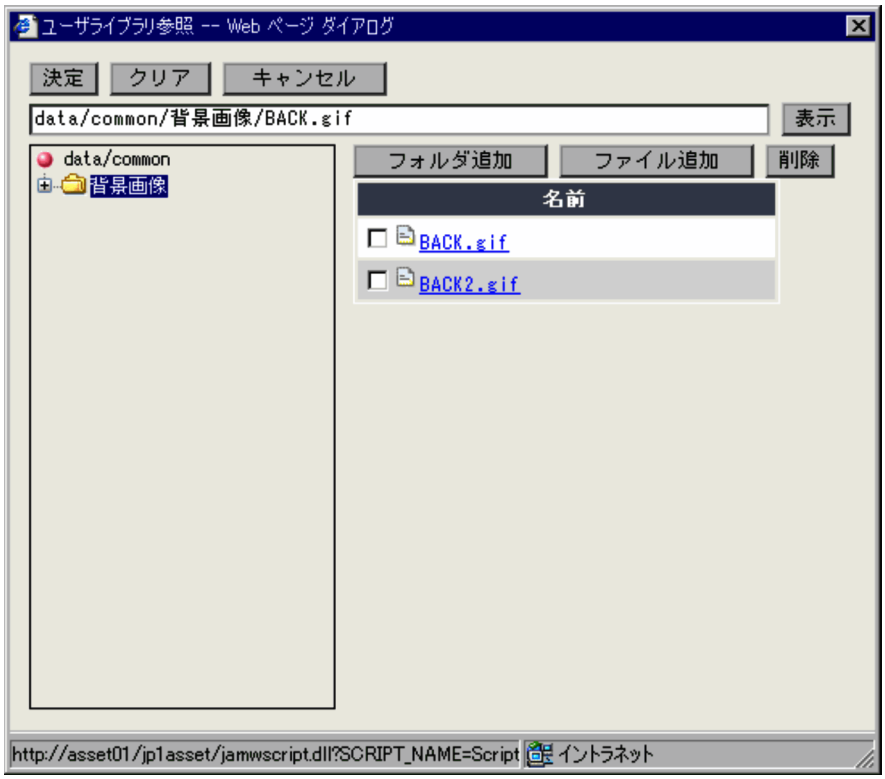
1. **「画像設定」の［参照］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザライブラリ参照］ダイアログが表示されます。
   設定する前にファイルの内容を参照するには，［表示］ボタンをクリックします。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **設定したい画像ファイルの「名前」のアンカーをクリックして，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザライブラリ参照］ダイアログが閉じて，指定した画像が背景に設定されます。
   指定したファイルは，ウィンドウ全体に並べて表示されます。

一度指定した画像をクリアするには

一度指定した画像を，何も指定しない状態に戻すには，もう一度「画像設定」の［参照］ボタンをクリックして，表示された［ユーザライブラリ参照］ダイアログで，［クリア］ボタンをクリックします。

［ユーザライブラリ参照］ダイアログを次の図に示します。

図 10-9 ［ユーザライブラリ参照］ダイアログ



ユーザライブラリは，案件で使用する画像を資産管理サーバにアップロードして，共通して使用するためのものです。Form Designer で案件画面に挿入したい画像は，ユーザライブラリに登録する必要があります。

ユーザライブラリにファイルを追加する手順を次に示します。

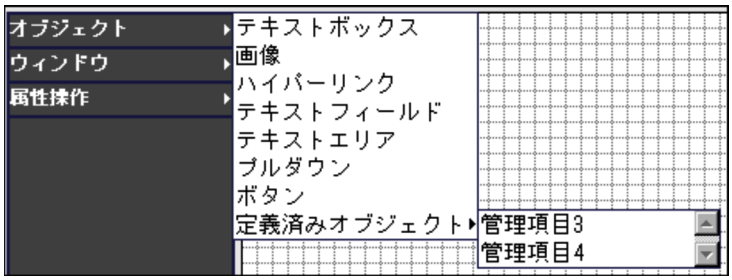
1. **［ファイル追加］ボタンをクリックする。**
   ［ファイル登録］ダイアログが表示されます。
   - **「保存ファイル名」**
     ユーザライブラリに登録する際のファイル名を指定します。
   - **「アップロードファイル名」**
     登録するファイルを指定します。
2. **［決定］ボタンをクリックする。**
   ［ファイル登録］ダイアログが閉じて，指定したファイルが追加されます。

   なお，ユーザライブラリにフォルダを追加する場合は，［フォルダ追加］ボタンをクリックして，追加したいフォルダ名を指定します。
   ユーザライブラリのフォルダおよびファイルを削除する場合は，削除したいフォルダまたはファイルのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

10.4.3　オブジェクトを挿入する

ここでは，Form Designer で案件画面を構成する項目（オブジェクト）を定義する方法について説明します。

オブジェクトは，Form Designer の「オブジェクト」メニューから選択して挿入します。



挿入したオブジェクトを削除するには，編集領域で削除したいオブジェクトを選択して，［Delete］キーを押してください。

(1) 挿入できるオブジェクトの種類

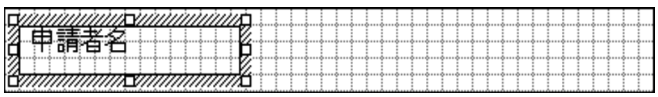
挿入できるオブジェクトの種類は，次の 8 種類です。

- テキストボックス
- 画像
- ハイパーリンク
- テキストフィールド
- テキストエリア
- プルダウン
- ボタン
- 定義済みオブジェクト

これ以降で，各オブジェクトの定義方法を説明します。

(a) テキストボックス

指定する項目の名称など，画面上に文字列を挿入します。

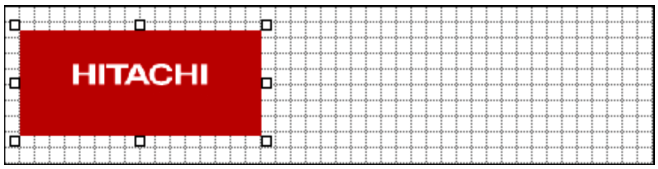


「オブジェクト」メニューから「テキストボックス」を選択すると，テキストボックスが編集領域に挿入されます。編集領域で，挿入されたテキストボックスに任意の文字列を指定します。

文字のスタイル（色やフォントの種類など）の設定方法については，「(2)　オブジェクトのスタイルを設定する」を参照してください。

(b) 画像

会社のロゴやアイキャッチなど，画面上に画像を挿入します。

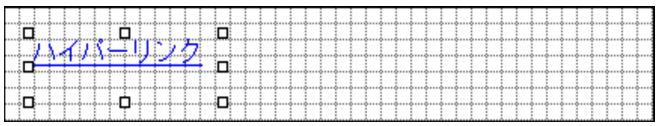


画像を挿入する手順を次に示します。

1. **「オブジェクト」メニューから「画像」を選択する。**
   ［ユーザライブラリ参照］ダイアログが表示されます。
2. **「名前」のアンカーをクリックして，挿入したいファイルを選択し，［決定］ボタンをクリックする。**
   ［ユーザライブラリ参照］ダイアログが閉じて，指定した画像が編集領域に挿入されます。挿入された画像に対して，位置や大きさを調整してください。
   挿入した画像の順序の設定方法については，「(2)　オブジェクトのスタイルを設定する」を参照してください。
   また，［ユーザライブラリ参照］ダイアログでの操作方法については，「10.4.2(3)　画像」を参照してください。

(c) ハイパーリンク

ファイルを登録して，案件に添付ファイルを設定したり，特定のサイトを参照させたりできます。

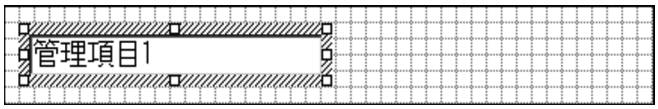


「オブジェクト」メニューから「ハイパーリンク」を選択すると，ハイパーリンクが編集領域に挿入されます。編集領域で，挿入されたハイパーリンクに任意の文字列を指定します。文字のスタイル（色やフォントの種類など）の設定方法については，「(2)　オブジェクトのスタイルを設定する」を参照してください。

また，リンク先の URL の設定方法については，「(3)(g)　URL」を参照してください。

(d) テキストフィールド，テキストエリア

案件画面で各作業者が入力する領域を挿入します。



「オブジェクト」メニューから「テキストフィールド」または「テキストエリア」を選択すると，編集領域にテキストフィールドまたはテキストエリアが挿入されます。編集領域で，必要に応じて大きさを変更してください。

テキストフィールドおよびテキストエリアに入力された値は，資産管理データベースに登録するため，併せてオブジェクト属性を設定する必要があります。

テキストフィールドおよびテキストエリアを挿入する際に必要なオブジェクト属性とその設定方法については，「(3)　オブジェクト属性を設定する」を参照してください。

(e) プルダウン

案件画面で各作業者が項目を選択する領域（プルダウン）を挿入します。

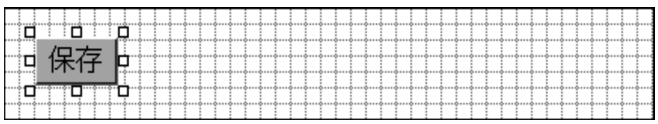
「オブジェクト」メニューから「プルダウン」を選択すると，編集領域にプルダウンが挿入されます。編集領域で，必要に応じて大きさを変更してください。

プルダウンで選択した値は，資産管理データベースに登録されるため，併せてオブジェクト属性を設定する必要があります。

「プルダウン」を挿入する際に必要なオブジェクト属性とその設定方法については，「(3)　オブジェクト属性を設定する」を参照してください。

(f)　ボタン

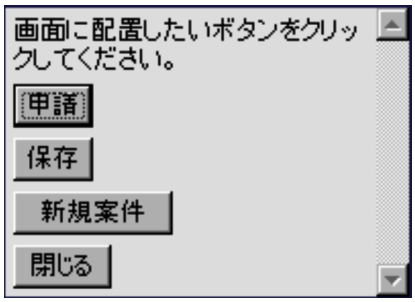
案件画面で処理を実行またはキャンセルするためのボタンを挿入します。



「オブジェクト」メニューから「ボタン」を選択すると，挿入するボタンを選択する領域が表示されます。表示された中からボタンを選択すると，編集領域にボタンが挿入されます。

ボタンの選択領域を次の図に示します。

図 10-10 ボタンの選択領域



案件画面に挿入するボタンは，Flow Designer で定義したアクティビティを実行するためのボタンと，共通で使用できるボタン［完了］，［保存］，［却下］，［新規案件］および［閉じる］の 5 種類です。ただし，［完了］ボタンは完了アクティビティの直前の管理ノードでだけ使用できます。

アクティビティを実行するためのボタンは，クリックしたタイミングで資産管理データベースのデータを更新する処理を実行する場合，処理内容（アクティビティ）を Activity Designer で定義する必要があります。

内容を確認して次の作業者に送信するだけの場合や，共通で使用できるボタンは，アクティビティを定義する必要はありません。

挿入できるボタンの種類を次に示します。

- **アクティビティを実行するためのボタン**
  Flow Designer で定義したアクティビティ名のボタンです。アクティビティ名とは別のボタン名にしたい場合は，編集領域に挿入したあとで変更できます。
- **［完了］**
  案件を完了させます。
- **［保存］**
  案件を次の作業者に送付しないで，送信トレイに保存します。
- **［却下］**
  案件を却下して，一つ前の作業者，または最初の作業者に送付します。
- **［新規案件］**
  別の案件を新規に作成するための案件画面を表示します。
- **［閉じる］**
  案件画面を閉じます。

(g) 定義済みオブジェクト

同じ案件のほかの管理ノードで定義したオブジェクトを挿入します。Flow Designer で定義した案件のルートで，途中に位置する管理ノードの案件画面で定義した項目を，それ以降の管理ノードの案件画面に引き継ぐ場合に使用します。

例えば，途中の作業者が［参照］ボタンから機器を指定して次の作業者に送付した場合，次の作業者がどの機器を指定したのかを参照するためには，この「定義済みオブジェク

ト」でオブジェクトを挿入します。

「オブジェクト」メニューから「定義済みオブジェクト」を選択して，さらに挿入したいオブジェクトの管理項目名を選択すると，編集領域に選択したオブジェクトが挿入されます。挿入したオブジェクトに対しては，ほかのオブジェクトと同様に，スタイルやオブジェクトの属性を設定できます。

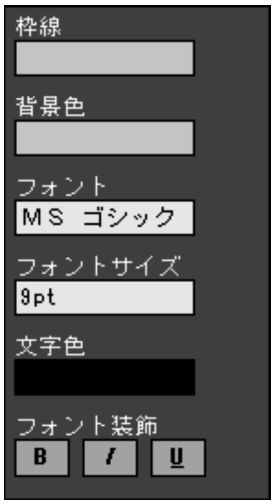
(2) オブジェクトのスタイルを設定する

「オブジェクト」メニューから挿入した各オブジェクトには，枠線や背景の色，フォントの種類などのスタイルを設定できます。

編集領域でオブジェクトを選択すると，選択したオブジェクトに対して設定できるスタイルが，スタイル属性の表示欄に表示されます。

スタイル属性の表示欄を次の図に示します。

図 10-11 スタイル属性の表示欄



設定したいスタイルの項目をクリックすると，設定できる色や値が表示されるので，該当するものを選択します。必要に応じて設定してください。

設定できるスタイルの種類とその値を次に示します。

- **「枠線」**
  設定されている色の領域をクリックして，「枠なし」または色をカラーパレット（140色）から選択します。
- **「背景色」**
  設定されている色の領域をクリックして，「透明」または色をカラーパレット（140色）から選択します。また，グラデーションを設定したい場合は，グラデーションのパターンをクリックします。
  また，「プルダウン」のオブジェクトに対しては，グラデーションは設定できません。

- **「フォント」**
  設定されているフォントの領域をクリックして，フォントの種類を選択します。
- **「フォントサイズ」**
  設定されているフォントサイズの領域をクリックして，フォントサイズを選択します。
  指定できるサイズは，5 ～ 72pt です。
- **「文字色」**
  設定されている色の領域をクリックして，「Default」または色をカラーパレット（140 色）から選択します。「Default」を選択すると，WWW ブラウザの設定に従います。
- **「フォント装飾」**
  「**B**」（太字），「*I*」（斜体），「U」（下線）の中から選択します。

(a) スタイル属性のコピー

一つのオブジェクトに設定したスタイルの組み合わせを，ほかのオブジェクトにコピーできます。画面上の項目を同じスタイルで統一する場合，一つのオブジェクトに背景色やフォントを設定してスタイル属性をコピーし，ほかのオブジェクトにはり付けると，項目ごとにスタイルを設定する手間を省けます。

スタイルをコピーしてはり付ける手順を次に示します。

1. **編集領域でスタイルをコピーしたいオブジェクトを選択して，「属性操作」メニューから「属性コピー」をクリックする。**
2. **編集領域でスタイルをはり付けたいオブジェクトを選択して，「属性操作」メニューから「属性貼り付け」をクリックする。**
   コピーしたスタイル属性とサイズが，編集領域で選択したオブジェクトにはり付けられます。
   スタイルをはり付けたいオブジェクトは，複数選択できます。

(b) 表示順序の設定

編集領域に挿入したオブジェクトの表示順序を設定する手順を次に示します。

1. **編集領域で順序を変更したいオブジェクトを選択して，「属性操作」メニューから「最前面に移動」または「最背面に移動」をクリックする。**
   選択したオブジェクトが，最前面または最背面に移動します。
   順序を変更したいオブジェクトは，複数選択できます。
   なお，「プルダウン」のオブジェクトには，表示順序の設定はできません。

(3) オブジェクト属性を設定する

各オブジェクトに指定される内容に合わせたデータ型や，必須項目，画面上に表示するかどうかなどを定義します。

編集領域でオブジェクトを選択すると，選択したオブジェクトに対して設定できる属性が，オブジェクト属性の表示欄に表示されます。

設定したい属性の項目をクリックすると，設定できる値や設定値を入力するダイアログが表示されます。

オブジェクトの種類と設定するオブジェクト属性の対応を，次の表に示します。

表 10-1　オブジェクトの種類とオブジェクト属性の対応

オブジェクトの種類	オブジェクト属性													
	管理項目名	データ型	データ最大長	最大値	最小値	初期値	参照範囲	コード	URL	必須項目	読み取り専用	非表示	実行案件	主題項目
テキストボックス	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
画像	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ハイパーリンク	×	×	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×
テキストフィールド	◎	◎	◎※1	◎※1	◎※1	○	○※1	×	×	○	○	○	×	○
テキストエリア	◎	◎	◎	×	×	○	×	×	×	○	○	○	×	○
プルダウン	◎	×	×	×	×	○	×	◎	×	○	○	○	×	×
ボタン	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○※2	×

（凡例）

◎：必ず設定する。

○：設定できる。

×：設定しない。

注※ 1

指定するデータ型によっては，設定できない場合があります。詳細は，「(b)　データ型」を参照してください。

注※ 2

［新規案件］ボタンにだけ設定できます。

(a) 管理項目名

値を入力する項目（例えば，テキストフィールドなど）を案件画面に定義する場合，入力された値の管理項目名を設定します。

ここで設定する管理項目名は，案件を定義するために使用する情報で，ほかの業務メニューの管理項目とは異なります。そのため，クラスやプロパティを意識することなく，任意の名称を設定できます。

管理項目名を設定するには，編集領域でテキストフィールド，テキストエリア，または

プルダウンのオブジェクトを選択して，「管理項目名」の指定領域をクリックすると表示されるダイアログで，管理項目名を入力して［OK］ボタンをクリックします。

なお，テキストフィールドとテキストエリアの場合は，オブジェクトを選択して，編集領域で管理項目名を入力することもできます。

ここで指定した管理項目名を基に，Activity Designer で案件画面の処理を定義します。

注意事項

- 案件作成者の案件画面から引き継がれているオブジェクト，および「定義済みオブジェクト」で挿入したオブジェクト以外は，同一案件の案件画面で同一の管理項目名は指定できません。
- 同じ管理項目名のオブジェクトは，必ず同じオブジェクト属性を設定してください。

(b) データ型

資産管理データベースに登録する際のデータ型，または項目の指定方法を設定します。

データ型を設定できるオブジェクトは，「テキストフィールド」，「テキストエリア」および「プルダウン」の 3 種類です。

データ型の種類と設定できるオブジェクトの種類の対応を，次の表に示します。

表 10-2 データ型の種類とオブジェクトの種類の対応

データ型の種類	オブジェクトの種類		
	テキストフィールド	テキストエリア	プルダウン
全角任意文字列	○	○	×
半角任意文字列	○	○	×
英字	○	○	×
英数字	○	○	×
部署参照	○	×	×
設置場所参照	○	×	×
ユーザ参照	○	×	×
コード参照	×	×	○
ファイル参照	○	×	×
機器参照	○	×	×
パッケージ参照	○	×	×
ソフトウェア参照	○	×	×
ソフトウェア資産参照	○	×	×
数値	○	×	×
日付（YYYYMMDD）	○	×	×

データ型の種類	オブジェクトの種類		
	テキストフィールド	テキストエリア	プルダウン
日付（YYYYMM）	○	×	×
日付（MMDD）	○	×	×
時刻（HHMMSS）	○	×	×
時刻（HHMM）	○	×	×

（凡例）
○：設定できる。
×：設定できない。

直接入力で指定するテキストフィールドおよびテキストエリアには，入力できるデータ型を設定します。

また，部署，設置場所，ユーザ，ファイル，機器，パッケージ，ソフトウェア名およびソフトウェア資産を指定するテキストフィールドは，それぞれの情報を［参照］ボタンを使って指定するためのデータ型を設定します。

［参照］ボタンを使って指定するためのデータ型について，次に示します。

「部署参照」，「設置場所参照」，「ユーザ参照」，「ファイル参照」

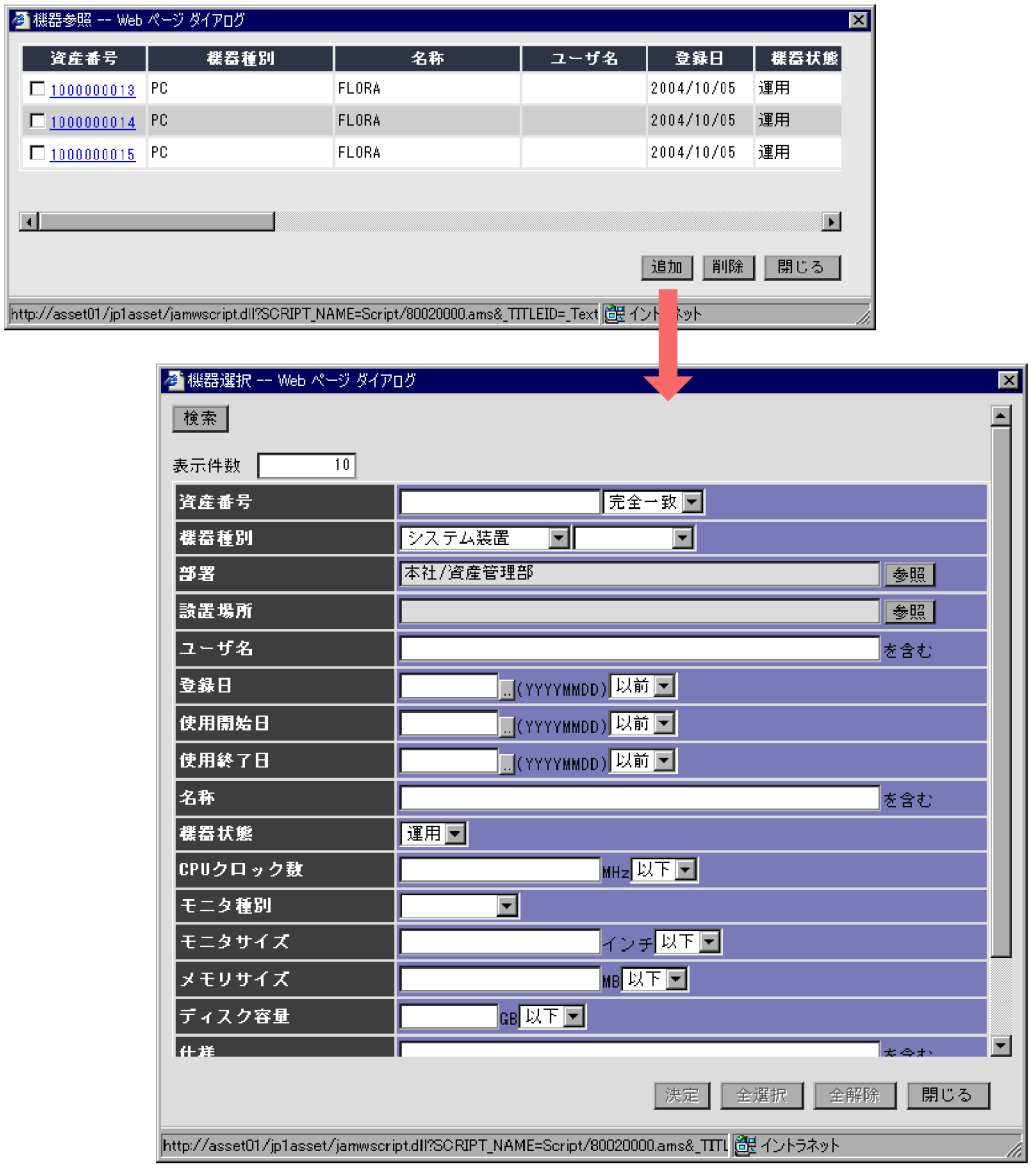
このデータ型を設定すると，テキストフィールドの横に［参照］ボタンが表示されます。実際の案件画面では，クリックすると表示されるダイアログから，それぞれの内容を指定できます。

「機器参照」

このデータ型を設定すると，テキストフィールドの横に［参照］ボタンが表示されます。実際の案件画面では，クリックすると表示されるダイアログから，Asset Information Manager で管理する機器を検索して指定できます。

［参照］ボタンをクリックすると表示される［機器参照］ダイアログから，機器を追加する流れを次の図に示します。

図 10-12 ［機器参照］ダイアログから機器を追加する流れ



［機器選択］ダイアログの検索結果一覧から，機器を選択して［決定］ボタンをクリックすると，［機器参照］ダイアログに機器が追加されます。

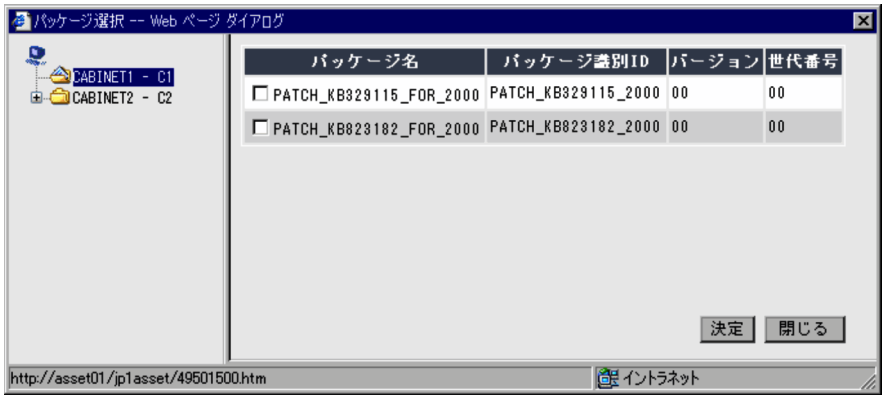
「パッケージ参照」

このデータ型を設定すると，テキストフィールドの横に［参照］ボタンが表示されます。実際の案件画面では，クリックすると表示されるダイアログから，配布したい JP1/NETM/DM のパッケージを指定できます。

［参照］ボタンをクリックすると表示される［パッケージ選択］ダイアログを次の図

に示します。

図 10-13 ［パッケージ選択］ダイアログ

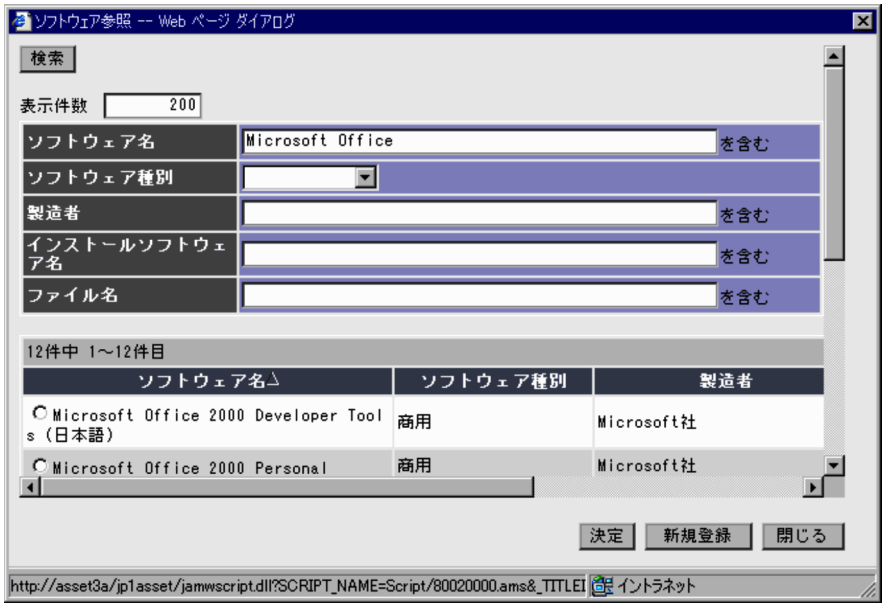


「ソフトウェア参照」

このデータ型を設定すると，テキストフィールドの横に［参照］ボタンが表示されます。実際の案件画面では，クリックすると表示されるダイアログから，ソフトウェア名を指定できます。

［参照］ボタンをクリックすると表示される［ソフトウェア参照］ダイアログを次の図に示します。

図 10-14 ［ソフトウェア参照］ダイアログ

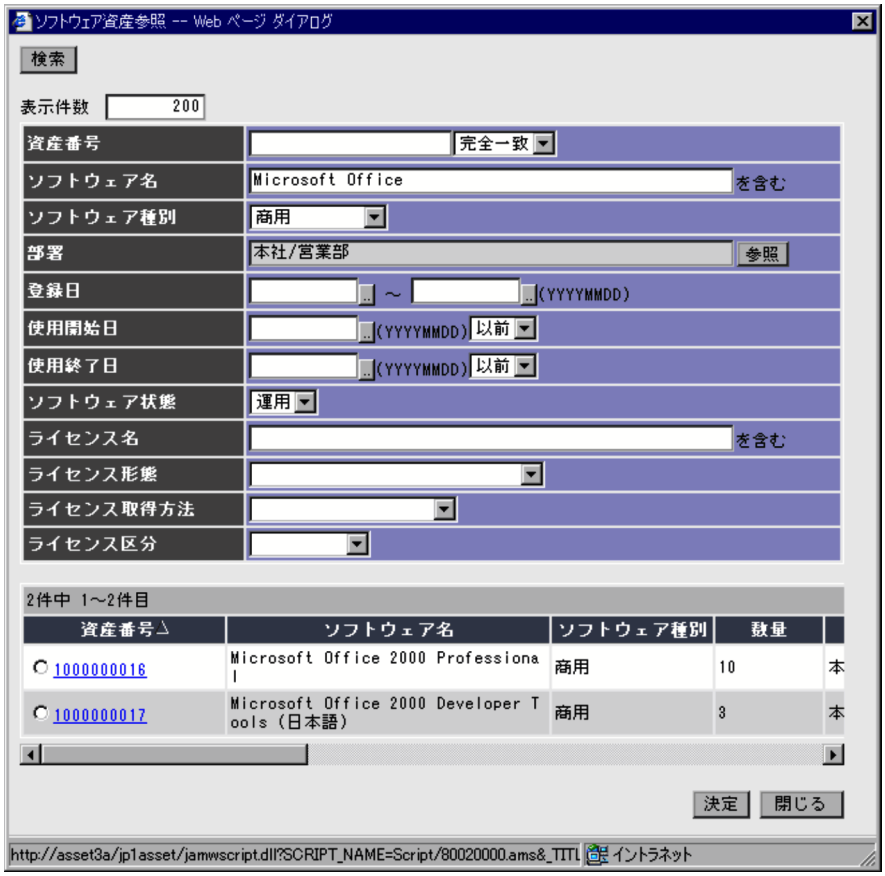


「ソフトウェア資産参照」

このデータ型を設定すると，テキストフィールドの横に［参照］ボタンが表示されます。実際の案件画面では，クリックすると表示されるダイアログから，ソフト

ウェア資産を指定できます。
［参照］ボタンをクリックすると表示される［ソフトウェア資産参照］ダイアログを次の図に示します。

図 10-15 ［ソフトウェア資産参照］ダイアログ



案件画面でソフトウェア資産を指定すると，指定領域には「選択済み」と表示されます。指定した内容を確認するには，［参照］ボタンをクリックして，［ソフトウェア資産参照］ダイアログの［検索］ボタンの右側に表示される資産番号のアンカーをクリックしてください。［ソフトウェア資産詳細］ダイアログが表示されて，指定したソフトウェア資産を確認できます。

また，案件画面で，前の作業者が指定したソフトウェア資産を確認する場合（指定内容の変更はしない場合）は，［参照］ボタンをクリックすると［ソフトウェア資産詳細］ダイアログが表示されて，指定したソフトウェア資産を確認できます。

「日付（YYYYMMDD）」，「日付（YYYYMM）」，「日付（MMDD）」

このデータ型を設定すると，テキストフィールドの横にカレンダーを表示するボタンが表示されます。また，入力された数値も日付として扱います。年月日の形式を3種類から選択します。

(c) データ最大長，最大値および最小値

文字列で指定する項目の最大長，数値で指定する項目の最大値および最小値を設定します。

「最大長」に指定できるのは，1,024 バイトまでです。また，「最大値」および「最小値」に指定できるのは -2,147,483,648 ～ 2,147,483,647 です。

(d) 初期値

案件画面を表示したときの初期値を設定します。データ型の種類によって，指定できる初期値が異なります。

データ型が「部署参照」，「ユーザ参照」，「日付」および「時刻」の場合は，案件画面を表示したときの情報によって，案件実行時のユーザの部署名，ユーザ名，日付および時刻を初期値に設定できます。

また，「コード参照」を設定した場合は，選択肢の中から初期値を設定します。それ以外は，固定の文字列を設定します。

テキストエリアの場合，初期値として表示する文字列の中に「¥n」を指定すると，指定した個所が改行されて表示されます。

(e) 参照範囲

部署およびユーザを参照する際の参照範囲を「フィルタリング範囲」または「全範囲」から選択します。

組織階層単位でのアクセス制限をしている場合，制限の範囲内で指定できるようにするか（フィルタリング範囲），すべての組織階層の中から指定できるようにするか（全範囲）を選択します。

この属性は，データ型で「部署参照」または「ユーザ参照」を設定したテキストフィールドに対してだけ設定できます。

(f) コード

案件画面にプルダウンで表示する項目の，選択肢（プルダウンの内容）を定義します。プルダウンの選択肢は，資産管理データベースで管理されているコードから選択します。コードそのものを追加する方法は，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1　コードを追加する」を参照してください。

プルダウンに表示する選択肢を定義する手順を次に示します。

1. **「コード」の指定欄の［編集］ボタンをクリックする。**
   ［コード編集］ダイアログが表示されます。
2. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［コード選択］ダイアログが表示されます。
3. **「管理クラス」で，表示させたいコードが含まれるクラスのアンカーをクリックする。**

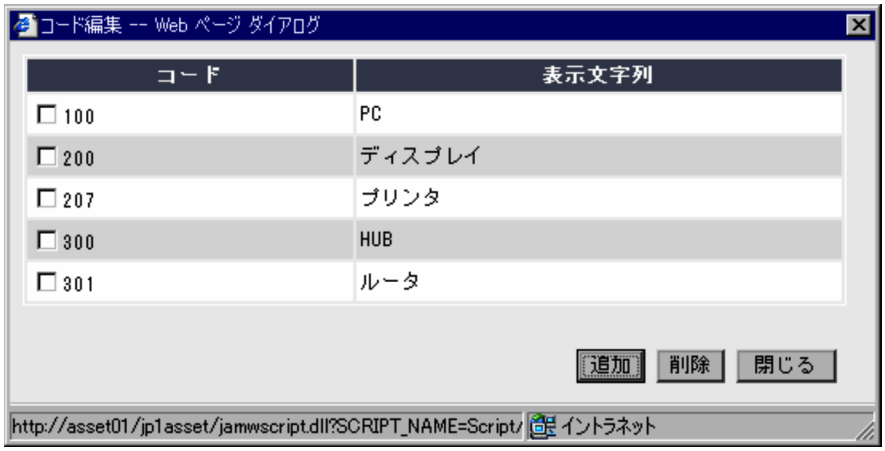
コードの一覧が表示されます。

4. **追加したいコードのチェックボックスをチェックして，［決定］ボタンをクリックする。**
［コード選択］ダイアログが閉じて，［コード編集］ダイアログに，指定したコードが表示されます。
コードを削除する場合は，削除したいコードのチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックします。

5. **［閉じる］ボタンをクリックする。**
［コード編集］ダイアログが閉じて，「コード」のプルダウンに，指定したコードが表示されます。

コードを追加した状態の［コード編集］ダイアログを次の図に示します。

図 10-16 ［コード編集］ダイアログ



(g) URL

ハイパーリンクのオブジェクトのリンク先を設定します。

リンク先には，次の 2 種類が設定できます。

- **「固定ジャンプ」**
リンク先の URL を指定します。
- **「ファイルジャンプ」**
リンク先のファイルの管理項目名を指定します。管理項目名は，前の作業者の案件画面で定義した，テキストフィールドに対して「ファイル参照」のデータ型を指定した項目の中から選択します。
なお，「ファイル参照」のデータ型を指定した場合，参照できるファイルは一つだけです。

(h) 必須項目

案件画面で必ず指定する項目を設定します。

必須項目を設定するには，オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

(i) 読み取り専用

案件画面に読み取り専用で表示します。前の作業者が入力した内容を変更させたくない場合などに設定します。

読み取り専用に設定するには，オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

(j) 非表示

案件の情報としては必要であっても，案件画面に表示したくない項目を非表示にします。例えば，案件が実行された日付を資産管理データベースに登録する場合，日付を入力するテキストフィールドを挿入し，初期値に実行日付を設定して非表示にすることで，案件を処理する作業者が意識することなく実行日を登録できます。

非表示にするには，オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

(k) 実行案件

［新規案件］ボタンで表示する案件を設定します。設定できるのは，案件の状態が「公開」の案件だけです。

この設定を省略した場合は，［新規案件］ボタンをクリックすると，実行する案件を選択する［新規案件選択］ダイアログが表示されます。また，設定した案件が公開ではなくなった場合にも，同様に［新規案件選択］ダイアログが表示されます。

(l) 主題項目

案件の主題として，受信トレイ画面，送信トレイ画面および実行案件管理画面に表示する項目を設定します。同じ案件名の案件が複数あるときに，主題で案件を識別できるので便利です。

主題項目に設定するには，オブジェクトを選択してチェックボックスにチェックします。

また，案件の主題を受信トレイ画面，送信トレイ画面および実行案件管理画面に表示するには，管理項目編集で次の設定が必要です。

1. **業務メニュー「管理項目編集」をクリックすると表示される画面で，管理クラス「VariousInfo」のアンカーをクリックする。**
2. **表示された画面で管理クラス「ValueText」のアンカーをクリックする。**
3. **表示された画面でプロパティ「Incident_Subject」の「表示」チェックボックスをチェックする。**
4. **［更新］ボタンをクリックする。**

主題項目は，案件の申請者だけが設定できます。申請者以外が主題項目の内容を変更しても，受信トレイ画面，送信トレイ画面および実行案件管理画面の主題には反映されないので，注意してください。

10.4.4 オブジェクトのスタイルや位置をそろえる

挿入したオブジェクトに対して，スタイル属性のコピーとはり付け，表示順序の変更，および位置合わせができます。

(1) 属性のコピーとはり付け

編集領域で選択している属性をコピーして，ほかのオブジェクトにはり付けます。

- **「属性コピー」**
  編集領域で選択しているオブジェクトの色やフォントなどのスタイル属性と，大きさをコピーします。編集領域では，属性をコピーしたいオブジェクトを一つだけ選択してください。
- **「属性貼り付け」**
  「属性コピー」でコピーした属性を，編集領域で選択しているオブジェクトにはり付けます。ただし，選択したオブジェクトに設定できない属性があった場合は，その属性は適用されません。

(2) 表示順序を最前面または最背面に移動

編集領域で選択しているオブジェクトの表示順序を，最前面または最背面に移動します。ただし，オブジェクトの種類が「プルダウン」の場合は，表示順序を移動できません。

(3) 位置を上下左右にそろえる

編集領域で選択しているオブジェクトの位置を上下左右にそろえます。選択しているオブジェクトのうち，いちばん上（下，左または右）のオブジェクトに合わせて位置がそろえられます。

10.4.5 案件画面の定義例

Asset Information Manager がサンプルで提供している案件「機器導入依頼票」を例に，Form Designer で案件画面を定義する手順を説明します。

1. **ウィンドウの属性を定義する。**
   「ウィンドウ」メニューから，サイズ，背景色を設定します。
   ウィンドウの属性は，オブジェクトを定義しながら，随時変更できます。
2. **オブジェクトを挿入する。**
   「オブジェクト」メニューから，案件画面に配置するオブジェクトを必要な数だけ挿入します。
3. **オブジェクトのスタイルを定義する。**
   挿入したオブジェクトの一つを選択して，色，大きさ，フォントなどのスタイル属性を設定します。
   このオブジェクトのスタイル属性をコピーして，同じスタイル属性を設定したいほかのオブジェクトにはり付けます。スタイル属性をコピーすると，色やフォントに加えて大きさも同じになるため，案件画面のレイアウトを整えるのに便利です。

なお，スタイル属性は，複数のオブジェクトを選択した状態で，一括して変更できます。

4. **オブジェクトの属性を定義する。**
   オブジェクトの属性を一つずつ定義します。オブジェクトの属性は，スタイル属性のようにコピーしたり，複数のオブジェクトに対して一括で指定したりできません。
   案件の登録日，申請者名，申請者部署名などを，案件を表示したときの日時やログインユーザの情報から自動的に設定すると，案件作成者の作業を軽減できます。

5. **オブジェクトの属性に応じて，スタイルや補足を追加する。**
   必須項目に指定した項目は，項目名の色を変えると，入力時にわかりやすくなります。
   また，日付のオブジェクト属性を設定した場合，年月日を区切る /（スラッシュ）を含めて「2004/12/25」のように入力することを，入力領域の横に補足として示すと，入力ミスを防げます。
   なお，記述例は，入力領域内に初期値として表示することもできます。

6. **プレビューで確認する。**
   実際に表示される形式で，案件画面の内容を確認します。

7. **登録する。**
   案件定義画面に「作成中」の状態で表示されます。
   実際に運用する場合は，状態を「公開」に変更します。

10.5　各管理ノードの作業を定義する（Activity Designer）

この節では，各管理ノードでの作業内容（アクティビティ）を，定義する方法について説明します。

各管理ノードでの作業内容は，Activity Designer で定義します。Activity Designer では，各作業者が案件画面で指定した内容を基に，どのように資産管理データベースの内容を更新（追加，変更，削除）するかを定義します。

アクティビティは，例えば「機器情報登録」のような，資産管理データベースに対する単一の処理（**タスク**）を組み合わせて定義します。タスクを組み合わせることで，案件の管理ノードとして，さまざまな処理を実現できます。ここでの「タスク」は，Windows のタスクスケジューラに登録されているタスクとは異なります。

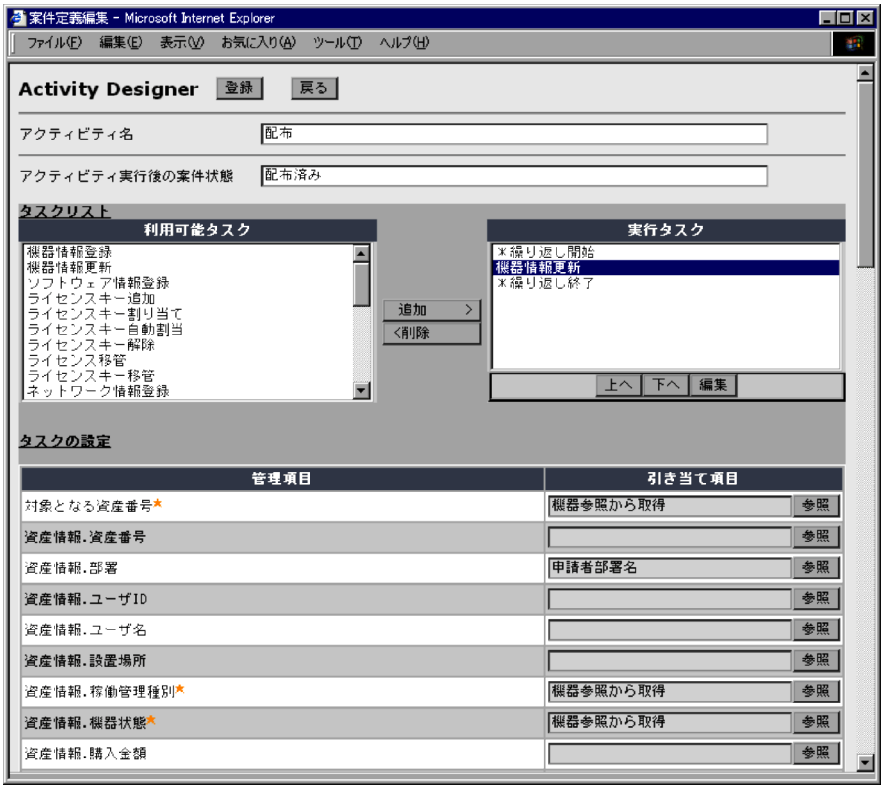
Activity Designer は，Flow Designer から表示します。Flow Designer で定義したアクティビティ（ ）を選択して，［編集］ボタンをクリックすると表示されます。定義途中で登録したアクティビティは，状態が「公開」または「公開停止」の案件を Flow Designer から表示した場合は，定義内容を編集できません。

10.5.1　Activity Designer の各部の名称と使い方

ここでは，Activity Designer の各部の名称および使い方について説明します。

Activity Designer を次の図に示します。

図 10-17　Activity Designer



案件画面から実行する処理を，タスクと各管理項目に対する引き当て情報を設定することで定義します。

- **「アクティビティ名」**
  Flow Designer でアクティビティを追加する際に指定した名称が表示されます。必要に応じて変更してください。
- **「アクティビティ実行後の案件状態」**
  ここで定義するアクティビティを実行したあとの，案件の状態を指定します。省略すると，「(Flow Designer で定義したアクティビティ名）済み」になります。
- **「タスクリスト」**
  「利用可能タスク」には，定義できる処理が表示されています。この中から実行するタスクを選択して，「実行タスク」に追加します。追加した各タスクは，タスクリストに表示された順に実行されます。同じ処理を繰り返す範囲は，「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」のタスクを追加して指定します。
  タスクの種類と各タスクの内容については「10.5.2　実行タスクを選択する」を，タスクの順番を設定する方法については「10.5.3　実行タスクの順番を設定する」を参照してください。
- **「タスクの設定」**
  「実行タスク」に追加したタスクの詳細を設定します。

各タスクの対象となる「管理項目」に対して，「引き当て項目」を設定します。
「管理項目」には，次の 3 種類の項目が一覧で表示されます。

- **資産管理データベースで管理する情報（クラスのプロパティ）**
  案件を実行することで，資産管理データベースで管理する情報（クラスのプロパティ）の更新方法を設定します。
  例えば，案件の実行日を資産の登録日として登録する場合は，管理項目「資産情報 . 登録日」の［参照］ボタンから，案件の実行日を示す値を設定します。
- **処理の対象を特定するための項目**
  選択したタスクの処理（例えば更新など）の対象を特定するための項目を設定します。
  例えば，機器情報を更新する場合は，管理項目「対象となる資産番号」の［参照］ボタンから，対象の「資産番号」を示す値を設定します。
- **繰り返し処理の範囲を設定するための項目**
  「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」のタスクを追加した場合，繰り返し処理の範囲を設定します。

各管理項目に対する引き当て項目の設定方法については，「10.5.4　管理項目に引き当てる情報を設定する」を参照してください。

引き当て項目の整合性が取れていない場合，または必須項目で引き当て項目が設定されていない管理項目が一つでもある場合，定義の途中で登録したアクティビティを表示すると，［戻る］ボタンの横に，「編集中」と表示されます。

10.5.2　実行タスクを選択する

ここでは，Activity Designer で選択できるタスクの種類と，各タスクの内容について説明します。

アクティビティを定義するには，案件画面で実行する処理を「利用可能タスク」から選択して，「実行タスク」に追加します。

Activity Designer で選択できるタスクを次に示します。

項番	Activity Designer で選択できるタスク	項番	Activity Designer で選択できるタスク
1	＊繰り返し開始，＊繰り返し終了	2	機器情報登録
3	機器情報更新	4	ソフトウェア情報登録
5	ライセンスキー追加	6	ライセンスキー割り当て
7	ライセンスキー自動割り当て	8	ライセンスキー解除
9	ライセンス移管	10	ライセンスキー移管
11	ネットワーク情報登録	12	ネットワーク情報削除
13	契約登録	14	ボリューム契約登録

項番	Activity Designer で選択できるタスク	項番	Activity Designer で選択できるタスク
15	契約更新	16	ボリューム契約更新
17	契約資産割り当て	18	ボリューム契約資産割り当て
19	契約資産解除	20	ボリューム契約資産解除
21	ユーザ情報登録	22	ユーザ情報更新
23	ユーザ情報削除	24	問題点登録
25	問題点更新	26	ソフトウェア配布
27	JP1 イベント通知	－	－

（凡例）
－：該当しない

各実行タスクの内容について説明します。

1. **「＊繰り返し開始」,「＊繰り返し終了」**
同じ処理を繰り返す範囲を指定する際に使用します。
一組の「＊繰り返し開始」と「＊繰り返し終了」の中に，さらに「＊繰り返し開始」と「＊繰り返し終了」を追加することもできます。使用回数に制限はありません。
繰り返し処理を選択した場合は，処理の繰り返し対象を設定します。繰り返しの対象となるのは，アップロードファイルの行数，または［参照］ボタンを使用して選択した機器またはソフトウェア資産の数です。繰り返し対象の設定方法については，「10.5.4(2)　繰り返し処理の内容を設定する」を参照してください。
2. **「機器情報登録」**
機器を新規に登録する場合に使用します。案件画面で項目に指定された値をそのまま資産管理データベースに登録して 1 台分の機器を登録する方法と，共通項目は案件画面で指定された値から，機器ごとに変わる項目は CSV ファイルから情報を取得して，複数の機器を登録する方法があります。
ネットワーク関連のタスクと組み合わせることで，機器導入などの業務を実現できます。
このタスクの引き当て項目の設定では，次の点を注意してください。
   - 「ユーザ ID」と「ユーザ名」,「管理者ユーザ ID」と「管理者」は，ID と名称の両方が設定されている場合，該当するユーザの引き当てには ID の値が優先されます。
   - ID が設定されていない場合は，名称をキーに該当するユーザが引き当てられます。
   - ID で情報を引き当てた場合，指定された名称は無視されます。
   - ID を設定しないで名称だけを引き当て項目に設定した場合，名称でユーザ情報が検索されます。該当する名称が存在する場合は，対応する ID が登録されます。該当する名称が存在しない場合は，指定された名称がそのままユーザ名に登録されます。該当する名称が複数存在する場合は，エラーとなります。
   - ID で該当する情報がない場合はエラーとなります。
   - 「資産情報 . 機器状態」,「資産情報 . 稼働管理種別」,「資産情報 .DM 導入状態」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

3. **「機器情報更新」**
   機器の情報を変更する場合に使用します。
   機器情報登録と同様に，1 台分の機器を更新する方法と，複数の機器を更新する方法があります。
   このタスクの引き当て項目の設定では，次の点を注意してください。
   - 「対象となる資産番号」に指定した「資産番号」をキーに，更新する情報が引き当てられます。
   - 「ユーザ ID」と「ユーザ名」,「管理者ユーザ ID」と「管理者」は，ID と名称の両方が設定されている場合，該当するユーザの引き当てには ID の値が優先されます。
   - ID が設定されていない場合は，名称をキーに該当するユーザが引き当てられます。
   - ID で情報を引き当てた場合，指定された名称は無視されます。
   - ID を設定しないで名称だけを引き当て項目に設定した場合，名称でユーザ情報が検索されます。該当する名称が存在する場合は，対応する ID が登録されます。該当する名称が存在しない場合は，指定された名称がそのままユーザ名に登録されます。該当する名称が複数存在する場合は，エラーとなります。
   - ID で該当する情報がない場合はエラーとなります。

4. **「ソフトウェア情報登録」**
   ソフトウェアを新規に登録する場合に使用します。ソフトウェア資産情報およびライセンス情報を登録します。
   ライセンス関連のタスクと組み合わせることで，ソフトウェア導入などの業務を実現できます。
   案件で指定した「ソフトウェア名」が，ソフトウェアリストに登録されていない場合，新規に登録されます。指定した「ライセンス名」がライセンス情報に登録されていない場合も追加されます。
   「資産情報 . ソフトウェア状態」,「ソフトウェアリスト . ソフトウェア名」,「ソフトウェアリスト . ソフトウェア種別」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなるので注意してください。
5. **「ライセンスキー追加」**
   ソフトウェアにライセンスキーを登録する場合に使用します。登録されているソフトウェア資産にライセンスキーを追加します。
   対象となるソフトウェア資産を特定するには，ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報が必要です。
6. **「ライセンスキー割り当て」**
   ライセンスキーを指定して，ライセンスの利用を申請する場合に使用します。登録されているソフトウェア資産のライセンスを，指定されたキーで，機器またはユーザに割り当てます。
   対象となるソフトウェア資産を特定するには，ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報が必要です。
   このタスクの引き当て項目の設定では，次の点を注意してください。
   - ライセンス区分が「マシン許諾」の場合,「資産番号」で対象となる機器が割り当てられます。ライセンス区分が「ユーザ許諾」の場合,「ユーザ名」で対象となるユーザが割り当てられます。

- 指定したライセンスキー（ライセンスキー，プロダクト ID，シリアル No.）と同一の値が複数登録されている場合，登録されている中から一つが割り当てられます。同一の値が登録されていて，すでに空きがない場合はエラーになります。

7. **「ライセンスキー自動割り当て」**
   ライセンスキーを指定しないで，ライセンスの利用を申請する場合に使用します。すでに登録されているソフトウェア資産のライセンスを，空いているキーから自動的に選択して，機器またはユーザに割り当てます。
   タスク「ライセンスキー追加」と組み合わせることで，オンデマンドのライセンス追加・割り当てを実現できます。
   なお，対象となるソフトウェア資産を特定するには，ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報が必要です。
   自動割り当てをする場合には，あらかじめライセンスを割り当てたいソフトウェア資産に，ライセンスキーを登録しておく必要があります。
8. **「ライセンスキー解除」**
   利用しているライセンスを返却する場合に使用します。登録されているソフトウェア資産のライセンスの割り当てを解除します。
   対象となるソフトウェア資産を特定するには，ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報が必要です。
   また，特定のライセンスキーを解除するときは，「ライセンスキー」，「プロダクト ID」，「シリアル No.」の指定が必要です。このとき，同一の機器またはユーザに，同一のソフトウェア資産のライセンスキーが複数割り当てられている場合，該当するライセンスキーはすべて解除されます。
9. **「ライセンス移管」**
   職制変更などによって，ライセンスの分割および部署変更が発生した場合に使用します。ライセンスを他部署に移管する場合，ソフトウェア資産情報のコピーが作成され，ライセンス数が振り分けられます。
   このタスクを選択した場合は，次の点を注意してください。
   - 移管元に同一の「資産番号」が複数登録されている場合はエラーとなります。
   - 状態が「運用」である同一のソフトウェア資産情報がすでに移管先の部署に存在した場合は，ソフトウェア資産情報が統合されます。複数登録されている場合は，どれか一つと統合されます。
   - 同一の「資産番号」でも，移管先のソフトウェア状態が「運用」でない場合は，異なる資産としてソフトウェア資産が新規登録されます。
   - 一度に複数の部署にライセンスキーを移管することはできません。複数の部署に移管する場合は，移管する部署ごとに申請する必要があります。
   - フリーウェアのソフトウェアを移管する場合，移管元のソフトウェアは削除されません。
   - 移管元のライセンス数が無制限またはフリーウェアで，移管ライセンス数が指定されている場合は移管できません。移管元のライセンス数が無制限（フリーウェア）でないときは，移管ライセンス数の指定を省略すると移管できません。
10. **「ライセンスキー移管」**
    職制変更などによって，ライセンスキーを移管する場合に使用します。一度に複数の

部署にライセンスキーを移管することはできません。複数の部署に移管する場合は，移管する部署ごとに申請する必要があります。
ライセンスキーの移管は，ライセンスの移管と同じアクティビティで実行するように定義してください。移管するソフトウェアと同じ「資産番号」のソフトウェアが，移管先に存在しない場合はエラーとなります。
対象となるソフトウェア資産を特定するには，ソフトウェア資産の「資産番号」と保有する部署の情報が必要です。

11.**「ネットワーク情報登録」**

機器にネットワーク情報（ノード名，コンピュータ名，IP アドレス）を割り当てる場合に使用します。IP アドレスの割り当てには，自動割り当てと指定割り当ての 2 種類の方法があります。
なお，IP アドレスを指定して登録する場合は，すでにインベントリ情報から同じ IP アドレスがほかの機器で使用されていても，同じ IP アドレスで登録されます（同じ IP アドレスの機器が二つ存在することになります）。
このタスクの引き当て項目の設定では，次の点を注意してください。

- 自動割り当ての場合は，IP グループ名を設定します。IP アドレスも設定した場合は，自動割り当てではなく，設定した IP アドレスで割り当てられます。
- ネットワーク情報を更新する場合は，対象となる IP アドレスを指定します。このとき，更新後の IP アドレスを指定することで，IP アドレスを変更できます。
- 「対象となる資産 ID」は，前のタスクで機器を登録した場合など，登録した資産の資産 ID を引き継いで利用したい場合に設定します。

12.**「ネットワーク情報削除」**

機器に割り当てたネットワーク情報（ノード名，コンピュータ名，IP アドレス）を削除する場合に使用します。指定した「資産 ID」（または「資産番号」）と IP アドレスで，該当するネットワーク情報を引き当てて削除します。指定した機器に複数の IP アドレスが割り当てられていた場合は，すべて削除されます。
このタスクの引き当て項目の設定では，次の点を注意してください。

- 「対象となる資産 ID」は，前のタスクで機器を登録した場合など，登録した資産の資産 ID を引き継いで利用したい場合に設定します。

13.**「契約登録」**

新規に契約を登録する場合に使用します。リース，レンタル，保守契約はこのタスクで登録します。
「契約情報 . 契約種別」，「契約情報 . 契約番号」，「契約情報 . 契約対象」，「契約情報 . 契約日」，「契約情報 . 契約開始日」，「契約情報 . 契約終了日」，「契約情報 . 契約会社」，「契約情報 . 契約状態」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

14.**「ボリューム契約登録」**

新規にボリューム契約を登録する場合に使用します。
「ボリューム契約情報 . 契約番号」，「ボリューム契約情報 . 契約状態」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

15.**「契約更新」**

契約更改に伴って，契約情報を更新する場合に使用します。

案件で契約を登録する場合，契約を特定する情報は「契約番号」だけとなります。そのため，契約を案件で更新する場合は，「契約番号」がユニークになるように管理しておく必要があります。

16.**「ボリューム契約更新」**

契約更改に伴って，ボリューム契約情報を更新する場合に使用します。
案件で契約を登録する場合，契約を特定する情報は「契約番号」だけとなります。そのため，契約を案件で更新する場合は，「契約番号」がユニークになるように管理しておく必要があります。

17.**「契約資産割り当て」**

契約の新規登録または更改に伴って，契約の対象となる機器またはソフトウェアの割り当てを変更する場合に，タスク「契約資産解除」と組み合わせて使用します。
割り当てられるのは，状態が「契約中」の契約だけです。
また，対象となる契約が複数あった場合，および対象となる資産がほかの同一種別の契約に割り当てられていた場合はエラーとなります。

18.**「ボリューム契約割り当て」**

契約の新規登録または更改に伴って，ボリューム契約の対象となるソフトウェアの割り当てを変更する場合に，タスク「ボリューム契約資産解除」と組み合わせて使用します。
割り当てられるのは，状態が「契約中」の契約だけです。
また，対象となる契約が複数あった場合，および対象となるソフトウェア資産がほかの契約に割り当てられていた場合はエラーとなります。

19.**「契約資産解除」**

契約の更改に伴って，契約の対象となる機器またはソフトウェアの割り当てを解除する場合に使用します。
「資産情報 . 資産 ID」は前のタスクで機器の状態を変更したときなど，対象となる機器が特定できる場合に，前のタスクの「資産 ID」を引き継ぐために指定してください。

20.**「ボリューム契約資産解除」**

契約の更改に伴って，ボリューム契約の対象となるソフトウェアの割り当てを解除する場合に使用します。
「資産情報 . 資産 ID」は前のタスクで機器の状態を変更したときなど，対象となる機器が特定できる場合に，前のタスクの「資産 ID」を引き継ぐために指定してください。

21.**「ユーザ情報登録」**

人員の追加などで，新規にユーザを登録する場合に使用します。ユーザ管理情報の登録と各ユーザにユーザ権限を割り当てます。パスワードは設定されません。パスワードを入力しないで，登録した「ユーザ ID」で Asset Information Manager にログインして，操作画面から設定してください。
「ユーザ管理情報 . ユーザ ID」，「ユーザ管理情報 . ユーザ名」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

22.**「ユーザ情報更新」**

氏名，電話番号，メールアドレスなどの情報の変更や，職制変更によるユーザ権限の変更など，ユーザ情報を変更する場合に使用します。

対象となるユーザは「ユーザ ID」または「ユーザ名」で引き当てられます。「ユーザ ID」が指定されていない場合，ユーザ名をキーに資産情報を検索しますが，同姓同名が複数登録されていた場合はエラーとなります。

23.**「ユーザ情報削除」**

職制変更などによって，登録しているユーザの情報が不要になった場合に使用します。

対象となるユーザは「ユーザ ID」または「ユーザ名」で引き当てられます。「ユーザ ID」が指定されていない場合，「ユーザ名」をキーに検索しますが，同姓同名のユーザが複数登録されていた場合はエラーとなります。

24.**「問題点登録」**

案件を使用して問題点を管理する場合，資産管理システムで発生した問題点を登録するために使用します。

「保守履歴 . 管理番号」，「保守履歴 . 保守状態」，「保守履歴 . 障害内容」の管理項目に値が取得できなかった場合はエラーとなります。

25.**「問題点更新」**

案件を使用して問題点を管理する場合，問題が解決するまでの情報を追加・更新し，その問題点の担当者へ送付するために使用します。

「資産情報 . 資産 ID」は，前のタスクで，障害対策で機器の情報を変更したときなど，情報を更新した機器資産の「資産 ID」を引き継ぐ場合に指定してください。

26.**「ソフトウェア配布」**

ソフトウェアを配布する場合に使用します。ソフトウェアを配布する対象の機器は，案件画面に入力された値（1 台）または CSV ファイルに添付された機器（複数台）を指定できます。このタスクは，複数のソフトウェアを配布する場合でも，「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」のタスクで，繰り返し処理を設定する必要はありません。

ソフトウェアを配布するには，JP1/NETM/DM と連携する必要があります。また，ソフトウェアを配布するために，JP1/NETM/DM のパッケージに関する情報を設定します。

「配布パッケージ」に，案件画面で「パッケージ参照」のデータ型を指定したオブジェクトの管理項目名を指定すると，選択した複数のパッケージを一度に配布できます。

「配布先資産番号」に，案件画面で「機器参照」のデータ型を指定したオブジェクトの管理項目名を指定すると，選択した複数の機器にパッケージを配布できます。

配布するソフトウェアのパッケージに関する設定方法については，「10.5.4(3)　ソフトウェアを配布するための情報を設定する」を参照してください。

27.**「JP1 イベント通知」**

「案件遷移イベント」を発行して，連携するほかの製品に，案件の遷移を通知する場合に使用します。案件のすべてのアクティビティにこのタスクを定義することで，案件の状態を監視できます。また，JP1/IM の自動アクション機能を利用して任意のコマンドを実行することで，連携するほかの製品は，案件の遷移を契機に処理を実行できます。

「案件遷移イベント」は，案件が正常に遷移した場合（このタスクを含むアクティビ

ティが正常に処理された場合）に発行されます。いったん正常に遷移した案件が引き戻し，却下または削除されたときは，自動的に「案件状態変更イベント」または「案件削除イベント」が発行されます。
案件の遷移に伴って発行される JP1 イベントの詳細については，「12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細」を参照してください。

10.5.3　実行タスクの順番を設定する

ここでは，Activity Designer の「実行タスク」に追加したタスクの，順番を設定する方法について説明します。

「実行タスク」に追加した各タスクは，一覧に表示された順に実行されます。順番を変更するには，「実行タスク」の一覧で変更したいタスクを選択して，［上へ］または［下へ］ボタンをクリックします。

「実行タスク」の順番を設定する際は，情報の論理的な順番に注意してください。例えば，「機器情報登録」と「ネットワーク情報登録」のタスクを実行する場合は，先に「機器情報登録」を実行して，ネットワーク情報を割り当てる機器の情報を登録しておく必要があります。

また，繰り返し処理を追加した場合は，「＊繰り返し開始」と「＊繰り返し終了」が 1 対 1 で対応するように並び順を指定してください。

ソフトウェアの導入申請，ライセンスの利用申請，および機器の移管申請を実行する場合の，「実行タスク」欄の設定例を次に示します。

- **ソフトウェアの導入申請の設定例**

  ＊繰り返し開始
  ソフトウェア情報登録
  ＊繰り返し終了
  ＊繰り返し開始
  ライセンスキー追加
  ＊繰り返し終了

  この例では，案件に添付された CSV ファイルの行数分，ソフトウェア資産情報を登録したあと，登録したソフトウェアのライセンスキーを追加する処理を示しています。

- **ライセンスの利用申請の設定例**

  ＊繰り返し開始
  ライセンスキー割り当て
  ＊繰り返し終了

  この例では，案件に添付された CSV ファイルの行数分，すでに登録されているソフトウェアに，指定したキーでライセンスを割り当てる処理を示しています。「ライセンスキー割り当て」を，「ライセンスキー自動割り当て」に置き換えると，空いているキー情報が自動的に割り当てられます。

- **機器の移管申請の設定例**

  ＊繰り返し開始
  機器情報更新
  ＊繰り返し終了

  この例では，案件画面で選択した機器の台数分，または案件に添付された CSV ファイルの行数分，機器情報を更新する処理を示しています。

10.5.4 管理項目に引き当てる情報を設定する

ここでは，Activity Designer の「タスクの設定」で，管理項目に引き当てる情報を設定する方法について説明します。管理項目に引き当てる情報を設定することで，「実行タスク」に追加したタスクで更新する情報，処理対象の特定方法，繰り返し処理の範囲を設定します。

「タスクの設定」は，「実行タスク」で設定したいタスクを選択して，［編集］ボタンをクリックすると表示されます。「管理項目」の一覧から，処理の対象とする項目を選択して，引き当て項目を設定します。

「管理項目」には，資産管理データベースで管理する情報（「クラス . プロパティ」の形式），選択したタスクの処理の対象を特定するための項目，および繰り返し処理の範囲を設定するための項目が表示されます。表示されている「管理項目」の中から，必要に応じて引き当て項目を設定します。ただし，「管理項目」の欄に「★」が付いている項目は，必ず設定してください。

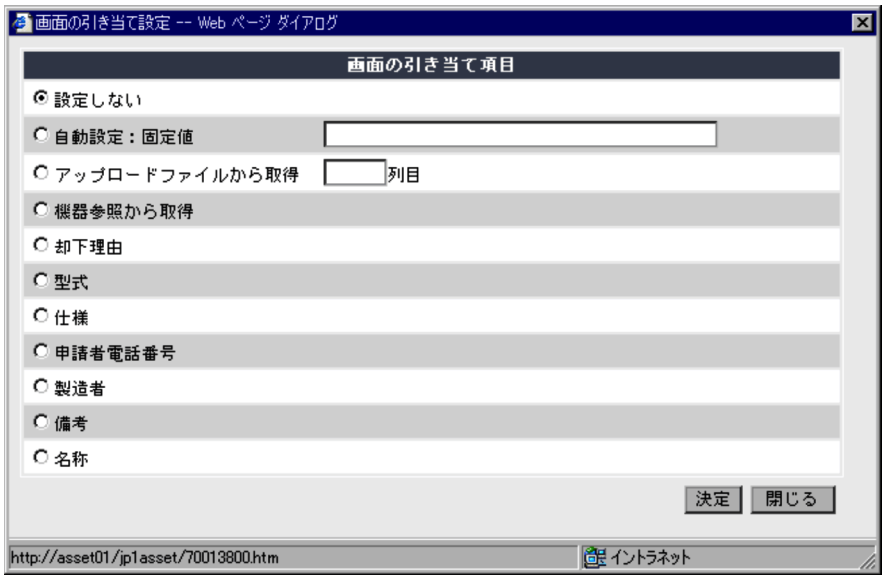
実行タスクで「＊繰り返し開始」を選択した場合は，引き当て項目を設定する前に，「繰り返し対象」を選択します。実行タスクで「＊繰り返し開始」を選択した場合の設定方法については「(2)　繰り返し処理の内容を設定する」を参照してください。

また，実行タスクで「ソフトウェア配布」を選択した場合は，JP1/NETM/DM と連携してソフトウェアを配布するための項目を設定します。実行タスクで「ソフトウェア配布」を選択した場合の設定方法については「(3)　ソフトウェアを配布するための情報を設定する」を参照してください。

(1) タスクの引き当て項目を設定する

各引き当て項目の［参照］ボタンをクリックすると，［画面の引き当て設定］ダイアログが表示されます。［画面の引き当て設定］ダイアログを次の図に示します。

図 10-18 ［画面の引き当て設定］ダイアログ



ダイアログには，自動設定の項目と案件画面で定義した管理項目名が一覧で表示されています。一覧の中から，それぞれの管理項目に引き当てたい情報を選択します。

［画面の引き当て設定］ダイアログに表示される次の項目の中から，引き当て項目を選択します。

- **「設定しない」**
  選択した管理項目に対して，引き当て項目は設定されません。
- **「自動設定：固定値」**
  指定した値が，常に設定されます。この項目を選択した場合は，固定値の値を必ず指定してください。
- **「自動設定：実行した日付」**
  案件の実行された日付が設定されます。すでに同じ管理項目に対して日付が登録されていた場合も，上書きされます。
- **「自動設定：実行した日付（値が無ければ登録）」**
  案件の実行された日付が設定されます。すでに同じ管理項目に対して日付が登録されていた場合，上書きされません。
- **「アップロードファイルから取得」**
  案件の添付ファイルとしてアップロードした，CSV ファイルの値が引き当てられます。値を引き当てられるファイルは，CSV ファイルだけです。この項目を選択した場合は，取得する値がファイルの何列目の値かを必ず指定してください。
  また，選択しているタスクの前後に「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」を追加し，「＊繰り返し開始」の「タスクの設定」で，「処理情報の設定」に「アップロードファイルの行数」を指定してください。
- **「機器参照から取得」**
  案件画面で［参照］ボタンから指定した機器の値が引き当てられます。この項目を選

択した場合は，選択しているタスクの前後に「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」を追加し，「＊繰り返し開始」の「タスクの設定」で，「処理情報の設定」に「画面で選択した対象の数」を指定してください。

- **「ソフトウェア資産参照から取得」**
  案件画面で［参照］ボタンから指定したソフトウェア資産の値が引き当てられます。この項目を選択した場合は，選択しているタスクの前後に「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」を追加し，「＊繰り返し開始」の「タスクの設定」で，「処理情報の設定」に「画面で選択した対象の数」を指定してください。
- **「直前に実行したタスクから取得」**
  「実行タスク」に定義された順番で，直前に定義されているタスクから情報を取得して，引き当てることができます。例えば，「ユーザ情報登録」の直後に「機器情報登録」を実行するように定義した場合，「機器情報登録」の「資産情報 . ユーザ ID」に，「ユーザ情報登録」で登録したユーザ ID を引き当てられます。
  この項目が設定できるタスクと管理項目を次に示します。
  - 機器情報登録：
    「資産情報 . ユーザ名」，「資産情報 . ユーザ ID」，「資産情報 . 管理ユーザ名」，「資産情報 . 管理ユーザ ID」
  - ライセンス割り当て：
    対象となる機器の「資産情報 . 資産番号」または「資産情報 . ユーザ名」，対象となるソフトウェアの「資産情報 . 資産番号」
  - ライセンス自動割り当て：
    対象となる機器の「資産情報 . 資産番号」または「資産情報 . ユーザ名」，対象となるソフトウェアの「資産情報 . 資産番号」
  - ネットワーク情報の登録：
    「ネットワーク情報 . 資産 ID」
  - 契約資産割り当て：
    「資産情報 . 資産 ID」
  - ボリューム契約資産割り当て：
    「資産情報 . 資産 ID」
  - 問題点更新：
    「保守履歴 . 資産 ID」
  - ソフトウェア配布：
    「資産情報 . 資産 ID」
- **（Form Designer で定義した管理項目名）**
  Form Designer で定義した管理項目の中から，データ型が一致する項目が表示されます。案件画面で，選択した項目に入力した値が引き当てられます。

注意事項

実際に案件が処理される際に，引き当てた値が NULL だった場合，NULL で更新されます。ただし，必須の管理項目に引き当てた値が NULL だった場合，エラーとなります。

(2) 繰り返し処理の内容を設定する

ここでは，Activity Designer の「実行タスク」に「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」のタスクを追加した場合の，引き当て項目の設定方法について説明します。

複数の機器の登録や削除など，一つのタスクを複数回繰り返す場合，「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」を使用して，繰り返すタスクの範囲を設定します。さらに，一つのタスクを繰り返す回数を「タスクの設定」で設定します。

繰り返し処理の回数は，「実行タスク」の一覧から「＊繰り返し開始」を選択して，［編集］ボタンをクリックすると表示される，「タスクの設定」で設定します。

「繰り返し対象」で，繰り返し処理の回数を決定する値を選択したあと，引き当て項目を［参照］ボタンから指定します。

「繰り返し対象」で選択する値と，引き当て項目の設定方法を次に示します。

- **「画面で選択した対象の数」**
  案件画面で，［参照］ボタンから選択した機器またはソフトウェア資産の数だけ，繰り返し処理を実行します。
  「引き当て項目」には，Form Designer で「機器参照」または「ソフトウェア資産参照」のデータ型を設定したオブジェクトの管理項目名を設定します。
- **「アップロードファイルの行数」**
  案件画面で添付した CSV ファイルの行数分，繰り返し処理を実行します。
  「引き当て項目」には，Form Designer で「ファイル参照」のデータ型を設定したオブジェクトの管理項目名を設定します。

(3) ソフトウェアを配布するための情報を設定する

ここでは，JP1/NETM/DM と連携して，案件画面からソフトウェアを配布するための情報を，Activity Designer で設定する方法について説明します。

ソフトウェアを配布するには，「実行タスク」に「ソフトウェア配布」を追加します。

「ソフトウェア配布」のタスクは，ほかのタスクと組み合わせて，一つのアクティビティとして定義できます。例えば，ソフトウェア資産の登録とソフトウェアの配布を一つの案件画面の処理として定義できます。

また，このタスクは，複数のソフトウェアを配布する場合でも，「＊繰り返し開始」および「＊繰り返し終了」のタスクで，繰り返し処理を設定する必要はありません。

「ソフトウェア配布」のタスクを選択して［編集］ボタンをクリックしたときに，「タスクの設定」領域に表示される項目を次の図に示します。

図 10-19 「タスクの設定」領域（タスク「ソフトウェア配布」選択時）

管理項目	引き当て項目
ジョブ名	ジョブ名 参照
パッケージ上書き属性	上書き属性 参照
インストール種別*	配布種別 参照
キャビネット名	参照
キャビネット識別ID	参照
キャビネット属性	参照
パッケージ名	参照
パッケージ識別ID	参照
パッケージのバージョン	参照
パッケージの世代番号	参照
配布パッケージ	パッケージ参照 参照
配布先資産番号*	資産番号 参照

「ソフトウェア配布」のタスクに引き当てる管理項目を次に示します。引き当て項目の設定方法については，「(1)　タスクの引き当て項目を設定する」を参照してください。

- **「ジョブ名」**
  ジョブ名を特定の文字列にしたい場合に設定します。省略すると，JP1/NETM/DM で自動的に設定する名称になります。
- **「パッケージ上書き属性」**
  上書きインストールで配布したい場合に設定します。省略すると，JP1/NETM/DM で設定したパッケージの属性に従います。
- **「インストール種別」**（必須）
  「パッケージのインストール」または「クライアントユーザによるインストール」のどちらかを選択します。
- **「キャビネット名」，「キャビネット識別 ID」，「キャビネット属性」，「パッケージ名」，「パッケージ識別 ID」，「パッケージのバージョン」，「パッケージの世代番号」**
  案件画面で指定された値，または添付ファイルの CSV ファイルの値を引き当てます。
  「配布パッケージ」の引き当て項目を設定している場合だけ，省略できます。
  案件で申請されたパッケージを一つだけ配布する場合に設定します。
- **「配布パッケージ」**
  案件画面で，［参照］ボタンから指定されたパッケージを引き当てます。
  この項目の引き当て項目を設定すると，「キャビネット名」，「キャビネット識別 ID」，「キャビネット属性」，「パッケージ名」，「パッケージ識別 ID」，「パッケージのバージョン」，「パッケージの世代番号」の設定を省略できます。
  案件で申請された複数のパッケージを，一度に配布する場合に設定します。
- **「配布先資産番号」**（必須）
  パッケージを配布する対象の，「資産番号」を示す値を引き当てます。

(4) 値を引き当てられなかった管理項目に設定される内容

引き当て項目が設定されていないか，または値が取得できなかった場合は，自動的に値が設定される項目があります。設定される項目と値を次に示します。

タスク	管理項目	設定される値
機器情報登録	資産情報 . 登録日	案件の実行日付
	ハードウェア資産情報 . 機器種別	「PC」
ソフトウェア情報登録	資産情報 . 登録日	案件の実行日付
ユーザ情報登録	ユーザ管理情報 . ユーザ名（英名）	ユーザ ID
問題点管理	保守履歴 . 登録日	案件の実行日付
	保守履歴 . 登録者名	ログインユーザ名
	保守履歴 . 重大度	「緊急」
	保守履歴 . 障害種別	「ユーザ登録」

なお，次の管理項目に引き当て項目が設定されていないか，または値が取得できなかった場合は，案件の処理がエラーになります。

- 「契約登録」
  契約情報 . 契約日，契約情報 . 契約開始日，契約情報 . 契約終了日，契約情報 . 契約会社
- 「問題点管理」
  保守履歴 . 登録日，保守履歴 . 障害内容

10.5.5 アクティビティの定義例

ここでは，ソフトウェア導入申請業務を例に，Activity Designer でアクティビティを定義する一連の作業を説明します。

ソフトウェア導入申請のアクティビティには，次の二つのパターンが考えられます。

- 一つのソフトウェア資産と，複数のライセンスキーを登録する（登録するソフトウェア資産が一つの場合）
- 複数のソフトウェア資産と，それぞれのソフトウェア資産に複数のライセンスキーを登録する（登録するソフトウェア資産が複数の場合）

これ以降で，それぞれの定義例を説明します。

(1) アクティビティ定義例（登録するソフトウェア資産が一つの場合）

このアクティビティでは，申請されたソフトウェア資産とライセンスキーを登録します。案件画面では，次の項目を指定および添付するように，定義してあることとします。

申請者名，申請者部署名，申請者電話番号，ソフトウェア名（必須），ライセンス数（必須），ライセンスキー（必須）（添付ファイル），備考，却下理由

ライセンスキーの添付ファイルの内容を次に示します。ファイルには，「ライセンスキー」，「プロダクト ID」，「シリアル No.」を記載します。

```
Key101,aaa-aaa-aaa,123456789
Key102,bbb-bbb-bbb,123456789
Key103,ccc-ccc-ccc,123456789
Key104,ddd-ddd-ddd,123456789
Key105,eee-eee-eee,123456789
```

「実行タスク」の設定

選択するタスクとタスクの順番を次に示します。

ソフトウェア情報登録
＊繰り返し開始
ライセンスキー追加
＊繰り返し終了

「ソフトウェア情報登録」の「タスクの設定」での設定

「ソフトウェア情報登録」の引き当て項目の設定方法を次の図に示します。

管理項目	引き当て項目
資産情報.資産番号★	資産番号 参照
資産情報.部署	申請者部署名 参照
資産情報.ソフトウェア状態★	運用 参照
資産情報.購入金額	参照
資産情報.登録日	自動設定：実行した日付 参照
資産情報.用途	参照
資産情報.備考	備考 参照
資産情報.棚卸日付	参照
ソフトウェア資産情報.数量	ラインセンス数 参照
ソフトウェア資産情報.購入ポイント数	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア名★	ソフトウェア名称 参照
ソフトウェアリスト.製造者	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア種別★	商用 参照
ライセンス情報.ライセンス名	ソフトウェア名称 参照
ライセンス情報.ライセンス形態	マシン許諾ライセンス 参照
ライセンス情報.アップグレード保証	なし 参照
ライセンス情報.ダウングレード可否	不可 参照
ライセンス情報.ライセンス取得方法	パッケージ 参照
ライセンス情報.ライセンス区分	マシン許諾 参照

登録するソフトウェア資産は一つのため，「資産番号」には，「資産番号」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。そのほかの必要な項目は，固定値を設定してください。

「＊繰り返し開始」の「タスクの設定」での設定

CSV ファイルに記載したライセンスキーを登録するため，「繰り返し対象」には

「アップロードファイルの行数」を，「引き当て項目」には，「ライセンスキー」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。

「ライセンスキー追加」の「タスクの設定」での設定

「ライセンスキー追加」の引き当て項目の設定方法を次の図に示します。

管理項目	引き当て項目
対象となるソフトウェアの資産番号*	資産番号 参照
対象となる部署名*	申請者部署名 参照
ソフトウェアキー情報.プロダクトID	2 参照
ソフトウェアキー情報.ライセンスキー	1 参照
ソフトウェアキー情報.シリアルNo.	3 参照
ソフトウェアキー情報.備考	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-2	参照

「対象となるソフトウェアの資産番号」および「対象となる部署名」は，それぞれの値を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。なお，「対象となる部署名」には，オブジェクトの属性「データ型」で，「部署参照」を選択したオブジェクトだけが指定できます。

また，「プロダクト ID」，「ライセンスキー」および「シリアル No.」には，CSV ファイルの列番号を設定します。

(2) アクティビティ定義例（登録するソフトウェア資産が複数の場合）

このアクティビティでは，申請された複数のソフトウェア資産と，それぞれのソフトウェア資産に複数のライセンスキーを登録します。案件画面では，次の項目を指定および添付するように，定義してあることとします。

申請者名，申請者部署名，申請者電話番号，ソフトウェア（必須）（添付ファイル），ライセンスキー（必須）（添付ファイル），備考，却下理由

ソフトウェアの添付ファイルの内容を次に示します。ファイルには，「資産番号」，「ソフトウェア名」，「ライセンス数」，「ライセンス名」を記載します。

```
Asset000001,Software001,2,License001
Asset000002,Software002,2,License002
Asset000003,Software003,2,License003
```

ライセンスキーの添付ファイルの内容を次に示します。ファイルには，「資産番号」，「ライセンスキー」，「プロダクト ID」，「シリアル No.」を記載します。

```
Asset000001,Key101,aaa-aaa-aaa,123456789
Asset000001,Key102,bbb-bbb-bbb,123456789
Asset000002,Key103,ccc-ccc-ccc,123456789
Asset000002,Key104,ddd-ddd-ddd,123456789
Asset000003,Key105,eee-eee-eee,123456789
Asset000003,Key106,fff-fff-fff,123456789
```

複数のソフトウェア資産を登録する場合は，該当するソフトウェア資産を特定するために「資産番号」を記載します。

「実行タスク」の設定

選択するタスクとタスクの順番を次に示します。

＊繰り返し開始
ソフトウェア情報登録
＊繰り返し終了
＊繰り返し開始
ライセンスキー追加
＊繰り返し終了

繰り返しの処理自体は階層にすることもできますが，登録するライセンスキーがソフトウェア資産ごとに異なる場合，階層では目的の処理を実現できないため，上記のように階層化しない方法で定義します。
この場合，「ソフトウェア情報登録」のタスクの CSV ファイルと，「ライセンスキー追加」のタスクの CSV ファイルとの間で情報の引き当てが必要になるため，引き当てキーを両方の CSV ファイルに記述しておく必要があります。上記の例では「資産番号」が引き当てキーとなっています。

「タスクの設定」での設定（「＊繰り返し開始」）

CSV ファイルに記載した情報を登録するため，「繰り返し対象」には「アップロードファイルの行数」を設定します。「引き当て項目」には，「ソフトウェア」または「ライセンスキー」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。

「タスクの設定」での設定（「ソフトウェア情報登録」）

「ソフトウェア情報登録」の引き当て項目の設定方法を次の図に示します。

管理項目	引き当て項目
資産情報.資産番号*	1 参照
資産情報.部署	申請者部署名 参照
資産情報.ソフトウェア状態*	運用 参照
資産情報.購入金額	参照
資産情報.登録日	自動設定：実行した日付 参照
資産情報.用途	参照
資産情報.備考	備考 参照
資産情報.棚卸日付	参照
ソフトウェア資産情報.数量	3 参照
ソフトウェア資産情報.購入ポイント数	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア名*	2 参照
ソフトウェアリスト.製造者	参照
ソフトウェアリスト.ソフトウェア種別*	商用 参照
ライセンス情報.ライセンス名	4 参照
ライセンス情報.ライセンス形態	マシン許諾ライセンス 参照
ライセンス情報.アップグレード保証	なし 参照
ライセンス情報.ダウングレード可否	不可 参照
ライセンス情報.ライセンス取得方法	パッケージ 参照
ライセンス情報.ライセンス区分	マシン許諾 参照

「資産番号」,「ソフトウェア名」,「数量」,「ライセンス名」には，CSV ファイルの列番号を設定します。「部署」および「備考」は，それぞれの値を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。そのほかの必要な項目は，固定値を設定してください。

「タスクの設定」での設定（「ライセンスキー追加」）

「ライセンスキー追加」の引き当て項目の設定方法を次の図に示します。

管理項目	引き当て項目
対象となるソフトウェアの資産番号*	1 参照
対象となる部署名*	申請者部署名 参照
ソフトウェアキー情報.プロダクトID	2 参照
ソフトウェアキー情報.ライセンスキー	1 参照
ソフトウェアキー情報.シリアルNo.	3 参照
ソフトウェアキー情報.備考	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field128-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Field255-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Area-2	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-1	参照
ソフトウェアキー情報.固有情報Code-2	参照

「対象となるソフトウェアの資産番号」および「対象となる部署名」は,「資産番号」と「部署」を指定するオブジェクトの管理項目名を設定します。また,「プロダクト

ID」,「ライセンスキー」および「シリアル No.」には，CSV ファイルの列番号を設定します。

10.6 案件処理オプションを設定する（Flow Designer）

この節では，案件に対するオプションの設定方法について説明します。

案件には，実際に案件を作成して送信する際，完了までの処理期限を設定するかどうか，および次の作業者にメールを送信するかどうかを設定できます。

案件処理オプションは，Flow Designer で設定します。

10.6.1 処理期限を設定する

新規に案件を作成して送信してから，その案件が完了するまでの処理期限を設定します。この設定は任意です。処理期限を設定すると，期限を過ぎた案件は，受信トレイに赤文字で表示されます。

案件の処理期限の設定手順を次に示します。

1. **Flow Designer で「ツール」から［処理期限設定］ボタンをクリックする。**
   処理期限の日数を指定するダイアログが表示されます。
   指定できる日数は，999 日までです。

2. **処理期限を日数で指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   処理期限の日数を指定するダイアログが閉じて，指定した日数が処理期限に設定されます。
   処理期限が設定された案件は，受信トレイ画面および送信トレイ画面の「満了日」で期限を確認できます。

設定した処理期限を解除するには

処理期限を設定する手順で，処理期限の日数を「0」または空白にします。

10.6.2 メール送信を選択する

各作業者が案件を処理して次の作業者に送付する際に，次の作業者に案件が送付されたことを通知するメールを送信できます。この設定は任意です。なお，メールを送信するかどうかは案件単位で設定します。

メールを送信するための設定手順を次に示します。

1. **Flow Designer で［メールオプション編集］ボタンをクリックする。**
   Mail Designer が表示されます。

2. **「メール主題」，「メール本文」にデフォルトで表示する内容を指定する。**
   「メール主題」には 64 バイト，「メール本文」には 1,000 バイトまで指定できます。
   ここで設定した内容は，各作業者がメールを送信する際に編集できます。
   なお，何も指定しないと，メール送信の設定は有効になりません。

3. **［登録］ボタンをクリックする。**
Mail Designer が閉じて，指定した内容でメール送信の設定が有効になります。
なお，メールを送信するかどうかは，実際に案件を送信するときにも選択できます。

Mail Designer を次の図に示します。

図 10-20　Mail Designer

メール送信の設定を解除するには

メール送信をするための設定手順で，「メール主題」および「メール本文」に指定した文字列をすべて削除します。

注意事項

案件を送付したことを通知するメールは，ユーザ管理情報に登録されたメールアドレスを基に送信されます。そのため，メール送信先のユーザのメールアドレスが登録されていない場合は，メール送信を設定してもメールは送信されません。案件の作業者（メール送信元）のメールアドレスが登録されていない場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「メールの送信元アドレス」に設定したメールアドレスが送信元のメールアドレスになります。

● Microsoft Internet Information Services **での設定**

案件を送付したことを通知するメールを送信するには，Flow Designer での設定のほかに，Microsoft Internet Information Services で次の設定が必要です。

- SMTP **仮想サーバの実行**
SMTP 仮想サーバが実行していることを確認します。SMTP 仮想サーバの設定方法については，「5.10.1　SMTP 仮想サーバの実行」を参照してください。
- **リモートドメインへの受信メールの中継**
SMTP 仮想サーバにリモートドメインを追加して，そのリモートドメインへ受信メールを中継する設定にします。リモートドメインへ受信メールを中継する設定方法については，「5.10.2　リモートドメインの追加」を参照してください。

10.7　登録された案件を変更する

この節では，作成途中で保存した案件や，Asset Information Manager がサンプルで提供している案件を変更する方法について説明します。

案件を定義する際，すでに登録されている案件を流用したり，サンプルで登録されている案件を編集したりすることで，効率良く案件を定義できます。

登録された案件は，業務メニュー「案件定義」を選択すると表示される案件定義画面から変更します。

10.7.1　案件名を変更する

案件名は，状態が「作成中」の案件に対してだけ変更できます。

案件名を変更する手順を次に示します。

1. **案件定義画面で，名前を変更したい案件のチェックボックスをチェックして，［名前変更］ボタンをクリックする。**
   名称を指定するダイアログが表示されます。
2. **案件名を指定する。**
   案件名は同じ名前で複数登録できます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   名前を指定するダイアログが閉じて，指定した文字列で案件名が変更されます。また，「更新者」の欄に，変更したユーザの名前が表示されます。

10.7.2　案件を公開または公開停止にする

状態が「作成中」の案件を「公開」に変更して，新規案件を作成できるようにします。また，状態が「公開」の案件を「公開停止」に変更して，新規案件を作成できないようにします。

案件の状態を「公開」（または「公開停止」）に変更する手順を次に示します。

1. **案件定義画面で，状態を変更したい案件のチェックボックスをチェックして，［公開］（または［公開停止］）ボタンをクリックする。**
2. **確認のダイアログが表示されるので，［OK］ボタンをクリックする。**
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックします。
   選択した案件の状態が変更されます。また，「更新者」の欄に，変更したユーザの名前が表示されます。
   なお，いったん「公開停止」に変更した案件も，再度「公開」に戻すことができます。

10.7.3 案件の定義内容を変更する

すでに登録されている案件は，状態が「作成中」の場合だけ定義内容を変更できます。状態が「公開」または「公開停止」の案件の場合は，コピーを作成して定義内容を変更します。

状態が「作成中」の場合は，定義内容を変更したい案件の「案件名」のアンカーをクリックすると，Flow Designer が表示されて，定義内容を変更できます。

状態が「公開」または「公開停止」の案件のコピーを作成する手順を次に示します。

1. **案件定義画面で，定義内容を変更したい案件の「案件名」のチェックボックスをチェックして，［コピー］ボタンをクリックする。**
   案件名を指定するダイアログが表示されます。案件名は同じ名前で複数登録できます。
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **案件名を指定して，［OK］ボタンをクリックする。**
   ダイアログが閉じます。
3. **案件定義画面でコピーした案件の「案件名」をクリックする。**
   編集可能な状態で Flow Designer が表示されます。

10.7.4 案件を削除する

削除できる案件は，状態が「作成中」と「公開停止」の案件です。ただし，状態が「公開停止」の案件は，実行中の案件がある場合は削除できません。

実行中の案件は，業務メニュー「実行案件管理」をクリックすると表示される画面から削除できます。実行中の案件の削除方法については，マニュアル「運用ガイド」の「3.4 案件の管理（実行案件管理）」を参照してください。

不要な案件を削除する手順を次に示します。

1. **案件定義画面で，削除したい案件の「案件名」のチェックボックスをチェックして，［削除］ボタンをクリックする。**
   キャンセルする場合は，［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
2. **確認のダイアログが表示されるので，［OK］ボタンをクリックする。**
   ダイアログが閉じて，選択した案件が削除されます。

10.8　FAQ（案件の定義）

この節では，案件を定義するに当たり，発生した問題に対して考えられる原因や対処方法について，FAQ で説明します。

（1）［メールオプション編集］ボタンと［処理期限設定］ボタンが非活性のため選択できない

管理ノードやアクティビティを選択していると，［メールオプション編集］ボタンおよび［処理期限設定］ボタンは選択できません。管理ノードやアクティビティ以外の部分（背景など）を一度選択してください。

Flow Designer での操作方法については，「10.3.1　Flow Designer の各部の名称と使い方」を参照してください。

（2）Flow Designer で作成するメールの本文を，各ノードで変更したい

案件の実行時に，［送信先の選択］ダイアログで本文を変更してください。

送信時のメールの編集方法については，マニュアル「運用ガイド」の「3.1.1　新規に案件を作成する」を参照してください。

（3）案件のカテゴリを追加・変更したい

コード管理画面で，管理クラス「(Others)」をクリックしたあと，コード ID「MatterCategory」をクリックし，表示された画面でカテゴリを追加してください。

コードを追加する手順については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.1　コードを追加する」を参照してください。

（4）案件のルートの途中で中断できるようにしたい

ルートの途中で中断できるようにしたい管理ノードに，完了アクティビティを追加します。

完了アクティビティを追加する手順については，「10.3.2　作業者や処理を配置する」を参照してください。

（5）処理期限を設定した案件が，期限を過ぎたらどうなるのか

送信トレイに，処理期限超過のアイコンで表示されます。また，案件名以外が赤く表示されます。案件の処理は，処理期限を過ぎても実行できます。

送信トレイに表示される案件については，マニュアル「運用ガイド」の「3.3.1　送信した案件の状況を確認する」を参照してください。

（6）通常のアクティビティと完了アクティビティの違いとは

通常のアクティビティは，次の作業者に送付する処理のため，次の管理ノードを追加できます。完了アクティビティは，案件を完了させる処理のため，次の管理ノードを追加できません。

Flow Designer でのアクティビティの追加方法については，「10.3.2　作業者や処理を配置する」を参照してください。

（7）Form Designer でオブジェクトの属性を統一したい

Form Designer の「属性操作」メニューを使用して，各オブジェクトの色，サイズなどを統一できます。

オブジェクトの属性を統一する方法については，「10.4.4　オブジェクトのスタイルや位置をそろえる」を参照してください。

（8）Form Designer でオブジェクトの位置をきれいにそろえたい

Form Designer の「属性操作」メニューを使用して，オブジェクトの上下左右の位置をそろえられます。

オブジェクトの位置をそろえる方法については，「10.4.4　オブジェクトのスタイルや位置をそろえる」を参照してください。

（9）Form Designer で［新規案件］ボタンに案件名を指定したが，［新規案件選択］ダイアログに表示されない

指定した案件の状態が「公開停止」になっている場合は表示されません。

（10）ルートの途中の管理ノードで追加したテキストフィールドなどのオブジェクトを，その後の管理ノードに表示させたい

ルートの途中に配置された管理ノードの Form Designer で，新たにオブジェクトを定義した場合，それ以降の管理ノードに同じオブジェクトを引き継ぐには，Form Designer のメニュー「オブジェクト」―「定義済みオブジェクト」から表示させたいオブジェクトを選択します。

Form Designer で定義済みオブジェクトを追加する手順については，「10.4.3(1)(g)　定義済みオブジェクト」を参照してください。

（11）Form Designer で［新規案件］ボタンを定義したが，指定したい実行案件が表示されない

実行案件に指定できるのは，案件の状態が「公開」の案件だけです。それ以外は，案件実行時に作業者が選択するか，カテゴリを指定するだけとなります。

Form Designer で［新規案件］ボタンを定義する方法については，「10.4.3(3)(k)　実行

案件」を参照してください。

（12）Form Designer で案件画面を編集したが，［登録］ボタンが非活性のため登録できない

公開されている案件を編集している可能性があります。状態が「公開」の案件は編集できません。なお，メールの編集ができない，有効期限が設定できない，または追加できない場合も同様です。

すでに登録されている案件は，状態が「作成中」の場合だけ定義内容を変更できます。状態が「公開」または「公開停止」の案件の場合は，コピーを作成して定義内容を変更します。

案件のコピーの作成方法については，「10.7.3　案件の定義内容を変更する」を参照してください。

（13）最後のノードに対してアクティビティを定義しないとどうなるか

案件実行時に，最後のノードでは確認をするだけとなります。

（14）標準で提供されている案件の，「申請」，「承認」，「配布依頼」，「完了」のアクティビティに何も定義されていない

資産管理データベースを更新しないためです。

アクティビティの定義が必要となるのは，案件を次の作業者に送信するタイミングで，資産管理データベースのデータを登録・更新する場合だけです。案件を次の作業者に送信するだけであれば，定義は必要ありません。

（15）案件を削除しようとしたが，メッセージが表示されて削除できない

案件の状態が「公開」の場合，削除できません。

案件を削除する手順については，「10.7.4　案件を削除する」を参照してください。

11 トラブルシューティング

この章では，資産管理システムにトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

11.1　トラブルシューティングの流れ

11.2　トラブル情報の取得

11.3　トラブル要因の特定

11.4　資産管理システムのトランザクション

11.5　Asset Information Manager のトラブルの主な要因と対処

11.6　WWW サーバのトラブルの主な要因と対処

11.7　DBMS のトラブルの主な要因と対処

11.8　WWW ブラウザのトラブルの主な要因と対処

11.9　JP1/NETM/DM との連携時のトラブルの主な要因と対処

11.10　JP1 製品（JP1/NETM/DM 以外）との連携時のトラブルの主な要因と対処

11.11　WSUS との連携時のトラブルの主な要因と対処

11.12　トラブルの回復

11.13　バックアップおよびリストア

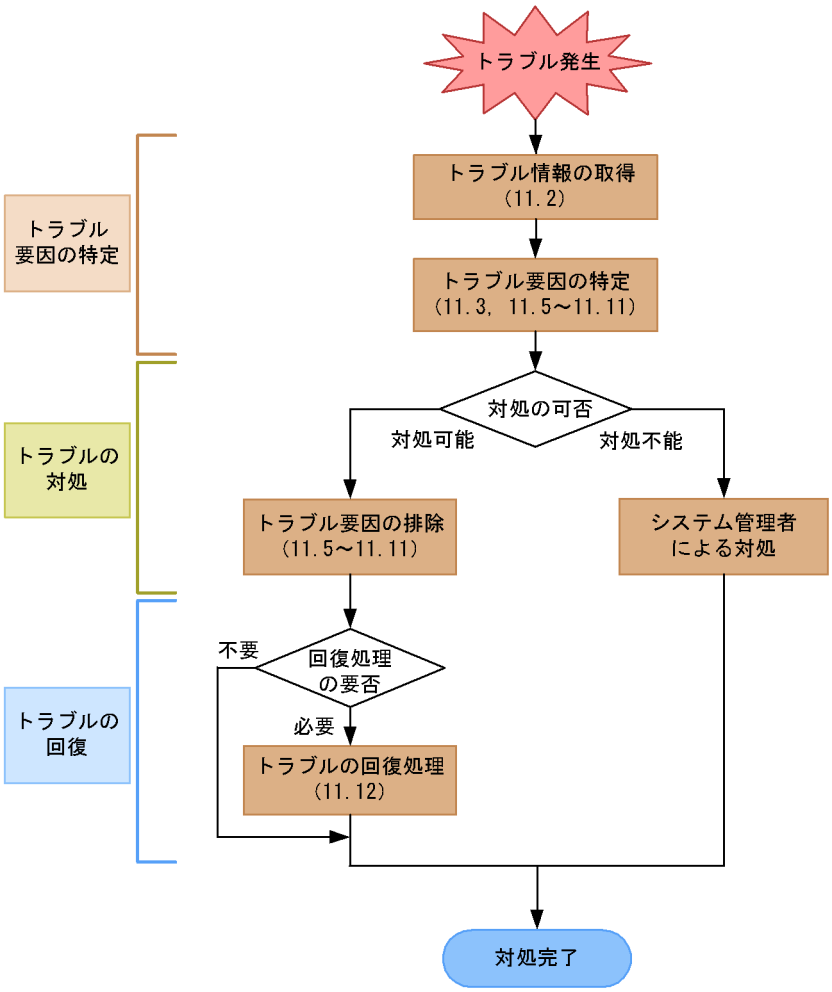
11.14　Embedded RDB を使用している場合の資産管理データベースの再編成

11.1　トラブルシューティングの流れ

この節では，資産管理システムにトラブルが発生したときの対処の流れについて説明します。トラブルごとの主な要因と対処は，11.5 ～ 11.11 で説明します。

資産管理システムでトラブルが発生してから，回復するまでの作業の流れを次の図に示します。

図 11-1　トラブル発生時の対処の流れ



● トラブル情報の取得

トラブルが発生したら，まず，トラブル情報を取得してください。トラブル情報を取得する方法については，「11.2　トラブル情報の取得」を参照してください。

● トラブル要因の特定

エラーメッセージおよび発生した現象からトラブル要因を特定します。

● **トラブル要因の排除**
発生したトラブルに対処できる場合は，トラブルの要因を取り除きます。

● **システム管理者による対処**
発生したトラブルに対処できない場合は，システム管理者がトラブルの要因を取り除きます。

● **トラブルの回復処理**
必要に応じて，トラブルの回復処理をします。

トラブルに対処する前に，別の処理が実行中でないことを確認してください。資産管理システムのトランザクション処理については，「11.4　資産管理システムのトランザクション」を参照してください。

11.2 トラブル情報の取得

トラブルに対処する際には，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥log フォルダの下のログファイルを参照してください。

Asset Information Manager のエラーに関して弊社にお問い合わせのときは，製品提供のバッチファイルを実行して一括取得したトラブル情報をお知らせください。

なお，Microsoft Internet Information Services のトラブルの場合，Microsoft Internet Information Services のログ情報も取得してください。

バッチファイルを実行してトラブル情報を取得する手順を次に示します。トラブル情報の取得は，資産管理サーバを運用しているマシン上で実行してください。

1. Administrators **権限を持つユーザで資産管理サーバにログインする。**
2. ASTTRBL.BAT **を実行する。**
   ASTTRBL.BAT は次のフォルダに格納されています。
   Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe
   出力先として指定したフォルダに，その時点のトラブル情報が出力されます。

トラブル情報取得（ASTTRBL.BAT）バッチファイルの形式

ASTTRBL.BAT の形式を次に示します。

```
ASTTRBL.BAT "出力先フォルダ名"
```

出力先フォルダ名

取得したトラブル情報の出力先となるフォルダ名を，フルパスまたは相対パスで指定します。出力先フォルダ名は，必ず指定してください。

11.3 トラブル要因の特定

この節では，トラブル要因の特定方法について説明します。

トラブルが発生した場合，その対処方法を見つけるためには，メッセージや現象から，そのトラブルの要因を特定する必要があります。ここでは，メッセージの確認方法とメッセージの見方について説明します。また，資産管理システムでトラブルが発生した場合に制限される機能についても説明します。

11.3.1 トラブル要因の特定方法

資産管理サーバおよび WWW ブラウザでのトラブルの確認方法について，次に説明します。

(1) 資産管理サーバでのトラブルの確認方法

1. メッセージログファイルからトラブル発生時の出力メッセージの有無を確認します。
2. メッセージが出力されている場合，次の要因のどれかに特定します。
   - 資産管理データベースに対するトラブル
   - Asset Information Manager と連携するプログラムのトラブル
   - Microsoft Internet Information Services のトラブル
3. 資産管理データベースに対するアクセスエラーの場合は，メッセージログを確認します。
4. Asset Information Manager と連携するプログラムのトラブルの場合は，メッセージログファイルの内容を見て，プログラムの連携に異常がないか確認します。
5. Microsoft Internet Information Services のトラブルの場合は，Microsoft Internet Information Services のログの内容を見て，通信シーケンスに異常がないか確認します。
   なお，通信シーケンスで異常が確認されなかった場合は，Microsoft Internet Information Services と WWW ブラウザの間でのトラブルと考えられます。

(2) WWW ブラウザでのトラブル確認方法

ランタイムエラーが発生した場合は，Microsoft Internet Explorer のバージョンが古い可能性があります。Microsoft Internet Explorer のバージョン，および必要なサービスパックがインストールされているか確認してください。

11.3.2 メッセージの確認

トラブルが発生した場合，まず，イベントログ，標準出力または資産管理サーバが作成するログファイルにエラーメッセージが出力されているかどうかを確認してください。

エラーメッセージが出力されている場合，エラーメッセージのメッセージ種別からエラーが発生しているプログラム，トラブルの要因が特定できます。エラーメッセージの

詳細については，「11.3.3　メッセージの見方」を参照してください。

資産管理システムの重度のトラブルに関するエラーメッセージは，イベントログファイルに出力されます。イベントログファイルを確認してください。

また，資産管理サーバが出力するエラーメッセージは，ファイルとして出力されます。エラーメッセージが出力されるファイルの格納先を次に示します。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥log

log フォルダは，Asset Information Manager をインストールしたときに，デフォルトで作成されます。log フォルダの下に作成される資産管理サーバが出力したメッセージログファイルを次の表に示します。

表 11-1　log フォルダに作成されるファイル

ファイル名	説明
ASTCIMn.LOG	• データベースアクセス用の API のメッセージログを出力します。
ASTMESn.LOG	• 資産管理サーバの起動・停止などの情報メッセージ，プログラムのトラブル，通信トラブル，データベースのトラブルなどの警告メッセージおよびエラーメッセージを出力します。 • メッセージログは，資産管理システムの運用状況の確認に利用できます。

（凡例）

n は，1 ～ 9 のファイル名の通番を示します。
現在のファイルにログを出力していき，出力できるログの上限を超えた場合に，番号を一つ繰り上げたログファイルが作成されます。ただし，番号が 9 まで設定された場合は，1 に戻ります。最新のログファイルは，ファイル属性（日付・時間）で見分けてください。

なお，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥log¥exp.def は変更しないでください。

11.3.3　メッセージの見方

ここでは，標準出力のメッセージログ，およびメッセージログファイルに出力されるメッセージの見方について説明します。

(1) 標準出力のメッセージログの見方

資産管理サーバで出力されるメッセージログは，メッセージ種別とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

メッセージの形式

KDAM nnnn-m **メッセージテキスト**

KDAM

メッセージを出力したプログラムが資産管理サーバであることを表します。

nnnn

メッセージを出力したコンポーネントコード（いちばん左の n）＋通番を表します。表示されるコンポーネントコードを次に示します。
7：コマンド
8：インポートおよびエクスポート

m

メッセージの種別を表します。各種別を説明します。
E（ERROR）
プログラムを終了させなければならない，重度のトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
W（WARNING）
プログラムを終了させる必要はありませんが，一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
Q（QUESTION）
ユーザが応答する必要のあるメッセージです。
K（WORKING）
処理の継続を通知するメッセージです。
I（INFORMATION）
情報を通知するメッセージです。

（2） メッセージログファイルの見方

資産管理サーバで出力されるメッセージログファイルは，メッセージ出力時間，メッセージ種別とそれに続くメッセージテキストで構成されます。

メッセージの形式

yyyymmddhhmmss.ttt pid(tid) KDAM nnnn-m **メッセージテキスト**

yyyymmddhhmmss.ttt

メッセージを出力した日時を表します。

pid

メッセージを出力したプロセス ID を表します。

tid

メッセージを出力したスレッド ID を表します。

KDAM

メッセージを出力したプログラムが資産管理サーバであることを表します。

nnnn

メッセージを出力したコンポーネントコード（いちばん左の n）＋通番を表します。表示されるコンポーネントコードを次に示します。
0：インストールおよびセットアップ

1：資産管理サーバ
2，3：エクステンション
4，5：データベースアクセス DLL
6：Asset Information Manager の LIB ファイルおよび DLL ファイル
7：コマンド
8：インポートおよびエクスポート
9：共通 DLL

m

メッセージの種別を表します。各種別を説明します。
E（ERROR）
プログラムを終了させなければならない，重度のトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
W（WARNING）
プログラムを終了させる必要はありませんが，一部機能が使えないなどのトラブルが発生したことを通知するメッセージです。
Q（QUESTION）
ユーザが応答する必要のあるメッセージです。
K（WORKING）
処理の継続を通知するメッセージです。
I（INFORMATION）
情報を通知するメッセージです。

11.3.4 トラブル発生後に制限される機能

資産管理システムでトラブルが発生した場合，資産管理サーバからメッセージの種別「E」のメッセージが出力されます。トラブルの種別によって，制限される資産管理システムの機能を次に説明します。

(1) 緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合

資産管理システムのすべてのサービスが閉塞されます。

緊急・重度システムトラブルとは次のものです。

- 環境定義ファイルの設定誤りまたは読み込みエラー
- メタ定義・制御テーブル破壊の検出
- 一般保護例外などのプログラム例外
- プログラムの内部エラー

(2) 緊急・重度以外のシステムトラブル

トラブルの回復には時間が掛かりますが，稼働を続けても情報が破壊される可能性はないトラブルです。トラブルが検出された実行中の処理が打ち切られます。

緊急・重度以外のシステムトラブルとは次のものです。

- WWW ブラウザからのメッセージ形式の不正
- メッセージログ出力不可
- DBMS からデータベース接続切断
- 資産管理システムと連携するプログラムで発生したトラブルの通知
- 資産情報の追加，変更および削除時のアクセスエラー通知（ただし，キーとなるプロパティのデータがない場合以外）
- プログラムの内部エラー

（3） 運用上のトラブル

資産管理システム運用中にトラブルが発生した場合は，資産管理システムのサービスなどの閉塞はありません。

運用上のトラブルとは次のものです。

- ユーザ ID およびパスワードの入力誤りによるログイン時のエラー
- 資産管理システム稼働中のインポートおよびインベントリ情報取り込み時のトラブル

（4） 一時的なトラブル

時間を置いてから再度実行することで回復できる可能性のあるトラブルです。トラブルが検出された実行中の処理が打ち切られ，セッションが解放されます。

一時的なトラブルとは次のものです。

- メモリアロケーション不可またはデータベースへの接続エラー
- データベースに対するロックエラー
- 資産管理システム稼働中のインポートおよびインベントリ情報取り込み時のトラブル

11.4 資産管理システムのトランザクション

資産管理システムのトランザクション処理を，WWW ブラウザ実行時およびコマンド実行時別に説明します。

11.4.1 WWW ブラウザ実行時のトランザクション

資産管理システムは，WWW ブラウザからの要求を一つの処理単位としますが，トランザクションを管理する機能はありません。DBMS のトランザクション管理機能を利用して，資産管理データベースへの出力アクセス時や複数の関連テーブルの追加・更新操作を一つのトランザクションとします。これによって，資産管理データベーステーブル間の不整合を防止するとともに，資産管理サーバでトラブルが発生した場合，実行中のトランザクションを破棄できます。

例えば，WWW ブラウザ側にエラーが通知された場合でも，資産管理データベースのトランザクションは破棄されません。WWW ブラウザ側でタイムアウトや通信トラブルが発生した場合には，トラブルが発生した直前の処理を再入力してください。

11.4.2 コマンド実行時のトランザクション

jamimport（インポート）コマンドでは，資産管理データベースへ大量のテーブルデータを一括して入力できるようにするため，トランザクションは管理されません。

したがって，コマンド実行中にトラブルが発生した場合，テーブル同士の関係が不整合となっている可能性があります。この場合は，コマンドを再実行し，すべてのデータを登録して，資産管理データベースのテーブルを回復してください。

11.5 Asset Information Manager のトラブルの主な要因と対処

Asset Information Manager の環境設定時に，トラブルが発生した場合，［サーバセットアップ］ダイアログの設定や DBMS の設定に問題がないかを確認してください。

Asset Information Manager の環境設定時およびログインしたあとの操作中に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を示します。

11.5.1 資産管理サーバ設定時のトラブル

資産管理サーバ設定時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「インストールされていません。」といったメッセージが出力され，Asset Information Manager が起動しない

Asset Information Manager が正しくインストールされていない可能性があります。
Asset Information Manager をインストールし直してください。

11.5.2 資産管理データベース作成時のトラブル

資産管理データベースの作成時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「環境情報に設定した値が正しくありません。」といったメッセージが出力される

［サーバセットアップ］ダイアログでの設定が実行されていない可能性があります。
［サーバセットアップ］ダイアログで設定を実行してください。

(2)「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIM.LOG ファイル，または ASTMES.LOG ファイルが出力されます。

- 「データソース名および指定された既定のドライバが見つかりません。」（Microsoft SQL Server または Embedded RDB の場合）
- 「サービス名を解決できませんでした。」（ORACLE の場合）

これは，［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「サービス名」が正しく設定されていない可能性があります。

データベース接続の設定を確認してください。また，［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「サービス名」に，データソースまたはネット・サービスの作成で指定したデータソース名（Microsoft SQL Server の場合），資産管理データベースを初回に作成したときにサーバセットアップで指定したサービス名（Embedded RDB の場合），またはネット・サービス名（ORACLE の場合）を指定してください。

(3)「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTMES.LOG ファイルが出力されます。

●「SQL Server が存在しないか，アクセスが拒否されました。」（Microsoft SQL Server の場合）

●「リスナーがありません。」（ORACLE の場合）

次に示す内容を確認してください。

- データベース接続の設定時に作成したサービスが正しく作成されていない可能性があります。
  サービスが正しく作成されているか確認してください。また，テスト機能で接続を確認してください。
- DBMS が起動していない可能性があります。
  DBMS を起動してください。

(4)「資産管理システムの初期データの作成に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIM.LOG ファイル，または ASTMES.LOG ファイルが出力されます。

●「ユーザー xxxx ※はログインできませんでした。」（Microsoft SQL Server の場合）
注※　ユーザ名

●「Invalid password for authorization identifier HiRDB」（Embedded RDB の場合）

●「invalid username/password; logon denied」（ORACLE の場合）

これは，［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワードが正しく設定されていない可能性があります。［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワードを正しく設定してください。

(5)「すでにキーが存在したため追加できません。」といったメッセージが出力される

すでにデータベースが作成されている可能性があります。

資産管理データベースの作成を一度実行したあとで再度実行した場合にこのメッセージが出力されますが，データベースに影響はありません。テーブルを再作成する場合は，テーブルおよびビューをすべて削除してから，資産管理データベースの作成を実行してください。

（6）エラーが発生して終了してしまう（Embedded RDB の場合）

データベース作成時に指定した Embedded RDB の容量が満杯になっている可能性があります。

Asset Information Manager をいったんアンインストールしてから再度インストールしてください。インストールするディスクには，インストール時に設定したデータベース容量に加えて，Embedded RDB が自動的に割り当てる管理領域分の容量が必要です。管理領域の容量はリリースノートを参照してください。

11.5.3　Asset Information Manager へのログイン時のトラブル

Asset Information Manager へのログイン時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

（1）ログイン画面が表示されない

- Asset Information Manager のインストール後に Microsoft Internet Information Services をインストールした可能性があります。
  Microsoft Internet Information Services のインストール後，再度 Asset Information Manager をインストールしてください。
- World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing が起動していない可能性があります。World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing が起動しているかどうかを確認してください。
- Microsoft Internet Explorer の設定で，「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている可能性があります。インターネットオプションの「セキュリティ」タブで，［レベルのカスタマイズ］ボタンをクリックすると表示される［セキュリティの設定］ダイアログの「アクティブスクリプト」の設定を確認してください。
- Windows Server 2008 または Windows Server 2003 を資産管理サーバとして使用している場合，Asset Information Manager をインストールすると作成される jp1asset という名前の Web サービス拡張を誤って削除してしまった可能性があります。jp1asset という名前の Web サービス拡張がないときは，再度作成してください。Web サービス拡張の作成方法については，「11.5.5　Web サービス拡張「jp1asset」の再作成」を参照してください。

(2)「サーバが起動中のためしばらくしてからログインしてください。」といったメッセージが出力され，しばらくしても同じ状態のままである

Microsoft SQL Server の場合，データソースを「ユーザ DSN」で作成している可能性があります。データソースを「システム DSN」で作成してください。

(3) ログイン画面が表示されるが，ログインできない

- 資産管理サーバが資産管理データベースと接続できていない可能性があります。データベースの接続に必要なデータソースまたはネット・サービスの作成については，「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。
- Microsoft Internet Explorer の設定で，「セッションごとの Cookie の使用許可」または「暗号化されていないフォームデータの送信」が，「無効にする」になっている可能性があります。インターネットオプションで，「セッションごとの Cookie の使用許可」または「暗号化されていないフォームデータの送信」の設定を確認してください。
- Embedded RDB の場合，資産管理データベースが作成されていない可能性があります。
  必ず，事前に［サーバセットアップ］ダイアログを起動して，「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を入力して，［OK］ボタンをクリックしてください。
  ログイン ID やサービス名は，予約語を避けるようにしてください。予約語は Asset Information Manager のインストールフォルダに格納されている RESWORDS.TXT を参照してください。そのあとで，資産管理データベースを作成してください。

(4) ユーザ認証に失敗する

- ユーザ ID およびパスワードが登録されていない可能性があります。ユーザ ID およびパスワードを登録してください。
- ユーザ ID およびパスワードの入力ミスの可能性があります。正しいユーザ ID およびパスワードを入力してください。

(5)「製品バージョンとデータベースバージョンが異なるため，ログインに失敗しました。」といったメッセージが出力される

資産管理データベースを移行していない可能性があります。資産管理データベースをアップグレードしてください。

11.5.4 Asset Information Manager 操作時のトラブル

Asset Information Manager にログインしたあとの操作中に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1) 操作画面から［CSV］ボタン，［PDF］ボタン，または［監視図］ボタンをクリックしても，何も出力されない

- Microsoft Internet Information Services のロックダウンツールを適用した場合，中間

ファイルを作成するフォルダへのアクセス権が変更されている可能性があります。資産管理サーバの仮想ディレクトリ ¥csv のアクセス権の設定を確認して，「Web Anonymous Users」に「書き込み」権限を与える設定にしてください。資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

- Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合，ダウンロードするファイルの拡張子が，MIME 登録されていない可能性があります。ダウンロードするファイルの拡張子を MIME 登録してください。

(2) 操作画面から［図面］ボタンをクリックしても，何も出力されない

Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合，拡張子「.ni2」が MIME 登録されていない可能性があります。再度，Microsoft Internet Information Services に，Asset Information Manager の仮想ディレクトリを設定してください。仮想ディレクトリの設定方法については，「5.6　仮想ディレクトリの設定」を参照してください。

(3) 業務メニュー「ログ一覧」からファイル名のアンカーをクリックしても，何も出力されない

Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合，拡張子「.log」が MIME 登録されていない可能性があります。再度，Microsoft Internet Information Services に，Asset Information Manager の仮想ディレクトリを設定してください。仮想ディレクトリの設定方法については，「5.6　仮想ディレクトリの設定」を参照してください。

11.5.5　Web サービス拡張「jp1asset」の再作成

Windows Server 2008 または Windows Server 2003 上で資産管理サーバを運用する場合，Asset Information Manager をインストールすると，自動的に jp1asset という名前で Web サービス拡張が登録されます。誤ってこの Web サービス拡張を削除してしまった場合は，Web サービス拡張「jp1asset」を再作成したあと，アプリケーションプールを作成してください。アプリケーションプールの作成手順については，次に示す説明個所を参照してください。

- Microsoft Internet Information Services 6.0 を使用する場合
  「5.8.1(2)　アプリケーションプールの作成」
- Microsoft Internet Information Services 7.0 を使用する場合
  「5.8.2(3)　アプリケーションプールの作成」

Windows Server 2003 の場合を例に，Web サービス拡張「jp1asset」の作成手順を次に示します。

1. **インターネットインフォメーションサービスマネージャを起動する。**
2. **資産管理サーバの「Web サービス拡張」を選択する。**

3. **「拡張」タブが選択されていることを確認して，「新しい Web サービス拡張を追加」を選択する。**
   ［新しい Web サービス拡張］ダイアログが表示されます。
4. **「拡張名」に任意の名称を指定する。**
   「拡張名」には，例えば「aim」のような名称を指定します。
5. **［追加］ボタンをクリックする。**
   ［ファイルの追加］ダイアログが表示されます。
6. **［参照］ボタンをクリックすると表示されるダイアログで，ファイルを指定して，［開く］ボタンをクリックする。**
   資産管理サーバの仮想ディレクトリに格納された次のファイルをすべて追加してください。
   - jamwscript.dll
   - bin¥jamlogin.dll
   - jamenter.dll
   - jamfile.dll
   - jamhtmlfile.dll

   資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。
7. **「拡張の状態を許可済みに設定する」のチェックボックスをチェックする。**
8. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［新しい Web サービス拡張］ダイアログが閉じて，「Web サービス拡張」一覧に，任意に指定した拡張名で Web サービスが追加されます。

Windows Server 2008 での Web サービス拡張「jp1asset」の作成手順については，「5.8.2(5)　ISAPI の制限の設定」を参照してください。

11.6　WWW サーバのトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合，システムリソースが不足していないか，Microsoft Internet Information Services に異常を示すイベントログが出力されていないかを確認してください。

同じ Microsoft Internet Information Services 上で，アプリケーション保護設定が「低（IIS プロセス）」または「中（プール）」のほかのプログラムを利用している場合には，利用しているプログラム側に問題がある可能性があります。

また，ネットワークでトラブルが発生していないか，Microsoft Internet Information Services にトラブルが発生していないかも確認してください。Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用している場合は，「5.8　Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用する場合の設定」を参照して，WWW サーバの設定が正しいかを確認してください。

11.7 DBMS のトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合，資産管理システムが使用する DBMS のクライアントライブラリにトラブルはないかを確認してください。また，Embedded RDB の場合は，Embedded RDB 特有のトラブルの発生要因があるので，「11.7.2 Embedded RDB 特有のトラブル」も参照してください。

11.7.1 DBMS 共通のトラブル

DBMS の発生トラブル別に，その要因および調査方法を次に示します。

(1) DBMS の環境が誤っているか，または破壊されている

- 次の四つの要因が考えられます。
  - DBMS クライアントの DLL が読み込まれない。
  - DBMS ドライバがない。
  - DBMS がネットワーク上の資産管理サーバへ到達していない。
  - DBMS への同時接続数が超過している。

  設定した内容が正しいか確認してください。また，資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散している場合，DBMS のクライアント環境がインストールされているか確認してください。
- ネットワークの設定が，DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっている可能性があります。
  DBMS サーバへの通信路を確認してください。

(2) 資産管理データベースへの接続がエラーになる

- DBMS サーバが起動されていない，閉塞中，または停止仕掛かり中である可能性があります。
  DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- ネットワークの設定が，DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっている可能性があります。
  DBMS サーバへの通信路を確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードに誤りがある可能性があります。
  ユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウト，リソース不足などの可能性があります。
  DBMS の稼働状態を確認してください。

(3) スクリプトの実行でエラーになる

- ディスクが満杯である可能性があります。
  ディスクスペースを割り当てたドライブの空き容量または増分の有無と上限値を確認してください。

- トランザクションログが満杯である可能性があります。
  Asset Information Manager のログにトランザクションログの満杯を示すメッセージが出力されている場合には，DBMS のトランザクションログの設定を確認してください。この場合，トランザクションログの取得を中止するか，または定期的にバックアップを取得する運用にすることをお勧めします。
- 排他制御によるロックエラーまたはデータベース接続のタイムアウトの可能性があります。
  DBMS の稼働状態を確認してください。
- 次の五つの要因が考えられます。
  - 要求内容の権限に誤りがある
  - スクリプトのバッファのオーバーフローが発生している
  - スクリプトの構文が誤っている
  - ディスクの I/O エラーが発生している
  - 対象のテーブルが存在しない

  カスタマイズ前の環境に戻してください。

11.7.2 Embedded RDB 特有のトラブル

Embedded RDB の場合は，「11.7.1 DBMS 共通のトラブル」の内容に加えて，Embedded RDB 特有の要因も考慮してください。

発生するトラブル別に，主な要因および対処を次に示します。

(1) 資産管理データベースの作成時に，エラーが発生して実行が停止する

データベース格納先のディスク容量，またはデータベース作成時に指定した Embedded RDB の容量が満杯になっている可能性があります。

データベース作成時に表示される，データベースの詳細設定のダイアログの「サイズ」，「管理領域」および「動作領域」の分だけ容量に空きがあるディスクに，資産管理データベースを再作成してください。

(2) ログイン画面は表示されるが，「ページを表示できません」といったメッセージが表示されて，ログインできない

資産管理データベースが作成されていない可能性があります。

必ず，事前に［サーバセットアップ］ダイアログを起動して，「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を入力して，［OK］ボタンをクリックしてください。

ログイン ID やサービス名は，予約語を避けるようにしてください。予約語は Asset Information Manager のインストールフォルダに格納されている RESWORDS.TXT を参照してください。

そのあとで，資産管理データベースを作成してください。

(3) データベース接続の認証に失敗する

次の文字列で始まるエラーメッセージが，ログに出力されます。

● KDAM5001-E[HY000]（状況に応じて出力される文字列）KFPA11561-E

これは，Asset Information Manager の稼働後に，「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」のどちらかを変更した可能性があります。

［サーバセットアップ］ダイアログを起動して，「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を，資産管理データベースを作成したときの状態に戻してください。

運用中に，「データベース情報」の「ログイン ID」と「パスワード」を別の値には変更できません。

(4) データベース通信エラーが発生しているか，またはデータベース内でエラーが発生している

次の文字列で始まるエラーメッセージが，ログに出力されます。

● KDAM5001-E[HY000]（状況に応じて出力される文字列）KFPA11723-E

● KDAM5001-E[HY000]（状況に応じて出力される文字列）KFPA11728-E

これは，DBMS サーバが起動中，閉塞中または停止中の可能性があります。次に示す内容を確認してください。

- サービス「HiRDB/EmbeddedEdition _AM1」が起動しているかを確認して，停止している場合は起動してください。完全に起動してから，World Wide Web Publishing Service を再起動してください。
  ログの詳細については，マニュアル「JP1 組み込みデータベース メッセージ」を参照してください。
- ネットワークケーブルが Asset Information Manager のサーバに対して確実に接続されていることを確認してください。ネットワークケーブルがサーバから抜かれた場合，Embedded RDB と Asset Information Manager 間の通信ができなくなります。

(5) データベース容量不足が発生している

次の文字列で始まるエラーメッセージが，ログに出力されます。

● KDAM5001-E[HY000]（状況に応じて出力される文字列）KFPA11756-E

これは，データベース領域がページ不足になっている可能性があります。

資産管理データベースを再編成してください。再編成してもエラーメッセージが出力される場合は，資産管理データベースを再作成して，サイズを変更してください。

資産管理データベースを再編成する手順については，「11.14.1 ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースの再編成」または「11.14.2 コマンドで

の資産管理データベースの再編成」を参照してください。また，資産管理データベースのサイズを変更する手順については，「付録 D.5　Embedded RDB のサイズの変更」を参照してください。

(6) 資産管理データベースを作成したドライブの空き容量が減少している

Embedded RDB の作業表用ファイル（SQL 文を実行するときに必要とする一時的な情報を格納するファイル）の容量が，自動拡張された影響による可能性があります。

作業表用ファイルの容量は，大量の検索結果を出力したときに自動拡張されます。資産管理データベースを作成したドライブの空き容量が圧迫された際には，jamemb_workcomp.exe を実行することで，作業表用ファイルで自動拡張された領域を解放できます。

ここでは，Embedded RDB の作業表用ファイルで，自動拡張された領域を解放する jamemb_workcomp.exe の機能，形式，戻り値およびコマンド実行時の注意事項について説明します。

jamemb_workcomp.exe は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe

(a) 機能

Embedded RDB の作業表用ファイルで，自動拡張された領域を解放します。

(b) 形式

```
jamemb_workcomp.exe
```

(c) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

(d) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_workcomp.exe を実行してください。

11.8 WWW ブラウザのトラブルの主な要因と対処

トラブルが発生した場合，資産管理システムが使用する WWW ブラウザの実行環境にトラブルはないかを確認してください。

WWW ブラウザで発生するトラブル別に，主な要因および対処を次に示します。

(1) WWW ブラウザが異常終了しているかまたはハングアップしている

- WWW ブラウザの実行環境に誤りがあるか，またはレジストリや前提となる DLL が破壊されている可能性があります。
  正しい環境に戻すか，または WWW ブラウザを再インストールしてください。
- WWW ブラウザのバージョンに問題がある可能性があります。
  Microsoft Internet Explorer 6 SP1 以降を使用してください。
- プラグインに障害が発生している，またはプラグインに問題がある可能性があります。
  対策版がリリースされていたら，対策版の WWW ブラウザをインストールしてください。
- コンテンツに含まれるコントロールに障害が発生している，またはコンテンツに含まれるコントロールに問題がある可能性があります。
  対策版がリリースされていたら，対策版の WWW ブラウザをインストールしてください。
- スクリプトに障害が発生している，またはスクリプトに問題がある可能性があります。
  稼働状態を確認してください。また，対策版がリリースされていたら，対策版の WWW ブラウザをインストールしてください。
- WWW ブラウザに問題がある可能性があります。
  対策版がリリースされていたら，対策版の WWW ブラウザをインストールしてください。

(2) 通信上のトラブルが発生している

- ルーティングテーブル破壊，またはほかのソフトウェアと通信ポートの競合によるネットワーク障害が発生している可能性があります。
  ルーティングテーブルを破壊される前の状態に戻すか，またはほかのソフトウェアと競合しないように通信ポートを再設定してください。
- Microsoft Internet Information Services，またはプロキシサーバが停止しているか，またはエラーが発生している可能性があります。
  正しく運用しているかを確認してください。

(3) GUI が正しく表示されない

- 資産管理データベースへ不正に直接アクセスすることによる情報書き換え，論理データベース構造の破壊などによって，資産管理データベースが破壊されている可能性があります。
  バックアップデータを取得している場合，取得しているバックアップデータを使用し

て，元の状態に戻してください。
バックアップデータを取得していない場合，資産管理データベースを初期化して，再作成してください。

- 「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている可能性があります。
  Microsoft Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで，［レベルのカスタマイズ］ボタンをクリックすると表示される［セキュリティの設定］ダイアログの「アクティブスクリプト」を有効にしてください。
- 「バイナリビヘイビアとスクリプトビヘイビア」が「無効にする」になっている可能性があります（Windows Server 2003 SP1 以降および Windows XP SP2 以降の場合）。
  Microsoft Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで，［レベルのカスタマイズ］ボタンをクリックすると表示される［セキュリティの設定］ダイアログの「バイナリビヘイビアとスクリプトビヘイビア」を有効にしてください。

(4) ログイン画面が表示できない

- World Wide Web Publishing Service が起動していない可能性があります。
  World Wide Web Publishing Service が起動しているかどうか確認してください。
- 「アクティブスクリプト」が「無効にする」になっている可能性があります。
  Microsoft Internet Explorer のインターネットオプションの「セキュリティ」タブで，［レベルのカスタマイズ］ボタンをクリックすると表示される［セキュリティの設定］ダイアログの「アクティブスクリプト」を有効にしてください。

(5) ログインできない

- 「セッションごとの Cookie の使用許可」が「無効にする」になっている可能性があります。
  「セッションごとの Cookie の使用許可」を有効にしてください。
- 「暗号化されていないフォームデータの送信」が「無効にする」になっている可能性があります。
  「暗号化されていないフォームデータの送信」を有効にしてください。
- 「ページの自動読み込み」が「無効にする」になっている可能性があります（Windows Server 2003 の場合）。
  「ページの自動読み込み」を有効にしてください。
- 資産管理サーバが資産管理データベースと接続できていない可能性があります。
  資産管理サーバが資産管理データベースと接続できているか確認してください。

(6) ファイルをダウンロードできない

- ダウンロードするファイルの拡張子が，MIME 登録されていない可能性があります（Windows Server 2008 または Windows Server 2003 の場合）。
  ダウンロードするファイルの拡張子を MIME 登録してください。
- Microsoft Internet Explorer の設定で，「ファイルのダウンロード」が「無効にする」になっている可能性があります。
  「ファイルのダウンロード」を有効にしてください。

(7) グラフを表示できない

- Microsoft Office がインストールされていない可能性があります。Microsoft Office をインストールするか，または Microsoft Office Web コンポーネントをインストールしてください。
- 「ActiveX コントロールとプラグインの実行」が「無効にする」になっている可能性があります。「ActiveX コントロールとプラグインの実行」を有効にしてください。

11.9 JP1/NETM/DM との連携時のトラブルの主な要因と対処

JP1/NETM/DM との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

11.9.1 インベントリ情報取り込み時のトラブル

JP1/NETM/DM のインベントリ情報の取り込み時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「コマンドの実行中にエラーが発生しました。詳細はログファイルを参照してください」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTCIM1.LOG ファイルが出力されます。

●「データソース名および指定された既定のドライバが見つかりません。」（Microsoft SQL Server の場合）

●「SQL Server が存在しないか，アクセスが拒否されました。」（Microsoft SQL Server の場合）

●「接続に失敗しました。」（Microsoft SQL Server の場合）

●「Invalid password for authorization identifier HiRDB」（Embedded RDB の場合）

●「サービス名を解決できませんでした。」（ORACLE の場合）

●「リスナーがありません。」（ORACLE の場合）

●「invalid username/password; logon denied」（ORACLE の場合）

次に示す内容を確認してください。

- ［サーバセットアップ］ダイアログの，次に示す項目のどれかが正しく設定されていない可能性があります。
  - 「データベース情報」の「ログイン ID」とパスワード
  - 「データベース情報」の「サービス名」
  - 「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」とパスワード
  - 「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」

  各項目を正しく設定してください。また，データベース接続の設定を確認してください。
- 資産管理データベースが正しく作成された場合は，［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」が正しく設定されていない可能性があります。

［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
- データベース接続の設定時に作成したサービスが正しく作成されていない可能性があります。
  サービスが正しく作成されているか確認してください。また，テスト機能で接続を確認してください。
- DBMS が起動していない可能性があります。
  DBMS を起動してください。

(2)「接続に失敗しました。」といったメッセージが出力される

log フォルダに次のような内容の ASTMES.LOG ファイルが出力されます。

●「接続に失敗しました。」（Microsoft SQL Server の場合）

●「Invalid password for authorization identifier HiRDB」（Embedded RDB の場合）

●「invalid username/password; logon denied」（ORACLE の場合）

次に示す内容を確認してください。

- DBMS サーバが起動されていない，DBMS サーバが閉塞中，または DBMS サーバ停止仕掛かり中の可能性があります。
  DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードが誤っている可能性があります。
  キー入力に誤りはないかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウトの可能性があります。
  DBMS の稼働状態を確認してください。
- ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定が実行されていない可能性があります。
  ［サーバセットアップ］ダイアログで設定を実行してください。
- 接続先が JP1/NETM/DM のデータベースではない可能性があります。
  データベースの接続の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

(3)「資産番号に自動採番は設定できません。」といった内容の ASTMES.LOG ファイルが log フォルダに出力される

［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「資産情報の引き当てキー」に「資産番号を使用する」を設定している場合，資産番号に「自動採番」は設定できません。

インベントリ情報の引き当て画面から資産番号の設定を変更するか，「資産情報の引き当てキー」を「運用キーに従う」に変更してください。

(4)「初期化に失敗しました。」といった内容の ASTMES.LOG ファイルが log フォルダに出力される

Asset Information Manager の動作環境が壊れている可能性があります。

Asset Information Manager をインストールし直してください。

11.9.2 インベントリ情報参照時のトラブル

［機器詳細］ダイアログの「インベントリ」タブを選択して，インベントリ情報を参照するときに想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「対応する機器が JP1/NETM/DM 上に存在しません」といったメッセージが表示されて，インベントリ情報が表示されない

- JP1/NETM/DM から取り込んだ機器の情報ではない可能性があります。JP1/NETM/DM から取り込んだ機器の情報でなければ表示されません。
- JP1/NETM/DM のデータベース上に，該当する機器の情報が存在しない可能性があります。JP1/NETM/DM のリモートインストールマネージャを使用して，その機器のシステム構成情報およびシステム情報が存在するかどうかを確認してください。

(2)「インベントリ情報を表示できません」といったメッセージが表示されて，インベントリ情報が表示されない

接続先が JP1/NETM/DM とは別のデータベースか，または接続の設定が間違っている可能性があります。

データベース接続の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」，「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

11.9.3 ソフトウェア配布時のトラブル

ソフトウェア配布時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1) ソフトウェア適用状況画面でパッケージを追加する際に，「JP1/NETM/DM のパッケージを表示できません」といったエラーメッセージが出力される

- 接続先が JP1/NETM/DM とは別のデータベースか，または接続の設定が間違っている可能性があります。
  データベース接続の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」，「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
- JP1/NETM/DM のデータベースへの接続障害が発生した可能性があります。データベースおよびネットワークの状況を確認してください。

(2) [キャビネット選択] ダイアログで，キャビネットの内容を表示する際に，「JP1/NETM/DM のパッケージを表示できません」といったエラーメッセージが出力される

- 接続先が JP1/NETM/DM とは別のデータベースか，または接続の設定が間違っている可能性があります。
  データベース接続の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」，「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
- JP1/NETM/DM のデータベースへの接続障害が発生した可能性があります。データベースおよびネットワークの状況を確認してください。

(3) 業務メニュー「配布状況」を選択した際，または配布状況画面で各ジョブの実行状況を参照する際に，「配布状況を表示できません」といったエラーメッセージが出力される

- 接続先が JP1/NETM/DM とは別のデータベースか，または接続の設定が間違っている可能性があります。
  データベース接続の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」，「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。
- JP1/NETM/DM のデータベースへの接続障害が発生した可能性があります。データベースおよびネットワークの状況を確認してください。

(4) ソフトウェア適用状況画面で，ソフトウェアの配布を実行できない

接続先が JP1/NETM/DM のデータベースではない可能性があります。データベース接続の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」とパスワード，および「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

また，KDAM2G15-E で始まる，「JP1/NETM/DM の dmAPIOpenEx() でエラーが発生しました。JP1/NETM/DM のログを参照してください。」といったメッセージがログに出力される場合は，資産管理サーバにリモートインストールマネージャをインストールして，リモートインストールマネージャのデータソースを作成してください。データソースの作成方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)」を参照してください。

エラーの詳細については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)」の dcminst.exe（ジョブの作成・実行），dcmjbrm.exe（ジョブの削除），および dcmrtry.exe（ジョブの再実行）コマンドの記述を参照してください。コマンドの戻り値は，Asset Information Manager のログに出力されます。

(5) 配布状況画面で，ジョブを削除または再実行できない

接続先が JP1/NETM/DM のデータベースではない可能性があります。データベース接続

の設定，および［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/NETM/DM 連携」の「JP1/NETM/DM データベースログイン ID」とパスワード，および「JP1/NETM/DM データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

エラーの詳細については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)」の dcminst.exe（ジョブの作成・実行），dcmjbrm.exe（ジョブの削除），および dcmrtry.exe（ジョブの再実行）コマンドの記述を参照してください。コマンドの戻り値は，Asset Information Manager のログに出力されます。

（6）案件「ソフトウェア配布申請」を使用したとき，ソフトウェアの配布を実行できない

KDAM2G15-E で始まる，「JP1/NETM/DM の dmAPIOpenEx() でエラーが発生しました。JP1/NETM/DM のログを参照してください。」といったメッセージがログに出力される場合は，資産管理サーバにリモートインストールマネージャをインストールして，リモートインストールマネージャのデータソースを作成してください。データソースの作成方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 2(Windows(R) 用)」を参照してください。

11.9.4 操作ログ取得時のトラブル

操作ログ取得時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

（1）「SQL 発行時にエラーが発生しました。(netmdm_monitoring_security:15)」といったメッセージがログに出力される

操作ログの参照先である JP1/NETM/DM のデータベースのバージョンが古い可能性があります。

JP1/NETM/DM のデータベースを 08-00 以降にバージョンアップしてください。

（2）JP1/NETM/DM ではプログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を参照できるが，タスク「操作履歴の取込み」を実行してもプログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を取得できない

タスク「操作履歴の取込み」を実行して取得される操作ログは，業務メニュー「プログラム起動履歴」，「ウィンドウタイトル変更履歴」からだけ参照できます。業務メニュー「操作ログ一覧」および「操作ログ集計」からは参照できません。

- ファイルが JP1/NETM/DM の操作履歴退避ディレクトリに格納されている可能性があります。オプション「-s BACKUP=YES」を指定して，タスク「操作履歴の取込み」を実行してください。
- プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴の取得時に使用する値（ハー

ドウェア資産情報の「DM 操作履歴ファイル終端日時」,「DM 操作履歴エントリ番号」,「DM 操作履歴ファイル先頭日時」）が，JP1/NETM/DM の操作履歴格納ディレクトリ（操作履歴退避ディレクトリを含む）のファイルに存在しない可能性があります。
取得するプログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴の開始日付オプション「-s STARTDATE=yyyymmdd」を指定して，再度実行してください。このとき，yyyymmdd には JP1/NETM/DM でプログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴の取得を開始する前の日付（例えば，20000101 など）を指定してください。

(3)「検索条件のカラム名が無効です。(netmdm_monitoring_security)」といったメッセージがログに出力される

JP1/NETM/DM のデータベースのバージョンが 08-50 より前の場合に，操作ログ一覧画面で次のどれかの条件で検索すると，このメッセージが表示されます。

- 「表示するログ」で「ファイル操作」を選択し,「種別」で「印刷」,「印刷抑止」または「印刷抑止解除」を指定する。
- 「表示するログ」で「ファイル操作」を選択し,「ドキュメント名（JP1/NETM/DM）」を指定する。
- 「表示するログ」で「Web アクセス」を選択する。
- 「表示するログ」で「外部メディア操作」を選択する。

これらの検索条件の指定を解除してください。

11.10 JP1 製品（JP1/NETM/DM 以外）との連携時のトラブルの主な要因と対処

JP1/NETM/DM 以外の JP1 製品との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を，製品ごとに次に示します。

11.10.1 JP1/ 秘文との連携時のトラブル

JP1/ 秘文の秘文ログ参照時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1) DBMS の環境が誤っている

- 次の四つの要因が考えられます。
  - DBMS クライアントの DLL が読み込まれない。
  - DBMS ドライバがない。
  - DBMS がネットワーク上の資産管理サーバへ到達していない。
  - DBMS への同時接続数が超過している。

  設定した内容が正しいか確認してください。また，資産管理サーバと資産管理データベースサーバを分散している場合，DBMS のクライアント環境がインストールされているか確認してください。
- ネットワークの設定が，DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっている可能性があります。
  DBMS サーバへの通信路を確認してください。

(2) JP1/ 秘文サーバのデータベースへの接続がエラーになる

- DBMS サーバが起動されていない，閉塞中，または停止仕掛かり中である可能性があります。
  DBMS が正しく運用されているかを確認してください。
- ネットワークの設定が，DBMS サーバまたはそれを含むネットワークに到達できない設定になっている可能性があります。
  DBMS サーバへの通信路を確認してください。
- 接続時に指定したユーザ ID またはパスワードに誤りがある可能性があります。
  ユーザ ID またはパスワードが正しいかを確認してください。
- DBMS サーバのトラブルによるタイムアウト，リソース不足などの可能性があります。
  DBMS の稼働状態を確認してください。

(3) スクリプトの実行でエラーになる

- 排他制御によるロックエラーまたはデータベース接続のタイムアウトの可能性があります。

DBMS の稼働状態を確認してください。

- 次の五つの要因が考えられます。
  - 要求内容の権限に誤りがある
  - スクリプトのバッファのオーバーフローが発生している
  - スクリプトの構文が誤っている
  - ディスクの I/O エラーが発生している
  - 対象のテーブルが存在しない

  カスタマイズ前の環境に戻してください。

(4)「JP1/ 秘文に指定したテーブルが存在しません。」といったメッセージが表示される

JP1/ 秘文 LogManager が JP1/ 秘文 CG Pro と連携していない場合に，ファイル操作の「検索対象製品」で「JP1/ 秘文 CG Pro」を選択して検索すると，このメッセージが表示されます。

「JP1/ 秘文 CG Pro」のチェックボックスのチェックを解除してください。

11.10.2 Network Node Manager との連携時のトラブル

Network Node Manager のノード情報取り込み時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「DLL がロードできませんでした。(・・・¥jamInnmVxx.dll)」といったメッセージがログに出力される

「xx」は，連携する Network Node Manager のバージョンによって異なります。

- Network Node Manager がインストールされていないか，またはインストールに失敗している可能性があります。
  正しくインストールされているかを確認してください。

(2)「Network Node Manager のデータベースに接続できませんでした。」といったメッセージがログに出力される

- Network Node Manager のサービスが開始されていない可能性があります。開始されているかを確認してください。
- リモートコンソール（管理コンソール）が Network Node Manager サーバと接続されていない可能性があります。正しく接続されているかを，Network Node Manager のリモートコンソール（管理コンソール）から確認してください。Network Node Manager のリモートコンソール（管理コンソール）の接続方法については，マニュアル「JP1/Cm2/Network Node Manager 拡張／分散化ガイド」を参照してください。
- タスクの実行アカウント名が指定されていない可能性があります。タスク「ノード情報の取込み」で，正しい実行アカウント（Administrators 権限を持つアカウント）が設定されているかを確認してください。

（3） Network Node Manager 上にノードは存在しているが，Asset Information Manager に情報が取り込まれない

- ノードのケーパビリティプロパティ「isNode」の値が「真」であるかを確認してください。なお，シンボルの種類によって，「isNode」の値が「偽」の場合がありますので，詳細については，Network Node Manager のオンラインマニュアル「登録ファイルガイド」を参照してください。
- ノードのインタフェースで，「SNMP ifPhysAddr」フィールドの値を確認してください。NULL の場合，Asset Information Manager から情報を引き当てられないため登録されません。

11.10.3 JP1/IM との連携時のトラブル

JP1/IM との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

（1） JP1/IM - Manager 側にイベントが登録されたが，Asset Information Manager へ障害情報が取り込まれない

JP1/IM - Manager 側の自動アクション機能の設定が誤っている可能性があります。正しく設定してください。設定方法については，「6.3.1　JP1/IM - Manager での自動アクションの設定」を参照してください。

（2） JP1/IM から取得した障害情報に対して対策完了の操作をしたが，JP1/IM 側の情報が更新されない

- 対処完了の JP1 イベントが発行されていない可能性があります。障害の対処完了を通知する自動アクションの設定で，「イベント ID」に「00005581」が設定されていることを確認してください。
- サーバを別にしている場合，JP1/Base から JP1/IM へイベントが転送されていない可能性があります。イベントを転送するように設定してください。設定方法については，マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。
- JP1/IM - Manager での自動アクションの設定が誤っている可能性があります。正しく設定してください。設定方法については，「6.3.1　JP1/IM - Manager での自動アクションの設定」を参照してください。
- JP1/Base が資産管理サーバにインストールされていないか，またはインストールに失敗している可能性があります。正しくインストールされているかを確認してください。

（3） JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面から Asset Information Manager の画面が表示されない

07-50 より前のバージョンの JP1/Integrated Manager - Central Console がインストールされている可能性があります。07-50 より前のバージョンの JP1/Integrated Manager - Central Console と連携する場合は，Asset Information Manager の画面を呼び出すための定義ファイルを，JP1/Integrated Manager - Central Console にコピーする必要があ

ります。コピーする定義ファイルとコピー先フォルダについては，「6.3.3　定義ファイルのコピー」を参照してください。

11.10.4　JP1/IM - IDM との連携時のトラブル

JP1/IM - IDM との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

（1）JP1/IM - IDM の［インシデントの詳細］画面から Asset Information Manager の画面が表示されない

- 接続する Asset Information Manager のホストの設定に誤りがある可能性があります。Asset Information Manager のホストを設定する詳細については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Incident Master」を参照してください。
- Asset Information Manager が起動していない（サービス「World Wide Web Publishing Service」が停止している）可能性があります。サービス「World Wide Web Publishing Service」を開始して，Asset Information Manager にログインできることを確認してください。

11.10.5　JP1/IM - CM との連携時のトラブル

JP1/IM - CM との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

（1）JP1/IM - CM のコマンドを使用して Asset Information Manager の情報取得を実行しても，情報が取得できない

- Asset Information Manager の JP1/IM - Central Information Master 連携がインストールされていない可能性があります。JP1/Base がインストールされていることを確認して，JP1/IM - Central Information Master 連携を再インストールしてください。
- アダプタコマンド設定ファイルが JP1/Base に設定されていない可能性があります。設定ファイルを JP1/Base にコピーしてください。

（2）JP1/IM - CM のコマンドを使用して Asset Information Manager の情報取得を実行すると，エラーが報告される

アダプタコマンドの接続先サーバに Asset Information Manager がインストールされていない，または Asset Information Manager のバージョンが 07-50 以降でない可能性があります。

アダプタコマンドの接続先の資産管理サーバは，デフォルトでは自ホストになるため，別ホストの資産管理サーバに接続する場合は，Administrators 権限を持つユーザで JP1/IM - Central Information Master 連携のインストールフォルダ ¥bin¥jamISetup コマンドを実行して，該当するホスト名を設定してください。

（3） JP1/IM - CM から Asset Information Manager の資産情報を表示できない

接続する資産管理サーバのホスト名が誤っているか，または Asset Information Manager のバージョンが 07-50 以降でない可能性があります。

ホスト名の設定方法については，マニュアル「JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス」を参照してください。

11.10.6 JP1/IM - Service Support との連携時のトラブル

JP1/IM - Service Support との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

（1） JP1/IM - Service Support の［メイン］画面または［案件参照］画面から Asset Information Manager の画面が表示されない

- 接続する Asset Information Manager のホストの設定に誤りがある可能性があります。Asset Information Manager のホストを設定する詳細については，マニュアル「JP1/IM - Service Support システム構築・運用ガイド」を参照してください。
- Asset Information Manager が起動していない（サービス「World Wide Web Publishing Service」が停止している）可能性があります。サービス「World Wide Web Publishing Service」を開始して，Asset Information Manager にログインできることを確認してください。

11.10.7 JP1/Lan Licenser との連携時のトラブル

JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報取り込み時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「データソース名および指定された既定のドライバが見つかりません。」といったメッセージがログに出力される

- ［サーバセットアップ］ダイアログでの設定が実行されていない可能性があります。［サーバセットアップ］ダイアログで設定を実行してください。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/Lan Licenser 連携」の「JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名」が正しく設定されていない可能性があります。
  データベース接続の設定を確認してください。また，「JP1/Lan Licenser 連携」の「JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名」に，データベース接続の設定で指定したデータソース名を指定してください。

(2)「SQL Server が存在しないか，アクセスが拒否されました。」といったメッセージがログに出力される

- データベース接続の設定で作成したデータソースが正しく作成されていない可能性があります。
  データソースが正しく設定されているか確認してください。また，テスト機能でデータベースの接続を確認してください。
- DBMS が起動されていない可能性があります。DBMS を起動してください。

(3)「ユーザー xxxx はログインできませんでした。」といったメッセージがログに出力される

「xxxx」は，ユーザ名です。

- ［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/Lan Licenser 連携」の「JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名」とパスワードが正しく設定されていない可能性があります。
  ［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/Lan Licenser 連携」の「JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名」とパスワードを正しく設定してください。

(4)「ステートメントを準備できませんでした。」といったメッセージがログに出力される

接続しているデータベースが JP1/Lan Licenser のデータベースではない可能性があります。

データベース接続の設定を確認してください。また，［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/Lan Licenser 連携」の「JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名」を正しく設定してください。

11.11 WSUS との連携時のトラブルの主な要因と対処

WSUS との連携時に想定されるトラブルと，その主な要因および対処を次に示します。

(1)「WSUS コネクタの URL が設定されていません。連携機能は無効です。」といったメッセージが出力される

メッセージは，業務メニュー「WSUS 更新プログラム管理」を選択した際，出力されます。

- ［サーバセットアップ］ダイアログの「WSUS コネクタの URL」が正しく設定されていない可能性があります。
  ［サーバセットアップ］ダイアログの「WSUS コネクタの URL」を正しく設定してください。

(2)「WSUS 連携がインストールされていないか，WSUS コネクタの URL 設定が誤っています。」といったメッセージが出力される

メッセージは，業務メニュー「WSUS 更新プログラム管理」を選択した際，出力されます。

- WSUS サーバのマシンに WSUS 連携コンポーネントがインストールされていない可能性があります。
  WSUS サーバのマシンに WSUS 連携コンポーネントがインストールされていることを確認してください。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「WSUS コネクタの URL」が正しく設定されていない可能性があります。
  WSUS 連携コンポーネントのインストール時に作成した Web サイトと仮想ディレクトリ名を確認してください。

(3)「WSUS コネクタとの通信に失敗しました。」といったメッセージが出力される

メッセージは，業務メニュー「WSUS 更新プログラム管理」を選択した際，出力されます。

- WSUS サーバのサービス「World Wide Web Publishing Service」が停止しているかまたはエラーの可能性があります。
  サービス「World Wide Web Publishing Service」を開始して，WSUS 管理コンソールが表示されることを確認してください。
- Asset Information Manager の通信プログラムがエラーの可能性があります。
  Microsoft Internet Information Services を再起動して，再度通信してください。

(4)「WSUS コネクタでエラーが発生しました。」といったメッセージが出力される

メッセージは，業務メニュー「WSUS 更新プログラム管理」を選択した際，出力されます。

- WSUS 連携コンポーネントがインストールされているマシンに，WSUS がインストールされていない可能性があります。
  WSUS がインストールされていることを確認してください。
- 送信 XML に誤りがある可能性があります。
  ログに出力される WSUS コネクタのエラー内容を確認してください。

(5) タスク「WSUS 更新プログラム通知」を実行しても，更新プログラムの通知メールが送付されない

- WSUS サーバのサービス「World Wide Web Publishing Service」が停止しているかまたはエラーの可能性があります。
  サービス「World Wide Web Publishing Service」を開始して，WSUS 管理コンソールが表示されることを確認してください。
- WSUS サーバのマシンに WSUS 連携コンポーネントがインストールされていない可能性があります。
  WSUS サーバのマシンに WSUS 連携コンポーネントがインストールされていることを確認してください。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「WSUS コネクタの URL」，「メールによる通知」または「メールの送信先アドレス」が正しく設定されていない可能性があります。
  設定した値を確認してください。
- WSUS サーバに更新プログラムが 1 件も到着していない可能性があります。
  WSUS 管理コンソールで，WSUS サーバに最新の更新プログラムが到着しているかどうかを確認してください。

11.12 トラブルの回復

この節では，資産管理システムで発生したトラブルの回復方法について説明します。

11.12.1 Asset Information Manager のトラブル発生時の回復方法

Administrators 権限を持つユーザで ASTTRBL.BAT を実行し，トラブル情報を取得してログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあとに，資産管理サーバが閉塞状態のとき，Microsoft Internet Information Services を再起動します。

11.12.2 資産管理サーバのトラブル発生時の回復方法

Microsoft Internet Information Services にトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(1) WWW サーバにトラブルが発生した場合

Administrators 権限を持つユーザで ASTTRBL.BAT を実行し，トラブル情報を取得してログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあとに，Microsoft Internet Information Services を再起動します。再度トラブルが発生する場合は，データベースが破壊されている可能性があるため，データベースのバックアップデータをリストアして，Microsoft Internet Information Services を再起動します。

(2) WWW サーバが応答しなくなった場合

Administrators 権限を持つユーザで ASTTRBL.BAT を実行し，トラブル情報を取得します。Microsoft Internet Information Services を停止後，メッセージを確認して異常がないか確認します。

トラブルを取り除いたら，Microsoft Internet Information Services を再起動します。再度，応答しない状態になる場合は，データベースが破壊されている可能性があるため，データベースのバックアップデータをリストアして，Microsoft Internet Information Services を再起動します。

11.12.3 DBMS のトラブル発生時の回復方法

DBMS にトラブルが発生した場合の回復方法は次のとおりです。

(1) DBMS にトラブルが発生した場合

Administrators 権限を持つユーザで ASTTRBL.BAT を実行し，トラブル情報を取得してログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除いたあとに，DBMS を再起

動します。

起動された場合は，データベースが破壊されていないかを確認し，必要に応じてバックアップデータをリストアしてデータベースを回復してください。

起動されない場合は，DBMS の環境を構築し直してください。

(2) DBMS が破壊された場合

Microsoft Internet Information Services を停止し，DBMS の環境を構築し直してください。DBMS を再起動し，バックアップデータをリストアしてデータベースを回復したあと，Microsoft Internet Information Services を再起動します。

11.12.4 WWW ブラウザのトラブル発生時の回復方法

(1) WWW ブラウザが異常終了した場合

WWW ブラウザを再起動して，再度ログインして直前の業務処理内容を確認し，完了していない場合は再度業務を実行します。

なお，再度，WWW ブラウザからの応答がない場合は，WWW ブラウザの画面のハードコピーを採取します。同時に直前の操作内容および入力データの説明を添付して，システム管理者に調査依頼します。

(2) WWW ブラウザ表示不正の場合

いったん WWW ブラウザからログアウトし，再度ログインしてトラブルが発生した業務を実行します。再度同じ現象となる場合は，システム管理者に調査依頼します。

11.12.5 コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法

Administrators 権限を持つユーザで ASTTRBL.BAT を実行し，トラブル情報を取得してログの内容に異常はないか確認します。トラブルを取り除きます。

11.13 バックアップおよびリストア

トラブルが発生し，環境を再構築する場合などに備えて，定期的に資産管理データベース，アップロードしたファイル，およびレジストリのバックアップを取得することをお勧めします。

なお，バックアップの取得方法には，次の 2 種類があります。

- CSV 形式で取得する
- DBMS 独自の形式で取得する

11.13.1 CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア

ここでは，資産管理データベースのデータについて，CSV 形式でバックアップを取得したり，CSV 形式のデータをリストアしたりする方法を説明します。

CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法には，次の 2 種類があります。

- ［データベースマネージャ］ダイアログから取得する
- jamdbexport.bat をコマンドラインから実行して取得する

Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止したあとで実行してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

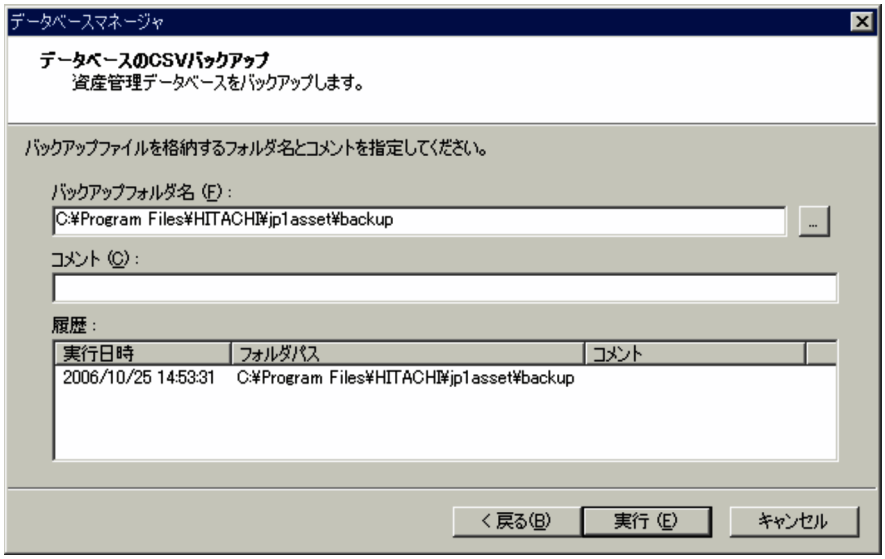
(1) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ

［データベースマネージャ］ダイアログから，資産管理データベースのバックアップを取得する手順を次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「データベースマネージャ」アイコンをクリックする。**
   ［データベースマネージャ］ダイアログが表示されます。

3. **「データベースの CSV バックアップ」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
次の図に示すデータベースのバックアップを取得するダイアログが表示されます。
「履歴」には，バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 11-2　データベースのバックアップを取得するダイアログ



4. **バックアップフォルダを指定する。**
「バックアップフォルダ名」に，バックアップ用フォルダを指定します。バックアップ用フォルダに指定するドライブには，十分な空き容量を確保してください。［...］ボタンをクリックすると，フォルダを参照するダイアログからフォルダを指定できます。1 ～ 223 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」，「|」，「*」，「<」，「>」，「?」，「&」，「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥backup が指定されています。
「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると，「バックアップフォルダ名」に，クリックしたバックアップ履歴のフォルダパスを指定できます。

5. **必要に応じてコメントを記載する。**
バックアップ用フォルダに付加情報がある場合は，「コメント」に記載します。64 バイト以内の文字を指定してください。

6. **［実行］ボタンをクリックする。**
資産管理データベースのバックアップが取得されます。データのバックアップを実行すると，バックアップ用フォルダに資産管理データベースの内容が格納されます。

注意事項

取得した CSV ファイルのファイル名および内容は変更しないでください。資産管理データベースをリストアできなくなります。

(2) コマンドでの資産管理データベースのバックアップ

［データベースマネージャ］ダイアログからのバックアップと同等のバックアップを，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行する jamdbexport.bat の機能，形式，オプションおよびコマンド実行時の注意事項について説明します。

jamdbexport.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe

(a) 機能

資産管理データベースのバックアップを取得します。資産管理データベースのデータをすべて CSV ファイルで出力します。jamdbexport.bat を実行すると，バックアップ用フォルダに資産管理データベースの内容が格納されます。

(b) 形式

```
jamdbexport.bat ［バックアップ用フォルダのパス］ ［-rp］
```

(c) オプション

バックアップ用フォルダのパス

バックアップ用フォルダをフルパスで指定します。バックアップ用フォルダに指定するドライブには，十分な空き容量を確保してください。パスを指定する際は，次のことに注意してください。

- フォルダ名にスペースを含めないでください。
- フォルダ名を "（ダブルクォーテーション）で囲まないでください。
- 既存のフォルダ名を指定しないでください。

パスを省略した場合，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥backup が設定されます。

-rp

このオプションを指定すると，バックアップの実行前にキー応答を待たないで実行を開始します。
このオプションを指定しないとキー応答待ちになります。このとき，実行を中止したい場合は，［Ctrl］+［C］を押してください。

(d) コマンド実行時の注意事項

- オプション「-rp」を指定した場合，処理が終了するとコマンドプロンプトが閉じてしまうため，エラーが発生したかどうかを確認できません。
- jamdbexport.bat を実行して取得した CSV ファイルのファイル名および内容は変更しないでください。資産管理データベースをリストアできなくなります。

(3) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのリストア

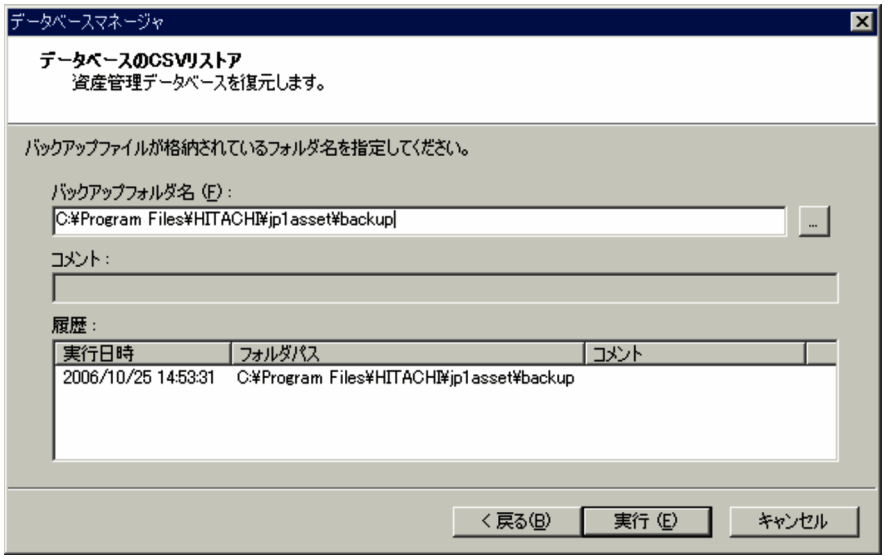
リストアする前に，資産管理データベースが作成されていることを確認してください。

資産管理データベースが作成されていない場合は，［データベースマネージャ］ダイアログで資産管理データベースを新規に作成したあとで，リストアを実行してください。

［データベースマネージャ］ダイアログから，バックアップ済みの資産管理データベースのデータをリストアする手順を次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「データベースマネージャ」アイコンをクリックする。**
   ［データベースマネージャ］ダイアログが表示されます。
3. **「データベースの CSV リストア」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
   次の図に示すデータベースのリストアを実行するダイアログが表示されます。「履歴」には，バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 11-3　データベースのリストアを実行するダイアログ



4. **リストアを実行したいバックアップフォルダを指定する。**
   「バックアップフォルダ名」に，バックアップ用フォルダを指定します。［...］ボタンをクリックすると，フォルダを参照するダイアログからフォルダを指定できます。1 ～ 223 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」，「|」，「*」，「<」，「>」，「?」，「&」，「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥backup が指定されています。
   「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると，「バックアップフォルダ名」に，クリックしたバックアップ履歴のフォルダパスを指定できます。

   注意事項

   バックアップを取得した際のファイル名およびファイルの内容を変更しないでく

ださい。

5. **［実行］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースのリストアが実行されます。

11.13.2 資産管理データベースのバックアップとリストア（Microsoft SQL Server または ORACLE の場合）

資産管理データベースが Microsoft SQL Server または ORACLE の場合，資産管理データベースのバックアップおよびリストアを実行する方法については，Microsoft SQL Server，または ORACLE のマニュアルを参照してください。

資産管理データベースのバックアップおよびリストアは，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してから実行してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

注意事項

リストアするバックアップファイルは，バックアップを取得したときの Asset Information Manager のバージョンおよびパスを指定してください。

11.13.3 資産管理データベースのバックアップとリストア（Embedded RDB の場合）

ここでは，資産管理データベースが Embedded RDB の場合に，データのバックアップを取得したり，データをリストアしたりする方法について説明します。

資産管理データベースが Embedded RDB の場合の，バックアップを取得する方法には，次の 2 種類があります。

- ［データベースマネージャ］ダイアログから取得する
- jamemb_backup.bat をコマンドラインから実行して取得する

Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止したあとで実行してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場

合）

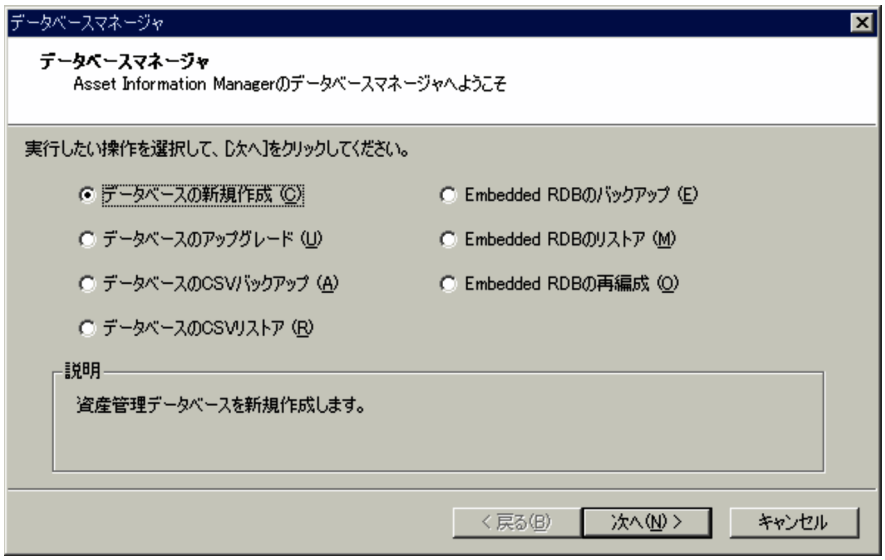
また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

さらに，Administrators 権限を持つユーザでログインしてから実行してください。

Embedded RDB を使用している場合に，［データベースマネージャ］ダイアログで資産管理データベースのバックアップおよびリストアを実行する手順を次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「データベースマネージャ」アイコンをクリックする。**
   次の図に示す［データベースマネージャ］ダイアログが表示されます。

図 11-4 ［データベースマネージャ］ダイアログ（Embedded RDB の場合）



3. **実行したい作業を選択して［次へ］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースのバックアップおよびリストアの各作業手順については，(1) および (3) でそれぞれ説明します。

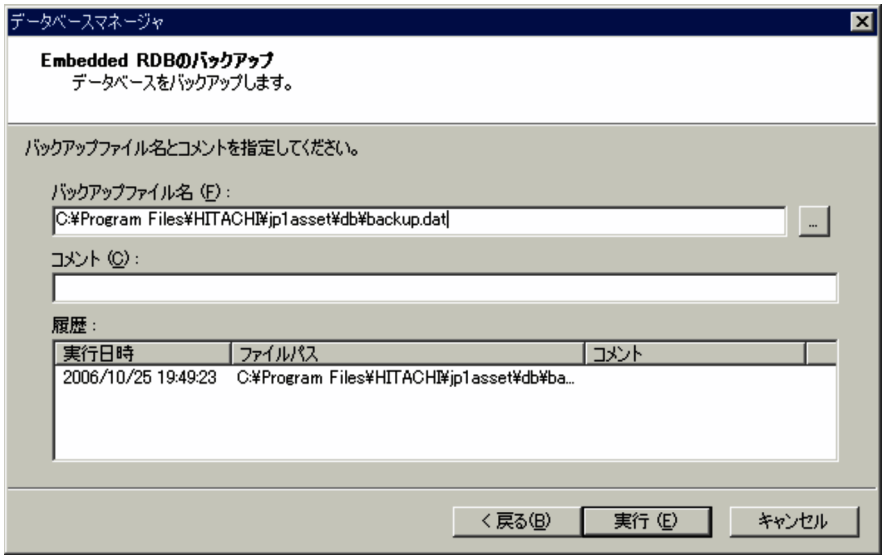
コマンドで資産管理データベースのバックアップを実行する方法については，(2) で説明します。

(1) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ

Embedded RDB を使用している場合に，資産管理データベースのバックアップファイルを取得する手順を次に示します。

1. **［データベースマネージャ］ダイアログで「Embedded RDB のバックアップ」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
   次の図に示す Embedded RDB のバックアップを取得するダイアログが表示されます。「履歴」には，バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 11-5　Embedded RDB のバックアップを取得するダイアログ



2. **バックアップファイル名を指定する。**
   「バックアップファイル名」に，バックアップ用のファイル名を指定します。［...］ボタンをクリックすると，ファイルを参照するダイアログからファイル名を指定できます。1 ～ 255 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」，「|」，「*」，「<」，「>」，「?」，「&」，「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥db¥backup.dat が指定されています。
   「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると，「バックアップファイル名」に，クリックしたバックアップ履歴のファイルパスを指定できます。

   注意事項

   データのバックアップを実行すると，バックアップ用ファイルに資産管理データベースの内容が格納されます。そのため，十分な空き容量のあるドライブのフォルダにファイルを指定してください。

3. **必要に応じてコメントを記載する。**
   バックアップ用ファイルに付加情報がある場合は，「コメント」に記載します。64 バイト以内の文字を指定してください。

4. **［実行］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースのバックアップが取得されます。バックアップが完了すると，バックアップが完了したことを示すメッセージが表示されて，データベースマネージャが終了します。

バックアップに失敗した場合は，バックアップが失敗したことを示すメッセージが表示されます。［保守情報の表示］ボタンをクリックして，実行結果を参照してください。

(2) コマンドでの資産管理データベースのバックアップ

資産管理データベースのバックアップファイルを取得する jamemb_backup.bat の機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。なお，jamemb_backup.bat は，Embedded RDB だけで有効です。

jamemb_backup.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe

(a) 機能

資産管理データベースをバックアップします。

(b) 形式

```
jamemb_backup.bat -b バックアップファイルのパス -o 結果ファイルのパス [-y]
```

(c) オプション

-b バックアップファイルのパス

バックアップを取得するファイルをフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

-o 結果ファイルのパス

実行結果を出力するファイルをフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

-y

このオプションを指定すると，バックアップの実行前にキー応答を待たないで実行を開始します。
このオプションを指定しないとキー応答待ちになります。このとき，実行を中止したい場合は，［Ctrl］+［C］を押してください。

(d) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。結果ファイルを参照してバックアップの詳細を確認できます。
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

(e) コマンド実行時の注意事項

Administrators 権限を持つユーザで jamemb_backup.bat を実行してください。

(f) 実行例

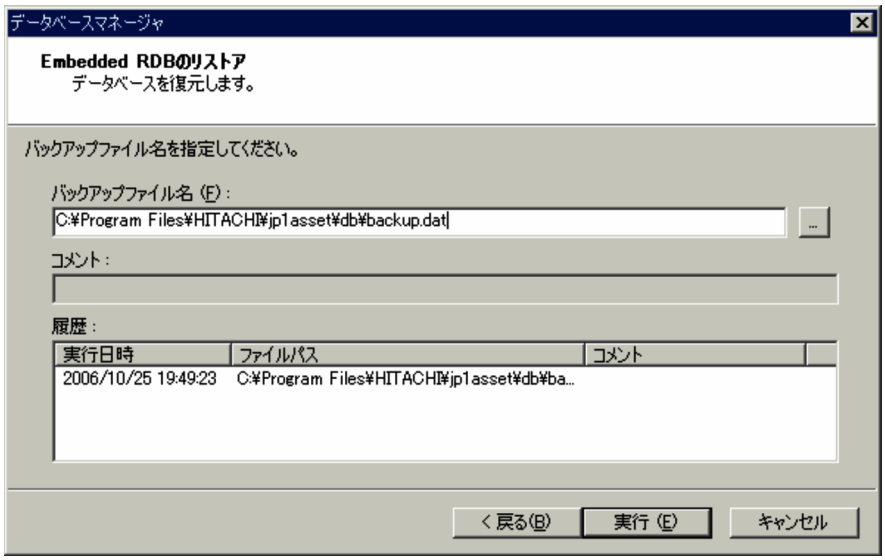
```
jamemb_backup.bat -b C:¥temp¥backup¥Backup.dat -o
C:¥temp¥backup¥kekka.log -y
```

(3) [データベースマネージャ] ダイアログからの資産管理データベースのリストア

Embedded RDB を使用している場合に，資産管理データベースのバックアップファイルをリストアする手順を次に示します。

1. **[データベースマネージャ] ダイアログで「Embedded RDB のリストア」を選択して，[次へ] ボタンをクリックする。**
   次の図に示す Embedded RDB のバックアップファイルをリストアするダイアログが表示されます。「履歴」には，バックアップの履歴が 10 件まで表示されます。

図 11-6　Embedded RDB のバックアップファイルをリストアするダイアログ



2. **バックアップファイル名を指定する。**
   「バックアップファイル名」に，リストアするバックアップ用のファイル名を指定します。[...] ボタンをクリックすると，ファイルを参照するダイアログからファイル名を指定できます。1 ～ 255 バイトの文字を指定してください。ただし，「"」，「|」，「*」，「<」，「>」，「?」，「&」，「^」および「/」は指定できません。デフォルトでは，バックアップを取得した際に指定した「バックアップファイル名」のファイル名が指定されています。バックアップ後にバックアップファイルの格納先を変更した場合は，[...] ボタンからファイル名を指定し直してください。
   「履歴」に表示されているバックアップの履歴をクリックすると，「バックアップファ

イル名」に，クリックしたバックアップ履歴のファイルパスを指定できます。

3. **［実行］ボタンをクリックする。**
資産管理データベースのバックアップファイルがリストアされます。リストアが完了すると，リストアが完了したことを示すメッセージが表示されて，データベースマネージャが終了します。
リストアに失敗した場合は，リストアが失敗したことを示すメッセージが表示されます。［保守情報の表示］ボタンをクリックして，実行結果を参照してください。

注意事項

バックアップファイルをリストアするには，バックアップを取得したときと同じパスに Asset Information Manager がインストールされていないとリストアできません。インストールフォルダがバックアップを取得したときと同じパスになっていることを確認してリストアしてください。

11.13.4 アップロードしたファイルのバックアップおよびリストア

アップロードしたファイルのバックアップおよびリストアの手順を説明します。

(1) アップロードしたファイルのバックアップ

次に示すファイルをコピーしてください。

● 資産管理サーバの仮想ディレクトリ ¥data 以下のファイル

● 資産管理サーバの仮想ディレクトリ ¥csv 以下のファイル

資産管理サーバの仮想ディレクトリは，デフォルトでは Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

(2) アップロードしたファイルのリストア

コピーしたファイルを元のフォルダに戻してください。

注意事項

リストアするバックアップファイルは，同じバージョンの Asset Information Manager から取得したファイルを指定してください。また，バックアップを取得したときと同じインストールフォルダのパスにリストアしてください。

11.13.5 レジストリのバックアップおよびリストア

レジストリのバックアップおよびリストアの手順について，それぞれ説明します。

(1) レジストリのバックアップ

レジストリをバックアップする手順について，次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして，［ファイル名を指定して実行］を選択する。**
   ［ファイル名を指定して実行］ダイアログが表示されます。
2. **入力領域に「regedit」を入力して，［OK］ボタンをクリックする。**
   レジストリエディタが起動します。
3. **ツリービューから「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1/Asset Information Manager」を選択する。**
4. **メニューから「レジストリ」－「レジストリ ファイルの書き出し」を選択する。**
   ［レジストリ ファイルの書き出し］ダイアログが表示されます。
5. **ファイルの格納先とファイル名を指定して［保存］ボタンをクリックする。**
   指定した格納先に，バックアップファイルが作成されます。

（2） レジストリのリストア

レジストリをリストアする手順について，次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして，［ファイル名を指定して実行］を選択する。**
   ［ファイル名を指定して実行］ダイアログが表示されます。
2. **入力領域に「regedit」を入力して，［OK］ボタンをクリックする。**
   レジストリエディタが起動します。
3. **ツリービューから「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1/Asset Information Manager」を選択する。**
4. **メニューから「レジストリ」－「レジストリ ファイルの取り込み」を選択する。**
   ［レジストリ ファイルの取り込み］ダイアログが表示されます。
5. **取得したバックアップファイルを指定して，［開く］ボタンをクリックする。**
   指定したバックアップファイルがリストアされます。

注意事項

リストアするバックアップファイルは，バックアップを取得したときの Asset Information Manager のバージョンおよびパスを指定してください。

11.14 Embedded RDB を使用している場合の資産管理データベースの再編成

Embedded RDB を使用している場合，資産管理データベースの再編成を定期的に実行することをお勧めします。これは，Embedded RDB では，レコードが削除された領域は再利用されないで残り，データベース領域に再利用されない領域が増えると，データベース領域の使用率を圧迫することがあるためです。

また，データベース領域の使用率が 80% 以上になった場合，イベントログに次の ID のメッセージが表示されます。

- KFPA12300-I
- KFPH00211-I

この場合，資産管理データベースを再編成することで，データベース領域の使用率が改善されることがあります。

メッセージの詳細については，マニュアル「JP1 組み込みデータベース メッセージ」を参照してください。

資産管理データベースの再編成を実行する方法には，次の 2 種類があります。

- ［データベースマネージャ］ダイアログから実行する
- jamemb_reorganization.bat をコマンドラインから実行する

なお，資産管理データベースを再編成してもデータベースの容量不足を示すメッセージが表示される場合は，資産管理データベースのサイズを拡張する必要があります。資産管理データベースのサイズを変更する手順については，「付録 D.5　Embedded RDB のサイズの変更」を参照してください。

11.14.1 ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースの再編成

［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースの再編成を実行する前に，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

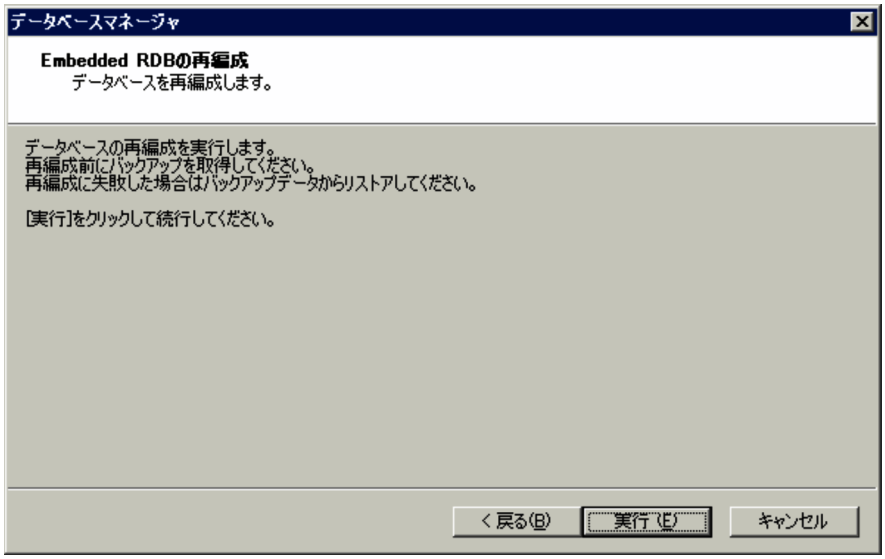
また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

Embedded RDB を使用している場合に，［データベースマネージャ］ダイアログで資産

管理データベースの再編成を実行する手順を次に示します。

1. **［データベースマネージャ］ダイアログで「Embedded RDB の再編成」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
   次の図に示す Embedded RDB の再編成を実行するダイアログが表示されます。

図 11-7　Embedded RDB の再編成を実行するダイアログ



2. **［実行］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースが再編成されます。再編成が完了すると，再編成が完了したことを示すメッセージが表示されて，データベースマネージャが終了します。
   再編成に失敗した場合は，再編成が失敗したことを示すメッセージが表示されます。［保守情報の表示］ボタンをクリックして，実行結果を参照してください。

11.14.2　コマンドでの資産管理データベースの再編成

リストアした資産管理データベースの再編成を実行する jamemb_reorganization.bat の機能，形式，オプション，戻り値，コマンド実行時の注意事項および実行例について説明します。

jamemb_reorganization.bat は次のフォルダに格納されています。

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe

再編成に失敗した場合は，資産管理データベースが使用できなくなります。バックアップしたデータをリストアして資産管理データベースを復旧してください。

(a) 機能

資産管理データベースを再編成します。

(b) 形式

```
jamemb_reorganization.bat ポート番号 ユーザID パスワード -o 結果ファイルのパス [-y]
```

(c) オプション

ポート番号

ポート番号には，Asset Information Manager のインストール時に指定したデータベース接続用のポート番号を指定してください。設定したポート番号は，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥aimdb¥conf¥emb に格納されている HiRDB.ini ファイルの PDNAMEPORT で確認できます。このオプションは必ず指定してください。

ユーザ ID，パスワード

［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」の「ログイン ID」で指定した値を指定してください。このオプションは必ず指定してください。

-o 結果ファイルのパス

実行結果を出力するファイルをフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

-y

このオプションを指定すると，再編成の実行前にキー応答を待たないで実行を開始します。

このオプションを指定しないとキー応答待ちになります。このとき，実行を中止したい場合は，［Ctrl］+［C］を押してください。

(d) 戻り値

次の戻り値を返します。

戻り値	内容
0	正常終了。結果ファイルを参照して再編成の詳細を確認できます。
11	オプションの書式に誤りがあります。
101 以上	そのほかのエラーで終了しました。

(e) コマンド実行時の注意事項

- jamemb_reorganization.bat を実行する前に，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。
  1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
  2. Asset Information Synchronous Service
  3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

  また，jamemb_reorganization.bat を実行したあとに Asset Information Manager を

使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

- Administrators 権限を持つユーザで jamemb_reorganization.bat を実行してください。

(f) 実行例

```
jamemb_reorganization.bat 30010 admin admin -o
C:¥temp¥backup¥kekka.log -y
```

12 連携製品から取得できる情報と発行する JP1 イベントの詳細

この章では，資産管理データベースに取り込んで業務に利用する JP1/NETM/DM のインベントリ情報と操作ログ，Network Node Manager のノード情報および JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報の詳細について示します。
また，JP1/IM および JP1/IM - CM と連携するために Asset Information Manager で発行する JP1 イベントの詳細についても示します。

12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報
12.2　JP1/NETM/DM から取得できる操作ログ
12.3　Network Node Manager から取得できるノード情報
12.4　JP1/Lan Licenser から取得できるソフトウェア稼働情報
12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細

12.1　JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基にして，Asset Information Manager の対応する各クラスに情報が作成・更新されます。

また，JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携して，JP1/NETM/DM Client がインストールされていない機器からも情報を収集する場合は，取得できる情報が限定されます。JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できる情報については，「12.1.1(1)　JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できる資産情報」および「12.1.2(1)　JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できるハードウェア資産情報」を参照してください。

作成・更新される情報と，引き当てられるインベントリ情報との対応を次の表に示します。

表 12-1　作成・更新される情報と，引き当てられるインベントリ情報との対応

Asset Information Manager のクラス	JP1/NETM/DM のインベントリ情報
資産情報	• システム構成情報
ハードウェア資産情報	• システム情報
ネットワーク情報	• ユーザインベントリ情報
インストールソフトウェア情報※1	• インストールパッケージ情報
インストールソフトウェアリスト※1	• ソフトウェアインベントリ情報
コンポーネント情報※1	• Microsoft Office 情報
パッチ情報※2	• システム情報 • インストールパッケージ情報
パッチリスト	インストールパッケージ情報
ウィルス定義情報	ウィルス対策製品情報
部署情報※3	ユーザインベントリ情報
設置場所情報※3	ユーザインベントリ情報

注※ 1

セットアップでハードウェアに関する情報だけを取得する設定にした場合は，作成・更新されません。

JP1/NETM/DM から取り込む情報の種類を選択する方法については，「5.3.7　JP1/NETM/DM 連携の設定」を参照してください。

注※ 2

JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携して，未適用パッチ情報を取得する設定にしている場合は，インストールが必要なパッチの情報も取得できます。未適用パッチ情報を取得する設定の詳細については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

注※ 3

インベントリ情報の引き当てで，ユーザインベントリ情報の部署および設置場所の情報を登録する設定にした場合に，作成・更新されます。

注意事項

- システム情報およびシステム構成情報を引き当てる際に，引き当て元の値が NULL の場合，Asset Information Manager の情報は更新されません。
- Asset Information Manager のバージョン 07-11 までは，機器状態が「運用」，「在庫」の場合に情報が更新されていましたが，バージョン 07-50 以降は機器状態が「運用」，「在庫」，「仮廃棄」および「抹消」の場合に，業務メニュー「インベントリ情報の引き当て」で設定した引き当て項目に従って情報が更新されます。
- 管理対象のクライアントに JP1/NETM/DM Client 08-11 がインストールされている場合，日立プログラムプロダクトの情報を含んだインベントリ情報を取り込むと，一つの日立プログラムプロダクトに対して二つのインストールソフトウェア情報が取得されることがあります。このとき，ソフトウェア名の自動登録を設定していると，ソフトウェア名が重複して登録される可能性があります。ライセンスの集計時に，一つの日立プログラムプロダクトが二つの異なるソフトウェアとして別々に集計されてしまうときは，ライセンスの集計結果を確認し，業務メニュー「ソフトウェア名称管理」で重複しているソフトウェア名を統合してください。

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を資産管理データベースに登録する方法については，「3.2.1　JP1/NETM/DM から取得する場合」を参照してください。

作成・更新される各クラスの情報の詳細について次に示します。

12.1.1　資産情報として取得できるインベントリ情報

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager の資産情報の詳細を次の表に示します。

インベントリ情報の引き当てでの設定の詳細については，「9.6　引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）」を参照してください。

表 12-2　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新される資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	新規作成時は自動採番されます。	×
資産種別	「ハードウェア」が設定されます。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産番号	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 自動採番 • ユーザインベントリ • ホスト名（ドメイン名を取得） • ホスト名（ドメイン名を取得しない） • 運用キー • IP アドレス • MAC アドレス • コンピュータ名 デフォルトは「自動採番」です。なお，「運用キー」とは，ホスト識別子またはノード識別キーのことです。	○
部署 ID	「部署」に設定された部署に対応する ID が設定されます。	○
部署	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • ユーザの所属部署を設定する • ユーザインベントリから取得 デフォルトは「設定しない」です。	○
ユーザ ID	「ユーザ名」に設定されたユーザ名に対応する ID が設定されます。	○
ユーザ名	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • ユーザ名（ユーザインベントリ情報） • ユーザ ID（ユーザインベントリ情報） • メールアドレス（ユーザインベントリ情報） • システム構成情報 • システム情報 デフォルトは「設定しない」です。	○
設置場所 ID	「設置場所」に設定された設置場所に対応する ID が設定されます。	○
設置場所	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • ユーザインベントリから取得 デフォルトは「設定しない」です。	○
機器状態	コード ID「AssetStatus」のコードの中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 デフォルトは「運用」です。	○
登録日	インベントリ情報の取得によって，新規に資産情報の作成された日時が設定されます。	×
DM 導入状態	「導入」が設定されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
DM ハードウェア更新日付	システム構成情報の「システム情報最終更新日時」から取得されます。	○
DM ソフトウェア更新日付	システム構成情報の「ソフトウェアインベントリ情報最終更新日時」から取得されます。	○
DM パッケージ更新日付	システム構成情報の「インストールパッケージ情報最終更新日時」から取得されます。	○
DM ユーザ更新日付	システム構成情報の「ユーザインベントリ情報最終更新日時」から取得されます。	○
DM 最終更新日付	システム構成情報の「最終更新日付」，および削除履歴情報の「最終更新日付」のうち，最新の日付が設定されます。	○
引き当てキー	システム構成情報の「ノード名」から取得されます。	○
稼働管理種別	コード ID「AssetWorkKind」のコードの中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 デフォルトは「稼働管理対象」です。	○
固有情報	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • システム構成情報 • システム情報 • コード（コード ID「AssetProperty1」～「AssetProperty6」） • ユーザインベントリから取得 • レジストリ情報から取得 • 固定値 デフォルトは「設定しない」です。	○

（凡例）

○：更新される

×：更新されない

注意事項

［サーバセットアップ］ダイアログで，「資産情報の引き当てキー」に「資産番号を使用する」を選択している場合，資産番号の更新はできません。

［サーバセットアップ］ダイアログで，「資産情報の引き当てキー」に「運用キーに従う」を選択して，インベントリ情報の引き当て画面で，資産番号に「自動採番」以外の項目を選択した場合，選択した引き当て項目に該当するインベントリ情報の値が変更になると，資産番号も変更されます。ただし，次の場合は変更されないので注意してください。

- 変更した値がすでに資産管理データベースに登録されている資産番号と重複する場合

  資産番号の引き当て項目に「ホスト名」，「IP アドレス」，「MAC アドレス」，「コンピュータ名」のどれかを選択している場合は，重複する可能性があるので注意してください。

- JP1/NETM/DM で最新の情報を収集していない場合

(1) JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できる資産情報

JP1/NETM/DM 未導入機器から取得した情報を基に作成・更新される Asset Information Manager の資産情報の詳細を次の表に示します。

表 12-3 JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できる資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	新規作成時は自動採番されます。	×
資産種別	「ハードウェア」が設定されます。	×
資産番号	自動採番されます。	×
機器状態	JP1/NETM/DM の未導入ホストテーブルの属性が「対象」の場合，「運用」が設定されます。「対象外」または「撤去」の場合，「抹消」が設定されます。	○※
登録日	インベントリ情報の取得によって，新規に資産情報の作成された日時が設定されます。	×
DM 導入状態	「未導入」が設定されます。	○
DM 最終更新日付	未導入機器情報の「最終更新日付」が設定されます。	○
稼働管理種別	「稼働管理対象外」が設定されます。	×

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

注※
「抹消」に設定されるのは，既存の資産情報が引き当てられた場合だけです。JP1/NETM/DM の未導入ホストテーブルの属性が「対象外」または「撤去」の場合，既存の機器と引き当てられなかったときは新規登録されません。

12.1.2 ハードウェア資産情報として取得できるインベントリ情報

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のハードウェア資産情報の詳細を次の表に示します。

表 12-4 JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新されるハードウェア資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
機器種別	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • システム情報の「OS」 • コード（コード ID「MachineKind」のシステム装置カテゴリのコード） • ユーザインベントリから取得 デフォルトでは，システム情報の「OS」が取得されて，OS の種別に従って次のどちらかが設定されます。 • PC • UNIX	○※
製造者	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • システム構成情報 • システム情報 • ユーザインベントリから取得 • 固定値 デフォルトでは，システム情報の「製造元」から取得されます。	○
製造番号	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • システム構成情報 • システム情報 • ユーザインベントリから取得 • 固定値 デフォルトでは，JP1/NETM/DM（06-71 以降）のシステム情報の「マシンシリアルナンバー」から取得されます。	○
名称	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • システム構成情報 • システム情報 • ユーザインベントリから取得 • 固定値 デフォルトでは，システム情報の「モデル」から取得されます。	○
CPU	システム情報の「CPU 種別」から取得されます。	○
CPU クロック数	システム情報の「CPU クロック数」から取得されます。	○
CPU 数	システム情報の「プロセッサ数」から取得されます。	○
メモリサイズ	システム情報の「実メモリ容量」から取得されます。	○
ディスク容量	システム情報の「全ディスク容量」から取得されます。	○
空ディスク容量	システム情報の「空きハードディスク容量」から取得されます。	○
モニタ解像度	システム情報の「ディスプレイ水平解像度」および「ディスプレイ垂直解像度」から取得されます。	○
IP アドレス	システム構成情報の「IP アドレス」から取得されます。	○

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
MAC アドレス	システム構成情報の「MAC アドレス」から取得されます。	○
ホスト名	システム構成情報の「ホスト名」から取得されます。	○
MBSA バージョン	システム構成情報の「MBSA」から取得されます。	○
OS 情報	システム情報の「OS ファミリー名」から取得されます。 OS ファミリー名が無い場合は「OS」から取得されます。	○
OS バージョン	機器種別が「PC」の場合，システム情報の「OS バージョン」から取得されます。 機器種別が「UNIX」の場合，システム情報の「UNIX の OS バージョン」から取得されます。	○
コンピュータ ID	システム情報の「コンピュータ ID」から取得されます。	○
固有情報	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • システム構成情報 • システム情報 • コード（コード ID「HardwareProperty1」～「HardwareProperty6」） • ユーザインベントリから取得 • レジストリ情報から取得 • 固定値 デフォルトは「設定しない」です。	○

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

注※　インベントリ情報の引き当てでの設定に従います。

（1） JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できるハードウェア資産情報

JP1/NETM/DM 未導入機器から取得した情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のハードウェア資産情報の詳細を次の表に示します。

表 12-5　JP1/NETM/DM 未導入機器から取得できるハードウェア資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
機器種別	「PC」が設定されます。	×
IP アドレス	システム構成情報の「IP アドレス」から取得されます。	○
MAC アドレス	システム構成情報の「MAC アドレス」から取得されます。	○
ホスト名	システム構成情報の「ホスト名」から取得されます。	○

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

12.1.3　ネットワーク情報として取得できるインベントリ情報

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のネットワーク情報の詳細を次の表に示します。

表 12-6　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新されるネットワーク情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
ネットワーク情報 ID	新規作成時は自動採番されます。	×
IP アドレス※1	JP1/NETM/DM（06-71 以降）のシステム情報，または JP1/NETM/DM（06-70 以前）のシステム構成情報の「IP アドレス」から取得されます。	○
サブネットマスク※2	システム情報の「サブネットマスク」から取得されます。	○
IP 種別	「IPv4」が設定されます。	○
MAC アドレス	システム情報の「MAC アドレス」から取得されます。	○
ノード名（ホスト名）	システム構成情報の「ホスト名」から取得されます。	○
DHCP サーバ名	該当する IP グループの DHCP サーバ名から取得されます。	○
デフォルトゲートウェイ※2	システム情報の「デフォルトルータアドレス」から取得されます。	○
コンピュータ名	システム情報の「コンピュータ名」から取得されます。	○
固有情報	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • システム構成情報 • システム情報 • コード（コード ID「NetworkProperty1」～「NetworkProperty2」） • ユーザインベントリから取得 • レジストリ情報から取得 • 固定値 デフォルトは「設定しない」です。	○

（凡例）

○：更新される

×：更新されない

注※ 1

インベントリ情報とネットワーク情報は，MAC アドレスで引き当てられます。JP1/NETM/DM から取得した MAC アドレスに対応する IP アドレスが，すでに登録されているネットワーク情報と異なる場合，JP1/NETM/DM から取得した値で，IP アドレスが更新されます。

注※ 2

JP1/NETM/DM から値を取得できなかった場合は，IP アドレスが所属する IP グループから値が取得されます。また，IP アドレスが所属する IP グループに DHCP サーバ名が設定されている場合，JP1/NETM/DM から DHCP サーバ名が取得されたときも，IP グループから取得した値が優先されます。

12.1.4 インストールソフトウェア情報として取得できるインベントリ情報

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成される Asset Information Manager のインストールソフトウェア情報の詳細を次の表に示します。

表 12-7 JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成されるインストールソフトウェア情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
インストール ID	インストールパッケージ情報，またはソフトウェアインベントリ情報に対応するインストール ID がインストールソフトウェアリストから取得されます。	×
プロダクト ID	Microsoft Office 情報の「プロダクト ID」から取得されます。 OS の場合は，システム情報の「OS シリアルナンバー」から取得されます。 プロダクト ID がないソフトウェアからは取得されません。	×
インストール日	次に示す中から，取得したインベントリ情報の種類に応じて設定されます。 • インストールパッケージ情報の「インストール日時」 • システム情報の「OS インストール日時」 • Microsoft Office 情報の「インストール日付」 ソフトウェアインベントリ情報の場合は，取得されません。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
固有情報	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 設定しない • インストールパッケージ情報 • ソフトウェアインベントリ情報 • コード（コード ID「InstalledInfoProperty1」～「InstalledInfoProperty2」） • ユーザインベントリから取得 • 固定値 デフォルトは「設定しない」です。	○

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

12.1.5　インストールソフトウェアリストとして取得できるインベントリ情報

該当するソフトウェア名およびソフトウェアのバージョンをインストールソフトウェアリストから検索し，該当する情報がない場合，インストールソフトウェアリストに追加されます。

インベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のインストールソフトウェアリストの詳細を次の表に示します。

表 12-8　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成されるインストールソフトウェアリストの詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
インストール ID	新規作成時は自動採番されます。	×
インストールソフトウェア名※1	次に示す中から，取得したインベントリ情報の種類に応じて設定されます。 • インストールパッケージ情報の「パッケージ名」 • ソフトウェアインベントリ情報の「ソフトウェア名」 • Microsoft Office 情報の「ソフトウェア名」	×
インストールソフトウェアバージョン※2	次に示す中から，取得したインベントリ情報の種類に応じて設定されます。 • インストールパッケージ情報の「パッケージバージョン」 • ソフトウェアインベントリ情報の「ソフトウェアバージョン」 • Microsoft Office 情報の「ソフトウェアバージョン」	×
ファイル名	ソフトウェアインベントリ情報の「対象ソフトウェアを構成するファイル名称」から取得されます。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
ファイルサイズ	ソフトウェアインベントリ情報の「対象ソフトウェアの作成日時」から取得されます。	×
ファイル日付	ソフトウェアインベントリ情報の「対象ソフトウェアのファイルサイズ」から取得されます。	×
パッケージ元属性	インストールパッケージ情報の「パッケージャタイプ」から取得されます。	△
パッケージ識別 ID	インストールパッケージ情報の「パッケージ識別 ID」から取得されます。	○
管理レベル	コード ID「InstalledInd」のコードの中から，インベントリ情報の種類に応じて次の項目が設定されます。 • インストールパッケージ情報，ソフトウェアインベントリ情報，Microsoft Office 情報，または OS 情報の場合，「管理対象」 • IE パッチ情報の場合，「集計対象外」	○
許可	コード ID「Permit」のコードの中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 デフォルトは「許可する」です。	○
種別	次に示す引き当て項目の中から，インベントリ情報の引き当てで選択した項目が設定されます。 • 取得した情報に従って設定する • コード（コード ID「InstalledKind」） デフォルトは「取得した情報に従って設定する」が設定されて，取得したインストールソフトウェア情報に従って次の項目の中から設定されます。 • 一般ソフト • Office • OS 情報	○

（凡例）

○：更新される

△：値が登録されていない場合だけ更新される

×：更新されない

注※ 1

OS の情報の場合，「インストールソフトウェア名」は，システム情報の「OS ファミリー名」から取得されます。「OS ファミリー名」に値がないときは「OS サブバージョン」から取得され，「OS サブバージョン」に値がないときは，「OS」から取得されます。

Microsoft Internet Explorer のパッチに関する情報の場合，「Microsoft Internet Explorer Patch」が設定されます。

注※ 2

OS の情報の場合，「インストールソフトウェアバージョン」は，システム情報の「OS バージョン」から取得されます。

Microsoft Internet Explorer のパッチに関する情報の場合，JP1/NETM/DM（06-71 以降）のシステム情報の「IE パッチ情報」から取得されます。

12.1.6　コンポーネント情報として取得できるインベントリ情報

JP1/NETM/DM の Microsoft Office 情報のコンポーネントを登録します。資産情報に該当するソフトウェアのコンポーネントが登録されていない場合は，コンポーネント情報に追加されます。JP1/NETM/DM から取得したコンポーネント情報にない情報は削除されます。

インベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のコンポーネント情報の詳細を次の表に示します。

表 12-9　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新されるコンポーネント情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
インストール ID	インストールパッケージ情報の「パッケージ名」および「パッケージバージョン」に対応するインストール ID がインストールソフトウェアリストから取得されます。	×
コンポーネント名	コンポーネント情報の「ソフトウェア表示名」から取得されます。	○
コンポーネントバージョン	コンポーネント情報の「表示バージョン」から取得されます。	○
親ソフトウェア識別 ID	Microsoft Office 情報の「ソフトウェア識別 ID」から取得されます。	×

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

12.1.7　パッチ情報として取得できるインベントリ情報

インベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のパッチ情報の詳細を次の表に示します。

表 12-10　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新されるパッチ情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
パッチ ID	システム情報の「IE パッチ情報」またはインストールパッケージ情報の「インストール名」に対応するパッチ ID が，パッチリストから取得されます。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
インストール日	インストールパッケージ情報の場合だけ，「インストール日付」から取得されます。	○
適用状態	システム情報から取得した場合は「適用」が設定されます。インストールパッケージ情報から取得した場合は，「パッケージ識別 ID」の先頭が「SUP」または「WUA-SUP」のとき「適用」，「BSA」のとき「未適用」が設定されます。なお，「BSD」は対象外です。	○

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

12.1.8　パッチリストとして取得できるインベントリ情報

インベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のパッチリストの詳細を次の表に示します。

表 12-11　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新されるパッチリストの詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
パッチ ID	新規採番されます。	×
パッチ名	「Microsoft Internet Explorer Patch」またはインストールパッケージ情報の「インストール名」が取得されます。	×
バージョン	システム情報の「IE パッチ情報」またはインストールパッケージ情報の「インストールバージョン」が取得されます。	×

（凡例）
×：更新されない

12.1.9　ウィルス定義情報として取得できるインベントリ情報

インベントリ情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のウィルス定義情報の詳細を次の表に示します。

表 12-12　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成・更新されるウィルス定義情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
ウィルス対策ソフトウェア名	ウィルス対策製品情報の「ソフトウェア名称（表示用）」が取得されます。	×
ウィルス対策ソフトウェアバージョン	ウィルス対策製品情報の「ソフトウェアバージョン」から取得されます。	×
エンジンバージョン	ウィルス対策製品情報の「エンジンバージョン」から取得されます。	○
常駐／非常駐	ウィルス対策製品情報の「ウィルス検出の常駐／非常駐設定」から取得されます。	○
インストール日付	ウィルス対策製品情報の「インストール日付」から取得されます。	○
ウィルス定義バージョン	ウィルス対策製品情報の「ウィルス定義バージョン」から取得されます。	×

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

12.1.10　部署情報として取得できるインベントリ情報

インベントリ情報に該当する部署が登録されていない場合に，部署情報に追加されます。部署情報に追加するかどうかは，インベントリ情報の引き当てで設定します。インベントリ情報の引き当てでの設定の詳細については，「9.6　引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）」を参照してください。

インベントリ情報を基に作成される Asset Information Manager の部署情報の詳細を次の表に示します。

表 12-13　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成される部署情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
部署 ID	自動採番されます。	×
上位部署 ID	上位部署がある場合は，上位部署の「部署 ID」が設定されます。	×
部署	上位からすべての階層関係を示した部署情報が設定されます。	×
部署名	ユーザインベントリ情報から取得した部署名が設定されます。	×

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
部署名（英名）	「部署 ID」が設定されます。	×

（凡例）
×：更新されない

12.1.11　設置場所情報として取得できるインベントリ情報

インベントリ情報に該当する設置場所が登録されていない場合に，設置場所情報に追加されます。設置場所情報に追加するかどうかは，インベントリ情報の引き当てで設定します。インベントリ情報の引き当てでの設定の詳細については，「9.6　引き当て項目の設定（インベントリ情報の引き当て）」を参照してください。

インベントリ情報を基に作成される Asset Information Manager の設置場所情報の詳細を次の表に示します。

表 12-14　JP1/NETM/DM のインベントリ情報を基に作成される設置場所情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
設置場所 ID	自動採番されます。	×
上位設置場所 ID	上位設置場所がある場合は，上位設置場所の「設置場所 ID」が設定されます。	×
設置場所	上位からすべての階層関係を示した設置場所情報が設定されます。	×
設置場所名	ユーザインベントリ情報から取得した設置場所名が設定されます。	×
設置場所名（英名）	「設置場所 ID」が設定されます。	×
場所属性	「エリア」が設定されます。	×

（凡例）
×：更新されない

12.2　JP1/NETM/DM から取得できる操作ログ

Windows のタスクスケジューラに登録されるタスク「操作履歴の取込み」を使用して，JP1/NETM/DM から操作ログを取得する場合，JP1/NETM/DM の操作履歴を基にして，Asset Information Manager の対応する各クラスに情報が作成・更新されます。

操作ログを取得するには，JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携する必要があります。

JP1/NETM/DM の操作履歴を資産管理データベースに登録する方法については，「5.9.2　タスクの設定手順」を参照してください。

作成・更新される各クラスの情報の詳細について次に示します。

12.2.1　プログラム起動履歴として取得できる操作ログ

JP1/NETM/DM の操作履歴を基に作成・更新される Asset Information Manager のプログラム起動履歴の詳細を次の表に示します。

表 12-15　JP1/NETM/DM の操作履歴を基に作成されるプログラム起動履歴の詳細

項目名	設定される値
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。
プログラム名	操作履歴の「ファイル名」から取得されます。
プログラムバージョン	操作履歴の「ファイルバージョン」から取得されます。
発生日時	操作履歴の「発生時刻」から取得されます。
種別	操作履歴の「種別」から取得されます。
ログインユーザ	操作履歴の「ログオンユーザ」から取得されます。
履歴番号	操作履歴ごとのユニークな番号です。

12.2.2　ウィンドウタイトル変更履歴として取得できる操作ログ

JP1/NETM/DM の操作履歴を基に作成・更新される Asset Information Manager のウィンドウタイトル変更履歴の詳細を次の表に示します。

表 12-16　JP1/NETM/DM の操作履歴を基に作成されるウィンドウタイトル変更履歴の詳細

項目名	設定される値
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。
プログラム名	操作履歴の「ファイル名」から取得されます。
プログラムバージョン	操作履歴の「ファイルバージョン」から取得されます。

項目名	設定される値
ウィンドウタイトル	操作履歴の「ウィンドウタイトル」から取得されます。
発生日時	操作履歴の「発生時刻」から取得されます。
ログインユーザ	操作履歴の「ログオンユーザ」から取得されます。
アカウント	操作履歴の「アカウント」から取得されます。
履歴番号	操作履歴ごとのユニークな番号です。
種別	操作履歴の「イベント種別」から取得されます。

12.3　Network Node Manager から取得できるノード情報

Network Node Manager のノード情報を基にして，Asset Information Manager の資産情報，ハードウェア資産情報，およびネットワーク情報に対応する各クラスの情報が作成・更新されます。なお，引き当てた資産情報が「廃棄」として扱われる状態の場合，情報は更新されません。

Network Node Manager のノード情報を資産管理データベースに登録する方法については，「2.2.2　Network Node Manager と連携してネットワーク構成を管理する」を参照してください。

作成・更新される各クラスの情報の詳細について次に示します。

12.3.1　資産情報として取得できるノード情報

Network Node Manager のノード情報を基に作成・更新される Asset Information Manager の資産情報の詳細を次の表に示します。

表 12-17　Network Node Manager のノード情報を基に作成・更新される資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	新規作成時は自動採番されます。	×
資産種別	「ハードウェア」が設定されます。	×
資産番号	［サーバセットアップ］ダイアログで設定したユーザインベントリ情報から取得した値，または自動採番された「資産 ID」が設定されます。	×
部署 ID	業務メニュー「IP グループ管理」で，部署別 IP グループを作成している場合，ノード情報から取得した IP アドレスが含まれている IP グループに対応する「部署 ID」が設定されます。	○※
部署	業務メニュー「IP グループ管理」で，部署別 IP グループを作成している場合，ノード情報から取得した IP アドレスが含まれている IP グループに対応する「部署」が設定されます。	○※
設置場所 ID	業務メニュー「IP グループ管理」で，設置場所別 IP グループを作成している場合，ノード情報から取得した IP アドレスが含まれている IP グループに対応する「設置場所 ID」が設定されます。	○※
設置場所	業務メニュー「IP グループ管理」で，設置場所別 IP グループを作成している場合，ノード情報から取得した IP アドレスが含まれている IP グループに対応する「設置場所」が設定されます。	○※

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
状態	「運用」が設定されます。	×
登録日	ノード情報の取得によって，新規に資産情報の作成された日時が設定されます。	×
NNM 更新日付	ノード情報の取得日付が設定されます。	○
稼働管理対象	「稼働管理対象」が設定されます。	×
DM 導入状態	「未導入」が設定されます。	×

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

注※
［サーバセットアップ］ダイアログの「部署別 IP グループを使用した部署の設定」または「設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」での設定に従います。ただし，JP1/NETM/DM のユーザインベントリから取得した値，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログで入力した値が設定されている場合は，更新されません。

12.3.2　ハードウェア資産情報として取得できるノード情報

Network Node Manager のノード情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のハードウェア資産情報の詳細を次の表に示します。

表 12-18　Network Node Manager のノード情報情報を基に作成・更新されるハードウェア資産情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
機器種別	Network Node Manager の情報に従って「PC」,「HUB」,または「ルータ」が設定されます。 「PC」,「HUB」,「ルータ」のどれにも当てはまらなかった場合,「ネットワーク機器」という種別で登録されます。	○
製造者	「vendor」から取得されます。	○
IP アドレス	「IP Address」から取得されます。	○
MAC アドレス	「SNMP ifPhysAddr」から取得されます。	○
ホスト名	「IP Hostname」から取得されます。	○
NNM 選択名	「Selection Name」から取得されます。 この項目は，［サーバセットアップ］ダイアログで，「NNM 連携」の「監視図ボタンの表示」が「表示する」に設定されている場合だけ，値が取得されます。	○

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

一つの機器が複数のオブジェクトとして登録されている場合

Network Node Manager では IP アドレスでオブジェクトを管理しているため，同一 MAC アドレスで複数のオブジェクトが存在する場合があります。また，一つの機器でも複数のマップに表示されている場合は，複数のオブジェクトが存在します。
Asset Information Manager にノード情報を取り込む際は，MAC アドレスで機器を引き当てるため，Network Node Manager 上では複数のオブジェクトだったものが Asset Information Manager 上では一つの資産になる場合があります。その場合，登録される IP アドレスは，Network Node Manager から最後に取得したオブジェクトの IP アドレスとなります。
Asset Information Manager に取り込む際，［サーバセットアップ］ダイアログの「部署別 IP グループを使用した部署の設定」および「設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定」の設定に従って，次のように登録されます。

- **設定しない**
  IP アドレスから部署および設置場所が登録されません。
- **部署（または設置場所）が未設定のときのみ設定する**
  新規登録時，または資産情報の「部署」，「設置場所」に値が登録されていない場合に，IP グループに合わせて「部署」および「設置場所」が登録されます。
  この設定を選択した場合，1 回の取り込みで同一の機器に対して新規登録と更新の 2 回の更新が発生することがあります。そのときは，「IP アドレス」はあとから取得した値で書き換わりますが，「部署」および「設置場所」は，最初に取得した値で登録されます。
- **設定する**
  資産情報の「部署」および「設置場所」が毎回更新されます。ただし，登録されている値がユーザインベントリから取得されているか，または新規機器登録画面や［機器詳細］ダイアログから登録されている場合は更新されません。

1 回のノード取得で，一つの機器に対して複数のオブジェクトが割り当たった場合，ログファイル（ASTNNM1.LOG）にメッセージが出力されます。

12.3.3　ネットワーク情報として取得できるノード情報

Network Node Manager のノード情報を基に作成・更新される Asset Information Manager のネットワーク情報の詳細を次の表に示します。

表 12-19 Network Node Manager のノード情報を基に作成・更新されるネットワーク情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	該当する資産情報の「資産 ID」が設定されます。	×
ネットワーク情報 ID	新規作成時は自動採番されます。	×
IP アドレス	「IP Address」から取得されます。	○
サブネットマスク	「IP Subnet Mask」から取得されます。	○
IP 種別	「IP Address」が IPv4 形式の場合，「IPv4」が設定されます。それ以外の場合は，「IPv6」が設定されます。	○
MAC アドレス	「SNMP ifPhysAddr」から取得されます。 取得された情報は，小文字に変換されて登録されます。	○
ノード名（ホスト名）	「IP Hostname」から取得されます。	○
DHCP サーバ名	該当する IP グループの DHCP サーバ名から取得されます。	○

（凡例）

○：更新される

×：更新されない

12.4　JP1/Lan Licenser から取得できるソフトウェア稼働情報

JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報を基に，Asset Information Manager のソフトウェア稼働情報に対応するクラスの情報が作成・更新されます。なお，引き当てた資産情報が「廃棄」として扱われる状態の場合，情報は更新されません。

JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報を資産管理データベースに登録する方法については，「2.2.7　JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する」を参照してください。

作成・更新されるソフトウェア稼働情報の詳細について次に示します。

表 12-20　JP1/Lan Licenser のソフトウェア稼働情報を基に作成・更新されるソフトウェア稼働情報の詳細

項目名	設定される値	既存データが存在した場合の更新の有無
資産 ID	「コンピュータ名」で引き当てた資産情報の「資産 ID」が設定されます。 同一のコンピュータ名が複数ある場合は，最初に引き当てた資産情報に「資産 ID」を設定します。	×
稼働ソフトウェア名	JP1/Lan Licenser で管理しているソフトウェア名が設定されます。	×
第 1 月～第 18 月	1 か月の合計稼働時間の平均（分）です。第 1 月～第 18 月の各月の時間を設定します。	○

（凡例）
○：更新される
×：更新されない

12.5　Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細

Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの種類を次の表に示します。

表 12-21　Asset Information Manager から発行する JP1 イベント

イベント ID	イベント名	説明
00005501	構成変更イベント（変更イベント）	資産情報に変更が発生したことを通知します。
00005502	構成変更イベント（追加イベント）	新規資産情報が追加されたことを通知します。
00005503	構成変更イベント（削除イベント）	資産が削除されたことを通知します。
00005521	サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始イベント	インベントリ情報のリアルタイム取得を開始したことを通知します。
00005522	サービス「Asset Information Synchronous Service」の終了イベント	インベントリ情報のリアルタイム取得を終了したことを通知します。
00005523	サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始失敗イベント	インベントリ情報のリアルタイム取得の開始に失敗したことを通知します。
00005524	サービス「Asset Information Synchronous Service」の異常終了イベント	インベントリ情報のリアルタイム取得が異常終了したことを通知します。
00005531	フィルター起動開始イベント	資産管理サーバが開始したことを通知します。
00005532	フィルター起動失敗イベント（異常終了）	資産管理サーバの起動に失敗したことを通知します。
00005533	フィルター終了イベント	資産管理サーバのセッション監視を終了したことを通知します。
00005541	案件遷移イベント	案件が次の管理ノードに遷移したことを通知します。このイベントは，アクティビティにタスク「JP1 イベント通知」が定義されている場合だけ，発行されます。
00005542	案件状態変更イベント	案件が却下または引き戻されたことを通知します。このイベントは，いったん「案件遷移イベント」が発行された案件が，引き戻しまたは却下された場合に発行されます。
00005543	案件削除イベント	案件が削除されたことを通知します。このイベントは，いったん「案件遷移イベント」が発行された案件が，削除された場合に発行されます。
00005581	対処完了イベント	JP1/IM から取り込んだ問題点が対処完了したことを JP1/IM に通知します。

イベント ID	イベント名	説明
00005582	問題点状態変更イベント	問題点が登録または変更されたことを通知します。
00005583	問題点削除イベント	問題点が削除されたことを通知します。

12.5.1　各イベントの属性

Asset Information Manager から発行する各 JP1 イベントの属性種別，項目，属性名および属性の内容を次に示します。

(1) 構成変更イベント（変更イベント）の属性

資産情報に変更が発生したことを通知します。JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面では，［機器詳細］ダイアログを表示して，変更された資産情報を参照できます。

この JP1 イベントは，JP1/IM - CM から Asset Information Manager の情報を収集すると，発行されるようになります。

構成変更イベント（変更イベント）が発行されるためには，次の条件をすべて満たしている必要があります。

- イベント発行設定ファイルで，このイベントを発行する設定になっている。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/IM - CM との連携設定」が「連携する」になっている。
- JP1/IM - CM の構成情報収集機能を実行済みである。

構成変更イベント（変更イベント）の属性を次の表に示します。

表 12-22　構成変更イベント（変更イベント）の属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	資産情報の変更
基本属性		イベント ID	－	「00005501」
		メッセージ	－	「資産情報が変更されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「CONFIGRATION」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	資産 ID
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象資産の資産 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「MODIFY」
	固有情報	構成変更イベント識別子	JP1_HC_EVENT	「Y」

属性種別		項目	属性名	内容
		イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	資産管理サーバのホスト名
		イベント発行元 IP アドレス	EVENT_HOST_IP	資産管理サーバの IP アドレス
		構成変更種別	CHANGE_SOURCE	変更元の種別 •「H」 ハードウェアの変更 •「I」 ソフトウェアの追加 •「U」 ソフトウェアの削除 変更情報が複数発生した場合は，それぞれを結合する。
		コンポーネントホスト名	COMPO_HOST_NAME	JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしている PC のホスト名
		コンポーネント IP アドレス	COMPO_HOST_IP	JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしている PC の IP アドレス

（凡例）

－：該当しない

(2) 構成変更イベント（追加イベント）の属性

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取り込んだ際に，新規資産情報が追加されたことを通知します。JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面では，［機器詳細］ダイアログを表示して，追加された資産情報を参照できます。

この JP1 イベントは，JP1/IM - CM から Asset Information Manager の情報を収集すると，発行されるようになります。

構成変更イベント（追加イベント）が発行されるためには，次の条件をすべて満たしている必要があります。

- イベント発行設定ファイルで，このイベントを発行する設定になっている。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/IM - CM との連携設定」が「連携する」になっている。
- JP1/IM - CM の構成情報収集機能を実行済みである。

構成変更イベント（追加イベント）の属性を次の表に示します。

表 12-23　構成変更イベント（追加イベント）の属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		―	―	資産情報の追加
基本属性		イベント ID	―	「00005502」
		メッセージ	―	「資産情報が追加されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「CONFIGRATION」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	資産 ID
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象資産の資産 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「ADD」
	固有情報	構成変更イベント識別子	JP1_HC_EVENT	「Y」
		イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	資産管理サーバのホスト名
		イベント発行元 IP アドレス	EVENT_HOST_IP	資産管理サーバの IP アドレス
		コンポーネントホスト名	COMPO_HOST_NAME	JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしている PC のホスト名
		コンポーネント IP アドレス	COMPO_HOST_IP	JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしている PC の IP アドレス

（凡例）

―：該当しない

（3） 構成変更イベント（削除イベント）の属性

JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取り込んだ際に，資産が削除されたことを通知します。

この JP1 イベントは，JP1/IM - CM から Asset Information Manager の情報を収集すると，発行されるようになります。

構成変更イベント（削除イベント）が発行されるためには，次の条件をすべて満たしている必要があります。

- イベント発行設定ファイルで，このイベントを発行する設定になっている。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「JP1/IM - CM との連携設定」が「連携する」に

なっている。
- JP1/IM - CM の構成情報収集機能を実行済みである。

構成変更イベント（削除イベント）の属性を次の表に示します。

表 12-24 構成変更イベント（削除イベント）の属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	資産情報の削除
基本属性		イベント ID	－	「00005503」
		メッセージ	－	「資産情報が削除されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「CONFIGRATION」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	資産 ID
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象資産の資産 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「DELETE」
	固有情報	構成変更イベント識別子	JP1_HC_EVENT	「Y」
		イベント発行元ホスト名	EVENT_HOST_NAME	資産管理サーバのホスト名
		イベント発行元 IP アドレス	EVENT_HOST_IP	資産管理サーバの IP アドレス
		コンポーネントホスト名	COMPO_HOST_NAME	JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしている PC のホスト名
		コンポーネント IP アドレス	COMPO_HOST_IP	JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしている PC の IP アドレス

（凡例）
－：該当しない

（4） サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始イベントの属性

インベントリ情報のリアルタイム取得を開始したことを通知します。

サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始イベントの属性を次の表に示します。

表 12-25　Asset Information Synchronous Service 開始イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始
基本属性		イベント ID	－	「00005521」
		メッセージ	－	「Asset Information Synchronous Service を開始しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Information」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Asset Information Synchronous Service」
		事象種別	OCCURRENCE	「START」
		開始時刻	START_TIME	開始した時刻

（凡例）

－：該当しない

（5）サービス「Asset Information Synchronous Service」の終了イベントの属性

インベントリ情報のリアルタイム取得を終了したことを通知します。

サービス「Asset Information Synchronous Service」の終了イベントの属性を次の表に示します。

表 12-26　Asset Information Synchronous Service 終了イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	サービス「Asset Information Synchronous Service」の終了
基本属性		イベント ID	－	「00005522」
		メッセージ	－	「Asset Information Synchronous Service を終了しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Information」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」

属性種別		項目	属性名	内容
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Asset Information Synchronous Service」
		事象種別	OCCURRENCE	「END」
		終了時刻	END_TIME	終了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	終了コード

（凡例）
－：該当しない

(6) サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始失敗イベントの属性

インベントリ情報のリアルタイム取得の開始に失敗したことを通知します。

サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始失敗イベントの属性を次の表に示します。

表 12-27 Asset Information Synchronous Service 開始失敗イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	サービス「Asset Information Synchronous Service」の開始失敗
基本属性		イベント ID	－	「00005523」
		メッセージ	－	「Asset Information Synchronous Service を開始できませんでした。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Error」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Asset Information Synchronous Service」
		事象種別	OCCURRENCE	「NOTSTART」

（凡例）
－：該当しない

(7) サービス「Asset Information Synchronous Service」の異常終了イベントの属性

インベントリ情報のリアルタイム取得が異常終了したことを通知します。

サービス「Asset Information Synchronous Service」の異常終了イベントの属性を次の

表に示します。

表 12-28　Asset Information Synchronous Service 異常終了イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	サービス「Asset Information Synchronous Service」の異常終了
基本属性		イベント ID	－	「00005524」
		メッセージ	－	「Asset Information Synchronous Service が異常終了しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Error」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Asset Information Synchronous Service」
		事象種別	OCCURRENCE	「END」
		終了時刻	END_TIME	終了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	終了コード

（凡例）

－：該当しない

（8）フィルター起動開始イベントの属性

資産管理サーバが開始したことを通知します。

フィルター起動開始イベントの属性を次の表に示します。

表 12-29　フィルター起動開始イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	フィルター起動時
基本属性		イベント ID	－	「00005531」
		メッセージ	－	「セッションフィルターを起動しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Information」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「ASSET_SESS」
		事象種別	OCCURRENCE	「START」
		開始時刻	START_TIME	開始した時刻

（凡例）
－：該当しない

（9）フィルター起動失敗イベント（異常終了）の属性

資産管理サーバの起動に失敗したことを通知します。

フィルター起動失敗イベント（異常終了）の属性を次の表に示します。

表 12-30　フィルター起動失敗イベント（異常終了）の属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	フィルター起動失敗時
基本属性		イベント ID	－	「00005532」
		メッセージ	－	「セッションフィルターを起動できませんでした。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Error」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「ASSET_SESS」
		事象種別	OCCURRENCE	「END」
		終了時刻	END_TIME	終了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	終了コード

（凡例）
－：該当しない

（10）フィルター終了イベントの属性

資産管理サーバのセッション監視を終了したことを通知します。

フィルター終了イベントの属性を次の表に示します。

表 12-31　フィルター終了イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	フィルターの停止時
基本属性		イベント ID	－	「00005533」
		メッセージ	－	「セッションフィルターを停止しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Information」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「SERVICE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「ASSET_SESS」

属性種別		項目	属性名	内容
		事象種別	OCCURRENCE	「END」
		終了時刻	END_TIME	終了した時刻
		終了コード	RESULT_CODE	終了コード

（凡例）
　－：該当しない

（11）案件遷移イベントの属性

案件が次の管理ノードに遷移したことを通知します。

イベント情報 0 ～ 31 のユーザ拡張エリアには，タスク「JP1 イベント通知」の管理項目の設定で，任意の情報を設定できます。タスク「JP1 イベント通知」については，「10.5.2　実行タスクを選択する」を参照してください。

案件遷移イベントの属性を次の表に示します。

表 12-32　案件遷移イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	案件の遷移時
基本属性		イベント ID	－	「00005541」
		メッセージ	－	「案件が遷移しました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「INCIDENT」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Incident」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「ACTIVITY」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Information Manager のバージョン
		案件名	C11	対象の案件名
		案件定義 ID	C12	対象の案件定義 ID
		状態	C13	遷移後の状態
		登録者ユーザ ID	C14	案件登録者のユーザ ID
		最終処理者ユーザ ID	C15	最終処理者のユーザ ID
		処理対象ユーザ ID	C16	案件の遷移先のユーザ ID
		イベント情報 0 ～ 31	U00 ～ U31	ユーザ拡張エリア

（凡例）
－：該当しない

(12) 案件状態変更イベントの属性

案件が却下または引き戻されたことを通知します。

案件状態変更イベントの属性を次の表に示します。

表 12-33 案件状態変更イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	案件の却下時または引き戻し時
基本属性		イベント ID	－	「00005542」
		メッセージ	－	「案件の状態が変更されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「INCIDENT」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Incident」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	• 却下：「REJECT」 • 引き戻し：「PULLBACK」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Information Manager のバージョン
		案件名	C11	対象の案件名
		案件定義 ID	C12	対象の案件定義 ID
		状態	C13	遷移後の状態
		登録者ユーザ ID	C14	案件登録者のユーザ ID
		最終処理者ユーザ ID	C15	最終処理者のユーザ ID
		処理対象ユーザ ID	C16	案件の遷移先のユーザ ID

（凡例）
－：該当しない

(13) 案件削除イベントの属性

案件が削除されたことを通知します。

案件削除イベントの属性を次の表に示します。

表 12-34　案件削除イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	案件の削除時
基本属性		イベント ID	－	「00005543」
		メッセージ	－	「案件が削除されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「INCIDENT」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Incident」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の案件 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「DELETE」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Information Manager のバージョン
		案件名	C11	対象の案件名
		案件定義 ID	C12	対象の案件定義 ID

（凡例）
－：該当しない

（14）対処完了イベントの属性

JP1/IM から取り込んだ問題点が対処完了したことを JP1/IM に通知します。JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面からは，このイベントの［問題点詳細］ダイアログを表示して，対処の内容を参照できます。

対処完了イベントの属性を次の表に示します。

表 12-35　対処完了イベントの属性

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	［問題点編集］ダイアログで［対処完了］ボタンクリック時
基本属性		イベント ID	－	「00005581」
		メッセージ	－	「問題が対処されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「ACTION」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	問題点
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の問題点 ID

属性種別		項目	属性名	内容
		事象種別	OCCURRENCE	「NOTICE」
	固有情報	対処完了資産番号	ASSET_NO	対象の資産番号
		対処完了通し番号	EVENT_SEQNO	対象のイベント通し番号

（凡例）
－：該当しない

(15) 問題点状態変更イベントの属性

問題点が登録または変更されたことを通知します。JP1/IM - Manager の［イベントコンソール］画面からは，このイベントの［問題点詳細］ダイアログを表示して，変更された内容を参照できます。

また，イベント情報 0 ～ 31 のユーザ拡張エリアには，通知したい情報を追加できます。ユーザ拡張エリアに管理項目を設定する方法については，「12.5.2　問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定」を参照してください。

問題点状態変更イベントの属性を次の表に示します。

表 12-36　問題点状態変更イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	問題点の登録時
基本属性		イベント ID	－	「00005582」
		メッセージ	－	「問題点の状態が変更されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「MAINTENANCE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Maintenance」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の問題点 ID
		事象種別	OCCURRENCE	• 新規登録：「ADD」 • 更新：「MODIFY」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Information Manager のバージョン
		管理番号	M11	対象の管理番号
		イベント情報 0 ～ 31	U00 ～ U31	ユーザ拡張エリア

（凡例）
－：該当しない

(16) 問題点削除イベントの属性

問題点が削除されたことを通知します。

問題点削除イベントの属性を次の表に示します。

表 12-37　問題点削除イベント

属性種別		項目	属性名	内容
発行契機		－	－	問題点の変更時
基本属性		イベント ID	－	「00005583」
		メッセージ	－	「問題点が削除されました。」
拡張属性	共通情報	重大度	SEVERITY	「Notice」
		プロダクト名	PRODUCT_NAME	「/HITACHI/JP1/AIM」
		オブジェクトタイプ	OBJECT_TYPE	「MAINTENANCE」
		オブジェクト名	OBJECT_NAME	「Maintenance」
		オブジェクト ID	OBJECT_ID	対象の問題点 ID
		事象種別	OCCURRENCE	「DELETE」
	固有情報	バージョン	A10	Asset Information Manager のバージョン
		管理番号	M11	対象の管理番号

（凡例）
－：該当しない

12.5.2　問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定

問題点状態変更イベントの「ユーザ拡張エリア」に任意の管理項目を設定して，問題点の状態が変更されたときに通知したい内容を追加できます。

「ユーザ拡張エリア」に設定する管理項目は，イベント属性構成ファイル（eventmap.ini）に定義します。イベント属性構成ファイルの格納場所と管理項目の設定方法を次に示します。

● イベント属性構成ファイルの格納場所

Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥env

● 管理項目の設定方法

イベント属性構成ファイルのデフォルトの内容を記載したファイル（eventmap.ini.org）を利用して，管理項目を設定する手順を次に示します。

1. eventmap.ini.org **をテキストエディタで開く。**

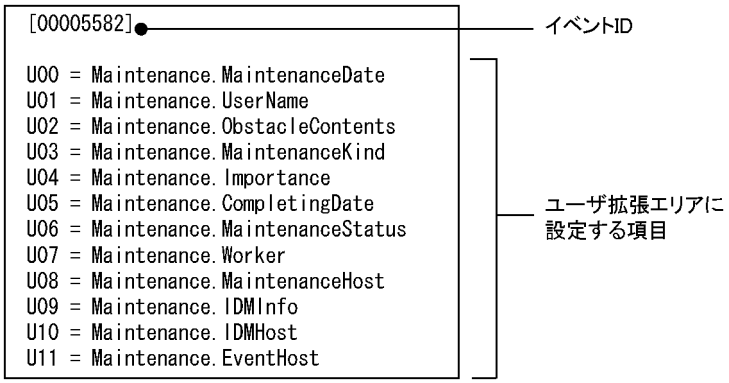
   eventmap.ini.org は，イベント属性構成ファイルと同じフォルダに格納されていま

す。

2. U12 ～ U31 **に通知したい管理項目をクラス . プロパティの形式で記述する。**
   問題点状態変更イベントには，保守履歴（Maintenance）の管理項目以外は定義できません。保守履歴以外の管理項目を定義すると，イベント発行時にエラーが発生して，イベントが発行されません。
3. **ファイル名を「**eventmap.ini**」に変更して，**Asset Information Manager **のインストールフォルダ** ¥env **に保存する。**
   これで，問題点状態変更イベントで通知する内容を設定できました。

eventmap.ini.org ファイルの内容を次の図に示します。

図 12-1　eventmap.ini.org **ファイル**



13 管理情報の詳細

この章では，Asset Information Manager で提供するオブジェクトクラスのプロパティと，プロパティの詳細情報，およびアソシエーションクラスが表すクラス間の関連を示します。
また，業務メニュー「インポート」からのインポート，業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート，jamCsvImport.bat でのインポートおよび jamCsvExport.bat でのエクスポートで対象となる項目を示します。

13.1 **クラス構成**

13.2 **オブジェクトクラスのプロパティ一覧**

13.3 **アソシエーションクラスのプロパティ一覧**

13.4 **業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目**

13.1 クラス構成

この節では，Asset Information Manager で提供しているクラスの一覧および関連図を示します。

オブジェクトクラスおよびプロパティの詳細は，アルファベット順で示しています。

13.1.1 オブジェクトクラス

オブジェクトクラスのクラス名と概要を次の表に示します。各オブジェクトクラスがインポート・エクスポートおよびユーザレポート作成時の対象となるかどうかも，併せて示します。

表 13-1 オブジェクトクラス一覧

クラス名	概要	インポート，エクスポート		ユーザレポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※ 1	jamimport jamexport ※ 2	
AddressGroup	IP グループ情報	○	○	○
AssetInfo	資産情報	○	○	○
AssetUpdateRecord	移管履歴	×	○	○
ComponentInfo	コンポーネント情報	×	○	○
Contract	契約情報	○	○	○
ContractAssetHistory	契約資産履歴	×	△	○
ContractCatalog	契約会社カタログ	×	○	×
ContractHistory	契約履歴	×	△	○
GroupInfo	部署情報	○	○	○
HardwareInfo	ハードウェア資産情報	○	○	○
InstalledInfo	インストールソフトウェア情報	○	○	○
InstalledList	インストールソフトウェアリスト	○	○	○
InstalledUpdateRecord	ソフトウェア変更履歴	×	△	○
InstalledVirusDefInfo	ウィルス定義情報	○	○	○
IPAddress	IP アドレス管理情報	○	○	○
JobRoleInfo	職権管理情報	○	○	○
LicenseInfo	ライセンス情報	○	○	○
LocationInfo	設置場所情報	○	○	○

クラス名	概要	インポート，エクスポート		ユーザレポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport ※2	
MachineCatalog	機器カタログ	○	○	×
Maintenance	保守履歴	○	○	○
NetworkInfo	ネットワーク情報	○	○	○
PatchInfo	パッチ情報	○	○	○
PatchList	パッチリスト	○	○	○
ProgramHistory	プログラム起動履歴	×	△	○
RoleInfo	権限管理情報	○	○	○
SoftwareInfo	ソフトウェア資産情報	○	○	○
SoftwareKeyInfo	ソフトウェアキー情報	○	○	○
SoftwareList	ソフトウェアリスト	○	○	○
SoftwareWorkInfo	ソフトウェア稼働情報	×	○	○
UpdateRecord	変更履歴	×	△	○
UserInfo	ユーザ管理情報	○	○	○
VolumeContract	ボリューム契約情報	○	○	○
WindowTitleHistory	ウィンドウタイトル変更履歴	×	△	○

（凡例）
○：対象
×：対象外
△：jamexport コマンドでのエクスポートだけ対象（jamimport コマンドでのインポートはサポート対象外）

注※ 1
次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。
- 業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート
- 業務メニュー「エクスポート」および jamCsvExport.bat でのエクスポート

注※ 2
次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。
- jamimport コマンドでのインポート
- jamexport コマンドでのエクスポート

13.1.2 アソシエーションクラス

アソシエーションクラスのクラス名と概要を次の表に示します。各アソシエーションクラスがインポート・エクスポートおよびユーザレポート作成時の対象となるかどうかも

併せて示します。

表 13-2 アソシエーションクラス一覧

クラス名	概要	インポート，エクスポート		ユーザレポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport ※2	
AssetUpdateRecLink	移管履歴情報リスト	×	△	○
AuthorityLink	ユーザ情報と権限情報	×	○	○
ComponentLink	インストールソフトウェア情報とコンポーネント情報	×	△	○
ContractAssetHistoryLink	契約履歴と契約資産履歴	×	△	○
ContractHistoryLink	契約情報と契約履歴	×	△	○
ContractLeaseLink	リース契約と資産情報	○	○	○
ContractMaintenanceLink	保守契約と資産情報	○	○	○
ContractRentalLink	レンタル契約と資産情報	○	○	○
HardwareLink	資産情報とハードウェア資産情報	×	△	○
InstalledLink	資産情報とインストールソフトウェア情報	×	△	○
InstalledListLink	インストールソフトウェアリストとインストールソフトウェア情報	×	△	○
InstalledVirusDefLink	資産情報とウィルス定義情報	○	○	○
IPAddressLink	IP アドレスの状態管理	○	○	○
JobRoleLink	ユーザ情報と職権情報	○	○	○
LicenseLink	ライセンス情報とソフトウェア資産情報	×	△	○
MachinePermitLink	資産情報とソフトウェアキー情報	○	○	○
MemberLink	ユーザ情報と部署情報	○	○	○
NetworkLink	資産情報とネットワーク情報	×	△	○
PatchLink	資産情報とパッチ情報	○	○	○
PatchListLink	パッチリストとパッチ情報	○	○	○
SoftwareKeyLink	ソフトウェア資産情報とソフトウェアキー情報	×	△	○
SoftwareLicenseLink	ソフトウェアリストとライセンス情報	×	△	○

クラス名	概要	インポート，エクスポート		ユーザレポート
		業務メニュー jamCsvImport jamCsvExport ※1	jamimport jamexport ※2	
SoftwareLink	資産情報とソフトウェア資産情報	×	△	○
SoftwareListLink	ソフトウェアリストとソフトウェア資産情報	×	△	○
SoftwareMapLink	ソフトウェアリストとインストールソフトウェアリスト	×	△	○
SoftwareWorkLink	資産情報とソフトウェア稼働情報	×	△	○
UserPermitLink	ユーザ情報とソフトウェアキー情報	○	○	○
VolumeContractLink	ボリューム契約と資産情報	○	○	○

（凡例）

○：対象

×：対象外

△：jamexport コマンドでのエクスポートだけ対象（jamimport コマンドでのインポートはサポート対象外）

注※ 1

次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。

- 業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート
- 業務メニュー「エクスポート」および jamCsvExport.bat でのエクスポート

注※ 2

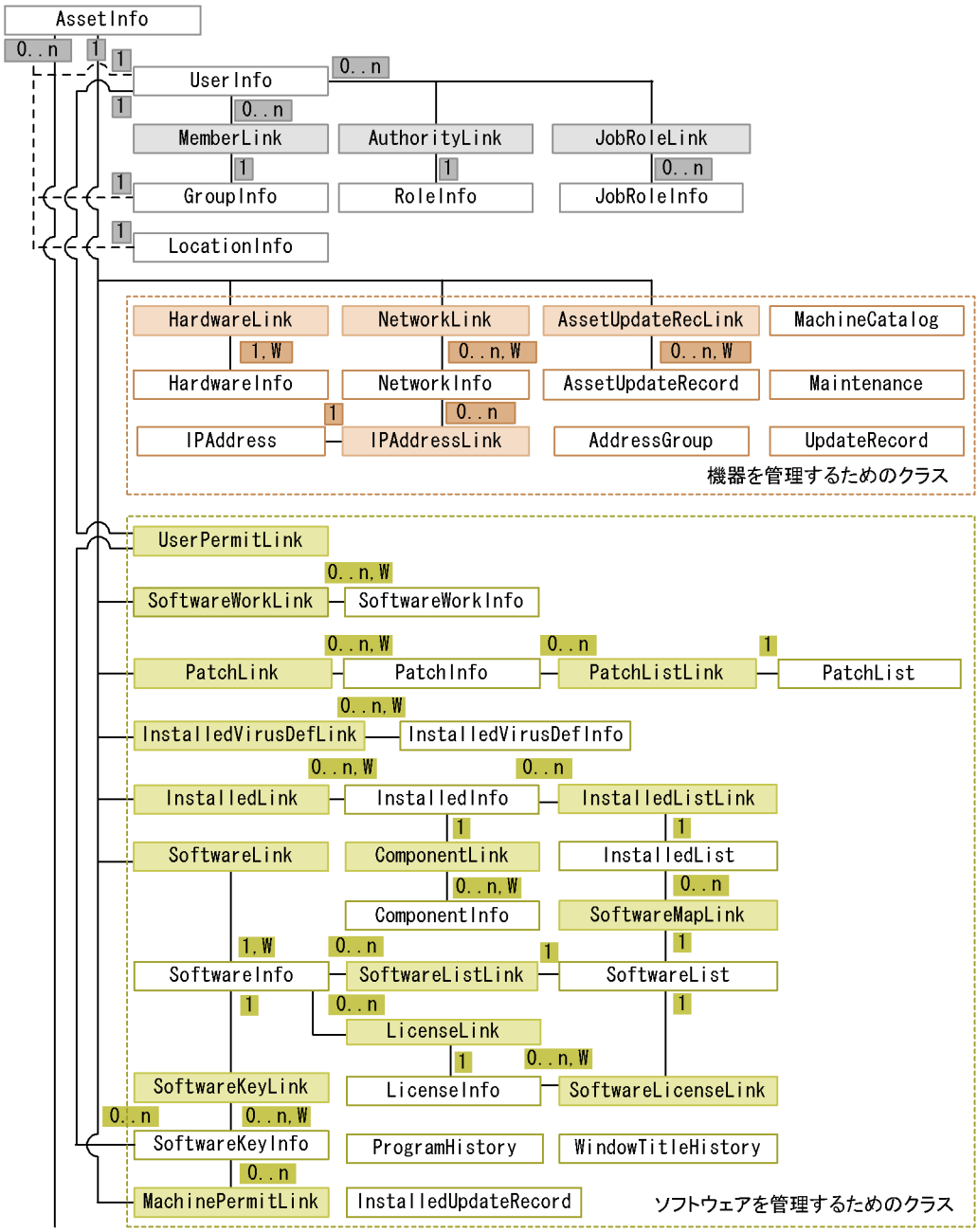
次の方法でインポートおよびエクスポートすることを示しています。

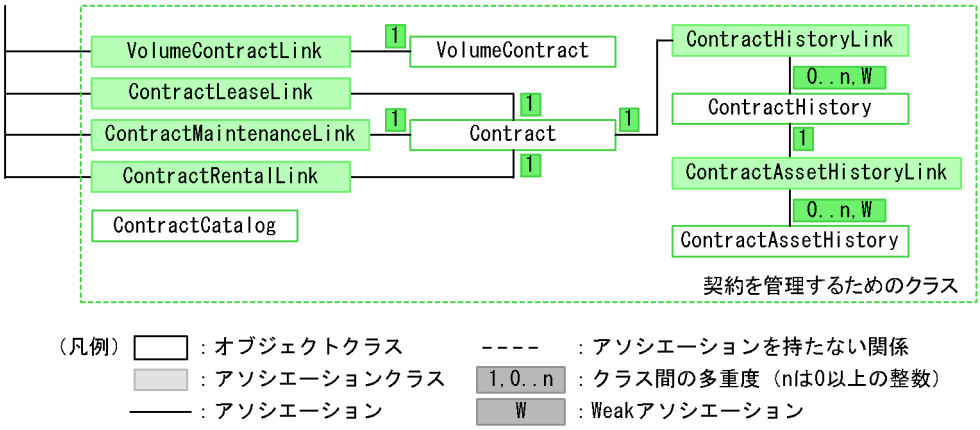
- jamimport コマンドでのインポート
- jamexport コマンドでのエクスポート

13.1.3 クラス関連図

オブジェクトクラスの関連，およびクラス間の関連を表すアソシエーションクラスを次の図に示します。

図 13-1　クラス関連図


AssetInfo
0..n
1
1
UserInfo
0..n
1
0..n
MemberLink
AuthorityLink
JobRoleLink
1
1
0..n
1
GroupInfo
RoleInfo
JobRoleInfo
1
LocationInfo
HardwareLink
NetworkLink
AssetUpdateRecLink
MachineCatalog
1,W
0..n,W
0..n,W
HardwareInfo
NetworkInfo
AssetUpdateRecord
Maintenance
1
0..n
IPAddress
IPAddressLink
AddressGroup
UpdateRecord
機器を管理するためのクラス
UserPermitLink
0..n,W
SoftwareWorkLink
SoftwareWorkInfo
0..n,W
0..n
1
PatchLink
PatchInfo
PatchListLink
PatchList
0..n,W
InstalledVirusDefLink
InstalledVirusDefInfo
0..n,W
0..n
InstalledLink
InstalledInfo
InstalledListLink
1
1
SoftwareLink
ComponentLink
InstalledList
0..n,W
0..n
ComponentInfo
SoftwareMapLink
1,W
0..n
1
1
SoftwareInfo
SoftwareListLink
SoftwareList
1
0..n
1
LicenseLink
1
0..n,W
SoftwareKeyLink
LicenseInfo
SoftwareLicenseLink
0..n
0..n,W
SoftwareKeyInfo
ProgramHistory
WindowTitleHistory
0..n
MachinePermitLink
InstalledUpdateRecord
ソフトウェアを管理するためのクラス



13.1.4　プロパティの値を表すデータ型

各クラスにプロパティを追加したり変更したりする場合，プロパティの値は次の表に示すデータ型で表します。この表では，プロパティに指定できる値とデータ型の対応を示しています。

表 13-3　データ型の対応

データ型	指定できる値
uint8	符号なし 8 ビット整数 0 ～ 255
uint16	符号なし 16 ビット整数 0 ～ 65,535
uint32	符号なし 32 ビット整数 0 ～ 4,294,967,295
uint64	符号なし 64 ビット整数 0 ～ 18,446,744,073,709,551,615
string[n]	文字列（n は文字列の最大長）
date	日付 YYYY-MM-DD または YYYY/MM/DD

13.2　オブジェクトクラスのプロパティ一覧

この節では，Asset Information Manager で提供するオブジェクトクラスに属するプロパティについて，プロパティの内容，データ型，最大長，およびプロパティに割り当てられているコードを示します。

また，次の項目についても，併せて示しています。

- 業務メニュー「インポート」，jamCsvImport.bat および jamimport コマンドでインポートするときに，プロパティの値を指定する際の注意事項
- 業務メニュー「インポート」，および jamCsvImport.bat でインポートするときに，自動的に設定される値
- jamimport コマンドでのインポート時に必ず指定する項目

なお，業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート時に必ず指定する項目については，「13.4　業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目」を参照してください。

13.2.1　AddressGroup（IP グループ情報）

IP アドレスをグループ管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

AddressGroup のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-4　AddressGroup のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「AddressGroup」です。	◎
DHCPServerName	—	DHCP サーバ名	string[255]	DHCP サーバ名です。	△
EndIPAddress	—	終了アドレス	string[70]	IP グループ内の終了アドレスです。	◎
Gateway	—	ゲートウェイ	string[70]	IP グループのゲートウェイです。	△
GroupID	—	部署 ID	string[64]	部署別 IP グループの場合に，対応する部署 ID です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
IPGroupID	●	IP グループ ID	uint32	IP グループを識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
IPGroupName	―	IP グループ名	string[255]	IP グループの名称です。	◎
LocationID	―	設置場所 ID	string[64]	設置場所 IP グループの場合に，対応する設置場所 ID です。	△
ManagerialUserID	―	管理者ユーザ ID	string[64]	IP グループの管理者のユーザ ID です。	△
Purpose	―	用途	string[255]	IP グループの用途です。	△
StartIPAddress	―	開始アドレス	string[70]	IP グループの開始アドレスです。	◎
SubnetMask	―	サブネットマスク	string[70]	IP グループのサブネットマスクです。	◎
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.2 AssetInfo（資産情報）

システム装置，ネットワーク装置，拡張装置といった機器やソフトウェアに関する利用者，部署などの情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

AssetInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-5 AssetInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetBranchNo	—	資産番号枝番	uint32	ライセンスの分割時の枝番です。 インポートで新規に登録する場合は，「0」を指定してください。更新時は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，指定してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，「機器に関する情報」では必ず「0」が設定されます。	◎
AssetID	●	資産 ID	uint32	資産を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，省略すると自動的に採番されます。	◎

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetKind	―	資産種別	string[3]	「・資産種別」を参照してください。 「001」の場合は，オブジェクトクラス「HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」を必ずインポートしてください。 「002」の場合は， 「SoftwareInfo（ソフトウェア資産情報)」を必ずインポートしてください。	◎
AssetNo	―	資産番号	string[60]	ユーザで管理するユニークな資産番号です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，省略すると自動的に採番されます。	◎
AssetStatus	―	機器状態	string[3]	「・機器状態」を参照してください。 このプロパティは， 「AssetKind」が「001」の場合に，登録できます。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると「在庫」が設定されます。	○
AssetWorkKind	―	稼働管理種別	string[3]	「・稼働管理種別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，デフォルト値を設定する必要があります。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「AssetInfo」です。	◎
DMLastUpdateTime	―	DM 最終更新日付	date	JP1/NETM/DM から取得したシステム構成情報，未導入機器情報および削除履歴情報のうち，最新の最終更新日付です。	△
DMStatus	―	DM 導入状態	string[3]	「・DM 導入状態」を参照してください。	○
EndDate	―	使用終了日	date	ソフトウェアの体験版などの有効期間の終了日です。	△
GroupID	―	部署 ID	string[64]	部署名に対応する部署 ID です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
GroupName	―	部署	string[512]	「本社 / 営業部 / 営業 1 課」のように，上位からすべての階層関係を示した部署情報です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
GroupName_EN	―	部署（英名）	string[512]	「Head Office/Sales Dept./Section1」のように，上位からすべての階層関係を示した英語の部署情報です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
HrdInvUpdateDate	―	DM ハードウェア更新日付	date	JP1/NETM/DM から取得したハードウェアインベントリ情報の更新日付です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，「資産種別」で「機器に関する情報」を選択したときだけ対象となります。	△
InsPkgUpdateDate	―	DM パッケージ更新日付	date	JP1/NETM/DM から取得したインストールパッケージ情報の更新日付です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，「資産種別」で「機器に関する情報」を選択したときだけ対象となります。	△
InventoryKey	―	引き当てキー	string[128]	JP1/NETM/DM から資産情報を引き当てるための識別キーです。 JP1/NETM/DM の運用キーに合わせた引き当てキーを指定してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，「資産種別」で「機器に関する情報」を選択したときだけ対象となります。	△
LLUpdateDate	―	LL 更新日付	date	JP1/Lan Licenser からソフトウェア稼働情報を取得し情報を更新した日付です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，「資産種別」で「ソフトウェア情報」を選択したときだけ対象となります。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
LocationID	—	設置場所 ID	string[64]	設置場所名に対応する設置場所 ID です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「LocationInfo」と同じ値を指定してください。	△
LocationName	—	設置場所	string[512]	「東京 /A ビル /1F」のように，上位からすべての階層関係を示した設置場所情報です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「LocationInfo」と同じ値を指定してください。	△
LocationName_EN	—	設置場所（英名）	string[512]	「Tokyo/A building/First floor」のように，上位からすべての階層関係を示した英語の設置場所情報です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「LocationInfo」と同じ値を指定してください。	△
ManagerialGroup	—	管理部署	string[512]	資産の管理部署です。	△
ManagerialGroup_EN	—	管理部署（英名）	string[512]	資産の管理部署の英語名です。	△
ManagerialGroupID	—	管理部署 ID	string[64]	管理部署に対応する ID です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「GroupInfo」と同じ値を指定してください。	△
ManagerialUser	—	管理者	string[255]	資産の管理者です。ユーザ管理情報にないユーザ名も指定できます。	△
ManagerialUser_EN	—	管理者（英名）	string[255]	資産の管理者の英語名です。	△
ManagerialUserID	—	管理者ユーザ ID	string[64]	管理者に対応する ID です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
NNMUpdateDate	—	NNM 更新日付	date	Network Node Manager から取得したノード情報の更新日付です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，「資産種別」で「ソフトウェア情報」を選択したときだけ対象となります。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Note	―	備考	string[255]	資産情報の備考です。	△
PurchasePrice	―	購入金額	string[15]	資産の購入金額です。	△
Purpose	―	用途	string[255]	資産の用途です。	△
RegistrationDate	―	登録日	date	資産情報の登録日です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，インポートを実行した日付が設定されます。	○
SoftInvUpdateDate	―	DM ソフトウェア更新日付	date	JP1/NETM/DM から取得したソフトウェアインベントリ情報の更新日付です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合,「資産種別」で「機器に関する情報」を選択したときだけ対象となります。	△
SoftwareStatus	―	ソフトウェア状態	string[3]	「・ソフトウェア状態」を参照してください。 このプロパティは,「AssetKind」が「002」の場合に登録できます。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合,「資産種別」で「ソフトウェア情報」を選択したときだけ対象となります。設定を省略すると「運用」が設定されます。	○
StartDate	―	使用開始日	date	資産の使用開始日です。	△
StocktakingDate	―	棚卸日付	date	棚卸を実施した日付です。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UpdateUser	―	変更者	string[255]	資産情報の変更者に対応するユーザ ID です。Asset Information Manager がデータを更新する際に使用され，［機器詳細］ダイアログで情報を変更した場合に，ユーザ ID が設定されます。ただし，次に示す場合は，更新したユーザのユーザ ID は設定されません。 • ソフトウェア資産情報を更新する場合 • データのインポートを実行する場合 • JP1/NETM/DM からインベントリ情報を取得する場合 • Network Node Manager から情報を取得する場合 • 案件を使用して情報を更新する場合	△
UserID	―	ユーザ ID	string[64]	ユーザ名に対応するユーザ ID です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
UserName	―	ユーザ名	string[255]	ユーザ名です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
UserName_EN	―	ユーザ名（英名）	string[255]	ユーザの英語名です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「UserInfo」と同じ値を指定してください。	△
UserProperty Area_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Code_3 ※	—	固有情報 Code-3	string[64]		△
UserProperty Code_4 ※	—	固有情報 Code-4	string[64]		△
UserProperty Code_5 ※	—	固有情報 Code-5	string[64]		△
UserProperty Code_6 ※	—	固有情報 Code-6	string[64]		△
UserProperty Date_1 ※	—	固有情報 Date-1	date	日付情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Date_2 ※	—	固有情報 Date-2	date		△
UserProperty Date_3 ※	—	固有情報 Date-3	date		△
UserProperty Date_4 ※	—	固有情報 Date-4	date		△
UserProperty Date_5 ※	—	固有情報 Date-5	date		△
UserProperty Date_6 ※	—	固有情報 Date-6	date		△
UserPropertyF ield128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyF ield255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△
UserPropertyF ield32_1 ※	—	固有情報 Field32-1	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield32_2 ※	—	固有情報 Field32-2	string[32]		△
UserPropertyF ield32_3 ※	—	固有情報 Field32-3	string[32]		△
UserPropertyF ield32_4 ※	—	固有情報 Field32-4	string[32]		△
UserPropertyF ield32_5 ※	—	固有情報 Field32-5	string[32]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField32_6 ※	―	固有情報 Field32-6	string[32]		△
UserPropertyField64_1 ※	―	固有情報 Field64-1	string[64]	64 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField64_2 ※	―	固有情報 Field64-2	string[64]		△
UserProperty Uint_1 ※	―	固有情報 Uint-1	uint32	数値情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Uint_2 ※	―	固有情報 Uint-2	uint32		△
UserProperty Uint_3 ※	―	固有情報 Uint-3	uint32		△
UserProperty Uint_4 ※	―	固有情報 Uint-4	uint32		△
UserProperty Uint_5 ※	―	固有情報 Uint-5	uint32		△
UserProperty Uint_6 ※	―	固有情報 Uint-6	uint32		△
UsrInvUpdate Date	―	DM ユーザ更新日付	date	JP1/NETM/DM から取得したユーザインベントリ情報の更新日付です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合,「資産種別」で「機器に関する情報」を選択したときだけ対象となります。	△

(凡例)

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

各プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 資産種別

コード	表示文字列
001	ハードウェア

コード	表示文字列
002	ソフトウェア

- 機器状態

コード	表示文字列
002	運用
301	在庫
501	返却
601	廃棄
701	仮廃棄
999	抹消

- 稼働管理種別

コード	表示文字列
001	稼働管理対象
002	稼働管理対象外

- DM 導入状態

コード	表示文字列
001	導入
002	未導入

- ソフトウェア状態

コード	表示文字列
001	運用
501	返却
601	廃棄
999	抹消

13.2.3 AssetUpdateRecord（移管履歴）

資産の管理部署や設置場所の履歴情報を管理するクラスです。

このクラスは，jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできま

す。

AssetUpdateRecord のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-6　AssetUpdateRecord のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
BaseCreationClassName	●	BaseCCN	string[32]	更新元のクラス名「AssetInfo」です。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「AssetUpdateRecord」です。	◎
GroupName	－	部署	string[512]	「本社 / 営業部 / 営業 1 課」のように，上位からすべての階層関係を示した部署情報です。	△
GroupName_EN	－	部署（英名）	string[512]	「Head Office/Sales Dept./Section1」のように，上位からすべての階層関係を示した英語の部署情報です。	△
HistoryUpdateDate	●	更新日時	date	部署情報を更新した日付です。	◎
LocationName	－	設置場所	string[512]	「東京 /A ビル /1F」のように，上位からすべての階層関係を示した設置場所情報です。	△
LocationName_EN	－	設置場所（英名）	string[512]	「Tokyo/A building/First floor」のように，上位からすべての階層関係を示した英語の設置場所情報です。	△
UserName	－	ユーザ名	string[255]	ユーザ名です。	△
UserName_EN	－	ユーザ名（英名）	string[255]	ユーザの英語名です。	△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

13.2.4　ComponentInfo（コンポーネント情報）

コンポーネント情報を管理するクラスです。JP1/NETM/DM 07-00 以降で取得したインベントリ情報を登録すると，Microsoft Office に含まれるコンポーネントの情報を管理できます。

このクラスは，jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

ComponentInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-7　ComponentInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。 インポート時は，対応するオブジェクトクラス「InstalledInfo」と同じ値を指定してください。	◎
ComponentName	●	コンポーネント名	string[255]	コンポーネントのソフトウェア名です。	◎
ComponentVersion	●	コンポーネントバージョン	string[60]	コンポーネントのバージョンです。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「ComponentInfo」です。	◎
InfoInd	―	情報識別	uint8	「・情報識別」を参照してください。 資産情報の登録元を示します。	○
InstalledID	●	インストール ID	uint32	対応するオブジェクトクラス「InstalledList」のインストール ID です。 インポート時は，対応する「InstalledList」と同じ値を指定してください。	◎
ParentSoftwareID	●	親ソフトウェア識別 ID	string[255]	コンポーネント情報の親ソフトウェアを識別する ID です。 インポート時は，対応するオブジェクトクラス「InstalledInfo」のプロパティ「SoftwareID」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateInd	―	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）

○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 情報識別

コード	表示文字列
0	インベントリ情報の登録による追加および更新
1	操作画面またはインポートによる追加および更新

インポート時は「1」を指定してください。「0」を指定すると，該当する機器からアンインストールされた場合，JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報が更新されるときに，資産管理データベースからも削除されます。

13.2.5　Contract（契約情報）

各機器を保守契約またはリース契約単位に管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

このクラスをインポートして，契約対象の資産と関連づけるには，アソシエーションクラス「ContractLeaseLink（リース契約と資産情報）」，「ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報）」または「ContractRentalLink（レンタル契約と資産情報）」もインポートしてください。

Contract のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-8　Contract のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	―	住所	string[255]	契約会社の住所です。	△
Company	―	契約会社	string[255]	契約会社名です。	○
ContactInfo	―	連絡先	string[255]	契約会社の連絡先です。	△
ContactInfo_2 ※	―	連絡先 2	string[255]		△
ContactInfo_3 ※	―	連絡先 3	string[255]		△
ContactName	―	担当者名	string[255]	契約会社の担当者名です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
ContactName_2 ※	―	担当者名 2	string[255]		△
ContactName_3 ※	―	担当者名 3	string[255]		△
Contents	―	契約内容	string[255]	契約内容です。	△
ContractDate	―	契約日	date	契約日です。	○
ContractID	●	契約 ID	uint32	契約を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
ContractKind	―	契約種別	string[3]	「・契約種別」を参照してください。	◎
ContractNo	―	契約番号	string[60]	契約番号です。	○
ContractObject	―	契約対象	string[3]	「・契約対象」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「機器」が設定されます。	◎
ContractStatus	―	契約状態	string[3]	「・契約状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「契約中」が設定されます。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「Contract」です。	◎
EndDate	―	契約終了日	date	契約の終了日です。	○
Explanation	―	説明	string[255]	契約の説明です。	△
GroupID	―	部署 ID	string[64]	部署名を識別するユニークな ID です。	△
MonthlyPrice	―	契約料（月額）	string[15]	月額の契約料です。	△
RenewalTimes	●	回数	uint32	契約を更改した回数です。	○
StartDate	―	契約開始日	date	契約の開始日です。	○
TotalPrice	―	契約料（総額）	string[15]	契約料の総額です。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Area_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 契約種別

コード	表示文字列
100	保守契約
200	リース契約
300	レンタル契約

- 契約対象

コード	表示文字列
001	機器

コード	表示文字列
002	ソフトウェア

- 契約状態

コード	表示文字列
001	契約中
501	満了
999	抹消

13.2.6 ContractAssetHistory（契約資産履歴）

契約履歴の対象資産の情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできません。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。

ContractAssetHistory のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-9 ContractAssetHistory のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
AssetID	●	資産 ID	uint32	契約対象の資産の資産 ID です。
AssetNo	－	資産番号	string[60]	契約対象の資産の資産番号です。
ContractID	●	契約 ID	uint32	対応する契約の契約 ID です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「ContractAssetHistory」です。
RenewalDate	－	更改日時	date	契約の更改日時です。
RenewalTimes	●	回数	uint32	対応する契約の契約更改の回数です。

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ

13.2.7 ContractCatalog（契約会社カタログ）

契約会社の情報を管理するクラスです。

このクラスは，jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

ContractCatalog のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-10　ContractCatalog のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	―	住所	string[255]	契約会社の住所です。	△
Company	―	契約会社	string[255]	契約会社の名称です。	○
ContactInfo	―	連絡先	string[255]	契約会社の連絡先です。	△
ContactInfo_2 ※	―	連絡先 2	string[255]		△
ContactInfo_3 ※	―	連絡先 3	string[255]		△
ContactName	―	担当者名	string[255]	契約会社の担当者です。	△
ContactName_2 ※	―	担当者名 2	string[255]		△
ContactName_3 ※	―	担当者名 3	string[255]		△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「ContractCatalog」です。	◎
HistoryUpdateDate	●	更新日時	date	契約内容の更新日です。	◎
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.8 ContractHistory（契約履歴）

契約情報の更改履歴を管理するクラスです。対応する契約情報の更改内容を履歴として管理します。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできません。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。

ContractHistory のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-11 ContractHistory のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
Address	－	住所	string[255]	対応する契約情報の更改後の住所です。
Company	－	契約会社	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約会社です。
ContactInfo	－	連絡先	string[255]	対応する契約情報の更改後の連絡先です。
ContactInfo_2	－	連絡先 2	string[255]	対応する契約情報の更改後の連絡先 2 です。
ContactInfo_3	－	連絡先 3	string[255]	対応する契約情報の更改後の連絡先 3 です。
ContactName	－	担当者名	string[255]	対応する契約情報の更改後の担当者名です。
ContactName_2	－	担当者名 2	string[255]	対応する契約情報の更改後の担当者名 2 です。
ContactName_3	－	担当者名 3	string[255]	対応する契約情報の更改後の担当者名 3 です。
Contents	－	契約内容	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約内容です。
ContractDate	－	契約日	date	対応する契約情報の更改後の契約日です。
ContractID	●	契約 ID	uint32	対応する契約情報の更改後の契約 ID です。
ContractKind	－	契約種別	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約種別です。
ContractNo	－	契約番号	string[60]	対応する契約情報の更改後の契約番号です。
ContractObject	－	契約対象	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約対象です。
ContractStatus	－	契約状態	string[255]	対応する契約情報の更改後の契約状態です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	対応する契約情報の更改後の CCN です。

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
EndDate	—	契約終了日	date	対応する契約情報の更改後の契約終了日です。
Explanation	—	説明	string[255]	対応する契約情報の更改後の説明です。
GroupName	—	部署	string[512]	対応する契約情報の更改後の部署です。
MonthlyPrice	—	契約料（月額）	string[15]	対応する契約情報の更改後の契約料（月額）です。
RenewalDate	—	更改日時	date	対応する契約情報の更改後の更改日時です。
RenewalTimes	●	回数	uint32	対応する契約情報の更改後の回数です。
StartDate	—	契約開始日	date	対応する契約情報の更改後の契約開始日です。
TotalPrice	—	契約料（総額）	string[15]	対応する契約情報の更改後の契約料（総額）です。
UserID	—	更新者 ID	string[64]	契約情報を更新したユーザの「ユーザ ID」です。
UserProperty Area_1	—	固有情報 Area-1	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Area-1 です。
UserProperty Area_2	—	固有情報 Area-2	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Area-2 です。
UserProperty Code_1	—	固有情報 Code-1	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Code-1 です。
UserProperty Code_2	—	固有情報 Code-2	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Code-2 です。
UserProperty Field128_1	—	固有情報 Field128-1	string[128]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field128-1 です。
UserProperty Field128_2	—	固有情報 Field128-2	string[128]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field128-2 です。
UserProperty Field255_1	—	固有情報 Field255-1	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field255-1 です。
UserProperty Field255_2	—	固有情報 Field255-2	string[255]	対応する契約情報の更改後の固有情報 Field255-2 です。

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
—：キー以外のプロパティ

13.2.9 GroupInfo（部署情報）

組織に関する情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

GroupInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-12 GroupInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AdGuid	―	ADGUID	string[32]	JP1/NETM/DM のディレクトリ情報の識別子です。	△
CostPriceCode	―	原価コード	string[10]	原価コードです。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「GroupInfo」です。	◎
Explanation	―	説明	string[255]	部署の説明です。	△
FullPathName	―	部署	string[512]	「本社 / 営業部 / 営業 1 課」のように，上位からすべての階層関係を示した部署情報です。	◎
FullPathName_EN	―	部署（英名）	string[512]	「Head Office/Sales Dept./Section1」のように，上位からすべての階層関係を示した英語の部署情報です。	△
GroupCode	―	部署コード	string[10]	部署のコードです。	△
GroupID	●	部署 ID	string[64]	部署を識別するユニークな ID です。	◎
GroupName	―	部署名	string[128]	部署名です。	◎
GroupName_EN	―	部署名（英名）	string[128]	部署の英語名です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「部署 ID」の値が設定されます。	○
ManagedLabel	―	管理ラベル	string[20]	管理ラベルです。	△
UpdateInd	―	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpperLinkID	―	上位部署 ID	string[64]	上位の部署の ID です。	△
UserPropertyArea_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyF ield128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyF ield255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）

○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）

△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.10 HardwareInfo（ハードウェア資産情報）

システム装置，ネットワーク装置，拡張装置など，資産管理システムで扱うすべてのハードウェアに関する情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

HardwareInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-13 HardwareInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CircuitSpeed	―	回線速度	uint32	単位は「kbps」です。	△
ComputerID	―	コンピュータ ID	string[200]	JP1/NETM/DM の管理情報です。インポート時は，新規に登録する際に指定しないでください。	△
CPUClock	―	CPU クロック数	uint32	単位は「MHz」です。	△
CPUNumber	―	CPU 数	uint16	CPU 数です。	△
CPUType	―	CPU	string[5]	「・CPU 種別」を参照してください。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「HardwareInfo」です。	◎
Developer	―	製造者	string[60]	機器の製造者です。	△
HostName	―	ホスト名	string[64]	機器のホスト名です。	△
IPAddress	―	IP アドレス	string[15]	機器の IP アドレスです。IP アドレス管理情報を利用した IP アドレス管理の対象になりません。	△
MACAddress	―	MAC アドレス	string[17]	機器の MAC アドレスです。	△
MachineKind	―	機器種別	string[5]	「・機器種別」を参照してください。業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「PC」が設定されます。	○
MBSAVersion	―	MBSA バージョン	string[200]	機器にインストールされている MBSA のバージョンです。	△
MemorySize	―	メモリサイズ	uint64	単位は「MB」です。	△
Model	―	型式	string[60]	機器の型式です。	△
ModelKind	―	構成種別	string[3]	「・構成種別」を参照してください。	△
MonitorKind	―	モニタ種別	string[3]	「・モニタ種別」を参照してください。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
MonitoringFileEnd	―	DM 操作履歴ファイル終端日時	string[15]	JP1/NETM/DM の操作履歴ファイルごとに含まれる終端日時です。	△
MonitoringFileEntry	―	DM 操作履歴エントリ番号	uint32	JP1/NETM/DM の操作履歴ファイルごとに付けられているエントリ番号です。	△
MonitoringFileStart	―	DM 操作履歴ファイル先頭日時	string[15]	JP1/NETM/DM の操作履歴ファイルごとに含まれる先頭日時です。	△
MonitoringUpdateDate	―	DM 操作履歴更新日付	date	JP1/NETM/DM の操作履歴の取得日付です。	△
MonitorResolution	―	モニタ解像度	string[3]	「・モニタ解像度」を参照してください。	△
MonitorSize	―	モニタサイズ	uint16	モニタのサイズです。	△
Name	―	名称	string[255]	機器の名称です。	△
NNMSelectionName	―	NNM 選択名	string[255]	Network Node Manager の選択名です。	△
NumberOFPort	―	ポート数	uint32	機器のポート数です。	△
OSInfo	―	OS 情報	string[200]	機器の OS 情報です。	△
OSVersion	―	OS バージョン	string[200]	機器の OS バージョンです。	△
RemainHDSize	―	空ディスク容量	uint64	単位は「MB」です。	△
SerialNo	―	製造番号	string[30]	機器の製造番号です。	△
Specification	―	仕様	string[255]	機器の仕様です。	△
TotalHDSize	―	ディスク容量	uint64	単位は「MB」です。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserProperty Area_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Code_3 ※	—	固有情報 Code-3	string[64]		△
UserProperty Code_4 ※	—	固有情報 Code-4	string[64]		△
UserProperty Code_5 ※	—	固有情報 Code-5	string[64]		△
UserProperty Code_6 ※	—	固有情報 Code-6	string[64]		△
UserProperty Date_1 ※	—	固有情報 Date-1	date	日付情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Date_2 ※	—	固有情報 Date-2	date		△
UserProperty Date_3 ※	—	固有情報 Date-3	date		△
UserProperty Date_4 ※	—	固有情報 Date-4	date		△
UserProperty Date_5 ※	—	固有情報 Date-5	date		△
UserProperty Date_6 ※	—	固有情報 Date-6	date		△
UserPropertyField128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△
UserPropertyField32_1 ※	—	固有情報 Field32-1	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField32_2 ※	—	固有情報 Field32-2	string[32]		△
UserPropertyField32_3 ※	—	固有情報 Field32-3	string[32]		△
UserPropertyField32_4 ※	—	固有情報 Field32-4	string[32]		△
UserPropertyField32_5 ※	—	固有情報 Field32-5	string[32]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField32_6 ※	—	固有情報 Field32-6	string[32]		△
UserPropertyField64_1 ※	—	固有情報 Field64-1	string[64]	64 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField64_2 ※	—	固有情報 Field64-2	string[64]		△
UserPropertyField64_3 ※	—	固有情報 Field64-3	string[64]		△
UserPropertyField64_4 ※	—	固有情報 Field64-4	string[64]		△
UserProperty Uint_1 ※	—	固有情報 Uint-1	uint32	数値情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Uint_2 ※	—	固有情報 Uint-2	uint32		△
UserProperty Uint_3 ※	—	固有情報 Uint-3	uint32		△
UserProperty Uint_4 ※	—	固有情報 Uint-4	uint32		△
UserProperty Uint_5 ※	—	固有情報 Uint-5	uint32		△
UserProperty Uint_6 ※	—	固有情報 Uint-6	uint32		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- CPU 種別

コード	表示文字列
00646	intel 80286
00902	intel 80386

コード	表示文字列
01158	intel 80486
01414	Intel Pentium 互換 CPU
04097	Alpha
08193	MIPS
12289	PowerPC
20481	PA-RISC
24577	SPARC
28672	Intel Pentium シリーズ
28673	Intel Pentium
28674	Intel Pentium MMX
28675	Intel Pentium Pro
28676	Intel Pentium II
28677	Intel Pentium II Xeon
28678	Intel Pentium III
28679	Intel Pentium III Xeon
28680	Intel Celeron
28681	Intel Pentium 4
28682	Intel Pentium III-S
28683	Mobile Intel Celeron
28684	Mobile Intel Pentium 4
28685	Intel Xeon
28686	Intel Xeon MP
28687	Mobile Intel Pentium III-M
28688	Intel Genuine
28689	Mobile Genuine Intel
28690	Intel Celeron M
28691	Intel Pentium M
28692	Intel Pentium D
28693	Intel Celeron D
28694	Intel Core2
28695	Intel Core
32768	Intel Pentium 互換 CPU
33025	AMD K6
33026	AMD K6-2
33027	AMD K6-2 3D Now!

コード	表示文字列
33028	AMD K6-III
33029	AMD Athlon
33030	AMD Duron
33031	AMD Athlon MP
33032	AMD Athlon XP
33033	Mobile AMD Athlon 4
33034	Mobile AMD Duron
33035	AMD Duron MP
33036	Mobile AMD Athlon XP-M
33037	AMD Sempron
33038	Mobile AMD Sempron
33281	Cyrix MediaGX
33282	Cyrix MII
33283	Cyrix MediaGXm
33537	IDT WinChip
33793	RISE mP6
34049	Crusoe TM5600
36864	Windows CE 用 CPU
37120	Windows CE 用 CPU（HITACHI）
37121	Hitachi SH-3
37122	Hitachi SH-4
37376	Windows CE 用 CPU（MIPS 系）
37377	MIPS R3000 系
37378	MIPS R4000 系
37632	Windows CE 用 CPU（ARM 系）
37633	ARM720
40960	Intel IA-64 CPU
40961	Intel Itanium
40962	Intel Itanium 2
45056	AMD64 互換 CPU
45057	AMD Opteron
45058	AMD Athlon 64
45059	AMD Athlon 64 FX
45060	Mobile AMD Athlon 64

コード	表示文字列
45061	AMD Athlon 64 X2
45062	AMD Turion 64
99999	その他

- 機器種別

コード	表示文字列
システム装置	
100	PC
101	PC サーバ
102	UNIX
103	UNIX サーバ
拡張装置	
200	ディスプレイ
201	HD
202	CD-R
203	CD-R/W
204	DVD
205	DAT
206	MO
207	プリンタ
ネットワーク装置※	
300	HUB
301	ルータ
302	ネットワークプリンタ
399	ネットワーク機器

注※

Network Node Manager から取得した情報が「PC」,「HUB」,「ルータ」のどれにも当てはまらなかった場合,「ネットワーク機器」という種別で登録されます。

- 構成種別

コード	表示文字列
002	デスクトップ
003	ノート

- モニタ種別

コード	表示文字列
002	ブラウン管
003	液晶

- モニタ解像度

コード	表示文字列
002	640 × 480
003	800 × 600
004	1024 × 768
005	1280 × 1024
006	1600 × 1200
007	1920 × 1440

13.2.11　InstalledInfo（インストールソフトウェア情報）

各機器にインストールされているソフトウェアを管理するクラスです。JP1/NETM/DM で収集したインストールソフトウェア情報を取り込みます。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

InstalledInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-14　InstalledInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledInfo」です。	◎
InfoInd	—	インベントリ取り込み制御	string[3]	「13.2.4　ComponentInfo（コンポーネント情報）」の「・情報識別」を参照してください。業務メニュー「インポート」からのインポートの場合，必ず「1」が設定されます。	○

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
InstalledDate	―	インストール日	date	ソフトウェアのインストール日です。	△
InstalledID	●	インストール ID	uint32	対応するオブジェクトクラス「InstalledList」のインストール ID です。 インポート時は，対応する「InstalledList」と同じ値を指定してください。	◎
ProductID	―	プロダクト ID	string[255]	ソフトウェアのプロダクト ID です。	△
RecordInd	―	履歴識別	uint32	履歴を識別する情報です。「・履歴識別」を参照してください。	△
SoftwareID	―	ソフトウェア ID	string[255]	コンポーネント情報とリンクするソフトウェアの ID です。	△
UpdateInd	―	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。「・更新識別」を参照してください。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserProperty Area_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyF ield128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyF ield255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。
ただし，JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得したインストールソフトウェア情報に管理項目を追加すると，インベントリ情報に含まれなくなっても，インストールされているソフトウェアとしての情報は削除されないため，注意してください。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 履歴識別

コード	意味
1	JP1/NETM/DM のインベントリ情報の取り込みによって更新された情報
2	Asset Information Manager の操作画面で更新された情報
（なし）	資産管理データベースの移行またはインポートによって更新された情報

- 更新識別

コード	意味
1	JP1/NETM/DM のシステム情報
2	JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報
3	JP1/NETM/DM のソフトウェアインベントリ情報
（なし）	Asset Information Manager の操作画面で入力した情報

13.2.12 InstalledList（インストールソフトウェアリスト）

購入したソフトウェア名と JP1/NETM/DM で収集したインストールソフトウェアの名称を対応づけた情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

InstalledList のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-15 InstalledList のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledList」です。	◎
FileDate	―	ファイル日付	string[19]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルの日付です。	△
FileName	―	ファイル名	string[255]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイル名です。	△
FileSize	―	ファイルサイズ	string[10]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイルサイズです。単位はバイトです。	△
InstalledID	●	インストール ID	uint32	インストールされているソフトウェアを識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
InstalledInd	―	管理レベル	string[3]	「・管理レベル」を参照してください。 ライセンス数の管理対象とするかどうかを示します。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「管理対象」が設定されます。	◎
InstalledKind	―	種別	string[3]	「・種別」を参照してください。 業務メニューから「インポート」インポートする場合，設定を省略すると，「一般ソフト」が設定されます。	◎
InstalledName	―	インストールソフトウェア名	string[255]	JP1/NETM/DM が管理するソフトウェア名です。	△
InstalledPermit	―	許可	string[3]	「・許可」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「許可する」が設定されます。	◎
InstalledVersion	―	バージョン	string[60]	JP1/NETM/DM が管理するソフトウェアバージョンです。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
PackageAttr	―	パッケージ元属性	string[1]	JP1/NETM/DM が管理するパッケージャタイプです。「・パッケージ元属性」を参照してください。	△
PackageID	―	パッケージ識別 ID	string[44]	JP1/NETM/DM が管理するパッケージ識別 ID です。	△
SoftwareListID	―	ソフトウェアリスト ID	uint32	ソフトウェア名を割り当てる際に対応するソフトウェアのソフトウェアリスト ID です。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ

△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 管理レベル

コード	表示文字列
1	管理対象
2	集計対象外
3	管理対象外

インポート時に「2」を指定すると，ライセンス集計での利用数にカウントされません。インストールされているソフトウェアとして，情報は参照できます。
「3」を指定すると，インベントリ情報を更新しても，該当するソフトウェア情報は上書きされません。

- 種別

コード	表示文字列
1	一般ソフト
2	Office
3	ウィルス定義
4	OS 情報

- 許可

コード	表示文字列
1	許可する
2	許可しない

- パッケージ元属性

コード	表示文字列
C	UNIX
D	PC

13.2.13 InstalledUpdateRecord（ソフトウェア変更履歴）

機器にインストールされたソフトウェアの変更を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできません。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。

InstalledUpdateRecord のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-16 InstalledUpdateRecord のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledUpdateRecord」です。
Executor	－	実行者	string[255]	インストールされているソフトウェアの情報を操作画面から編集したユーザです。
FileDate	－	ファイル日付	string[19]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルの日付です。
FileName	－	ファイル名	string[255]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイル名です。
FileSize	－	ファイルサイズ	string[10]	インストールされているソフトウェアの実行ファイルのファイルサイズです。単位はバイトです。
HistoryUpdateDate	●	変更日付	date	変更された日付です。
InstalledID	●	インストール ID	uint32	インストールされているソフトウェアを識別するユニークな ID です。
InstalledName	－	インストールソフトウェア名	string[255]	インストールされているソフトウェアの名称です。
InstalledVersion	－	インストールソフトウェアバージョン	string[60]	インストールされているソフトウェアのバージョンです。
LinkKey	●	リンクキー	string[32]	変更されたオブジェクトクラスとのキーとなる値です。
PackageAttr	－	パッケージ元属性	string[1]	JP1/NETM/DM が管理するパッケージャタイプです。「13.2.12 InstalledList（インストールソフトウェアリスト)」の「・パッケージ元属性」を参照してください。
PackageID	－	パッケージ識別 ID	string[44]	JP1/NETM/DM が管理するパッケージ識別 ID です。
UpdateKind	－	変更種別	uint8	「・変更種別」を参照してください。

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

－：キー以外のプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 変更種別

コード	表示文字列
1	追加

コード	表示文字列
2	削除

13.2.14 InstalledVirusDefInfo（ウィルス定義情報）

ウィルス定義の情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

InstalledVirusDefInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-17 InstalledVirusDefInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「InstalledVirusDefInfo」です。	◎
EngineVersion	—	エンジンバージョン	string[255]	機器にインストールしたウィルス対策ソフトウェアのスキャンエンジンのバージョンです。	○
InfoInd	—	インベントリ取り込み制御	string[3]	「13.2.4 ComponentInfo（コンポーネント情報）」の「・情報識別」を参照してください。業務メニュー「インポート」からインポートする場合は，必ず「1」が設定されます。	○
InstalledDate	—	インストール日付	date	ソフトウェアをインストールした日付です。	△
ResidentKind	—	常駐／非常駐	string[3]	「・常駐／非常駐」を参照してください。	△
SoftwareVersion	—	ウィルス対策ソフトウェアバージョン	string[255]	機器にインストールしたウィルス対策ソフトウェアのバージョンです。	○
UpdateInd	—	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
VirusDefName	●	ウィルス対策ソフトウェア名	string[255]	機器にインストールされたウィルス対策ソフトウェア名です。	◎
VirusDefVersion	－	ウィルス定義バージョン	string[255]	機器にインストールされたウィルス定義情報のバージョンです。	○

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 常駐／非常駐

コード	表示文字列
1	常駐
0	非常駐

13.2.15 IPAddress（IP アドレス管理情報）

利用できる IP アドレスを管理するクラスです。IP アドレスを取得する場合に，このクラスに登録されている IP アドレスと関連づけることで，未使用 IP アドレスを管理します。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

IPAddress のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-18 IPAddress のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「IPAddress」です。	◎
IPAddress	●	IP アドレス	string[70]	IP アドレスです。	◎
Purpose	－	用途	string[255]	IP アドレスの用途です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

13.2.16 JobRoleInfo（職権管理情報）

職権情報を管理するクラスです。

このクラスは，jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

JobRoleInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-19 JobRoleInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「JobRoleInfo」です。	◎
Description	―	説明	string[255]	職権の説明です。	△
JobRoleID	●	職権 ID	string[64]	職権を識別するユニークな ID です。	◎
JobRoleName	―	職権名	string[128]	職権名です。	◎
JobRoleName_EN	―	職権名（英名）	string[128]	職権の英語名です。	◎
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

13.2.17　LicenseInfo（ライセンス情報）

ソフトウェアのライセンスに関する詳細情報を管理するクラスです。ライセンス情報に基づいて，機器またはユーザにライセンスを割り当てます。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

LicenseInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-20　LicenseInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「LicenseInfo」です。	◎
Description	―	説明	string[255]	ライセンスの説明です。	△
DownGrade	―	ダウングレード可否	string[3]	「・ダウングレード可否」を参照してください。 ダウングレードソフトウェアにライセンスを適用できるかどうかを示します。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「可」が設定されます。	○
LicenseCategory	―	ライセンス区分	string[3]	「・ライセンス区分」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「マシン許諾」が設定されます。	○
LicenseID	●	ライセンス ID	uint32	ライセンス情報を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
LicenseName	―	ライセンス名	string[255]	ライセンス情報の名称です。	◎
LicenseType	―	ライセンス形態	string[3]	「・ライセンス形態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「マシン許諾ライセンス」が設定されます。	○
Note	―	備考	string[255]	ライセンス情報の備考です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
PurchaseType	—	ライセンス取得方法	string[3]	「・ライセンス取得方法」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「パッケージ」が設定されます。	○
SoftwareListID	—	ソフトウェアリスト ID	uint32	対応するソフトウェア名称の ID です。 インポート時に指定する場合は，対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpGrade	—	アップグレード保証	string[3]	「・アップグレード保証」を参照してください。 契約期間中，常に最新バージョンにアップグレードできるかどうかを示します。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「あり」が設定されます。	○
UserPropertyArea_1 ※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

—：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- ダウングレード可否

コード	表示文字列
001	可
002	不可

- ライセンス区分

コード	表示文字列
100	マシン許諾
200	ユーザ許諾
300	その他

- ライセンス形態

コード	表示文字列
001	マシン許諾ライセンス
002	ユーザ許諾ライセンス
003	サーバライセンス
004	クライアントアクセスライセンス
005	管理ノードライセンス
006	CPU ライセンス
007	セカンドライセンス
008	同時実行ライセンス

- ライセンス取得方法

コード	表示文字列
001	パッケージ
002	プレインストール
003	ボリュームライセンス

- アップグレード保証

コード	表示文字列
001	あり
002	なし

13.2.18 LocationInfo（設置場所情報）

資産の設置場所を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

LocationInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-21 LocationInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	―	住所	string[255]	設置場所の住所です。	△
AreaSize	―	面積	string[255]	単位は「平方メートル」です。	△
Attribute	―	場所属性	string[3]	「・場所属性」を参照してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「LocationInfo」です。	◎
Explanation	―	説明	string[255]	設置場所の説明です。	△
FullPathName	―	設置場所	string[512]	「東京 /A ビル /1F」のように，上位からすべての階層関係を示した設置場所情報です。	◎
FullPathName_EN	―	設置場所（英名）	string[512]	「Tokyo/A building/First floor」のように，上位からすべての階層関係を示した英語の設置場所情報です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「設置場所 ID」の値が設定されます。	△
LocationID	●	設置場所 ID	string[64]	設置場所名を識別するユニークな ID です。	◎
LocationName	―	設置場所名	string[128]	設置場所名です。	◎
LocationName_EN	―	設置場所名（英名）	string[128]	設置場所の英語名です。	○

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UpdateInd	—	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UpperLinkID	—	上位設置場所 ID	string[64]	上位の設置場所名の ID です。	△
UserProperty Area_1 ※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyF ield128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyF ield255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
—：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 場所属性

コード	表示文字列
001	地域

コード	表示文字列
002	建屋
003	フロア
004	エリア
199	その他

13.2.19 MachineCatalog（機器カタログ）

資産情報の名称や型式，機器種別などのハードウェア資産情報をカタログとして管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

MachineCatalog のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-22 MachineCatalog のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CatalogID	●	カタログ ID	uint32	機器カタログを識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
CircuitSpeed	—	回線速度	uint32	単位は「kbps」です。	△
CPUClock	—	CPU クロック数	uint32	単位は「MHz」です。	△
CPUNumber	—	CPU 数	uint16	CPU 数です。	△
CPUType	—	CPU	string[5]	「13.2.10 HardwareInfo（ハードウェア資産情報）」の「・CPU 種別」を参照してください。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「MachineCatalog」です。	◎
Developer	—	製造者	string[60]	機器の製造者です。	△
MachineKind	—	機器種別	string[5]	「13.2.10 HardwareInfo（ハードウェア資産情報）」の「・機器種別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「PC」が設定されます。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
MemorySize	—	メモリサイズ	uint64	単位は「MB」です。	△
Model	—	型式	string[60]	機器の型式です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「デスクトップ」が設定されます。	◎
ModelKind	—	構成種別	string[3]	「13.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・構成種別」を参照してください。	△
MonitorKind	—	モニタ種別	string[3]	「13.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・モニタ種別」を参照してください。	△
MonitorResolution	—	モニタ解像度	string[3]	「13.2.10 HardwareInfo (ハードウェア資産情報)」の「・モニタ解像度」を参照してください。	△
MonitorSize	—	モニタサイズ	uint16	モニタサイズです。	△
Name	—	名称	string[255]	機器の名称です。	◎
NumberOFPort	—	ポート数	uint32	機器のポート数です。	△
PurchasePrice	—	購入金額	string[15]	機器の購入金額です。	△
Specification	—	仕様	string[255]	機器の仕様です。	△
TotalHDSize	—	ディスク容量	uint64	単位は「MB」です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserProperty Area_1 ※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserProperty Code_3 ※	—	固有情報 Code-3	string[64]		△
UserProperty Code_4 ※	—	固有情報 Code-4	string[64]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Code_5 ※	—	固有情報 Code-5	string[64]		△
UserProperty Code_6 ※	—	固有情報 Code-6	string[64]		△
UserProperty Date_1 ※	—	固有情報 Date-1	date	日付情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Date_2 ※	—	固有情報 Date-2	date		△
UserProperty Date_3 ※	—	固有情報 Date-3	date		△
UserProperty Date_4 ※	—	固有情報 Date-4	date		△
UserProperty Date_5 ※	—	固有情報 Date-5	date		△
UserProperty Date_6 ※	—	固有情報 Date-6	date		△
UserPropertyF ield128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyF ield255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△
UserPropertyF ield32_1 ※	—	固有情報 Field32-1	string[32]	32 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyF ield32_2 ※	—	固有情報 Field32-2	string[32]		△
UserPropertyF ield32_3 ※	—	固有情報 Field32-3	string[32]		△
UserPropertyF ield32_4 ※	—	固有情報 Field32-4	string[32]		△
UserPropertyF ield32_5 ※	—	固有情報 Field32-5	string[32]		△
UserPropertyF ield32_6 ※	—	固有情報 Field32-6	string[32]		△
UserPropertyF ield64_1 ※	—	固有情報 Field64-1	string[64]	64 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField64_2 ※	—	固有情報 Field64-2	string[64]		△
UserPropertyField64_3 ※	—	固有情報 Field64-3	string[64]		△
UserPropertyField64_4 ※	—	固有情報 Field64-4	string[64]		△
UserPropertyUint_1 ※	—	固有情報 Uint-1	uint32	数値情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyUint_2 ※	—	固有情報 Uint-2	uint32		△
UserPropertyUint_3 ※	—	固有情報 Uint-3	uint32		△
UserPropertyUint_4 ※	—	固有情報 Uint-4	uint32		△
UserPropertyUint_5 ※	—	固有情報 Uint-5	uint32		△
UserPropertyUint_6 ※	—	固有情報 Uint-6	uint32		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
—：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.20 Maintenance（保守履歴）

資産の保守履歴を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

Maintenance のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-23 Maintenance のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	―	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	△
AssetNo	―	資産番号	string[60]	対応する資産の資産番号です。	△
CompletingDate	―	対策完了日	date	資産の保守が完了した日です。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「Maintenance」です。	◎
EventHost	―	イベント発行ホスト名	string[255]	イベント発行元のホスト名です。	△
EventNo	―	JP1/Base イベント通し番号	string[255]	JP1 イベントに対して JP1/Base が付与する，イベントデータベース内での通し番号です。	△
ExecutionHost	―	JP1/IM 実行元ホスト	string[255]	JP1/IM の実行元ホストの名称です。	△
Expense	―	費用	string[15]	資産の保守費用です。	△
IDMHost	―	JP1/IM - IDM 登録元ホスト	string[255]	JP1/IM - IDM と連携する場合の JP1/IM - IDM のホスト名です。	△
IDMInfo	―	JP1/IM - IDM 識別情報	string[64]	JP1/IM - IDM との連携時に JP1/IM - IDM から通知される識別情報です。	△
Importance	―	重大度	string[3]	「・重大度」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「緊急」が設定されます。	○
MaintenanceDate	―	登録日	date	保守履歴の登録日です。	○
MaintenanceHost	―	障害発生ホスト	string[255]	障害が発生したホストの IP アドレスまたはホスト名です。	△
MaintenanceID	●	保守履歴 ID	uint32	保守履歴を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
MaintenanceKind	―	障害種別	string[3]	「・障害種別」を参照してください。	○

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
MaintenanceStatus	―	保守状態	string[3]	「・保守状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「障害中」が設定されます。	◎
ManagedNo	―	管理番号	string[60]	資産の保守履歴の管理番号です。	◎
MeasureContents	―	対策内容	string[1,024]	資産の保守の対策内容です。	△
Note	―	備考	string[255]	保守履歴の備考です。	△
ObstacleContents	―	障害内容	string[1,024]	資産の障害内容です。	○
ReferenceData	―	参考資料 (URL)	string[1,024]	資産の保守に関する参考資料です。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserName	―	登録者名	string[255]	障害情報の登録者名です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，ログインユーザ名（jamCsvImport.bat 実行時は資産管理名）が設定されます。	○
UserPropertyArea_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Worker	―	作業者	string[255]	保守の作業者です。	△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）

○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）

△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 重大度

コード	表示文字列
001	緊急
002	警戒
003	致命的
004	エラー
005	警告
006	通知
007	情報
008	デバッグ

- 障害種別

コード	表示文字列
001	JP1 イベント
002	SNMP トラップ
100	ユーザ登録

- 保守状態

コード	表示文字列
001	障害中
002	連絡済
003	修理中
901	対策済

13.2.21　NetworkInfo（ネットワーク情報）

各機器のネットワーク上の位置を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

NetworkInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-24　NetworkInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
ComputerName	—	コンピュータ名	string[255]	コンピュータの名称です。	△
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「NetworkInfo」です。	◎
DefaultGateway	—	デフォルトゲートウェイ	string[70]	デフォルトのゲートウェイです。	△
DHCPServerName	—	DHCP サーバ名	string[255]	DHCP サーバ名です。	△
GlobalIPAddress	—	グローバル IP アドレス	string[70]	グローバル IP アドレスです。	△
InfoInd	—	インベントリ取り込み制御	string[3]	「13.2.4　ComponentInfo（コンポーネント情報）」の「・情報識別」を参照してください。業務メニュー「インポート」からインポートする場合は，必ず「1」が設定されます。	○
IPAddress	—	IP アドレス	string[70]	IP アドレスです。インポート時に更新する場合は，アソシエーションクラス「IPAddressLink」から更新前の IP アドレスを削除し，更新後の IP アドレスを登録して，関連づけも更新してください。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
IPAddressKind	―	IP アドレス種別	string[3]	「・IP アドレス種別」を参照してください。 「IPv4」で登録する場合は，アソシエーションクラス「IPAddressLink（IP アドレスの状態管理）」をインポートする必要があります。	△
MACAddress	―	MAC アドレス	string[17]	MAC アドレスです。	△
NetworkID	●	ネットワーク情報 ID	uint32	ネットワーク情報を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
NodeName	―	ノード名（ホスト名）	string[255]	ノード名（ホスト名）です。	△
PortInfo	―	ポート情報	string[255]	ポート情報です。	△
SubnetMask	―	サブネットマスク	string[70]	IP アドレスのサブネットマスクです。	△
UpdateInd	―	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- IP アドレス種別

コード	表示文字列
001	IPv4
002	IPv6

13.2.22　PatchInfo（パッチ情報）

パッチの情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

PatchInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-25　PatchInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「PatchInfo」です。	◎

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
InfoInd	－	インベントリ取り込み制御	string[3]	「13.2.4 ComponentInfo（コンポーネント情報）」の「・情報識別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合は，必ず「1」が設定されます。	○
InstalledDate	－	インストール日	date	パッチをインストールした日付です。	△
InstalledStatus	－	適用状態	string[3]	「・適用状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「適用」が設定されます。	○
PatchID	●	パッチ ID	uint32	検索条件を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
UpdateInd	－	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 適用状態

コード	表示文字列
101	適用
102	未適用

13.2.23 PatchList（パッチリスト）

パッチの名称を対応づけた情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできま

す。

PatchList のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-26 PatchList のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「PatchList」です。	◎
PatchID	●	パッチ ID	uint32	パッチ ID です。	◎
PatchName	―	パッチ名	string[255]	パッチの名称です。	○
PatchVersion	―	バージョン	string[60]	パッチのバージョンです。	○
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

13.2.24 ProgramHistory（プログラム起動履歴）

プログラム起動履歴を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできません。

このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。

ProgramHistory のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-27 ProgramHistory のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「ProgramHistory」です。
HistoryNo	●	履歴番号	uint32	レコードをユニークにするためのカウンタです。
LoginUser	―	ログインユーザ	string[255]	ログインユーザです。
ProgramKind	―	種別	string[3]	「・種別」を参照してください。
ProgramName	―	プログラム名	string[260]	プログラム名です。

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
ProgramVersion	－	プログラムバージョン	string[60]	プログラムバージョンです。
Time	●	発生日時	date	プログラムが起動または停止した日時です。

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 種別

コード	表示文字列
001	プログラム起動
002	プログラム停止

13.2.25 RoleInfo（権限管理情報）

資産管理システムでのユーザの役割を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

RoleInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-28 RoleInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「RoleInfo」です。	◎
Link	－	画面リンク	string[255]	ログイン後に表示される画面の URL です。	◎
ManagedLabel	－	管理ラベル	string[20]	組織階層単位でアクセス制限を行う場合に，部署とユーザ権限にペアで設定する任意の文字列です。	△
RoleID	●	権限 ID	string[64]	権限を識別するユニークな ID です。	◎
RoleName	－	権限名	string[128]	権限名です。	◎

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
RoleName_EN	―	権限名（英名）	string[128]	権限の英語名です。	△
SystemInd	―	システム識別	uint8	「・システム識別」を参照してください。	◎
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

• システム識別

コード	表示文字列
0	ユーザ情報（削除可）
1	システム情報（削除不可）

インポートで新規に登録する場合は，「0」を指定してください。
また，インポート時に「1」の情報を削除しないでください。

13.2.26　SoftwareInfo（ソフトウェア資産情報）

商用ソフトウェア，シェアウェア，フリーウェアなど，資産管理システムで扱うすべてのソフトウェアに関する情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

SoftwareInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-29　SoftwareInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「SoftwareInfo」です。	◎
LicenseID	—	ライセンス ID	uint32	対応するオブジェクトクラス「LicenseInfo」のライセンス ID です。 インポート時は，対応する「LicenseInfo」と同じ値を指定してください。	△
NumberOFLicense	—	数量	uint32	ソフトウェアのライセンス数です。 無制限ライセンスの場合，インポート時は NULL を指定してください。	○
NumberOFPoint	—	購入ポイント数	uint32	ボリュームライセンスで購入した場合の，各ソフトウェアで決められたポイントです。	△
SoftwareListID	—	ソフトウェアリスト ID	uint32	対応するソフトウェアのソフトウェアリスト ID です。 インポート時は，対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserPropertyArea_1 ※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.27 SoftwareKeyInfo（ソフトウェアキー情報）

ソフトウェアのライセンスを機器またはユーザに割り当てる際の，キーとなる情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

SoftwareKeyInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-30 SoftwareKeyInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「SoftwareKeyInfo」です。	◎
KeyID	●	キー ID	uint32	ソフトウェアキー情報を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように指定してください。	◎
LicenseKey	－	ライセンスキー	string[255]	ライセンスキーです。	○
Note	－	備考	string[255]	ソフトウェアキー情報の備考です。	○
ProductID	－	プロダクト ID	string[255]	プロダクト ID です。	△
SirialNo	－	シリアル No.	string[255]	シリアル No. です。	○
SoftAssetID	－	資産 ID	uint32	対応するソフトウェアの資産 ID です。 インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
UpdateTime	－	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Area_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.28 SoftwareList（ソフトウェアリスト）

購入したソフトウェア名をリスト管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

SoftwareList のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-31 SoftwareList のプロパティー覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClass Name	●	CCN	string[32]	「SoftwareList」です。	◎
Developer	―	製造者	string[60]	ソフトウェアの製造者です。	△
DownSoftware ListID1	―	ダウングレードソフトウェア ID1	uint32	ダウングレードソフトウェアとして登録したソフトウェアの ID です。 インポート時は，対応するオブジェクトクラス「SoftwareList」と同じ値を指定してください。	△
DownSoftware ListID2	―	ダウングレードソフトウェア ID2	uint32		△
DownSoftware ListID3	―	ダウングレードソフトウェア ID3	uint32		△
DownSoftware ListID4	―	ダウングレードソフトウェア ID4	uint32		△
DownSoftware ListID5	―	ダウングレードソフトウェア ID5	uint32		△
DownSoftware ListID6	―	ダウングレードソフトウェア ID6	uint32		△
DownSoftware ListID7	―	ダウングレードソフトウェア ID7	uint32		△
DownSoftware ListID8	―	ダウングレードソフトウェア ID8	uint32		△
DownSoftware ListID9	―	ダウングレードソフトウェア ID9	uint32		△
DownSoftware ListID10	―	ダウングレードソフトウェア ID10	uint32		△
DownSoftware ListID11	―	ダウングレードソフトウェア ID11	uint32		△
DownSoftware ListID12	―	ダウングレードソフトウェア ID12	uint32		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
DownSoftwareListID13	―	ダウングレードソフトウェア ID13	uint32		△
DownSoftwareListID14	―	ダウングレードソフトウェア ID14	uint32		△
DownSoftwareListID15	―	ダウングレードソフトウェア ID15	uint32		△
DownSoftwareListID16	―	ダウングレードソフトウェア ID16	uint32		△
DownSoftwareListID17	―	ダウングレードソフトウェア ID17	uint32		△
DownSoftwareListID18	―	ダウングレードソフトウェア ID18	uint32		△
DownSoftwareListID19	―	ダウングレードソフトウェア ID19	uint32		△
DownSoftwareListID20	―	ダウングレードソフトウェア ID20	uint32		△
SoftwareKind	―	ソフトウェア種別	string[3]	「・ソフトウェア種別」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「商用」が設定されます。	◎
SoftwareListID	●	ソフトウェアリスト ID	uint32	ソフトウェア名を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
SoftwareName	―	ソフトウェア名	string[255]	ソフトウェアの名称です。	◎
Threshold	―	しきい値	uint8	タスク「ライセンス超過通知」で，ライセンスの保有数を超えたことが通知されるしきい値です。 %（パーセント）で指定します。	△
UpdateTime	―	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
UserProperty Area_1 ※	―	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	―	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	―	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	―	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	―	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	―	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	―	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	―	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

―：キー以外のプロパティ

◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ

△：任意に指定するプロパティ

注※

拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- ソフトウェア種別

コード	表示文字列
100	商用
101	シェアウェア
200	フリーウェア

13.2.29 SoftwareWorkInfo（ソフトウェア稼働情報）

JP1/Lan Licenser で収集したソフトウェア稼働情報を管理するクラスです。

このクラスは，jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

このクラスをインポートする場合は，次の点に注意してください。

インポート時の注意事項

プロパティ「WorkTimeMonth_1」～「WorkTimeMonth_18」では，最新の稼働情報を取得した月から過去 18 か月分の稼働情報を管理します。「WorkTimeMonth_1」～「WorkTimeMonth_18」には，「WorkTimeMonth_1」から新しい稼働情報を順番に指定していきます。「WorkTimeMonth_18」まで使用したら「WorkTimeMonth_1」に戻って稼働情報を指定します。つまり，最新の月の稼働時間を「WorkTimeMonth_1」に指定した場合，その前月の稼働情報は「WorkTimeMonth_18」になります。

また，「WorkTimeMonth_1」～「WorkTimeMonth_18」に指定した稼働時間の年月を特定するために，次の図に示すデータファイルを作成し，最新の月の稼働時間を指定した位置および通算月を設定します。データファイルは，クラス名として「FunctionInfo」を指定し，jamimport コマンドを実行してインポートします。インポートの方法については，「7.1　CSV データの登録（インポート）」を参照してください。

図 13-2　最新の稼働情報の位置と年月を特定するデータファイル

```
OP,CreationClassName,FunctionID,ExtendID,Value01,Value02
c,FunctionInfo,SoftwareWorkInfo,Current,通算月,位置
```

通算月

SoftwareWorkInfo のインポートで指定したデータの最新の月が，2000 年 1 月を「1」として通算何月目に当たるかを数字で指定します。例えば，最新の稼働時間が 2003 年 7 月のデータの場合，「43」を入力します。

位置

SoftwareWorkInfo のインポート時に，最新の稼働時間を指定したプロパティ「WorkTimeMonth_n」の「n」の数字を指定します。

SoftwareWorkInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-32 SoftwareWorkInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。インポート時は，対応するオブジェクトクラス「AssetInfo」と同じ値を指定してください。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「SoftwareWorkInfo」です。	◎
LLSoftwareName	●	稼働ソフトウェア名	string[255]	JP1/Lan Licenser が管理するソフトウェア名です。	◎
UpdateInd	—	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
WorkTimeMonth_1	—	第 1 月	uint32	1 か月の合計稼働時間（分）です。	△
WorkTimeMonth_2	—	第 2 月	uint32		△
WorkTimeMonth_3	—	第 3 月	uint32		△
WorkTimeMonth_4	—	第 4 月	uint32		△
WorkTimeMonth_5	—	第 5 月	uint32		△
WorkTimeMonth_6	—	第 6 月	uint32		△
WorkTimeMonth_7	—	第 7 月	uint32		△
WorkTimeMonth_8	—	第 8 月	uint32		△
WorkTimeMonth_9	—	第 9 月	uint32		△
WorkTimeMonth_10	—	第 10 月	uint32		△
WorkTimeMonth_11	—	第 11 月	uint32		△
WorkTimeMonth_12	—	第 12 月	uint32		△
WorkTimeMonth_13	—	第 13 月	uint32		△
WorkTimeMonth_14	—	第 14 月	uint32		△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
WorkTimeMonth_15	―	第 15 月	uint32		△
WorkTimeMonth_16	―	第 16 月	uint32		△
WorkTimeMonth_17	―	第 17 月	uint32		△
WorkTimeMonth_18	―	第 18 月	uint32		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

13.2.30 UpdateRecord（変更履歴）

機器のメモリサイズやディスク容量の変更を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできません。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。

UpdateRecord のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-33 UpdateRecord のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
AfterValue	―	変更後	string[512]	変更後の値です。
BeforeValue	―	変更前	string[512]	変更前の値です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「UpdateRecord」です。
HistoryUpdateDate	●	変更日付	date	変更された日付です。
IndicationItemKey	●	表示項目キー	string[255]	変更された項目のキーとなる値です。
LinkClass	―	リンククラス	string[32]	変更された項目のオブジェクトクラスです。
LinkKey	●	リンクキー	string[32]	変更されたオブジェクトクラスとのキーとなる値です。
SubLinkKey	●	サブリンクキー	string[32]	変更されたオブジェクトクラスが二つのキーで構成されている場合に，2 番目のキーとなる値です。

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
UpdateRecordId	―	レコード識別	uint8	「・レコード識別」を参照してください。 更新の種類を表します。

（凡例）
●：キーとなるプロパティ
―：キー以外のプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

• レコード識別

コード	表示文字列
1	追加
2	更新
3	削除

13.2.31　UserInfo（ユーザ管理情報）

資産管理システムを利用するユーザを管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

このクラスをインポートして，ユーザに対して権限を登録するには，アソシエーションクラス「AuthorityLink（ユーザ情報と権限情報）」もインポートしてください。登録したユーザに権限を与えることで，Asset Information Manager にログインできるようになります。

また，ユーザが所属する部署を登録するには，アソシエーションクラス「MemberLink（ユーザ情報と部署情報）」をインポートしてください。

UserInfo のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-34　UserInfo のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「UserInfo」です。	◎

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
ExecutiveName	—	役職名	string[255]	ユーザの役職名です。	△
Explanation	—	説明	string[255]	ユーザの説明です。	△
Mail	—	メールアドレス	string[255]	ユーザのメールアドレスです。	△
Password	—	パスワード	string[64]	ユーザのパスワードです。	◎
Telephonenumber	—	電話番号	string[255]	ユーザの電話番号です。	△
UpdateInd	—	更新識別	uint32	資産管理システムで使用する情報です。更新しないでください。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserID	●	ユーザ ID	string[64]	ユーザを識別するユニークな ID です。	◎
UserName	—	ユーザ名	string[255]	ユーザ名です	◎
UserName_EN	—	ユーザ名（英名）	string[255]	ユーザの英語名です。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「ユーザ ID」の値が設定されます。	△
UserPropertyArea_1 ※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserPropertyArea_2 ※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserPropertyCode_1 ※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyCode_2 ※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

13.2.32　VolumeContract（ボリューム契約情報）

ソフトウェアのボリュームライセンスの情報を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできます。jamCsvImport.bat でインポートする場合は，業務メニュー「インポート」からインポートする場合の説明を参照してください。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定することもできます。

VolumeContract のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-35　VolumeContract のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
Address	－	住所	string[255]	契約先の住所です。	△
Company	－	契約会社	string[255]	契約会社名です。	△
ContactInfo	－	連絡先	string[255]	契約会社の連絡先です。	△
ContactName	－	担当者名	string[255]	契約会社の担当者名です。	△
Contents	－	契約内容	string[255]	契約内容です。	△
ContractDate	－	契約日	date	契約日です。	△
ContractID	●	契約 ID	uint32	契約を識別するユニークな ID です。 インポートで新規に登録する場合は，10001 ～ 1000000000 の範囲で，ユニークになるように採番してください。	◎
ContractKind	－	契約種別	string[3]	「・契約種別」を参照してください。	△
ContractNo	－	契約番号	string[30]	契約番号です。	○
ContractObject	－	対象製品	string[3]	「・対象製品」を参照してください。	△

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考	jamimport での指定
ContractStatus	—	契約状態	string[3]	「・契約状態」を参照してください。 業務メニュー「インポート」からインポートする場合，設定を省略すると，「契約中」が設定されます。	◎
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「VolumeContract」です。	◎
EndDate	—	契約終了日	date	契約の終了日です。	△
Explanation	—	説明	string[255]	契約の説明です。	△
GroupID	—	部署 ID	string[64]	部署名を識別するユニークな ID です。	△
MonthlyPrice	—	契約料（月額）	string[15]	月額の契約料です。	△
StartDate	—	契約開始日	date	契約の開始日です。	△
TargetPoint	—	目標ポイント数	uint32	ボリュームライセンス契約時に決めた目標ポイント数です。	△
TotalPrice	—	契約料（総額）	string[15]	契約料の総額です。	△
UpdateTime	—	更新制御情報	string[20]	情報の同時更新を制御する情報です。	△
UserProperty Area_1 ※	—	固有情報 Area-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。 操作画面では，複数行の文字列を指定できます。	△
UserProperty Area_2 ※	—	固有情報 Area-2	string[255]		△
UserProperty Code_1 ※	—	固有情報 Code-1	string[64]	コード情報を管理できる項目です。	△
UserProperty Code_2 ※	—	固有情報 Code-2	string[64]		△
UserPropertyField128_1 ※	—	固有情報 Field128-1	string[128]	128 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField128_2 ※	—	固有情報 Field128-2	string[128]		△
UserPropertyField255_1 ※	—	固有情報 Field255-1	string[255]	255 バイトまでの情報を管理できる項目です。	△
UserPropertyField255_2 ※	—	固有情報 Field255-2	string[255]		△

（凡例）

●：キーとなるプロパティ
－：キー以外のプロパティ
◎：新規登録時に必ず指定するプロパティ（省略するとエラーになる）
○：新規登録時に指定を推奨するプロパティ（省略してもエラーにはならない）
△：任意に指定するプロパティ

注※
拡張用のプロパティです。業務メニュー「管理項目編集」で，このプロパティの表示名を編集し，表示させる設定にすることで，管理項目を追加できます。

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 契約種別

コード	表示文字列
001	Select
002	OpenVolume

- 対象製品

コード	表示文字列
001	アプリケーション製品
002	サーバ製品
003	システム製品

- 契約状態

コード	表示文字列
001	契約中
501	満了
999	抹消

13.2.33　WindowTitleHistory（ウィンドウタイトル変更履歴）

ウィンドウタイトルの変更履歴を管理するクラスです。

このクラスは，インポートおよびエクスポートできません。

また，このクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。

WindowTitleHistory のプロパティ一覧を次の表に示します。

表 13-36　WindowTitleHistory のプロパティ一覧

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
Account	―	アカウント	string[255]	アカウントです。

プロパティ	キー	内容	型 [最大長 (バイト)]	備考
AssetID	●	資産 ID	uint32	対応する資産の資産 ID です。
CreationClassName	●	CCN	string[32]	「WindowTitleHistory」です。
HistoryNo	●	履歴番号	uint32	レコードをユニークにするためのカウンタです。
LoginUser	—	ログインユーザ	string[255]	ログインユーザです。
ProgramName	—	プログラム名	string[260]	プログラム名です。
ProgramVersion	—	プログラムバージョン	string[60]	プログラムバージョンです。
Time	●	発生日時	date	ウィンドウが表示された日時です。
WindowTitle	—	ウィンドウタイトル	string[255]	ウィンドウタイトルです。
WindowTitleKind	—	種別	string[3]	「・種別」を参照してください。

（凡例）

●：キーとなるプロパティ

—：キー以外のプロパティ

プロパティのコードの詳細を次に示します。

- 種別

コード	表示文字列
001	キャプション変更
002	アクティブウィンドウ変更

13.3　アソシエーションクラスのプロパティー覧

この節では，インポートおよびエクスポートできるアソシエーションクラスについて説明します。Asset Information Manager 固有のアソシエーションクラスが表すクラス間の関連を示します。

- 多重度の「1」は，必ず一つの関連を持つことを表します。また，「0..n（n は 0 以上の整数）」は，関連がないか，一つ以上の関連を持つことを表します。
- 各アソシエーションクラスは，jamimport コマンドでのインポートおよび jamexport コマンドでのエクスポートができます。インポートの方法については，「7.1　CSV データの登録（インポート）」を，エクスポートの方法については，「7.2　CSV データの出力（エクスポート）」を参照してください。
- 各アソシエーションクラスは，ユーザレポートを作成する際，検索条件に指定できます。ユーザレポート作成方法については，「9.5　定型業務に合わせた操作画面の追加（ユーザレポート作成）」を参照してください。

13.3.1　AuthorityLink（ユーザ情報と権限情報）

ユーザと所属を関連づけるクラスです。

表 13-37　AuthorityLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
UserInfo	UserID	0..n
RoleInfo	RoleID	1

13.3.2　ContractLeaseLink（リース契約と資産情報）

機器とリース契約情報を関連づけるクラスです。

表 13-38　ContractLeaseLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
Contract	ContractID	1
AssetInfo	AssetID	0..n

13.3.3　ContractMaintenanceLink（保守契約と資産情報）

機器と保守契約を関連づけるクラスです。

表 13-39 ContractMaintenanceLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
Contract	ContractID	1
AssetInfo	AssetID	0..n

13.3.4 ContractRentalLink（レンタル契約と資産情報）

機器とレンタル契約を関連づけるクラスです。

表 13-40 ContractRentalLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
Contract	ContractID	1
AssetInfo	AssetID	0..n

13.3.5 IPAddressLink（IP アドレスの状態管理）

ネットワーク情報と IP アドレスを関連づけるクラスです。

表 13-41 IPAddressLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
IPAddress	IPAddress	1
NetworkInfo	AssetID	0..n
NetworkInfo	NetworkID	0..n

13.3.6 JobRoleLink（ユーザ情報と職権情報）

ユーザと職権を関連づけるクラスです。

表 13-42 JobRoleLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
JobRoleInfo	JobRoleID	0..n
UserInfo	UserID	0..n

13.3.7 MachinePermitLink（資産情報とソフトウェアキー情報）

ライセンスとライセンスを割り当てた機器を関連づけるクラスです。

表 13-43　MachinePermitLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
AssetInfo	AssetID	1
SoftwareKeyInfo	KeyID	0..n
SoftwareKeyInfo	SoftAssetID	0..n

13.3.8　MemberLink（ユーザ情報と部署情報）

ユーザと所属する組織を関連づけるクラスです。このアソシエーションクラスは，業務メニュー「インポート」からのインポートと，業務メニュー「エクスポート」からのエクスポートができます。インポートまたはエクスポートする際は，「GroupID」と「UserID」の両方が，条件を作成する際に任意の指定項目となります。

表 13-44　MemberLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
GroupInfo	GroupID	1
UserInfo	UserID	0..n

13.3.9　UserPermitLink（ユーザ情報とソフトウェアキー情報）

ライセンスとライセンスを割り当てたユーザを関連づけるクラスです。

表 13-45　UserPermitLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
SoftwareKeyInfo	KeyID	0..n
SoftwareKeyInfo	SoftAssetID	0..n
UserInfo	UserID	1

13.3.10　VolumeContractLink（ボリューム契約と資産情報）

ボリューム契約とソフトウェアを関連づけるクラスです。

表 13-46　VolumeContractLink が関連づけるクラス一覧

関連先クラス	キープロパティ	多重度
AssetInfo	AssetID	0..n
VolumeContract	ContractID	1

13.4 業務メニューからのインポートおよびエクスポートの対象となる項目

業務メニュー「インポート」および「エクスポート」では，「資産種別」から目的の情報を選択します。そのため，選択した「資産種別」によって対象となる項目が異なります。対象となる項目は，jamCsvImport.bat でのインポートおよび jamCsvExport.bat でのエクスポートでも同じです。

「資産種別」として選択できる情報の種類と，それぞれの対象となるクラスを次の表に示します。

表 13-47 「資産種別」の種類と対象となるクラス

資産種別	資産情報	クラス
機器に関する情報	資産情報	AssetInfo
	ハードウェア資産情報	HardwareInfo
	ネットワーク情報	NetworkInfo
インストールソフトウェア情報	資産情報	AssetInfo
	インストールソフトウェア情報	InstalledInfo
	インストールソフトウェアリスト	InstalledList
インストールソフトウェアリスト	インストールソフトウェアリスト	InstalledList
	ソフトウェアリスト	SoftwareList
ソフトウェア情報	資産情報	AssetInfo
	ソフトウェア資産情報	SoftwareInfo
	ソフトウェアキー情報	SoftwareKeyInfo
	ソフトウェアリスト	SoftwareList
	ライセンス情報	LicenseInfo
ソフトウェアリスト	ソフトウェアリスト	SoftwareList
組織管理情報	部署情報	GroupInfo
ユーザ管理情報	ユーザ管理情報	UserInfo
	部署情報	GroupInfo
	職権管理情報	JobRoleInfo
	ユーザ情報と部署情報	MemberLink
	ユーザ情報と権限情報	AuthorityLink
	ユーザ情報と職権情報	JobRoleLink
設置場所情報	設置場所情報	LocationInfo
保守契約情報	契約情報	Contract

資産種別	資産情報	クラス
	資産情報	AssetInfo
	保守契約と資産情報	ContractMaintenanceLink
レンタル契約情報	契約情報	Contract
	資産情報	AssetInfo
	レンタル契約と資産情報	ContractRentalLink
リース契約情報	契約情報	Contract
	資産情報	AssetInfo
	リース契約と資産情報	ContractLeaseLink
ボリューム契約	ボリューム契約情報	VolumeContract
	資産情報	AssetInfo
	ボリューム契約と資産情報	VolumeContractLink
IP グループ情報	IP グループ情報	AddressGroup
	IP アドレス管理情報	IPAddress
機器カタログ	機器カタログ	MachineCatalog
問題点管理	保守履歴	Maintenance
ライセンス割り当て	資産情報	AssetInfo
	ユーザ管理情報	UserInfo
	ソフトウェア資産情報	SoftwareInfo
	ソフトウェアキー情報	SoftwareKeyInfo
	ソフトウェアリスト	SoftwareList
	資産情報とソフトウェアキー情報	MachinePermitLink
	ユーザ情報とソフトウェアキー情報	UserPermitLink
パッチ情報	資産情報	AssetInfo
	パッチ情報	PatchInfo
	パッチリスト	PatchList
ウィルス定義情報	資産情報	AssetInfo
	ウィルス定義情報	InstalledVirusDefInfo
カスタマイズ（ユーザレポート）※	－	－
カスタマイズ（書式）※	－	－
カスタマイズ（インベントリ定義）※	－	－
カスタマイズ（インポート / エクスポート定義）※	－	－

資産種別	資産情報	クラス
カスタマイズ（案件定義）※	－	－
カスタマイズ（契約履歴）※	－	－

（凡例）
－：該当しない

注※
設定情報が一括してインポートまたはエクスポートされます。内容の編集はできません。

アソシエーションクラスの情報は，インポートする情報に条件がそろっていた場合は，引き当て項目を設定していなくても作成されます。

インポートする項目は，インポートの条件を作成するときに「資産種別」単位で詳細な項目を指定します。インポートの対象となる項目を，「資産種別」ごとに表に示します。なお，業務メニュー「管理項目編集」で非表示に設定されている管理項目は，業務メニュー「インポート」の「管理項目」，および業務メニュー「エクスポート」の「出力可能項目」に表示されません。

13.4.1 資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目

表 13-48 資産種別「機器に関する情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
部署 ID(資産情報)		GroupID	△
部署 (資産情報)		GroupName	△
部署（英名）(資産情報)		GroupName_EN	△
ユーザ ID(資産情報)		UserID	△
ユーザ名 (資産情報)		UserName	△
ユーザ名（英名）(資産情報)		UserName_EN	△
設置場所 ID(資産情報)		LocationID	△
設置場所 (資産情報)		LocationName	△
設置場所（英名）(資産情報)		LocationName_EN	△
稼働管理種別 (資産情報)		AssetWorkKind	◎
機器状態 (資産情報)		AssetStatus	◎
購入金額 (資産情報)		PurchasePrice	△
登録日 (資産情報)		RegistrationDate	◎

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
用途 (資産情報)		Purpose	△
備考 (資産情報)		Note	△
DM 導入状態 (資産情報)		DMStatus	△
変更者 (資産情報)		UpdateUser	△
棚卸日付 (資産情報)		StocktakingDate	△
使用開始日 (資産情報)		StartDate	△
使用終了日 (資産情報)		EndDate	△
DM ハードウェア更新日付 (資産情報)		HrdInvUpdateDate	△
DM ユーザ更新日付 (資産情報)		UsrInvUpdateDate	△
DM パッケージ更新日付 (資産情報)		InsPkgUpdateDate	△
DM ソフトウェア更新日付 (資産情報)		SoftInvUpdateDate	△
LL 更新日付 (資産情報)		LLUpdateDate	△
引き当てキー (資産情報)		InventoryKey	△
NNM 更新日付 (資産情報)		NNMUpdateDate	△
DM 最終更新日付 (資産情報)		DMLastUpdateTime	△
管理部署 ID(資産情報)		ManagerialGroupID	△
管理部署 (資産情報)		ManagerialGroup	△
管理部署（英名）(資産情報)		ManagerialGroup_EN	△
管理者ユーザ ID(資産情報)		ManagerialUserID	△
管理者 (資産情報)		ManagerialUser	△
管理者（英名）(資産情報)		ManagerialUser_EN	△
固有情報 Field32-1(資産情報)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(資産情報)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(資産情報)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(資産情報)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(資産情報)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(資産情報)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field64-1(資産情報)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(資産情報)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field128-1(資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(資産情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(資産情報)		UserPropertyField255_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Area-1(資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(資産情報)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(資産情報)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(資産情報)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(資産情報)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(資産情報)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Date-1(資産情報)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(資産情報)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(資産情報)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(資産情報)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(資産情報)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(資産情報)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(資産情報)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(資産情報)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(資産情報)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(資産情報)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(資産情報)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(資産情報)		UserPropertyUint_6	△
機器種別 (ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	MachineKind	△
製造者 (ハードウェア資産情報)		Developer	△
型式 (ハードウェア資産情報)		Model	△
製造番号 (ハードウェア資産情報)		SerialNo	△
名称 (ハードウェア資産情報)		Name	△
CPU(ハードウェア資産情報)		CPUType	△
CPU クロック数 (ハードウェア資産情報)		CPUClock	△
CPU 数 (ハードウェア資産情報)		CPUNumber	△
メモリサイズ (ハードウェア資産情報)		MemorySize	△
ディスク容量 (ハードウェア資産情報)		TotalHDSize	△
空ディスク容量 (ハードウェア資産情報)		RemainHDSize	△
構成種別 (ハードウェア資産情報)		ModelKind	△
仕様 (ハードウェア資産情報)		Specification	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
モニタ種別 (ハードウェア資産情報)		MonitorKind	△
モニタ解像度 (ハードウェア資産情報)		MonitorResolution	△
モニタサイズ (ハードウェア資産情報)		MonitorSize	△
ポート数 (ハードウェア資産情報)		NumberOFPort	△
回線速度 (ハードウェア資産情報)		CircuitSpeed	△
IP アドレス (ハードウェア資産情報)		IPAddress	△
MAC アドレス (ハードウェア資産情報)		MACAddress	△
ホスト名 (ハードウェア資産情報)		HostName	△
MBSA バージョン (ハードウェア資産情報)		MBSAVersion	△
OS 情報 (ハードウェア資産情報)		OSInfo	△
OS バージョン (ハードウェア資産情報)		OSVersion	△
NNM 選択名 (ハードウェア資産情報)		NNMSelectionName	△
コンピュータ ID(ハードウェア資産情報)		ComputerID	△
固有情報 Field32-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field64-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field64-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_3	△
固有情報 Field64-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField64_4	△
固有情報 Field128-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField128_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field255-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Date-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(ハードウェア資産情報)		UserPropertyUint_6	△
ネットワーク情報 ID(ネットワーク情報)	NetworkInfo	NetworkID	△
MAC アドレス (ネットワーク情報)		MACAddress	△
ノード名（ホスト名）(ネットワーク情報)		NodeName	△
コンピュータ名 (ネットワーク情報)		ComputerName	△
DHCP サーバ名 (ネットワーク情報)		DHCPServerName	△
IP アドレス (ネットワーク情報)		IPAddress	△
グローバル IP アドレス (ネットワーク情報)		GlobalIPAddress	△
デフォルトゲートウェイ (ネットワーク情報)		DefaultGateway	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
サブネットマスク(ネットワーク情報)		SubnetMask	△
ポート情報(ネットワーク情報)		PortInfo	△
IP アドレス種別(ネットワーク情報)		IPAddressKind	△
インベントリ取り込み制御(ネットワーク情報)		InfoInd	△
固有情報 Field128-1(ネットワーク情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ネットワーク情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ネットワーク情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ネットワーク情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ネットワーク情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ネットワーク情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ネットワーク情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ネットワーク情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)
◎:新規登録時に必ず指定する項目
△:任意に指定する項目

13.4.2 資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目

表 13-49 資産種別「インストールソフトウェア情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号(資産情報)		AssetNo	△
インストール ID(インストールソフトウェアリスト)	InstalledList	InstalledID	△
インストールソフトウェア名(インストールソフトウェアリスト)		InstalledName	△
バージョン(インストールソフトウェアリスト)		InstalledVersion	△
ファイル名(インストールソフトウェアリスト)		FileName	△
ファイルサイズ(インストールソフトウェアリスト)		FileSize	△
ファイル日付(インストールソフトウェアリスト)		FileDate	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
パッケージ元属性(インストールソフトウェアリスト)		PackageAttr	△
パッケージ識別 ID(インストールソフトウェアリスト)		PackageID	△
プロダクト ID(インストールソフトウェア情報)	InstalledInfo	ProductID	△
インストール日(インストールソフトウェア情報)		InstalledDate	△
インベントリ取り込み制御(インストールソフトウェア情報)		InfoInd	△
固有情報 Field128-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(インストールソフトウェア情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)

△:任意に指定する項目

13.4.3 資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目

表 13-50 資産種別「インストールソフトウェアリスト」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
インストール ID(インストールソフトウェアリスト)	InstalledList	InstalledID	△
インストールソフトウェア名(インストールソフトウェアリスト)		InstalledName	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
バージョン(インストールソフトウェアリスト)		InstalledVersion	△
パッケージ元属性(インストールソフトウェアリスト)		PackageAttr	△
パッケージ識別 ID(インストールソフトウェアリスト)		PackageID	△
許可(インストールソフトウェアリスト)		InstalledPermit	◎
種別(インストールソフトウェアリスト)		InstalledKind	◎
管理レベル(インストールソフトウェアリスト)		InstalledInd	◎
ファイル名(インストールソフトウェアリスト)		FileName	△
ファイルサイズ(インストールソフトウェアリスト)		FileSize	△
ファイル日付(インストールソフトウェアリスト)		FileDate	△
固有情報 Field128-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(インストールソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_2	△
ソフトウェアリスト ID(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareListID	△
ソフトウェア名(ソフトウェアリスト)		SoftwareName	△
ソフトウェア種別(ソフトウェアリスト)		SoftwareKind	△

(凡例)

◎:新規登録時に必ず指定する項目

△:任意に指定する項目

13.4.4 資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目

表 13-51 資産種別「ソフトウェア情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
部署 ID(資産情報)		GroupID	△
部署 (資産情報)		GroupName	△
部署（英名）(資産情報)		GroupName_EN	△
ユーザ ID(資産情報)		UserID	△
ユーザ名 (資産情報)		UserName	△
ユーザ名（英名）(資産情報)		UserName_EN	△
稼働管理種別 (資産情報)		AssetWorkKind	◎
ソフトウェア状態 (資産情報)		SoftwareStatus	◎
購入金額 (資産情報)		PurchasePrice	△
登録日 (資産情報)		RegistrationDate	◎
用途 (資産情報)		Purpose	△
備考 (資産情報)		Note	△
資産種別 (資産情報)		AssetKind	△
変更者 (資産情報)		UpdateUser	△
棚卸日付 (資産情報)		StocktakingDate	△
使用開始日 (資産情報)		StartDate	△
使用終了日 (資産情報)		EndDate	△
管理部署 ID(資産情報)		ManagerialGroupID	△
管理部署 (資産情報)		ManagerialGroup	△
管理部署（英名）(資産情報)		ManagerialGroup_EN	△
管理者ユーザ ID(資産情報)		ManagerialUserID	△
管理者 (資産情報)		ManagerialUser	△
管理者（英名）(資産情報)		ManagerialUser_EN	△
固有情報 Field32-1(資産情報)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(資産情報)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(資産情報)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(資産情報)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(資産情報)		UserPropertyField32_5	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field32-6(資産情報)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field64-1(資産情報)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(資産情報)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field128-1(資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(資産情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(資産情報)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(資産情報)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(資産情報)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(資産情報)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(資産情報)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Date-1(資産情報)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(資産情報)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(資産情報)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(資産情報)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(資産情報)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(資産情報)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(資産情報)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(資産情報)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(資産情報)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(資産情報)		UserPropertyUint_4	△
固有情報 Uint-5(資産情報)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(資産情報)		UserPropertyUint_6	△
数量 (ソフトウェア資産情報)	SoftwareInfo	NumberOFLicense	△
購入ポイント数 (ソフトウェア資産情報)		NumberOFPoint	△
固有情報 Field128-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField128_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field255-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ソフトウェア資産情報)		UserPropertyCode_2	△
キー ID(ソフトウェアキー情報)	SoftwareKeyInfo	KeyID	△
プロダクト ID(ソフトウェアキー情報)		ProductID	△
ライセンスキー (ソフトウェアキー情報)		LicenseKey	△
シリアル No.(ソフトウェアキー情報)		SirialNo	△
備考 (ソフトウェアキー情報)		Note	△
固有情報 Field128-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ソフトウェアキー情報)		UserPropertyCode_2	△
ソフトウェアリスト ID(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareListID	△
ソフトウェア名 (ソフトウェアリスト)		SoftwareName	◎
ソフトウェア種別 (ソフトウェアリスト)		SoftwareKind	△
ライセンス ID(ライセンス情報)	LicenseInfo	LicenseID	△
ライセンス名 (ライセンス情報)		LicenseName	△
ライセンス形態 (ライセンス情報)		LicenseType	△
アップグレード保証 (ライセンス情報)		UpGrade	△
ダウングレード可否 (ライセンス情報)		DownGrade	△
ライセンス取得方法 (ライセンス情報)		PurchaseType	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ライセンス区分(ライセンス情報)		LicenseCategory	△
説明(ライセンス情報)		Description	△
備考(ライセンス情報)		Note	△
固有情報 Field128-1(ライセンス情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ライセンス情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ライセンス情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ライセンス情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ライセンス情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ライセンス情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ライセンス情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ライセンス情報)		UserPropertyCode_2	△

(凡例)
◎:新規登録時に必ず指定する項目
△:任意に指定する項目

13.4.5 資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目

表 13-52 資産種別「ソフトウェアリスト」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ソフトウェアリスト ID(ソフトウェアリスト)	SoftwareList	SoftwareListID	△
ソフトウェア名(ソフトウェアリスト)		SoftwareName	◎
製造者(ソフトウェアリスト)		Developer	△
ソフトウェア種別(ソフトウェアリスト)		SoftwareKind	◎
しきい値(ソフトウェアリスト)		Threshold	△
固有情報 Field128-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyArea_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Code-1(ソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ソフトウェアリスト)		UserPropertyCode_2	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.6 資産種別「組織管理情報」で対象となる項目

表 13-53 資産種別「組織管理情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
部署 ID(部署情報)	GroupInfo	GroupID	◎
上位部署 ID(部署情報)		UpperLinkID	△
部署 (部署情報)		FullPathName	△
部署（英名）(部署情報)		FullPathName_EN	△
部署名 (部署情報)		GroupName	◎
部署名（英名）(部署情報)		GroupName_EN	△
部署コード (部署情報)		GroupCode	△
原価コード (部署情報)		CostPriceCode	△
管理ラベル (部署情報)		ManagedLabel	△
説明 (部署情報)		Explanation	△
固有情報 Field128-1(部署情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(部署情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(部署情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(部署情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(部署情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(部署情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(部署情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(部署情報)		UserPropertyCode_2	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.7　資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目

表 13-54　資産種別「ユーザ管理情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
ユーザ ID(ユーザ管理情報)	UserInfo	UserID	◎
ユーザ名 (ユーザ管理情報)		UserName	◎
ユーザ名（英名）(ユーザ管理情報)		UserName_EN	△
電話番号 (ユーザ管理情報)		Telephonenumber	△
メールアドレス (ユーザ管理情報)		Mail	△
役職名 (ユーザ管理情報)		ExecutiveName	△
説明 (ユーザ管理情報)		Explanation	△
固有情報 Field128-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ユーザ管理情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ユーザ管理情報)		UserPropertyCode_2	△
部署 ID(部署情報)	GroupInfo	GroupID	△
部署 (部署情報)		FullPathName	△
権限 ID(権限管理情報)	RoleInfo	RoleID	△
権限名 (権限管理情報)		RoleName	△
権限名（英名）(権限管理情報)		RoleName_EN	△
管理ラベル (権限管理情報)		ManagedLabel	△
職権 ID(職権管理情報)	JobRoleInfo	JobRoleID	△
職権名 (職権管理情報)		JobRoleName	△

（凡例）

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

13.4.8 資産種別「設置場所情報」で対象となる項目

表 13-55 資産種別「設置場所情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
設置場所 ID(設置場所情報)	LocationInfo	LocationID	△
上位設置場所 ID(設置場所情報)		UpperLinkID	△
設置場所 (設置場所情報)		FullPathName	△
設置場所（英名）(設置場所情報)		FullPathName_EN	△
設置場所名 (設置場所情報)		LocationName	◎
設置場所名（英名）(設置場所情報)		LocationName_EN	△
住所 (設置場所情報)		Address	△
面積 (設置場所情報)		AreaSize	△
場所属性 (設置場所情報)		Attribute	◎
説明 (設置場所情報)		Explanation	△
固有情報 Field128-1(設置場所情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(設置場所情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(設置場所情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(設置場所情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(設置場所情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(設置場所情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(設置場所情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(設置場所情報)		UserPropertyCode_2	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.9 資産種別「保守契約情報」で対象となる項目

表 13-56 資産種別「保守契約情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(契約情報)	Contract	ContractID	△
契約番号 (契約情報)		ContractNo	◎
回数 (契約情報)		RenewalTimes	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
契約種別 (契約情報)		ContractKind	△
契約対象 (契約情報)		ContractObject	◎
契約日 (契約情報)		ContractDate	◎
契約開始日 (契約情報)		StartDate	◎
契約終了日 (契約情報)		EndDate	◎
契約会社 (契約情報)		Company	◎
住所 (契約情報)		Address	△
連絡先 (契約情報)		ContactInfo	△
担当者名 (契約情報)		ContactName	△
契約内容 (契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(契約情報)		TotalPrice	△
契約料（月額）(契約情報)		MonthlyPrice	△
説明 (契約情報)		Explanation	△
契約状態 (契約情報)		ContractStatus	◎
担当者名 2 (契約情報)		ContactName_2	△
連絡先 2 (契約情報)		ContactInfo_2	△
担当者名 3 (契約情報)		ContactName_3	△
連絡先 3 (契約情報)		ContactInfo_3	△
固有情報 Field128-1(契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署 (部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

（凡例）

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

13.4.10 資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目

表 13-57 資産種別「レンタル契約情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(契約情報)	Contract	ContractID	△
契約番号 (契約情報)		ContractNo	◎
回数 (契約情報)		RenewalTimes	△
契約種別 (契約情報)		ContractKind	△
契約対象 (契約情報)		ContractObject	◎
契約日 (契約情報)		ContractDate	◎
契約開始日 (契約情報)		StartDate	◎
契約終了日 (契約情報)		EndDate	◎
契約会社 (契約情報)		Company	◎
住所 (契約情報)		Address	△
連絡先 (契約情報)		ContactInfo	△
担当者名 (契約情報)		ContactName	△
契約内容 (契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(契約情報)		TotalPrice	△
契約料（月額）(契約情報)		MonthlyPrice	△
説明 (契約情報)		Explanation	△
契約状態 (契約情報)		ContractStatus	◎
担当者名 2 (契約情報)		ContactName_2	△
連絡先 2 (契約情報)		ContactInfo_2	△
担当者名 3 (契約情報)		ContactName_3	△
連絡先 3 (契約情報)		ContactInfo_3	△
固有情報 Field128-1(契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(契約情報)		UserPropertyCode_1	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Code-2(契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署 (部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.11 資産種別「リース契約情報」で対象となる項目

表 13-58 資産種別「リース契約情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(契約情報)	Contract	ContractID	△
契約番号 (契約情報)		ContractNo	◎
回数 (契約情報)		RenewalTimes	△
契約種別 (契約情報)		ContractKind	△
契約対象 (契約情報)		ContractObject	◎
契約日 (契約情報)		ContractDate	◎
契約開始日 (契約情報)		StartDate	◎
契約終了日 (契約情報)		EndDate	◎
契約会社 (契約情報)		Company	◎
住所 (契約情報)		Address	△
連絡先 (契約情報)		ContactInfo	△
担当者名 (契約情報)		ContactName	△
契約内容 (契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(契約情報)		TotalPrice	△
契約料（月額）(契約情報)		MonthlyPrice	△
説明 (契約情報)		Explanation	△
契約状態 (契約情報)		ContractStatus	◎
担当者名 2 (契約情報)		ContactName_2	△
連絡先 2 (契約情報)		ContactInfo_2	△
担当者名 3 (契約情報)		ContactName_3	△
連絡先 3 (契約情報)		ContactInfo_3	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field128-1(契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署 (部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

（凡例）

◎：新規登録時に必ず指定する項目

△：任意に指定する項目

13.4.12 資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目

表 13-59 資産種別「ボリューム契約」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
契約 ID(ボリューム契約情報)	VolumeContract	ContractID	△
契約番号 (ボリューム契約情報)		ContractNo	◎
契約種別 (ボリューム契約情報)		ContractKind	△
対象製品 (ボリューム契約情報)		ContractObject	△
目標ポイント数 (ボリューム契約情報)		TargetPoint	△
契約日 (ボリューム契約情報)		ContractDate	△
契約開始日 (ボリューム契約情報)		StartDate	△
契約終了日 (ボリューム契約情報)		EndDate	△
契約会社 (ボリューム契約情報)		Company	△
住所 (ボリューム契約情報)		Address	△
連絡先 (ボリューム契約情報)		ContactInfo	△
担当者名 (ボリューム契約情報)		ContactName	△
契約内容 (ボリューム契約情報)		Contents	△
契約料（総額）(ボリューム契約情報)		TotalPrice	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
契約料（月額）(ボリューム契約情報)		MonthlyPrice	△
説明 (ボリューム契約情報)		Explanation	△
契約状態 (ボリューム契約情報)		ContractStatus	◎
固有情報 Field128-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(ボリューム契約情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(ボリューム契約情報)		UserPropertyCode_2	△
部署 (部署情報)	GroupInfo	FullPathName	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.13 資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目

表 13-60 資産種別「IP グループ情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
IP グループ ID(IP グループ情報)	AddressGroup	IPGroupID	△
IP グループ名 (IP グループ情報)		IPGroupName	◎
開始アドレス (IP グループ情報)		StartIPAddress	◎
終了アドレス (IP グループ情報)		EndIPAddress	◎
ゲートウェイ (IP グループ情報)		Gateway	△
サブネットマスク (IP グループ情報)		SubnetMask	◎
DHCP サーバ名 (IP グループ情報)		DHCPServerName	△
用途 (IP グループ情報)		Purpose	△
管理者 ID(IP グループ情報)		ManagerialUserID	△
部署 ID(IP グループ情報)		GroupID	△
設置場所 ID(IP グループ情報)		LocationID	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Field128-1(IP グループ情報)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(IP グループ情報)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(IP グループ情報)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(IP グループ情報)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(IP グループ情報)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(IP グループ情報)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(IP グループ情報)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(IP グループ情報)		UserPropertyCode_2	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.14 資産種別「機器カタログ」で対象となる項目

表 13-61 資産種別「機器カタログ」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
カタログ ID(機器カタログ)	MachineCatalog	CatalogID	△
機器種別 (機器カタログ)		MachineKind	△
名称 (機器カタログ)		Name	◎
型式 (機器カタログ)		Model	◎
製造者 (機器カタログ)		Developer	△
購入金額 (機器カタログ)		PurchasePrice	△
CPU(機器カタログ)		CPUType	△
CPU クロック数 (機器カタログ)		CPUClock	△
CPU 数 (機器カタログ)		CPUNumber	△
モニタ種別 (機器カタログ)		MonitorKind	△
モニタ解像度 (機器カタログ)		MonitorResolution	△
モニタサイズ (機器カタログ)		MonitorSize	△
メモリサイズ (機器カタログ)		MemorySize	△
ディスク容量 (機器カタログ)		TotalHDSize	△
構成種別 (機器カタログ)		ModelKind	△
仕様 (機器カタログ)		Specification	△
ポート数 (機器カタログ)		NumberOFPort	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
回線速度 (機器カタログ)		CircuitSpeed	△
固有情報 Field32-1(機器カタログ)		UserPropertyField32_1	△
固有情報 Field32-2(機器カタログ)		UserPropertyField32_2	△
固有情報 Field32-3(機器カタログ)		UserPropertyField32_3	△
固有情報 Field32-4(機器カタログ)		UserPropertyField32_4	△
固有情報 Field32-5(機器カタログ)		UserPropertyField32_5	△
固有情報 Field32-6(機器カタログ)		UserPropertyField32_6	△
固有情報 Field64-1(機器カタログ)		UserPropertyField64_1	△
固有情報 Field64-2(機器カタログ)		UserPropertyField64_2	△
固有情報 Field64-3(機器カタログ)		UserPropertyField64_3	△
固有情報 Field64-4(機器カタログ)		UserPropertyField64_4	△
固有情報 Field128-1(機器カタログ)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(機器カタログ)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(機器カタログ)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(機器カタログ)		UserPropertyField255_2	△
固有情報 Area-1(機器カタログ)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(機器カタログ)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(機器カタログ)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(機器カタログ)		UserPropertyCode_2	△
固有情報 Code-3(機器カタログ)		UserPropertyCode_3	△
固有情報 Code-4(機器カタログ)		UserPropertyCode_4	△
固有情報 Code-5(機器カタログ)		UserPropertyCode_5	△
固有情報 Code-6(機器カタログ)		UserPropertyCode_6	△
固有情報 Date-1(機器カタログ)		UserPropertyDate_1	△
固有情報 Date-2(機器カタログ)		UserPropertyDate_2	△
固有情報 Date-3(機器カタログ)		UserPropertyDate_3	△
固有情報 Date-4(機器カタログ)		UserPropertyDate_4	△
固有情報 Date-5(機器カタログ)		UserPropertyDate_5	△
固有情報 Date-6(機器カタログ)		UserPropertyDate_6	△
固有情報 Uint-1(機器カタログ)		UserPropertyUint_1	△
固有情報 Uint-2(機器カタログ)		UserPropertyUint_2	△
固有情報 Uint-3(機器カタログ)		UserPropertyUint_3	△
固有情報 Uint-4(機器カタログ)		UserPropertyUint_4	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Uint-5(機器カタログ)		UserPropertyUint_5	△
固有情報 Uint-6(機器カタログ)		UserPropertyUint_6	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.15 資産種別「問題点管理」で対象となる項目

表 13-62 資産種別「問題点管理」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
保守履歴 ID(保守履歴)	Maintenance	MaintenanceID	△
管理番号 (保守履歴)		ManagedNo	◎
資産番号 (保守履歴)		AssetNo	△
保守状態 (保守履歴)		MaintenanceStatus	◎
登録日 (保守履歴)		MaintenanceDate	◎
障害内容 (保守履歴)		ObstacleContents	◎
対策完了日 (保守履歴)		CompletingDate	△
対策内容 (保守履歴)		MeasureContents	△
費用 (保守履歴)		Expense	△
参考資料 (URL)(保守履歴)		ReferenceData	△
作業者名 (保守履歴)		Worker	△
登録者名 (保守履歴)		UserName	◎
イベント発行ホスト (保守履歴)		EventHost	△
障害発生ホスト (保守履歴)		MaintenanceHost	△
重大度 (保守履歴)		Importance	△
JP1/Base イベント通し番号 (保守履歴)		EventNo	△
JP1/IM 実行元ホスト (保守履歴)		ExecutionHost	△
備考 (保守履歴)		Note	△
障害種別 (保守履歴)		MaintenanceKind	◎
固有情報 Field128-1(保守履歴)		UserPropertyField128_1	△
固有情報 Field128-2(保守履歴)		UserPropertyField128_2	△
固有情報 Field255-1(保守履歴)		UserPropertyField255_1	△
固有情報 Field255-2(保守履歴)		UserPropertyField255_2	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
固有情報 Area-1(保守履歴)		UserPropertyArea_1	△
固有情報 Area-2(保守履歴)		UserPropertyArea_2	△
固有情報 Code-1(保守履歴)		UserPropertyCode_1	△
固有情報 Code-2(保守履歴)		UserPropertyCode_2	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.16　資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目

表 13-63　資産種別「ライセンス割り当て」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産番号 (資産情報)	AssetInfo	AssetNo	△
部署 (資産情報)		GroupName	◎
資産 ID(ハードウェア資産情報)	HardwareInfo	AssetID	△
資産 ID(ソフトウェア資産情報)	SoftwareInfo	AssetID	◎
ユーザ ID(ユーザ管理情報)	UserInfo	UserID	△
ユーザ名 (ユーザ管理情報)		UserName	△
キー ID(ソフトウェアキー情報)	SoftwareKeyInfo	KeyID	△
プロダクト ID(ソフトウェアキー情報)		ProductID	◎
ライセンスキー (ソフトウェアキー情報)		LicenseKey	◎
シリアル No.(ソフトウェアキー情報)		SirialNo	◎

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.17　資産種別「パッチ情報」で対象となる項目

表 13-64　資産種別「パッチ情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID(資産情報)	AssetInfo	AssetID	△
資産番号 (資産情報)		AssetNo	△
パッチ ID(パッチリスト)	PatchList	PatchID	△

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
パッチ名（パッチリスト）		PatchName	△
バージョン（パッチリスト）		PatchVersion	△
適用状態（パッチ情報）	PatchInfo	InstalledStatus	◎
インストール日（パッチ情報）		InstalledDate	△
インベントリ取り込み制御（パッチ情報）		InfoInd	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

13.4.18 資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目

表 13-65 資産種別「ウィルス定義情報」で対象となる項目

CSV ファイルの項目名	クラス	プロパティ	指定
資産 ID（資産情報）	AssetInfo	AssetID	△
資産番号（資産情報）		AssetNo	△
ウィルス対策ソフトウェア名（ウィルス定義情報）	InstalledVirusDefInfo	SoftwareVersion	◎
ウィルス対策ソフトウェアバージョン（ウィルス定義情報）		VirusDefVersion	△
エンジンバージョン（ウィルス定義情報）		EngineVersion	△
常駐／非常駐（ウィルス定義情報）		ResidentKind	△
インストール日付（ウィルス定義情報）		InstalledDate	△
ウィルス定義バージョン（ウィルス定義情報）		VirusDefName	△
インベントリ取り込み制御（ウィルス定義情報）		InfoInd	△

（凡例）
◎：新規登録時に必ず指定する項目
△：任意に指定する項目

付録

付録 A　メモリ所要量とディスク占有量

付録 B　フォルダ構成

付録 C　環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

付録 D　バージョンアップおよび資産管理データベースの移行

付録 E　プロセス一覧

付録 F　各バージョンの変更内容

付録 G　用語解説

付録 A　メモリ所要量とディスク占有量

ここでは，資産管理サーバのメモリ所要量とディスク占有量および資産管理データベースのディスク占有量を示します。

付録 A.1　メモリ所要量

資産管理サーバを動作させるために，1 ギガバイト以上のメモリを確保してください。

付録 A.2　ディスク占有量

資産管理システムの運用に必要なディスク占有量は，資産管理データベースおよび資産管理サーバで使用するディスク容量の合計から算出してください。

ここでは，ディスク容量の概算を求める計算式について説明します。

注意事項

ORACLE を使用する場合，データベースのブロックサイズに設定する値は，性能を考慮して 8 キロバイト以上にすることをお勧めします。設定方法については，ORACLE のマニュアルを参照してください。

(1) 資産管理データベースで使用するディスク容量

データベースの容量

=（Σ（使用する情報のサイズ×登録数）＋（ライセンス集計データ量）＋（操作ログ集計データ量）＋（案件データ量）＋（定義データ量）） × 1.4 × 1.5

●使用する情報のサイズ

「使用する情報のサイズ」に指定する場合に目安となる値を次の表に示します。

表 A-1　1 件当たりの各情報のサイズ

使用する情報	1 件当たりのサイズ（キロバイト）
ハードウェア資産情報※ 1	51.7
ソフトウェア資産情報※ 2	28.2
機器カタログ	0.5
保守契約情報	1.3
リース契約情報	1.3
レンタル契約情報	1.3
契約会社カタログ	0.9
ソフトウェアリスト	0.4

使用する情報	1 件当たりのサイズ（キロバイト）
インストールソフトウェアリスト	0.4
パッチリスト	0.2
IP グループ情報	0.8
IP アドレス管理情報※ 3	0.3
設置場所情報	1.2
ユーザ管理情報	0.8
部署情報	1.0
権限管理情報	0.4
職権管理情報	0.3
変更履歴	0.8
ソフトウェア変更履歴	0.4
ボリューム契約情報	0.8
保守履歴	2.6

注※ 1

次の情報を含むことを想定した概算値です。

- 1 件の資産情報（1 件当たり 2.7 キロバイト）
- 1 件のハードウェア資産情報（1 件当たり 1.4 キロバイト）
- 3 件のネットワーク情報（1 件当たり 0.6 キロバイト）
- 20 件の移管履歴（1 件当たり 1.2 キロバイト）
- 60 件のインストールソフトウェア情報（1 件当たり 0.3 キロバイト）
- 10 件のパッチ情報（1 件当たり 0.1 キロバイト）
- 1 件のウィルス定義情報（1 件当たり 0.5 キロバイト）
- 1 件のコンポーネント情報（1 件当たり 0.3 キロバイト）
- 1 件のインベントリ情報（1 件当たり 2.0 キロバイト）

注※ 2

次の情報を含むことを想定した概算値です。

- 1 件の資産情報（1 件当たり 2.7 キロバイト）
- 1 件のソフトウェア資産情報（1 件当たり 0.1 キロバイト）
- 50 件のソフトウェアキー情報（1 件当たり 0.5 キロバイト）
- 1 件のライセンス情報（1 件当たり 0.4 キロバイト）

注※ 3

IP アドレス管理情報は，IP グループ情報で登録したアドレスの範囲内で使用できる IP アドレスの総数だけ必要になります。

注意事項

使用する情報の 1 件当たりのサイズは，次に示す条件に基づいて算出しています。

- GUI からの操作またはインベントリ情報の取り込み時に設定できる項目（固有情報を含む）だけにデータを設定する。設定する値の平均長は 30 バイトと仮定する。データのサイズが 30 バイト未満の項目は，管理領域のサイズと仮定する。
- GUI からの操作またはインベントリ情報の取り込みで設定できない項目は，管理領域のサイズだけとする。
- 資産情報および保守契約情報は，一つ以上の機器情報を関連づけている。

●ライセンス集計データ量

=（α ＋ β）×ライセンス集計回数（キロバイト）

α=1 部署が保有するソフトウェアの平均数×部署数× 0.5

β=1 機器にインストールされているソフトウェアの平均数×機器資産数× 0.5

ここでは，1 ソフトウェアが必要とする容量は，0.5 キロバイトとしています。

●操作ログ集計データ量

= 集計に使用する検索パターン数×集計結果保持日数×部署数× 0.4**（キロバイト）**

ここでは，検索パターンごとの，1 日当たりの各部署に対する集計結果の容量は，0.4 キロバイトとしています。

●案件データ量

=（定義案件のサイズ×定義案件の登録数）＋（案件管理に必要なデータ量×案件の申請数）

定義案件のサイズ　150.0 キロバイト

案件管理に必要なデータ量　4.0 キロバイト

ここで示した定義案件のサイズは，提供されている案件の四つのテンプレートを平均した値です。実際の定義案件のサイズは，定義するアクティビティ数や項目数によって変化します。

●定義データ量

=30.0 **メガバイト**

インデックス領域には，テーブルサイズの約 40%分の領域が必要です。インデックス領域の算出方法については，DBMS のマニュアルを参照してください。

また，資産管理データベースに効率的にアクセスできるようにするため，テーブルサイズの約 50%分の空き領域が必要です。

(2) 資産管理サーバで使用するディスク容量

サーバの容量

= 検索時に検索結果として取得できるデータサイズ× 1 **回のログイン時の平均検索回数×平均同時ログイン数**

操作画面から，添付ファイルとしてファイルをアップロードする場合は，添付ファイルの容量もディスク容量として考慮してください。

付録 B　フォルダ構成

ここでは，Asset Information Manager，資産管理サーバの仮想ディレクトリ，Information Viewer，JP1/IM - Central Information Master 連携，および WSUS 連携のフォルダ構成をそれぞれ示します。

（1） Asset Information Manager のフォルダ構成

Asset Information Manager をインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

表 B-1　Asset Information Manager のフォルダ構成

フォルダ名称			説明
Asset Information Manager のインストールフォルダ（jp1asset）	¥aimdb ※	－	Embedded RDB を使用する場合の実行ファイル格納フォルダ
	¥bin	－	DLL ファイル格納フォルダ
	¥conf	－	連携用の設定ファイル格納フォルダ
		¥event	イベント発行設定ファイル格納フォルダ
		¥imcc	イベント拡張定義ファイル格納フォルダ
		¥InfoView	自動認証設定ファイル格納フォルダ
	¥db ※	－	Embedded RDB を使用する場合のデータファイル，ログファイルなどの格納フォルダ
	¥env	－	環境設定情報格納フォルダ
	¥eur	－	帳票定義ファイル，ユーザ定義ファイルおよびオプション記述ファイル格納フォルダ
	¥exe	－	実行ファイル格納フォルダ
	¥help	－	HTML ヘルプファイルおよび操作画面を構成するファイルの格納フォルダ
	¥log	－	ログファイル格納フォルダ
	¥map	－	テーブル定義情報格納フォルダ
	¥patch	－	Asset Information Manager の修正パッチをインストールした場合の修正パッチの実行ファイル格納フォルダ
	¥plug-in	－	プラグイン格納フォルダ
	¥sample	－	サンプルファイル格納フォルダ
		¥LocationData	サンプルの設置場所情報をインポートするファイルの格納フォルダ
		¥SoftwareData	サンプルのソフトウェアの辞書情報をインポートするファイルの格納フォルダ

フォルダ名称			説明
		¥TrialData	設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）をインポートするファイルの格納フォルダ
		¥UserData	サンプルの部署およびユーザの情報をインポートするファイルの格納フォルダ
	¥scriptbatch	－	タスクによる資産情報のバッチ処理用の定義ファイル格納フォルダ
	¥scriptwork	－	コマンド実行時の一時ファイルおよびテンプレートファイル格納フォルダ
	¥template	－	検索テンプレートファイル格納フォルダ
	¥work	－	作業用フォルダ

（凡例）

－：該当しない

注※

使用する資産管理データベースに，Embedded RDB を選択したときだけ作成されます。

（2） 資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成

資産管理サーバをインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

資産管理サーバの仮想ディレクトリはデフォルトでは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥wwwroot です。

表 B-2　資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成

フォルダ名称		説明
資産管理サーバの仮想ディレクトリ	¥bin	資産管理サーバ実行ファイル格納フォルダ
	¥csv	資産管理サーバ作業用フォルダ
	¥data	アップロードファイル格納フォルダ
	¥gif	イメージデータファイル格納フォルダ
	¥log	ログファイル格納フォルダ
	¥script	定義ファイル格納フォルダ
	¥template	操作画面で使用するテンプレートファイル格納フォルダ

（3） Information Viewer のフォルダ構成

Information Viewer をインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

Information Viewer のインストールフォルダは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥component¥infoview です。

表 B-3　Information Viewer のフォルダ構成

フォルダ名称		説明
Information Viewer のインストールフォルダ	¥bin	実行ファイル格納フォルダ
	¥env	環境設定情報格納フォルダ
	¥OpenView	Network Node Manager 連携用定義ファイル格納フォルダ

（4） JP1/IM - Central Information Master 連携のフォルダ構成

JP1/IM - Central Information Master 連携をインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

JP1/IM - Central Information Master 連携のインストールフォルダは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥component¥imcm です。

表 B-4　JP1/IM - Central Information Master 連携のフォルダ構成

フォルダ名称		説明
JP1/IM - Central Information Master 連携のインストールフォルダ	¥bin	実行ファイル格納フォルダ
	¥conf	絞り込み設定ファイル格納フォルダ
	¥env	環境設定情報格納フォルダ
	¥log	ログファイル格納フォルダ
	¥JP1Base	JP1/Base 連携用定義ファイル格納フォルダ

（5） WSUS 連携のフォルダ構成

WSUS 連携をインストールしたあとのフォルダ構成を次の表に示します。

WSUS 連携のインストールフォルダは，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥component¥wsus です。

表 B-5　WSUS 連携のフォルダ構成

フォルダ名称			説明
WSUS 連携のインストールフォルダ	¥netmWS	－	WSUS コネクタの仮想ディレクトリのルート対応フォルダ
		¥bin	WSUS コネクタ実行環境フォルダ

（凡例）
－：該当しない

付録 C　環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

アクセス定義ファイルで使用する組み込み関数「$ENVIRONMENT（サーバ環境情報の取得関数）」で指定する，環境設定情報に対応するセクション名およびキー名を次の表に示します。

表 C-1　環境設定情報に対応するセクション名およびキー名

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
データベース情報	DATABASE	ログイン ID	USER
		サービス名	SERVICE_NAME
		同時接続コネクション数	COUNT
		検索用接続コネクション数	LONGTIME_COUNT
		LIKE 検索時の大文字小文字の区別（Embedded RDB） • YES： 区別する • NO： 区別しない	SEARCH_CASE_SENSITIVE
セッション情報	SERVER	無通信監視時間	SESSTION_TIME
		同時利用ログイン数	COUNT
基本情報	BASE	PDF ボタンの表示 • YES： 表示する • NO： 表示しない	EUR
		PDF ファイル作成時のタイムアウト時間	EUR_TIMEOUT
		検索結果の一覧表示件数	REFERENCE_NUM
		表示件数欄の表示 • YES： 表示する • NO： 表示しない	REFERENCE_FIELD
		1 ページに表示する検索結果の件数	REFERENCE_NUMONPAGE
		部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID	UNDEF_GROUP
		設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID	UNDEF_LOCATION
		ライセンス超過のしきい値	LICENSE_LIMIT

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
		自動ログインの設定 • YES： 表示する • NO： 表示しない	COMPO_AUTOLOGIN
		Cookie 有効期限日数	COMPO_EXPIRES
		部署別 IP グループを使用した部署の設定 • NO： 設定しない • OVERWRITE： 設定する • YES： 部署が未設定のときのみ設定する	GROUP_AUTO
		設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定 • NO： 設定しない • OVERWRITE： 設定する • YES： 設置場所が未設定のときのみ設定する	LOCATION_AUTO
		DHCP アドレスの変更履歴の取得 • YES： 取得する • NO： 取得しない	DHCP_HISTORY
		契約履歴の取得 • YES： 取得する • NO： 取得しない	CONTRACT_HISTORY
		操作ログの検索結果取得件数	LOG_SEARCH_NUM
		操作ログ一覧の検索期間の警告	LOG_SEARCH_ALERTTIME
		トレース時の表示階層	LOG_DISPLAY_LEVEL
		トレース時間範囲の設定	LOG_TIME_LIMIT
		Asset Information Manager の URL	AIM_URL
メール通知情報	MAIL	メールによる通知 • YES： 通知する • NO： 通知しない	EXPIRATION_NOTICE
		メールの送信先アドレス	NOTICE_MAILTO

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
		メールの送信元アドレス	NOTICE_MAILFROM
ディレクトリサーバ連携	LDAP	コードセット • SHIFT-JIS シフト JIS コード • UTF-8 UTF-8	CHAR_CODESET
JP1/NETM/DM 連携	NETM	JP1/NETM/DM データベースログイン ID	USER
		JP1/NETM/DM データベース接続サービス名	SERVICE_NAME
		JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み • YES： 取り込む • NO： 取り込まない	HOST_WITHOUT
		運用キー • IDNAME： ホスト識別子あり • NOID： ホスト識別子なし	WORK_KEY
		資産情報の引き当てキー • NETM： 運用キーに従う • ASSET： 資産番号を使用する	MATCH_KEY
		資産情報の引き当て 1 • ISHOSTID： ホスト識別子のみが同一の資産を引き当てる • ISMAC： MAC アドレスが同一の資産を引き当てる • ISHI： 運用方式に従って引き当てる	MATCH_KEY_OPT
		資産情報の引き当て 2 • YES： IP アドレスとホスト名を使用して引き当てる • NO： 引き当てを行わない	NO_DMINFO
		引き当たらなかった資産の新規登録 • YES： 新規登録する • NO： 新規登録しない	NO_AIMITEM

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
		ダイヤルアップ接続の MAC アドレス • YES： 引き当て情報にする • NO： 引き当て情報にしない	PPP_MAC
		取り込む情報の種別 • SYS： ハードウェア情報 • PKG： ハードウェア情報＋ソフトウェア情報 • DIC： ハードウェア情報＋ソフトウェアインベントリ情報 • ALL： ハードウェア情報＋ソフトウェア情報＋ソフトウェアインベントリ情報	INVENTORY_KIND
		監視間隔	CHECKINTERVAL
		JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態 • 1： 廃棄 • 2： 仮廃棄 • 3： 抹消 • 4： コード指定 • 5： 何もしない	MACHINESTATUS
		削除された資産に設定するコード	MACHINESTATUSCODE
		パッケージ識別 ID の取得 • YES： 取得する • NO： 取得しない	INSPACKIDGET
		ソフトウェア名への自動割り当て • NO： 自動的に割り当てない • ID： 同一パッケージ識別 ID で割り当てる • NAME： 同一パッケージ名で割り当てる • IDNA： 同一パッケージ識別 ID と同一パッケージ名で割り当てる	INSLINK_AUTO

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
		ソフトウェアの自動登録 • YES： 自動的に登録する • NO： 自動的に登録しない	SOFTWARE_AUTO
		JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名	FOLDER
NNM 連携	NNM	NNM バージョン • jamlnnmV6： Version 6i • jamlnnmV7： Version 7i • jamlnnmV8： Version 8	NNM_VERSION
		監視図ボタンの表示 • YES： 表示する • NO： 表示しない	NNM_WEB
		オープンマップ名	NNM_OPENMAP
		接続先サーバ名	NNM_SERVER
JP1/IM 連携	IM	JP1/IM - CM との連携設定 • YES： 連携する • NO： 連携しない	IM_CM
NetInsight II 連携	NI2	図面ボタンの表示 • YES： 表示する • NO： 表示しない	NETINSIGHT2
		NetInsight II 連携のキー • IP： IP アドレス • NO： 資産番号 • MAC： MAC アドレス • HOST： ホスト名	NI2KEY
JP1/Lan Licenser 連携	LL	JP1/Lan Licenser データベースログイン ID	USER
		JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名	SERVICE_NAME

カテゴリ	セクション名	環境設定項目	キー名
JP1/ 秘文連携	HIBUN	JP1/ 秘文との連携設定 • YES： 連携する • NO： 連携しない	HIBUN
		JP1/ 秘文データベースログイン ID	USER
		JP1/ 秘文データベース接続サービス名	SERVICE_NAME
WSUS 連携	WSUS	WSUS コネクタの URL	WSUS_URL

付録 D　バージョンアップおよび資産管理データベースの移行

ここでは，Asset Information Manager のバージョンアップ，同一バージョン間での DBMS の移行，資産管理サーバのリプレース，および JP1/NETM/DM のコンポーネント Asset Information Manager Limited からの移行の手順について説明します。

また，Embedded RDB の場合に，データベースのサイズおよびホスト名を変更する手順についても説明します。

付録 D.1　Asset Information Manager をバージョンアップする

Asset Information Manager をバージョンアップする手順について説明します。Asset Information Manager をバージョンアップする場合，プログラムのインストール後に資産管理データベースの移行が必要です。また，体験版から移行する場合も，バージョンアップする場合と同じ手順で，資産管理データベースを移行する必要があります。

Asset Information Manager をバージョンアップし，資産管理データベースを移行する作業の流れを次に示します。

1. **Asset Information Manager のバージョンアップ時の注意事項を確認したあと，資産管理データベースのバックアップを取得する。**
   不測の事態に備えて，必ずバックアップを取得してください。
2. **Asset Information Manager をインストールする。**
3. **移行時の注意事項を確認したあと，［データベースマネージャ］ダイアログで資産管理データベースのアップグレードを実行する。**
4. **必要に応じて操作画面や管理項目の設定を変更する。**

（1）Asset Information Manager のバージョンアップ時の注意事項

Asset Information Manager 08-00 以降からバージョンアップする場合，業務メニュー「操作ログ一覧」にデフォルトで提供されていた検索パターンは上書きされてしまいます。必要に応じて，あらかじめ検索パターンを別名で保存しておいてください。

（2）資産管理データベースのバックアップ

資産管理データベースを移行する前に，資産管理データベースのバックアップを取得します。

Asset Information Manager の資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，Microsoft SQL Server，または ORACLE のマニュアルを参照してください。CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，「11.13.1

CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア」を参照してください。また，Asset Information Manager Embedded RDB Edition から移行する場合，資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，「11.13.3(1)［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのバックアップ」，または「11.13.3(2)　コマンドでの資産管理データベースのバックアップ」を参照してください。

(3) Asset Information Manager の上書きインストール

Asset Information Manager を上書きインストールできるのは，次のうちのどれかに該当する場合です。

- インストールするバージョン以前のバージョンの Asset Information Manager または体験版がインストールされている場合
- Asset Information Manager Embedded RDB Edition がインストールされている場合
- Asset Information Manager Smart Edition または体験版がインストールされている場合

インストール手順の詳細については，「5.2.2　Asset Information Manager のインストール」を参照してください。

インストール時の注意事項

- 同一バージョンで再インストールする場合，「変更」を選択するとすでにインストールされているコンポーネントはインストールされませんが，バージョンアップ時は，「変更」を選択しても，すでにインストールされているコンポーネントも再インストールされます。
- 資産管理サーバをバージョンアップすると，サービス「Asset Information Synchronous Service」の「スタートアップの種類」は，「手動」に設定されます。データベースの移行作業が終了してから，「自動」に変更してください。

インストールが終了したら，データベースを移行する前に，新規にインストールした Asset Information Manager の資産管理データベースへの接続，および資産管理サーバの設定を完了させておきます。

Asset Information Manager のデータベースに接続する方法については，「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」を，資産管理サーバの設定については，「5.3 資産管理サーバの設定」を参照してください。

(4) 資産管理データベースの移行時の注意事項

資産管理データベースを移行する際の注意事項を次に示します。

- 移行時に障害が発生した場合，あらかじめ取得しておいたバックアップデータを基に資産管理データベースを復元したあと，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのアップグレードを再度実行してください。
- 作業用フォルダ内にデータが残った場合，資産管理データベースが正常に復元できたことを確認したあとで，作業用フォルダを削除してください。

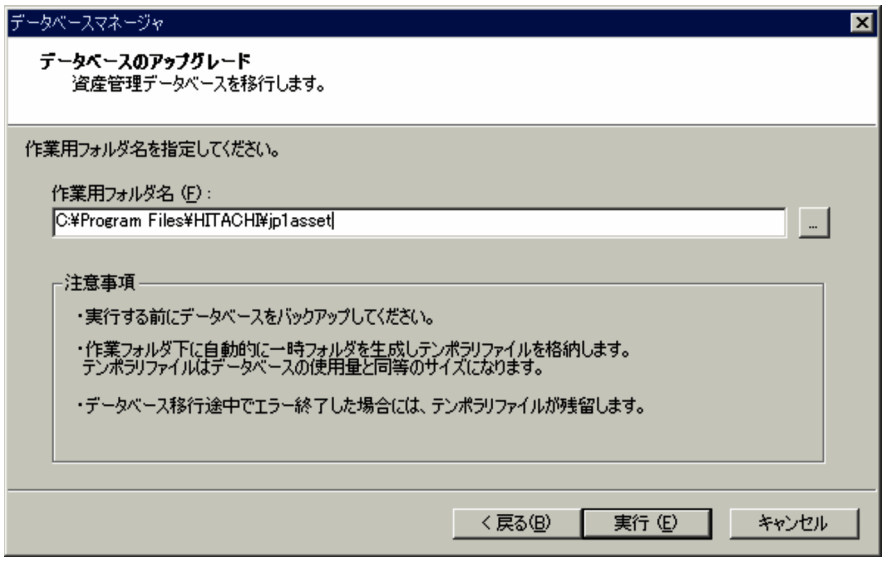
- 業務メニュー「業務フィルター」で設定した書式は，バージョン 08-00 以降の Asset Information Manager からバージョンアップする場合に移行できます。バージョン 07-53 以前の Asset Information Manager からバージョンアップする場合は移行できません。この場合，資産管理データベースのバックアップを取得したあとで，設定した書式をすべて削除してください。そのあとで，資産管理データベースを移行してから，書式を再度設定してください。
- バージョン 07-11 以前の Asset Information Manager からバージョンアップする場合，ハードウェア資産情報の IP アドレス，MAC アドレス，およびホスト名には，ネットワーク情報に登録されている値のうちどれか一つが登録されます。
- バージョン 07-10 以降の Asset Information Manager では，コード情報に追加できるコードの範囲が決められています。そのため，バージョン 07-01 以前の Asset Information Manager からバージョンアップする場合は，登録されているコード情報は，追加できるコードの範囲内に自動的に移行されます。ただし，登録されているコード情報が，追加できるコードの範囲を超えた場合は，超過したコードは削除されます。コードの指定範囲の詳細については，マニュアル「運用ガイド」の「4.8.4 コードの指定範囲による意味の違い」を参照してください。

(5) 資産管理データベースのアップグレード

Asset Information Manager をバージョンアップする際に，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのアップグレードを実行する手順を次に示します。

1. **［スタート］ボタンをクリックして［プログラム］－［Asset Information Manager］をポイントし，次に［セットアップ］を選択する。**
   ［セットアップ］ダイアログが表示されます。
2. **「データベースマネージャ」アイコンをクリックする。**
   ［データベースマネージャ］ダイアログが表示されます。
3. **「データベースのアップグレード」を選択して，［次へ］ボタンをクリックする。**
   次の図に示すデータベースのアップグレードを実行するダイアログが表示されます。

図 D-1　データベースのアップグレードを実行するダイアログ



4. **作業用フォルダを指定する。**
「作業用フォルダ名」に，資産管理データベースの内容が一時的に格納される作業用フォルダを指定します。[...] ボタンをクリックすると，フォルダを参照するダイアログからフォルダを指定できます。指定を省略すると，Asset Information Manager のインストールフォルダの下に作業用フォルダが作成されます。

   注意事項

   資産管理データベースのアップグレードを実行すると，作業用フォルダに資産管理データベースの内容が格納されます。そのため，十分な空き容量のあるドライブのフォルダを指定してください。

5. **[実行] ボタンをクリックする。**
資産管理データベースのアップグレードが実行されます。なお，資産管理データベースが Embedded RDB の場合，アップグレード前のデータベースのサイズが 100 メガバイトより小さいときは，アップグレード後は 100 メガバイトに変更されます。

クラスタ環境で資産管理データベースのアップグレードを実行する手順については，「(7) クラスタ環境での資産管理データベースのアップグレード」を参照してください。

(6) 資産管理データベースの移行後の作業

資産管理データベースを移行したあとに，次の作業を実施してください。タイトルに（必須）と記載されている項目については，必ず実施してください。また，（任意）と記載されている項目については，必要に応じて実施してください。

● 不要なインストールソフトウェア情報の削除（07-00 から移行した場合必須）

バージョン 07-00 から資産管理データベースを移行した場合，既存のインストールソフトウェア情報は，該当するソフトウェアが削除されたインベントリ情報を取得して

も，資産管理データベースからは削除されません。次のうちどちらかの方法でインストールソフトウェア情報を削除したあと，再度インベントリ情報を取得してください。

- jamexport コマンドで -op オプションを指定して（オペレーションコードは D（削除））InstalledInfo のデータを一度エクスポートし，エクスポートしたファイルを jamimport コマンドでインポートする。
  jamexport コマンドでのエクスポートについては，「7.2.6　jamexport（エクスポート）コマンドの実行」を参照してください。
- ソフトウェア状態を「返却」または「廃棄」にして，タスク「データメンテナンス」を実行する。
  タスクの設定手順については，「5.9.2　タスクの設定手順」を，タスク「データメンテナンス」の指定方法については，「5.9.3　タスク「データメンテナンス」で実施する作業の指定」を参照してください。
  JP1/NETM/DM の運用キーに「ホスト識別子なし」を選択していて，ノード識別キーに「IP アドレス」を選択している場合は，インベントリ情報を再度取得して既存の機器を引き当てるとき，MAC アドレスで引き当てられます。

● 業務メニュー名の変更（任意）

次に示す業務カテゴリ，タブなどは，Asset Information Manager のバージョンアップによって名称が変更されました。資産管理データベースを移行すると，移行前の名称が引き継がれるため，変更する場合は，業務メニュー「利用可能業務割り当て」で名称を変更してください。

- 業務カテゴリ「障害管理」（バージョン 07-10 以降は「問題点管理」）
- 業務カテゴリ「ソフトウェア配布管理」（バージョン 07-50 以降は「ソフトウェア適用管理」）
- 業務メニュー「ソフトウェアの配布」（バージョン 07-50 以降は「ソフトウェア適用状況」）
- ［機器詳細］ダイアログの「移管履歴」タブ（バージョン 07-11 以降は「変更履歴」タブ）
- プロパティ「変更者名」（バージョン 07-11 以降は「変更者」）

（7）クラスタ環境での資産管理データベースのアップグレード

クラスタ環境で資産管理データベースのアップグレードを実行する前に，クラスタアドミニストレータを使用して，World Wide Web Publishing Service のサービスリソースをオフラインにしてください。そのあと，「コントロールパネル」の「管理ツール」－「サービス」から World Wide Web Publishing Service を停止してください。また，Asset Information Synchronous Service が起動している場合は，このサービスも停止してください。

クラスタ環境で資産管理データベースのアップグレードを実行する手順を次に示します。なお，実行系と待機系を切り換える方法については，Microsoft Cluster Service のマニュアルを参照してください。

1. **実行系の資産管理サーバで，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理**

データベースのアップグレードを実行する。
資産管理データベースのアップグレードを実行する手順については，「(5)　資産管理データベースのアップグレード」を参照してください。

2. **資産管理データベースが** Embedded RDB **の場合，サービスリソースをオフラインにする。**
Microsoft SQL Server および ORACLE の場合，手順 3. は不要です。

3. **実行系から待機系に切り換える。**

4. **待機系の資産管理サーバで，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのアップグレードを実行する。**
資産管理データベースのアップグレードを実行する手順については，「(5)　資産管理データベースのアップグレード」を参照してください。

付録 D.2　DBMS を移行する

Microsoft SQL Server，Embedded RDB および ORACLE 間で資産管理データベースを移行する作業の流れを次に説明します。

注意事項

Embedded RDB および ORACLE から Microsoft SQL Server に移行する場合，Microsoft SQL Server の照合順序は「バイナリ順」を設定し，大文字と小文字，全角と半角，かたかなとひらがなが区別されるようにしてください。また，Microsoft SQL Server から Embedded RDB および ORACLE に移行する場合，移行後は，大文字と小文字，全角と半角，かたかなとひらがなが検索時に区別されます。

1. CSV **形式で資産管理データベースのバックアップを取得する。**
CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，「11.13.1　CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア」を参照してください。

2. Asset Information Manager **を再インストールする。**
メンテナンスの画面で「変更」を選択して，資産管理データベースの種類を選択するダイアログで移行後の資産管理データベースの種類を選択します。

3. **［サーバセットアップ］ダイアログで，「データベース情報」の「ログイン** ID**」および「サービス名」を設定する。**

4. **［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースを作成する。**
資産管理データベースを作成する手順については，「5.4　資産管理データベースの作成」を参照してください。

注意事項

［データベースマネージャ］ダイアログから Microsoft SQL Server に資産管理データベースを作成する場合，Microsoft SQL Server のカスタムインストール時（Microsoft SQL Server 2005 の場合はインストール時）に設定した照合順序で

データベース領域が作成されます。そのため，カスタムインストール時に設定した照合順序とは別の照合順序にする場合には，手動でデータベースを作成してください。

5. **［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのリストアを実行する。**
   データのリストアを実行する方法については，「11.13.1(3) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのリストア」を参照してください。

付録 D.3　資産管理サーバをリプレースする

資産管理サーバのマシンをリプレースする場合の作業の流れを次に示します。リプレースするタイミングで DBMS を移行するときも，この手順でリプレースできます。

1. **移行前のマシンで，CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する。**
   CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，「11.13.1　CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア」を参照してください。
2. **移行後のマシンに Asset Information Manager をインストールする。**
   Asset Information Manager をインストールする手順については，「5.2.2　Asset Information Manager のインストール」を参照してください。
3. **［サーバセットアップ］ダイアログで，「データベース情報」の「ログイン ID」および「サービス名」を設定する。**
4. **［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースを作成する。**
   資産管理データベースを作成する手順については，「5.4　資産管理データベースの作成」を参照してください。
5. **アップロードしたファイルを移行後のマシンにコピーする。**
   アップロードしたファイルの格納先については，「11.13.4(1)　アップロードしたファイルのバックアップ」を参照してください。
6. **［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのリストアを実行する。**
   資産管理データベースのリストアを実行する方法については，「11.13.1(3) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのリストア」を参照してください。

付録 D.4　Asset Information Manager Limited から移行する

JP1/NETM/DM の Asset Information Manager Limited コンポーネントから Asset Information Manager に移行する手順について説明します。

移行に当たっては，次の点に注意してください。

- **移行できる** Asset Information Manager **のバージョン**
  Version 8 以降の Asset Information Manager に移行できます。
- **インストールフォルダの変更**
  Asset Information Manager Limited に Asset Information Manager を上書きインストールする場合，インストールフォルダは変更できません。インストールフォルダを変更するには，いったん Asset Information Manager Limited をアンインストールしてください。なお，JP1/NETM/DM で Embedded RDB を使用している場合，インストールフォルダを変更するには，データベースの移行作業が必要です。移行の手順については，「(3)　別の PC に Asset Information Manager をインストールする（Embedded RDB の場合）」を参照してください。
- DBMS **の種類の変更**
  Asset Information Manager をインストールする際に，JP1/NETM/DM で使用している DBMS と異なる種類の DBMS には変更できません。
  DBMS の種類を変更するには，インストール後に移行作業を実行してください。
- Asset Information Manager Limited **で適用した修正パッチ**
  Asset Information Manager Limited で適用した修正パッチはすべて無効になるため，Asset Information Manager として再度修正パッチを適用する必要があります。

Asset Information Manager Limited から Asset Information Manager に移行できるパターンと，それぞれの作業の流れを次に示します。

（1） Asset Information Manager を上書きインストールする

Asset Information Manager Limited がインストールされている PC に，Asset Information Manager を上書きインストールして移行できます。JP1/NETM/DM のコンポーネントからは，Asset Information Manager Limited が自動的にアンインストールされます。

移行作業の流れを次に示します。

1. Asset Information Manager **を上書きインストールする。**
   上書きインストールする場合，次の設定は変更できません。
   - ユーザ情報
   - インストール先のフォルダ
   - 資産管理サーバの仮想ディレクトリ
   - 資産管理データベースの種類，ポート番号，サイズおよび格納先
   - JP1/NETM/DM のデータベースの種類

   インストール手順については，「5.2.2　Asset Information Manager のインストール」を参照してください。
2. **［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのアップグレードを実行する。**
   資産管理データベースのアップグレードを実行する方法については，「付録 D.1(5)　資産管理データベースのアップグレード」を参照してください。

注意事項

Asset Information Manager を上書きインストールすると，サービス「Asset Information Synchronous Service」の「スタートアップの種類」は，「手動」に設定されます。データベースの移行作業が終了してから，「自動」に変更してください。

（2）別の PC に Asset Information Manager をインストールする（Microsoft SQL Server または ORACLE の場合）

Asset Information Manager Limited とは別の PC に Asset Information Manager をインストールして移行できます。

移行元の JP1/NETM/DM で使用している DBMS が Microsoft SQL Server または ORACLE の場合，Asset Information Manager Limited で使用していたデータベースを資産管理データベースとして使用します。

JP1/NETM/DM で使用している DBMS が Microsoft SQL Server または ORACLE の場合の，移行作業の流れを次に示します。

1. **移行先の PC に，Asset Information Manager をインストールする。**
   インストール手順については，「5.2.2　Asset Information Manager のインストール」を参照してください。
2. **［データソース／ネット・サービスの作成］ダイアログで，データソースまたはネット・サービスを作成する。**
   Asset Information Manager Limited が接続していたデータベースサーバに接続するために，データソースまたはネット・サービスを作成します。データソースまたはネット・サービスの作成方法については，「5.5　データソースまたはネット・サービスの作成」を参照してください。
3. **［サーバセットアップ］ダイアログの「データベース情報」で，「ログイン ID」および「サービス名」を設定する。**
   手順 2. で設定した内容と同じ値を，「ログイン ID」および「サービス名」に指定します。［サーバセットアップ］ダイアログでの設定方法については，「5.3.2　データベース情報の設定」を参照してください。
4. **移行先の PC 上で，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのアップグレードを実行する。**
   資産管理データベースのアップグレードを実行する方法については，「付録 D.1(5) 資産管理データベースのアップグレード」を参照してください。
5. **移行元の PC から，Asset Information Manager Limited をアンインストールする。**
   Asset Information Manager Limited をアンインストールする方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。
6. **JP1/NETM/DM のサーバセットアップでの設定を変更する。**
   JP1/NETM/DM のサーバセットアップで，「Asset Information Manager の URL」に

指定していた値を，Asset Information Manager をインストールした PC に変更します。JP1/NETM/DM のサーバセットアップでの設定方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

(3) 別の PC に Asset Information Manager をインストールする（Embedded RDB の場合）

Asset Information Manager Limited とは別の PC に Asset Information Manager をインストールして移行できます。

移行元の JP1/NETM/DM で使用している DBMS が Embedded RDB の場合，Asset Information Manager Limited で使用していたデータベースとは別に，データベース領域を作成してデータを移行します。

JP1/NETM/DM で使用している DBMS が Embedded RDB の場合の，移行作業の流れを次に示します。

1. **移行元の PC 上で，CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する。**
   CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，「11.13.1　CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア」を参照してください。
2. **移行先の PC に，Asset Information Manager をインストールする。**
   インストール手順については，「5.2.2　Asset Information Manager のインストール」を参照してください。
3. **［サーバセットアップ］ダイアログで設定する。**
   Asset Information Manager Limited に合わせて設定する項目はありません。設定内容を確認して，［OK］ボタンをクリックしてください。
4. **移行先の PC 上で，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのリストアを実行する。**
   手順 1. で指定したバックアップ用フォルダのパスを指定します。
   資産管理データベースのリストアを実行する方法については，「11.13.1(3)　［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのリストア」を参照してください。
5. **移行先の PC 上で，［データベースマネージャ］ダイアログから資産管理データベースのアップグレードを実行する。**
   資産管理データベースのアップグレードを実行する方法については，「付録 D.1(5)　資産管理データベースのアップグレード」を参照してください。
6. **JP1/NETM/DM のサーバセットアップでの設定を変更する。**
   JP1/NETM/DM のサーバセットアップで，「Asset Information Manager の URL」に指定していた値を，Asset Information Manager をインストールした PC に変更します。JP1/NETM/DM のサーバセットアップでの設定方法については，マニュアル

「JP1/NETM/DM 構築ガイド (Windows(R) 用)」を参照してください。

(4) ［機器詳細］ダイアログのタブの表示設定を変更する

Asset Information Manager Limited から移行したあとは，［機器詳細］ダイアログに表示されるタブの設定が Asset Information Manager Limited での設定と同じになっています。そのため，必要に応じてタブの表示設定を変更してください。

［機器詳細］ダイアログのタブの表示設定を変更する手順を次に示します。

1. **ユーザ ID「admin」で，Asset Information Manager にログインする。**
2. **業務メニュー「管理項目編集」を選択する。**
3. **管理クラス「VariousInfo」のアンカーをクリックする。**
   「VariousInfo」に含まれる操作画面の要素の一覧が表示されます。
4. **管理クラス「Text_TAB」のアンカーをクリックする。**
5. **次のプロパティのチェックボックスにチェックする。**
   - TAB_Contract
   - TAB_Maintenance
   - TAB_AssetUpdateRecord
   - TAB_License
6. **［更新］ボタンをクリックする。**
   資産管理データベースに変更内容が反映されます。
   変更した内容は，すべてのユーザ権限の操作画面に共通して反映されます。

付録 D.5　Embedded RDB のサイズの変更

Embedded RDB のサイズを変更するには，資産管理データベースを再作成する必要があります。ここでは，資産管理データベースのサイズを変更する場合の手順を次に示します。この手順で，サイズを変更する前のデータを再作成後のデータベースに引き継げます。サイズを変更する前のデータを引き継がない場合は，手順 2. だけを実行して資産管理データベースのサイズを変更してください。

1. **CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する。**
   CSV 形式で資産管理データベースのバックアップを取得する方法については，「11.13.1　CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア」を参照してください。
2. **資産管理データベースを作成する。**
   変更したいサイズを指定して，資産管理データベースを作成します。資産管理データベースを作成する方法については，「5.4.2　資産管理データベースの作成手順（Embedded RDB の場合）」を参照してください。
3. **資産管理データベースのリストアを実行する。**

手順 1. で取得した CSV 形式のバックアップファイルをリストアします。「バックアップフォルダ名」には，バックアップファイルのパスを指定します。資産管理データベースをリストアする方法については，「11.13.1(3) ［データベースマネージャ］ダイアログからの資産管理データベースのリストア」を参照してください。

付録 D.6　Embedded RDB のホスト名の変更

Embedded RDB のホスト名を変更する前に，資産管理サーバで，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

資産管理データベースが Embedded RDB の場合に，Embedded RDB のホスト名を変更する手順を次に示します。クラスタ環境で論理ホスト名を変更する場合も，この手順で変更できます。

1. **Embedded RDB を停止する。**
   Embedded RDB を停止する方法については，「(1)(a)　Embedded RDB を停止する」を参照してください。
2. **Asset Information Manager のインストールフォルダ** ¥aimdb¥conf **に格納されている** pdsys **ファイルをテキストエディタで開く。**
3. pdsys **ファイルの「**pdunit -x **ホスト名** -u unt1 -d "Asset Information Manager **のインストールフォルダ** ¥aimdb"**」の「ホスト名」を変更する。**
4. **Asset Information Manager のインストールフォルダ** ¥aimdb¥emb **に格納されている次のファイルをテキストエディタで開く。**
   - HiRDB.ini
   - reorganization_al.bat
   - reorganization_tb.bat
5. **各ファイルの「**PDHOST= **ホスト名」の「ホスト名」を変更する。**
6. OS **のホスト名を変更する。**
7. OS **を再起動する。**

（1） Embedded RDB の停止方法および開始方法

ホスト名を変更する場合に Embedded RDB を停止および開始する手順をそれぞれ次に

示します。

(a) Embedded RDB を停止する

Embedded RDB を停止する前に，資産管理サーバで，Asset Information Manager のサービスを次に示す順で停止してください。

1. World Wide Web Publishing Service または World Wide Web Publishing
2. Asset Information Synchronous Service
3. JP1/NETM/Client Security Control - Manager（JP1/NETM/CSC と連携している場合）

また，次に示す操作を実行したあとに Asset Information Manager を使用するときは，停止時と逆の順でサービスを起動してください。

Embedded RDB を停止する手順を次に示します。

1. Administrators 権限を持つユーザで，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe の jamemb_dbstop.bat を実行する。
   Embedded RDB が停止します。

(b) Embedded RDB を開始する

Embedded RDB を開始する手順を次に示します。

1. Administrators 権限を持つユーザで，Asset Information Manager のインストールフォルダ ¥exe の jamemb_dbstart.bat を実行する。
   Embedded RDB が開始します。

付録 E　プロセス一覧

ここでは，Asset Information Manager の各プロセスのプロセス名とその機能を次の表に示します。プロセスは，プロセス名のアルファベット順で並んでいます。プロセス名の（）に同時に実行できるプロセス数を示します。n は正の整数を示します。

表 E-1　各プロセスのプロセス名とその機能

プロセス名	機能
jamdbsetup.exe(1)	メタ定義・制御テーブルの情報のインポート先となるテーブル領域を作成するプロセス（セットアップ時に起動します）
jamdeur.exe(n)	PDF ファイルの出力時に使用されるプロセス
jamclasstbl.exe(1)	資産管理サーバに必要なテーブル領域をデータベース上に生成するプロセス（セットアップ時に起動します）
jamconvdats.exe(1)	データベースコンバート時に使用するプロセス
jamcsvconv.exe(1)	データベースコンバート時に CSV データを最新形式に変換する際に使用するプロセス
jamexport.exe(n)	エクスポートコマンドのプロセス
jamfind.exe(n)	検索を実行するプロセス
jamimport.exe(n)	インポートコマンドのプロセス
jamlic.exe(n)	ソフトウェア稼働情報を取り込むプロセス
jamlsynchronous.exe(1)	JP1/NETM/DM からリアルタイムに情報を取得する際に常駐するプロセス
jamscript.exe(n)	検索，更新など資産管理データベースを操作するためのプロセス（タスクや集計の実行中にも使用します）
jamsetup.exe(n)	資産管理サーバの動作に必要な環境情報を設定するプロセス
jamztrbl.exe(1)	ログ収集のために使用するプロセス（障害発生時のログ収集時にユーザが起動します）

注

Asset Information Manager は Microsoft Internet Information Services 上で稼働しているため，Microsoft Internet Information Services のプロセス inetinfo.exe が常駐しています。

付録 F　各バージョンの変更内容

（1）08-50 の変更内容

08-11 から 08-50 での変更点を次に示します。

- JP1/NETM/DM 08-50 で新規に取得される次の操作ログを，参照および集計できるようにした。
  - Web アクセス
  - 外部メディア操作
  - ファイル操作（印刷操作）
- 適用 OS に Windows Server 2008 を追加した。
- タスク「ディレクトリ情報の取込み」で JP1/NETM/DM のディレクトリ情報を資産管理データベースに取り込めるようにした。
- タスク「WSUS 更新プログラム通知」を利用して管理者にメール通知するときに，メールに記載される URL を指定できるようにした。
- WSUS サーバと連携したシステム構成の説明を追加した。
- タスクスケジューラに登録されたタスクの実行結果をメールで通知する場合の，送信元アドレスを設定できるようにした。
- 資産管理データベースの作成時に，エラーが発生して実行が停止する場合の，主な要因および対処の説明を変更した。
- 次の「資産種別」に，インポートの対象となる項目を追加した。
  - 「機器に関する情報」
  - 「インストールソフトウェア情報」
  - 「インストールソフトウェアリスト」
  - 「ソフトウェア情報」
  - 「ライセンス割り当て」
  - 「パッチ情報」
  - 「ウィルス定義情報」
- 業務メニュー「管理項目編集」で表示する設定にできる項目をすべて表記した。
- メモリ所要量の最小値を 512 メガバイトから 1 ギガバイトに変更した。
- 業務メニュー「インポート」からインポートする CSV ファイルの作成方法の説明および注意事項を追加した。

（2）08-11 の変更内容

08-10 から 08-11 での変更点を次に示します。

- 資産管理データベースおよび JP1/NETM/DM のデータベースが ORACLE の場合，

データベース・キャラクタ・セットを「JA16SJIS」に設定する説明を追加した。

- Embedded RDB を使用している場合，前方一致および後方一致を含む部分一致で検索するときに，大文字と小文字を区別するかどうかを設定できるようにした。
- Embedded RDB のホスト名を変更する手順を追加した。
- 資産管理データベースが Embedded RDB の場合，データベースのサイズを変更する手順を追加した。
- 資産管理データベースが Embedded RDB の場合，データベースのサイズの最小値を 100 メガバイトに変更した。
- Embedded RDB を停止および開始する手順を追加した。
- コマンドで資産管理データベースのバックアップと再編成を実行できるようにした。
- 資産管理データベースで使用する情報のサイズおよび内訳を変更した。
- 業務メニュー「業務フィルター」で設定した書式を，バージョン 08-00 以降の Asset Information Manager からバージョンアップする場合に移行できるようにした。
- クラスタ環境で，資産管理データベースをアップグレードする手順を追加した。
- データベースの照合順序の注意事項および説明を追加した。
- ［機器詳細］ダイアログの「ライセンス」タブから，ソフトウェア資産情報を変更できるようにした。

(3) 08-10 の変更内容

08-02 から 08-10 での変更点を次に示します。

- 操作ログを集計して，業務メニュー「操作ログ集計」から集計結果を確認できるようにした。
- 操作ログから機器の操作を追跡できるようにした。
- JP1/IM - Service Support と連携して，JP1/IM - Service Support から Asset Information Manager の機器の情報を参照できるようにした。
- JP1/NETM/DM と連携して，ソフトウェアの稼働状況を管理できるようにした。
- JP1/NETM/DM と連携して，利用していないライセンスを確認できるようにした。
- 業務メニュー「稼働状況」を，デフォルトでは表示しない設定に変更した。
- 機器の変更履歴をメールで通知できるようにした。
- 機器の変更履歴として取得できる項目を，選択できるようにした。また，機器の変更履歴として取得できる項目に次の項目を追加した。
  - ホスト名
  - IP アドレス
  - MAC アドレス

- ハードウェア資産情報の固有情報

● 作成したユーザレポートと同等の検索を，コマンドラインから実行できるようにした。

● ユーザレポート作成画面に「画面表示情報」を追加して，出力項目の並び順と表示幅を設定できるようにした。

● ユーザレポートの検索条件に，同一のプロパティを複数指定できるようにした。

● 案件画面に主題項目を定義できるようにした。

● パッチ情報を JP1/NETM/DM のインストールパッケージ情報から取得する場合，「パッケージ識別 ID」の先頭が「WUA-SUP」のときに，適用状態に「適用」と設定されるようにした。

（4）08-02 の変更内容

08-00 から 08-02 での変更点を次に示します。

● JP1/ 秘文 CG Pro の操作ログを参照できるようにした。

●［セットアップ］ダイアログから，Asset Information Manager のセットアップに必要な次に示す作業を実行できるようにした。
- 資産管理サーバの設定
- 資産管理データベースの作成
- データソースまたはネット・サービスの作成
- 仮想ディレクトリの設定

● 設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）を使用して，Asset Information Manager の主要画面を操作できるようにした。

● 資産管理データベースとして使用できる Oracle8i のバージョンを変更した。

● JP1/ 秘文の操作ログを参照するかどうかを選択できるようにした。

●［データベースマネージャ］ダイアログから，Embedded RDB のバックアップ，リストアおよび再編成を実行できるようにした。

● ハードウェア資産情報の「CPU 種別」に，次の CPU に対応するコードを追加した。
- Intel Core2
- Intel Core
- AMD Athlon 64 X2
- AMD Turion 64

● 定義データ量を 20 メガバイトから 30 メガバイトに変更した。

●［データベースマネージャ］ダイアログから，資産管理データベースのアップグレードおよび移行を実行できるようにした。

（5）08-00 の変更内容

07-53 から 08-00 での変更点を次に示します。

- 使用できる DBMS に Microsoft SQL Server 2005 を追加した。
- JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文と連携して，操作ログを管理できるようにした。
- Asset Information Manager を使用するための Microsoft Internet Explorer のバージョンを Microsoft Internet Explorer 6（SP1 以降）に変更した。
- 契約の更改履歴を管理できるようにした。
- インベントリ情報を取得すると更新されるパッチ情報の「適用状態」に，「未適用」だけでなく「適用」の情報を取得できるようにした。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの設定項目のうち，次に示す設定項目のカテゴリおよび名称を変更した。

表 F-1　07-53 以前と 08-00 の［サーバセットアップ］ダイアログの設定項目の対応

07-53 以前		08-00	
カテゴリ	**設定項目**	**カテゴリ**	**設定項目**
基本情報	図面ボタンの表示	NetInsight II 連携	図面ボタンの表示
	NetInsight II 連携のキー		NetInsight II 連携のキー
	監視図ボタンの表示	NNM 連携	監視図ボタンの表示
	オープンマップ名		オープンマップ名
	接続先サーバ名		接続先サーバ名
	JP1/IM - CM との連携設定	JP1/IM 連携	JP1/IM - CM との連携設定
	WSUS コネクタの URL	WSUS 連携	WSUS コネクタの URL
メール情報	メールによる通知	メール通知情報	メールによる通知
	メールの送信先アドレス		メールの送信先アドレス
インベントリ情報	インベントリ情報取り込み用ログイン ID	JP1/NETM/DM 連携	JP1/NETM/DM データベースログイン ID
	インベントリ情報取り込み用サービス名		JP1/NETM/DM データベース接続サービス名
	JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み		JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み
	JP1/NETM/DM の運用キー		運用キー
	資産情報の引き当てキー		資産情報の引き当てキー
	資産情報の引き当て 1		資産情報の引き当て 1
	資産情報の引き当て 2		資産情報の引き当て 2

07-53 以前		08-00	
カテゴリ	設定項目	カテゴリ	設定項目
	引き当たらなかった資産の新規登録		引き当たらなかった資産の新規登録
	ダイヤルアップ接続の MAC アドレス		ダイヤルアップ接続の MAC アドレス
	取り込む情報の種別		取り込む情報の種別
	監視間隔		監視間隔
	JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態		JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態
	削除された資産に設定するコード		削除された資産に設定するコード
	パッケージ識別 ID の取得		パッケージ識別 ID の取得
	ソフトウェア名への自動割り当て		ソフトウェア名への自動割り当て
	ソフトウェアの自動登録		ソフトウェアの自動登録
ソフトウェア利用情報	JP1/Lan Licenser 情報取り込み用ログイン ID	JP1/Lan Licenser 連携	JP1/Lan Licenser データベースログイン ID
	JP1/Lan Licenser 情報取り込み用サービス名		JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名
ネットワーク機器情報	NNM バージョン	NNM 連携	NNM バージョン
ディレクトリ情報	コードセット	ディレクトリサーバ連携	コードセット
ソフトウェア配布情報	JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名	JP1/NETM/DM 連携	JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名

（6）07-53 の変更内容

07-51 から 07-53 での変更点を次に示します。

- WSUS サーバと連携して，更新プログラムを管理および適用できるようにした。
- 業務メニュー「設置場所管理」で削除した設置場所を，一時的に退避する「ゴミ箱」を追加した。
- 業務メニュー「IP グループ管理」で，部署別および設置場所別の IP グループを作成して，IP アドレスを部署別および設置場所別に管理できるようにした。また，JP1/NETM/DM のインベントリ情報取得時，Network Node Manager のノード情報取得時，およびタスク「データメンテナンス」実行時に，作成した IP グループに従って，機器の「部署」および「設置場所」が設定されるようにした。
- タスク「データメンテナンス」で実行できる作業に，次の作業を追加した。
  - ライセンス区分に合わせて，ユーザとソフトウェアキー情報，またはハードウェア

資産情報とソフトウェアキー情報の関連を解除する作業
- 移管したソフトウェア資産のライセンス数とライセンスキーをそれぞれ統合する作業
- 管理レベルを「管理対象外」に設定したソフトウェアのインストールソフトウェア情報を削除する作業
- 部署または設置場所別の IP グループで，対応する部署または設置場所が削除された IP グループを削除する作業
- ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に合わせて，資産情報の「部署」を登録する作業
- ハードウェア資産情報の「IP アドレス」の値に合わせて，資産情報の「設置場所」を登録する作業
- 対応する情報が存在しない添付ファイルを削除する作業

● タスク「データメンテナンス」で実行する作業を，目的に応じて選択できるようにした。

● Asset Information Manager で発行する，次の JP1 イベントを追加した。
- 案件遷移イベント
- 案件状態変更イベント
- 案件削除イベント
- 問題点状態変更イベント
- 問題点削除イベント

● セットアップ時に指定した時間が過ぎて，自動的にログアウトした場合，ログアウトしたことを示すメッセージのあとにログイン画面が表示されるようにした。

● 不稼働機器一覧画面および一括変更画面から表示する［変更情報設定］ダイアログで，登録されている内容を削除できるようにした。

● 超過ライセンス一覧画面で検索されたソフトウェアの，利用機器一覧が表示された画面で，ライセンスが割り当てられている機器をアイコンで示すようにした。

● 超過ライセンスの利用者として検索された機器またはユーザに，［超過ライセンス利用機器一覧］ダイアログから，ライセンスの割り当てと解除をできるようにした。

● ソフトウェア資産の新規登録時に，ソフトウェア名にインストールソフトウェア名を割り当てられるようにした。

● 送信トレイ画面および実行案件管理画面から，案件の進ちょくを確認できるようにした。

● インストールソフトウェア管理画面から，インストールソフトウェア名のソフトウェア名への対応づけ，および対応づけの変更をできるようにした。

● 書式を一括で削除して，初期化できるようにした。

● JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，引き当て項目に設定した値を，上書きするかどうかを設定できるようにした。

● 案件遷移時に JP1 イベントを発行するタスク「JP1 イベント通知」を追加した。

● ハードウェア資産情報として管理できる項目に「コンピュータ ID」を追加した。

●「問題点状態変更イベント」の「ユーザ拡張エリア」に，任意の管理項目を割り当てて使用できるようにした。

● ハードウェア資産情報の「CPU 種別」に，次の CPU に対応するコードを追加した。

- Intel Pentium D
- Intel Celeron D
- AMD Duron MP
- Mobile AMD Athlon XP-M
- AMD Sempron
- Mobile AMD Sempron
- AMD Athlon 64
- AMD Athlon 64 FX
- Mobile AMD Athlon 64
- AMD64 互換 CPU
- AMD Opteron

（7） 07-51 の変更内容

07-50 から 07-51 での変更点を次に示します。

● JP1/IM - IDM と連携して，JP1/IM - IDM からインシデントを問題点として登録できるようにした。

● 適用 OS に Windows Server 2003 (x64) を追加した。

● NetInsight II のフロアレイアウト図から，該当する機器の［機器詳細］ダイアログを参照できるようにした。

● JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，パッケージ識別 ID を取得できるようにした。

● JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する際に，パッケージ識別 ID とパッケージ名を使用して，既存のインストールソフトウェア情報と引き当てた上で，自動的にソフトウェア名と割り当てられるようにした。また，ソフトウェア名に割り当てられていないインストールソフトウェア名が引き当たった場合，新規にソフトウェア名を登録して割り当てられるようにした。

● タスク「データメンテナンス」で実行する作業を，目的に応じて選択できるようにした。

● 日付を指定するときに，カレンダーから日付を選択して指定できるようにした。

● 保守履歴として管理できる項目に「JP1/IM - IDM 登録元ホスト」および「JP1/IM - IDM 識別情報」を追加した。

（8）07-50 の変更内容

07-11 から 07-50 での変更点を次に示します。

- JP1/NETM/DM の操作履歴を取得して，利用者のソフトウェアの使用状況や画面表示の操作状況を監視できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取得する場合，JP1/NETM/DM での変更をリアルタイムに取得できるようにした。
- JP1/IM - CM と連携して，JP1/IM - CM で Asset Information Manager の資産情報からシステム構成情報を取得して管理できるようにした。
- Network Node Manager と連携して，［監視図］ボタンから，ネットワークの構成を確認できるようにした。
- JP1/IM と連携して，JP1/IM の［イベントコンソール］画面から Asset Information Manager の操作画面を表示して，JP1 イベントと関連する情報を参照できるようにした。
- JP1/NETM/CSC と連携して，セキュリティ管理をできるようにした。
- 管理できる情報に，パッチ情報およびウィルス定義情報を追加した。
- 業務カテゴリ「ソフトウェア配布管理」の名称を「ソフトウェア適用管理」に変更した。
- 業務メニュー「ソフトウェア適用状況」からインストールソフトウェア情報，パッチ情報およびウィルス定義情報をそれぞれのタブから検索して適用状況を確認し，必要に応じて配布できるようにした。また，JP1/NETM/DM のあて先グループを指定した配布もできるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から削除された機器を，Asset Information Manager で一時的に廃棄扱いにする状態「仮廃棄」を追加した。
- Network Node Manager と連携して，Network Node Manager のネットワークプレゼンタおよびノード・サブマップから，Asset Information Manager の資産情報を参照できるようにした。
- データベースを組み込んだ Asset Information Manager Embedded RDB Edition を追加した。
- JP1/NETM/DM で，JP1/NETM/DM Client をインストールしていない機器（JP1/NETM/DM 未導入機器）から取得した情報を，資産管理データベースに取り込めるようにした。
- クラスタシステムで Asset Information Manager を運用できるようにした。
- ［サーバセットアップ］ダイアログの「基本情報」の設定「同時接続コネクション数の指定」を削除した。

- JP1/NETM/DM のインベントリ情報と Asset Information Manager の資産情報を引き当てるための設定を変更した。
- ライセンス集計専用のタスクを追加した。
- 集計結果を指定した世代数だけ残して削除するオプションを追加した。
- 業務メニュー「ログ一覧」からインベントリ情報の取得状況を確認できるようにした。
- 業務メニュー「インポート」および jamCsvImport.bat でのインポート，業務メニュー「エクスポート」および jamCsvExport.bat でのエクスポートで指定する「資産種別」に「パッチ情報」,「ウィルス定義情報」,「カスタマイズ（案件定義）」を追加した。
- 業務メニュー「パッチ対象機器一覧」を削除した。
- 業務メニュー「ユーザ検索」からユーザを検索できるようにした。
- 業務メニュー「保有機器集計」に「集計観点」を追加して，管理項目を指定して機器を集計できるようにした。
- 業務メニュー「保有機器一覧」にネットワーク情報を表示しないようにした。
- 業務メニュー「不稼働機器一覧」の［一括変更］ボタンから機器の状態を一括で変更できるようにした。
- 業務メニュー「一括変更」で変更できる情報に,「稼働管理種別」,「機器種別」,「名称」,「型式」,「製造者」,「製造番号」,「構成種別」,「モニタ種別」,「モニタ解像度」,「モニタサイズ」および「仕様」を追加した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報に合わせて,「機器種別」を変更するかどうかを選択できるようにした。
- 固有情報 Uint を利用して数値情報を追加できるようにした。
- 書式編集画面の「利用可能ボタン」を「非表示ボタン」に,「利用可能項目」を「非表示項目」に変更した。
- 案件画面を定義する Form Designer で，オブジェクトに対して設定するオブジェクト属性「データ型」に,「ソフトウェア参照」および「ソフトウェア資産参照」を追加した。
- 案件画面を定義する Form Designer で，挿入したオブジェクトの上下左右の位置をそろえるメニューを追加した。
- 資産情報として管理できる情報に,「DM 導入状態」,「DM 最終更新日付」を追加した。
- ハードウェア資産情報として管理できる情報に,「IP アドレス」,「MAC アドレス」,「ホスト名」,「MBSA バージョン」,「NNM 選択名」,「OS 情報」,「OS バージョン」,「DM 操作履歴更新日付」,「DM 操作履歴ファイル先頭日時」,「DM 操作履歴ファイル終端日時」,「DM 操作履歴エントリ番号」を追加した。

● 管理できる情報に，プログラム起動履歴およびウィンドウタイトル変更履歴を追加した。

● 次の情報に，固有情報を追加した。
- 資産情報
- ハードウェア資産情報
- 機器カタログ情報
- IP グループ管理情報

(9) 07-11 の変更内容

07-10 から 07-11 での変更点を次に示します。

● 案件を使用した資産管理業務を実行できるようにした。

● ソフトウェアの変更履歴を管理できるようにした。

● 業務メニューからインポートおよびエクスポートできるようにした。また，業務メニュー「インポート」および「エクスポート」と同様の処理を，バッチファイルでも実行できるようにした。

● ディレクトリサーバと連携する場合に，文字コードの設定を変更できるようにした。

● 1 ページに表示される検索結果の件数を指定できるようにした。

● 契約期限の迫った契約情報がメールで通知されるタイミングを設定できるようにした。

● 資産情報を登録する際に，管理したいファイルも添付ファイルとして指定できるようにした。

● 期間を指定して変更履歴を検索できるようにした。

● ［機器詳細］ダイアログから，移管履歴だけでなくハードウェアおよびソフトウェアの変更履歴も参照できるようにした。

● ハードウェア資産情報の CPU 種別を追加した。

● 保守履歴として管理できる情報に管理番号を追加した。

(10) 07-10 の変更内容

07-01 から 07-10 での変更点を次に示します。

● ライセンス情報を登録して，機器またはユーザに割り当てて管理できるようにした。

● JP1/IM と連携して，JP1/IM で管理している JP1 イベントなどの情報を基に，システム上の問題点を管理できるようにした。また，それに伴い，業務カテゴリおよび業務メニューの名称を変更した。

● JP1/NETM/DM と連携して，ソフトウェアの配布および配布状況の確認をできるようにした。

● ライセンスの集計をタスクで定期的に実行するようにした。

- ボリューム契約を管理できるようにした。
- 機器の変更履歴を管理できるようにした。
- インストールされているソフトウェアのファイル名，ファイル日付およびファイルサイズを管理対象に追加した。
- JP1/NETM/DM で収集したインベントリ情報を登録する際に，Asset Information Manager の管理項目に引き当てる項目を設定できるようにした。
- 利用数が超過しているライセンス，およびライセンスを保有していないソフトウェアを専用の操作画面で確認できるようにした。
- 使用期限を過ぎているライセンス，および保有ソフトウェアとして登録されているがライセンスを保有していないソフトウェアの利用数を集計できるようにした。
- 同時接続コネクション数を設定できるようにした。
- 「ライセンス超過のしきい値」の設定を，「メール情報」から「基本情報」に変更した。
- JP1/NETM/DM から取り込むインベントリ情報を選択する「取り込む情報の種別」の設定に，ソフトウェアインベントリ情報を含む選択肢を追加した。
- アクセス定義ファイルを作成して，独自の処理を実行するタスクを追加できるようにした。
- Asset Information Manager での管理項目に次の項目を追加した。
  資産情報の「管理部署 ID」，「管理部署」，「管理部署（英名）」，「管理者ユーザ ID」，「管理者」，「管理者（英名）」
- タスクでライセンス超過を検出した際に，資産管理者へのメール通知を OFF にする設定を追加した。
- 検索条件の「部署」および「設置場所」を，［参照］ボタンからも指定できるようにした。
- 検索条件の「資産番号」および「契約番号」を，「完全一致」，「部分一致」，「前方一致」または「後方一致」で指定できるようにした。
- 検索結果を PDF 出力できる操作画面を追加した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報に合わせて，ネットワーク情報およびインストールソフトウェア情報を削除するかどうかを設定できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得した機器の場合，［機器詳細］ダイアログから，JP1/NETM/DM のインベントリ情報を直接参照できるようにした。
- 管理項目に追加できるコードの範囲を限定した。
- 資産管理情報，ハードウェア資産情報，および機器カタログ情報に，ユーザ拡張用プロパティの種類を追加した。
- プロセス情報を削除した。

（11）07-01 の変更内容

07-00 から 07-01 での変更点を次に示します。

- JP1/Cm2/Network Node Manager と連携して，ノード情報をタスクで定期的に登録できるようにした。
- 操作画面をユーザ権限に応じてカスタマイズする業務フィルター機能を追加した。
- 棚卸未実施機器の集計結果を CSV ファイルでダウンロードできるようにした。
- ソフトウェアに対してインストールの許可を設定する業務メニューを「インストールソフトウェア管理」に変更した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報を取り込む際，新規に登録する資産情報の資産番号を設定する方法に，「ホスト名」，「ノード名」，「IP アドレス」，「MAC アドレス」および「コンピュータ名」を追加した。
- JP1/NETM/DM のユーザインベントリ情報でユーザ名，部署および設置場所を管理している場合，資産情報として登録できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報からインストールソフトウェア名を新規に登録する場合，インストールを許可するかどうかの設定をできるようにした。
- タスク「データメンテナンス」で，部署 ID，設置場所 ID，ユーザ ID に対応する部署名，設置場所名，ユーザ名を，資産情報および契約情報に設定できるようにした。
- ライセンス数の使用状況を監視してメールで通知する際に，ソフトウェアごとにメールで通知するしきい値を設定できるようにした。
- 同一の IP アドレスを複数の機器に登録できるようにした。
- 機器にインストールされているソフトウェアの情報を，操作画面から追加，編集できるようにした。
- 保有機器一覧画面の検索条件に「IP アドレス」，「MAC アドレス」，「ノード名（ホスト名）」，「コンピュータ名」，「デフォルトゲートウェイ」を追加した。
- 複数台の機器を一度に登録できるようにした。
- 機器の「ユーザ名」に，Asset Information Manager に登録されていないユーザ名を登録できるようにした。
- 契約会社カタログの内容を削除できるようにした。
- 契約一覧画面の検索条件に「契約開始日」を追加した。
- ライセンスを保有しているかどうか，ライセンスが超過しているかどうかで，ライセンス数を集計できるようにした。
- 稼働状況の集計結果から表示する，ソフトウェアを使用している機器の一覧項目に，「コンピュータ名」，「IP アドレス」を追加した。
- インストールされているソフトウェアのプロダクト ID を登録できるようにした。

- インストールされているソフトウェアを，種別で検索できるようにした。また，種別のコードを追加および変更できるようにした。
- インストールされているソフトウェアに，ライセンス管理の対象とするレベルを設定できるようにした。
- 操作画面に表示されるボタン，クラスのプロパティと対応しない検索条件，およびリストヘッダの名称，表示・非表示を変更できるようにした。また，タブの名称を変更できるようにした。
- ユーザレポート専用の業務カテゴリを追加できるようにした。
- ユーザレポートで作成した操作画面から，［機器詳細］ダイアログ，［ソフトウェア詳細］ダイアログ，および［契約詳細］ダイアログを表示できるようにした。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得できる項目を追加した。
- JP1/NETM/DM のインベントリ情報から取得できる CPU 種別を追加した。
- 「InstalledInfo（インストールソフトウェア情報）」，「InstalledList（インストールソフトウェアリスト）」に，ユーザ拡張用のプロパティを追加した。

付録 G　用語解説

(英字)

Asset Information Manager

ネットワーク装置を含めたハードウェア情報，ソフトウェア情報，契約情報などをデータベースに一元管理することで，資産の導入，ソフトウェアのライセンス管理，機器の保守などに伴う IT 資産管理業務の合理化および管理コストの低減を支援する製品です。また，JP1/NETM/DM，JP1/Lan Licenser，JP1/ 秘文，Network Node Manager，NetInsight II および JP1/IM といった JP1 製品と連携することで，IT 資産を統合的に管理できます。

CD ライティング

書き込み可能 CD/DVD メディアに，データを書き込むための専用ソフトを起動した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

Embedded RDB

Asset Information Manager または JP1/NETM/DM Manager に組み込まれたデータベースです。Embedded RDB を使用することで，新たに DBMS 製品を購入することなく，Asset Information Manager および JP1/NETM/DM を導入できます。

EUR（イーユーアール）

表形式のデータを入力して帳票を印刷するプログラムです。難しいプログラム作成や入力元のデータ形式を気にすることなく，さまざまな帳票を設計する機能を提供しています。

IP グループ情報

IP アドレスをグルーピングして管理するための情報です。グループごとに任意の名前を付けて，部門ごとにわかりやすい名称で IP アドレスを管理できます。

IT サービス

ビジネスやサービスの遂行を支援する仕組みとして IT システムを活用した，顧客の要望を満たすサービスです。

IT 資産

企業内に多数保有している PC，プリンタなどの IT 機器，ソフトウェアおよびそれらを使用するネットワーク環境です。

JP1/Base

JP1/IM および JP1/IM - CM の基盤となる機能を提供している製品です。JP1 イベントの送受信や，ユーザの管理，起動の制御などをします。また，JP1/IM システムのエージェントとしての役割も持ちます。

JP1/Base は，JP1/IM の前提プログラムです。

JP1/IM

企業情報システム全体を統合管理する製品です。システムをさまざまな角度で運用管理する JP1 シ

リーズと連携し，システムで発生した事象を JP1 イベントによって一元管理します。また，問題が発生すると迅速に管理者へ通知するとともに，問題個所を把握し調査を行うための運用操作の基盤を提供します。

JP1/IM - CM

業務システムを構成する各種のリソース（サーバ，ストレージなど）やシステム構成に関する情報を集約して管理する製品です。管理対象のリソースを任意にグルーピングできるため，システムの監視（性能，障害）や運用（設定配布，構成変更）の際に，グループ単位で管理したり操作したりできます。

JP1/IM - IDM

システムで発生した障害を速やかに検知，回復することを目的として，障害事象をインシデントとして管理する製品です。インシデントの発生から解決までの内容を記録・蓄積していくことで，過去の対策事例を基に速やかな障害回復を支援します。

JP1/IM - Service Support

問い合わせやシステム障害など，解決が必要な案件が発生した場合に，速やかに案件の内容を調査して対処するための機能を提供している製品です。

JP1/Lan Licenser

ネットワークを利用して，ソフトウェアの使用状況を監視し，ライセンス管理機能，ソフトウェア使用状況のデータ作成機能を提供している製品です。

JP1/NETM/CSC

Asset Information Manager の管理する資産情報を利用して，システムのセキュリティ対策を実施する製品です。JP1/NETM/CSC を導入したセキュリティ管理システムでは，管理者が設定したポリシーに基づいて，自動的に機器の危険レベルが判定され，判定結果に応じたアクション（対策）が実行されます。

また，管理者は Asset Information Manager の業務カテゴリ「クライアントセキュリティ管理」以下の画面で，クライアントを監視したり必要に応じてアクションを実施したりできます。

JP1/NETM/DM

ソフトウェアの配布およびクライアントの管理を，ネットワークを利用し，一括で実行するシステムの総称です。

JP1/NETM/DM 未導入機器

ネットワークにある JP1/NETM/DM Client をインストールしていない機器です。

JP1/ 秘文

さまざまな状況で企業内の機密データの漏えいを防止する製品です。クライアントが保持しているデータを暗号化する機能，FD などのリムーバブルメディアへの持ち出しを禁止する機能などを提供します。

JP1/ 秘文 CG Pro

Microsoft Office 文書を暗号化して専用の USB メモリに格納し，持ち出した Microsoft Office 文書を USB メモリにインストールされた専用ツールでしか閲覧・編集できないようにする製品です。

JP1/ 秘文 CG Pro を使用することで，外部に持ち出した USB メモリからの情報流出を防止できます。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 CG Pro エラー発生

JP1/ 秘文 CG Pro でエラーが発生した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 CG Pro からの持ち込み

JP1/ 秘文 CG Pro からデータが持ち込まれた場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 CG Pro 起動

JP1/ 秘文 CG Pro が起動した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 CG Pro への持ち出し

JP1/ 秘文 CG Pro へデータが持ち出された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 IC

データを暗号化する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 IF

データを外部媒体に格納して持ち出すことを禁止（または許可）する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 IS

ファイルサーバと連携して，ファイルサーバ上の共有機密フォルダに対するアクセスを制御する製品です。JP1/ 秘文と連携して操作ログを取得する場合，管理対象のクライアントにインストールします。

JP1/秘文 管理サーバ情報変更

JP1/ 秘文 管理サーバで情報が変更された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1/秘文 管理サーバへの認証

JP1/ 秘文 管理サーバへの認証に失敗した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

JP1 イベント

システムで何らかの事象（ジョブの実行結果，サービスのエラーなど）が発生したときに通知される事象です。

MIB

Network Node Manager の管理情報データベースです。Asset Information Manager では，Network Node Manager で収集したノード情報を，管理情報データベースから取り込んで資産管理に利用できます。

NetInsight II

フロアレイアウト図によって，ネットワークの物理的な構成表示機能，機器・テーブルの設備資産情報の管理機能を提供している製品です。

Network Node Manager

ネットワークでつながれた複数のシステムとアプリケーションを，一つのネットワークグラフィック画面から管理する機能を提供している製品です。

PC 起動

PC を起動，停止，ログオン，およびログオフした場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM で収集されます。

SNMP トラップ

Network Node Manager が管理する事象です。

WSUS サーバ

Microsoft Update の更新プログラムを管理するサーバです。

（ア行）

アクセス制限

資産管理システムで管理する資産情報のうち，税務申告や保守契約料金のように，利用するユーザが限定される情報に対して設ける制限です。
資産管理システムで設定できるアクセス制限は次のものです。

- ユーザ ID およびパスワードによるユーザ確認
- 権限によるシステム利用の可否
- 権限による操作画面から実行できる機能の制限
- 権限によるメニューの制限

アクティビティ

案件を定義する際の構成要素で，案件が次の作業者に送付される際に，実行される処理です。例えば，「申請」や「承認」という処理が，アクティビティに当たります。
アクティビティは Flow Designer で定義し，Activity Designer で内容を設定します。

アソシエーションクラス

オブジェクトクラス同士の関係を定義するクラスです。
アソシエーションは，複数のクラス間の関係を表します。具体的には，二つのクラス間の多重度や，二つのクラスがデータの追加や削除時にどのように処理されるかを定義します。

あて先

JP1/NETM/DM の配布管理システムからジョブを実行するときの，実行対象となるクライアントです。
Asset Information Manager では，操作画面で検索した機器をあて先として，ソフトウェアを配布できます。また，JP1/NETM/DM で作成したあて先グループを指定して，ソフトウェアを配布することもできます。

案件

ルートを定義した業務です。
例えば，「機器導入依頼票」や「ソフトウェア配布申請」などを指します。

案件カテゴリ

業務内容で分けた案件の分類です。
新規案件を選択する画面（新規案件画面）では，案件は案件カテゴリごとのタブに分かれて表示されます。

イベント管理者

JP1/IM から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，［イベントコンソール］画面から資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

インシデント

IT サービスの品質を低下させたり，システムの正常な運用を妨げたりする障害事象の単位です。

インシデント管理者

JP1/IM - IDM から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，［インシデントコンソール］画面またはインシデントの検索結果画面から資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

インストールソフトウェア情報

各機器にインストールされているソフトウェアを管理するための情報です。
インストールソフトウェア情報は，JP1/NETM/DM のインベントリ情報などを資産管理データベースに取り込んで利用するための情報です。
そのため，ソフトウェアの名称およびバージョンは，JP1/NETM/DM など，情報の取り込み先で管理されている内容となります。

インストールソフトウェアリスト

各機器にインストールされているソフトウェアの名称を管理するための情報です。また，インストールソフトウェアに対する各種設定を管理するためにも使用します。

インベントリ情報

クライアントでのハードウェアの使用状況やインストールされているソフトウェアの種類などの情報で，この情報を基にクライアントを管理します。インベントリ情報は，JP1/NETM/DM の配布管理システムからジョブを実行して取得します。
資産管理システムでは，JP1/NETM/DM で取得したインベントリ情報を資産情報として登録できます。

インポート

CSV ファイルの情報を一括して資産管理データベースへ取り込むことです。
インポートには，次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「インポート」からのインポート
  インポートの条件を作成し，CSV ファイルの資産情報を一括で更新します。
  この方法では，Asset Information Manager にログインできる環境であれば，どこからでもインポートできます。また，CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係を意識す

ることなく資産管理データベースの情報を更新できます。

- jamCsvImport.bat でのインポート
  業務メニュー「インポート」からのインポートと同様の処理を，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。CSV ファイルのフォーマットや，クラスおよびクラス間の関係などを意識することなく資産情報を更新できるので，運用を自動化するのに便利です。ただし，jamimport コマンドに比べると，処理に時間が掛かります。
- jamimport コマンドでのインポート
  CSV ファイルの情報を取捨選択することなく，一括して資産管理データベースへ取り込むことです。CSV ファイルには，資産管理データベースのデータを追加，変更または削除する情報を記述します。インポートは，Asset Information Manager が提供するコマンドで実行します。

ウィルス定義情報

機器にインストールされているウィルス対策ソフトウェアおよびウィルス定義ファイルの情報です。ウィルス定義情報は，「ウィルス対策ソフトウェア名」，「ウィルス対策ソフトウェアバージョン」，「ウィルス定義バージョン」などを表します。

ウィンドウタイトル変更

操作したウィンドウのウィンドウタイトルが変更された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM で収集されます。

ウィンドウタイトル変更履歴

管理対象の機器で操作したウィンドウのウィンドウタイトルが変更された場合に収集される履歴を管理する情報です。業務メニュー「ウィンドウタイトル変更履歴」から参照できます。JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携することで，JP1/NETM/DM で収集した操作履歴から取得できます。
ウィンドウタイトル変更履歴は，「ログインユーザ」，「プログラム名」，「プログラムバージョン」，「発生日時」，「ウィンドウタイトル」などを表します。

エクスポート

資産管理データベースの情報を，一括して CSV ファイルに出力することです。
エクスポートには，次の三つの方法があります。

- 業務メニュー「エクスポート」からのエクスポート
  出力したい資産情報を選択してエクスポートの条件を作成し，一括で CSV ファイルに出力します。この方法では，Asset Information Manager にログインできる環境であれば，どこからでもエクスポートできます。
- jamCsvExport.bat でのエクスポート
  エクスポート画面からのエクスポートと同様の処理を，資産管理サーバ上のコマンドラインから実行します。
- jamexport コマンドでのエクスポート
  資産管理データベースの情報を取捨選択することなく，一括して CSV ファイルに出力することです。CSV ファイルは，クラスごとに出力されます。エクスポートは，Asset Information Manager が提供するコマンドで実行します。

エスカレーション

システムに障害が発生した場合に，管理者や責任者に障害の詳細を伝達することです。
Asset Information Manager を使用した資産管理システムでは，JP1/IM - IDM からのインシデントを問題点として登録することでエスカレーションします。

オブジェクト
案件画面に配置するテキストフィールドやボタンなどの総称です。オブジェクトは Form Designer で設定します。

オブジェクトクラス
資産情報を管理する単位となるクラスです。オブジェクトクラスは，資産管理システムで管理する各項目を，クラスとプロパティを対応づけるテーブルや資産管理データベースに入出力する形態で表す情報です。

（カ行）

拡張装置
ハードウェア種別の一つで，「ディスプレイ」，「HD」，「CD-R」，「DAT」，「MO」，「プリンタ」です。資産管理システムでは，ハードウェアをシステム装置，拡張装置，ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

監視図
Network Node Manager で検出したネットワーク機器のマップです。ネットワーク機器の接続や，ネットワークの問題点などを参照できます。

管理項目
Asset Information Manager で管理する情報の各項目です。資産管理データベースで管理するクラスのプロパティに対応します。

管理項目名
案件を定義する際に，Form Designer で定義したテキストフィールド，テキストエリアおよびプルダウンへの指定値を識別するための名称です。クラスのプロパティを意識することなく，任意の文字列を指定できます。
この名称を基に，Activity Designer で資産管理データベースの更新方法を設定します。

管理者
企業の IT 資産管理全般を行う部署（情報システム管理部門）の機器管理担当者やネットワーク管理者です。管理者は，資産情報全般の情報を扱うことができます。

管理ノード
案件を定義する際の構成要素で，案件がたどるルートの各作業者（または部署）です。例えば，「申請者」や「承認者」が，管理ノードに当たります。
管理ノードは Flow Designer で定義します。

管理ラベル
組織階層単位でアクセス制限を行う場合に設定します。部署とユーザ権限に同一の管理ラベル（任意の文字列）を設定することで，管理ラベルを設定したユーザ権限を持つユーザは，同じ管理ラベルが設定された部署以下の情報しか扱えなくなります。

管理レベル
ライセンスを管理するレベルです。インストールされているソフトウェアに対して設定します。各ソフトウェアに対して設定しておくと，JP1/NETM/DM のインベントリ情報がこの設定に従って登

録されます。管理レベルの設定は，インストールソフトウェア管理画面で行います。
管理レベルには次の 3 段階があります。

- 「管理対象」
  ライセンスの利用数としてカウントする場合に選択します。
- 「集計対象外」
  ライセンスの利用数としてはカウントしない場合に選択します。インストールされているソフトウェアとして，情報は登録されます。
- 「管理対象外」
  ライセンス管理の対象外とし，インストールされているソフトウェアとしての情報も登録しない場合に選択します。

機器カタログ

機器の情報には，CPU やメモリサイズなど，製品ごとに決まっている項目を登録したものです。
新規に機器を登録するときに，あらかじめ登録されているカタログの中から，登録したい製品を選択することで，製品によって決まっている項目を入力する手間を省けます。

機密ファイル作成

JP1/ 秘文の自己復号型機密ファイル作成ツールによってファイルを暗号化した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

キャビネット

JP1/NETM/DM の配布管理システムにある，パッケージを保管するための領域です。
Asset Information Manager では，JP1/NETM/DM のキャビネットに保管されているパッケージを配布できます。

業務フィルター

ユーザ権限に応じて，操作画面から実行できる処理を制限する機能です。
各操作画面の構成要素（ボタン，検索条件，編集項目など）を，ユーザ権限に応じて変更します。

クラス

1. 資産情報のカテゴリごとに分けた管理情報の集まりです。資産管理システムで扱うクラスには，オブジェクトクラスおよびアソシエーションクラスがあります。
2. 「セキュリティ問題の修正プログラム」，「重要な更新」などの WSUS での更新プログラムのカテゴリです。

契約情報

各機器およびソフトウェアを保守，リースまたはレンタルの契約ごとに管理するための情報です。
同一の契約を行った複数の機器やソフトウェアを一つにまとめ，契約番号を付けることによって，契約単位に各機器またはソフトウェアを管理できます。

権限管理情報

権限管理情報は，資産管理システムでのユーザの役割を管理するための情報です。デフォルトでは，「管理者」と「利用者」の権限が設定されています。

検索パターン

［操作ログ一覧］ウィンドウで操作ログを検索するための検索条件を保存したものです。主な検索目的に使用する検索パターンは，デフォルトで登録されています。また，デフォルトで登録されている検索パターンを編集したり，新規に登録したりもできます。

更新プログラム

Microsoft Update で提供されている，システムの特定の問題を解決するプログラムです。Asset Information Manager では，WSUS サーバと連携して更新プログラムを管理します。

構成管理者

JP1/IM - CM から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，セントラルインフォメーションマスター・ビューアーから資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

コード ID

資産管理データベース上でコードに対応づけて管理されている項目に対して，ユニークに付けられている ID です。コードを編集する場合は，このコード ID を基にコードを追加，削除します。

（サ行）

作業者

案件を実行するユーザです。案件は，定義されたルートに従って，作業者（個人）に送付されます。

資産

ユーザが資産として管理する単位です。
資産には，機器に関する資産，ソフトウェアに関する資産およびユーザ固有の資産があります。機器に関する資産は一つ以上の機器で，ソフトウェアに関する資産は一つ以上のソフトウェアで構成されます。ユーザ固有の資産は，ユーザ固有の情報で構成されます。

資産管理サーバ

資産情報を管理し，資産情報に関するサービスを提供するサーバです。

資産管理システム

資産情報を管理するシステムです。資産管理システムは次のプログラムで構成されます。

- 資産管理サーバ
- 資産管理データベースサーバ
- WWW ブラウザ

資産管理データベース

資産情報を格納するデータベースです。資産管理システムが扱えるデータベースシステムは，Microsoft SQL Server，Embedded RDB または ORACLE です。

資産管理データベースサーバ

資産情報を格納するデータベースがあるサーバです。

資産情報

企業内にあるハードウェアおよびソフトウェアを管理するための情報です。資産情報では，ハードウェアやソフトウェアそのものの情報ではなく，「資産番号」，「部署」，「ユーザ名」，「設置場所」などを表します。
「資産番号」は，各資産を特定するための番号で，ユーザが任意に付けることができます。資産管理システムでは，この資産番号が各資産を管理するための最も基本的な単位になります。

システム装置

ハードウェアの種別の一つで，「PC」，「PC サーバ」，「UNIX」，および「UNIX サーバ」です。資産管理システムでは，ハードウェアをシステム装置，拡張装置，ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

書式

業務フィルターで，各操作画面をカスタマイズした設定（ボタンや検索条件の表示・非表示の設定など）内容です。
書式は操作画面ごとに設定し，一つの操作画面に複数設定することもできます。

職権

案件の中で，承認などの処理を実行できる作業者を，限定するための権限です。
職権が定義された作業を実行するには，Asset Information Manager にログインする権限とは別に，職権を持っている必要があります。

ジョブ

JP1/NETM/DM の機能の実行単位です。
Asset Information Manager の操作画面からは，次の 2 種類のジョブを実行できます。

- パッケージのインストール
- クライアントユーザによるインストール

透かし印刷

JP1/ 秘文で透かし印刷された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

設置場所情報

資産の設置場所を管理する情報です。設置場所情報は「設置場所名」，「住所」，「面積」，「場所属性」などを表します。

設備管理者

NetInsight II から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，フロアレイアウト図から資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

操作ログ

JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文で取得される，ユーザの操作の情報です。Asset Information Manager では，JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文のデータベースを直接参照して，データベースに格納されている操作ログを検索したり確認したりできます。
操作ログからは，ファイルのコピー，名称変更などの操作が，いつ，どこで実行されたかを確認したり，時系列に追跡したりできます。また，操作ログを集計することで，集計結果から各部署の状況を把握することもできます。

組織

ユーザ情報を扱う単位の一つです。ユーザ情報をそのユーザが所属している「組織」という観点で扱うことで，組織階層単位に情報のアクセスを制限できます。

組織外

次に示す状態の PC，またはその環境です。

- JP1/ 秘文 IC がインストールされていない
- JP1/ 秘文 IC はインストールされているが，組織鍵が異なる

組織鍵とは，JP1/ 秘文 IC で，同じインストール媒体を使用してインストールされた PC かどうかを識別するための情報です。

組織外持ち出し

ファイルを暗号化して持ち出した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。
持ち出しとは，ファイルをリムーバブルやネットワークにコピーまたは移動することです。また，リムーバブルメディアなどを組織外に持ち出す行為のことです。印刷による情報の持ち出しも含みます。

ソフトウェア稼働情報

機器にインストールされているソフトウェアの稼働時間の情報です。
ソフトウェア稼働情報は，JP1/Lan Licenser で取得した情報を資産管理データベースに取り込んで利用するため，ソフトウェアの名称は，JP1/Lan Licenser で管理されている名称となります。

ソフトウェアキー情報

ライセンスを利用先の機器やユーザに割り当てるためのキーとなる情報です。ソフトウェアキー情報は，「プロダクト ID」，「ライセンスキー」，「シリアル No.」などを表します。

ソフトウェア資産情報

商用ソフトウェア，シェアウェア，フリーウェアなど，資産管理システムに資産として登録したソフトウェアに関する情報です。ソフトウェア資産情報は，「資産 ID」，「ソフトウェア名」，「数量」を表します。

（タ行）

タスク

アクティビティ（案件が次の作業者に送付される際に実行される処理）を定義するときに組み合わせる処理内容です。
例えば，導入した機器の情報を登録するアクティビティは，「機器情報登録」と「ネットワーク情報登録」のタスクを組み合わせて定義します。
各アクティビティのタスクは，Activity Designer で設定します。

通常印刷

JP1/ 秘文で透かし印刷以外の印刷をした場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

データファイル

インポートおよびエクスポートで必要な CSV 形式のファイルです。データファイルは，「項目タイトル行」と「データ行」から構成されます。
インポートの場合は，アソシエーションクラス単位で，資産情報（資産データ）を記述します。
エクスポートの場合は，アソシエーションクラス単位で，資産情報の出力先として作成されます。

データファイル名定義ファイル

複数のデータファイルを一括してインポートまたはエクスポートする場合に必要なテキストファイルです。
データファイル名定義ファイルには，インポートまたはエクスポートする，すべてのデータファイル名と，そのデータファイルに対応するアソシエーションクラス表示名を定義します。

（ナ行）

ネットワーク管理者

Network Node Manager から Asset Information Manager の資産情報を参照するためのユーザです。このユーザにあらかじめパスワードを設定しておくと，ネットワークプレゼンタまたはノード・サブマップから資産情報を参照する際，自動的に，Asset Information Manager にログインできます。

ネットワーク情報

各機器のネットワーク上の位置を管理するための情報です。ネットワーク情報は，「IP アドレス」，「MAC アドレス」，「ノード名」，「コンピュータ名」などを表します。

ネットワーク装置

ハードウェア種別の一つで「HUB」，「ルータ」，「ネットワークプリンタ」です。資産管理システムでは，ハードウェアをシステム装置，拡張装置，ネットワーク装置の 3 種類に分けて管理します。

（ハ行）

ハードウェア資産情報

ハードウェア資産を管理するための情報です。ハードウェア資産情報は，Asset Information Manager を使用した資産管理システムで扱うすべてのハードウェアに関する情報です。ハードウェア資産情報は，機器そのものの情報で，「装置種別」，「機器種別」，「名称」などを表します。

パッケージ

JP1/NETM/DM の配布管理システムに登録され，配布できる状態になったソフトウェアです。配布管理システムにあるキャビネットに保管されます。
Asset Information Manager からソフトウェアを配布する場合は，JP1/NETM/DM で事前にパッケージを作成しておく必要があります。

パッケージング

JP1/NETM/DM で，パッケージを作成することです。

パッチ情報

各機器のパッチの適用状態を管理する情報です。パッチ情報は，「インストール日」，「適用状態」などを表します。

パッチリスト

パッチの名称を管理する情報です。パッチリストは，「パッチ名」，「パッチバージョン」などを表します。

秘文ログイン

JP1/ 秘文でログイン，ログアウト，ログインエラーなどが起きた場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

平文持ち出し

秘文フォーマットしていないリムーバブルメディア，外付けハードディスクに，ファイルを暗号化しないで（平文で）持ち出した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

持ち出しとは，ファイルをリムーバブルやネットワークにコピーまたは移動することです。また，リムーバブルメディアなどを組織外に持ち出す行為のことです。印刷による情報の持ち出しも含みます。

ファイル操作

作成，コピーなど，フォルダおよびファイルを操作した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM および JP1/ 秘文で収集されます。

部署情報

資産管理システムを利用する部門など，組織を管理するための情報です。部署情報は，「部署名」，「部署コード」，「原価コード」などを表します。

プログラム起動

プログラムを起動，終了した場合，およびプログラムの起動を抑止された場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/NETM/DM で収集されます。

プログラム起動履歴

管理対象の機器で使用したプログラムの起動および終了の履歴を管理する情報です。業務メニュー「プログラム起動履歴」から参照できます。JP1/NETM/DM 07-50 以降と連携することで，JP1/NETM/DM で収集した操作履歴から取得できます。

プログラム起動履歴は，「ログインユーザ」，「プログラム名」，「プログラムバージョン」，「発生日時」などを表します。

プロパティ

クラスの個々の属性です。

変更履歴

機器のメモリサイズやディスク容量の変更を管理するための情報です。CPU，メモリ，ディスクが物理的に不当に変更されていないかどうかを確認できます。

変更履歴は，「変更日付」，「ディスク容量」，「メモリサイズ」，「CPU」などを表します。

保守履歴

機器の障害内容やその対策内容を管理するための情報です。JP1/IM と連携する場合，保守履歴として JP1 イベントを取得できます。

保守履歴は，「登録日」，「障害内容」，「重大度」，「発生ホスト名」，「対策完了日」，「対策内容」，「費用」，「参考資料（URL）」などを表します。

ボリューム契約情報

ソフトウェアのボリュームライセンスの契約内容を管理するための情報です。

ボリューム契約情報は，「対象製品」，「目標ポイント数」，「契約日」，「契約開始日」，「契約終了日」，

「契約会社」,「契約内容」,「契約状態」などを表します。

（マ行）

メタ定義・制御テーブル

クラスと資産管理データベース内のテーブルを対応づけるために必要なテーブルです。メタ定義・制御テーブルを Asset Information Manager のセットアップ時に資産管理データベースにインポートすることで，データベースのデータ構造が定義されます。

メディアに書き込み

JP1/ 秘文でメディアに書き込みが発生した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

（ヤ行）

ユーザインベントリ情報

ユーザが任意に設定できる，ユーザ名や資産番号などの情報です。ユーザインベントリ情報は，JP1/NETM/DM の配布管理システムからジョブを実行して取得します。

資産管理システムでは，JP1/NETM/DM で取得したユーザインベントリ情報を資産情報として登録できます。

ユーザ管理情報

資産管理システムを利用するユーザを管理するための情報です。ユーザ管理情報には,「ユーザ名」,「電話番号」,「メールアドレス」,「役職名」などを表します。

ユーザライブラリ

案件で使用する画像を資産管理サーバにアップロードして，共通して使用するためのものです。Form Designer で案件画面に挿入したい画像は，ユーザライブラリに登録する必要があります。

ユーザレポート

ユーザが追加する業務と，その業務を実行するための操作画面です。Asset Information Manager では，あらかじめ提供されている業務メニューの業務のほかに，独自の業務（ユーザレポート）を追加できます。

（ラ行）

ライセンスキー登録

JP1/ 秘文で管理者がライセンスキーを登録した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

ライセンス区分

購入したライセンスの区分が,「マシン許諾」または「ユーザ許諾」のどちらかを表します。ライセンスの集計は,「ライセンス区分」の情報ごとに実行されます。

ライセンス形態

購入したライセンスの形態が，次のうちのどれかを表します。

- マシン許諾ライセンス
- ユーザ許諾ライセンス
- サーバライセンス
- クライアントアクセスライセンス
- 管理ノードライセンス
- CPU ライセンス
- セカンドライセンス
- 同時実行ライセンス

なお，「ライセンス形態」は，ライセンス形態を詳細に管理するための情報で，ライセンスの集計結果には影響しません。

ライセンス情報

ソフトウェアのライセンス内容を詳細に管理するための情報です。
ライセンス情報は，「ライセンス名」，「アップグレード保証」，「ダウングレード可否」，「ライセンス形態」，「ライセンス取得方法」，「ライセンス区分」などを表します。

ルート

案件がたどる作業者の順番です。
案件は定義されたルートに従って，順次処理されます。案件のルートは Flow Designer で定義します。

ログの改ざんチェック

JP1/ 秘文でログの改ざんを検知した場合に収集される操作ログです。この操作ログは JP1/ 秘文で収集されます。

索引

数字

1 ページに表示する検索結果の件数 106

A

Account 601
Activity Designer 400,401
Activity Designer の各部の名称と使い方 400
Adapter_HITACHI_JP1_AIM.conf 224
Address 543,547,548,572,599
AddressGroup 530
AfterValue 596
AIM_URL 642
AreaSize 572
AssetBranchNo 532
AssetID 532,541,542,546,552,559,566,578,581,583,585,587,595,602
AssetInfo 532
Asset Information Manager 674
Asset Information Manager Limited から移行する 653
Asset Information Manager から発行する JP1 イベントの詳細 508
Asset Information Manager 操作時のトラブル 442
Asset Information Manager の URL 111
Asset Information Manager のインストールとアンインストール 92
Asset Information Managerのフォルダ構成 638
Asset Information Manager のプログラム 65
Asset Information Manager への接続情報の変更 210
Asset Information Manager へのログイン時のトラブル 441
Asset Information Manager へのログインの可否 28
Asset Information Manager を使用するための基礎知識 283
Asset Information Synchronous Service 異常終了イベント 515
Asset Information Synchronous Service 開始イベント 513
Asset Information Synchronous Service 開始失敗イベント 514
Asset Information Synchronous Service 終了イベント 513
AssetKind 533
AssetNo 533,546,578
assetscr.chm 158
AssetStatus 533
AssetUpdateRecord 540
AssetWorkKind 533
ASTTRBL.BAT 432
Attribute 572
AuthorityLink 603

B

BASE 641
BaseCCN 541
BaseCreationClassName 541
BeforeValue 596

C

CatalogID 574
CD ライティング 674
CHAR_CODESET 643
CHECKINTERVAL 644
CircuitSpeed 552,574
ClientOperation.ini 178
ClientOperationList.txt 180
Company 543,547,548,599
CompletingDate 578
COMPO_AUTOLOGIN 642
COMPO_EXPIRES 642
ComponentInfo 541
ComponentName 542

ComponentVersion 542
ComputerID 552
ComputerName 581
ContactInfo 543,547,548,599
ContactInfo_2 543,547,548
ContactInfo_3 543,547,548
ContactName 543,547,548,599
ContactName_2 544,547,548
ContactName_3 544,547,548
Contents 544,548,599
Contract 543
CONTRACT_HISTORY 642
ContractAssetHistory 546
ContractCatalog 546
ContractDate 544,548,599
ContractHistory 548
ContractID 544,546,548,599
ContractKind 544,548,599
ContractLeaseLink 603
ContractMaintenanceLink 603
ContractNo 544,548,599
ContractObject 544,548,599
ContractRentalLink 604
ContractStatus 544,548,600
Cookie 有効期限日数 107
CostPriceCode 550
COUNT 641
CPU 552,574
CPUClock 552,574
CPUNumber 552,574
CPUType 552,574
CPU クロック数 552,574
CPU 数 552,574
CreationClassName の指定 245
CSV 形式での資産管理データベースのバックアップとリストア 469
CSV データの出力 267
CSV データの出力方法の選択 267
CSV データの登録 240
CSV データの登録と出力 239
CSV ファイルから取得する場合 34
CSV ファイルの編集方法 245

D

DATABASE 641
DBMS 61
DBMS のトラブルの主な要因と対処 446
DBMS のトラブル発生時の回復方法 467
DBMS を移行する 652
DefaultGateway 581
Description 568,569
Developer 552,574,591
DHCP_HISTORY 642
DHCPServerName 530,581
DHCP アドレスの変更履歴の取得 109
DHCP サーバ名 530,581
DMLastUpdateTime 533
DMStatus 533
DM 最終更新日付 533
DM 操作履歴エントリ番号 553
DM 操作履歴更新日付 553
DM 操作履歴ファイル終端日時 553
DM 操作履歴ファイル先頭日時 553
DM ソフトウェア更新日付 536
DM 導入状態 533
DM ハードウェア更新日付 534
DM パッケージ更新日付 534
DM ユーザ更新日付 539
DownGrade 569
DownSoftwareListID 591

E

Embedded RDB 674
Embedded RDB のサイズの変更 657
Embedded RDB のホスト名の変更 658
Embedded RDB を開始する 659
Embedded RDB を停止する 659
EndDate 533,544,549,600
EndIPAddress 530
EngineVersion 566
EUR 641,674
EUR_TIMEOUT 641
EUR と連携したシステム構成 80
EUR と連携して検索結果を PDF 形式で出力する 24

EUR と連携するための設定 234
EventHost 578
eventmap.ini 521
EventNo 578
ExecutionHost 578
ExecutiveName 598
Executor 565
Expense 578
EXPIRATION_NOTICE 642
Explanation 544,549,550,572,598,600

F

FAQ（案件の定義） 425
FileDate 562,565
FileName 562,565
FileSize 562,565
Flow Designer 373,374,421
Flow Designer の各部の名称と使い方 373
FOLDER 645
Form Designer 378,379
Form Designer の各部の名称と使い方 378
FullPathName 550,572
FullPathName_EN 550,572

G

Gateway 530
GlobalIPAddress 581
GROUP_AUTO 642
GroupCode 550
GroupID 530,533,544,550,600
GroupInfo 549
GroupName 534,541,549,550
GroupName_EN 534,541,550

H

HardwareInfo 551
HIBUN 646
HistoryNo 585,602
HistoryUpdateDate 541,547,565,596
hitachi_jp1_aim_base_attr_ja.conf 215
hitachi_jp1_aim_mon_ja.conf 216
HOST_WITHOUT 643
HostName 552
HrdInvUpdateDate 534

I

IDMHost 578
IDMInfo 578
ID を伴うクラスのインポート 243
IM 645
IM_CM 645
Importance 578
IndicationItemKey 596
InfoInd 542,559,566,581,584
Information Viewer 65
Information Viewer のフォルダ構成 639
INNER 333
INSLINK_AUTO 644
INSPACKIDGET 644
InsPkgUpdateDate 534
InstalledDate 560,566,584
InstalledID 542,560,562,565
InstalledInd 562
InstalledInfo 559
InstalledKind 562
InstalledList 561
InstalledName 562,565
InstalledPermit 562
InstalledStatus 584
InstalledUpdateRecord 564
InstalledVersion 562,565
InstalledVirusDefInfo 566
INVENTORY_KIND 644
InventoryKey 534
IPAddress 552,567,581
IPAddressKind 582
IPAddressLink 604
IPGroupID 531
IPGroupName 531
IP アドレス 552,567,581
IP アドレス管理情報 567
IP アドレス種別 582
IP アドレスの状態管理 604
IP グループ ID 531
IP グループ情報 530,674

IP グループ情報のインポート 252
IP グループ名 531
ISAPI の制限の設定 155
ISAPI フィルタの設定 156
IT サービス 674
IT 資産 674

J

jamCsvExport.bat の実行 269
jamCsvImport.bat の実行 245
jamdbexport.bat 471
jamemb_backup.bat 476
jamemb_reorganization.bat 481
jamemb_workcomp.exe 449
jamexport（エクスポート）コマンドの実行 274
jamimport（インポート）コマンドの実行 263
jamimport コマンドでインポートする情報とクラスとの対応 247
jamimport コマンドでインポートするファイルの形式 256
jamimport コマンドでのインポートの流れ 241
jamTakeOperationLog.bat の実行 278
JobRoleID 568
JobRoleInfo 568
JobRoleLink 604
JobRoleName 568
JobRoleName_EN 568
JP1/Base 66,674
JP1/Base イベント通し番号 578
JP1/IM 674
JP1/IM - Central Information Master 連携 65
JP1/IM - Central Information Master 連携のフォルダ構成 640
JP1/IM - CM 66,675
JP1/IM - CM からの資産情報の表示 226
JP1/IM - CM で構成管理をする 22
JP1/IM - CM で取得する情報の変更 224
JP1/IM - CM との連携時のトラブル 462
JP1/IM - CM との連携設定 124
JP1/IM - CM と連携したシステム構成 76
JP1/IM - CM と連携するための設定 223
JP1/IM - CM への接続情報の変更 227
JP1/IM - IDM 66,675
JP1/IM - IDM からの資産情報の表示 221
JP1/IM - IDM からの問題点の登録 219
JP1/IM - IDM 識別情報 578
JP1/IM - IDM 登録元ホスト 578
JP1/IM - IDM との連携 17
JP1/IM - IDM との連携時のトラブル 462
JP1/IM - IDM と連携したシステム構成 75
JP1/IM - IDM と連携するための設定 219
JP1/IM - Manager 66
JP1/IM - Manager での自動アクションの設定 213
JP1/IM - Manager と連携したシステム構成 74
JP1/IM - Service Support 67,675
JP1/IM - Service Support からの資産情報の表示 229
JP1/IM - Service Support との連携時のトラブル 463
JP1/IM - Service Support と連携するための設定 229
JP1/IM からの資産情報の表示 217
JP1/IM 実行元ホスト 578
JP1/IM との連携 16
JP1/IM との連携時のトラブル 461
JP1/IM と連携するための設定 211
JP1/IM 連携 645
JP1/IM 連携の設定 124
JP1/Lan Licenser 675
JP1/Lan Licenser から取得できるソフトウェア稼働情報 507
JP1/Lan Licenser データベース接続サービス名 125
JP1/Lan Licenser データベースログイン ID 125
JP1/Lan Licenser との連携時のトラブル 463
JP1/Lan Licenser と連携したシステム構成 81

JP1/Lan Licenser と連携してソフトウェアの稼働状況を管理する 25
JP1/Lan Licenser と連携するための設定 237
JP1/Lan Licenser 連携 645
JP1/Lan Licenser 連携の設定 125
JP1/NETM/CSC 675
JP1/NETM/DM 675
JP1/NETM/DM，JP1/ 秘文と連携して操作ログを管理する 20
JP1/NETM/DM から取得する場合 32
JP1/NETM/DM から取得できるインベントリ情報 486
JP1/NETM/DM から取得できる操作ログ 501
JP1/NETM/DM データベース接続サービス名 114
JP1/NETM/DM データベースログイン ID 113
JP1/NETM/DM で削除された資産の機器状態 118
JP1/NETM/DM で使用するジョブ格納フォルダ名 121
JP1/NETM/DM との連携時のトラブルの主な要因と対処 453
JP1/NETM/DM との連携に必要な検討項目の一覧 5
JP1/NETM/DM と連携した基本的なシステム構成 68
JP1/NETM/DM と連携するために必要な作業の流れ 89
JP1/NETM/DM 未導入機器 675
JP1/NETM/DM 未導入機器の取り込み 114
JP1/NETM/DM 連携 65,643
JP1/NETM/DM 連携の設定 113
JP1/ 秘文 675
JP1/ 秘文 CG Pro 675
JP1/ 秘文 CG Pro エラー発生 676
JP1/ 秘文 CG Pro からの持ち込み 676
JP1/ 秘文 CG Pro 起動 676
JP1/ 秘文 CG Pro への持ち出し 676
JP1/ 秘文 IC 676
JP1/ 秘文 IF 676
JP1/ 秘文 IS 676
JP1/ 秘文 管理サーバ情報変更 676
JP1/ 秘文 管理サーバへの認証 676
JP1/ 秘文データベース接続サービス名 127
JP1/ 秘文データベースログイン ID 126
JP1/ 秘文との連携時のトラブル 459
JP1/ 秘文との連携設定 126
JP1/ 秘文と連携したシステム構成 70
JP1/ 秘文と連携するための設定 202
JP1/ 秘文連携 646
JP1/ 秘文連携の設定 126
JP1_AssetInformationManager 208
JP1 イベント 66,676
JP1 イベントの種類 508
JP1 イベントを転送するための設定 215
JP1 製品（JP1/NETM/DM 以外）との連携時のトラブルの主な要因と対処 459

K

KeyID 589

L

LDAP 643
LICENSE_LIMIT 641
LicenseCategory 569
LicenseID 569,588
LicenseInfo 569
LicenseKey 589
LicenseName 569
LicenseType 569
LIKE 検索時の大文字小文字の区別（Embedded RDB） 103
Link 586
LinkClass 596
LinkKey 565,596
LL 645
LLSoftwareName 595
LLUpdateDate 534
LL 更新日付 534
LOCATION_AUTO 642
LocationID 531,535,572
LocationInfo 572

LocationName 535,541,572
LocationName_EN 535,541,572
LOG_DISPLAY_LEVEL 642
LOG_SEARCH_ALERTTIME 642
LOG_SEARCH_NUM 642
LOG_TIME_LIMIT 642
LoginUser 585,602
log フォルダに作成されるファイル 434
LONGTIME_COUNT 641

M

MACAddress 552,582
MachineCatalog 574
MachineKind 552,574
MachinePermitLink 604
MACHINESTATUS 644
MACHINESTATUSCODE 644
MAC アドレス 552,582
MAIL 642
Mail 598
Maintenance 577
MaintenanceDate 578
MaintenanceHost 578
MaintenanceID 578
MaintenanceKind 578
MaintenanceStatus 579
ManagedLabel 550,586
ManagedNo 579
ManagerialGroup 535
ManagerialGroup_EN 535
ManagerialGroupID 535
ManagerialUser 535
ManagerialUser_EN 535
ManagerialUserID 531,535
MATCH_KEY 643
MATCH_KEY_OPT 643
MBSAVersion 552
MBSA バージョン 552
MeasureContents 579
MemberLink 605
MemorySize 552,575
MIB 676
Microsoft Internet Information Services 6.0 以降を使用する場合の設定 150
Microsoft SQL Server 2000 61
Microsoft SQL Server 2005 61
Microsoft SQL Server 7.0 61
Model 552,575
ModelKind 552,575
MonitoringFileEnd 553
MonitoringFileEntry 553
MonitoringFileStart 553
MonitoringUpdateDate 553
MonitorKind 552,575
MonitorResolution 553,575
MonitorSize 553,575
MonthlyPrice 544,549,600

N

Name 553,575
NetInsight II 677
NETINSIGHT2 645
NetInsight II -AS 64
NetInsight II -CS 64
NetInsight II からの資産情報の表示 232
NetInsight II で資産情報を参照するための設定 231
NetInsight II と連携したシステム構成 78
NetInsight II と連携して機器の位置情報を表示する 24
NetInsight II と連携するための設定 231
NetInsight II 連携 645
NetInsight II 連携のキー 124
NetInsight II 連携の設定 124
NETM 643
NetworkID 582
NetworkInfo 581
Network Node Manager 67,677
Network Node Manager から取得できるノード情報 503
Network Node Manager からの資産情報の表示 209
Network Node Manager で資産情報を参照するための設定 207

Network Node Manager との連携時のトラブル 460
Network Node Manager と連携したシステム構成 72
Network Node Manager と連携してネットワーク構成を管理する 18
Network Node Manager と連携するための設定 203
NI2 645
NI2KEY 645
NNM 645
NNM_OPENMAP 645
NNM_SERVER 645
NNM_VERSION 645
NNM_WEB 645
NNMSelectionName 553
NNMUpdateDate 535
NNM 更新日付 535
NNM 選択名 553
NNM バージョン 122
NNM 連携 645
NNM 連携の設定 122
NO_AIMITEM 643
NO_DMINFO 643
NodeName 582
Note 536,569,579,589
NOTICE_MAILFROM 643
NOTICE_MAILTO 642
NumberOFLicense 588
NumberOFPoint 588
NumberOFPort 553,575

O

ObstacleContents 579
ODBC ドライバ 61
Oracle8i 61
Oracle9i 61
Oracle9i のクライアント 61
OSInfo 553
OSVersion 553
OS 情報 553
OS バージョン 553
OUTER 333

P

PackageAttr 563,565
PackageID 563,565
ParentSoftwareID 542
Password 598
PatchID 584,585
PatchInfo 583
PatchList 584
PatchName 585
PatchVersion 585
PC 起動 677
PDF ファイル作成時のタイムアウト時間 105
PDF ファイルの表示および印刷 234
PDF ボタンの表示 104
PortInfo 582
PPP_MAC 644
ProductID 560,589
ProgramHistory 585
ProgramKind 585
ProgramName 585,602
ProgramVersion 586,602
PurchasePrice 536,575
PurchaseType 570
Purpose 531,536,567

R

RecordInd 560
REFERENCE_FIELD 641
REFERENCE_NUM 641
REFERENCE_NUMONPAGE 641
ReferenceData 579
RegistrationDate 536
RemainHDSize 553
RenewalDate 546,549
RenewalTimes 544,546,549
ResidentKind 566
RoleID 586
RoleInfo 586
RoleName 586
RoleName_EN 587

S

ScreenItemList.pdf 296
ScreenWithPage.pdf 106
SEARCH_CASE_SENSITIVE 641
SerialNo 553
SERVER 641
SERVICE_NAME 641,643,645,646
SESSTION_TIME 641
SirialNo 589
SMTP 仮想サーバの実行 184
SNMP トラップ 677
SoftAssetID 589
SoftInvUpdateDate 536
SOFTWARE_AUTO 645
SoftwareID 560
SoftwareInfo 587
SoftwareKeyInfo 589
SoftwareKind 592
SoftwareList 590
SoftwareListID 563,570,588,592
SoftwareName 592
SoftwareStatus 536
SoftwareVersion 566
SoftwareWorkInfo 593
Specification 553,575
StartDate 536,544,549,600
StartIPAddress 531
StocktakingDate 536
SubLinkKey 596
SubnetMask 531,582
SystemInd 587

T

targetcondition.conf 224
TargetPoint 600
taskopt.ini 167
Telephonenumber 598
Threshold 592
Time 586,602
TotalHDSize 553,575
TotalPrice 544,549,600

U

UNDEF_GROUP 641
UNDEF_LOCATION 641
UpdateKind 565
UpdateRecord 596
UpdateRecordInd 597
UpdateTime 245
UpdateUser 537
UpGrade 570
UpperLinkID 550,573
URL 396
USER 641,643,645,646
UserID 537,549,598
UserInfo 597
UserName 537,541,579,598
UserName_EN 537,541,598
UserPermitLink 605
UserProperty
537,545,549,550,553,560,563,570,573,575,579,582,588,590,593,598,600,547
UsrInvUpdateDate 539

V

VirusDefName 567
VirusDefVersion 567
VolumeContract 599
VolumeContractLink 605

W

Weak アソシエーション 286
Windows Server 2003 (x64) でタスクを使用する場合 162
Windows Server 2003 (x64) に Asset Information Manager をインストールする 95
Windows Server 2003 (x64) を使用する場合の制限内容 60
Windows Server 2003 (x64) を使用する場合の注意事項 140
WindowTitle 602
WindowTitleHistory 601

WindowTitleKind 602
WORK_KEY 643
Worker 580
WorkTimeMonth 595
WSUS 646
WSUS_URL 646
WSUS 更新プログラム通知 53
WSUS コネクタの URL 127
WSUS サーバ 677
WSUS サーバと連携したシステム構成 83
WSUS との連携時のトラブルの主な要因と対処 465
WSUS 連携 646
WSUS 連携の設定 127
WSUS 連携のフォルダ構成 640
WWW サーバが応答しなくなった場合 467
WWW サーバにトラブルが発生した場合 467
WWW サーバのトラブルの主な要因と対処 445
WWW ブラウザ 61
WWW ブラウザが異常終了した場合 468
WWW ブラウザ実行時のトランザクション 438
WWW ブラウザでのトラブル確認方法 433
WWWブラウザのトラブルの主な要因と対処 450
WWWブラウザのトラブル発生時の回復方法 468
WWW ブラウザ表示不正の場合 468

あ

アカウント 601
空ディスク容量 553
アクセス制限 28,677
アクセス制限の種類 28
アクセス定義ファイル 158
アクティビティ 677
アクティビティ追加 374
アクティブ・スタンバイ構成 56
アソシエーションクラス 284,525,677
アソシエーションクラスの概念 285
アソシエーションクラスのプロパティ一覧 603
アソシエーションの種類 286
アダプタコマンド設定ファイル 224
アダプタコマンド設定ファイルのコピー 224
新しく職権を追加する 369
新しくユーザ権限を追加する 294
アップグレード保証 570
アップロードしたファイルのバックアップおよびリストア 478
アップロードするファイルの拡張子の登録 150,153
あて先 677
アプリケーション（仮想ディレクトリ）の設定 154
アプリケーションプールの作成 150,153
アンインストール 97
案件 678
案件カテゴリ 375,678
案件画面の定義例 398
案件画面を定義する 378
案件削除イベント 519
案件状態変更イベント 518
案件処理オプションを設定する 421
案件遷移イベント 517
案件定義の概要 364
案件定義の流れ 365
案件の定義 363
案件の定義内容を変更する 424
案件の到着通知 54
案件名を変更する 423
案件を公開または公開停止にする 423
案件を削除する 424
案件を使用した業務を設計する 367
案件を処理する権限を定義する 369
案件を投入したユーザに戻して案件を完了させる 377

い

移管履歴 540
移管履歴のインポート 255
一時的なトラブル 437
イベント拡張属性定義ファイル 215

イベント管理者 678
イベント属性構成ファイル 521
イベント発行ホスト名 578
インシデント 17,678
インシデント管理者 678
インストール 93
インストール ID 542,560,562,565
インストールソフトウェア情報 559,678
インストールソフトウェア情報として取得できるインベントリ情報 494
インストールソフトウェアバージョン 565
インストールソフトウェア名 42,562,565
インストールソフトウェアリスト 561,678
インストールソフトウェアリストとして取得できるインベントリ情報 495
インストール手順 95
インストールとセットアップ 87
インストール日 560,584
インストール日付 566
インストール前の作業 94
インベントリ情報 678
インベントリ情報から取得する項目を追加する 357
インベントリ情報参照時のトラブル 455
インベントリ情報登録時のデフォルト値を変更する 358
インベントリ情報取り込み時のトラブル 453
インベントリ情報の引き当て 344
インベントリ情報の引き当て方法の設定 36
インベントリ取り込み制御 559,566,581,584
インポート 240,678
インポートおよびエクスポートの対象となる項目 606
インポート時の注意事項 242
インポートの流れ 240

う

ウィルス対策ソフトウェアバージョン 566
ウィルス対策ソフトウェア名 567
ウィルス定義情報 566,679
ウィルス定義情報として取得できるインベントリ情報 498
ウィルス定義情報のインポート 254
ウィルス定義バージョン 567
ウィンドウタイトル 602
ウィンドウタイトル変更 679
ウィンドウタイトル変更履歴 601,679
ウィンドウタイトル変更履歴として取得できる操作ログ 501
ウィンドウを定義する 380
運用キー 115
運用キー別の資産情報の引き当て方法 40
運用上のトラブル 437
運用方法の検討 3,27

え

エクスポート 267,679
エクスポートの流れ 268
エスカレーション 679
エンジンバージョン 566

お

オープンマップ名 123
オブジェクト 379,680
オブジェクトクラス 284,524,680
オブジェクトクラスの概念 285
オブジェクトクラスのプロパティ一覧 530
オブジェクト属性 380
オブジェクト属性を設定する 388
オブジェクトの種類とオブジェクト属性の対応 389
オブジェクトのスタイルや位置をそろえる 398
オブジェクトのスタイルを設定する 387
オブジェクトを挿入する 383
オペレーションコード 259
親ソフトウェア識別 ID 542

か

開始アドレス 531
回数 544,546,549
回線速度 552,574
外部結合 333
各イベントの属性 509

各管理ノードの作業を定義する 400
拡張装置 680
画像 381,384
仮想ディレクトリの設定 147
カタログ ID 574
稼働管理種別 533
稼働ソフトウェア名 595
画面リンク 586
監視間隔 118
監視図 18,680
監視図の表示 205
監視図ボタンの表示 123
管理項目 680
管理項目に引き当てる情報を設定する 410
管理項目の変更 296
管理項目の名称を変更する 298
管理項目編集 296
管理項目名 389,680
管理項目を追加する 298
管理者 28,535,680
管理者（英名） 535
管理者ユーザ ID 531,535
管理情報の詳細 523
管理する情報 12
管理対象の検討 3,8
管理対象の項目を変更する 297
管理ノード 680
管理ノード追加 374
管理ノードに職権を設定する 376
管理番号 579
管理部署 535
管理部署（英名） 535
管理部署 ID 535
管理方法の違い 14
完了アクティビティ追加 374
管理ラベル 30,294,550,586,680
管理レベル 562,680
関連プログラム 66

き

キー ID 589
機器および機器に関する情報のインポート 248
機器カタログ 574,681
機器種別 552,574
機器種別の引き当て項目を設定する 356
機器状態 533
機器に関連づける情報 10
機器の種別 9
機器の情報の変更通知 182
機器を管理する 8
期限切れ契約情報通知 49
基本情報 641
基本情報の設定 104
機密ファイル作成 681
決められた二つのクラスを結合して検索 325
キャビネット 681
業務カテゴリを追加する 322
業務の検討 7
業務フィルター 305,681
業務メニューの名称を変更する 321
許可 562
許可外インストール通知 52
緊急・重度以外のシステムトラブル 436
緊急・重度のシステムトラブルが発生した場合 436

く

クラス 681
クラス関連図 527
クラス構成 524
クラスタ環境での資産管理データベースのアップグレード 651
クラスタシステムでのシステム構成 84
クラスタシステムの環境構築手順 192
クラスタシステムの構成例 84
クラスタシステムの導入 56
クラスタシステムを使用する場合の注意事項 197
クラスの結合方法の指定 332
繰り返し処理の内容を設定する 413
グループ・リソース作成 192
グローバル IP アドレス 581

け

型式 552,575
契約 ID 544,546,548,599
契約開始日 544,549,600
契約会社 543,547,548,599
契約会社カタログ 546
契約資産履歴 546
契約資産履歴のインポート 256
契約終了日 544,549,600
契約種別 544,548,599
契約状態 544,548,600
契約情報 543,681
契約情報のインポート 252
契約対象 544,548
契約内容 544,548,599
契約番号 544,548,599
契約日 544,548,599
契約料（月額） 544,549,600
契約料（総額） 544,549,600
契約履歴 548
契約履歴のインポート 255
契約履歴の取得 110
ゲートウェイ 530
結合タイプ 333
原価コード 550
権限 ID 586
権限管理 294
権限管理情報 586,681
権限管理情報のインポート 253
権限名 586
権限名（英名） 587
検索，集計画面の書式設定手順 307
検索結果の一覧から詳細情報を表示する設定 329
検索結果の一覧表示行数 105
検索結果リストに表示する項目を設定する 315
検索結果リストの項目の幅を設定する 317
検索結果リストの並び順を設定する 316
検索結果リストの表示・非表示を設定する 316
検索条件に表示する項目を設定する 314
検索条件の並び順を設定する 315
検索条件の表示・非表示を設定する 315
検索条件を定義する 327
検索対象のクラスを指定する 326
検索パターン 681
検索方法を選択する 324
検索用接続コネクション数 103
検討項目の一覧 3

こ

更改日時 546,549
更新者 ID 549
更新制御情報 244
更新日時 541,547
更新プログラム 682
構成管理者 682
構成種別 552,575
構成変更イベント（削除イベント） 512
構成変更イベント（追加イベント） 511
構成変更イベント（変更イベント） 509
購入金額 536,575
購入ポイント数 588
コード 395
コード ID 682
コードで定義されているプロパティの表示方法 329
コマンド実行時のトランザクション 438
コマンド実行中のトラブル発生時の回復方法 468
コマンドラインからの検索の実行 334
固有情報 537,545,547,549,550,553,560,563,570,573,575,579,582,588,590,593,598,600
固有情報 Area 299
固有情報 Code 299
固有情報 Date 299
固有情報 Field 299
固有情報 Uint 299
コンピュータ ID 552
コンピュータ名 581
コンポーネント情報 541
コンポーネント情報として取得できるインベントリ情報 497

コンポーネントバージョン 542
コンポーネント名 542

さ

[サーバセットアップ] ダイアログでの設定 100
サービス名 102
最小値 395
サイズ 380
最大値 395
サイトの追加 151,157
作業者 580,682
作業者や処理を配置する 375
削除された資産に設定するコード 119
作成したユーザレポートを登録する 331
サブネットマスク 531,582
サブリンクキー 596
参考資料(URL) 579
参照範囲 395
サンプルデータのインポート 186
サンプルデータの削除 189

し

しきい値 592
資産 682
資産 ID 532,541,542,546,552,559,566,578,581,583,585,587,589,595,602
資産管理サーバ 682
資産管理サーバ設定時のトラブル 439
資産管理サーバで使用するサービスの設定 149
資産管理サーバでのトラブルの確認方法 433
資産管理サーバの仮想ディレクトリのフォルダ構成 639
資産管理サーバの設定 99
資産管理サーバのトラブル発生時の回復方法 467
資産管理サーバをリプレースする 653
資産管理システム 682
資産管理システムで実施する業務の検討 7
資産管理システムのトランザクション 438
資産管理者へのメール通知 49
資産管理データベース 284,682
資産管理データベース運用上の注意 191
資産管理データベースサーバ 682
資産管理データベース作成時のトラブル 439
資産管理データベースで管理するクラス 284
資産管理データベースで管理するプロパティ 286
資産管理データベースに入力できる文字 191
資産管理データベースのアップグレード 649
資産管理データベースの移行 647
資産管理データベースの移行後の作業 650
資産管理データベースの移行時の注意事項 648
資産管理データベースの作成 129
資産管理データベースの作成手順（Embedded RDB の場合） 132
資産管理データベースの作成手順（Microsoft SQL Server の場合） 130
資産管理データベースの作成手順（ORACLE の場合） 136
資産管理データベースのバックアップとリストア（Embedded RDB の場合） 473
資産管理データベースのバックアップとリストア（Microsoft SQL Server または ORACLE の場合） 473
資産種別 533
資産種別のコード 246
資産情報 532,682
資産情報として取得できるインベントリ情報 487
資産情報として取得できるノード情報 503
資産情報とソフトウェアキー情報 604
資産情報の取得 32
資産情報の引き当て 1 116
資産情報の引き当て 2 116
資産情報の引き当てキー 115
資産番号 533,546,578
資産番号枝番 532
資産番号の引き当て項目を設定する 345
システム構成の検討 4,57
システム構成例 68
システム識別 587

システム装置 683
実行案件 397
実行者 565
実行タスクの順番を設定する 409
実行タスクを選択する 402
実行できる業務の変更 320
実行できる業務を変更する 320
自動ログインの設定 107
集計結果から表示する内訳画面の書式設定手順 310
住所 543,547,548,572,599
重大度 578
終了アドレス 530
主従関係 288
主題項目 397
出力項目の並び順と表示幅を設定する 329
出力項目を設定する 328
取得する情報のフィルタリング 178
種別 562,585,602
仕様 553,575
上位設置場所 ID 573
上位部署 ID 550
使用開始日 536
障害種別 578
障害内容 579
障害発生ホスト 578
使用終了日 533
使用するボタンを設定する 312
状態管理 289
常駐 / 非常駐 566
情報識別 542
初期値 395
書式 305,683
書式の名称を変更する 318
書式をコピーする 317
書式を削除する 318
書式を設定する 306
書式を追加する 317
職権 369,683
職権 ID 568
職権管理 369
職権管理情報 568
職権管理情報のインポート 256
職権の設定を解除する 377
職権の内容を変更する 370
職権名 568
職権名（英名） 568
職権を削除する 372
ジョブ 683
処理期限設定 375
処理期限を設定する 421
シリアル No. 589

す

数量 588
透かし印刷 683
スタイル属性 380
スタイル属性のコピー 388
図面ボタンの表示 124

せ

製造者 552,574,591
製造番号 553
設計の概要 1
設計の流れ 2
設計用サンプルデータ（JP1/NETM/DM 連携）のインポート 187
セッション情報 641
セッション情報の設定 104
接続先サーバ名 123
設置場所 535,541,572
設置場所（英名） 535,541,572
設置場所 ID 531,535,572
設置場所削除用の「ゴミ箱」設置場所 ID 106
設置場所情報 572,683
設置場所情報として取得できるインベントリ情報 500
設置場所の情報のインポート 186
設置場所別 IP グループを使用した設置場所の設定 108
設置場所名 572
設置場所名（英名） 572
設定ファイルのコピー 207
セットアップの流れ 88

設備管理者 683
説明
544,549,550,568,569,572,598,600
前提プログラム 60
前提プログラムのインストール 92

そ

操作画面およびユーザ権限の変更 293
操作ログ 683
操作ログ一覧の検索期間の警告 110
操作ログ取得時のトラブル 457
操作ログの CSV データの出力 278
操作ログの検索結果取得件数 110
操作ログの種別 14
操作ログを管理 20
操作ログを管理する 13
挿入できるオブジェクトの種類 383
組織 683
組織外 683
組織階層単位でのアクセス制限 29
組織階層単位でのアクセス制限の設定 30
組織外持ち出し 684
ソフトウェア ID 560
ソフトウェア稼働情報 593,684
ソフトウェア稼働情報を登録する際の注意事項 237
ソフトウェアキー情報 589,684
ソフトウェア資産情報 587,684
ソフトウェア種別 592
ソフトウェア状態 536
ソフトウェアの稼働状況を管理 25
ソフトウェアの稼働情報のインポート 254
ソフトウェアの辞書情報のインポート 186
ソフトウェアの自動登録 120
ソフトウェアの種別 12
ソフトウェアの配布 13
ソフトウェア配布時のトラブル 455
ソフトウェア変更履歴 564
ソフトウェア名 42,592
ソフトウェア名の割り当て方法の設定 42
ソフトウェア名への自動割り当て 119
ソフトウェアリスト 590
ソフトウェアリスト ID 563,570,588,592
ソフトウェアを管理する 11
ソフトウェアを配布するための情報を設定する 413

た

対策完了日 578
対策内容 579
対象権限を設定する 311
対象製品 599
対処完了イベントの属性 519
ダイヤルアップ接続の MAC アドレス 117
ダウングレード可否 569
ダウングレードソフトウェア ID 591
タスク 400,684
タスクスケジューラに登録されるタスクの設定 158
タスクの削除 165
タスクの実行結果 165
タスクの種類 158
タスクのスケジュールの変更 164
タスクの設定手順 162
タスクを有効にする 162
他製品と連携した資産管理システムの検討 16
他製品と連携した資産管理の実現 201
棚卸日付 536
単一クラス検索 325
担当者名 543,547,548,599
担当者名２ 544,547,548
担当者名３ 544,547,548

ち

重複データを含むかどうかを選択する 330

つ

通常印刷 684

て

定義済みオブジェクト 386
定義する項目と流れ 364
定義ファイルのコピー 215

定型業務に合わせた操作画面の追加 323
ディスク占有量 634
ディスク容量 553,575
ディレクトリサーバ連携 643
ディレクトリサーバ連携の設定 112
ディレクトリの参照の設定 156
データ型 390
データ型の種類とオブジェクトの種類の対応 390
データ最大長 395
データソースの作成（Embedded RDB の場合）143
データソースの作成（Microsoft SQL Server の場合）141
データソースまたはネット・サービスの作成 140
データファイル 242,684
データファイルの作成 258
データファイルの出力形式 271
データファイル名定義ファイル 242,685
データファイル名定義ファイルの作成 261,271
データベース情報 641
データベース情報の設定 101
データベースのメンテナンスに関する注意 191
データベース容量の概算 138
テキストエリア 384
テキストフィールド 384
テキストボックス 383
適用状態 584
デフォルトゲートウェイ 581
電話番号 598

と

同時接続コネクション数 103
同時利用ログイン数 104
登録，編集画面の書式設定手順 306
登録された案件を変更する 423
登録者名 579
登録日 536,578
トラブルシューティング 429
トラブルシューティングの流れ 430
トラブル情報取得 432
トラブル情報の取得 432
トラブルの回復 467
トラブル発生後に制限される機能 436
トラブル要因の特定 433
トラブル要因の特定方法 433
トランザクションログのバックアップの定期実行 191
取り込む情報の種別 117
トレース時間範囲の設定 111
トレース時の表示階層 111

な

内部結合 333

ね

ネット・サービスの作成（ORACLE の場合）144
ネットワーク管理者 685
ネットワーク情報 581,685
ネットワーク情報 ID 582
ネットワーク情報として取得できるインベントリ情報 493
ネットワーク情報として取得できるノード情報 505
ネットワーク装置 685

の

ノード情報 18
ノード情報を取得する際の注意事項 204
ノード名（ホスト名）582

は

バージョン 562,585
バージョンアップ 647
バージョンアップ時の設定値の引き継ぎ 121
ハードウェア資産情報 551,685
ハードウェア資産情報として取得できるインベントリ情報 490
ハードウェア資産情報として取得できるノード情報 504

ハードウェア変更通知 55
背景色 381
ハイパーリンク 384
場所属性 572
パスワード 598
バックアップおよびリストア 469
パッケージ 685
パッケージ識別 ID 563
パッケージ識別 ID の取得 119
パッケージ元属性 563
パッケージング 685
発行する JP1 イベントの詳細 485
発行する JP1 イベントの変更 216
発生日時 586,602
パッチ ID 584,585
パッチ情報 583,685
パッチ情報として取得できるインベントリ情報 497
パッチ情報のインポート 254
パッチ名 585
パッチリスト 584,685
パッチリストとして取得できるインベントリ情報 498
ハンドラマッピングの設定 156

ひ

引き当たらなかった資産の新規登録 117
引き当てキー 534
引き当て項目の設定 344
備考 536,569,579,589
必須項目 396
非表示 397
非表示がデフォルトのボタンを表示する 303
秘文ログイン 686
費用 578
表示件数欄の表示 105
表示項目キー 596
表示順序の設定 388
標準出力のメッセージログの見方 434
平文持ち出し 686

ふ

ファイルサイズ 562,565
ファイル操作 686
ファイル日付 562,565
ファイル名 562,565
フィルター起動開始イベント 515
フィルター起動失敗イベント（異常終了） 516
フィルター終了イベント 516
フィルタリング定義ファイル 178
フォルダ構成 638
複数のクラスを結合して検索 325
部署 534,541,549,550
部署（英名）534,541,550
部署 ID 530,533,544,550,600
部署および設置場所の引き当て項目を設定する 350
部署およびユーザの情報のインポート 186
部署コード 550
部署削除用の「ゴミ箱」部署 ID 106
部署情報 549,686
部署情報として取得できるインベントリ情報 499
部署情報のインポート 253
部署別 IP グループを使用した部署の設定 107
部署名 550
部署名（英名）550
プルダウン 385
フロアレイアウト図の表示 231
プログラム起動 686
プログラム起動履歴 585,686
プログラム起動履歴として取得できる操作ログ 501
プログラム構成 58
プログラムバージョン 586,602
プログラム名 585,602
プロセス一覧 660
プロダクト ID 560,589
プロパティ 286,686

へ

変更後 596
変更者 537
変更種別 565
変更日付 565,596
変更前 596
変更履歴 596,686
変更履歴取得項目 360
変更履歴として取得する項目の選択 360
編集項目に表示する項目を設定する 313
編集項目の並び順を設定する 314
編集項目の表示・非表示を設定する 313
編集項目を読み取り専用に設定する 314
編集不可のプロパティ 243
編集領域 379

ほ

ポート情報 582
ポート数 553,575
保守契約と資産情報 603
保守状態 579
保守履歴 577,686
保守履歴 ID 578
保守履歴のインポート 255
ホスト名 552
ボタン 385
ボタンやタブなどの名称，表示を変更する 302
ボリューム契約情報 599,686
ボリューム契約と資産情報 605

む

無通信監視時間 104

め

名称 553,575
メールアドレス 598
メールオプション編集 375
メール送信を選択する 421
メール通知情報 642
メール通知情報の設定 111
メールによる通知 112
メールの送信先アドレス 112
メールの送信元アドレス 112
メタ定義・制御テーブル 687
メッセージの確認 433
メッセージの見方 434
メッセージログファイルの見方 435
メディアに書き込み 687
メモリサイズ 552,575
メモリ所要量 634
メモリ所要量とディスク占有量 634
面積 572

も

目標ポイント数 600
モニター画面呼び出し定義ファイル 216
モニタ解像度 553,575
モニタサイズ 553,575
モニタ種別 552,575
問題点削除イベント 521
問題点状態変更イベント 520
問題点状態変更イベントのユーザ拡張エリアの設定 521
問題点を自動登録 16

や

役職名 598
役割サービスのインストール 152

ゆ

ユーザ ID 537,598
ユーザインベントリ情報 687
ユーザ管理情報 597,687
ユーザ管理情報のインポート 253
ユーザ権限に応じた操作画面の変更 305
ユーザ権限の種類 28
ユーザ権限の内容を変更する 295
ユーザ権限の変更 294
ユーザ権限を削除する 295
ユーザ情報と権限情報 603
ユーザ情報と職権情報 604
ユーザ情報とソフトウェアキー情報 605

ユーザ情報と部署情報 605
ユーザ名 537,541,598
ユーザ名（英名） 537,541,598
ユーザ名の引き当て項目を設定する 346
ユーザライブラリ 687
ユーザレポート 687
ユーザレポート作成 323
ユーザレポートの削除 333
ユーザレポートの作成例 336
ユーザレポートの実行例 342

よ

用語解説 674
用途 531,536,567
読み取り専用 397

ら

ライセンス ID 569,588
ライセンスキー 589
ライセンスキー登録 687
ライセンス区分 569,687
ライセンス形態 569,688
ライセンス取得方法 570
ライセンス情報 569,688
ライセンス超過通知 51
ライセンス超過のしきい値 106
ライセンス名 569

り

リース契約と資産情報 603
リモートドメインの追加 185
利用可能業務割り当て 320
利用者 28
利用できるメニューの制限 29
履歴番号 585,602
リンクキー 565,596
リンククラス 596

る

ルート 688
ルートを定義する 373

れ

レコード識別 597
レジストリのバックアップおよびリストア 478
連携製品から取得できる情報 485
レンタル契約と資産情報 604
連絡先 543,547,548,599
連絡先２ 543,547,548
連絡先３ 543,547,548

ろ

ログイン ID 102
ログインユーザ 585,602
ログの改ざんチェック 688

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

１．マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL　http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/

ホームページのメニューは次のとおりです。

■マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ，マニュアル名称，資料番号のいずれかから検索できます。
■CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
■マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
■オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
■サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
■ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見，ご要望をお寄せください。

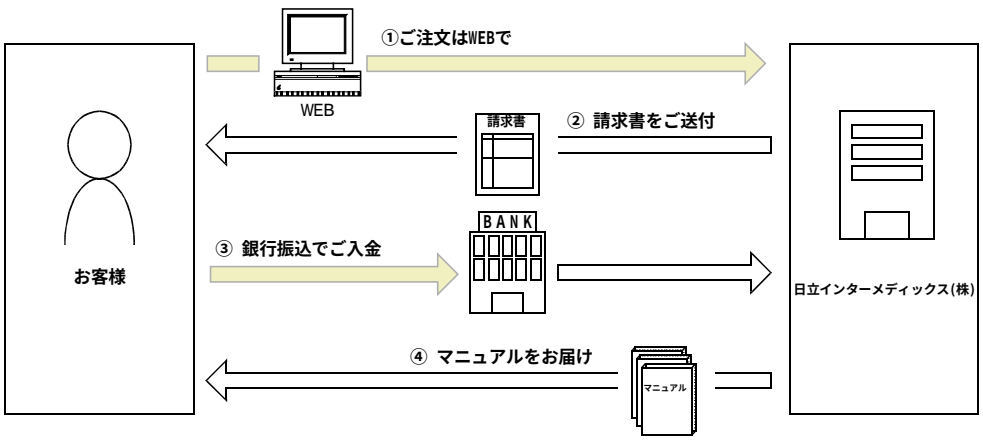
２．インターネットでのマニュアル公開

2 種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開
　製品をよりご理解いただくためのご参考として，一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開
　ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧，本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

３．マニュアルのご注文



① マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし，お申し込み方法をご確認のうえ WEB からご注文ください。ご注文先は日立インターメディックス(株)となります。

② ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

③ 請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

④ 入金確認後 7 日以内にお届けします。在庫切れの場合は，納期を別途ご案内いたします。